

# 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28

## 平成23年度発掘調査報告 (第2分冊)

清涼寺跡  
今小路西遺跡  
西御門遺跡  
今小路西遺跡  
名越ヶ谷遺跡  
田楽辻子周辺遺跡

平成24年3月

鎌倉市教育委員会



今小路西遺跡 1区2面全景



西御門遺跡出土の木組み溝

## ご あ い さ つ

近年、鎌倉の街では古い家屋や店舗の建て替えが相次いでいます。その中で、埋蔵文化財に影響のある工事も多くなっています。このため、個人専用住宅等の建設に際しては、昭和59年度から国・県の補助を受けて鎌倉市教育委員会が調査主体となって発掘調査の実施にあたってまいりました。

先人の遺産である文化財を守ることは、現在に生きる我々の責務であり、市内のおよそ6割の地域が埋蔵文化財包蔵地となっている本市の場合、特に市民の皆様のご理解とご協力なくしては、埋蔵文化財の保存や発掘調査の実施が困難であることは言うまでもありません。

本書は平成16～19及び21年度に国・県の補助を受けて鎌倉市教育委員会が実施した個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査の記録として12ヶ所の調査成果を掲載しています。

調査の実施にあたり埋蔵文化財に対する深い御理解をいただくとともに、調査の期間中、物心両面にわたり多大なご協力をいただきました事業者・工事関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成24年3月30日  
鎌倉市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は平成23年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書である。
- 2 本書所収の調査地点は別図のとおりである。また掲載分冊については、第1分冊に掲載した表のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

# 総目次

(第2分冊)

例言	II
目次	III
<b>7 清涼寺跡 (No.183) 扇ガ谷四丁目556番4外地点</b>	
第一章 調査の概要	5
第二章 発見した遺構と遺物	10
第三章 まとめ	49
<b>8 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目157番7外地点</b>	
第一章 調査地点概観	90
第二章 調査の概要	102
第三章 調査結果	104
第四章 まとめと考察	148
<b>9 西御門遺跡 (No.325) 西御門一丁目55番5地点</b>	
第一章 本調査地点の位置と歴史的環境	181
第二章 調査の概要	184
第三章 検出遺構と出土遺物	188
第四章 まとめ	209
<b>10 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目213番12地点</b>	
第一章 調査の概観	232
第二章 検出された遺構と遺物	237
第三章 まとめ	250
<b>11 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1888番の一部地点</b>	
第一章 遺跡の位置と環境	265
第二章 調査の概要	271
第三章 検出遺構と出土遺物	276
第四章 まとめ	301

## 12 田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 浄明寺一丁目556番6外地点

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	328
第二章	調査の方法と経過	339
第三章	基本土層	340
第四章	発見された遺構と遺物	341
第五章	調査成果のまとめ	349

# 鎌倉市全図

平成23年度の緊急発掘調査地点 (1~8)  
本書掲載の平成16~19・21年度発掘調査地点 (①~⑫)  
※遺跡名は一覧表を参照







清涼寺跡 (No. 183)

扇ヶ谷 4-556-4 外

## 例 言

1. 本報は「清涼寺跡(神奈川県遺跡台帳 No.183)」内、扇ヶ谷4-556-4外地点における個人住宅建設に伴う緊急調査報告である。
2. 調査期間 第Ⅰ区調査・・・平成17年(2005年)7月20日～9月15日  
第Ⅱ区調査・・・平成17年10月13日～10月24日
3. 調査面積 第Ⅰ区・・・約35㎡  
第Ⅱ区・・・約30㎡
4. 調査体制  
担当 伊丹まどか  
調査員 石元道子・宇都洋平・菊川泉・鈴木絵美・松葉崇  
調査補助員 北泉剛史・古田土俊一・白石哲也・早川智・本城裕  
作業員 浅香文保・奥山利平・清水光一・中須洋二  
秋田公佑・牛嶋道夫・片山直文・川崎由紀夫・倉澤六郎・杉浦永章  
田島道夫・宝珠山秀雄・渡辺輝彦  
資料整理 岩崎卓司・梅岡溪音・根本志保・松原康子・吉田桂子・渡辺美佐子
5. 本報作成分担  
遺物実測 ・トレース 伊丹・岩崎・梅岡・根本・松原・吉田・渡辺  
観察表 伊丹  
遺構写真 伊丹・松葉  
遺物写真 須佐仁和
6. 本報の執筆は伊丹が行った。
7. 挿図は全測図1/40・遺物実測図1/3・銭は1/1の縮尺で掲載している。  
「かわらけ」と表記している場合は「轆轤成形」の土器であり、「手づくね成形」の土器は「手づくね」と表記した。  
遺物に付着した油煤痕は黒色で表し、漆付着痕はスクリーントーンで表している。  
出土遺物の法量は法量表に記載しているが、( )内は復元数値および遺存値である。  
遺構に付したナンバーはプラン確認時点で付してあり、遺構の新旧を表すものではない。  
石製品の産地同定は汐見一夫氏にご教授いただいた。
8. 出土品等の発掘にかかわる資料は、鎌倉市教育員会が保管している。
9. 現地調査及び資料作成に際しては、次ぎの諸氏・各機関から貴重なご教示、ご協力を賜った。  
(順不同・敬称略)  
大三輪龍彦・宗臺秀明・斉木秀雄・馬淵和雄・浜野弘美・瀬田哲夫・宮田眞・森孝子・福田誠  
滝沢晶子・汐見一夫・社団法人鎌倉市シルバー人材センター・鎌倉遺跡調査会
10. 参考、引用に使用した文献名は、第3章の文末にまとめて記載した。

# 目 次

## 本 文 目 次

第一章	調査の概要 .....	5
第1節	調査地周辺の位置と歴史的環境	
第2節	グリッド配置図と土層堆積	
第二章	発見した遺構と遺物 .....	10
第1節	遺構と遺物	
1.	第5面の遺構と遺物	
2.	第4面の遺構と遺物	
3.	第3面の遺構と遺物	
4.	第2面の遺構と遺物	
5.	第1面の遺構と遺物	
第三章	まとめ .....	49
法量表		

## 挿 図 目 次

図1 調査地点・周辺遺跡図 .....	6	図22 遺構8 b 正面図・エレベーション図 .....	28
図2 調査区の位置とグリッド配置 .....	7	図23 遺構8 b 出土遺物(1) .....	30
図3 調査区堆積土層図 .....	8	図24 遺構8 b 出土遺物(2) .....	31
図4 第5面全測図 .....	10	図25 遺構8 b 裏込め出土遺物(1) .....	32
図5 遺構1 3 正面図・エレベーション図 .....	11	図26 遺構8 b 裏込め出土遺物(2) .....	33
図6 遺構1 3 上層出土遺物(1) .....	12	図27 第3面構成土出土遺物(1) .....	34
図7 遺構1 3 上層出土遺物(2) .....	13	図28 第3面構成土出土遺物(2) .....	35
図8 遺構1 3 下層出土遺物(1) .....	14	図29 第2面全測図 .....	37
図9 遺構1 3 下層出土遺物(2) .....	15	図30 遺構8 a 正面図 .....	37
図10 遺構13 裏込め出土遺物 .....	16	図31 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(1) .....	38
図11 第5面構成土出土遺物(1) .....	17	図32 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(2) .....	39
図12 第5面構成土出土遺物(2) .....	18	図33 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(3) .....	40
図13 第4面全測図 .....	19	図34 遺構8 a・8 b 一括出土遺物(4) .....	41
図14 遺構11 正面図・エレベーション図 .....	20	図35 遺構8 a 裏込め出土遺物 .....	42
図15 遺構11 出土遺物 .....	20	図36 第2面構成土出土遺物 .....	43
図16 第4面構成土出土遺物(1) .....	21	図37 第1面全測図 .....	43
図17 第4面構成土出土遺物(2) .....	22	図38 第1面面上出土遺物 .....	44
図18 第3面全測図 .....	24	図39 第1面構成土出土遺物 .....	45
図19 遺構7 正面図・エレベーション図		図40 II区・第1面全測図 .....	46
遺構7 出土遺物(1) .....	25	図41 表土～第1面出土遺物(1) .....	47
図20 遺構7 出土遺物(2) .....	26	図42 表土～第1面出土遺物(2) .....	48
図21 遺構7 裏込め出土遺物 .....	27		

## 図 版 目 次

<p>図版1 ..... 68 遺構10・第1面全景・第2面全景</p> <p>図版2 ..... 69 遺構7・遺構8a・遺構8b</p> <p>図版3 ..... 70 遺構8a・遺構8b</p> <p>図版4 ..... 71 第3面全景・第4面全景・第5面全景</p> <p>図版5 ..... 72 調査区南壁・北壁堆積状況・Ⅱ区第1面全景</p> <p>図版6 ..... 73 出土遺物(1) 遺構1 3上層出土遺物</p> <p>図版7 ..... 74 出土遺物(2) 遺構1 3下層出土遺物・遺構1 3裏込め出土遺物・第5面構成土出土遺物</p> <p>図版8 ..... 75 出土遺物(3) 第5面構成土出土遺物・遺構1 1出土遺物・第4面構成土出土遺物</p> <p>図版9 ..... 76 出土遺物(4) 第4面構成土出土遺物・遺構7出土遺物</p>	<p>図版10 ..... 77 出土遺物(5) 遺構7出土遺物</p> <p>図版11 ..... 78 出土遺物(6) 遺構7出土遺物・遺構8 b出土遺物</p> <p>図版12 ..... 79 出土遺物(7) 遺構8 b出土遺物・遺構8 b裏込め出土遺物</p> <p>図版13 ..... 80 出土遺物(8) 遺構8 b裏込め出土遺物・第3面構成土出土遺物・遺構8 a・8 b一括出土遺物</p> <p>図版14 ..... 81 出土遺物(9) 遺構8 a・8 b一括出土遺物</p> <p>図版15 ..... 82 出土遺物(10) 遺構8 a裏込め出土遺物・第1面面上出土遺物・表土～第1面出土遺物</p> <p>図版16 ..... 83 出土遺物(11) 表土～1面出土遺物</p>
--	---

# 第一章 調査の概要

## 第1節 調査地周辺の位置と歴史的環境(図1)

調査地点は鎌倉市中心域の北西、源氏山の北、扇ヶ谷という谷戸に位置する。扇ヶ谷という地名は鎌倉末期ごろから呼称されるようになったと思われ、本来は支谷の藤ヶ谷の開口部から英勝寺の裏門辺りを指した地名らしく、関東管領上杉定正が亀ヶ谷に居を構え扇ヶ谷殿と称してからと伝わる。

中世以前には「亀ヶ谷(かめがへ)(かめがいのやつ)(かめがや)」と呼ばれていたが、現在では扇ヶ谷開口部に位置する寿福寺の山号「亀谷山」と、扇ヶ谷を抜ける切り通しの一つ「亀谷坂切り通し」にその名をとどめる。

扇ヶ谷とは、泉谷・藤ヶ谷・勝因寺(勝遠寺)谷・会下ヶ谷・梅ヶ谷・山王堂谷・智岸寺谷・法泉寺谷・御前谷・清水谷・清涼寺ヶ谷などの支谷を包含した総称である。この支谷の名は現在では廃寺となった多くの仏閣が谷戸名として残っている例が多く、廃寺には多宝寺・智岸寺・東林寺・新清涼寺・新清水寺・新阿弥陀堂・新福寺・法泉寺・松岩寺・勝因寺・浄光寺・興禅寺・正円寺・山王堂・無量寺・権現堂・靈巖寺・刃稻荷などがある。

『吾妻鏡』の記事に、建長三年(1251)十二月三日に、小町屋の設置を七ヶ所に限る命が出され、そのうち亀ヶ谷辻・气和飛坂山上が決定され、文永二年(1265)三月五日には鎌倉中の町御免の所として九ヶ所を指定し、その中に武蔵大路下の名がみえる。この武蔵大路が何処かには各説あるが、鶴岡八幡宮赤橋から西に向かって寿福寺前から、扇ヶ谷内を支谷の梅ヶ谷に向かって抜け仮粧坂山上に至る道と推定する説もあり、扇ヶ谷の谷戸内が繁華な商業地域であったことが想像できる。また武蔵大路と推定する道路は、丘陵を超えて鎌倉中から武蔵方面に抜ける亀ヶ谷坂・仮粧坂の二つの切通しに繋がり、鎌倉の内と外を結ぶ主要な通路であるとともに、防衛上も重要な機能を持った道路であったと思われる。

調査地の位置する谷戸名(遺跡名)の由来になっている「新清涼寺」あるいは「新清涼寺釈迦堂」「亀ヶ谷釈迦堂」「亀ヶ谷清涼寺」という寺院の詳細は不明なことが多く、『廃寺事典』で「新清涼寺」をみると宗旨未詳。所在地も扇ヶ谷と、鎌倉市街地の南東に位置する大町・名越竹鼻の二ヶ所がでており、正確な所在地も不明である。また、『新編鎌倉誌』巻之四「清涼寺谷」の項には「清涼寺谷は、法泉寺の北、海蔵寺外門の東なり。清涼寺は忍性の開基なり。今は絶たり」とある。『元享釈書』巻十三忍性伝には「弘長の始相陽に入りて清涼寺に止まる」とあり、弘長元年(1261)に忍性が鎌倉に下向して初めて拠点とした寺院であるとしているが、『関東往還記』の記事に、弘長二年(1262)叡尊が金沢実時の招きで関東に下向した際に、実時から金沢称名寺(横浜市)を寄進しようとの申し出を、資縁のあるところには住まないと断って、鎌倉中の無縁寺である新清涼寺釈迦堂を叡尊の住まいとしたとあり、「新清涼寺釈迦堂は、中古にある上人が関東の衆生を度せんがため建立した堂舎で、京都嵯峨清涼寺釈迦堂の釈迦像を摸刻して安置したため、新清涼寺と号した」といい、叡尊が建立した寺院とも考えられる。また、「西大寺光明真言結縁過去帳」に「覚如房 釈迦堂」と記され、叡尊の弟子である「成願房覚如」と思われる人物が「新清涼寺釈迦堂長老」として記載される。

不明の点多く、創建年次のみならず廃絶年や開山・開基も不明の寺院であるが、どちらにしても西大寺流真言律宗の布教の拠点となった寺院であったことは間違いがないと思われる。

京都嵯峨清涼寺釈迦堂の本尊を摸刻したという本尊は、現在の鎌倉極楽寺本尊、あるいは東京都大円寺に現存する清涼寺式釈迦如来像とする説がある。

叡尊を中心とする真言律宗は、清涼寺式釈迦如来像を釈迦の根本像とみなし、京都府西大寺の金堂像を造立し、戒律復興の象徴として各地に清涼寺式釈迦如来像を造立していった。現存する清涼寺式釈迦如来



図1 調査地点・周辺遺跡図

- 1・本調査地
  - 2・法泉寺跡
  - 3・法泉寺跡
  - 4・法泉寺跡
  - 5・柳谷山王堂
  - 6・柳谷寺跡
  - 7・武蔵大路周辺
  - 8・武蔵大路周辺
  - 9・多宝寺跡
  - 10・多宝寺跡
  - 11・武蔵大路周辺
  - 12・武蔵大路周辺
  - 13・浄光明寺や<S>群
  - 14・多宝寺跡
  - 15・上杉正臣跡
- 馬力谷四丁目556番地  
 馬力谷四丁目518番12 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24] 2008年3月  
 馬力谷四丁目518番8 現在整理中  
 馬力谷四丁目632番2外地点 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1] 2000年3月  
 馬力谷四丁目632番5地点 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2] 2002年3月  
 馬力谷四丁目380番1外 [神奈川県埋蔵文化財報告書32]  
 馬力谷二丁目382番1 武蔵大路周辺遺跡調査報告書] 200年10月  
 馬力谷二丁目397番 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2] 2001年3月  
 馬力谷二丁目266番3 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1] 1983年3月  
 [多宝寺遺跡第6次発掘調査報告書] 1976年3月  
 [多宝寺遺跡第7次発掘調査報告書] 1977年3月  
 馬力谷二丁目250番6外 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3] 1993年3月  
 馬力谷二丁目250番1・4 [多宝寺跡調査報告書] 1998年12月  
 馬力谷二丁目298番4 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1] 2002年3月  
 馬力谷三丁目407番2他6跡 [武蔵大路周辺遺跡調査] 2004年12月  
 馬力谷二丁目12番1 [神奈川県埋蔵文化財報告書44]  
 馬力谷二丁目238番2 [鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19] 2003年3月  
 馬力谷二丁目195番2 現在整理中

像は、宮城県竜宝寺、茨城県福泉寺、東京都大円寺、神奈川県称名寺・極楽寺・真福寺、滋賀県西明寺・莊嚴寺・延暦寺、京都府清涼寺・西明寺・平等寺・常楽院・三室戸寺、奈良県西大寺・大善寺・唐招提寺・京都国立博物館蔵、愛媛県宝蔵寺、山口県二尊院があり、その所在は西大寺流真言律宗布教の足跡と読み取れる。

鎌倉時代後期の真言律宗は慈善救済を布教の一環とし、鎌倉桑ヶ谷に癩病療病院、坂の下に馬病舎を立て、仏師・鋳物師・石工を連れ道路、河川、港湾の管理、地溝開発を行った。

「類焼阿弥陀縁起絵巻(光触寺蔵)」に類焼阿弥陀像の修理を行う際に、亀ヶ谷在住の仏師を呼んだことが記されており、現代でも多くの仏師が扇ヶ谷に住いを構えている。

## 第2節 グリッド配置図と土層堆積(図2・図3)

調査地の位置と調査区内の遺構を国土座標軸にもとづいた地図上で掌握するために光波測量機によるトランバース測量を行った。調査区内の基準杭の観測成果、周囲の4級基準点の成果、真北との関係は図2に示した。基準杭は任意で設定し、測量時に国土座標値を振り込んでいる。調査にあたりグリッドは任意で設定し、後日基準杭に国土座標を振り込んでいる。基準としたA点・B点の間は水平方向で1.3mを測る。

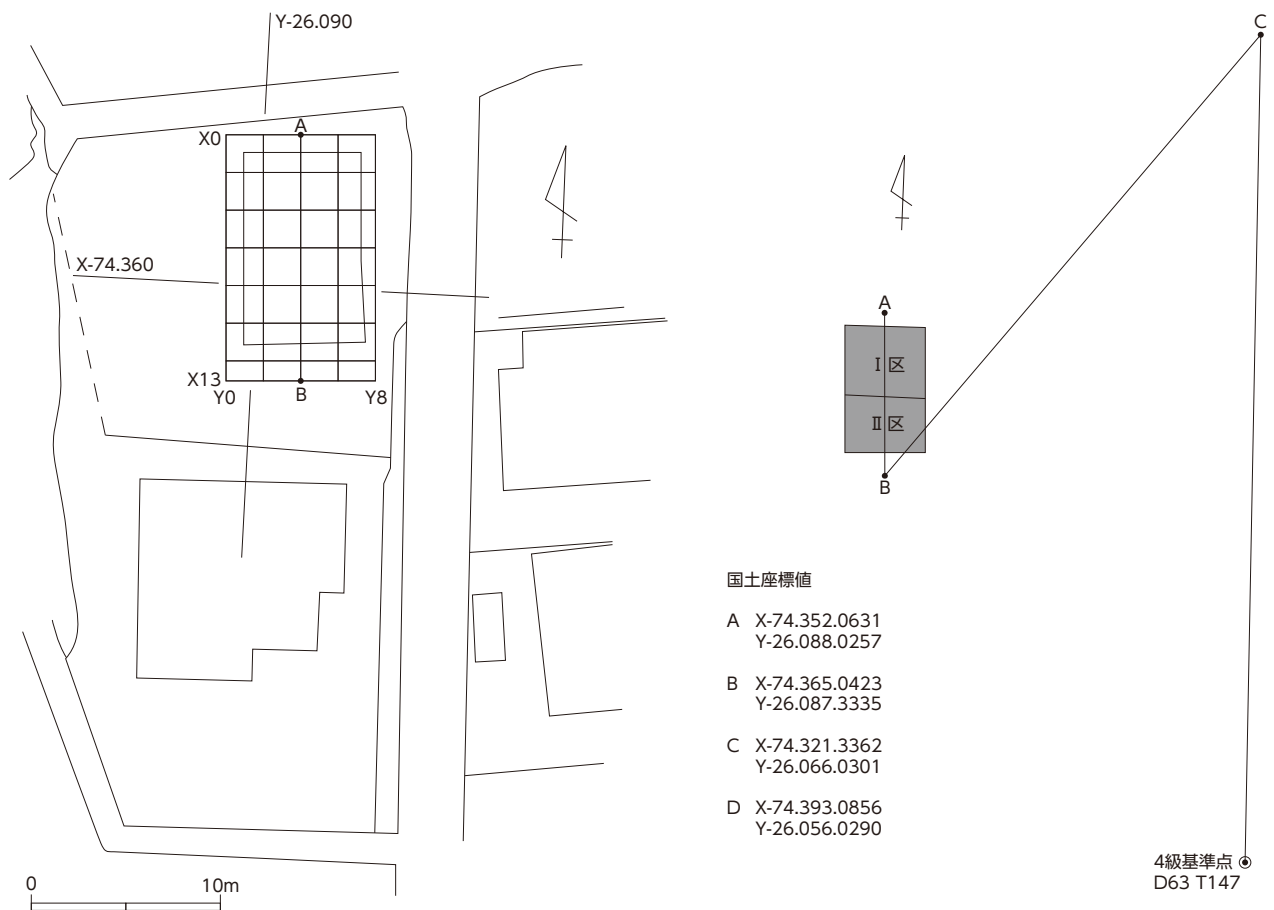


図2 調査区の位置とグリッド配置

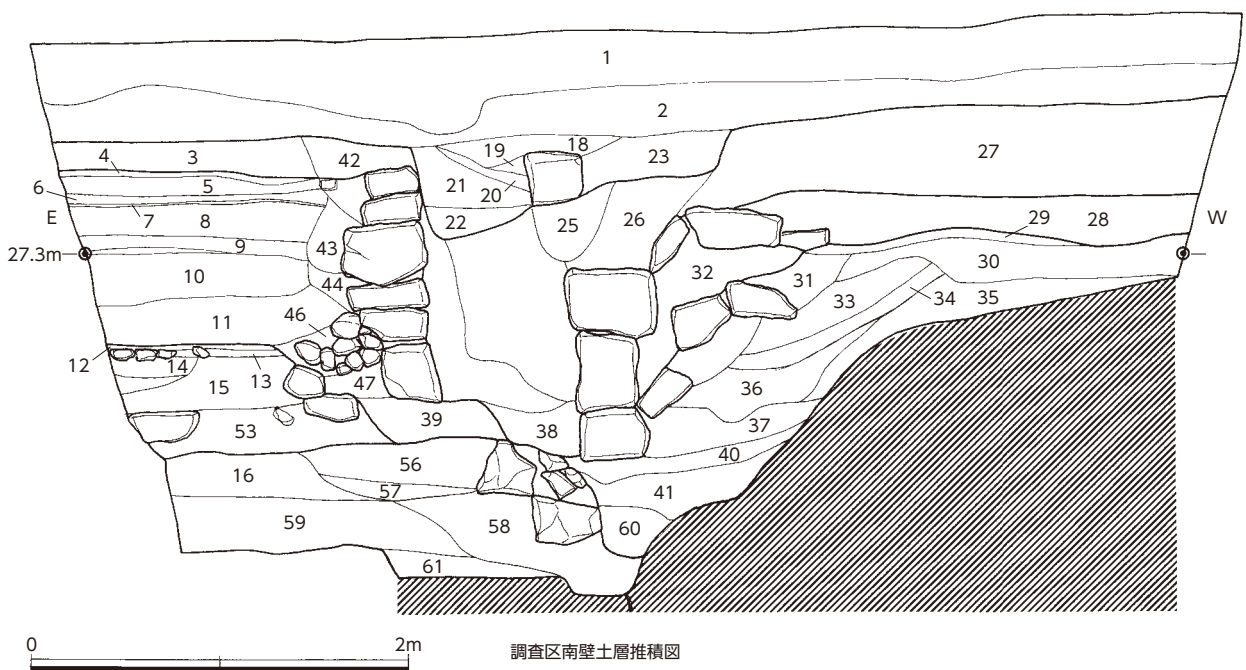
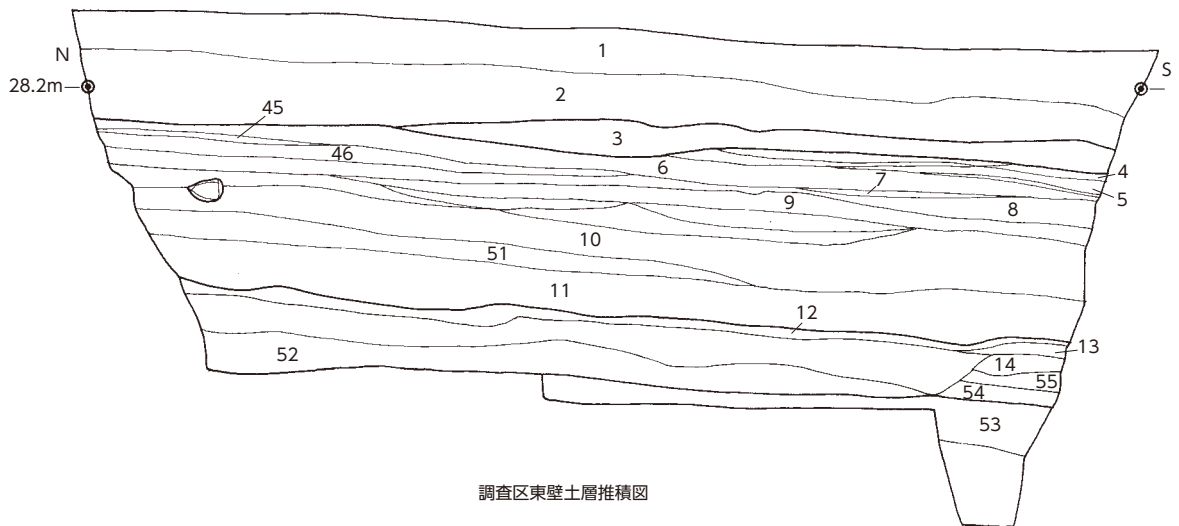
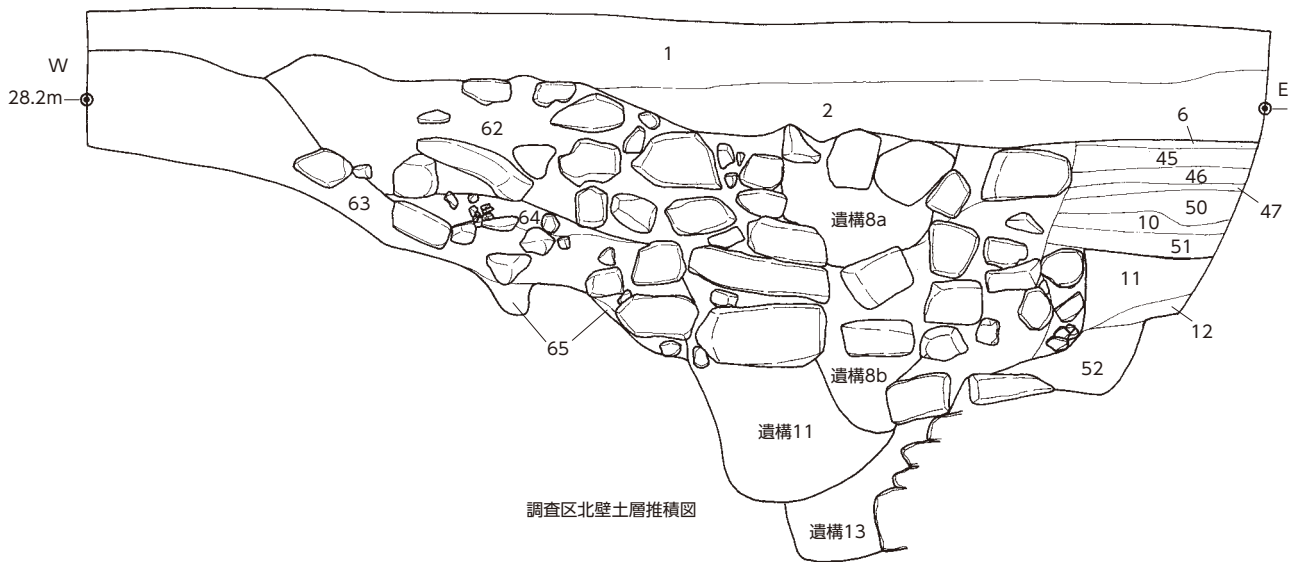


図3 調査区堆積土層図



## 土層注記

1	茶褐色砂質土	(表土)	37	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物
2	茶褐色砂質土	泥岩粒・炭化物(微)・泥岩	38	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土
3	茶褐色砂質土	泥岩粒 泥岩による地業(1面)	39	暗褐色弱粘質土	泥岩・炭化物・暗褐色砂質土
4	暗褐色弱粘質土		40	黒褐色有機質土	木片・炭化物・褐色砂質土・上層に泥岩が平坦に並べられる
5	灰褐色砂質土	泥岩粒 泥岩による地業(2面)	41	褐色砂質土	黒色有機質土・縮まりなし・炭化物
6	暗褐色砂質土	泥岩粒・泥岩	42	褐色粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物
7	暗褐色弱粘質土	砂質土混入	43	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩
8	黄褐色砂質土	堅く締まった土	44	褐色粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土
9	暗褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・砂質土	45	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒
10	暗褐色弱粘質土	大型泥岩・炭化物	46	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・堅く締まる
11	暗褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・暗褐色弱粘質土	47	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・堅く締まる
12	暗褐色弱粘質土	炭化物層	48	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・褐色砂質土
13	暗褐色弱粘質土	泥岩	49	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒
14	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物	50	暗茶褐色弱粘質土	
15	茶褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土・粗砂	51	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・堅く締まる
16	黒褐色有機質土	木片・炭化物・褐色砂質土・上層に泥岩が平坦に並べられる	52	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物
17	茶色有機質土		53	褐色砂質土	上層に第4面道路石敷き・褐色粘質土・有機質土含む
18	茶褐色砂質土	泥岩粒・堅く締まる	54	灰褐色砂質土	硬化面
19	茶褐色弱粘質土	泥岩粒	55	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
20	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物	56	灰褐色砂質土	泥岩・有機質土・暗褐色弱粘質土・堅く締まる
21	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物	57	茶褐色有機質土	泥岩粒・褐色砂質土
22	茶褐色弱粘質土	泥岩・炭化物	58	茶褐色有機質土	木片・暗褐色粘質土・褐色砂質土
23	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土	59	茶褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・暗褐色弱粘質土・堅く締まる
24	茶褐色砂質土	泥岩	60	灰褐色砂質土	泥岩粒・泥岩・黒色有機質土・木片
25	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・茶褐色砂質土	61	暗茶褐色弱粘質土	黒色有機質土・木片・褐色砂質土
26	茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物・褐色砂質土	62	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物
27	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土	63	暗茶褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物
28	褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩	64	暗茶褐色弱粘質土	炭化物層・泥岩粒
29	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物層	65	暗茶褐色弱粘質土	炭化物層・茶褐色砂質土
30	褐色弱粘質土	泥岩粒・褐色砂質土・炭化物・堅く締まる			
31	褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・褐色砂質土			
32	暗褐色弱粘質土				
33	褐色弱粘質土	泥岩・褐色砂質土			
34	褐色弱粘質土	泥岩粒・炭化物・			
35	褐色弱粘質土	泥岩・炭化物			
36	暗褐色弱粘質土	泥岩粒・泥岩・炭化物			

## 第二章 発見した遺構と遺物

本調査では現地表から約50cm下まで重機による表土掘削を行い、その後人力によって遺構面を検出した。調査区は東西約7m、南北約1.1mの長方形を呈する。調査によって生じる廃土の置き場を確保するために調査対象面積をⅠ区・Ⅱ区に分けて実施した。先行して調査したⅠ区では調査区中央で南北に延びる石組みの溝・道路を発見し、4期わたって造り替えが行われていたことを確認し検出した。土坑・ピットを数穴発見しているが、狭小な面積内での確認のため建物などを推定することは難しかった。Ⅰ区終了後に調査したⅡ区は、建築設計変更に伴いⅠ区で発見した最上層の溝石組みが調査地の南に向かって延びていることを確認し調査終了した。

発見した遺構は下層から上層の順に報告している。調査地現地表レベルは約28.40m。

### 第1節 遺構と遺物

#### 1. 第5面の遺構と遺物 (図4～図12)

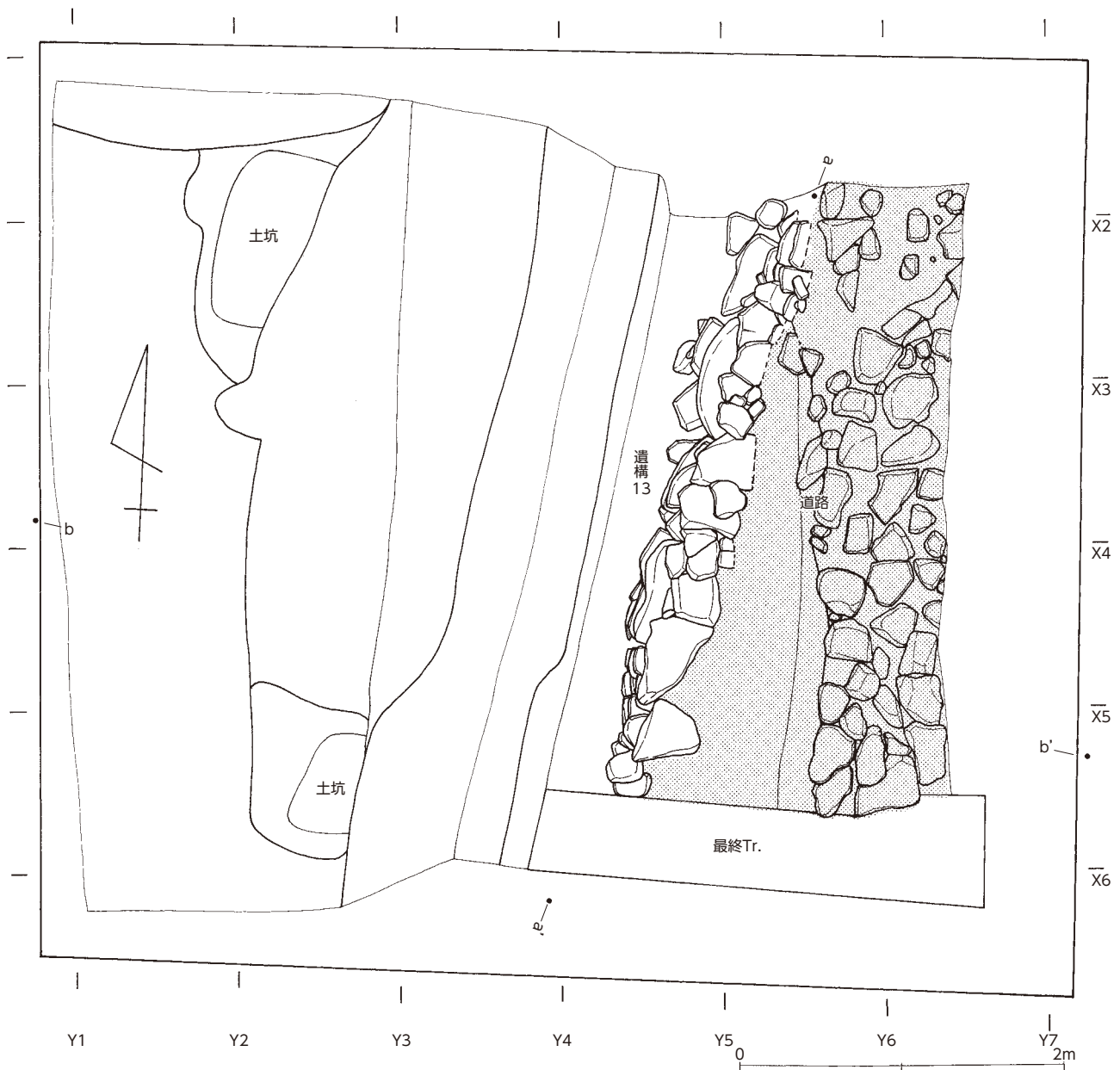


図4 第5面全測図

第5面で発見した遺構は土坑2基・溝1条・泥岩による版築道路。第5面構成土は茶褐色砂質土。有機質土・泥岩・泥岩粒・木片を含む。地表レベルは東側で海拔26,20m。西側で27,20m。

後述する調査区内を南北に走る溝(遺構13)の東側は上層の遺構に壊され失った箇所も多いが、不整形な泥岩と破碎泥岩を敷石のように平坦に並べた石敷きの道路である。道路遺構の南北、東側は調査区外に延びてしまっているために幅や長さなどの規模は不明である。敷石の下層には木製品を多く含む締まりのない茶褐色の砂質土が堆積しており、脆弱な地業を固めるために泥岩を敷いたのかもしれないが、丁寧な造形である。第5面構成土出土遺物として掲載した遺物はこの道路下層の遺物が大半である。

調査区西側で発見した土坑2基は個別に図示はしていないが、いずれも岩盤を掘り込んでおり深さ約40cm。出土遺物はない。

### ・遺構13(図4・5)

南北に延びる溝である。溝幅40~60cm。深さ約60cm。遺構の南北は調査区外に延びているために長さは不明。溝の東側溝壁は不整形な泥岩を野面積みして造成し、前述した敷石状に成形した泥岩を敷いた道路を同時に形成している。溝西側は岩盤を壇上に削りだした様子を確認したが、後述する溝に壊された石積みがあったかもしれない。上段に掘りこまれた土坑から見て、何らかの施設が西側壇上にあったと推察される。裏込めは、西側・東側ともに茶褐色弱粘質土・破碎泥岩・泥岩を含み、炭化物を多く含んだ堆積層であった。

出土遺物は上層と下層に分けた。溝覆土の上層は暗茶褐色弱粘質土。黒色有機質土を多く含む。下層は青灰色砂質土。黒色有機質土と砂礫を多く含んでいた。

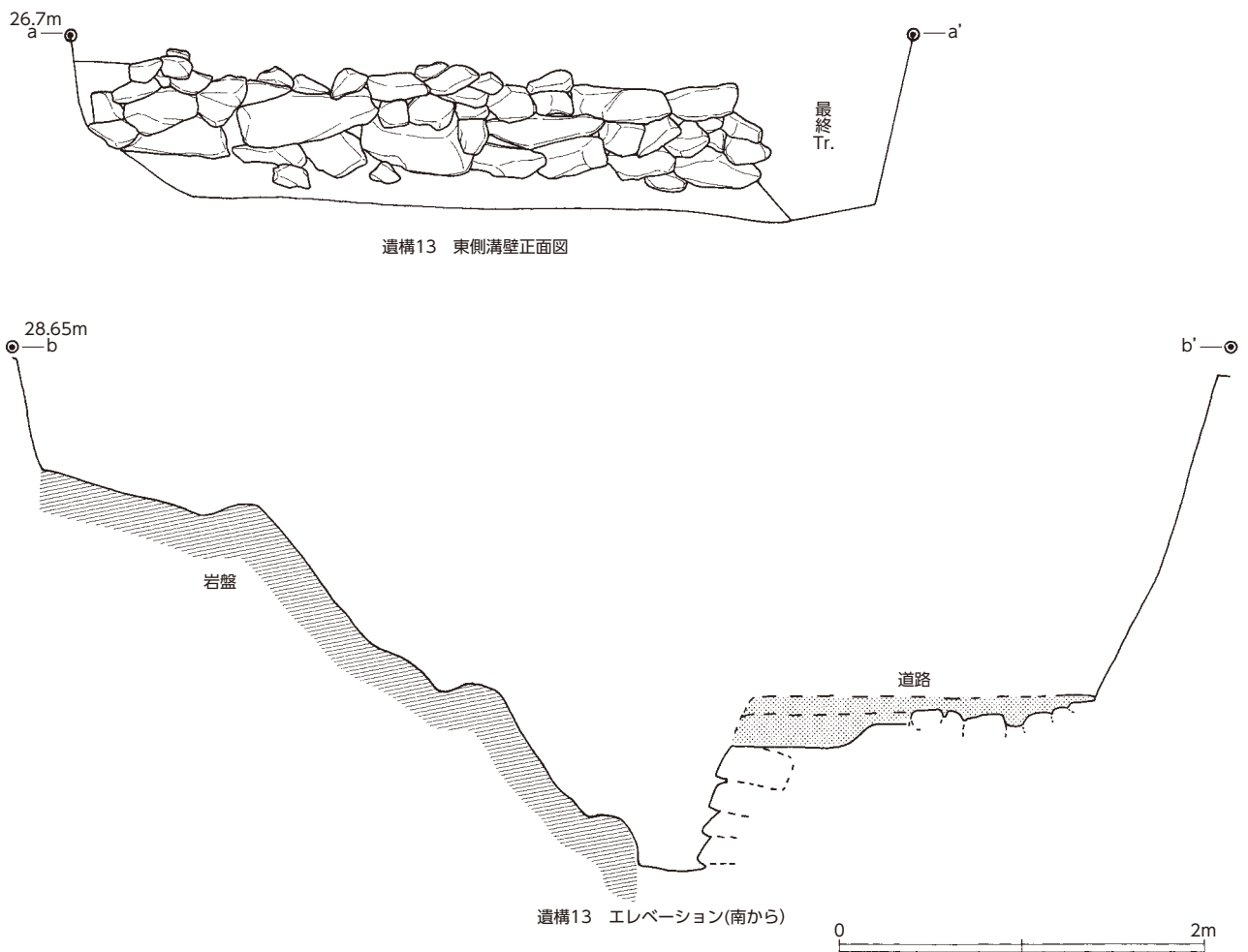


図5 遺構13正面図・エレベーション図

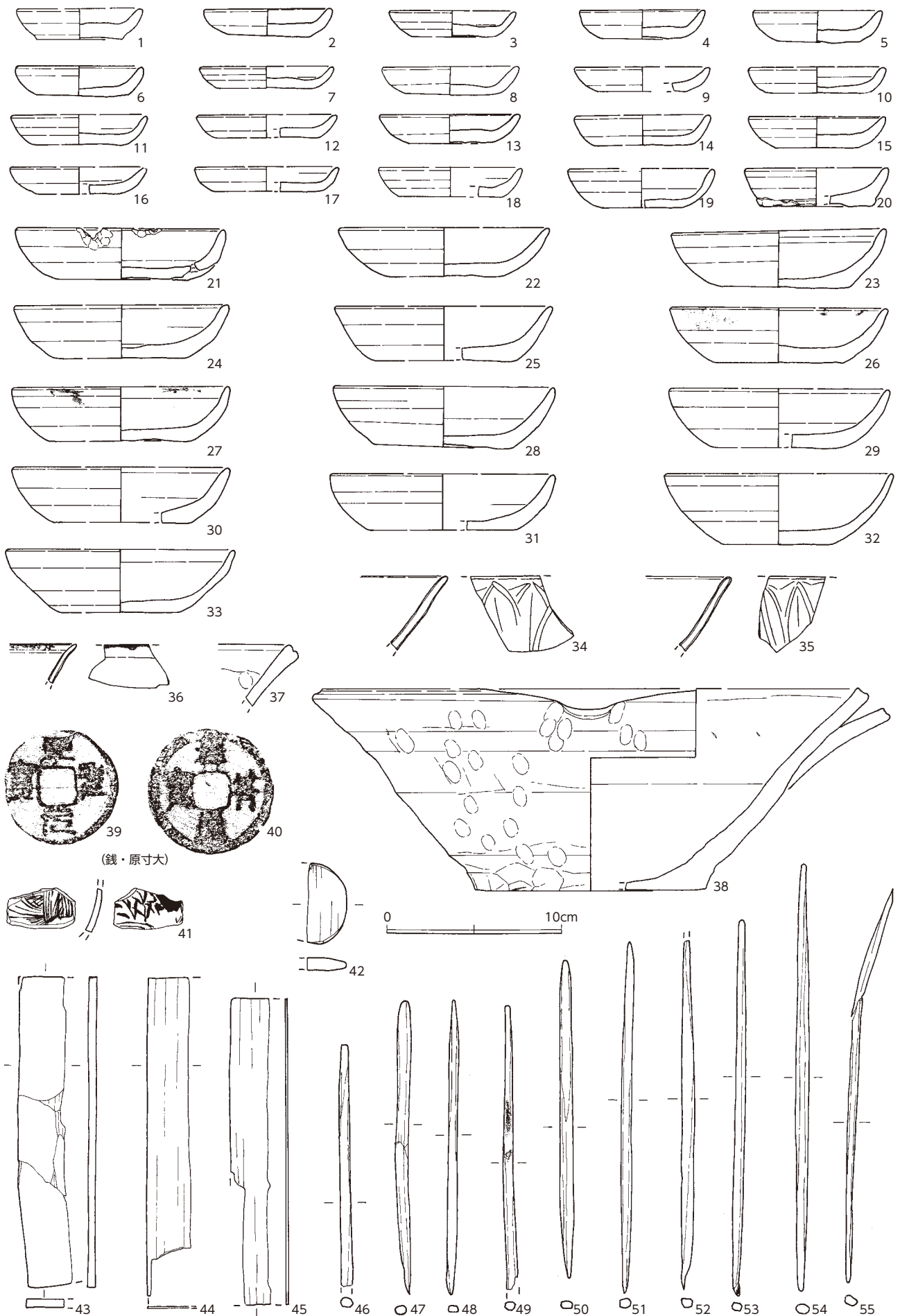


図6 遺構13上層出土遺物(1)

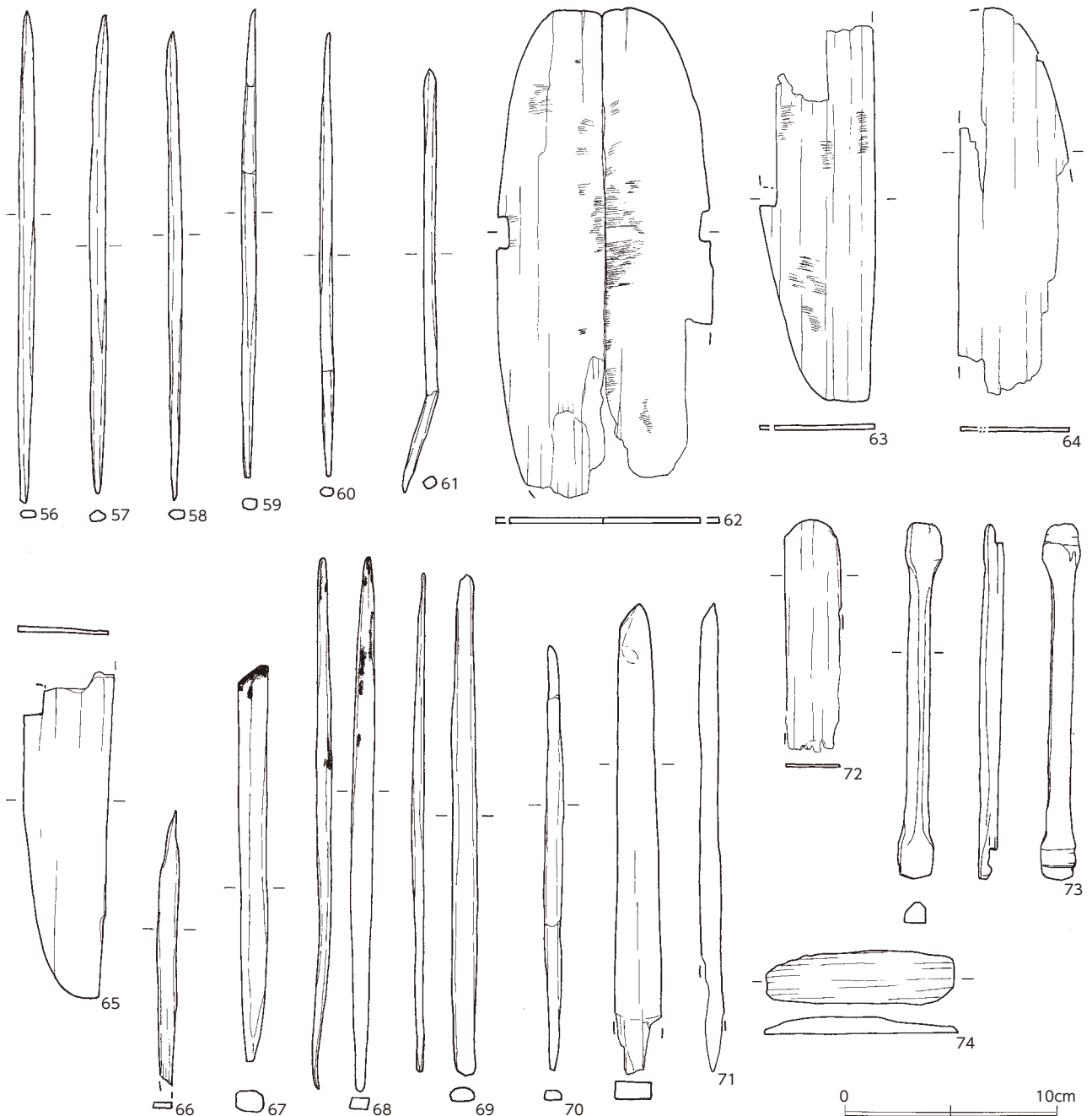


図7 遺構13上層出土遺物(2)

・遺構13上層出土遺物(図6・7)

1～33はかわらけ。3・8は見込みのナデが強く内底が盛り上がる。21は口唇部2ヶ所を打ち掻き、見込み側面に小孔あり。22は内外面に薄く油煤痕。26・27は口唇部に油煤痕。32は精良な胎土で側壁薄手。33は精良な胎土で側壁薄手・外面にやや強く稜が入る。34・35は青磁蓮弁文碗。竜泉窯。34はオリーブグリーン。35は淡水色、火熱を受けたためか内外面に気泡。36は白磁口兀皿。口唇部に厚く油煤痕。37・38は常滑捏ね鉢。38は内面に摩耗痕。39は銭・天聖元寶。40は銭・祥符通寶。41は漆製品・黒色系漆髹漆の椀・内面に赤色漆で洲浜と葦の情景文・外面に洲浜と笹の情景文を手描き施文・破片のため全体的な文様不明。42は木製品・ミニチュアの曲げ物底板。43は漆製品・調度具部材・黒色系漆髹漆・箱の側板か？44～73は木製品。44・45は経木折敷。46～61は箸。49は一部炭化。62～65は板草履芯。62は先端部直線的に成形・側縁部直線的・切り込み部台形に切りこ

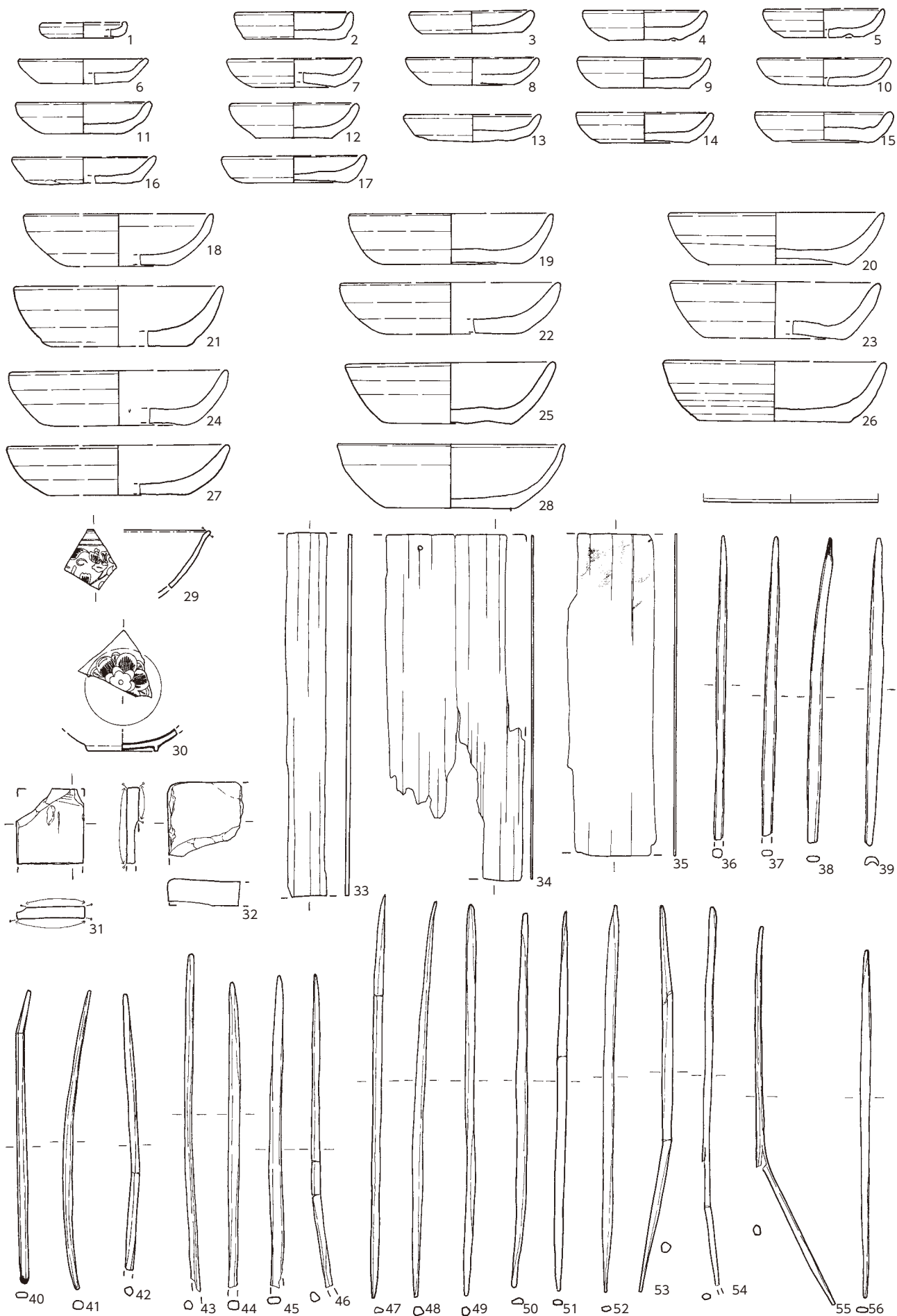


图8 遺構13下層出土遺物(1)

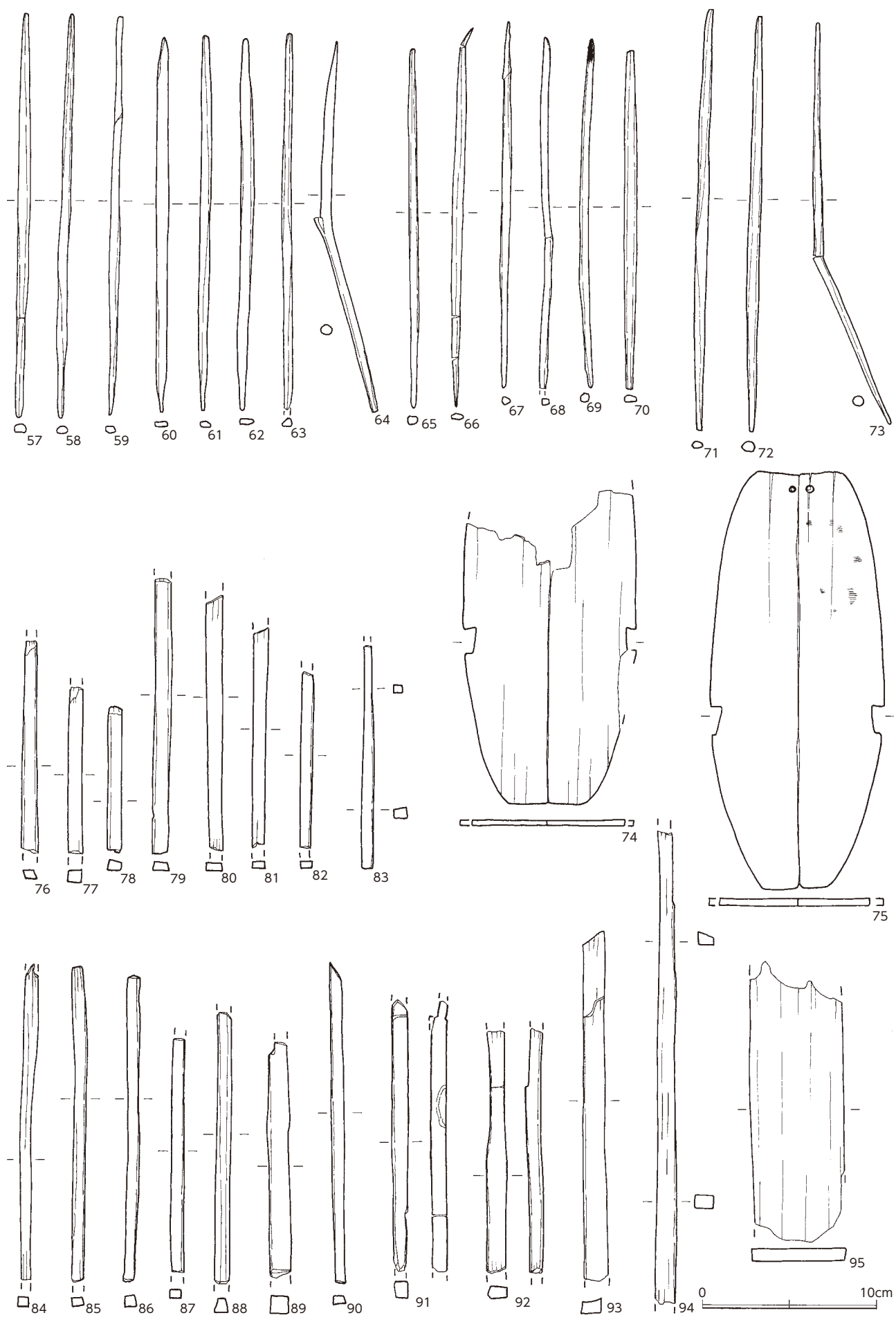


图9 遺構13下層出土遺物(2)

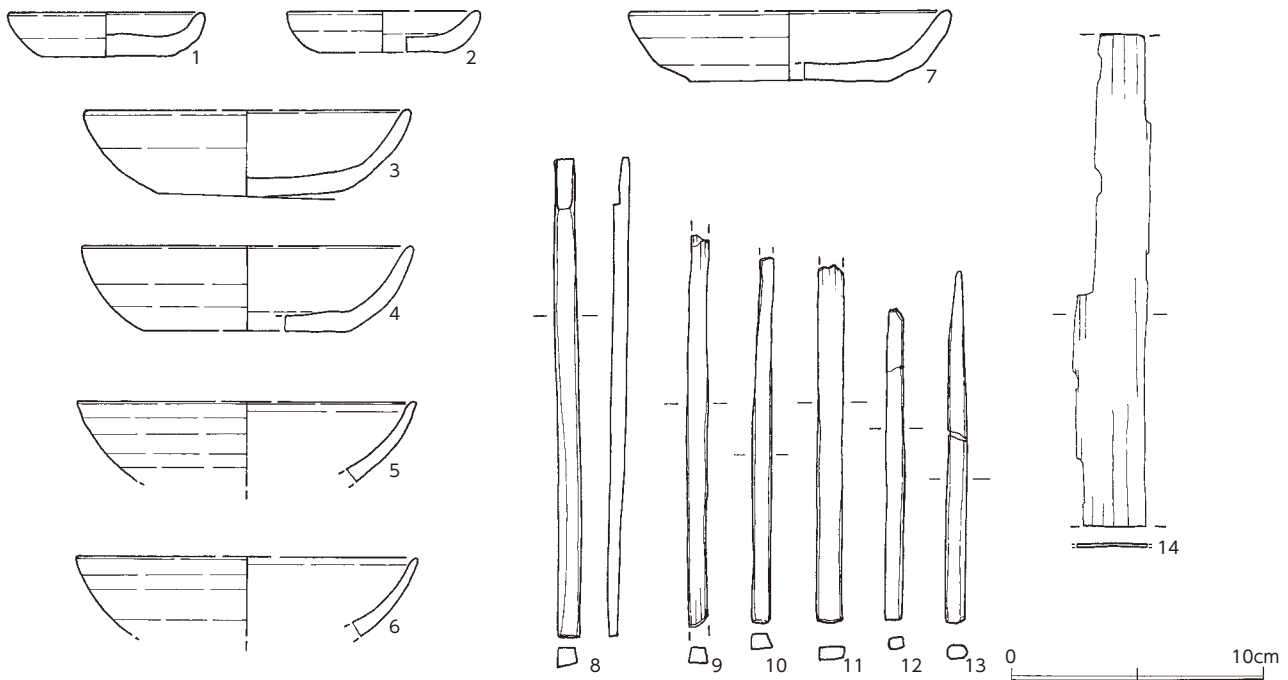


図10 遺構13裏込め出土遺物

む・藁痕。63は先端部直線的・側縁部、切りこみ部形状不明・藁痕が残る。64が側縁部曲線的。65は側縁部直線的。66～67は篋。67は先端に漆附着。68～70は串状木製品。68は片端部に焼痕。71・72は木製品・用途不明。73は織機・糸巻きの部品。74は用途不明・丁寧な整形・調度具部材か。

破片のため図示できなかつた遺物はかわらけ(大)843・かわらけ(小)89。

#### ・遺構13下層出土遺物(図8・9)

1～28はかわらけ。1は内折れかわらけ・底部糸切り。5は外側面に強くナデが入る。21は外面のみが黒色に変色し、内底部にガラス状の物質附着。26は外側面に轆轤痕の稜が強く残る。29・30は白磁口兀碗・景德鎮・内面印花文。31は石製品・砥石・側面切り出し痕。32は滑石製品転用品・温石の破片か? 33～95は木製品。33は板折敷。34・35は経木折敷。36～73は箸。40・69は端部に焼痕。つけ木として使用か? 74・75は草履芯。74は端部・側縁部ともに直線的・切り込み部平行四辺形。75は端部直線的・側縁部曲線的・切り込み部平行四辺形。76～94は用途不明。製品として整形されているが手折って廃棄している。鎌倉市内遺跡ではこの形状の木製品遺物を多く発見し、ちゅう木ではないかと報告している例もある。95は建材破片。

破片のため図示できなかつた遺物はかわらけ(大)548・かわらけ(小)61・木片多数・桃の種1。

#### ・遺構13裏込め出土遺物(図10)

1～7はかわらけ。1は内面に煤痕。5・6は精良な胎土。7は小石粒の入る粗い胎土。8～14は木製品。8～12は用途不明。8は仕継のような細工があり調度の部材か? 13は箸。14は経木折敷。裏込め出土は図示できる遺物は少量で、図示できなかつた破片はかわらけ(大)24・かわらけ(小)6・木片が多く出土しているが、意識的なものではなくごみとして埋められたものであったと考えている。



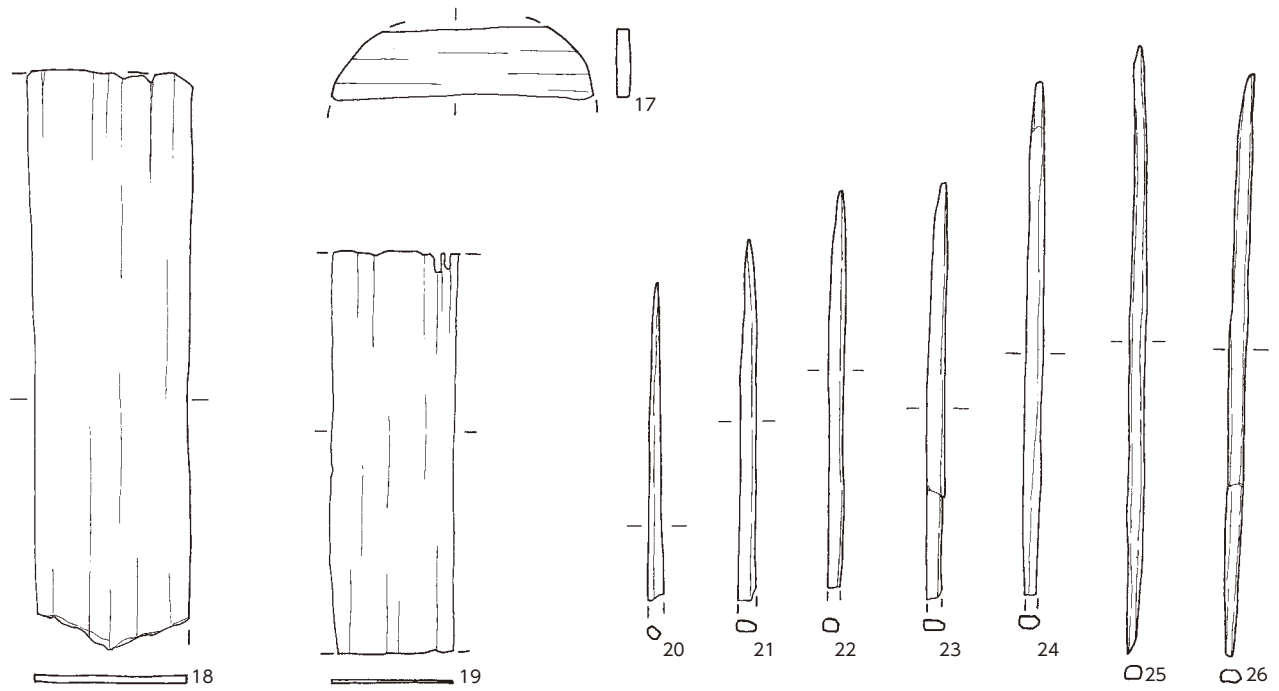
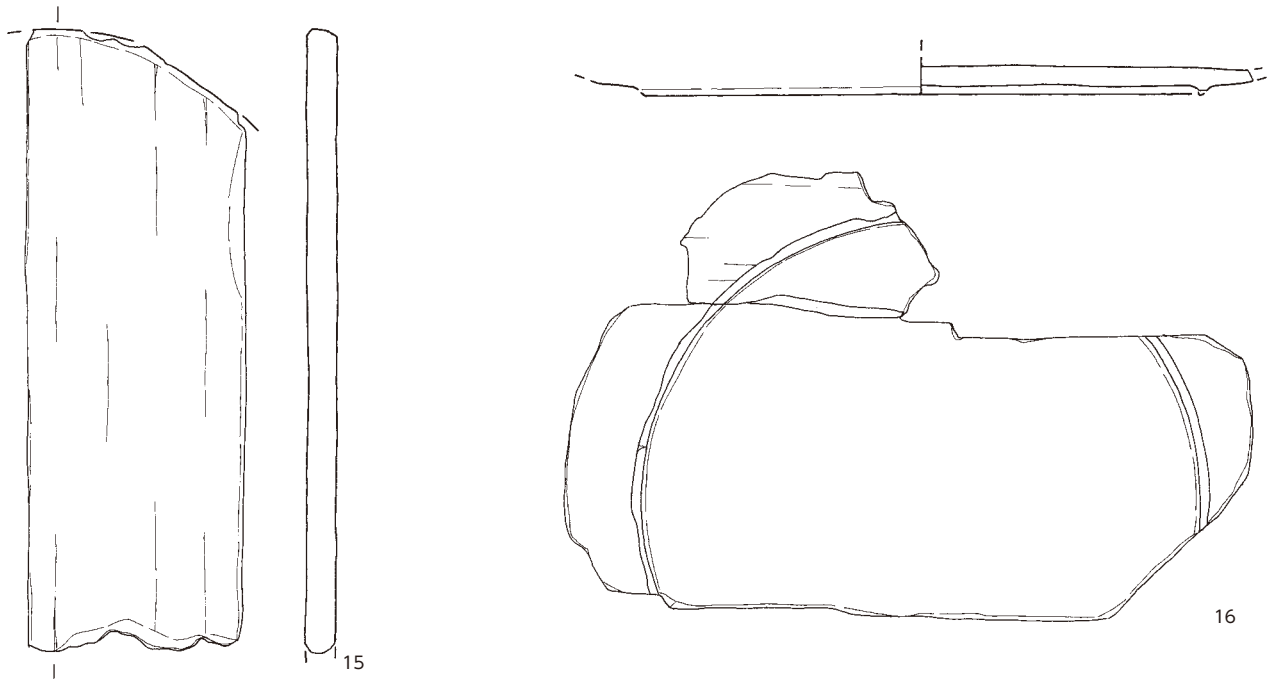
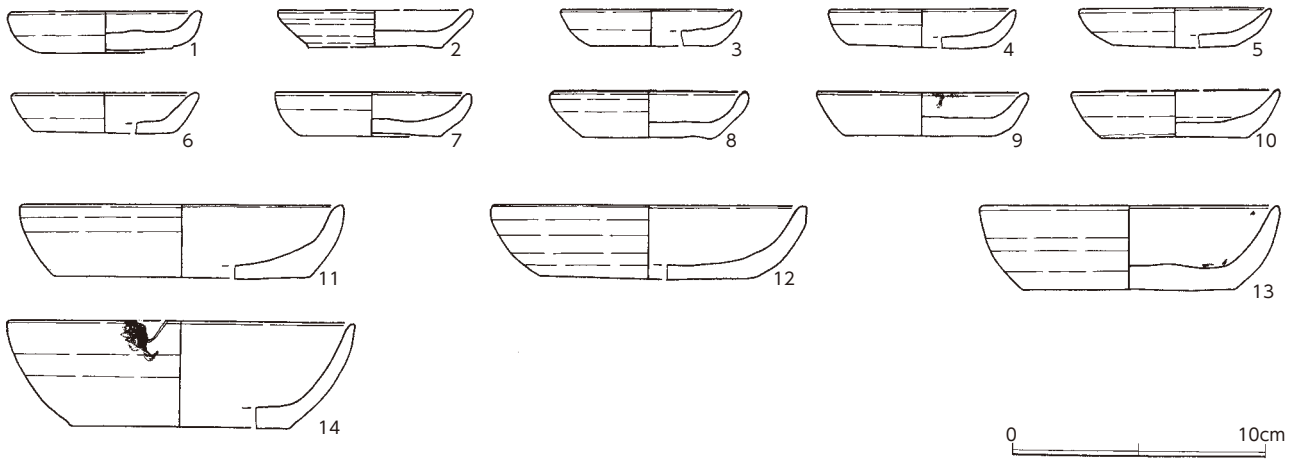


图11 第5面構成土出土遺物(1)

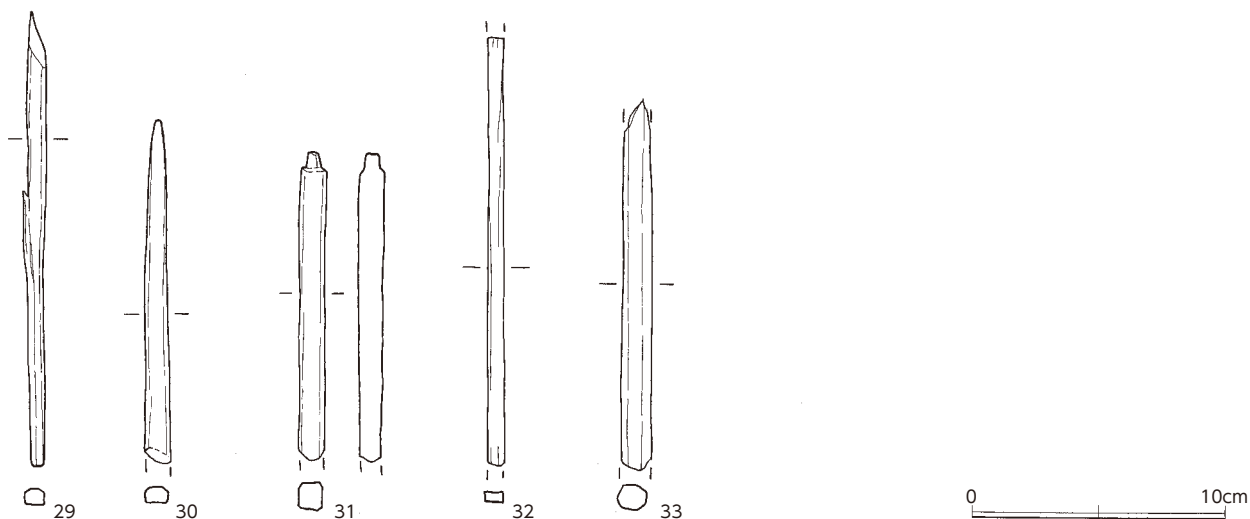
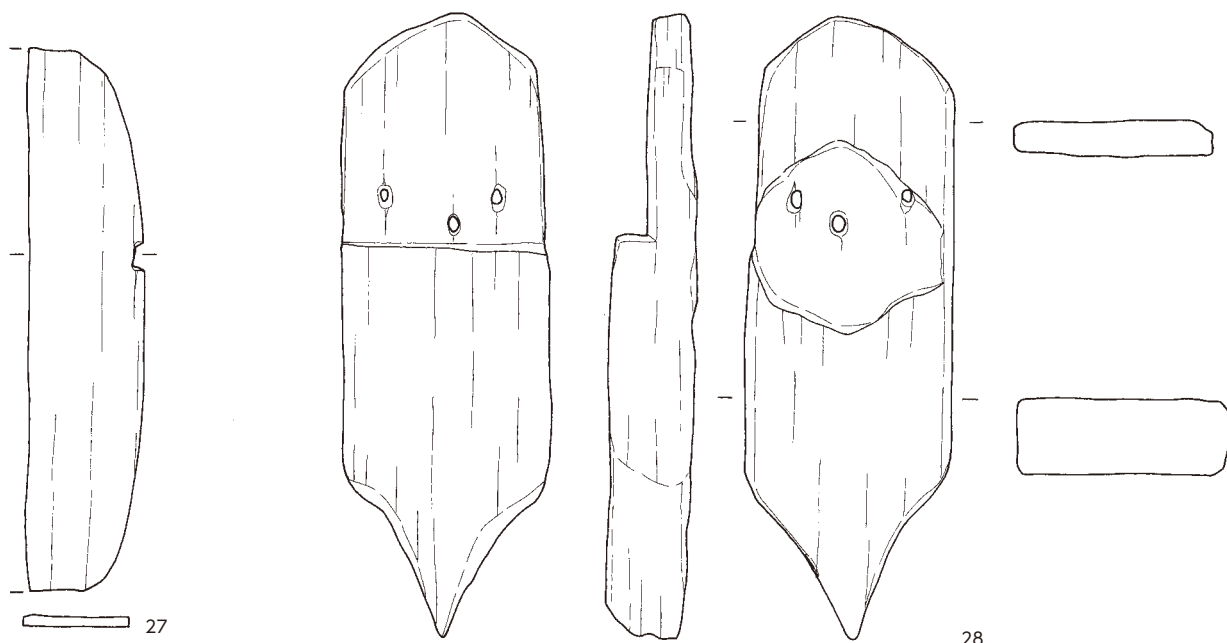


図12 第5面構成土出土遺物(2)

・第5面構成土出土遺物(図11・図12)

調査区の東側で確認した道路遺構覆土から発見した遺物である。

1～14はかわらけ。14は口唇部1部を打ち掻き、打ち掻いた部分に油煤痕。15～33は木製品。15は曲げ物底板。16は調度具。盆か？内底面に黒色系漆髹漆。17は曲げ物底板。18は板折敷。19は経木折敷。20～26は箸。27は板草履芯。端部直線的・側縁部曲線的・切り込み部台形。28は下駄の転用品と思われるが用途は不明。両端部を鋭角に削りだし。中央部に3ヶ所の小孔が開く。29は篋・先端を細く削ってある。30は串状製品。31～33は調度品の部材か？

そのほかに図示できなかった木片が多く出土している。

2. 第4面の遺構と遺物 (図13～図17)

第4面で発見した遺構は土坑2基・ピット4穴・溝1条・道路。第4面構成土は褐色弱粘質土。泥岩・破碎泥岩・炭化物を含む。調査区中央・南北に延びる溝(遺構11)の東側の堆積土上層には、炭化物を多く含み、意識的に1個体を細かく砕いたようにも思われるかわらけとかかわらけ細片が混じる。また、そ

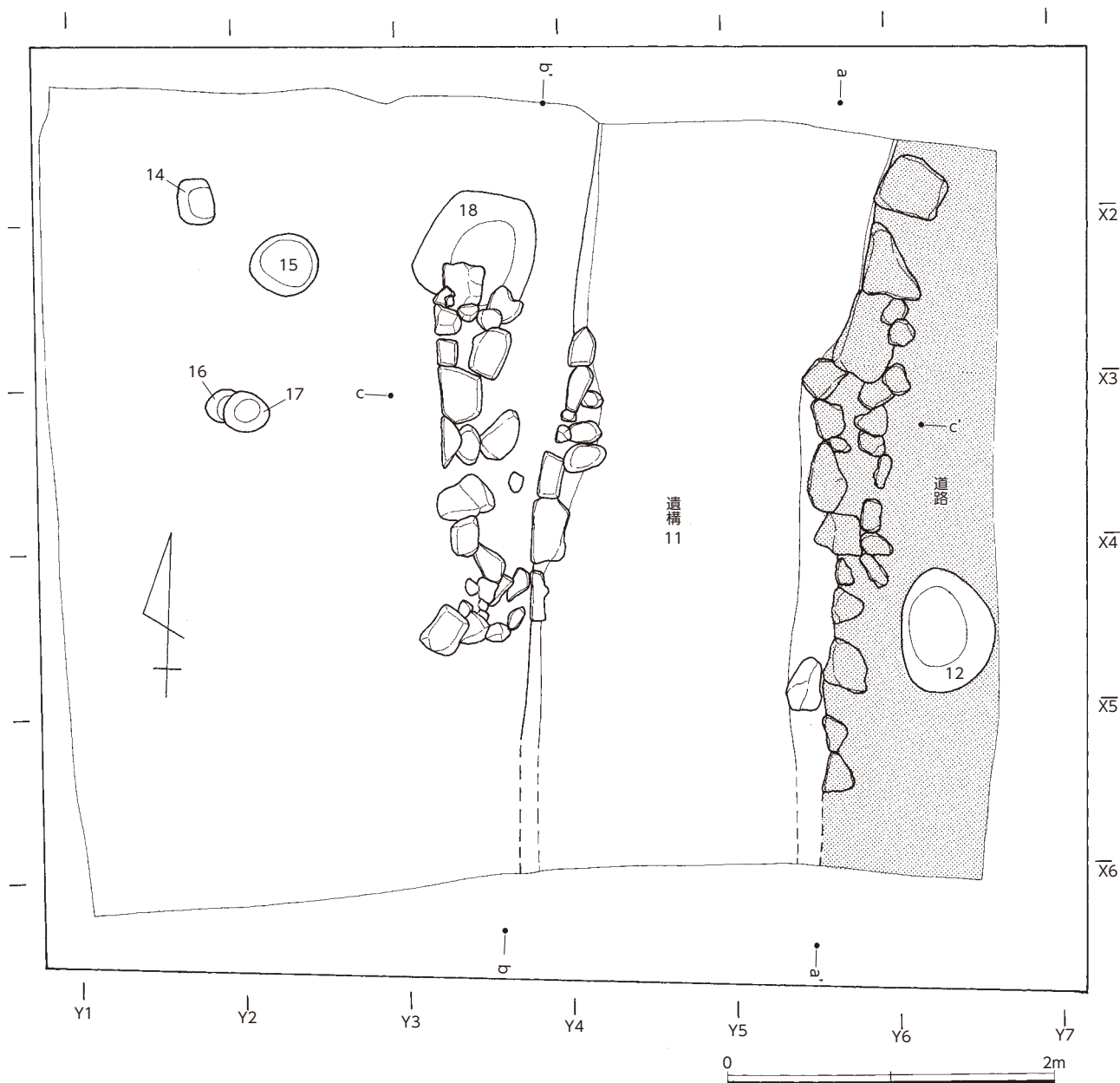


図13 第4面全測図

の下層には大きめの破碎泥岩を多く含む層が互層に堆積して、岩盤が露出しているのかと間違うほどに堅固な地業を検出した。第5面で発見した道路の造り替えと考えている。調査区外に遺構が延びてしまっていたために規模は不明になった。第3面同様に第4面構成土出土遺物とした遺物は、この道路地業からの出土がほとんどである。西側は砂質土を多く含む褐色弱粘質土で固く締まる。溝（遺構11）を挟んで調査区東西では地表レベルが異なり、東側で海拔26,80m・西側で海拔27,40m。道路であったと推定している東側からみると、高低差60cmで雛壇のように西側は高くなっている。

#### 遺構11(図14)

南北に延びる溝である。溝幅約190cm・深さ約100cm。溝幅がやや広がっているが、東側の側壁が上層の遺構に壊されてしまったためではないかと考えている。溝の側壁は東西壁ともに不整形な砂質凝灰岩の割石による野面積みで作られるが、西側の石積み表面は東側に比べてやや丁寧な仕上げられていた。東側の溝壁は道路地業と同時に砂質凝灰岩の割石を積み上げたものと考えられ、土留めの役目も請け負っ

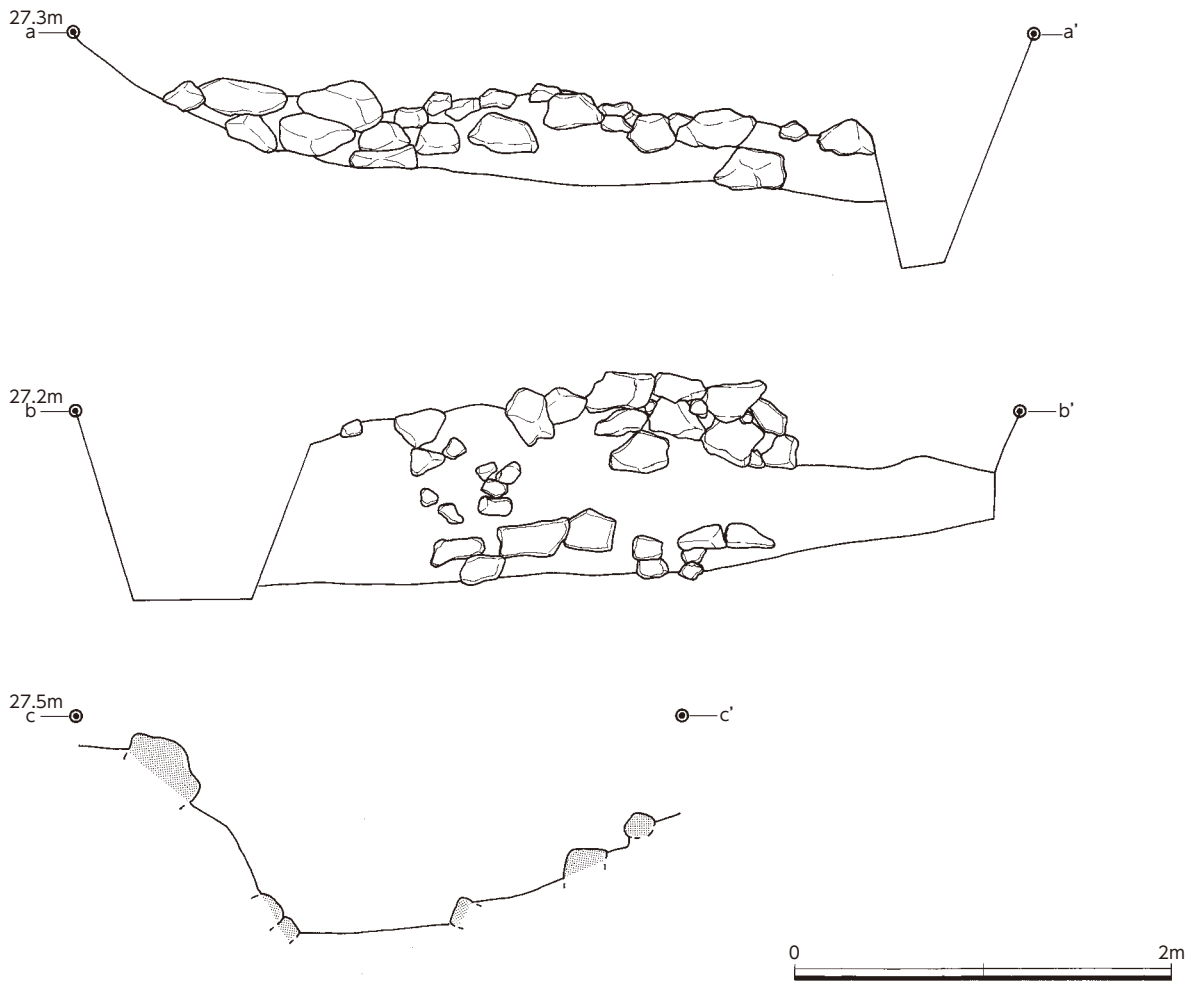


図14 遺構11正面図・エレベーション図

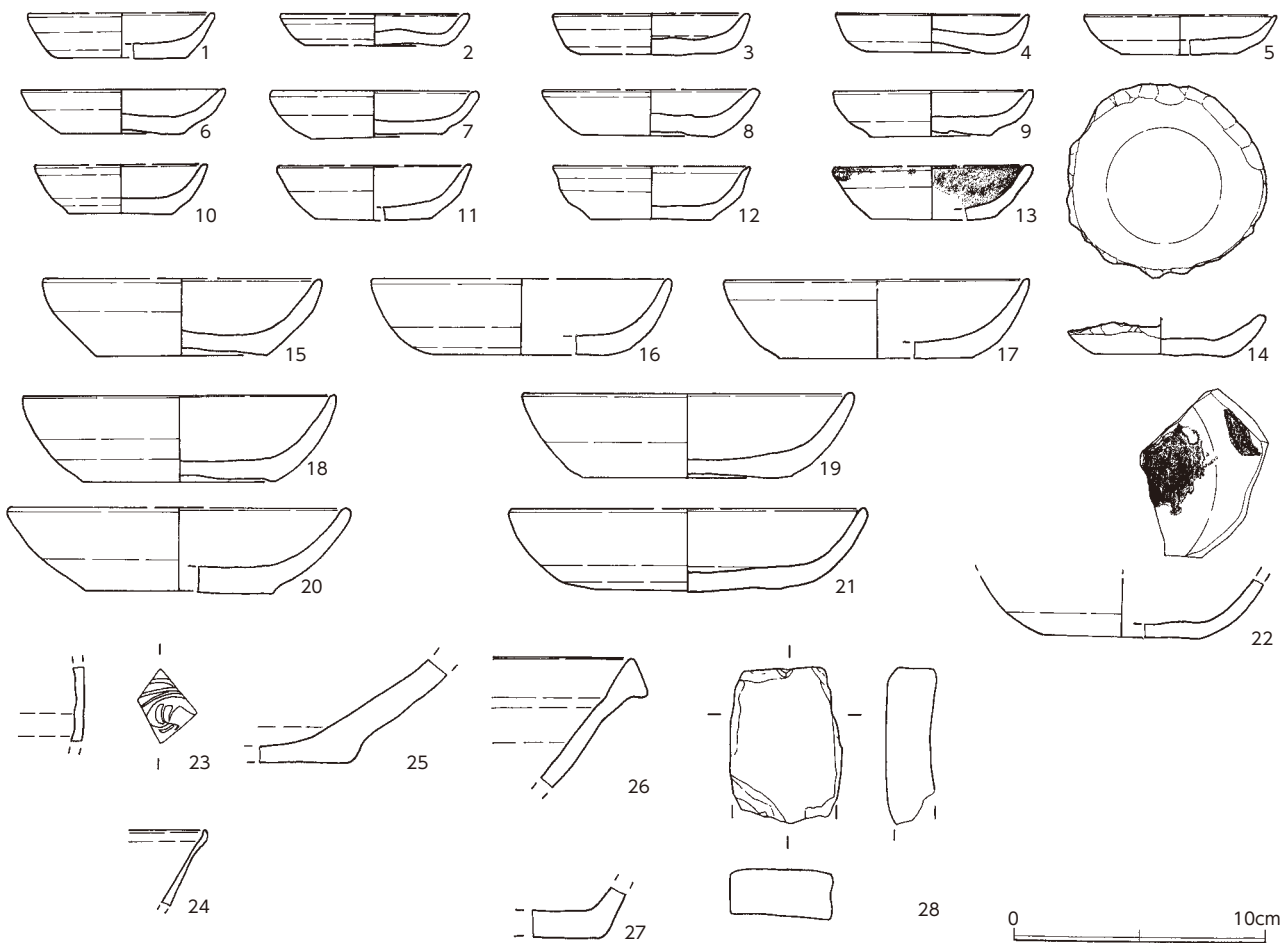


図15 遺構11出土遺物

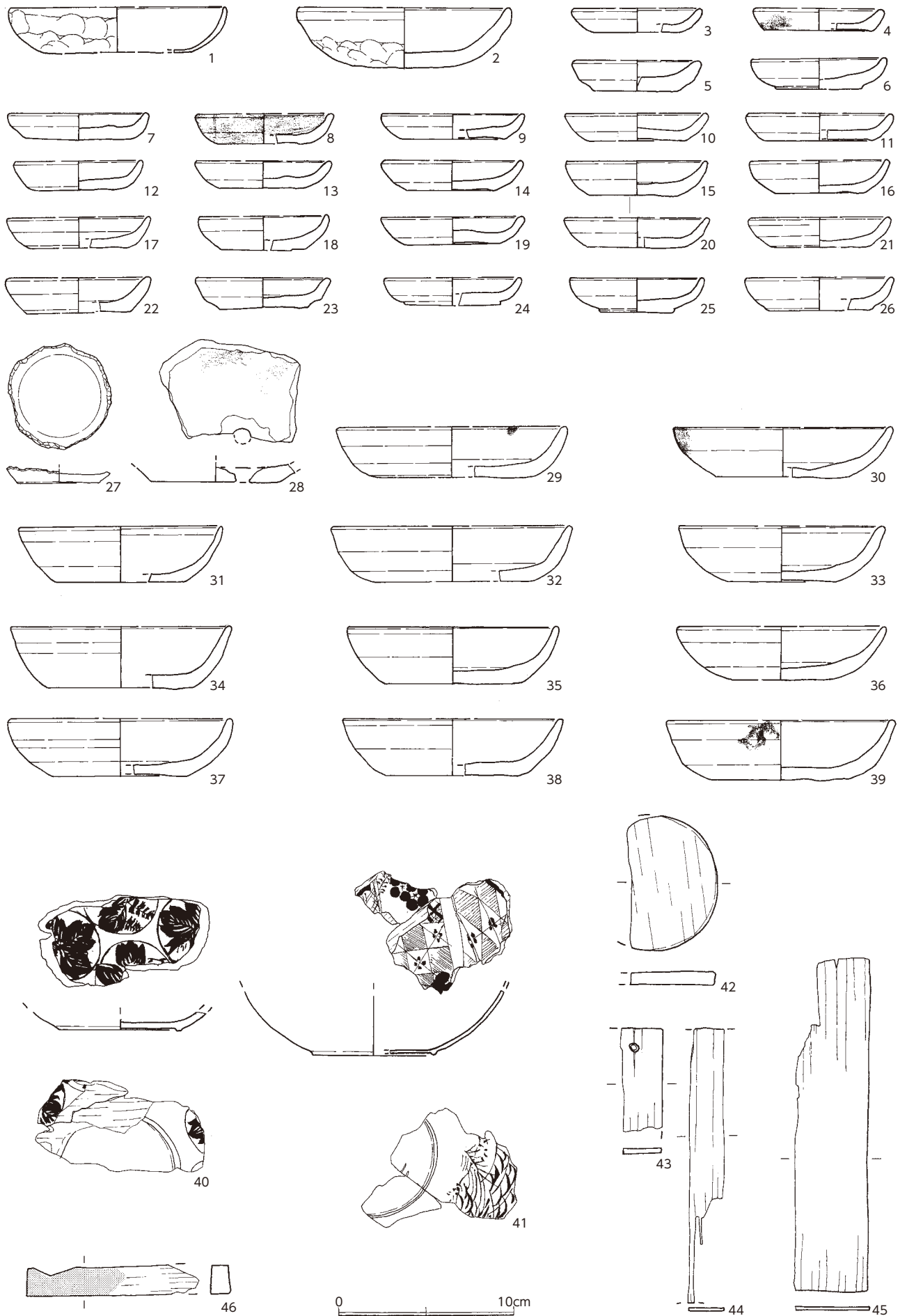


图16 第4面構成土出土遺物(1)

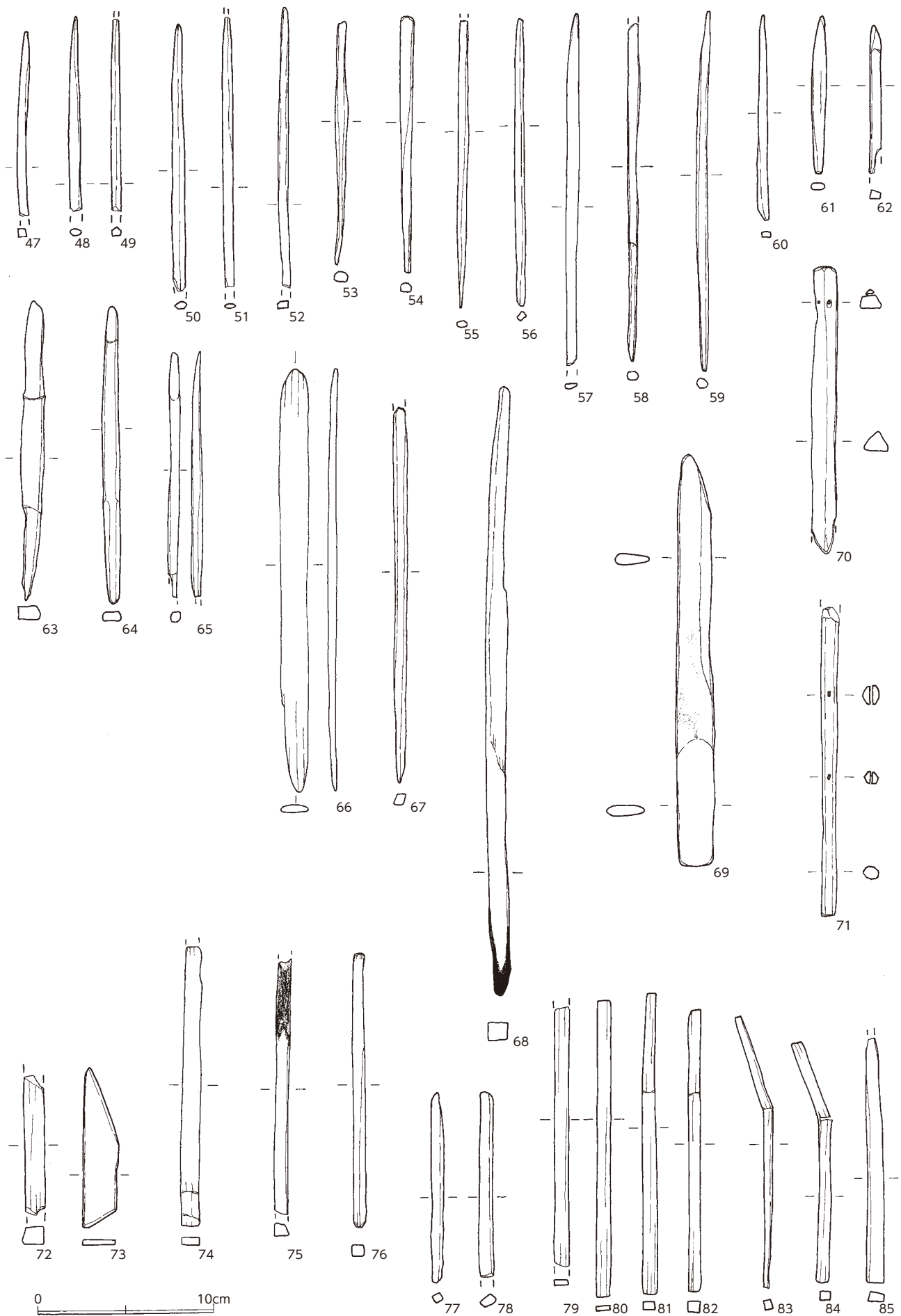


图17 第4面構成土出土遺物(2)

ていると思われる。溝の南北は調査区外に延びており規模は不明。石積み西側の裏込めは、暗茶褐色弱粘質土・破碎泥岩を含む。炭化物層が厚く堆積しかかわらけ細片が多く混入する。石積み東側裏込めは、道路地業と同様に茶褐色弱粘質土が堆積、破碎泥岩・炭化物を多く含む。出土遺物も多い。

#### ・遺構 1 1 出土遺物 (図 1 5)

1～2 2 はかわらけ。8 は外側面に油煤痕。1 1 は精良で硬質の胎土をもつ。1 3 は内側面・外面口唇部に厚く油煤痕。1 8 は内外面に煤痕。2 0 は内面全体に黄色の物質付着。2 2 は内面見込み中央と内側面一部に漆と思われる黒色の物質付着。2 3 は青白磁・梅瓶・胴部片。2 4 は瀬戸・入子・輪花型。2 5 は常滑捏ね鉢Ⅱ類・内面摩耗痕。2 6 は魚住捏ね鉢。2 7 は滑石鍋底部片。2 8 は滑石鍋転用品・温石か？

#### 遺構 1 2 (図 1 3)

土坑である。長軸 7 8 cm・短軸 5 9 cm・深さ 1 6 cm。覆土は黒褐色有機質土・炭化物を多く含む。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 2 3・かわらけ(小) 1・常滑甕胴部 1・黒色漆を内外面に髹漆した漆器椀が破片で出土している。

#### 遺構 1 4 (図 1 3)

岩盤を掘りこんだピットである。長軸 2 8 cm・短軸 2 0 cm・深さ 8 cm。覆土は茶褐色砂質土・褐色粘質土を含む。出土遺物はない。

#### 遺構 1 5 (図 1 3)

ピット。長軸 4 4 cm・短軸 3 8 cm・深さ 1 7 cm。覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・褐色粘質土を含む。出土遺物はない。

#### 遺構 1 6 (図 1 3)

ピット。遺構 1 7 に切られ正確な形状不明。深さ 1 0 cm。覆土は暗茶褐色砂質土・泥岩粒を含む。出土遺物はない。

#### 遺構 1 7 (図 1 3)

ピット。長軸 2 8 cm・短軸 2 6 cm・深さ 2 3 cm。覆土は茶褐色砂質土・炭化物微稜・泥岩粒・褐色粘質土を含む・遺構 1 5 の覆土に近似。

#### 遺構 1 8 (図 1 3)

溝側壁に積んだ石の抜き取り痕か？長軸 7 5 cm・短軸 6 5 cm・深さ 2 4 cm。覆土は暗褐色砂質土。出土遺物はない。

#### 第 4 面構成土出土遺物 (図 1 6・図 1 7)

1～3 9 はかわらけ。1 は手づくね成形の白かわらけ。薄手・精良な胎土。2 は手づくね成形のかわらけ。4・8 は外側面・内面見込みに油煤痕。7・1 4・1 9・2 3 は内面見込み周囲に強くナデが入る。2 7 は側面を打ち搔き円盤状に整形。2 8 は内側面に油煤痕・内底面に穿孔あり。2 9 は内面口唇部一部に油煤痕。3 0 は外側面に薄く油煤痕。3 1 は精良な胎土。3 9 は内外口唇部に油煤痕。4 0・4 1 は漆製品。4 0 は椀・内外面に黒色漆髹漆・内外面に赤色漆で同一の文様・丸に五三の桐文・手描き施文・外底

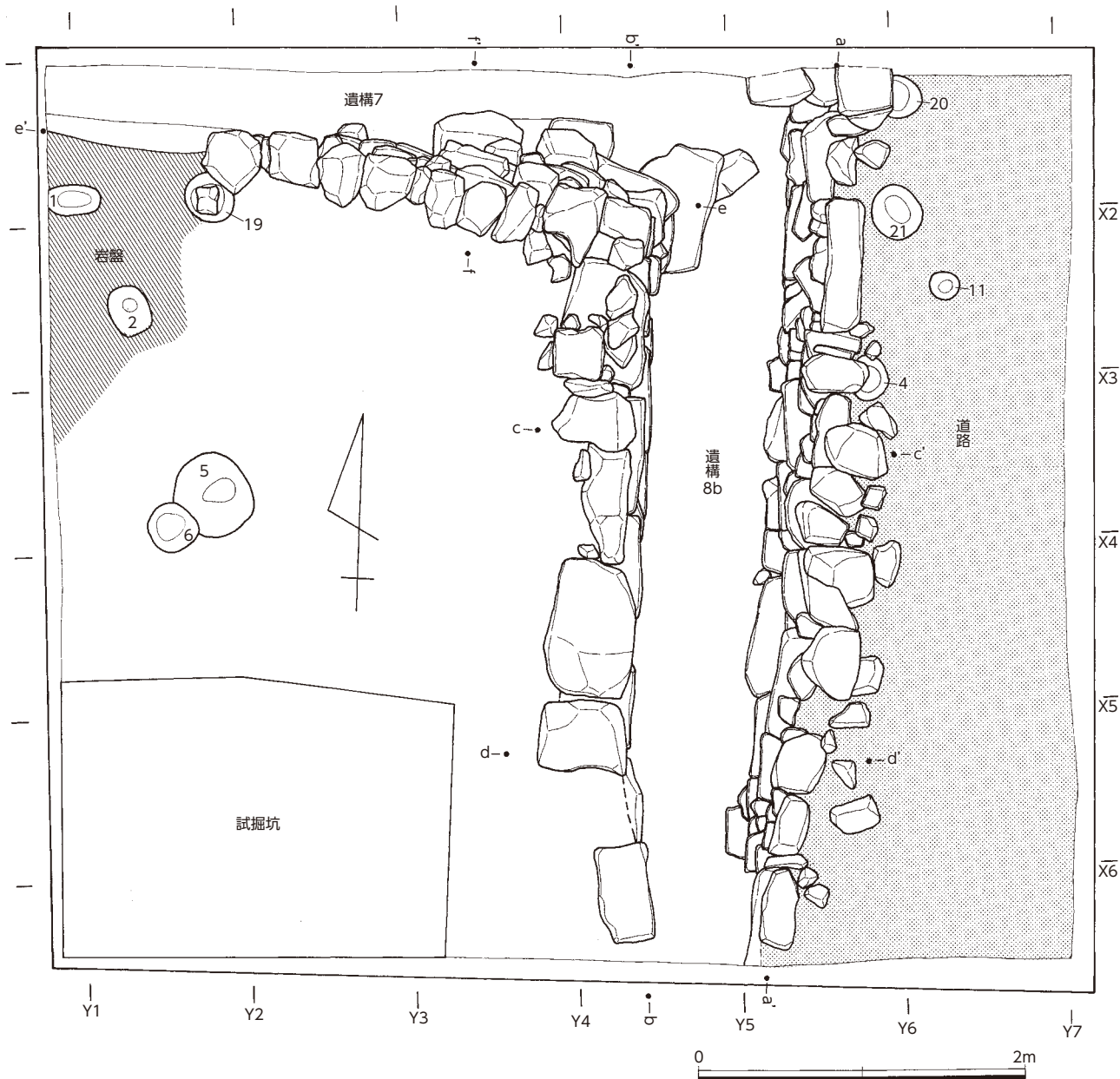


図18 第3面全測図

面髹漆。41は椀・内外面に黒色漆髹漆・赤色漆で内面に梅・籠目の構成文・外面に笹文の情景文を手描き施文・外底面に「二」の線刻あり。42～85は木製品。42は曲げ物底板。43は板折敷か。44・45は経木折敷。46は漆製品・調度具。黒色系漆を髹漆。筆架か？47～59は箸。60～66は篋状製品。67は串状製品。68は齊串状製品・片端に焼痕。69は刀形か？表面油煤痕。70は調度具部材片か？断面三角形を呈し、端部に穿孔あり。71は3か所の木釘痕。調度具部材か？72・73は用途不明。73は丁寧な整形。74～85は用途不明。75は一部に焼痕。図示できなかった破片はかわらけ(大)147。

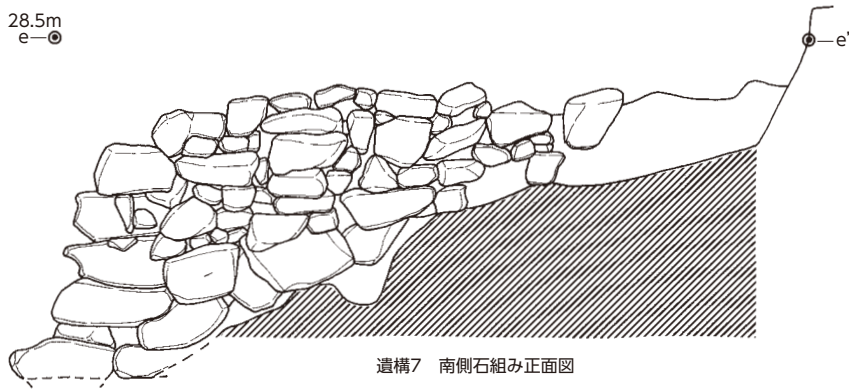
### 3. 第3面の遺構と遺物 (図18～28)

第3面で発見した遺構は、ピット9穴・溝2条・道路である。第3面構成土は褐色弱粘質土、泥岩と破碎泥岩を多く含む。礎石を伴うピット(遺構19)を発見しているが建物を推定できるものではない。

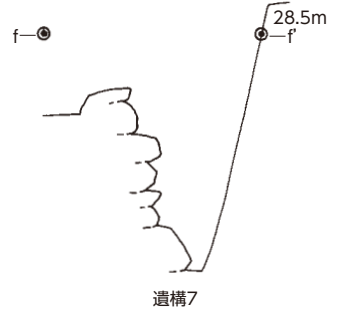
南北に延びる溝(遺構8b)の東側は、破碎泥岩を多く含んだ褐色弱粘質土と暗褐色砂質土の互層で堅



28.5m  
e-●



遺構7 南側石組み正面図



遺構7

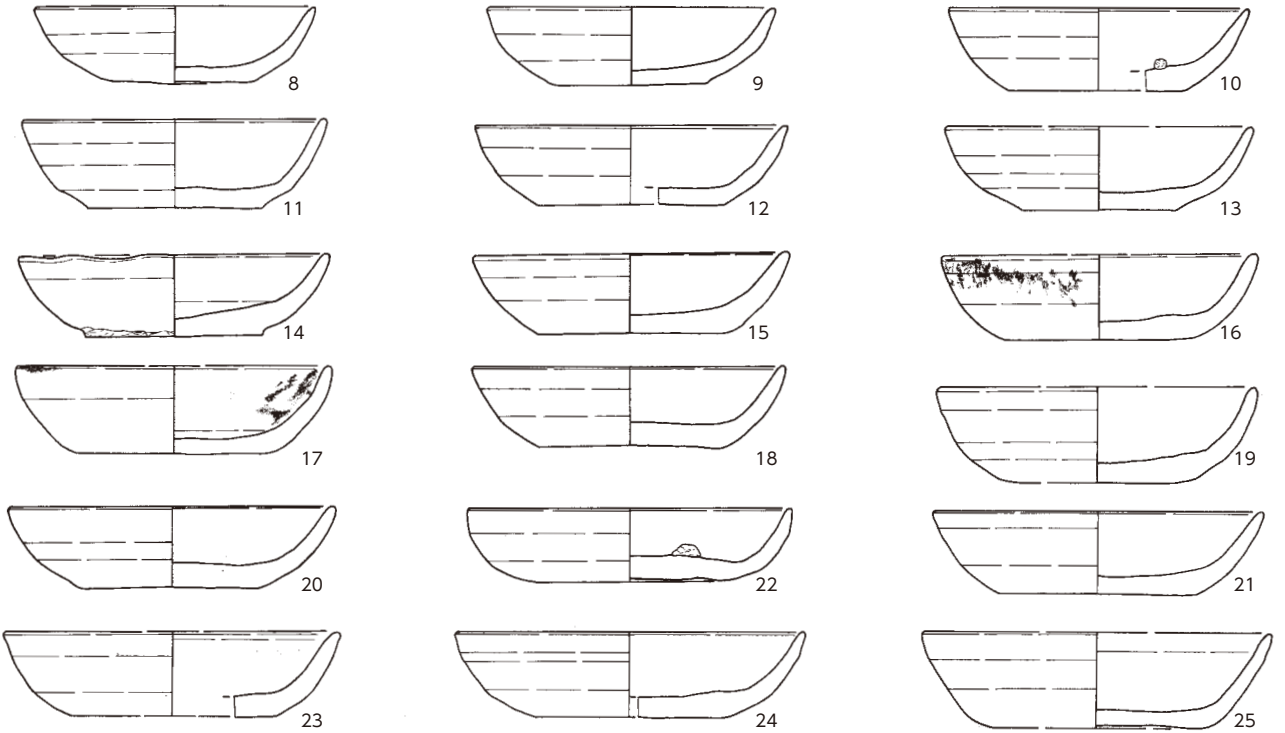
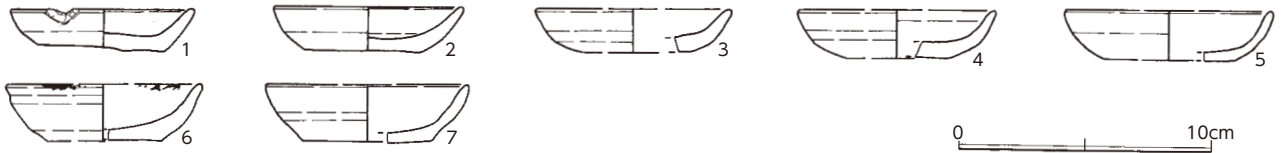
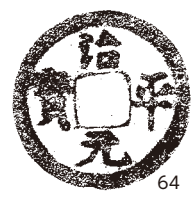
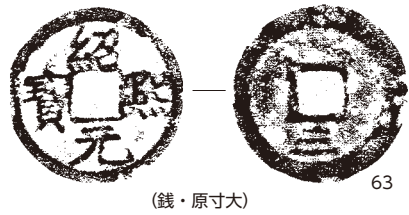
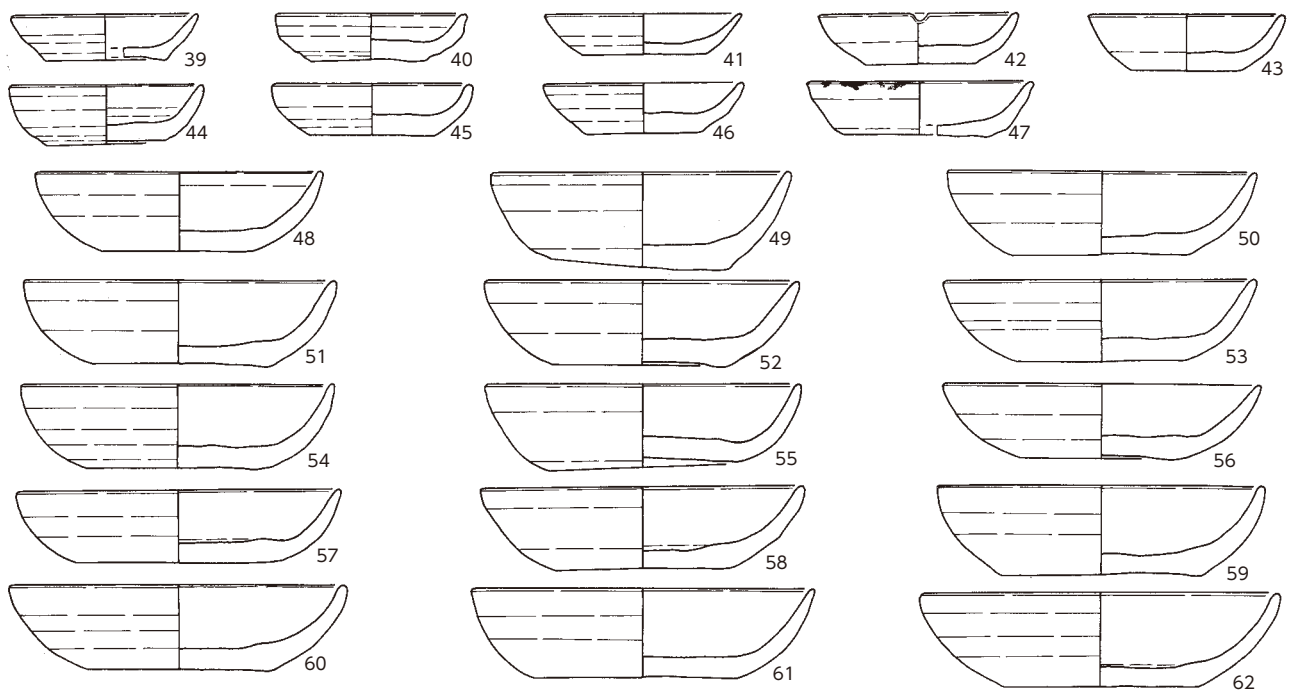
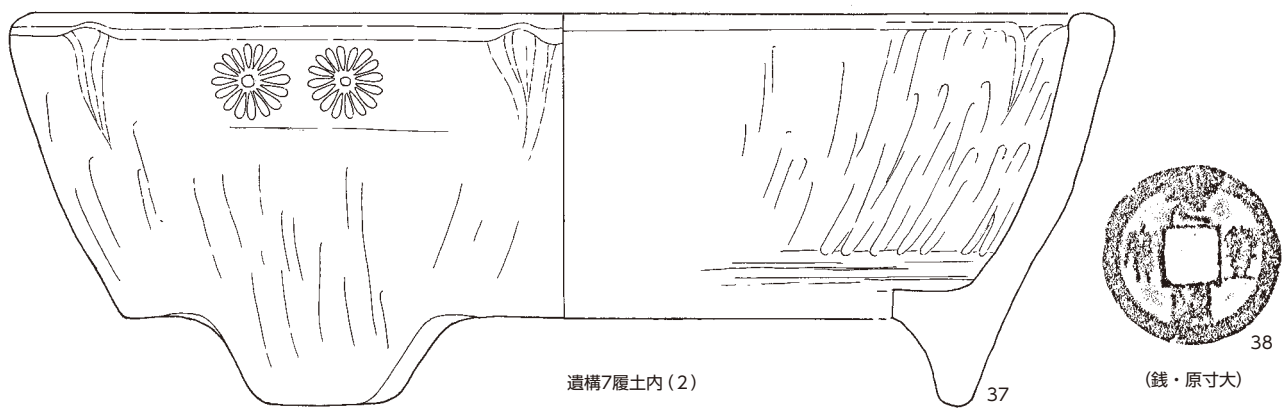
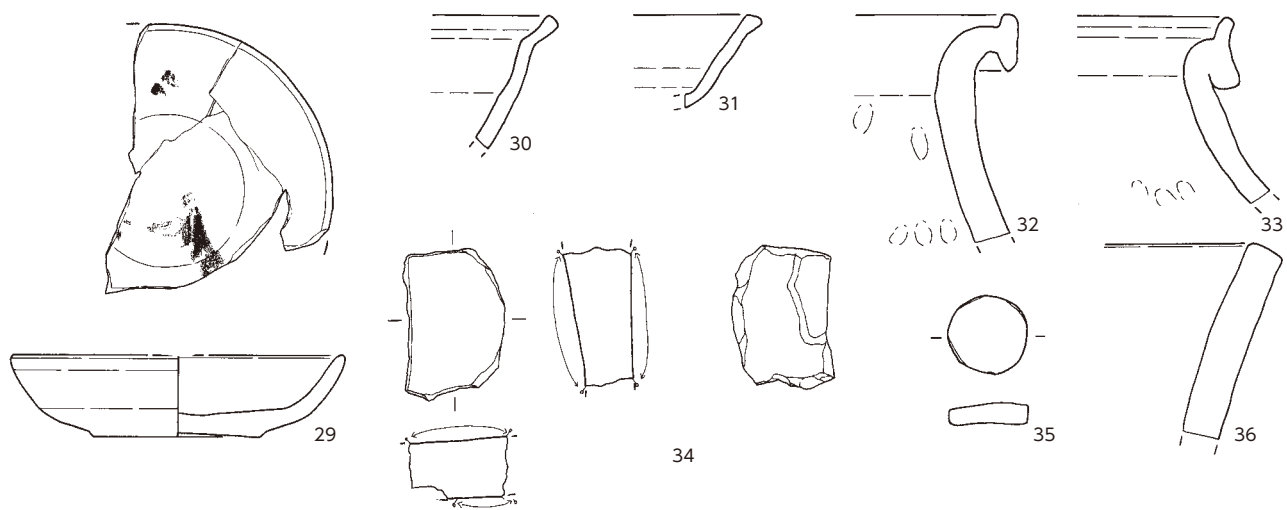


図19 遺構7正面図・エレベーション図 遺構7出土遺物(1)



遺構7底面

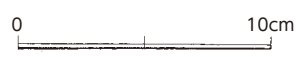


图20 遺構7出土遺物(2)

固に締まった丁寧な地業であり、第4面の道路を踏襲した道路と考えている。溝の石積みの石を確認することを優先してしまい、地業部分を掘りすぎてしまったが、本来は石積みの上段よりも盛って地業されていたことを調査区壁の土層堆積から確認した。溝の西側は破碎泥岩の混じる褐色弱粘質土で、東側同様に溝石積み上段よりもやや盛って地業されていたが、後述する第2面の造成時に一部削平を受けている。溝を挟んで東側と西側では約20cmの高低差があり、地表レベル東側海拔27,90m・西側海拔28,10mを測る。

#### 遺構1(図18)

岩盤上に掘り込まれたピット。褐色弱粘質土・炭化物・破碎泥岩を含む。長軸32cm・短軸20cm・深さ16cmを測る。出土遺物はない。

#### 遺構2(図18)

岩盤上に掘り込まれたピット。長軸30cm・短軸24cm・深さ33cmを測る。覆土は茶褐色弱粘質土・炭化物を含む。ピット底面に破碎泥岩が堆積していた。柱の根固めか? 図示できなかった遺物はかわらけ(小)1。

#### 遺構4(図18)

長軸26cm・短軸24cm深さ12cmを測る。ピット底面に破碎泥岩が堆積。根固めか? 覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物・破碎泥岩を含む。図示できなかった遺物は破片でかわらけ(大)2・瓦質火鉢1。

#### 遺構5(図18)

長軸50cm・短軸40cm・深さ14cmを測る。覆土は暗茶褐色弱粘質土泥岩・破碎泥岩・炭化物を含む。遺構6に切られる。出土遺物はない。

#### 遺構6(図18)

長軸30cm・短軸26cm・深さ10cmを測る。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩・破碎泥岩・炭化物を多く含む。図示できなかった遺物はかわらけ(大)2。

#### 遺構7(図18・図19)

調査区北側に位置し、東西方向に延びる石組みの溝である。西から東に向かって傾斜しており後述する

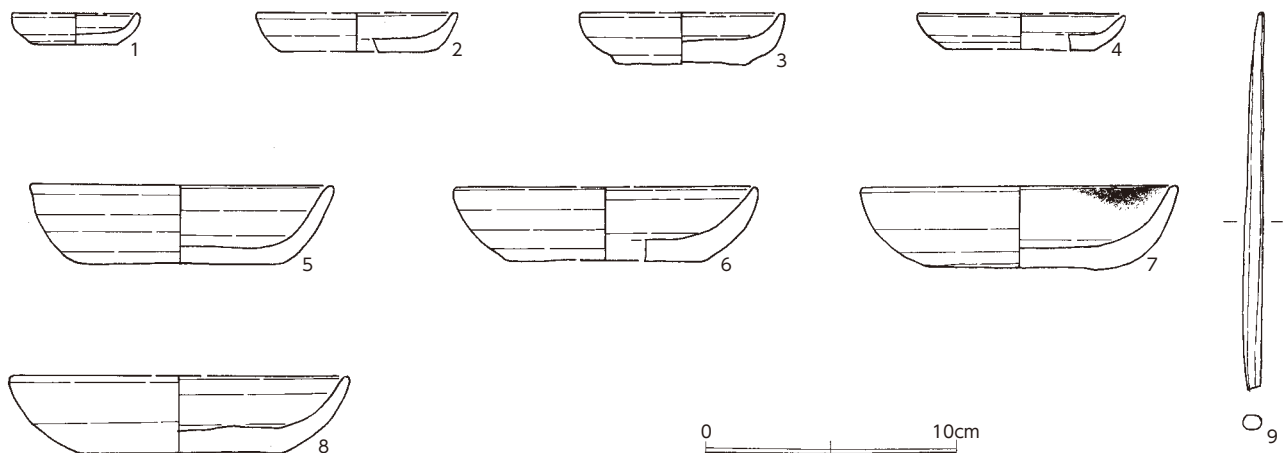


図21 遺構7裏込め出土遺物

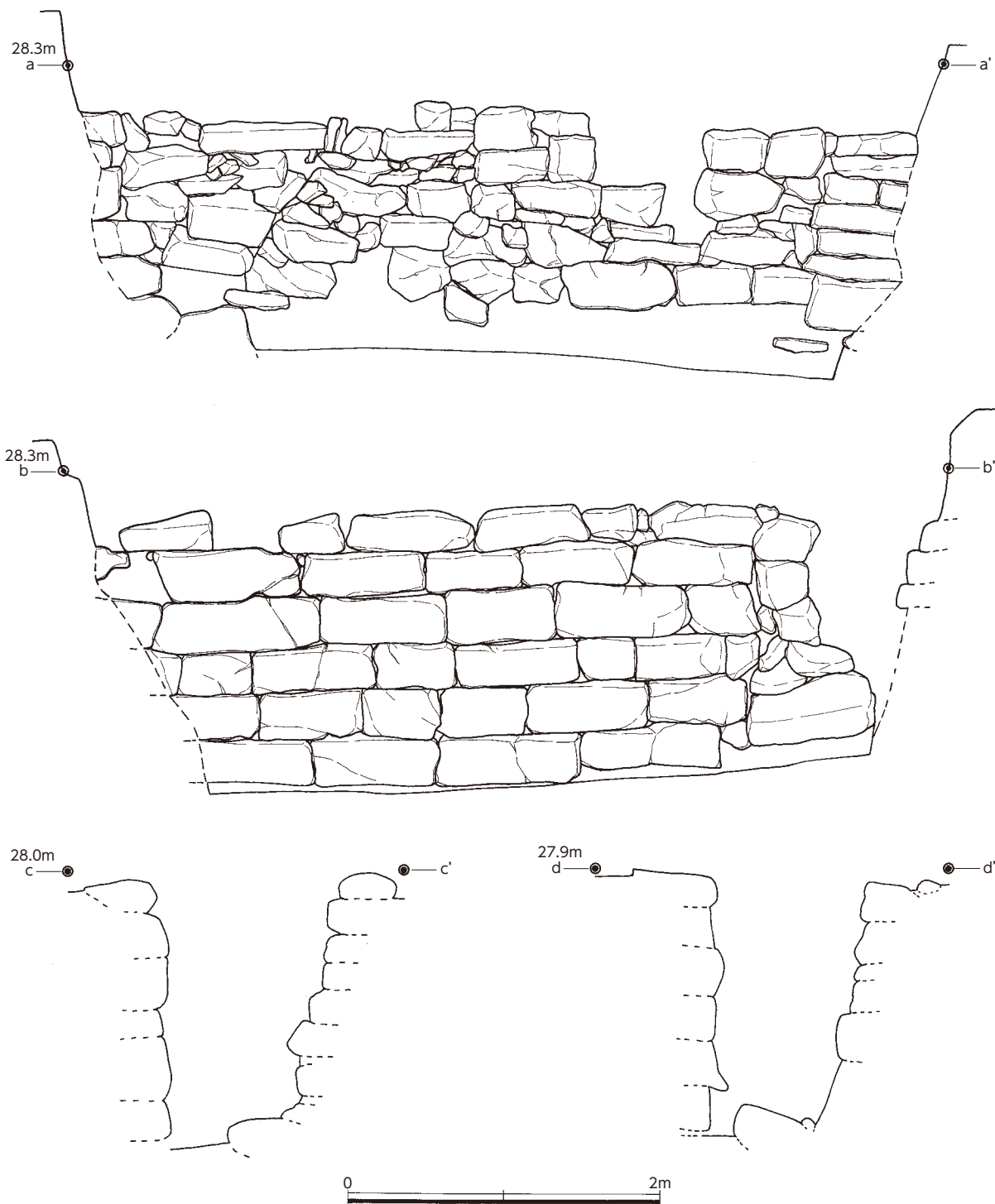


図22 遺構8b正面図・エレベーション図

遺構8bに流れ込む。

溝の南壁は人為的に削った岩盤上に砂質凝灰岩の割石と切り石を乱積みしている。遺構8bと交差する石積みの角石は、切り石を用い丁寧に整形していた。溝の西方向は調査区外に延び、溝の北側は調査区で分断されてしまっているために確認できず遺構の規模、形状などは不明となった。遺構覆土は茶褐色弱粘質土。炭化物と破碎泥岩を含む。上層には大小の泥岩・破碎泥岩が堆積していた。溝底面上には接合すると1個体となるかわらけを多く発見しており、意図的に溝底に投げ入れたものと考えている。溝底面で集中的に発見した遺物は覆土内遺物とは分けて提示した。

### ・遺構7出土遺物(図19・図20)

1～29はかわらけ。1は口唇部4ヶ所を打ち搔いている。油煤の付着は見えない。5は精良で硬質な胎土。6は口唇部1ヶ所に打ち搔き痕。口唇部に油煤付着。16は外側面上部に油煤痕。17は内面に煤付着。10・26・27・28は器面に釘付着。29は内面見込みに油煤痕。30は瀬戸折縁深皿。31は瀬戸卸皿。32・33は常滑甕。34は石製品砥石。中砥・天草産。35はかわらけ転用品。円盤状に整形。36・37は瓦質火鉢。37は瓦質・火鉢。内側面下部からの磨き、輪花整形の調整が丁寧であり、外側面に押印された菊花の印花文の花弁が丸みを帯びる。38は銭・元豊通寶。

39～64は遺構7の底面で発見された遺物である。発見した遺物のほとんどは完形、あるいは完形品であったと思われるかわらけであった。39は精良で硬質な胎土。40は見込み周囲を強くなでたためか、やや内反する側壁を持つ。42は内面に薄く油煤痕。43は内外面に薄く油煤痕。47は内外口唇部に厚く油煤痕。61は内面に薄く油煤痕。63・64は銭・63は治平元寶。64は紹熙元寶。

図示できなかった遺物は、かわらけ(大)307・かわらけ(小)7・青磁器種不明1・常滑甕胴部9・常滑甕底部1・常滑捏ね鉢I類1・瀬戸卸皿1・瀬戸碗1・瀬戸壺1・硯片1・鉄製品釘16。

### ・遺構7裏込め出土遺物(図21)

1～8はかわらけ。1は小型・内反する側壁を持つ。7は内面薄く油煤痕。9は木製品・箸。

### 遺構8b(図22)

南北に延びる石組みの溝である。調査区北から南に向かってゆるく傾斜している。溝幅約75cm・深さ約150cm。

溝西側は、丁寧に成形した砂質凝灰岩切り石を6段の整層積みになっている。各段の高さを水平にそろえて積み整層積みは、石組みの構造としては弱くなるが、溝の東側に道路があったと推定して、道路方向から見た外観(正面観)を意識したものではないかと考えている。溝東側石組みの南側は砂質凝灰岩切り石が7段の整層積みとなっているが、中央辺りは不整形な砂質凝灰岩割石の野面積みとなっており構築方法に違いがみられる。構造的に弱い整層積みの石組みが壊れて修復した可能性もあるが、西側石組みのように体裁を気にしなかったのかもしれない。遺構覆土は下層に炭化物・砂礫を多く含む暗青灰色砂質土・有機質土・木片を多く含む。上層は砂質土・泥岩・泥岩粒・炭化物を含んだ茶褐色弱粘質土。溝底面には破碎泥岩が敷き詰められたように堆積していた。また、溝底面には上面に焼痕の残る石臼(図34-10)と礎石3個が多量の木片・炭化物・黒色有機質土に混じって出土している。

東西石組み裏込めは、ともに泥岩・破碎泥岩・炭化物・砂質土を含む褐色砂質土と暗褐色弱粘質土で、固く締まった地業であった。

### ・遺構8b出土遺物(図23・図24)

1～29はかわらけ。5は内面に鉄分付着。11は見込み周囲を強くなでる。21は内面全体に油煤常滑捏ね鉢II類。28は内外側面に油煤痕。30は青磁折縁深皿。31は瀬戸卸皿。32は常滑捏ね鉢I類。33は常滑捏ね鉢II類・内面摩耗痕。34は外面に格子状の叩き文・内面同心円弧の叩き文。亀山窯甕か。35は土器質・火鉢。36は瓦質・香炉。破片ではあるが、内面の磨き、外面に押印された亀甲花文などの装飾が丁寧である。37は鉄製品・釘。38～46は銭。38・39は熙寧元寶。40は紹聖元寶。41は宣和通寶。42は元符通寶。43は大觀通寶。44は政和通寶。45は淳熙元寶。46は■化元寶。47・48は石製品・砥石。47は仕上砥。48は中砥。49は滑石製スタンプ。スタンプ文様は不明だが、一部に花文が見える。50～52は漆製品。50は皿。黒色系漆髹漆・内面見込みに手描き施文・文

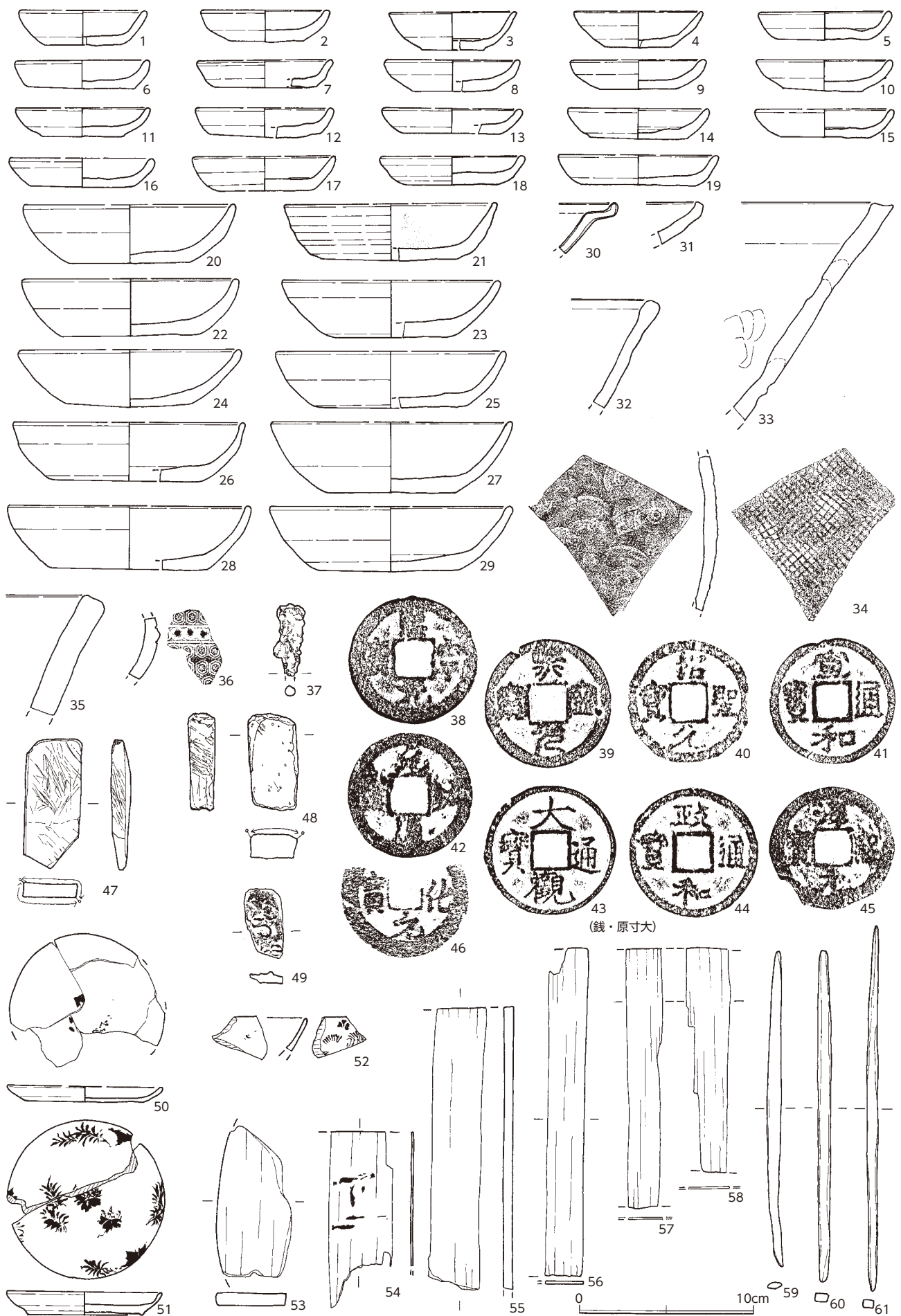


图23 遺構8b出土遺物(1)

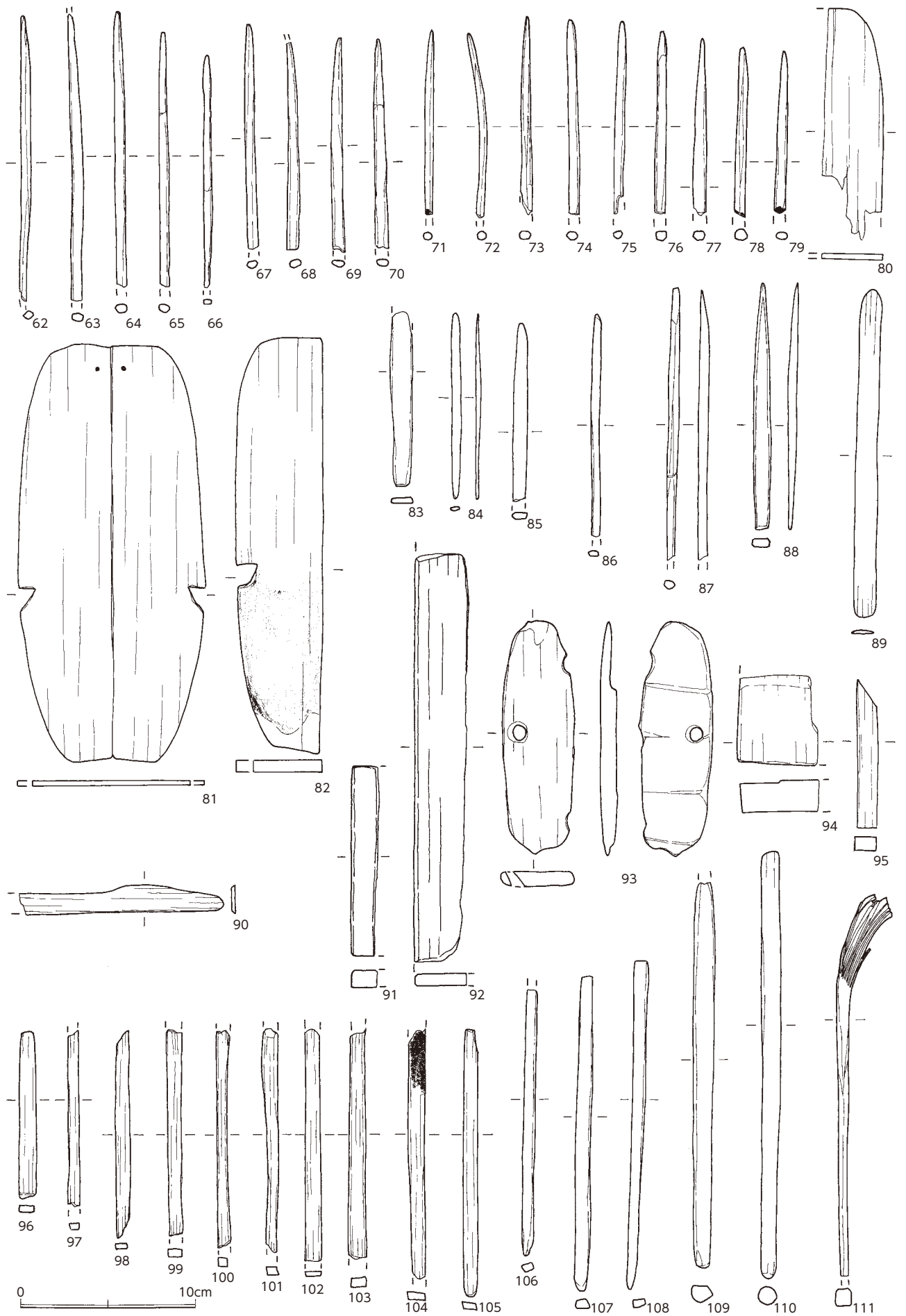


图24 遺構8b出土遺物(2)

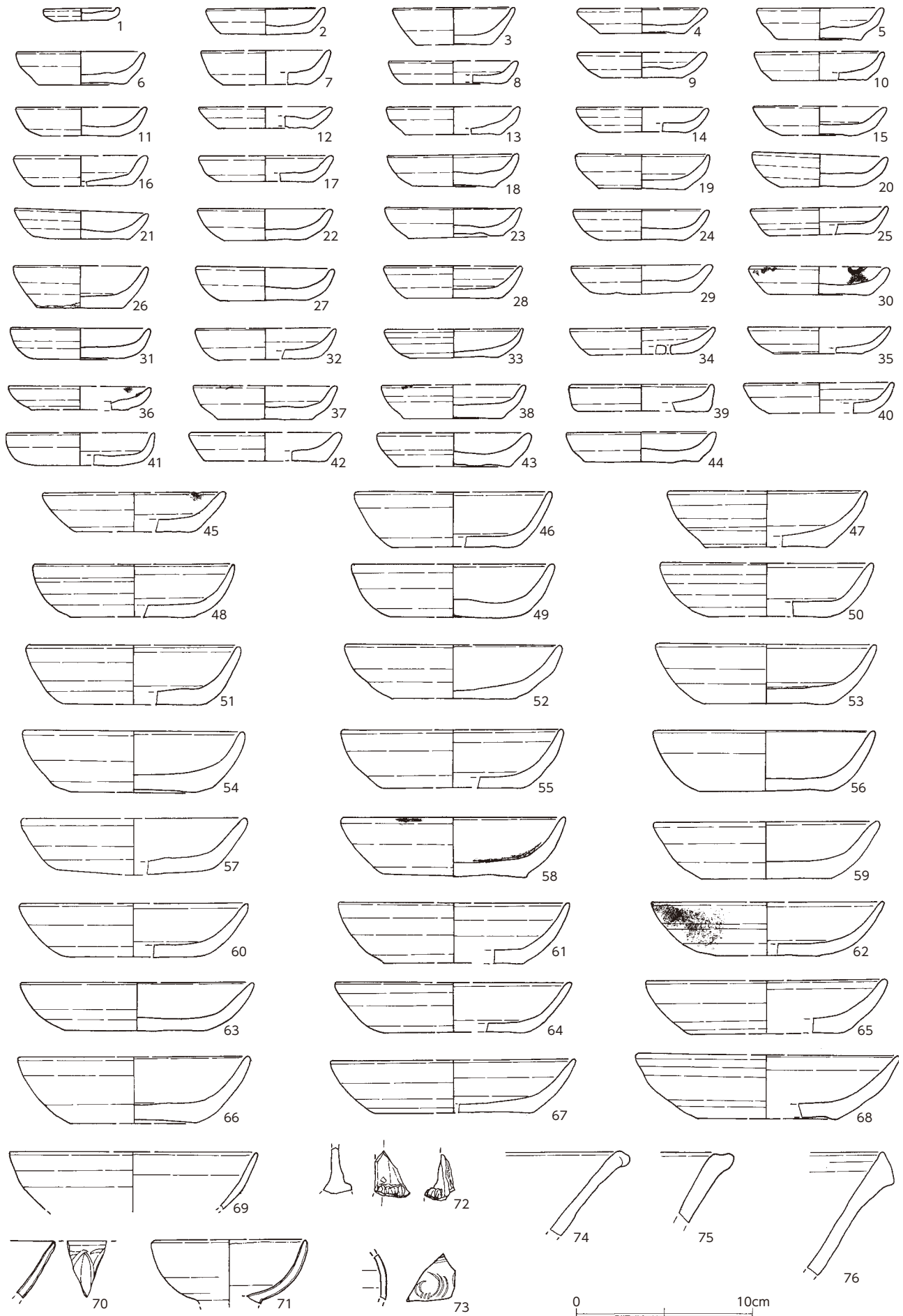


図25 遺構8 b裏込め出土遺物(1)



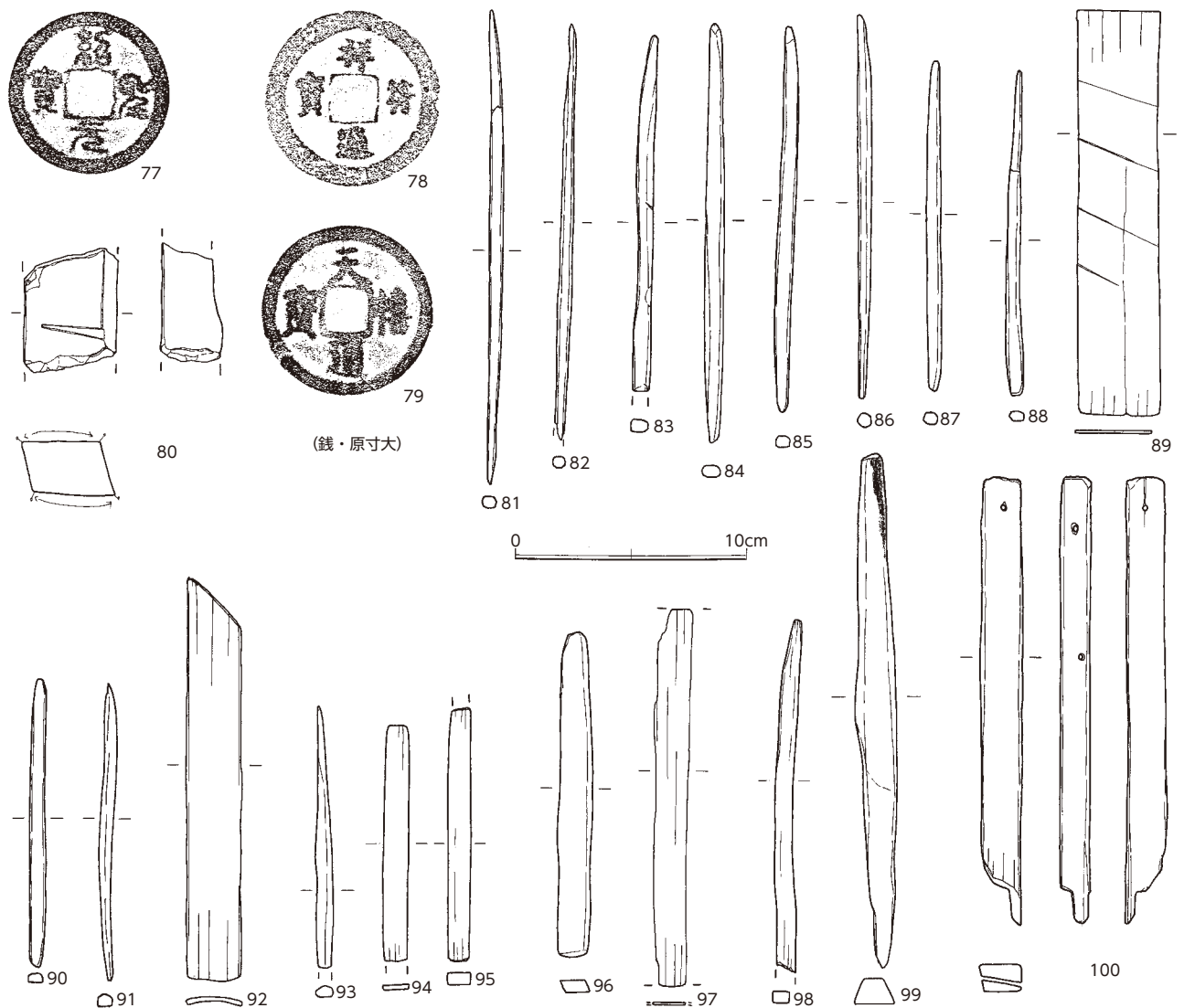


図26 遺構8b裏込め出土遺物(2)

様不明。51は皿。内外面黒色系漆髹漆・内面のみに赤色漆で手描き施文・笹と桐を見込み中央と内壁4か所に配する。52は椀。器形など不明だが、文様の参考品として提示。外面に繊細な線で花文を手描き施文。53～111は木製品。53は調度具破片・盆か蓋か？円形を呈すると思われる。54は経木折敷。墨痕と思われる黒色の染みが残る。

55は調度具部材か？56～58は経木折敷。59～79は箸。71は端部に焼痕。80～82は草履芯。80は側縁部直線的。81は側縁部曲線的。端部は合わせの部分から側縁部にかけて全体が丸みを帯びる。切りこみ部扇形に切り込む。82は製作途中か？先端部直線的。側縁部曲線的。切りこみ部扇形に切りこむ。一部に焼痕。83～89は篋状。先端を削りだしている。90～92は用途不明・端材か？93は下駄の転用品・楕円形に整形。94～105は用途不明。104は片端に焼痕。106～110は串状製品。111は端部がササラ状になるが、人為的なものか不明。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大)1274・かわらけ(小)146・白かわらけ2・青白磁梅瓶1・白磁口兀皿3・常滑甕胴部30・常滑捏ね鉢I類1・常滑捏ね鉢II類5・山茶碗4・瀬戸入子1・瀬戸卸皿1・瀬戸折縁深皿7・瀬戸鉢1・瀬戸壺1・瀬戸褐釉1・瓦質火鉢5・瓦1・砥石2・鉄製品釘3。

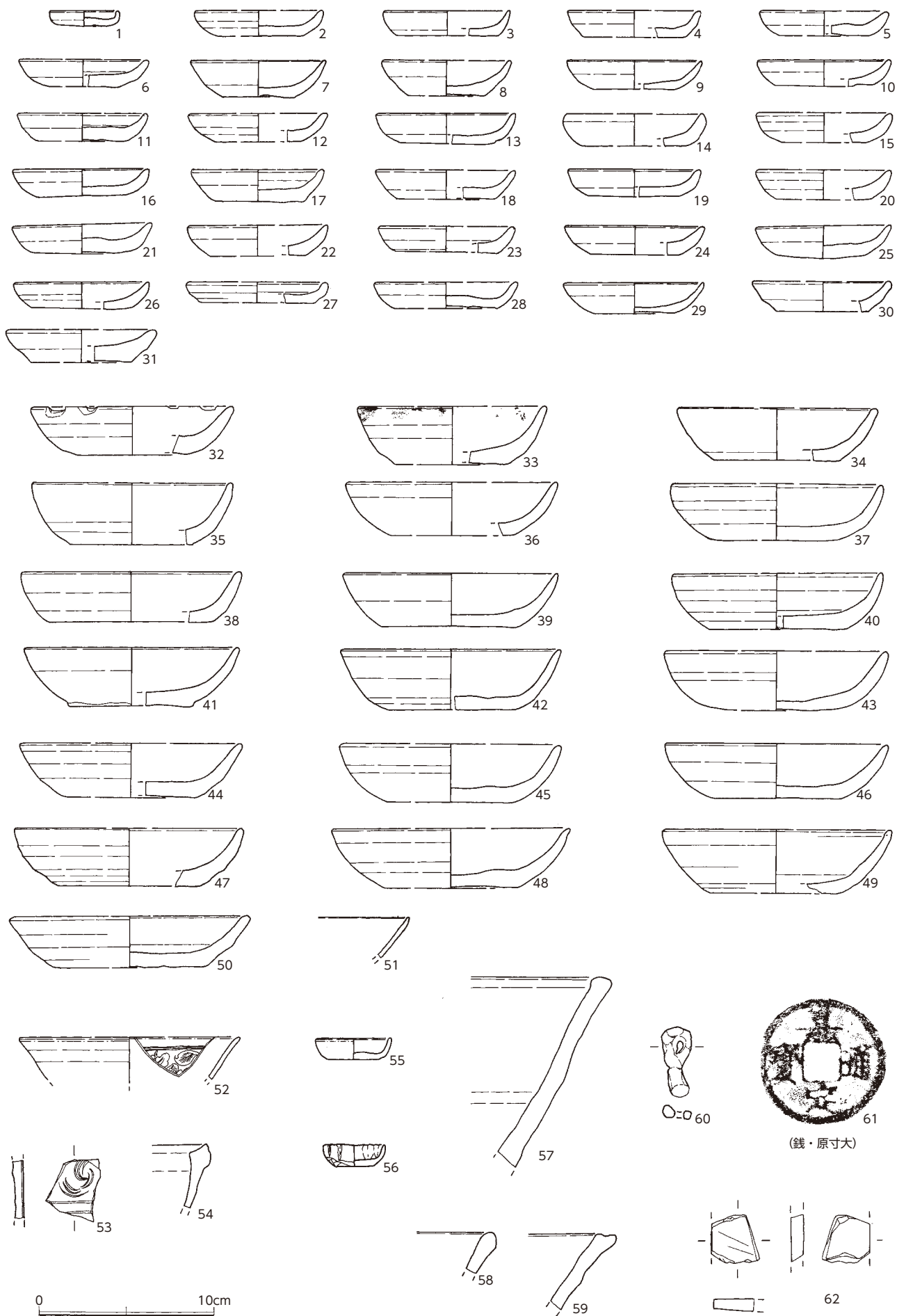


図27 第3面構成土出土遺物(1)

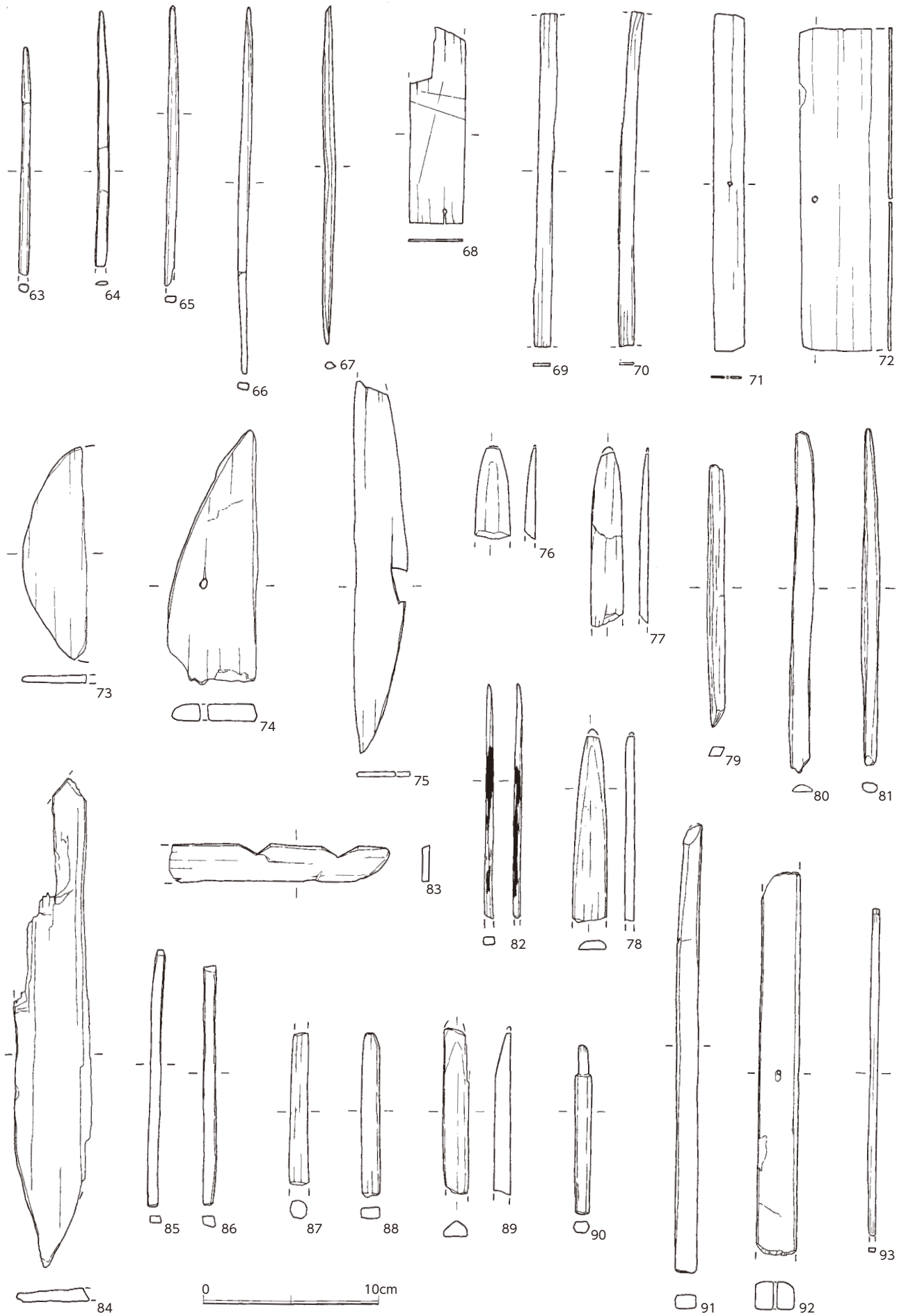


图28 第3面構成土出土遺物(2)

### ・遺構 8 b 裏込め出土遺物 (図 2 5・図 2 6)

1～69はかわらけ。1は小型・側壁内湾する。5は内面に薄く油煤痕。6・9・24・29は見込み周囲を強くなでる。30は外面口唇部から内面にかけて油煤痕。31・44は器面全体に薄く煤痕。36は内面口唇部に油煤痕。37・45は口唇部に油煤痕。58は内面に薄く油煤痕。62は外面に油煤痕。69は手づくねの白かわらけ。70は青磁・鎬蓮弁文碗。71は青磁・無文碗。口唇部口兀。

72は青白磁・香炉の獣足部分。73は青白磁・梅瓶胴部。74・75は常滑捏ね鉢Ⅰ類。76は魚住・捏ね鉢。77～79は銭。77は紹聖元寶。78は祥符通寶。79は天禧通寶。80は石製品・砥石・中砥・天草産。81～100は木製品。81～88・93は箸。89は経木折敷・片面に線刻。まな板として使用か？90・91は籠状。端部を削る。92は用途不明。側面ゆるく湾曲する。93～96は用途不明。97は経木折敷。98・99は用途不明。99は片端部に焼痕。100は漆製品・調度具部材か？黒色系漆髹漆。木釘痕。調度具部材か？

遺構 8 b 裏込めから出土した図示できなかつた遺物は、後述する遺構 8 a 裏込め出土遺物と合わせて報告した。

### 遺構 1 1 (図 1 8)

円形のピット。直径 16 cm・深さ 5 cmを測る。覆土は茶褐色弱粘質土。破碎泥岩・炭化物少量を含む。出土遺物はない。

### 遺構 1 9 (図 1 8)

円形のピット。長軸 32 cm・短軸 30 cm・深さ 8 cm。覆土は茶褐色砂質土・炭化物混入。底面に砂質凝灰岩の切り石。出土遺物はない。

### 遺構 2 0 (図 1 8)

円形の浅いピット。長軸 25 cm。短軸 22 cm・深さ 3 cm。石積みに使用した石の抜き取り痕か？出土遺物はない。

### 遺構 2 1 (図 1 8)

円形の浅いピット。長軸 35 cm・短軸 31 cm・深さ 7 cm。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物が多く混じる。出土遺物はない。

### ・第 3 面構成土出土遺物 (図 2 7・図 2 8) +

1～50はかわらけ。1は側壁内折れの小型。5は内面油煤痕。13・16・19は内面に鉄分付着。43は内底に強いナデ。51は手づくね白かわらけ。52は青白磁・口兀皿・内面印花文。53は青白磁・梅瓶。54は泉州窯・盤。55・56は瀬戸・入子。56は輪花型。57・58・59は常滑捏ね鉢Ⅰ類。60は鉄製品・掛け金具。61は銭・嘉定通寶。62は石製品・砥石・鳴滝産・仕上砥。63～93は木製品。63～67は箸。68～72は経木折敷。68は線刻あり。まな板として転用か？73・74は曲げ物底板。75は草履芯。側面曲線を呈し、切りこみ部扇形。76～82は籠状。78は丁寧な整形。82は黒色系漆付着。83～93は用途不明。83は筆架か？87は断面円形を呈し、直径約 1 cm。丁寧な整形。84は端部を鋭角に削りだして整形。89は断面三角形を呈する。91は端部を斜めに切断している。92は調度具部材か？木釘痕。93は端部に圧痕。

図示できなかつた遺物は破片で、かわらけ(大) 531・かわらけ(小) 313・白かわらけ 3・白磁口兀皿 1・

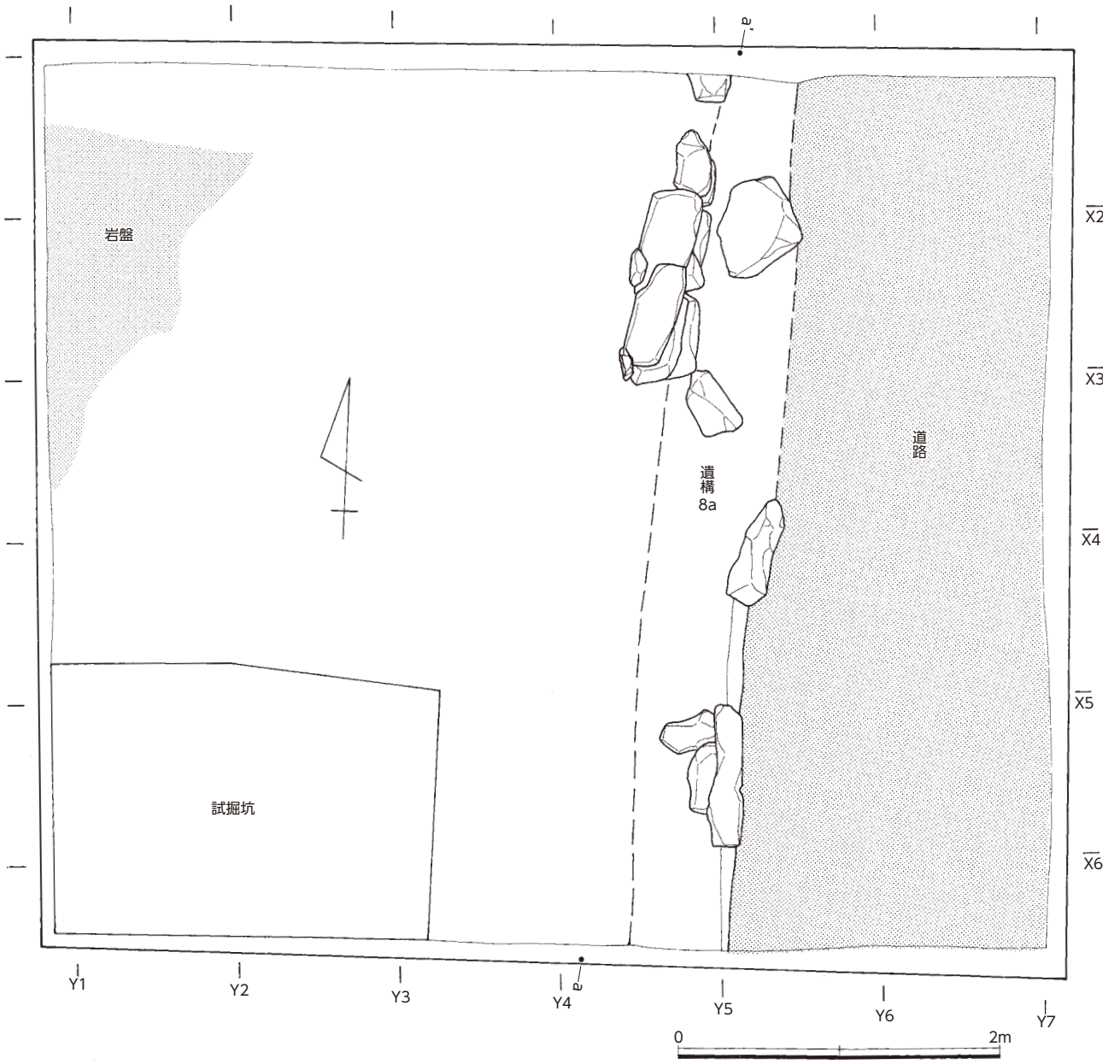


图 29 第 2 面全测图

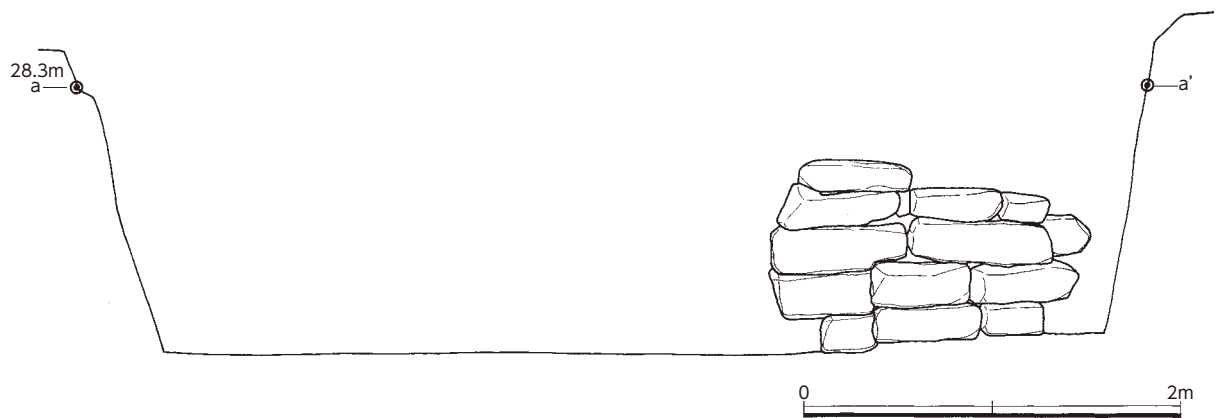


图 30 遺構 8 a 正面图

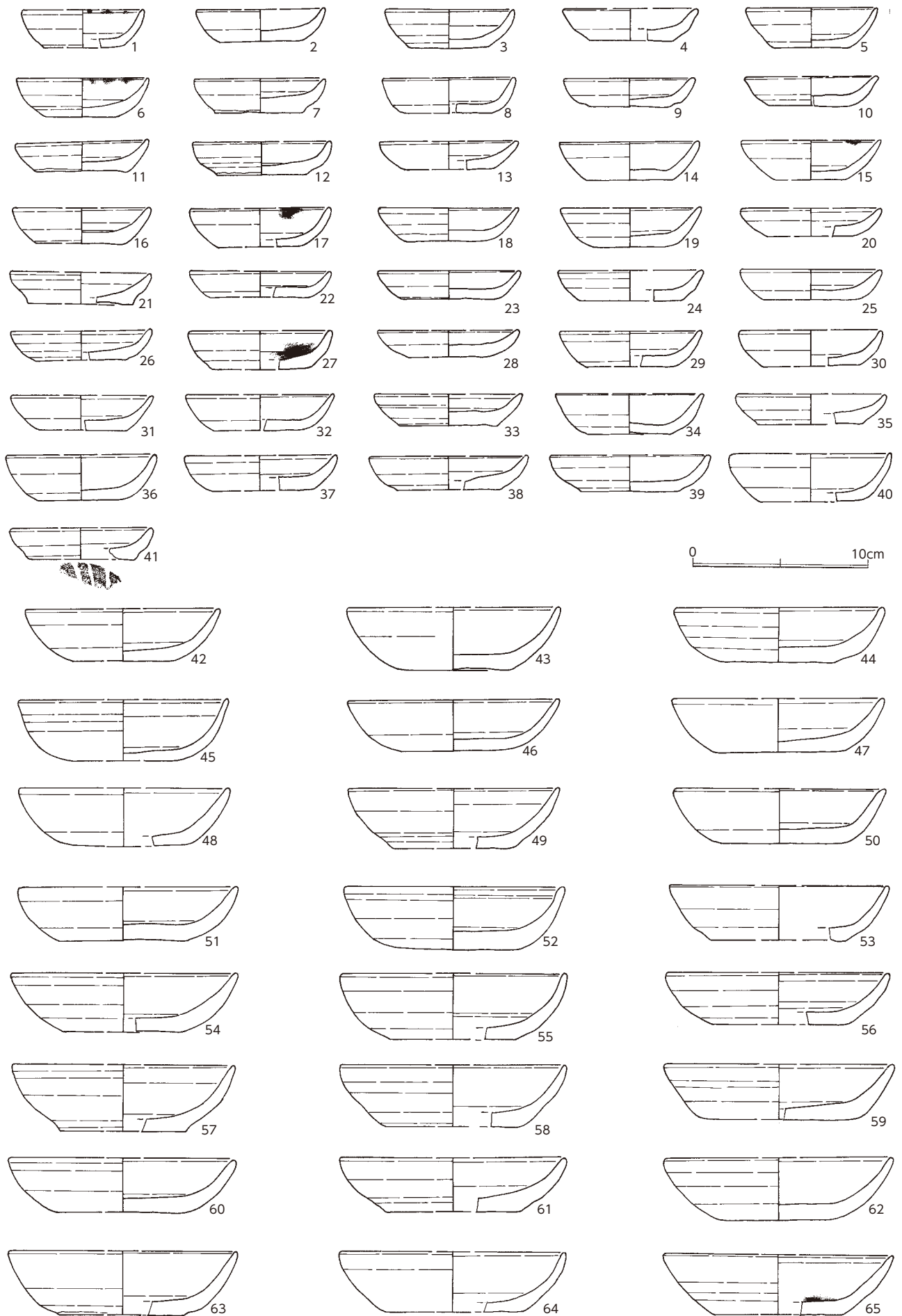


图31 遺構8 a・8 b一括出土遺物(1)

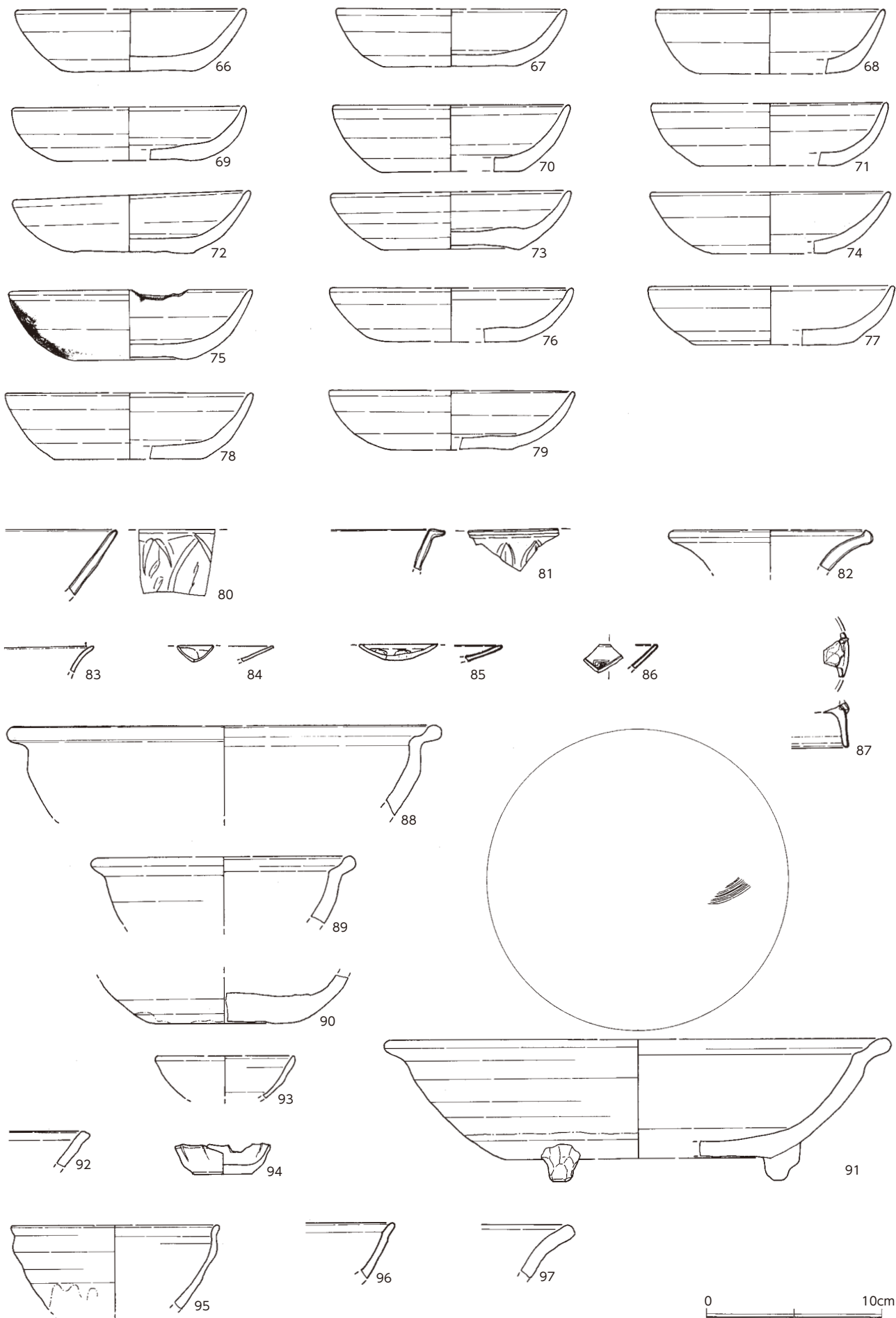


图32 遺構8 a · 8 b一括出土遺物(2)

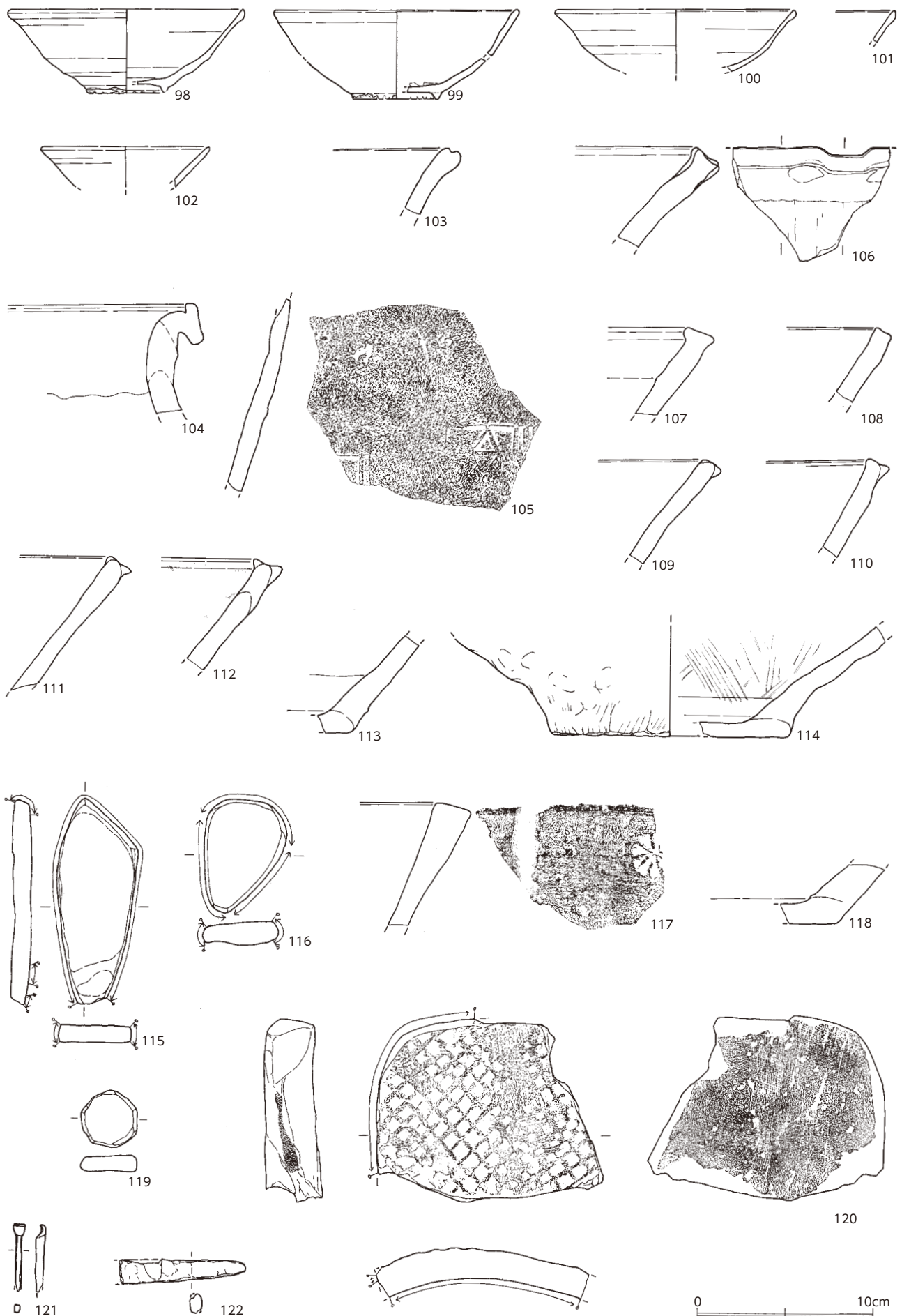
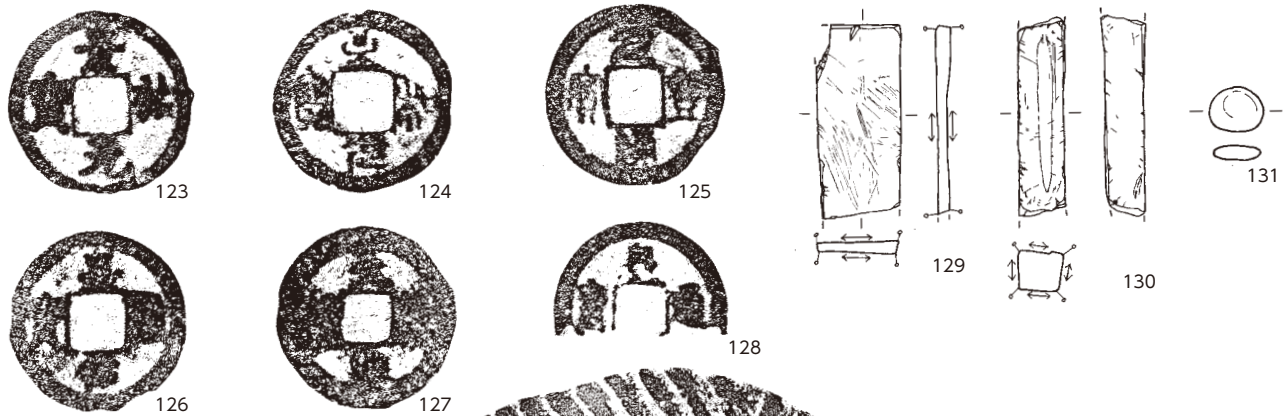
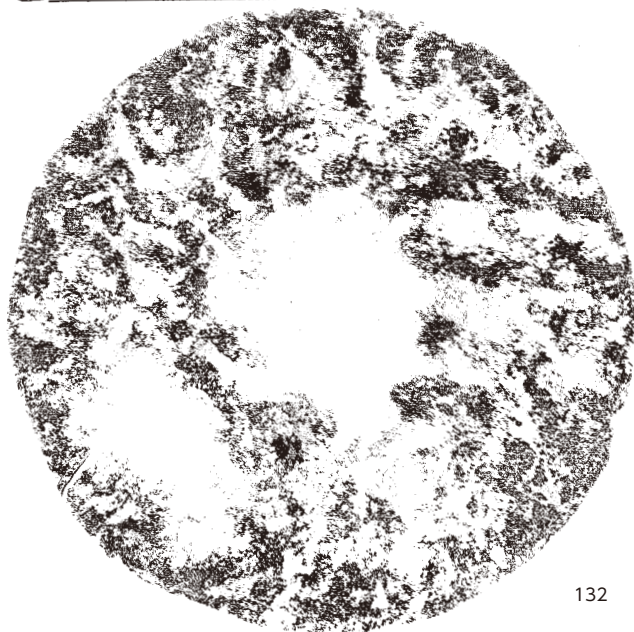
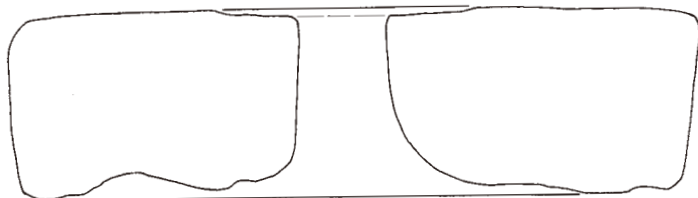
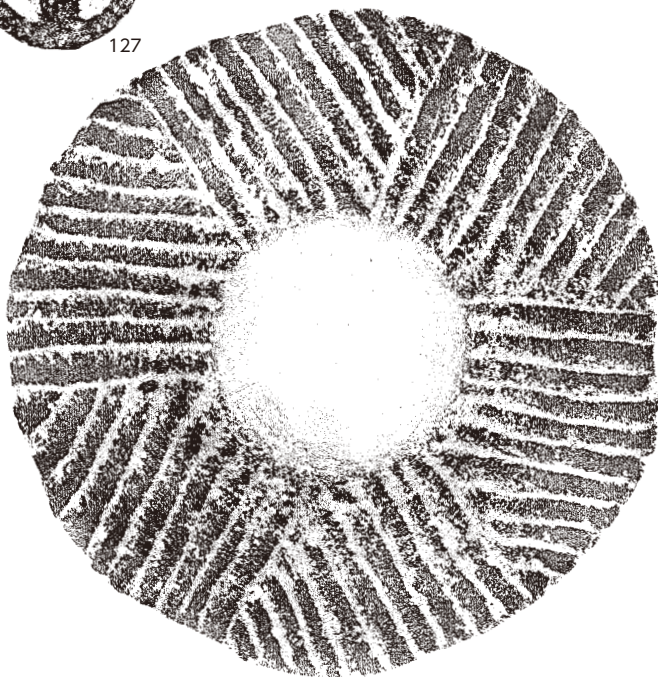


图33 遺構8 a・8 b一括出土遺物(3)





(錢・原寸大)



0 10cm

図34 遺構8 a・8 b一括出土遺物(4)

青磁蓮弁文碗1・青磁鉢1・常滑甕胴部8・常滑甕底部1。

#### 4. 第2面の遺構と遺物 (図29～36)

第2面で発見した遺構は溝1条。第2面と第1面の遺構はほぼ同一レベルで発見・検出したが、遺構の切りあい・土層堆積の観察から2期に分けて掲載した。

発見した溝(遺構8a)の東で細かく砕いた破碎泥岩の堅く締まった地業を検出した。道路であったと考えている。第2面・第1面は現地表下、約50cm下方にて確認した。地表レベル海拔27,90mを測る。

#### 遺構8a(図30)

溝である。この溝は第3面で発見した遺構8b検出時に確認し、溝幅約70cm・深さ約120cm。溝の形状は南北の土層堆積によって確認したために、正確な形状・規模などは不明である。遺構8bの西側石積み前方に新たに砂質凝灰岩切り石5段を積んで造り替えていた様子を確認した。(図19・30)東側石積みや、そのほかの切り石は遺存状態が悪く、溝底部など正位置とはややずれた位置で発見している。東側石積みに関しては第3面で発見した遺構8bの東側石積みを継承していた可能性もある。

#### ・遺構8a・遺構8b一括出土遺物(図31～図34)

前述したように、遺構8aを検出途中で遺構8bと2期に分かれることを確認し、2時期の遺物が混在してしまったため、遺構8a単独の遺構遺物として採集できなかった。

1～79はかわらけ。1・4・6・15・17は内外口唇部に油煤痕。27は内側面・外側面に油煤痕。41は成形時に掘られたと思われる刻みが底部に入る。65は内底面に薄く油煤痕。73は見込み周囲に強くナデ。74は内面と見込み下部に油煤痕。75は外側面に薄く油煤痕。口唇部1ヶ所を打ち搔いている。80は青磁・鎚蓮弁文碗。81は青磁・折縁皿・外面蓮弁文。82は青磁・瓶。83は白磁・口元皿。84～86は青白磁・小皿。84は内面に蓮弁の印花文。85は内面に菊花の印花文。86は雷文の印文。87は青白磁・梅瓶の蓋。88～91は瀬戸・折れ縁深皿。91は内底面に5条の櫛搔文・脚部貼り付け。92は瀬戸・卸皿。93・94は瀬戸・入子。94は輪花型。95・96は瀬戸・天目茶碗。96は鉄釉。97は瀬戸窯。器形不明・鉢か? 98～101は東濃系山茶碗。102は山皿。103は常滑捏ね鉢Ⅰ類。104・105は常滑甕。106～114は常滑捏ね鉢Ⅱ類。115・116は摩耗陶片・常滑甕の転用品。117・118は瓦質・火鉢。117は輪花型。119は円盤状製品・かわらけ転用品。120は瓦。断面部と凹部摩耗。硯として転用していたか? 121は鉄製品・釘。122は鉄製品・工具? 123～128は銭。123は景祐元寶。124は至和元寶。125は元豊通寶。126は嘉祐通寶。126は元豊通寶。127は皇宋通寶。129・130は石製品・砥石。129は仕上砥。130は中砥。131は石。基石か? 132は石製品・白・下白・6分画

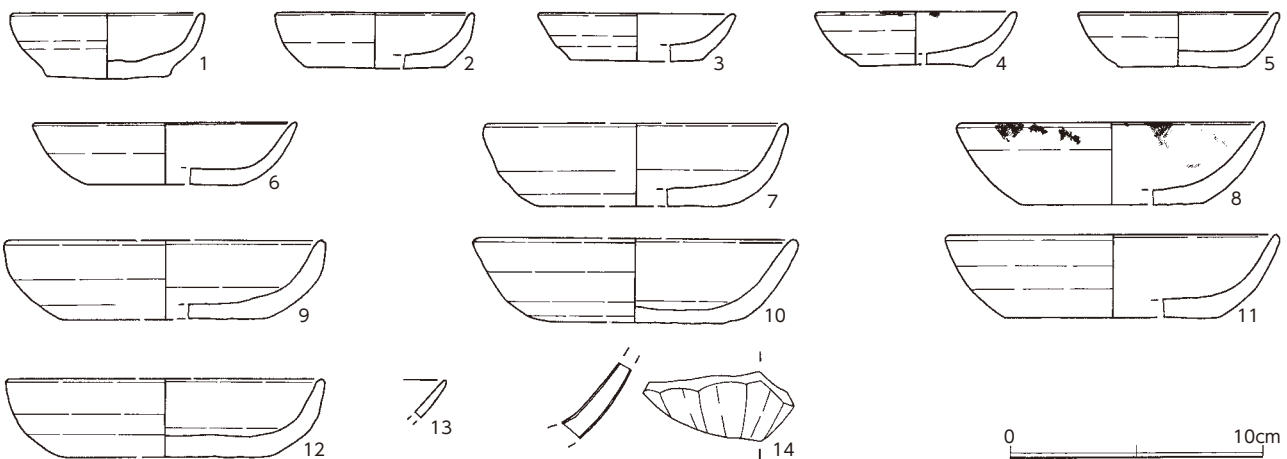


図35 遺構8a裏込め出土遺物

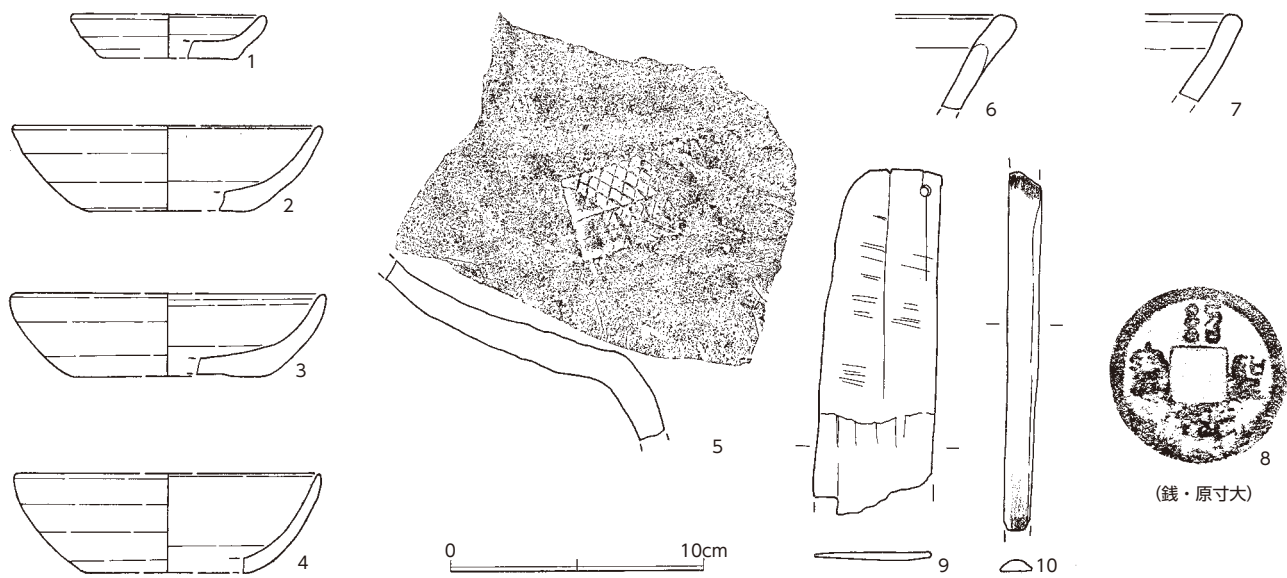


図36 第2面構成土出土遺物

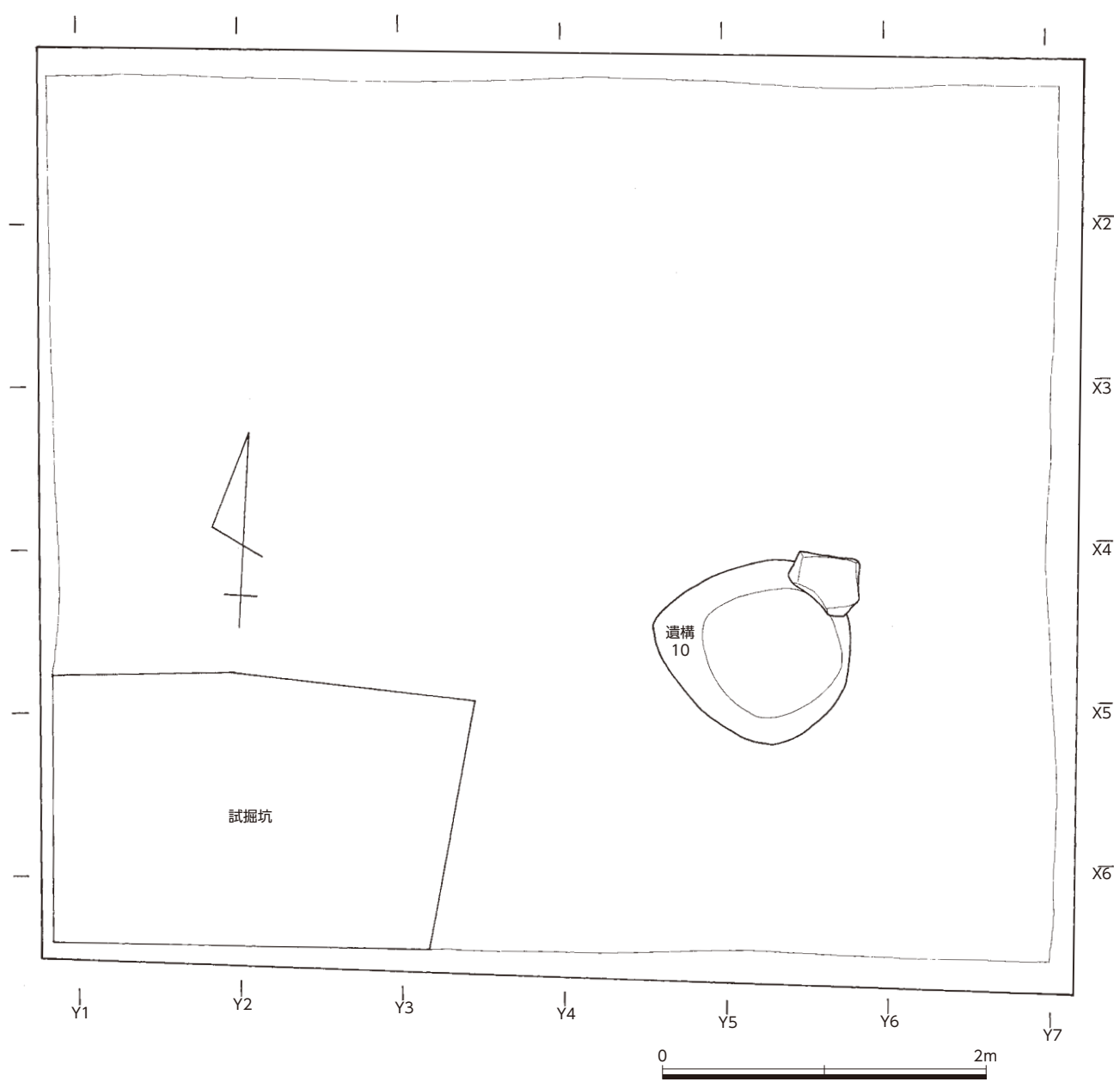


図37 第1面全測図

10溝・溝底面から出土。

図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 1 7 6・かわらけ(小) 2 8・青磁蓮弁文碗 1・白磁口兀皿 1・常滑甕口縁部 2・常滑甕胴部 2 6・常滑捏ね鉢Ⅰ類 1・常滑捏ね鉢Ⅱ類 1・瀬戸卸皿 1・瀬戸折縁深皿 2・瀬戸壺 2・瓦質火鉢 1・鉄滓 9・獣骨

#### ・遺構 8 a 裏込め出土遺物(図 3 5)

1～1 2はかわらけ。1 3は白かわらけ。1 4は青磁・鎬蓮弁文碗・竜泉窯。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 2 5 0・かわらけ(小) 2 2・常滑甕胴部 4・常滑捏ね鉢Ⅰ類 1・瀬戸器種不明。

#### 第 2 面構成土出土遺物(図 3 6)

第 2 面の構成土は泥岩・破碎泥岩が多く混じる土で、遺物の出土はわずかであった。

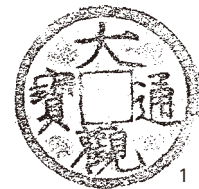
1～4はかわらけ。5は常滑甕。6・7は常滑捏ね鉢Ⅰ類。8は銭・紹聖元寶。9は木製品・草履芯・先端部、側縁直線的・藁状の圧痕。1 0は木製品・用途不明・断面半円形に整形。両端に焼痕。1 1は銭・大観通寶。

#### 5. 第 1 面の遺構と遺物 (図 3 7)

第 1 面で発見した遺構は土坑 1 基。第 2 面で発見した遺構 8 a (溝) を埋めて、炭化物・泥岩・破碎泥岩を多く含んだ暗茶褐色弱粘質土によって平坦に地業している。調査区の北西隅では、一部調査地西側の山裾につながる岩盤の露出を確認したが、近・現代の造成時に地業が壊され露出したと思われ、第 1 面の期には現地表と同じくらいのレベルで整地されていたと考えている。海拔は約 2 8 m。

重機による掘削時に、本調査で第 1 面とした層位から上約 3 0 cm が中世遺物包含層であることを確認したが、地業層ではなかったために平面的な調査を実施しなかった。

遺物包含層からの採集遺物は<表土から第 1 面>として採集・実測を行っている。(図 4 1)



(銭・原寸大)

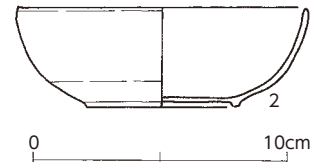


図 38 第 1 面面上出土遺物

#### 遺構 1 0 (図 3 7・3 8)

ほぼ円形を呈する土坑。長軸 1 2 0 cm・単軸 1 1 0 cm・深さ 4 4 cm を測る。遺構覆土は泥岩・破碎泥岩とともに砂質土を多く含む茶褐色弱粘質土。土坑内に砂質凝灰岩の切り石が多く投げ込まれていた。小片のため実測はできなかったがかわらけ片を 2 点採集している。

#### ・第 1 面面上出土遺物(図 3 8)

1 は銭・大観通寶。2 は漆製品・椀。内外面ともに黒色系漆を髹漆・無文・輪高台・外底面にも黒色漆髹漆。

#### ・第 1 面構成土出土遺物(図 3 9)

1～1 5はかわらけ。9は内面口唇部に油煤痕。1 6・1 7は青磁・鎬蓮弁文碗。1 8は常滑・甕。1 9は常滑・捏ね鉢Ⅱ類。2 0は鉄製品・釘。2 1は銭・転用品。銭周囲を磨っている。用途不明。2 2は滑石鍋・転用品。温石か? 図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大) 1 7 7・かわらけ(小) 2 9・青磁酒会壺 1・青磁器種不明 1・常滑甕胴部 1 3・常滑捏ね鉢Ⅰ類 1・常滑捏ね鉢Ⅱ類 3・山茶碗

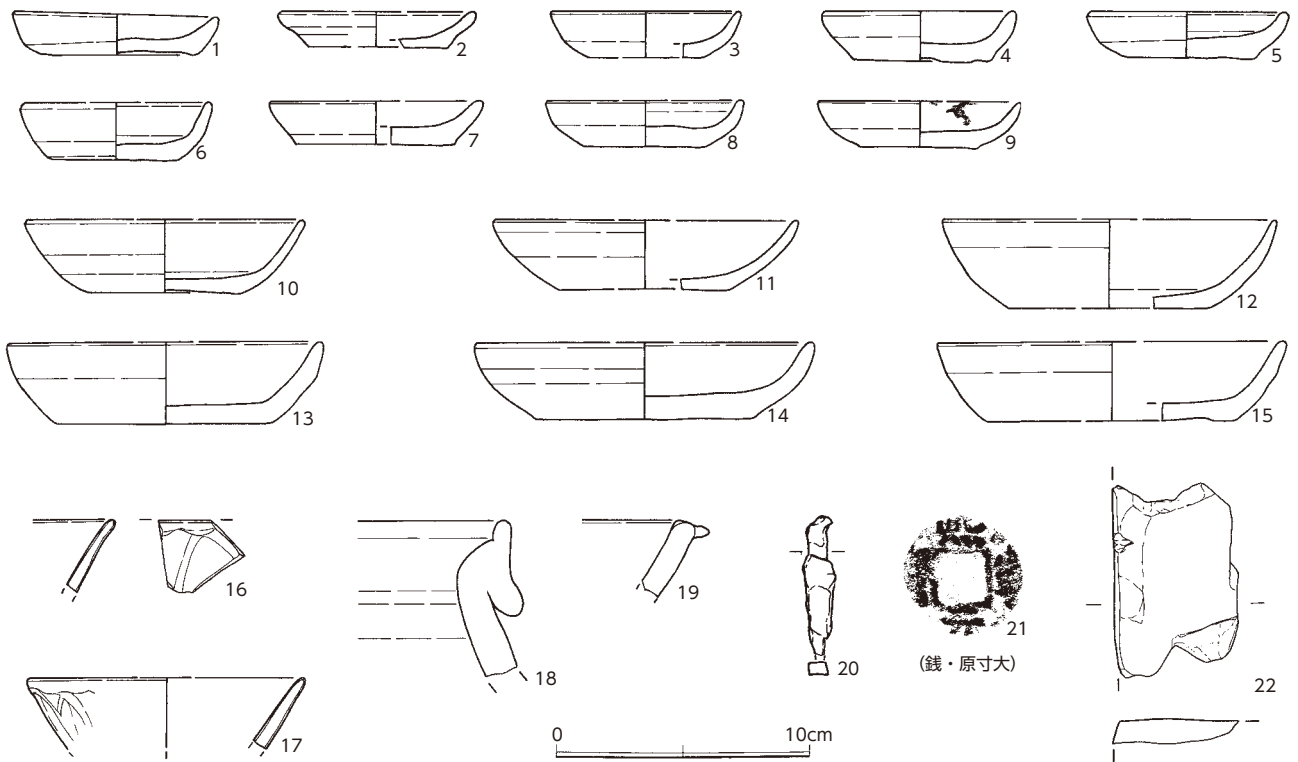


図39 第1面構成土出土遺物

1・瀬戸壺 5・瓦質火鉢 1。

## Ⅱ区・第1面 (図40)

Ⅱ区調査は、Ⅰ区調査終了後に設計変更が行われ、Ⅰ区2面・3面で発見・確認した南北の方向の溝(遺構8 a・遺構8 b)の石積みが、南に向かって伸びているかを確認するにとどまった。溝石積みは、調査区の南側で、水道の配管やゴミ穴などによって壊されていたが、調査区内を南北に長さ425cm・幅57cmを測った。深さは掘り下げて確認していないため不明。溝東側は茶褐色弱粘質土・破碎泥岩を含む堅く締まった地業である。溝西側は茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・破碎泥岩を含んだ堅く締まった地業であった。遺構確認面までを重機に寄って掘り下げたために、細かく遺物の採集を行うことができなかった。確認面までの遺物は後述する<表土～第1面出土遺物・図40・図41>にまとめて報告した。

### ・表土～第1面出土遺物(図41・図42)

1～50はかわらけ。5・6・8・12・14・33は見込み周囲を強くナデ。9・11は内外面、一部に油煤痕。36は精良な胎土。51は青磁・蓮弁文碗・竜泉窯。52は白磁・口兀皿。53は瀬戸・折縁深皿。底部釉なし。内外面釉・刷毛塗りの上に漬けがけ。内面見込み周囲に4条の沈線・中央に単位不明の沈線。54は瀬戸・卸皿。薄く刷毛塗りの痕跡残る。55は瀬戸・底目卸皿。釉は漬けがけ。56は瀬戸・折縁小皿。57・58は常滑・甕。59は備前・鉢。60は常滑・捏ね鉢Ⅱ類。61・62は瓦質・火鉢。63は鉄製品・釘。64は鉄製品・不明製品。65・66は銭。65は紹聖元寶。66は大寶元寶。67～69は石製品・砥石。67は仕上砥・鳴滝産。68は中砥・上野産か? 69は中砥・伊予産。70は石製品・火打石。71～80は木製品。71・72は経木折敷。73～75は箸。76・77は籠。78は端材。79・80は用途不明。図示できなかった遺物は破片で、かわらけ(大)447・かわらけ(小)45・青磁蓮弁文碗1・青磁器種不明1・常滑甕胴部片13・常滑捏ね鉢Ⅰ類1・常滑捏ね鉢Ⅱ類4・

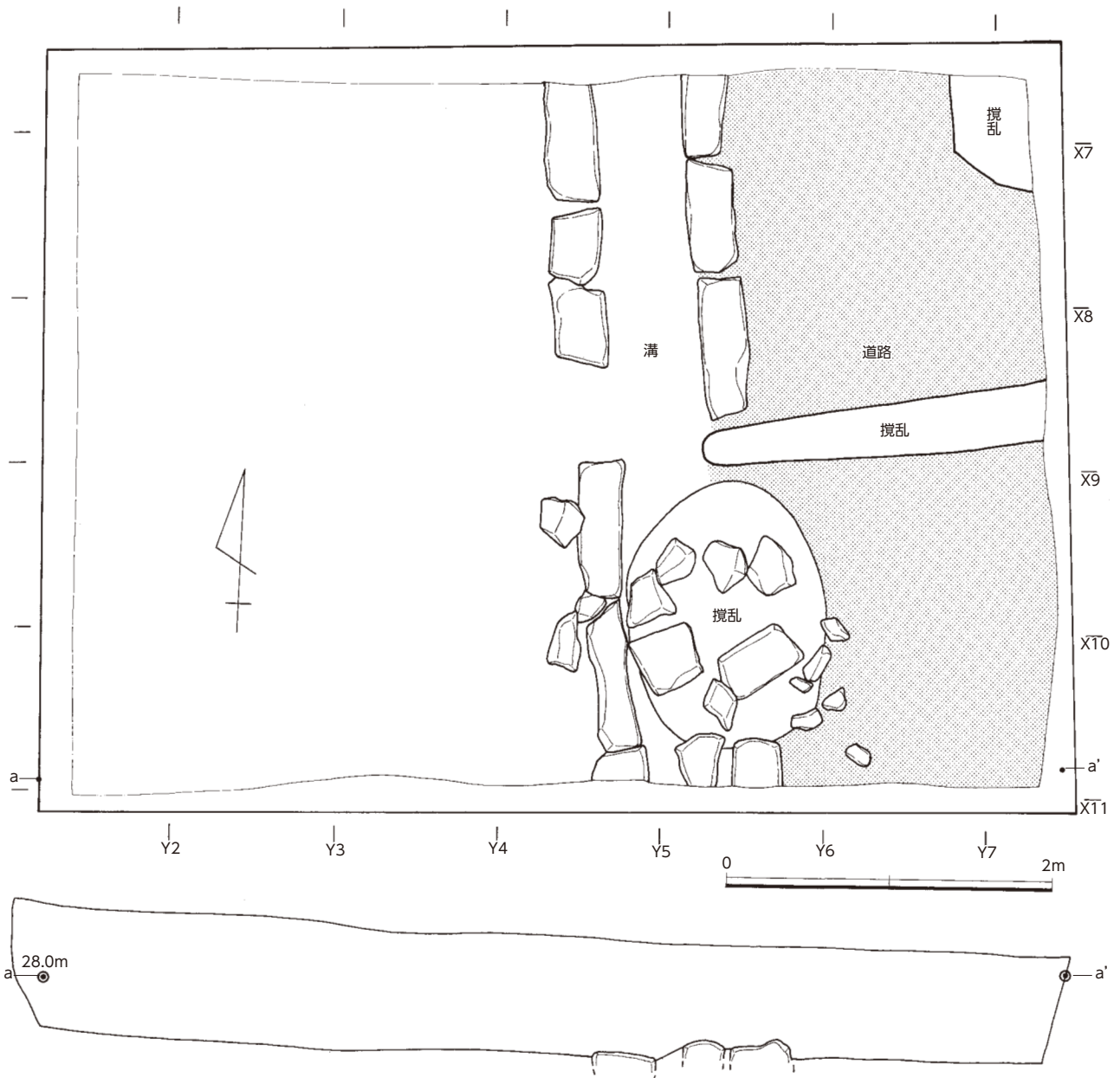


图40 II区・第1面全測図

瀬戸入子1・瀬戸卸皿1・瀬戸壺3・瀬戸器種不明2・瓦質火鉢1・硯1・鉄製品釘1。

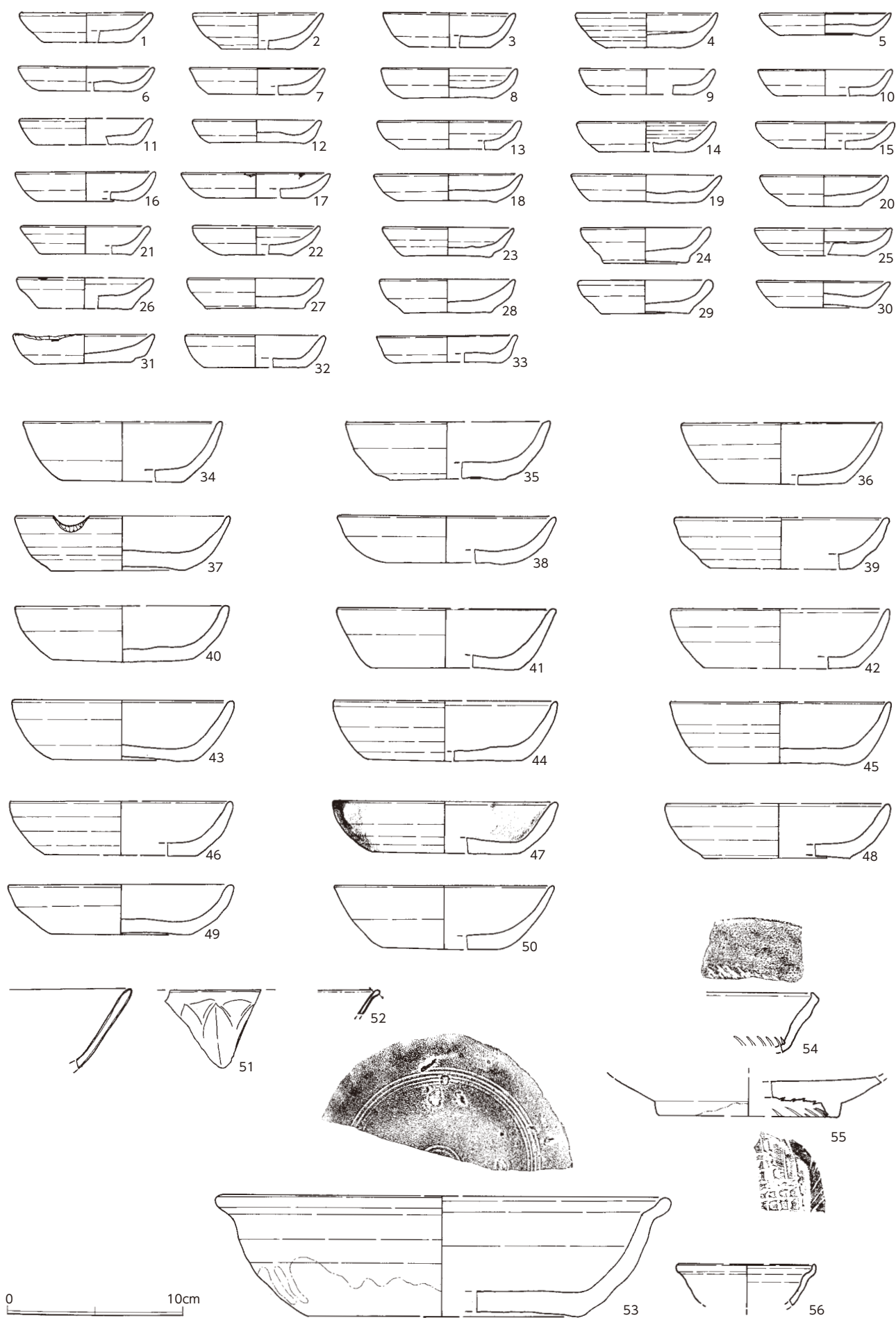


图41 表土~第1面出土遺物(1)

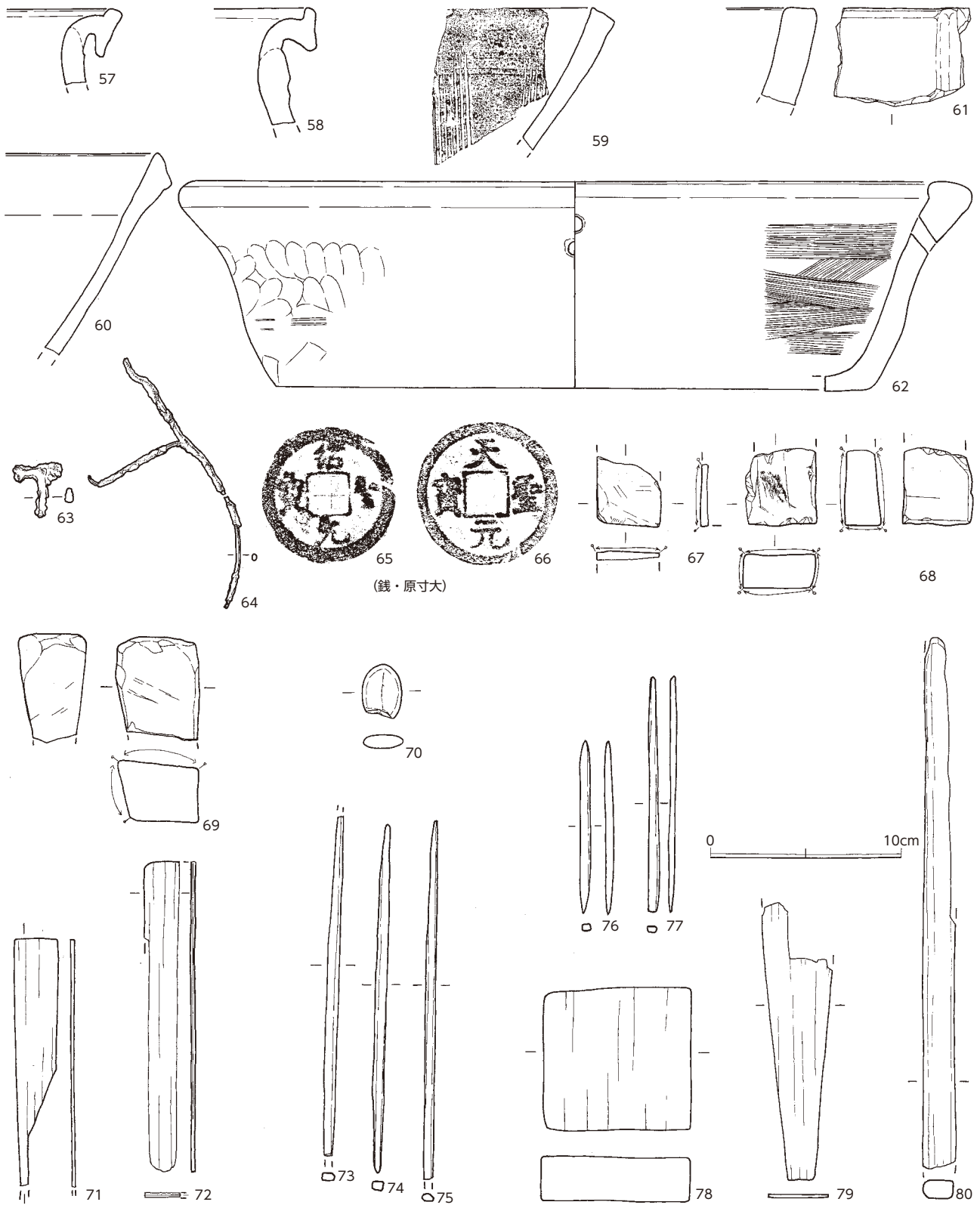


图42 表土~第1面出土遺物(2)



## 第三章 まとめ

本調査では石積みの溝と、それに伴う道路・ピット・土坑・遺物を発見した。各時期の地業は破碎泥岩を混入し堅固な層を重ねている。狭小な面積の調査であったため、発見した遺構は調査区内を南北に走る溝と溝に沿った道路で占められたが、調査区外に遺構が延びていたため規模はそれぞれに不明となった。

以下、発見した遺構・遺物について簡単なまとめを行いたい。

### 発見した遺構

I区・II区に分割した調査区内のほぼ中央に南北に走る石積みの溝と、その東に溝に沿った道路を発見した。溝・道路ともに、4時期に亘った造り替えを確認している。

最下層の第5面で発見した南北方向の溝の西側側壁は、調査地の西に立つ山裾の岩盤を削って溝壁を造成し、第4面では砂質凝灰岩の割石を用い野面積みで構築される。第3面、第2面の時期になると、同じく砂質凝灰岩を用いるが、成形した切り石を用いて整層積みとなる。東側側壁は、第5面から上層の第2面に至るまで、砂質凝灰岩の割石を用いて野面積みで構築される。西壁と、東壁の構築方法の違いは、溝の東に沿った道路から見る正面観に意識に違いがあったと考えている。この道路は、第5面では砂質凝灰岩の割石を平坦に敷き詰めて石敷きの道路であったが、第4面・第3面・第2面では、破碎泥岩を混入して版築した道路となっている。それぞれの面でピット・土坑を発見しているが、いずれも建物などの構造物を推定できるものではなかった。表土から50cm下で、破碎泥岩による平坦な地業を検出した第1面を確認した。第1面以下の堆積層で確認した南北に延びる溝を埋めて地業している。発見した遺構は土坑1基のみである。この地業層の上では中世の遺物包含層を確認している。

I区で発見した溝の南北方向の長さは約540cm。II区で発見した溝は、I区の第2面・第3面相当の溝に対応すると思われるが、南北方向の長さは約430cmであった。

### 出土した遺物

本調査で出土した遺物は、遺物整理箱数にして35箱。そのうち11箱は木製品と若干の漆製品であった。出土した遺物はろくろ成形のかわらけ・手づくね成形のかわらけ・舶載磁器（青磁・青白磁・白磁）・国産陶磁器（瀬戸・常滑・魚住・亀山・備前）・瓦（女瓦）・石製品（滑石鍋・滑石鍋転用品・砥石・チャート）・鉄製品（釘）・銭・木製品（食膳具・調度具・工具・服飾具・紡織具・容器・祭祀具・部材・雑具・用途不明品）・漆器（椀・皿・盆）などである。大半は4期に亘る溝覆土と道路地業からの出土であった。遺跡の性格を示すような特徴的な遺物の出土はなかったが、出土した遺物から見て第5面で発見した溝（遺構13）覆土出土の遺物は、概ね13世紀後半の特徴を示す。第4面で発見した溝（遺構11）覆土出土の遺物は13世紀後半から14世紀代か？第3面で発見した溝（遺構7）覆土出土の瓦質の火鉢は、内面から下に丁寧な磨きが入り、輪花の調整も丁寧であり、菊花文の押印は花卉が丸みを帯びるといふ古手の火鉢に連動する特徴を持つ。13世紀中頃の年代が与えられる。図示できなかった遺物の中には永福寺の第2期13世紀中頃の修理瓦と同じ種類の瓦が出土している。また、同面の溝（遺構8b）から出土した石臼は6分割の11節の形式を持ち、13世紀後半の年代が与えられ、瀬戸天目は14世紀代の製品である。遺構7からは火災などに由る片づけ時に付着したのか、鉄製品・釘が付着したかわらけが多く出土している。遺物の年代観が混在するが概ね14世紀代の年代が与えられる。第2面で発見した溝（遺構8a）裏込め出土遺物からは13世紀末から14世紀前半の遺物が出土し、第1面構成土出土遺物は14世紀代から15世紀代の遺物が混在する。

## 遺跡の変遷

調査地が位置する清涼寺谷は、扇ヶ谷の最奥とも言える場所に位置する。谷戸開口部には鎌倉中から武蔵へと向かい、仮粧坂の切り通しに繋がる中世鎌倉の幹線道路が走る。鎌倉では谷戸内、あるいは丘陵沿いに寺社が集まり、狭い谷戸地を利用するために丘陵を切り崩して造成していたことが調査成果からわかっている。本調査でも第5面の溝壁を作り出すために丘陵裾の岩盤をひな壇状に造成していたことを確認した。寺社地では切り出した石材を多く利用していることも調査によって明らかになっているが、石材を切り出すには人員の確保は当然ながら技術も必要とされ、寺社には相応の人材を集める力や切り出す権利を与えられていたと思われる。切りだされた石材は開発した土地の強固な土留めとなり、大型の石を積むことによって権威の誇示も果たしたのではないだろうかと思われる。本調査地で発見した溝の石積みもその意図があったのだろうか。

鎌倉の谷戸開発は13世紀中頃から進み、13世紀後葉に丘陵裾の造成が活発になっていく。それは叡尊・忍性といった、奈良の西大寺流律宗の僧が布教とともに連れてきた、石工などの職人集団の存在があったのではないかと言うことが、近年の研究成果によって言及されている。

調査地のある扇ヶ谷は、西大寺流律宗の足跡が濃く残る地である。谷戸開口部東の支谷、多宝寺谷にあったとされる多宝寺(廃寺)は開基北条業時・開山忍性の創建であったとされ、鎌倉極楽寺、称名寺(現横浜)と共に鎌倉布教の拠点寺院であったとされる。また同じく開口部東の泉谷に在る浄光明寺は、極楽寺で請雨の祈禱を行った際に僧侶を多く送り、浄光明寺の支院であった東林寺(廃寺)は律宗の寺であり、忍性が堂脇の地藏堂に地藏を安置したとされている。

遺跡名の由来となる「新清涼寺」については不明な点が多いが、文献資料からは叡尊・忍性といった西大寺流律宗の僧が関与した寺であったことが読み取れ、本調査地の石積みの溝も、それらが引き連れてきた職人集団の手によって作られたのではないかと想像できる。

今回の調査で、遺跡地辺は13世紀後半には谷戸の開発・利用が始まり、14世紀前半までは道路と、それに伴う石積みの溝が利用され、何らかの事情によって溝が埋められ、新たな土地利用が始まっていたことが分かった。

## 参考・引用文献

- 「鎌倉市史」 総説編 考古編 吉川弘文館 昭和34年初版
- 「鎌倉事典」 白井永二 東京堂出版 1984年
- 「鎌倉廃寺事典」 貫達人 川副竹胤 有隣堂 昭和55年
- 『日本歴史大系』 「神奈川県の地名」 平凡社 昭和62年
- 「釈迦追慕」 神奈川県立金沢文庫 平成2年
- 「日本の美術」 No.513 『清涼寺式釈迦如来像』 至文堂 奥健夫
- 「日本の美術」 No.403 『城の石垣と堀』 至文堂 田中哲雄
- 「日本石材史」 日本石材振興会 1956年
- 「物と人間の文化史15」 『石垣』 法政大学出版局 田淵実夫 1979年
- 「鎌倉」 No.50 『扇ヶ谷のやぐら群について』 宮田真 昭和60年
- 「鎌倉」 No.69 『中世鎌倉における谷戸開発のある側面』 馬淵和雄 平成4年
- 「叡尊・忍性と律令系集団」 大和古中近研究会 2000年
- 「鎌倉大仏の中世史」 馬淵和雄 1998年
- 「叡尊・忍性」 松尾剛次 2004年
- 「物と人間の文化史 25 白」 三輪茂雄 法政大学出版 1978年
- 「新編相模国風土記稿」 第六巻 (大日本地誌大系) 蘆田伊人校訂 雄山閣 1972年
- 「鎌倉の古絵図(2)」 鎌倉国宝館第16集 昭和44年3月25日
- 「杉本寺周辺遺跡」 馬淵和雄 杉本寺周辺遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会 2002年
- 「武蔵大路周辺遺跡発掘調査報告書(扇ヶ谷二丁目382番1地点)」 2000年6月 武蔵大路発掘調査団・大河内勉

「海蔵寺旧境内遺跡(扇ヶ谷四丁目632番2外)」 2000年3月 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1』  
「武蔵大路周辺遺跡(扇ヶ谷三丁目397番)」 2001年3月 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2』  
「武蔵大路周辺遺跡(扇ヶ谷二丁目298番イ)」 2002年3月 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1』  
「亀ヶ谷山王堂跡(扇ヶ谷四丁目832番5)」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2』

法量表

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
6	1	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.7	(附土) 微砂・貝状骨針・小石粒・雲母(焼成)良好(色調)褐色
6	2	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	7.1	4.7	1.5	(附土) 微砂・貝状骨針・小石粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	3	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(4.6)	1.45	(附土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
6	4	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	7.0	4.5	1.65	(附土) 微砂・貝状骨針・小石粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	5	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	7.2	4.6	1.8	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・雲母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
6	6	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	7.1	5.4	1.7	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	7	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(5.6)	1.25	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	8	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	7.6	5.4	1.65	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	9	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.45	(附土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	10	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.45	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
6	11	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.7)	(5.3)	1.7	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒・雲母(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	12	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.9)	(6.0)	1.3	(附土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
6	13	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	7.8	4.8	1.65	(附土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	14	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.7	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	15	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	4.8	1.8	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	16	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(4.6)	1.5	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・小石粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	17	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.4	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・小石粒(焼成)良好(色調)褐色
6	18	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.7	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・雲母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
6	19	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(8.2)	(4.7)	2.2	(附土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
6	20	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(6.4)	2.15	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色・整形雜
6	21	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	1.1.7	7.8	2.9	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	22	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.1.8)	(7.0)	2.8	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	23	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	1.2.0	7.9	3.2	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	24	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.0)	(7.6)	3.0	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・黒色粒(焼成)良好(色調)褐色
6	25	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.2)	(8.0)	3.05	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
6	26	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.2)	(7.3)	3.1	(附土) 微砂・貝状骨針・雲母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色・内外面口唇部に油灰痕
6	27	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.2)	8.2	3.1	(附土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内外面口唇部に油灰痕
6	28	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	1.2.4	8.0	3.4	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
6	29	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.4)	(7.8)	3.4	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	30	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.4)	(7.8)	3.15	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	31	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.6)	(8.5)	3.2	(附土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
6	32	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.8)	6.4	3.5	(附土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・雲母(焼成)良好(色調)褐色
6	33	遺構1.3上層出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.8)	(6.8)	3.6	(附土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
6	34	遺構1.3上層出土遺物(1)	青磁蓮蓬文瓦	(1.2.8)			(附土) 灰白色
6	35	遺構1.3上層出土遺物(1)	青磁蓮蓬文瓦				(附土) 灰白色・表面火熱を受けている
6	36	遺構1.3上層出土遺物(1)	白磁打皿				内外面口唇部に油灰痕
6	37	遺構1.3上層出土遺物(1)	常滑押花鉢2類	(3.0.6)	1.3.2	1.1.4	(附土) 白粉・小石粒・石英(色調)褐色
6	38	遺構1.3上層出土遺物(1)	常滑押花鉢2類				(附土) 砂粒・石英・小石粒を多く含む(色調)灰褐色
6	39	遺構1.3上層出土遺物(1)	鉄				天聖元寶・北宋・初鑄1017年・篆書
6	40	遺構1.3上層出土遺物(1)	漆製品・椀				祥符通寶・北宋・初鑄1009年・行書
6	41	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・曲物				手描き施文・内外面黒色系漆残痕・内面州浜之誓・情景文・外面州浜之誓・情景文。
6	42	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・曲物				直径約5.0cm・曲物底板か？
6	43	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・曲物	(1.7.8)	2.6	0.7	黒色系漆残痕・柄の剥離か？
6	44	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・曲物	(1.3.3)		0.5	
6	45	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・漆木折敷	1.7.5	(2.1)	0.1	
6	46	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	(1.3.3)	0.7	0.5	
6	47	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	1.6.9	0.7	0.5	
6	48	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	1.7.0	0.5	0.4	
6	49	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	(1.6.2)	0.6	0.5	
6	50	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸状製品	1.8.2	0.7	0.5	
6	51	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	2.0.2	0.7	0.5	
6	52	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	(1.9.9)	0.6	0.5	
6	53	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・板草履芯	1.7.6	0.6	0.5	
6	54	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	2.4.6	0.8	0.5	
6	55	遺構1.3上層出土遺物(1)	木製品・箸	2.3.0	0.7	0.4	
7	56	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・箸	2.3.1	0.7	0.3	
7	57	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・箸	2.2.6	0.7	0.5	
7	58	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・箸	2.2.1	0.7	0.4	
7	59	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・箸	2.2.2	0.7	0.5	
7	60	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・箸	2.0.8	0.6	0.4	
7	61	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・箸	2.0.2	0.5	0.4	
7	62	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・板草履芯	(1.9.0)	1.2.1	0.3	裏面
7	63	遺構1.3上層出土遺物(2)	木製品・板草履芯	(1.8.7)	5.5	0.2	裏面

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
7	64	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・板草履	(1.8, 2)	(5.4)	0.2	
7	65	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・板草履	(1.5, 2)	4.3	0.3	
7	66	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・篋?	(1.3, 1)	0.9	0.3	先端に條痕
7	67	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・串状製品	1.8, 7	1.3	1.0	
7	68	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・篋	2.5, 3	1.0	0.7	添付着
7	69	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・篋	2.3, 6	1.1	0.7	
7	70	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・用途不明	2.0, 1	0.8	0.5	糸串状製品
7	71	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(2.2, 2)	1.8	0.8	竊本打刺刺用
7	72	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.0, 9)	(2.6)	0.1	
7	73	遺構 1.3上層出土遺物(2)	木製品・織機	1.6, 5	1.7	1.0	
7	74	第4面構成出土遺物(2)	木製品・用途不明	(8, 0)	(2.5)	(0.8)	
8	1	遺構 1.3下層出土遺物(1)	内付材わらひ	(4, 6)	(4, 0)	0.9	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	2	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(6, 6)	(5, 6)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	3	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(6, 8)	(5, 6)	1.2	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	4	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(6, 9)	(4, 1)	1.6	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	5	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(6, 8)	(4, 5)	1.6	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	6	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 2)	(5, 0)	1.4	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	7	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 4)	(4, 6)	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	8	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 4)	(4, 8)	1.5, 5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	9	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	7, 4	5, 0	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	10	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 4)	(5, 2)	1.6	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	11	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	7, 5	4, 4	1.8	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	12	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 2)	(4, 4)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	13	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 6)	(5, 0)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	14	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(7, 7)	(5, 1)	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	15	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	7, 6	5, 4	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	16	遺構 1.3下層出土遺物(1)	てづね	(8, 0)	(5, 6)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	17	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(8, 0)	(6, 1)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	18	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 0, 6)	(5, 9)	3.0	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	19	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 1, 4)	8, 0	2.9	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	20	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	1, 2, 2	8, 0	2, 9, 5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	21	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 1, 8)	(8, 0)	3, 4	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	22	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 2, 4)	(7, 7)	2, 9	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	23	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 1, 6)	(7, 8)	3, 2	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	24	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 2, 4)	(8, 5)	3, 1	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	25	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 1, 8)	(7, 2)	3, 4, 5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	26	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 2, 5)	8, 8	3, 4, 5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	27	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	(1, 2, 6)	(8, 0)	2, 8	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	28	遺構 1.3下層出土遺物(1)	わらひ	1, 2, 8	7, 4	3, 6	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
8	29	遺構 1.3下層出土遺物(1)	白磁・口内脚				印花文・景徳鎮窯・(秦地)精良堅緻
8	30	遺構 1.3下層出土遺物(1)	白磁・口内脚	(4, 2)	(4, 0)		印花文・景徳鎮窯・(秦地)精良堅緻
8	31	遺構 1.3下層出土遺物(1)	石製品・砥石	(4, 3)	3, 8	0, 7	住上砥・噴流産
8	32	遺構 1.3下層出土遺物(1)	滑石製品	(4, 3)	(4, 1)	1, 4	転用品・未製品
8	33	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・板折敷	2, 0, 6		0, 2	
8	34	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・竊木折敷	1, 9, 4		0, 1	端部に穿孔あり
8	35	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・竊木折敷	1, 6, 2		0, 1	片面一部に墨痕?
8	36	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 7, 2)	0, 5	0, 5	
8	37	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 6, 9)	0, 6	0, 3	
8	38	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 7, 3)	0, 7	0, 3	
8	39	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・篋状	(1, 7, 4)	0, 8	0, 3	
8	40	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 6, 6)	0, 6	0, 3	
8	41	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	1, 6, 8	0, 5	0, 5	
8	42	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 5, 5)	0, 6	0, 5	
8	43	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 9, 4)	0, 5	0, 6	
8	44	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 7, 5)	0, 6	0, 5	
8	45	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 8, 0)	0, 7	0, 4	
8	46	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(1, 8, 0)	0, 4	0, 5	
8	47	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2, 3, 2	0, 6	0, 3	
8	48	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2, 2, 7	0, 6	0, 4	
8	49	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2, 2, 6	0, 5	0, 5	
8	50	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2, 1, 6	0, 7	0, 3	
8	51	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2, 1, 9	0, 5	0, 4	
8	52	遺構 1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2, 2, 3	0, 5	0, 4	

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
8	53	遺構1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2.2.4	0.6	0.5	
8	54	遺構1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	(2.2.0)	0.5	0.4	
8	55	遺構1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2.3.0	0.6	0.4	
8	56	遺構1.3下層出土遺物(1)	木製品・箸	2.0.0	0.6	0.3	
9	57	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.3.2	0.7	0.5	
9	58	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.3.2	0.6	0.4	
9	59	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.2.9	0.6	0.4	
9	60	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.1.4	0.7	0.3	
9	61	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.1.4	0.6	0.3	
9	62	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.1.5	0.8	0.3	
9	63	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	(2.1.6)	0.6	0.5	
9	64	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	(2.1.6)	0.7	0.6	
9	65	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.0.7	0.6	0.6	
9	66	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.1.7	0.6	0.4	
9	67	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.1.1	0.6	0.4	
9	68	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.0.4	0.4	0.4	
9	69	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	2.0.1	0.3	0.5	
9	70	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・箸	1.9.5	0.7	0.4	
9	71	遺構1.3下層	木製品・箸	2.4.2	0.7	0.4	
9	72	遺構1.3下層	木製品・箸	2.3.9	0.8	0.5	
9	73	遺構1.3下層	木製品・箸	2.3.9	0.6	0.5	
9	74	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・草履芯		1.0.0(8.8)	0.3	
9	75	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・草履芯	2.9.1	1.1.1(8.7)	0.4	
9	76	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.2.3)	0.6	0.5	
9	77	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(9.6)	0.8	0.7	
9	78	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(8.5)	0.7	0.6	
9	79	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.5.9)	0.9	0.5	
9	80	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.4.7)	0.9	0.5	
9	81	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.2.6)	0.7	0.4	
9	82	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.0.3)	0.7	0.4	
9	83	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.7.9)	0.7	0.6	
9	84	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.8.2)	0.6	0.5	
9	85	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.8.2)	0.7	0.5	
9	86	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.7.7)	0.7	0.7	
9	87	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.3.5)	0.7	0.5	
9	88	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.5.7)	0.8	0.8	
9	89	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.3.6)	(1.0)	1.0	
9	90	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	1.8.4	0.6	0.5	
9	91	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.5.7)	0.9	0.9	
9	92	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.3.9)	1.0	0.6	
9	93	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(2.0.2)	1.1	0.9	
9	94	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・用途不明	(2.6.3)	(1.1)	(0.7)	
9	95	遺構1.3下層出土遺物(2)	木製品・建材		5.4	0.7	一部破損
10	1	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	7.6	5.0	1.7	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
10	2	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	(7.6)	(5.0)	1.6	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
10	3	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	(1.2.8)	7.2	3.4	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
10	4	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	(1.3.0)	(8.2)	3.3	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
10	5	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	(1.3.2)			(附土) 糞砂・糞母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
10	6	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	(1.3.4)			(附土) 糞砂・糞母(焼成)良好(色調)黄褐色
10	7	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	(1.2.6)	(7.8)	2.7	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内底部に油痕痕付着
10	8	遺構1.3裏込め出土遺物	かわ5付	1.8.5	0.8	0.6	調理具部材か?
10	9	遺構1.3裏込め出土遺物	木製品・用途不明	(1.5.4)	(0.6)	(0.6)	
10	10	遺構1.3裏込め出土遺物	木製品・用途不明	(1.9.4)	(0.5)	(0.5)	
10	11	遺構1.3裏込め出土遺物	木製品・用途不明	(1.4.0)	(1.0)	(0.5)	
10	12	遺構1.3裏込め出土遺物	木製品・用途不明	(1.2.2)	0.6	0.5	
10	13	遺構1.3裏込め出土遺物	木製品・箸	(1.3.7)	0.8	0.5	
10	14	遺構1.3裏込め出土遺物	木製品・経木折敷	1.4.3	(2.8)	0.1	
11	1	第5面構成出土遺物(1)	かわ5付	7.4	5.2	1.5	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	2	第5面構成出土遺物(1)	かわ5付	(7.6)	(5.2)	1.4	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	3	第5面構成出土遺物(1)	かわ5付	(7.0)	(4.8)	1.4	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	4	第5面構成出土遺物(1)	かわ5付	(7.2)	(5.8)	1.5	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
11	5	第5面構成出土遺物(1)	かわ5付	(7.4)	(4.8)	1.5	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	6	第5面構成出土遺物(1)	かわ5付	(7.2)	(5.6)	1.6	(附土) 糞砂・糞母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
11	7	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	7.6	5.5	1.7	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	8	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(5.3)	1.8	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	9	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	8.2	5.9	1.7	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色・内外面二階部に油縁付着
11	10	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.8	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	11	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.6)	(10.2)	2.9	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	12	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.2)	(8.6)	2.9	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	13	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(11.6)	(8.4)	3.3	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色・内面底込みに薄く漆付着
11	14	第5面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(13.6)	(8.6)	4.1	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
11	15	第5面構成土出土遺物(1)	漆製品・曲げ物底板	(25.0)	(21.8)	0.8	外底面部分内面に黒色漆塗・内面黒く焼成
11	16	第5面構成土出土遺物(1)	漆製品・曲げ物底板	(23.0)	(6.4)	0.5	
11	17	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・板折敷	16.0		0.3	
11	18	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・板折敷	(12.7)	(0.5)	0.1	
11	19	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	(14.4)	(0.7)	(0.3)	
11	20	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	(15.8)	(0.6)	(0.4)	
11	21	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	(16.6)	(0.8)	(0.4)	
11	22	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	(20.4)	(0.7)	(0.5)	
11	23	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	(24.2)	(0.6)	(0.5)	
11	24	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	13.3	0.8	0.5	
11	25	第5面構成土出土遺物(1)	木製品・箸	21.6		0.5	
12	26	第5面構成土出土遺物(2)	木製品・草履芯	24.8	8.3	3.0	
12	27	第5面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	18.1	0.8	0.6	
12	28	第5面構成土出土遺物(2)	木製品・匣状製品	(13.8)	0.9	0.6	
12	29	第5面構成土出土遺物(2)	木製品・匣状製品	12.3	1.1	1.1	
12	30	第5面構成土出土遺物(2)	木製品・部材	(17.0)	0.7	0.4	
12	31	第5面構成土出土遺物(2)	木製品・部材	(14.9)	1.2	1.0	
15	1	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.8	(附土) 霰砂・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
15	2	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.4)	(5.5)	1.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄灰色
15	3	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.6)	(5.5)	1.6	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	4	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.5	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
15	5	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.6)	(4.6)	1.5	(附土) 霰砂・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
15	6	遺構11出土遺物	かわらけ	8.0	5.0	1.7	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
15	7	遺構11出土遺物	かわらけ	8.0	5.2	1.8	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	8	遺構11出土遺物	かわらけ	(8.4)	(5.4)	1.8	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)不良(色調)黄灰色
15	9	遺構11出土遺物	かわらけ	7.8	4.8	1.8	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	10	遺構11出土遺物	かわらけ	(6.8)	(4.2)	1.9	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	11	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	12	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.8)	(4.8)	2.1	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	13	遺構11出土遺物	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.1	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色・外面口唇部・内側面に油縁
15	14	遺構11出土遺物	かわらけ	5.3		1.6	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
15	15	遺構11出土遺物	かわらけ	(10.8)	(6.6)	3.0	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	16	遺構11出土遺物	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.0	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	17	遺構11出土遺物	かわらけ	(12.0)	(7.6)	3.1	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
15	18	遺構11出土遺物	かわらけ	(12.2)	(7.6)	3.4	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
15	19	遺構11出土遺物	かわらけ	13.0	8.2	3.1	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	20	遺構11出土遺物	かわらけ	13.2	(7.4)	3.3	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
15	21	遺構11出土遺物	かわらけ	(13.9)	(7.4)	3.3	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
15	22	遺構11出土遺物	かわらけ		6.2		(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
15	23	遺構11出土遺物	青白磁・梅瓶				(素地)灰白色・精良喫線(軸裏)淡灰青色
15	24	遺構11出土遺物	瀬戸窯・入子				(附土) 砂粒(焼成)良好(色調)黄灰色・口縁形輪花型
15	25	遺構11出土遺物	常陸窯・埴輪鉢口類				(附土) 砂粒・小石粒・白色粒(色調)暗赤褐色・内面磨耗痕・外底砂付着
15	26	遺構11出土遺物	魚住窯・埴輪鉢				(附土) 砂粒・白色粒・軟質(色調)灰色
15	27	遺構11出土遺物	滑石瀧				底面のみ
15	28	遺構11出土遺物	滑石瀧・瓶用品	(6.2)	(4.0)	(1.8)	用途不明・加工痕
16	1	第4面構成土出土遺物(1)	白かわらけ(手づくね)	(12.2)	(8.5)	2.6	(附土) 霰砂(焼成)良好(色調)灰白色・底面磨耗痕・オのこ痕
16	2	第4面構成土出土遺物(1)	手づくね	(11.9)	(5.6)	3.4	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	3	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.1)	(4.9)	1.35	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	4	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.1)	(6.2)	1.25	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色・二次焼成によって・内外両面ともに磨痕
16	5	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.0)	(4.6)	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	6	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.8	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	7	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	7.7	5.9	1.5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
16	8	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色・外側面全体に薄く油縁

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
16	9	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.3)	(5.7)	1.4	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	10	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.9)	(5.3.5)	1.5	(胎土)微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	11	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.5	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	12	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.1)	(4.6)	1.6	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	13	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(4.9)	1.5	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	14	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.7	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	15	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	7.9	5.0	1.9	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	16	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.8	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	17	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.7)	1.7	(胎土)微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	18	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.2)	(4.8)	2.0	(胎土)微砂・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	19	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.9)	(5.2)	1.5	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	20	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.5)	1.7	(胎土)微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	21	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.9)	(5.8)	1.7	(胎土)微砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	22	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.9)	2.0	(胎土)微砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	23	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	7.3	5.0	1.6	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	24	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(5.4)	1.6	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	25	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(4.1)	(4.1)	2.0	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	26	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.1)	(5.6)	1.9	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	27	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	4.7	4.7		(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色・底部周辺を打ち削っている。
16	28	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.2)	(7.2)		(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	29	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.7)	(9.2)	2.8	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	30	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.3)	(7.6)	2.8	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	31	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(11.4)	(7.4)	3.2	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	32	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(13.6)	(9.3)	3.1	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	33	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(11.6)	(8.6.2)	3.2	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	34	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.4)	(8.4)	3.4	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	35	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(11.8)	7.7	3.2	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	36	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(11.7)	(6.0)	3.0	(胎土)微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
16	37	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.5)	(7.7)	3.3	(胎土)微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	38	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.4)	(7.6)	3.2	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
16	39	第4面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(12.7)	(7.6)	3.4	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
16	40	第4面構成土出土遺物(1)	漆器用・椀	7.0	7.0		輪高台。手描き施文。内外面黒色系漆。内外面同一文様。丸に五三の柄。赤色系漆で施文。外底面黒漆
16	41	第4面構成土出土遺物(1)	漆器用・椀				輪高台。手描き施文。内外面黒色系漆。内面・龍目に梅花文の構成文。外面・龍字背景文。外底面に「二」の刻あり。
16	42	第4面構成土出土遺物(1)	木製品・曲り物底板	(7.4)		0.8	
16	43	第4面構成土出土遺物(1)	木製品・板折敷			0.3	
16	44	第4面構成土出土遺物(1)	木製品・縁木折敷	15.7		0.1	
16	45	第4面構成土出土遺物(1)	木製品・縁木折敷	18.9	(4.2)	0.2	
16	46	第4面構成土出土遺物(1)	漆製品・調度具		(1.0)	1.6	黒色系漆施文
17	47	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(10.5)	0.5	0.5	
17	48	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(11.2)	0.6	0.4	
17	49	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(10.9)	0.5	0.5	
17	50	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(15.2)	0.7	0.5	
17	51	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(15.4)	0.6	0.3	
17	52	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(16.0)	0.5	0.4	
17	53	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(13.6)	0.7	0.5	
17	54	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	14.3	0.6	0.5	
17	55	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(16.2)	0.6	0.4	
17	56	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	16.4	0.5	0.3	
17	57	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(20.1)	0.7	0.3	
17	58	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(19.0)	0.6	0.5	
17	59	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	20.2	0.7	0.5	
17	60	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	11.6	0.5	0.4	
17	61	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(9.0)	0.8	0.4	
17	62	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(8.4)	0.7	0.5	歪み激しい
17	63	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸状	16.8	1.2	0.7	
17	64	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸状	17.0	1.0	0.5	
17	65	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・箸状	(13.8)	0.6	0.6	
17	66	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・串状	23.7	1.5	0.4	
17	67	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・串状	(21.2)	0.5	0.6	歪み激しい
17	68	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・番杖状	34.3	1.0	0.9	片端部に俵痕
17	69	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・形不定	23.3	1.6	0.5	刀形か？表面油痕
17	70	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(16.1)	(1.3)	(1.0)	調度具の部材か？片端部に穿孔あり・断面三角形
17	71	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・部材	(17.7)	(1.0)	(1.0)	用途不明。3か所不釘痕



図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
17	72	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(8.0)	1.4	1.0	
17	73	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	9.2	1.9	0.3	
17	74	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(15.8)	(1.0)	(0.4)	部材破片か?
17	75	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(14.3)	(0.8)	(0.6)	端材?端部破痕
17	76	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	15.4	0.7	0.6	
17	77	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	10.8	0.4	0.4	
17	78	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(10.6)	(0.8)	(0.6)	
17	79	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(14.9)	0.8	0.3	
17	80	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	17.0	0.9	0.3	
17	81	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	17.3	0.7	0.5	
17	82	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	16.4	0.7	0.6	
17	83	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	15.7	0.4	0.5	
17	84	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	14.0	0.6	0.5	
17	85	第4面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(14.0)	1.0	0.6	
19	1	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	7.2	4.9	1.5	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色・口唇部4か所に打ち欠き痕
19	2	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	7.4	4.6	1.7	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
19	3	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(7.6)	(4.8)	1.7	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・黒色粒・(焼成)良好(色調)褐色
19	4	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(7.6)	(4.2)	1.9	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・黒色粒・(焼成)やや不良(色調)黄灰色
19	5	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(8.0)	(5.2)	1.9	(胎土) 籾砂・粟母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
19	6	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(7.6)	(4.5)	2.2.5	(胎土) 籾砂・貝状骨針・黒色粒・小石粒(焼成)良好(色調)褐色・内外口唇部油埃痕
19	7	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(8.0)	(5.2)	2.2	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	8	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	11.0	6.0	3.0	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・黒色粒・小石粒・やや粗土(焼成)良好(色調)褐色
19	9	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	11.2	6.3	3.0.5	(胎土) 籾砂・貝状骨針・黒色粒・小石粒(焼成)良好(色調)褐色
19	10	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.0)	(7.0)	3.3	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内底部に釘付着
19	11	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.2)	(7.4)	3.5	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	12	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.4)	(7.4)	3.2	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母(焼成)やや不良(色調)黄灰色
19	13	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.0)	(6.0)	3.3	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・黒色粒・やや粗土(焼成)良好(色調)黄褐色
19	14	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.2)	(7.0)	3.2	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色・口唇部に指痕による圧痕
19	15	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	12.4	7.6	3.1	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
19	16	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.4)	(7.4)	3.3	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色・外側面に油埃痕
19	17	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.4)	(7.0)	3.4	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色・外側面に油埃痕
19	18	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	12.4	7.2	3.2	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	19	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.4)	(7.6)	3.8	(胎土) 籾砂・貝状骨針・白色粒・やや粗土(焼成)良好(色調)黄褐色
19	20	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(13.0)	(6.8)	3.2	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	21	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(13.0)	(7.2)	2.9	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	22	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(13.2)	(7.8)	3.3	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	23	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(13.0)	(8.0)	3.3	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	24	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(14.0)	(7.6)	3.4	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
19	25	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(13.7)	(8.8)	3.8	(胎土) 籾砂・貝状骨針・白色粒・粟母・やや粗土(焼成)良好(色調)褐色
19	26	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	(12.6)	(7.0)	3.2	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内底部に釘付着
19	27	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	12.0	7.4	3.1	(胎土) 籾砂・貝状骨針・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
19	28	遺構7出土遺物(1)	かち5ヶ	13.1	8.7	3.1	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内底部に釘付着
20	29	遺構7出土遺物(2)	かち5ヶ	(13.0)	(6.6)	3.2	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内底部に油埃痕
20	30	遺構7出土遺物(2)	瀬戸窯・折縁深皿				(胎土) 黒色粒・やや粗土(焼成)黄質
20	31	遺構7出土遺物(2)	瀬戸窯・削皿				(胎土) 黒色粒(焼成)良好
20	32	遺構7出土遺物(2)	常滑窯・椀				(胎土) 白色粒・黒色粒・小石粒(色調)暗褐色
20	33	遺構7出土遺物(2)	常滑窯・椀				(胎土) 白色粒・黒色粒・小石粒(色調)暗褐色
20	34	遺構7出土遺物(2)	石製皿・砥石	(5.7)	(3.8)	(2.2)	中砥・天然産・赤灰色
20	35	遺構7出土遺物(2)	瓦類(かわらけ転用品)	3.1		0.8	(胎土) 赤色粒・粟母・小石粒
20	36	遺構7出土遺物(2)	瓦類・火鉢				(胎土) 赤色粒・粟母・小石粒
20	37	遺構7出土遺物(2)	瓦類・火鉢	43.7	32.4	15.4	元豐通宝・北宋・初開1078・篆書
20	38	遺構7出土遺物(2)	鏡				輪花型・(胎土) 灰白色・菊花文(1.6弁)のスタンプ・脚部貼付付け
20	39	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	(7.2)	(4.8)	1.8	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針(焼成)良好(色調)褐色
20	40	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	7.4	4.6	1.8	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
20	41	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	7.6	4.8	1.6	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)褐色
20	42	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	7.6	4.3	2.0	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
20	43	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	7.6	4.2	2.2	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	44	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	7.6	4.7	2.3	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	45	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	(7.8)	(4.8)	2.0	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	46	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	7.8	4.5	2.0	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	47	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	(8.8)	(6.0)	2.1	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針(焼成)良好(色調)褐色・外側面に油埃痕
20	48	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	(11.2)	(6.0)	3.1	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄灰色
20	49	遺構7底面出土遺物	かち5ヶ	11.7	7.0	3.7	(胎土) 籾砂・粟母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
20	50	遺構7底面出土遺物	かわらけ	12.0	6.6	3.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
20	51	遺構7底面出土遺物	かわらけ	12.1	6.8	3.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	52	遺構7底面出土遺物	かわらけ	12.2	7.0	3.3	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	53	遺構7底面出土遺物	かわらけ	12.2	6.6	3.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	54	遺構7底面出土遺物	かわらけ	(12.4)	(7.2)	3.3	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	55	遺構7底面出土遺物	かわらけ	12.4	7.4	3.3	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	56	遺構7底面出土遺物	かわらけ	(12.4)	(6.4)	2.9	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	57	遺構7底面出土遺物	かわらけ	(12.6)	(7.8)	3.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	58	遺構7底面出土遺物	かわらけ	12.6	6.8	3.2	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	59	遺構7底面出土遺物	かわらけ	(12.8)	(7.8)	3.5	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	60	遺構7底面出土遺物	かわらけ	(13.2)	(7.2)	3.3	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
20	61	遺構7底面出土遺物	かわらけ	13.4	7.8	3.5	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄灰色
20	62	遺構7底面出土遺物	かわらけ	(14.0)	(7.6)	3.7	治平云書・初跡年1064・北宋・磁書
20	63	遺構7底面出土遺物	鏡				紹熙云書・初跡年1190・南宋・篆書
20	64	遺構7底面出土遺物	鏡				
21	1	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(4.9)	(3.5)	1.2	(附土) 霰砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
21	2	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.5	(附土) 霰砂・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
21	3	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(8.0)	(5.4)	2.0	(附土) 霰砂・雲母(焼成)良好(色調)黄灰色
21	4	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.4	(附土) 霰砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄灰色
21	5	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	11.7	8.1	3.1	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
21	6	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.9	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
21	7	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(12.3)	(7.2)	3.2	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
21	8	遺構7裏込め出土遺物	かわらけ	(13.2)	(8.0)	3.0	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
21	9	遺構7裏込め出土遺物	木製品・箸	(14.7)	0.7	0.6	
23	1	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.1)	(4.2)	1.9	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	2	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	7.1	4.2	1.8	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	3	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.1)	(3.5)	2.2	(附土) 霰砂・雲母・黒色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	4	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.2)	(3.8)	2.0	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	5	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	7.3	5.2	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	6	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	7.4	6.0	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	7	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(5.7)	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	8	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(4.4)	1.8	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	9	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(4.4)	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	10	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	7.5	4.4	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	11	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(4.6)	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	12	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(6.3)	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	13	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.7)	(5.4)	1.4	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	14	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	7.8	5.5	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	15	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	16	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.9)	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	17	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	8.0	5.0	2.9	(附土) 霰砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	18	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.2)	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	19	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(8.9)	(6.4)	1.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	20	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(11.8)	(6.7)	3.3	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	21	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(12.0)	(7.8)	(3.2)	(附土) 霰砂・雲母(焼成)やや不良(色調)黄灰色・内面全体に油黒付着
23	22	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	12.2	7.6	3.2	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	23	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(12.3)	(6.3)	3.3	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	24	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(12.4)	(7.2)	3.3	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	25	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(12.9)	(7.5)	3.2	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	26	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(13.1)	(8.5)	3.3	(附土)
23	27	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(13.4)	(7.2)	4.0	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	28	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	(13.6)	(8.9)	3.6	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄灰色
23	29	遺構8 b 出土遺物(1)	かわらけ	13.6	8.1	3.7	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
23	30	遺構8 b 出土遺物(1)	骨盤・折れ縁皿				(素地)灰白色・磨蝕・買入多く入る
23	31	遺構8 b 出土遺物(1)	瀬戸窯・削皿				(附土)灰白色・砂粒(焼成)良好・磨蝕・外周下方露胎
23	32	遺構8 b 出土遺物(1)	常滑窯・程太鉢1 割				(附土)灰褐色・石英・長石・砂粒・内面磨毛
23	33	遺構8 b 出土遺物(1)	常滑窯・程太鉢2 割				(附土)褐色・砂粒・石英
23	34	遺構8 b 出土遺物(1)	土器窯・火鉢				(附土)石英・赤色粒・外面器表灰黒色・明き目あり・内面沁み凹弧の叩き目
23	35	遺構8 b 出土遺物(1)	土器窯・火鉢				(附土)砂粒・白色粒・淡褐色
23	36	遺構8 b 出土遺物(1)	瓦類・香炉				(附土)灰白色・砂粒・黒色粒・外面に亀甲花文の押印・孔眼・珠文の附け付け。
23	37	遺構8 b 出土遺物(1)	鉄製品・釘	4.1	0.5	0.5	
23	38	遺構8 b 出土遺物(1)	鏡				熙寧通寶・初跡1068・北宋・真書
23	39	遺構8 b 出土遺物(1)	鏡				熙寧通寶・初跡1071・北宋・篆書

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
23	40	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				紹聖元寶・初鑄1094・北宋・行書
23	41	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				宣和通寶・初鑄1094・北宋・楷書
23	42	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				元符通寶・初鑄1098・北宋・行書
23	43	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				大觀通寶・初鑄1107・北宋
23	44	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				政和通寶・初鑄1111・北宋・楷書
23	45	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				淳熙元寶・初鑄1174・南宋・真書
23	46	遺構8 b 出土遺物(1)	銭				■北元寶・行書
23	47	遺構8 b 出土遺物(1)	石製品・砥石	(7.4)	3.0	0.8	仕上砥
23	48	遺構8 b 出土遺物(1)	石製品・砥石	(5.6)	2.6	1.4	中砥
23	49	遺構8 b 出土遺物(1)	滑石製・スタンプ	(3.9)			
23	50	遺構8 b 出土遺物(1)	漆製品・皿	9.0	6.8	0.9	平高台。手描き施文。内外面黒色系漆。見込み中央に漆絵？不明で文様不明。外底面漆無。
23	51	遺構8 b 出土遺物(1)	漆製品・皿	9.0	6.6	1.8	手描き施文。内外面ともに黒色系漆。赤色系漆による漆絵(内面のみ)。内面口唇部4か所に、笹と桐。見込み中央に笹2・桐2を配置。
23	52	遺構8 b 出土遺物(1)	漆製品・椀				手描き施文。内外面黒色系漆。外面文？
23	53	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・調度具？			0.7	蓋？
23	54	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷			0.1	蓋裏
23	55	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・調度具？	(16.2)		0.5	
23	56	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷	18.9		0.1	
23	57	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷	14.9		0.1	
23	58	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・経木折敷	12.9		0.1	
23	59	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・箸	18.2	0.8	0.3	
23	60	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・箸	19.2	0.9	0.5	
23	61	遺構8 b 出土遺物(1)	木製品・箸	21.1	0.6	0.5	
24	62	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(16.2)	0.6	0.5	
24	63	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(16.4)	0.7	0.5	
24	64	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(15.7)	0.7	0.5	
24	65	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(14.5)	0.6	0.5	
24	66	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(13.3)	(0.5)	(0.3)	
24	67	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(12.9)	0.6	0.5	
24	68	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.9)	0.7	0.4	
24	69	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(12.2)	0.7	0.4	
24	70	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(12.0)	0.7	0.4	
24	71	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.6)	0.5	0.5	片端に漆痕
24	72	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.6)	0.5	0.5	
24	73	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.4)	0.6	0.5	
24	74	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.3)	0.6	0.5	
24	75	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(11.0)	0.5	0.4	
24	76	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.5)	0.7	0.6	
24	77	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(10.1)	0.7	0.5	
24	78	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(9.6)	0.7	0.6	片端に漆痕
24	79	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・箸	(9.3)	0.7	0.4	片端に漆痕
24	80	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・板草履芯	(13.2)	(3.5)	(0.3)	破片
24	81	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・板草履芯	23.9	17.0	0.3	
24	82	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・板草履芯	23.9	5.0	0.7	製作途中か？焼痕。
24	83	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋状	(9.9)	1.3	0.3	
24	84	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋状	10.7	0.5	0.3	
24	85	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋状	(10.3)	0.8	0.4	
24	86	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋状	(12.8)	0.6	0.3	
24	87	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋状	(14.6)	0.6	0.5	
24	88	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋	14.2	1.0	0.5	
24	89	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・篋状	18.9	1.3	0.2	
24	90	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(11.8)		0.2	
24	91	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・端材	10.9		1.0	
24	92	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明			0.7	
24	93	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	18.4	4.2	1.0	元は下駄
24	94	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・端材			1.8	
24	95	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	8.5	1.3	0.8	端材
24	96	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	9.6	0.9	0.4	端材？
24	97	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(10.0)	0.6	0.4	端材？
24	98	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	11.9	0.7	0.3	端材？
24	99	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(11.8)	0.8	0.5	端材？
24	100	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(12.5)	0.5	0.5	端材？
24	101	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(12.7)	(0.7)	0.5	端材？
24	102	遺構8 b 出土遺物(2)	木製品・用途不明	(13.2)	0.9	0.3	端材？

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
24	103	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(12.9)	0.9	(0.5)	端材?
24	104	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(14.3)	1.0	(0.5)	端材? 上面に焼痕
24	105	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・用途不明	15.5	0.8	0.4	部材?
24	106	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・単状	(15.3)	0.6	0.5	
24	107	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・単状	18.1	0.8	0.5	
24	108	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・単状	(22.1)	1.3	1.0	
24	109	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・単状	24.6	1.2		丁寧な整形。端部、サヤラ状に加工か?
24	110	遺構 8 b 出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(22.0)	0.9	1.0	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	1	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(4.4)	(3.0)	0.7	(粘土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
25	2	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(6.6)	5.0	1.5	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	3	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(4.2)	(4.2)	2.1	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	4	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.0)	4.8	1.4	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	5	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.0	4.8	1.8	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	6	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.2	5.0	1.8	(粘土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	7	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(4.8)	(4.8)	1.9	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	8	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.2)	(5.6)	1.3	微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	9	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(4.6)	(4.6)	1.4	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	10	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(5.4)	(5.4)	1.6	(粘土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	11	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.3)	(4.5)	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	12	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.4)	(5.4)	1.2	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	13	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.4)	(5.4)	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	14	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.4)	(4.8)	1.4	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	15	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.4)	(4.2)	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	16	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(5.6)	(5.6)	1.7	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	17	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(5.4)	(5.4)	1.4	(粘土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	18	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.4	4.7	1.8	(粘土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	19	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.4)	(5.0)	1.9	(粘土) 微砂・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	20	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.5	4.5	1.8	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
25	21	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.5	5.4	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	22	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.5	4.6	1.8	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
25	23	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.6	5.4	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	24	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.6	4.9	1.7	(粘土) 微砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	25	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.6)	(6.0)	1.5	(粘土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	26	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.6)	(4.9)	2.4	(粘土) 微砂・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	27	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.7	4.9	1.9	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	28	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.7)	(5.5)	1.8	(粘土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	29	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.8	5.7	1.65	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	30	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.8)	5.8	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	31	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	7.8	5.2	1.7	(粘土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
25	32	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.8)	(6.0)	1.8	(粘土) 微砂・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄灰色
25	33	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.8)	(5.0)	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	34	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.9)	(6.0)	1.5	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
25	35	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.9)	(5.0)	1.5	(粘土) 微砂・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	36	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(9.9)	(5.2)	1.3	(粘土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	37	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.0)	5.5	1.9	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	38	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.1)	5.6	1.9	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	39	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(7.3)	(7.3)	1.5	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	40	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.2)	(6.0)	1.7	(粘土) 微砂・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	41	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.3)	(7.1)	1.85	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	42	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.3)	(6.9)	1.6	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	43	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.4)	(6.4)	1.9	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	44	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(8.4)	(6.4)	1.6	(粘土) 微砂・粟母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
25	45	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(10.2)	(6.7)	2.2	(粘土) 微砂・赤色粒・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色・内面口唇部に油痕・口唇部一部打ち插いでいる
25	46	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(11.0)	(7.0)	3.1	(粘土) 微砂・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	47	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(11.0)	(7.0)	3.2	(粘土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	48	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(11.2)	(7.0)	3.0	(粘土) 微砂・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	49	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(11.3)	(7.4)	3.05	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	50	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(11.8)	(7.0)	3.0	(粘土) 微砂・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	51	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(11.9)	(8.0)	3.3	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	52	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(12.1)	(6.8)	3.0	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	53	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(12.2)	(7.3)	3.3	(粘土) 微砂・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	54	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かち5分	(12.35)	(6.8)	3.45	(粘土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
25	55	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.2, 4)	(8.0)	3.3	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	56	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	1.2, 4	7.5	3.4	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	57	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.2, 5.5)	(8.9)	(3.3)	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	58	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	1.2, 5.5	8.1	3.4	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	59	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.2, 6.5)	(7.4)	3.2	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	60	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.2, 8)	(8.0)	3.0	(附土) 霰砂・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	61	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.2, 9)	(8.0)	3.4	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	62	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.3, 0)	(6.0)	3.0	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	63	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.3, 0)	(8.0)	2.7	(附土) 霰砂・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
25	64	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.3, 1)	(8.0)	2.8	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	65	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.3, 4)	(9.0)	3.0	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	66	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.3, 0.5)	(7.0)	3.6, 5	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
25	67	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.3, 7)	(8.9)	3.0	(附土) 霰砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
25	68	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(1.4, 8)	(8.0)	3.6	(附土) 霰砂・赤色粒(焼成)やや不良(色調)灰黄色
25	69	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 0)			(附土) 霰砂(焼成)良好(色調)灰白色
25	70	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	青磁・銅蓮文施				(素地) 灰白色・堅緻・竜泉窯
25	71	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	青磁・無文施	(8, 5)			(素地) 灰白色・堅緻・胴部から口縁にかけて内湾気味に立ち上がる
25	72	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	青磁・虎耳				(素地) 灰白色・堅緻・胴足・指(爪)部分は貼り付け
25	73	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	青白磁・梅瓶				(素地) 灰白色・稍長堅緻
25	74	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	常滑窯・程松鉢 1 類				(附土) 砂粒・白色粒
25	75	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	常滑窯・程松鉢 1 類				(附土) 灰白色・白色粒・小石粒
25	76	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (1)	魚住窯・程松鉢				(附土) 向粒・白色粒・雲母・内面磨耗痕
26	77	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	銭				聖徳太子、初脚 1094・北宋・篆書
26	78	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	銭				祥符通寶、北宋、初脚 1068・篆書
26	79	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	銭	(4, 7)	3, 4	2, 3	天福通寶、初脚年 1017・北宋・楷書
26	80	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	石製品・砥石				天草産
26	81	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	2.0, 2	0.6	0.5	
26	82	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	(1.7, 7)	0.5	0.5	
26	83	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	(1.5, 3)	0.7	0.5	
26	84	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	1.7, 9	0.8	0.5	
26	85	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	1.6, 5	0.6	0.5	
26	86	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	1.6, 4	0.6	0.6	
26	87	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	1.4, 2	0.7	0.5	
26	88	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・箸	1.3, 9	0.6	0.5	
26	89	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・縁木折敷	1.7, 3	(3, 5)	0.1	片面に縁刻あり
26	90	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・程杖	1.2, 2	0.7	0.4	
26	91	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・程杖	(1.3, 1)	0.6	0.5	
26	92	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(1.7, 3)	2.4	0.2	側面ゆるく湾曲する
26	93	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(1.1, 2)	(0, 7)	0.5	
26	94	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(1.0, 1)	1.1	0.2	
26	95	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(1.0, 8)	1.0	0.5	
26	96	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	1.3, 9	1.1	0.5	
26	97	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・縁木折敷	1.6, 2	(1, 4)	0.1	
26	98	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(1.5, 1)	0.8	0.5	
26	99	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	木製品・用途不明	(2.1, 9)	(0, 7)	(1, 1)	片端部に筋痕
26	100	遺構 8 b 裏込め出土遺物 (2)	漆製品・調度具	(1.9, 1)	1.1	(1, 8)	釘痕・2カ所
27	1	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(3, 9)	(3, 2)	0.9	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
27	2	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 2)	(4, 7)	1.4, 5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	3	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 4)	(5, 6)	1.5	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	4	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 4)	(5, 8)	1.5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	5	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 2)	(5, 1)	1.4	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	6	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 1.5)	(4, 2)	1.5, 5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	7	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 6)	(4, 2)	2.0	(附土) 霰砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	8	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 2)	(4, 3)	2.0	(附土) 霰砂・貝状骨針・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
27	9	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 6)	(4, 6)	1.6	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
27	10	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 4)	(5, 6)	1.6	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
27	11	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 1.5)	5.1	1.5, 5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	12	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(4, 6)	(4, 6)	1.6	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	13	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	7, 7	5, 4	1, 7	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	14	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 8)	(5, 4)	1, 8	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・黒色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	15	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 6)	(4, 8)	1, 6, 5	(附土) 霰砂・貝状骨針・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
27	16	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 6)	(5, 0)	1, 5	(附土) 霰砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	17	第 3 面構成出土遺物 (1)	かわらけ	(7, 4)	(5, 2)	1, 8	(附土) 霰砂・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
27	18	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	19	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.5	(胎土) 微砂・粟母・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	20	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
27	21	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	7.8	5.0	1.65	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	22	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.9)	(5.4)	1.75	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	23	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.4)	(5.9)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	24	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.6	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	25	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	7.6	5.0	1.85	(胎土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	26	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(5.8)	1.4	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	27	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.7)	(6.4)	1.2	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	28	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.0)	(5.9)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	29	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.8)	(4.4)	1.7	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
27	30	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(7.5)	(5.2)	1.7	(胎土) 微砂・微砂(焼成)良好(色調)黄褐色
27	31	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(8.3)	(5.7)	1.85	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	32	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(11.4)	(6.1)	2.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色・口縁部2か所打ち欠き裏
27	33	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(10.6)	(6.4)	3.3	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色・内外面口唇部に油痕痕
27	34	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.0)	(7.2)	2.9	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	35	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2)	(7.0)	3.5	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	36	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.8)	(6.8)	3.1	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	37	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.8)	(7.0)	3.2	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	38	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.4)	(9.3)	2.3	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	39	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.0)	(7.8)	3.0	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	40	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.8)	(8.0)	3.1	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	41	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.0)	(7.0)	3.3	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	42	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.4)	(7.0)	3.4	(胎土) 微砂・粟母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	43	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.6)	(8.2)	3.35	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	44	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.4)	(7.2)	3.05	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	45	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.4)	(7.5)	3.3	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・黒色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
27	46	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	1.2.5	7.1	3.1	(胎土) 微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	47	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.8)	(8.2)	(3.2)	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	48	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.3.3)	(7.4)	3.35	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒・粟母(焼成)良好(色調)黄褐色
27	49	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.2.7)	(7.5)	3.6	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	50	第3面構成土出土遺物(1)	かわらけ	(1.3.2)	(8.2)	2.9	(胎土) 微砂・貝状骨針・粟母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
27	51	第3面構成土出土遺物(1)	白かわらけ(手づくね)	(1.4.0)			(胎土) 微砂(焼成)良好(色調)白色
27	52	第3面構成土出土遺物(1)	青白磁・口皿				印花文・(茶地)白色・精良堅緻・(釉薬)透明
27	53	第3面構成土出土遺物(1)	青白磁・梅瓶				
27	54	第3面構成土出土遺物(1)	泉州窯・青磁・盤				(胎土) 白色砂粒・黒色砂粒・硬質(釉薬)黄灰緑色
27	55	第3面構成土出土遺物(1)	瀬戸窯・入子	(4.2)	(3.0)	1.2	(胎土) 白色粒(焼成)良好(色調)灰色
27	56	第3面構成土出土遺物(1)	瀬戸窯・入子	3.7	2.0	1.2	(胎土) 卑坭(焼成)良好(色調)黄灰色・体部中位よりから底部にかけて窪削り・輪花型
27	57	第3面構成土出土遺物(1)	常滑窯・担ね鉢1類				(胎土) 砂粒・白色粒・黒色粒(色調)褐色
27	58	第3面構成土出土遺物(1)	常滑窯・担ね鉢2類				(胎土) 小石粒・白色粒・輪積り成形
27	59	第3面構成土出土遺物(1)	常滑窯・程ね鉢1類	(3.9)			(胎土) 白色粒・砂粒・暗灰色
27	60	第3面構成土出土遺物(1)	鉄製品・掛け金具				
27	61	第3面構成土出土遺物(1)	鍍				
27	62	第3面構成土出土遺物(1)	石製品・砥石	(2.6)	(2.3)	(1.2)	嘉定通寶・南宋・初編1208
28	63	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(1.3.1)	0.6	0.5	鳴滝産・仕上砥
28	64	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(1.4.4)	0.6	0.2	
28	65	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	(1.6.0)	0.6	0.4	
28	66	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	2.1.0	0.7	0.4	
28	67	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・箸	1.9.1	0.6	0.3	線刻あり
28	68	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・経木折敷	(1.6.0)	(3.1)	0.1	
28	69	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・経木折敷	1.8.9	(1.0)	0.1	
28	70	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・経木折敷	1.8.9	(0.9)	0.1	
28	71	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・経木折敷	1.9.0	(1.7.5)	0.1	
28	72	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・曲げ物底板	1.8.8	(4.0)	0.15	
28	73	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・曲げ物底板	1.2.0		0.5	
28	74	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・曲げ物底板	(1.4.2)	(5.1)	0.95	底板
28	75	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・草履芯	(2.1.1)		0.3	御膝部・曲線的・端部不明・切り取り部・平行四辺形で前方に深く切り込む
28	76	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・笥状	(2.0)	(0.6)		
28	77	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・笥状	(9.9)	(1.8)	(0.5)	
28	78	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・笥状	(10.5)	(2.0)	(0.5)	
28	79	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・笥	1.4.8	0.6	0.5	
28	80	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・笥状	(1.9.3)	0.9	0.4	

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
28	81	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・筒状	1.9.1	0.8	0.5	
28	82	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・筒状	(1.3.3)	0.6	0.4.5	漆付着
28	83	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(1.2.5)	(2.0)	0.4	筆架か?
28	84	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	2.7.6	4.1	0.7.5	
28	85	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	1.4.5	0.6	0.4	
28	86	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	1.3.4	0.6	0.5	
28	87	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(8.5)	(9.2)	(0.6)	直径、約1.0cm、丁字状彫形
28	88	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	(9.3)	(1.4)	(0.9)	ちゅう木か?
28	89	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・筒状	(9.6)	(0.9)	(0.6)	
28	90	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・用途不明	2.5.3	1.2	0.8	先端端めに切断
28	91	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・筒状	(2.1.7)	1.2.5	1.6	孔の径0.2—1釘痕?
28	92	第3面構成土出土遺物(2)	木製品・筒状	(1.8.7)	0.4	0.2	端部に片痕
31	1	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(6.7)	(4.5)	2.1	(胎土) 微砂・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)褐色・内面口唇部に油煤痕
31	2	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.1)	(4.7)	1.8	(胎土) 微砂・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	3	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	7.2	4.5	2.2	(胎土) 微砂・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	4	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.6)	(4.8)	1.8	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
31	5	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.3)	(4.3)	2.3	(胎土) 微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
31	6	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	7.4	4.3	2.3	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	7	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	7.4	5.0	1.9	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	8	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.4)	(5.0)	2.0	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	9	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	7.2	4.6	1.6	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	10	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.6)	(4.8)	1.6	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	11	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	7.6	5.2	1.6	(胎土) 微砂(焼成)良好(色調)黄褐色
31	12	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.7)	(5.0)	1.9	(胎土) 微砂・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	13	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.7)	(5.0)	1.6	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	14	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.8)	(4.9)	2.1	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・上丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	15	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.8)	(4.0)	2.2	(胎土) 微砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	16	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.8)	(5.0)	2.0	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	17	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.8)	(5.0)	2.2	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	18	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	7.9	4.8	1.8	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	19	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.9)	(4.2)	2.2	(胎土) 微砂・赤色粒・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	20	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.9)	(5.0)	1.6	(胎土) 微砂・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)褐色
31	21	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.9)	(6.0)	1.8	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	22	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(7.9)	(5.8)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
31	23	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(5.1)	1.6	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
31	24	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(5.8)	1.7	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	25	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(5.8)	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	26	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(5.0)	1.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	27	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(5.8)	2.2	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色・内面に油煤痕
31	28	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(4.7)	1.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	29	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(4.9)	2.0	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	30	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(5.6)	2.0	(胎土) 微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色・外底部に油煤痕
31	31	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.1)	(5.0)	2.0	(胎土) 微砂・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	32	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.3)	(5.0)	2.0	(胎土) 微砂・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	33	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.3)	(5.6)	1.8	(胎土) 微砂(焼成)良好(色調)黄褐色
31	34	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.4)	(4.8)	2.3	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
31	35	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.4)	(6.0)	1.7	(胎土) 微砂・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)褐色
31	36	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.4)	(5.0)	2.6	(胎土) 微砂・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)褐色
31	37	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.4)	(5.7)	2.0	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	38	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.9)	(6.0)	1.9	(胎土) 微砂(焼成)良好(色調)黄褐色
31	39	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(9.0)	(5.7)	2.0	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	40	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(9.0)	(6.0)	2.7	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	41	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(8.0)	(6.0)	1.8	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	42	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(10.8)	(6.0)	2.9	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	43	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.7)	(6.2)	3.5	(胎土) 微砂・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	44	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.7)	(6.5)	3.1	(胎土) 微砂・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	45	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.8)	(6.0)	3.4	(胎土) 微砂・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	46	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.8)	(7.0)	2.8	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	47	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.8)	(7.0)	3.5	(胎土) 微砂・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
31	48	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.8)	(8.0)	3.3	(胎土) 貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成)良好(色調)褐色
31	49	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.8)	(6.9)	3.4	(胎土) 微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)褐色
31	50	遺物8 a・8 b—一括出土遺物(1)	かた5片	(11.9)	(8.0)	3.1	(胎土) 微砂・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色・外側に白色の付着物

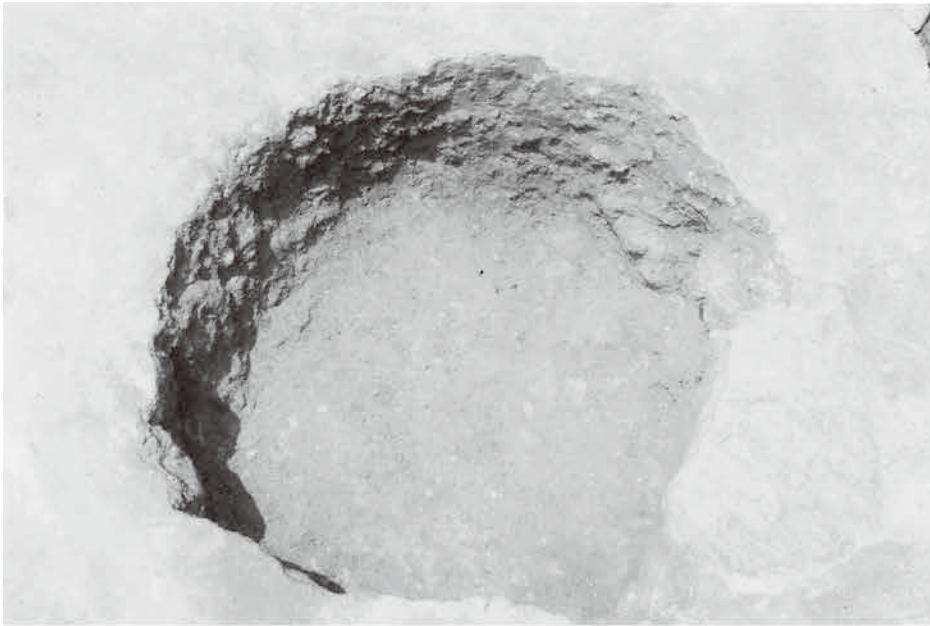




図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
33	114	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	常滑窯・規ね鉢1類	(1.3, 2)			(胎土) 砂粒・長石・石英・内底面磨耗痕
33	115	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	摩耗陶片	1.1, 5	4, 3	0.9, 5	常滑窯・裏の胴部底用品。
33	116	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	摩耗陶片	6, 4	4, 5	1, 3	常滑窯・裏の胴部底用品。
33	117	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	瓦類・火鉢				胎土) 砂粒・赤色粒
33	118	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	瓦類・火鉢				胎土) 砂粒・赤色粒
33	119	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	土製・円盤				かわらち底面底用品 直径3.2cm・厚さ0.8~1.0cm
33	120	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	瓦	(3, 8)	0, 3, 5	0, 5	底用品・断面磨耗痕・凸面格子目の叩き文・凹面布目痕・a類・(胎土) 白色粒・小石(色調) 灰色
33	121	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	鉄製品・釘	(7, 1)	1, 4	0, 7	東祐元書・初跡年1034・北宋・真書
33	122	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (3)	鉄製品・工具?				至和元書・初跡年1054・北宋・篆書
34	123	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	銭				元豊通寶・初跡年1078・北宋・篆書
34	124	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	銭				嘉祐通寶・初跡年1056・北宋・真書
34	125	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	銭				元豊通寶・初跡年1078・北宋・篆書
34	126	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	銭				皇宋通寶・初跡年1038・北宋・真書
34	127	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	銭	(7, 5)	3, 3	0, 6	向面を底面として使用。仕上紙
34	128	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	石製品・砥石	(7, 8)	1, 8, 5	1, 6	4面ともに砥面か? 中砥
34	130	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	石製品・砥石	2, 1	1, 8	0, 6	黒色・碇石?
34	132	遺構 8 a・8 b-一括出土遺物 (4)	石製品・白	(7, 4)	(4, 9)	2, 5	直径2.5, 8cm・厚さ6, 0cm・下白・6分目10溝
35	1	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(7, 6)	(5, 4)	2, 1	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
35	2	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(7, 6)	(5, 4)	2, 1	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
35	3	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(7, 6)	(5, 2)	1, 8	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
35	4	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(7, 8)	(4, 4)	2, 0	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
35	5	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	7, 8	4, 9	2, 1	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
35	6	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(10, 4)	(6, 0)	2, 4	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
35	7	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(11, 7)	(7, 7)	3, 1, 5	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
35	8	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(12, 0)	(7, 2)	3, 2	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色・内外面に薄く油煤痕
35	9	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(12, 2)	(8, 0)	3, 1	(胎土) 微砂・土丹粒・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
35	10	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(12, 4, 5)	(8, 6)	3, 3	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
35	11	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(13, 0)	(8, 5)	3, 2	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・小石粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
35	12	遺構 8 a 裏込め出土遺物	かわらけ	(12, 3, 5)	(7, 8, 5)	3, 1	(胎土) 微砂・貝状骨針・雲母・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
35	13	遺構 8 a 裏込め出土遺物	白かわらけ				(胎土) 砂粒(焼成) 良好(色調) 乳白色
35	14	遺構 8 a 裏込め出土遺物	青磁・鎮蓮弁文碗	(7, 4)	(5, 2, 5)	1, 7	(素地) 灰色・精良堅緻(釉薬) 灰緑色・竜泉窯
36	2	第2面構成出土遺物	かわらけ	(12, 0)	(7, 0)	3, 3	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
36	3	第2面構成出土遺物	かわらけ	(12, 2)	(8, 0)	3, 2	(胎土) 微砂・雲母(焼成) 良好(色調) 褐色
36	4	第2面構成出土遺物	かわらけ	(11, 9)	(7, 0)	3, 0	(胎土) 微砂・雲母(焼成) やや不良(色調) 灰黄色
36	5	第2面構成出土遺物	常滑窯・裏				(胎土) 長石・石英・砂粒・黒色粒・外面斜目格子の叩き目
36	6	第2面構成出土遺物	常滑窯・規ね鉢1類				(胎土) 灰色・微・砂粒
36	7	第2面構成出土遺物	常滑窯・規ね鉢1類				(胎土) 灰色・黒色粒(焼成) 良好
36	8	第2面構成出土遺物	木製品・板草履	(13, 6)	(4, 7)	(0, 3, 5)	竊形元寶・初跡1094・篆書
36	9	第2面構成出土遺物	木製品・用途不明	(14, 3)	1, 3, 5	0, 5	竊形の正取・先端部・側縁部(縁の) 切り込み筋形不明
36	10	第2面構成出土遺物	銭				断面・当円形に整形。両端部磨損・中央製品か?
38	2	第1面・面上出土遺物	漆製品・椀	11, 4	6, 0	3, 9	大観通寶・初跡年1107・北宋・楷書
39	1	第1面構成出土遺物	かわらけ	7, 8	5, 9	1, 6	備高古。無文。内外面ともに黒色系漆液塗。
39	2	第1面構成出土遺物	かわらけ	(7, 4)	(5, 4)	1, 4	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	3	第1面構成出土遺物	かわらけ	(7, 4)	(4, 4)	1, 8	(胎土) 微砂・雲母・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	4	第1面構成出土遺物	かわらけ	7, 5	5, 0	1, 9	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	5	第1面構成出土遺物	かわらけ	7, 5	5, 0	1, 8	(胎土) 微砂・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	6	第1面構成出土遺物	かわらけ	(7, 3)	4, 8, 5	2, 2, 5	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
39	7	第1面構成出土遺物	かわらけ	(8, 2)	(6, 2)	1, 7	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	8	第1面構成出土遺物	かわらけ	(7, 6)	(4, 6)	1, 8	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成) やや不良(色調) 黄灰色
39	9	第1面構成出土遺物	かわらけ	(7, 8)	(4, 6)	1, 8	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	10	第1面構成出土遺物	かわらけ	(10, 7)	6, 0	2, 8, 5	(胎土) 微砂・雲母・赤色粒(焼成) 良好(色調) 褐色
39	11	第1面構成出土遺物	かわらけ	(11, 8)	(6, 6)	2, 7	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針(焼成) やや不良(色調) 黄灰色
39	12	第1面構成出土遺物	かわらけ	(13, 2)	(7, 9)	3, 4	(胎土) 微砂・雲母・赤色粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	13	第1面構成出土遺物	かわらけ	(13, 2)	(8, 5)	3, 2	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	14	第1面構成出土遺物	かわらけ	(13, 2)	(8, 6)	3, 0	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	15	第1面構成出土遺物	かわらけ	(13, 6)	(9, 8)	3, 1	(胎土) 微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成) 良好(色調) 黄褐色
39	16	第1面構成出土遺物	青磁・鎮蓮弁文碗				(素地) 灰白色・精良堅緻(釉薬) 灰緑色・竜泉窯
39	17	第1面構成出土遺物	青磁・鎮蓮弁文碗	(10, 8)			(素地) 灰白色・精良堅緻(釉薬) 灰青色・竜泉窯
39	18	第1面構成出土遺物	常滑窯・裏				口縁部・(胎土) 白色粒(色調) 暗赤褐色・縁磨幅3, 7cm

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
39	19	第1面構成土器土遺物	常滑窯・程ね鉢目類	(5.4)	(0.7)	(0.45)	(胎土)灰褐色・石英・長石・砂粒
39	20	第1面構成土器土遺物	銚子窯・釘	(7.6)	(4.9)	0.9	直径1.5cm・孔径0.6cm
39	21	第1面構成土器土遺物	すり鉢	(7.4)	(4.9)	1.6	温石に使用か?
41	2	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.3	4.2	2.0	(胎土)微砂・赤色粒・雲母・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	3	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.4)	(4.6)	1.9	(胎土)微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	4	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.8)	(4.8)	1.9	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	5	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.4)	(5.2)	1.2	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・小石粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	6	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.4)	1.4	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	7	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.6)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	8	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.6	5.2	1.7	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	9	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.3)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	10	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.4)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	11	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.5)	6.0	1.5	(胎土)微砂・貝状骨針・雲母・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	12	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.2	5.4	1.3	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針(焼成)良好(色調)黄褐色
41	13	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(8.0)	(5.6)	1.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	14	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.8)	(5.4)	1.7	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	15	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.8)	(5.4)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	16	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(8.0)	(5.6)	1.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	17	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(8.4)	(5.8)	1.4	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	18	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(8.2)	(5.8)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	19	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(8.4)	(6.4)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	20	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.2)	(4.2)	1.7	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄灰色
41	21	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.2)	(5.2)	1.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	22	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.0)	(4.2)	1.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	23	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.4	5.0	1.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
41	24	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.4)	(4.8)	2.0	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	25	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.0)	1.5	(胎土)微砂・赤色粒・雲母(焼成)良好(色調)黄褐色
41	26	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.3)	1.8	(胎土)微砂・貝状骨針・黒色粒・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	27	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.6	5.6	1.7	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	28	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.6)	(5.0)	1.9	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	29	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.4	5.0	1.9	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	30	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.4	5.1	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	31	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	7.8	5.6	1.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	32	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(7.8)	(5.8)	1.8	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	33	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(8.0)	(6.0)	1.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	34	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2)	(7.0)	3.3	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄褐色
41	35	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.6)	(6.6)	3.2	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄灰色
41	36	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2)	(7.2)	3.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	37	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	1.2, 2	7.6	3.1	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	38	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 2)	(7.0)	2.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	39	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 2)	(8.2)	2.9	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	40	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 0)	7.8	3.2	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	41	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 2)	(8.4)	3.4	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	42	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 4)	(8.8)	3.4	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	43	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	1.2, 5	8.1	3.3	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	44	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 6)	(8.9)	3.4	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)やや不良(色調)黄灰色
41	45	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	1.2, 4	8.5	3.5	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	46	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 6)	(8.7)	3.1	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	47	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 6)	(8.3)	2.9	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・土丹粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	48	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 6)	(8.3)	3.0	(胎土)灰色・長石(軸染)緑色・黒い跡(除去あり)
41	49	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	1.2, 7	8.0	2.8	(胎土)微砂・貝状骨針・黒色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	50	表土~第1面出土遺物(1)	かわら5寸	(1.2, 4)	(7.0)	3.6	(胎土)微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒(焼成)良好(色調)黄褐色
41	51	表土~第1面出土遺物(1)	青磁・鎮連弁支碗	(1.8, 3)			電泉窯(赤地)精良(軸染)深緑・やや厚い
41	52	表土~第1面出土遺物(1)	白磁・口元皿	9, 7			(赤地)精良(軸染)
41	53	表土~第1面出土遺物(1)	瀬戸窯・折縁深皿	(2.5, 3)	(1.5, 8)	6, 8	(胎土)精良・刷毛塗の上に返りかけ(表土~1面土遺物8+右垣面土遺物6)
41	54	表土~第1面出土遺物(1)	瀬戸窯・底御自皿	(1.5, 1)			(胎土)灰色・長石(軸染)緑色・黒い跡(除去あり)
41	55	表土~第1面出土遺物(1)	瀬戸窯・折縁小皿	(7, 7)	(10, 0)		(胎土)黄灰色・砂粒・精良(軸染)濁りがけ
41	56	表土~第1面出土遺物(1)	常滑窯・裏	(2, 4, 8)			(胎土)砂粒・長石・相色
42	57	表土~第1面出土遺物(2)	常滑窯・裏				(胎土)砂粒・長石・黒褐色
42	58	表土~第1面出土遺物(2)	備前窯・鉢				(胎土)白色粒・小石粒(色調)暗赤褐色

図版No.	No.	出土地点	器種	口径	底径	器高	備考
42	60	表土～第1面出土遺物(2)	甍形竈・規形鉢口類				(胎土)白色粘・赤粘・内面磨耗痕
42	61	表土～第1面出土遺物(2)	瓦葺・火鉢				輪花型・(胎土)砂粘・黄灰色
42	62	表土～第1面出土遺物(2)	瓦葺・火鉢	41.0	31.0	10.7	(胎土)砂粘・白色粘(色濃)灰黒色・内面一輪ノ子と刷毛ノ字痕・外面一指頭痕・下部窪凹リ痕・外底附付着
42	63	表土～第1面出土遺物(2)	鉄製品・釘	(2.8)	(0.7)	(0.5)	
42	64	表土～第1面出土遺物(2)	銅製品・かんざし?	(14.2)	0.3	0.2	
42	65	表土～第1面出土遺物(2)	銭				紹聖元寶・北宋・初鑄1094・行書
42	66	表土～第1面出土遺物(2)	銭				大元元寶・初鑄年1023・北宋・真書
42	67	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・砥石	(3.9)	(3.3)	(0.4)	鴨渡産・細かな擦痕・仕上砥
42	68	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・砥石	(4.0)	(3.6)	(1.7)	中砥・上野産か?全面に使用痕
42	69	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・砥石	(5.3)	(3.0)	(4.0)	凝灰岩・中砥・伊予産
42	70	表土～第1面出土遺物(2)	石製品・火打石	2.8	2.1	0.7	
42	71	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・縁木折敷	(12.9)	(2.3)	(0.2)	
42	72	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・縁木折敷	(18.3)	(1.9)	0.2	製作途中?
42	73	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・箸	(17.8)	0.7	0.4	
42	74	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・箸	18.4	0.6	0.5	
42	75	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・箸	(18.3)	0.6	0.4	
42	76	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・篋	9.2	0.5	0.4	
42	77	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・篋	16.5	0.5	0.4	
42	78	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・端材	7.6	7.8	2.3	
42	79	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・用途不明	(14.6)		0.1	
42	80	表土～第1面出土遺物(2)	木製品・部材	(28.1)	1.7	1.0	



◀第1面・遺構10

第1面・全景▶  
(西から)



◀第2面・全景(北から)

遺構7・遺構8b ▶  
石積みの状況



◀ 遺構8a・西側石積み

遺構8b・西側石積み ▶





◀遺構8a・8b  
石積みの状況

遺構8b・西側石積み▶



◀遺構8b・底面  
石臼出土状況

第3面・全景▶  
(北から)



◀第4面・全景  
(北から)

第5面・全景▶  
(北から)





◀ 調査区南壁・堆積状況



調査区北壁・堆積状況▶



◀ II区・第1面全景  
(北から)





6-2



6-4



6-5



6-15



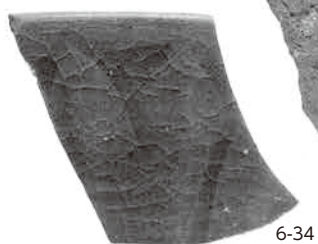
6-21



6-23



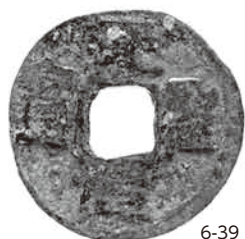
6-28



6-34



6-38



6-39



6-40



7-73



7-62

出土遺物(1)

图版7



8-2



8-11



8-15



8-20



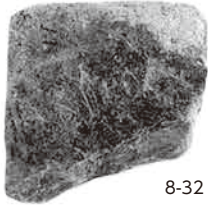
8-29



8-30



8-31



8-32



10-1



11-1



11-7



11-9



9-74



9-75



11-16

出土遺物(2)



12-28



15-6



15-7



15-8



15-9



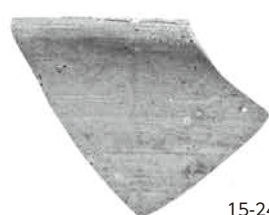
15-14



15-18



15-23



15-24



15-19



15-25



15-26



15-28



16-7



16-10



16-12

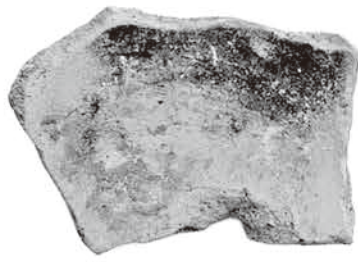


16-15



16-23

出土遺物 (3)



16-33



16-27



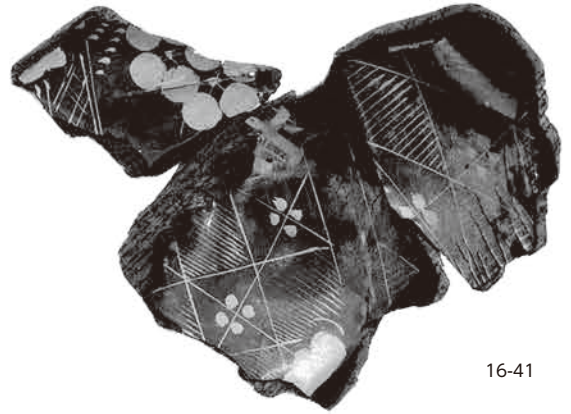
16-28



16-37



16-40



16-41



17-68



17-69



17-70



17-71



19-2



19-8



19-9



19-15

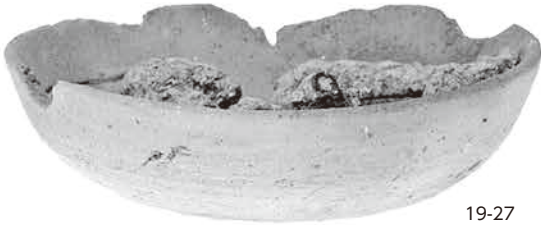


19-18



19-19

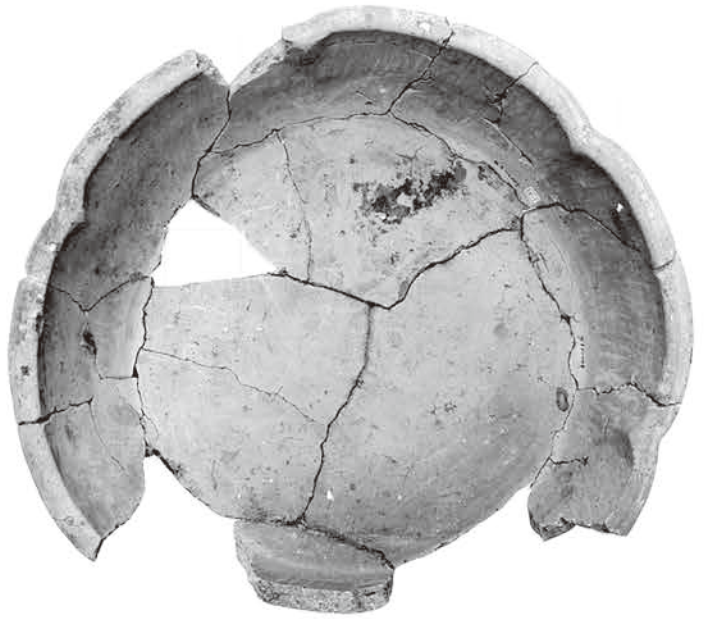
出土遺物 (4)



19-27



19-28



20-37

出土遺物 (5)



20-40



20-41



20-42



20-49



20-50



20-51



20-52



20-53



20-61



23-2



23-5



23-6



23-10



23-14



23-17



23-22



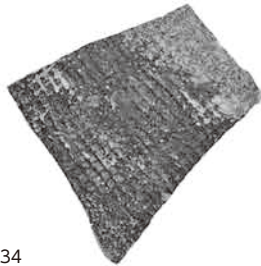
23-29



23-30



23-34



23-36



23-49

出土遺物 (6)



23-50



23-51



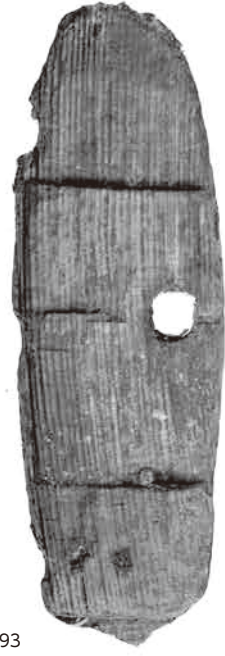
24-81



24-82



24-93



24-111



25-6



25-18



25-22



25-23



25-27



25-31

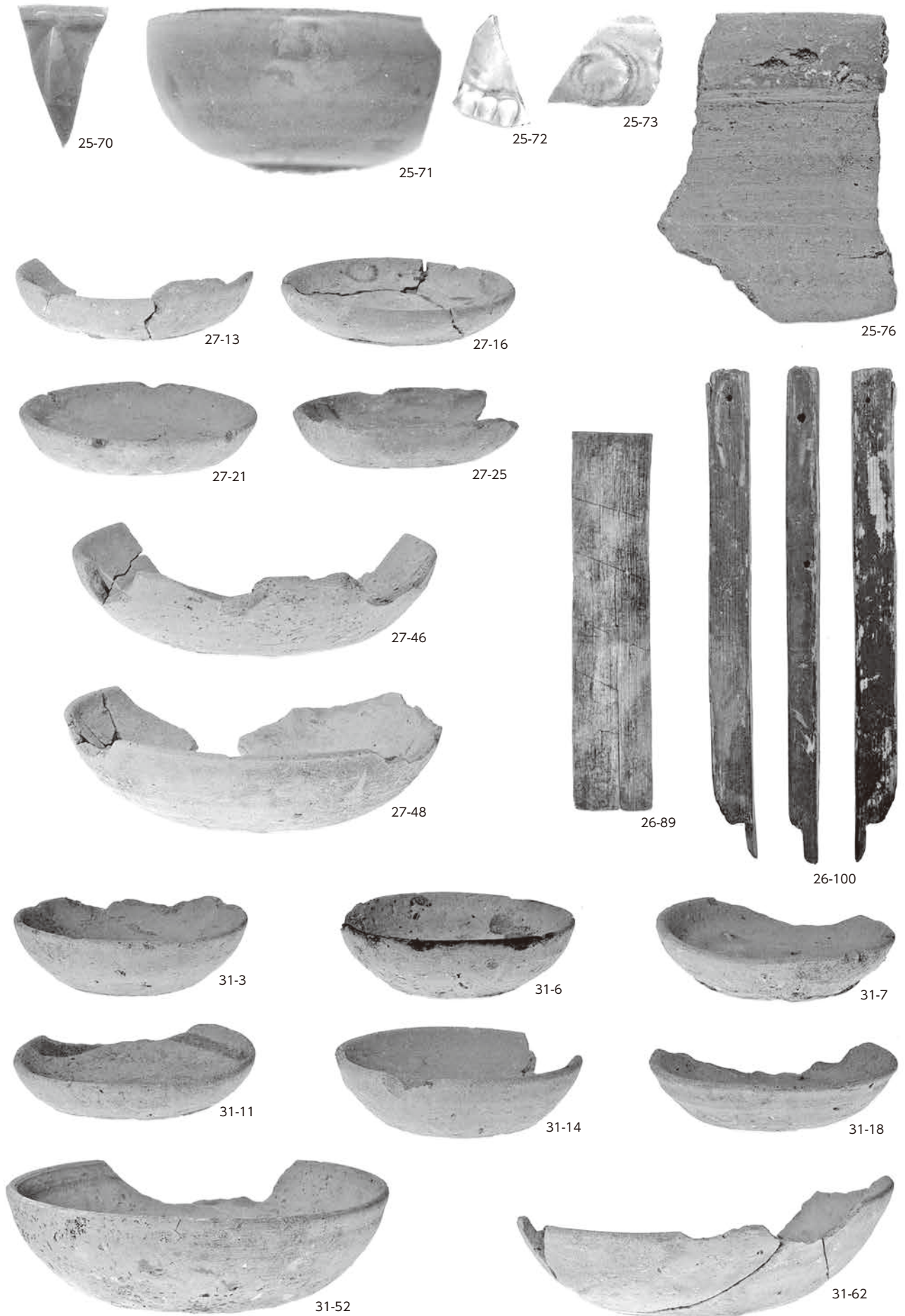


25-53



25-66

出土遺物 (7)

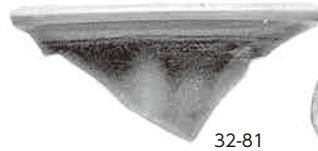


出土遺物 (8)

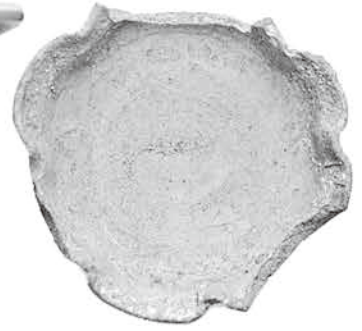




32-75



32-81



32-91



32-96



32-94



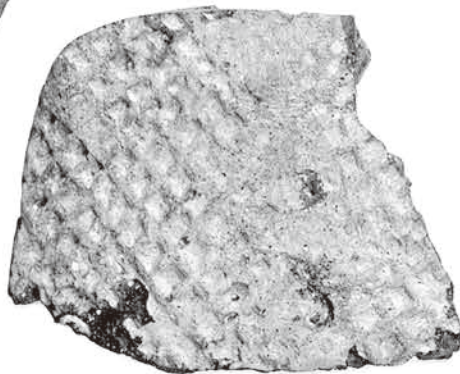
33-104



33-115



33-116



33-120



34-132  
出土遺物 (9)



35-5



35-14



39-1



39-4



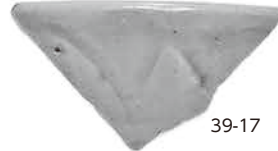
39-5



39-10



39-16



39-17



39-21



41-8



41-12



41-23



41-29



41-30



41-31



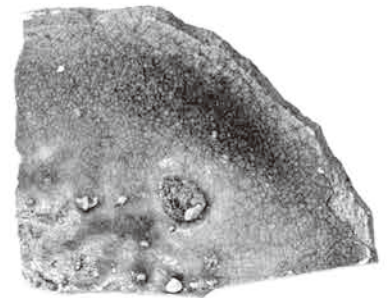
41-37



41-43



41-45



41-54



41-51



41-54



41-55

出土遺物 (10)



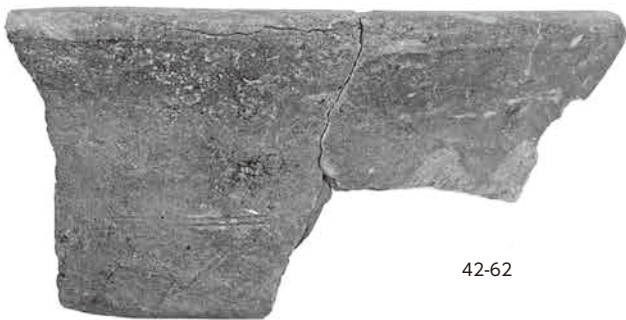
42-57



42-58



42-59



42-62



42-67



42-68



42-69

出土遺物 (11)



# 今小路西遺跡 (No. 201)

由比ガ浜一丁目 157 番 7 外地点

## 例 言

1. 本報は「今小路西遺跡」内、由比ガ浜一丁目157番7外における埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 調査期間 2005年10月31日～2006年1月18日  
調査面積 63.75㎡
3. 本調査地点の略称はINY1157とした。
4. 調査体制  
担 当 者 馬淵和雄  
調 査 員 松原康子・鍛冶屋勝二・松葉崇・根本志保（資料整理）・沖元道（資料整理）  
調査補助員 岩崎卓治（資料整理）  
作 業 員 小口照男・藤枝正義・堀住稔・沼上三代治（社団法人鎌倉シルバー人材センター）
5. 本報作成分担  
遺構図整理 沖元  
遺物実測 松原・根本・岩崎  
同墨入れ 松原・根本・岩崎  
同観察表 松原  
原稿執筆 馬淵・沖元・根本（担当部分末尾に執筆者名を記す）  
編集・総括 馬淵

# 目 次

## 本 文 目 次

第一章 調査地点概観	90
1. 位置と地勢	90
2. 歴史的環境	96
3. 周辺の遺跡	100
第二章 調査の概要	102
1. 調査にいたる経緯	102
2. 調査方法	102
3. 調査経過	102
第三章 調査結果	104
第1節 概略	104
1. 層序と面の概要	104
2. 調査区壁面からの出土遺物	109
第2節 各説	109
1. I a面上層	109
2. I a面	109
3. I b面	120
4. II面	129
5. III a面	132
6. III b面	133
7. III c面	136
8. IV面	136
9. 中世以前・採集遺物	138
第四章 まとめと考察	148
1. 東側隣地との関係	148
2. 遺構の変遷と年代	148
3. 東西溝の変遷	152
4. まとめ	152

## 挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡	92	図8 I a面遺構全図、I a面出土遺物(1)	112
図2 明治15年頃の鎌倉と近代の地形	97	図9 I a面出土遺物(2)	113
図3 近世の絵図に見る調査地点	99	図10 I a面出土遺物(3)	114
図4 調査区設定図	103	図11 I a面建物1・2、土坑7、同出土遺物	115
図5 調査区土層図、調査区壁出土遺物	106	図12 I a面柱穴列1・2、柱穴列1出土遺物	116
図6 I a面上層 溝1	110	図13 I a面土坑1、同出土遺物	117
図7 溝1・同裏込め出土遺物	111	図14 I a面方形土坑1・2、I 方面小穴出土遺物	118

図15 I b面遺構全図、同出土遺物・ 土師器片地形出土遺物……………	119	図25 III b面遺構全図、同出土遺物……………	130
図16 I b面溝1b、同出土遺物……………	120	図26 III b面溝4、同出土遺物……………	131
図17 I b面溝2、同出土遺物……………	121	図27 溝4出土遺物(2)、溝5、溝状遺構…	132
図18 I b面建物3～5、柱穴列3、 同出土遺物……………	122	図28 III b面建物8、同出土遺物……………	134
図19 土坑2～6、同出土遺物、 I b面小穴出土遺物……………	124	図29 建物9、土坑10・11・P178、 III 9面小穴出土遺物……………	135
図20 II面遺構全図、溝6、II面出土遺物…	125	図30 III c面遺構全図、III c面出土遺物・ 柱穴列4……………	136
図21 II面溝3、建物6……………	126	図31 IV面遺構全図、溝8、2区最終深掘り…	137
図22 溝3・P79出土遺物……………	127	図32 中世以前・遺構外採集遺物……………	138
図23 III a面遺構全図、III a面出土遺物、 溝7、同出土遺物……………	128	図33 遺構変遷図……………	149
図24 建物7、III a面小穴出土遺物……………	129	図34 断面から見た溝の変遷……………	150
		図35 東側隣地調査区と本調査区……………	151

## 表 目 次

表1 溝4貝類出土表……………	133	表6 出土遺物観察表(5)……………	143
表2 出土遺物観察表(1)……………	139	表7 出土遺物観察表(6)……………	144
表3 出土遺物観察表(2)……………	140	表8 出土遺物観察表(7)……………	145
表4 出土遺物観察表(3)……………	141	表9 出土遺物観察表(8)……………	146
表5 出土遺物観察表(4)……………	142	表10 出土遺物計量表……………	147

## 図 版 目 次

図版1……………	153	図版4……………	156
1-1 塔ノ辻から今小路を望む		4-1 I a面2区土坑7(西から)	
1-2 塔ノ辻から大町大路西半を望む		4-2 I a面2区小穴152・153	
1-3 大町大路西端部を東から望む		4-3 I a面1区土坑1(東から)	
1-4 大町大路を西端近くから望む		4-4 土坑1青白磁梅瓶(図13-14) 出土状況(北から)	
図版2……………	154	図版5……………	157
2-1 I a面1区全景(南から)		5-1 I b面1区全景(南から)	
2-2 I a面1区全景(西から)		5-2 I b面1区全景(西から)	
2-3 I a面上層1区溝1		5-3 I b面2区全景(南から)	
図版3……………	155	5-4 I b面2区全景(西から)	
3-1 I a面2区全景(南から)		図版6……………	158
3-2 I a面2区全景(西から)		6-1 I b面1区溝2(東から)	
3-3 I a面2区柱穴列1(南から)		6-2 I b面1区土師器片地形(南から)	
3-4 I a面2区柱穴列1(西から)		6-3 I b面1区土坑5・6(西から)	
		6-4 I b面1区土坑3(西から)	



図版7	159	図版13	165
7-1	I b面2区溝2(西から)	13-1	Ⅲc面2区全景(南から)
7-2	I b面2区溝1b(西から)	13-2	Ⅲc面2区全景(西から)
7-3	I b面2区溝2土層断面(東から)	図版14	166
図版8	160	14-1	Ⅳ面2区全景(南から)
8-1	Ⅱ面1区全景(南から)	14-2	Ⅳ面2区全景(西から)
8-2	Ⅱ面1区全景(西から)	14-3	最終深掘り・南壁際(東から)
8-3	Ⅱ面2区全景(南から)	14-4	最終深掘り・中央(東から)
8-4	Ⅱ面2区全景(西から)	14-5	最終深掘り・西壁際(南から)
8-5	Ⅱ面2区(溝掘削後・西から)	図版15	167
図版9	161	15-1	1区西壁土層断面
9-1	Ⅱ面1区溝3(東から)	15-2	1区西壁溝土層断面
9-2	Ⅱ面2区溝3(西から)	図版16	168
9-3	Ⅱ面2区溝3貝殻集中出土の状況 (北から)	16-1	2区西壁土層断面
図版10	162	16-2	2区西壁溝土層断面
10-1	Ⅲa面2区全景(南から)	図版17	169
10-2	Ⅲa面2区全景(西から)	17-1	1区南壁土層断面
10-3	Ⅲa面2区小穴172・175(東から)	17-2	2区南壁土層断面
10-4	調査風景	図版18	170
図版11	163	出土遺物1	
11-1	Ⅲb面1区全景(南から)	図版19	171
11-2	Ⅲb面1区全景(西から)	出土遺物2	
11-3	Ⅲb面2区全景(南から)	図版20	172
11-4	Ⅲb面2区全景(西から)	出土遺物3	
図版12	164	図版21	173
12-1	Ⅲb面1区溝5側板出土状況(南から)	出土遺物4	
12-2	Ⅲb面2区溝4(西から)	図版22	174
12-3	Ⅲb面2区小穴177	出土遺物5	
12-4	Ⅲb面2区下駄出土状況(南から)	図版23	175
12-5	Ⅲb面2区小穴12周辺出土状況	出土遺物6	
		図版24	176
		出土遺物7	

# 第一章 調査地点概観

## 1. 位置と地勢

### 佐助ヶ谷と佐助川

鎌倉駅から西へ300 m程の所に位置する源氏山から南に延びる丘陵を西に越えると、南北に長い佐助ヶ谷と呼ばれる谷戸がある。この佐助ヶ谷は開口部幅400 m、奥行き900 mほどの主谷と多くの小支谷で構成され、中央を佐助川が流れる。現在佐助川は谷戸の開口部付近から東流して、鎌倉の沖積地と砂丘が接する下馬のあたりで滑川に合流している。

佐助川と思われる中世期の河川跡が調査地点から北東に140 mの地点17で検出されており調査区の北端付近を東西方向に流れる。12世紀末から13世紀初頭にあたる鎌倉時代初期河川は自然流路で蛇行気味であり、13世紀前葉から中頃の後期河川は護岸が設けられ流路もさらに北に移され直線的である。15世紀代には調査区内に河川は見られなくなるので現在の位置の近くに流路を移動した可能性が高い。調査地点より東に90 mに位置する地点8では調査区北側で東西に延びる古墳後期の自然流路の検出がある。中世期の面では検出がないので現在の位置の近くに移動した可能性が高い。調査地点から北東に320 mの地点41では未報告のため詳細は明らかではないが中世期の遺構群の他に佐助川の可能性のある堆積層が検出されている。調査地点より北西に180 mの谷の入り口付近に位置する地点191では、調査区東端拡張トレンチで中世期の佐助川西岸の落ち込みの検出がある。更に谷奥へ向かった調査地点から北西に280 mのところを位置する地点187で佐助川と思われる河川跡が南北の方向で検出されている。2～3時期の変遷が推測されているが、年代の比定は出土遺物の磨耗によりできていない。

調査地点は由比ガ浜一丁目157番7外に所在し、鎌倉駅西口から南西に550 mのところ、谷の開口部付近で佐助川が東流し、そこから70 m先の佐助川右岸、南に50 mの所に位置する。地表面9.65 mの海拔高である。調査地点の周辺は住宅地であり佐助川も付近では暗渠になっているため平坦である。上本進二による「中世鎌倉の地形復元図」では調査地点は砂丘後背地(旧砂丘)とされている。周辺は砂質低湿地、谷底平野等、一見平坦地でも複雑な地勢をなしている。

### 天狗堂と飢渴島

遺跡の北側丘陵部には「天狗堂」があったとされる。『新編鎌倉誌』によれば佐助ヶ谷の東側の丘陵南端付近にはかつて愛宕神社があったと伝えられ、その後天狗堂とされたという。『太平記』では元弘三年(1333)五月の新田義貞による鎌倉攻めのくだりで、この地が「天狗堂」であったとされている。『新編相模国風土記』には佐助ヶ谷の字に「天狗堂」と記される。また、調査地点から北東に270 mの所に「裁許橋」があり『新編鎌倉誌』では裁許橋の南の路端に「飢渴島<sup>けがちぼたけ</sup>」とされる場所があったとする。いわく、昔から刑罰の場所で今も罪人をさらし「斬戮」する地であるため耕作せずその名が付いたとする。その由来として現在、裁許橋を南に300 mほど南下した所に六地藏が残る。

六地藏脇の地点29では近世の墓域が検出されている。埋葬人骨は24体を数え、遊離した骨も7・8体分ありそれらを含めると30体を数える。帰属年代は1780年以降19世紀代が充てられ、報告者は寺院に帰属しない共同墓地一村墓(市墓)もしくは限られた親族の氏墓として、「飢渴島」の伝承が「六地藏」の設置に結びついたとしている。つまり本来は通常の墓域であった当地に縁者等が途絶えて後、刑場跡との誤認が伝承されたと推察している(清水1995)。注目したいのは、1685年に刊行された『新編鎌倉誌』が「飢渴島」の項で「今も罪人をさらし」と記載しているところである。地点29の墓域の帰属年代は1780年以降が充てられている。近世に裁許橋から六地藏にかけての一带は、どこかで区切られるとしても刑場と墓域である様相を示す。しかし中世では地点29を含め周辺の遺跡は竪穴建物が多く検出され倉庫群が立ち

並ぶ様相を示す。

## 大町大路と「塔ノ辻」

調査地点の北40mを東西に走行する街路は、鎌倉市中の東西を端から端まで通じる唯一の道であり、これが鎌倉時代の「大町大路」である可能性がある。現況では若宮大路西脇でビルに寸断されて実感しにくくなっているが、往時、東は名越の山裾（現安国論寺門前）から西は笹目の山裾（現御成中学）まで通じていた。この道は調査地点の東250mで今小路と直交し、一帯には「塔ノ辻」の地名が残っている。

『新編鎌倉誌』には「笹目ヶ谷の東南道端に二箇所石塔有」と載る。大三輪龍彦は中世の都市計画的構想としては方眼的町割が存在したのではないかと、市域を方眼に割りその四隅にあたる場所に「辻」の名が残ることを指摘し「辻」は鎌倉外部に通じる主要道の出発点であり、方眼内を中枢部とし、外部とをつなぐ役割が成り立つのではないかとしている（大三輪1989）。その方眼もしくは境界を意識するならばこの地の「塔ノ辻」は、南西隅のそれに相当しよう。

## 甘縄と「今小路」

調査地点一帯は中世中期から「甘縄」の範囲とされる。『吾妻鏡』建長三年二月十日条に「甘縄辺燃亡」の記載があり、甘縄が「東若宮大路、南由比浜、北中下馬橋、西笹目ヶ谷」の中に含まれていたことがわかる。中下馬橋は二ノ鳥居のあたりであり、調査地点を含む。

調査地点から東に220mのところ、南北に延びる、現在「今小路」と呼ばれる鎌倉の主要道がある。この道は若宮大路を中心に小町大路とほぼ対照的な線をたどっているため中世都市の大路造成時のものと考えるのが自然である。「今小路」の史料による初見は、弘安七年（1284）八月十六日の「大井頼郷譲状」である。史料には、大井氏代々相伝の屋敷として「鎌倉之地一所いまこうち」という文言が確認できる。「いまこうち」は「今小路」であり、弘安年間にはこの名の小路が存在していたという資料である。しかし、それが現在の「今小路」と同じ道を指すかどうかは確証がない。貞享二年（1685）成立の『新編鎌倉誌』は、「今小路」を寿福寺前から南、長谷までの間をいうとする。17世紀後半には現在と変わらぬ形で存在していたことになる。

「若宮大路」「小町大路」など他の道が「大路」であるのに対し「今小路」が「小路」と呼ばれることはあまり意味を成さないようである。「大路」とは『吾妻鏡』だけが記載し、他の文献ではたいがい「小路」である。『吾妻鏡』では幕府や鎌倉の町を実体以上に書き記そうと努力した結果であろうと石井進は言い、一方「小路」の名は「辻子」と書き、「厨子」・「づし」とも書くので「辻」とは違う。「辻子」の名は多く、「大路」が本来すべて小路であったとすると、小路よりさらに小さい通路のことは「辻子」と書いたのではないかという（石井1989）。

また扇ヶ谷辺からの道を「武蔵大路」ともいい、現在の「今小路」を「武蔵大路」とみる見方もある。『吾妻鏡』などの文献では「武蔵大路」は養和元年（1181）九月一六日条が初見でありしばしばその名は見られる。『吾妻鏡』の仁治二年（1241）十月二二日条、文永三年（1266）七月四日条等では「亀ヶ谷」「氣和飛坂（化粧坂）」などの地名とともにも見られ、それらを総合的にみると「武蔵大路」は鶴岡八幡宮赤橋前から西に亀ヶ谷を通り、化粧坂を経て深沢を通過して武蔵に向かう道であった可能性があり、とすれば鎌倉と武蔵とを結ぶ重要な交通路であったと考えられる。「武蔵大路」は、「今小路」を意識し寿福寺を基点にするならばそれより北を示すのではないか。

（根本）

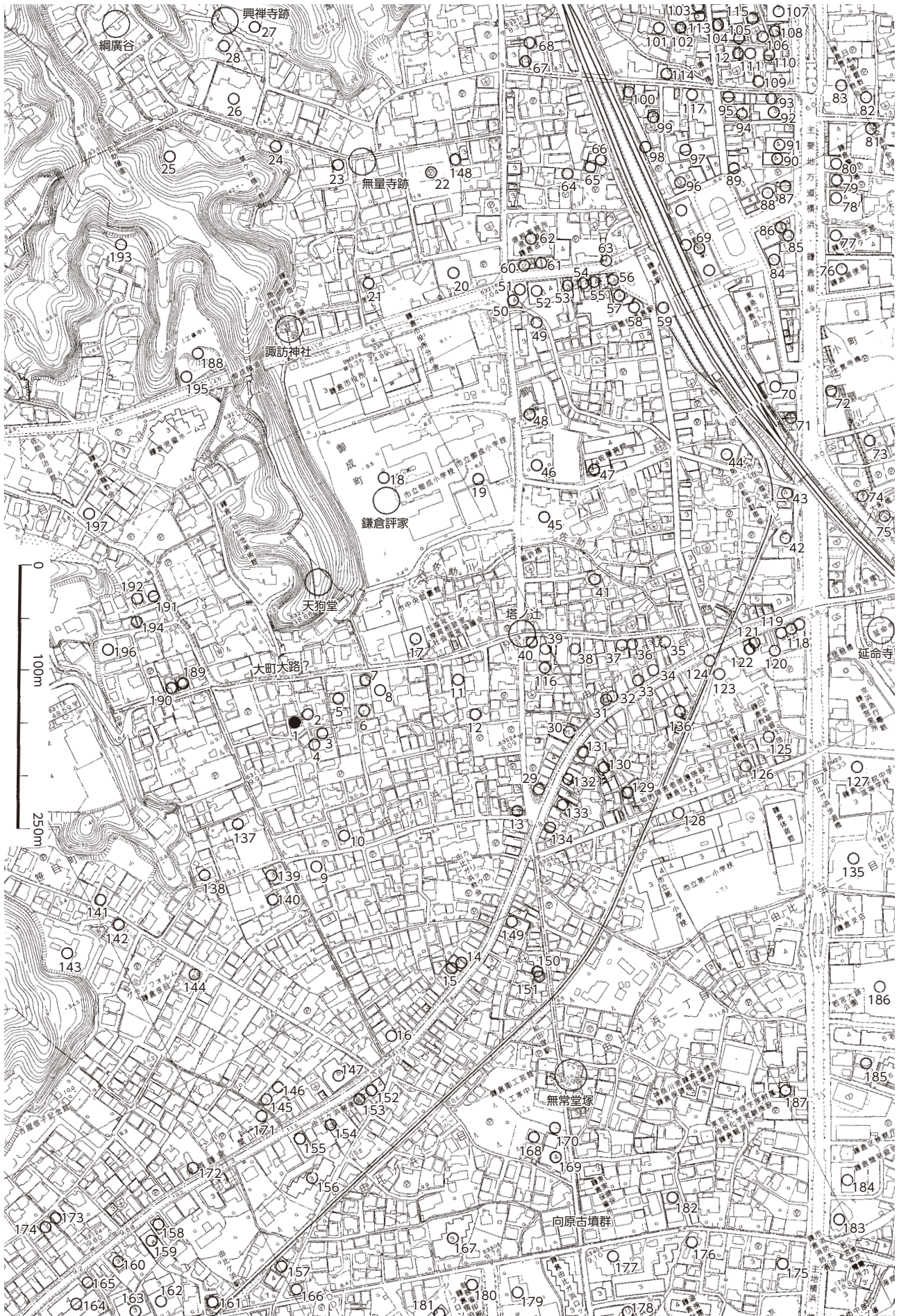


図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡

今小路西遺跡 (NO.201) 1. 本調査地点 2. 由比ガ浜一丁目151-1(2007熊谷)2009「鎌倉の埋蔵文化財」12鎌倉市教育委員会3. 由比ガ浜一丁目147-2(2007原)4. 由比ガ浜一丁目147-1(2007斉木)5. 由比ガ浜一丁目148-11(1983赤星)1983赤星『発掘調査概要』鎌倉市由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡発掘調査団6. 由比ガ浜一丁目148-5(2001宮田)宮田ほか『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会7. 由比ガ浜一丁目148-1(2000野本)2002野本『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会8. 由比ガ浜一丁目141-5(2006小林義典)2007香川『第17回鎌倉市遺跡調査研究発表会 発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会9. 由比ガ浜一丁目197-2(2006瀬田)2007瀬田『今小路西遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉調査会10. 由比ガ浜一丁目165-2(2008齋木)由比ガ浜一丁目136-1(2008宮田)12. 由比ガ浜一丁目134-4(2008伊丹)13. 由比ガ浜一丁目183-1(2000汐見)2002汐見『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会14. 由比ガ浜一丁目213-3(1991宗台)1993宗台『今小路西遺跡』今小路西遺跡発掘調査団15. 由比ガ浜一丁目213-12(2007熊谷)16. 由比ガ浜一丁目211-18・19(2009熊谷)17. 御成町625-2(1989河野)1989河野ほか『今小路西遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会18. 御成町625-3(1984・1985河野)1990河野ほか『今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会19. 御成町625-3(1991河野)1993河野『今小路西遺跡(御成小学校内)第5次発掘調査概要』鎌倉市教育委員会20. 御成町15-5(1980手塚)1982手塚ほか『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団21. 御成町200-2(2003原)2006原ほか『市緊急調査報告書』22鎌倉市教育委員会22. 御成町171-1(2006.2007菊川)2008菊川『今小路西遺跡(NO.201)発掘調査報告書』(株)齊藤建設23. 御成町25-1(2002宮田)2003森ほか『今小路西遺跡発掘調査報告書』今小路西遺跡発掘調査団24. 御成町39-6 148. 御成町176-7(2006宮田)鎌倉城(NO.87)25. 御成町39-36(2005菊川)2006菊川『鎌倉城(NO.87)発掘調査報告書』(株)博通(2006瀬田)『鎌倉城(NO.87)発掘調査報告書第2次調査』(株)齊藤建設無量寺跡(NO.196)26. 扇ガ谷一丁目26-14(2006宮田)2008宮田ほか『無量寺跡(第4次)発掘調査報告書』(株)博通27. 扇ガ谷一丁目26-27(2002森)2005森ほか『市緊急調査報告書』21鎌倉市教育委員会28. 扇ガ谷一丁目26-89(2005森)若宮大路周辺遺跡群(NO.242)29. 由比ガ浜一丁目129-5(1993清水)1995清水『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団30. 由比ガ浜一丁目128-7(1986馬淵)1995馬淵『市緊急調査報告書』5鎌倉市教育委員会31. 由比ガ浜一丁目120-6(1991・1992田代)32. 由比ガ浜一丁目120-2・14(2008斉木)33. 由比ガ浜一丁目118-1134. 由比ガ浜一丁目118-1035. 由比ガ浜一丁目117-1(1998斉木)1991斉木『由比ガ浜1-117-1地点遺跡』由比ガ浜1-117-1地点遺跡発掘調査団36. 由比ガ浜一丁目118-7(1995田代)1998遠藤ほか『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会37. 由比ガ浜一丁目118(1987・1988馬淵)1995馬淵『若宮大路周辺遺跡群一由比ガ浜一丁目188番地一の発掘調査について』38. 由比ガ浜一丁目1234-5(1994馬淵)1995馬淵『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会39. 由比ガ浜一丁目126-340. 由比ガ浜一丁目126-141. 御成町727(1990木村)42. 御成町884-

6(1997宮田)1990宮田ほか『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団43. 御成町872-14(1991木村)1992木村ほか『市緊急調査報告書』8鎌倉市教育委員会44. 御成町868(1990木村)1993木村『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会45. 御成町763-5(2007斉木)46. 御成町783-1(2005斉木)2009斉木『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会47. 御成町778-1(1988田代)1989『神奈川県埋蔵文化財調査報告』31神奈川県教育委員会48. 御成町786-1(1999斉木)2002『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団・(有)鎌倉遺跡調査会49. 御成町790-7(2006浜野)2007浜野『神奈川県埋蔵文化財調査報告』神奈川県教育委員会50. 御成町788-3・5(1995継)1997継『市緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会51. 御成町808-6(2005浜野)2007浜野『神奈川県埋蔵文化財調査報告』神奈川県教育委員会52. 御成町11-36(1981斉木)1985斉木『諏訪東遺跡』諏訪東遺跡委員会53. 御成町806-9(1981斉木)1982斉木『鎌倉考古学研究所研究報告第2集』鎌倉考古学研究所54. 御成町81-1(1991田代)1993田代ほか『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会55. 御成町818-1(1991松尾)1993松尾『神奈川県埋蔵文化財調査報告』35神奈川県教育委員会56. 御成町819-1(1984玉林)1986『神奈川県埋蔵文化財調査報告』28神奈川県教育委員会57. 御成町11-1(1989菊川)1999菊川『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団58. 御成町802-2(2002斉木)2003瀬田『第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会59. 御成町11-15(1981手塚)1983手塚ほか『蔵屋敷東遺跡発掘調査報告書』江ノ電鎌倉ビル発掘調査団60. 御成町228-2(1985斉木)1987斉木『御成町228-2他地点遺跡』千葉地東遺跡発掘調査団61. 御成町130-6(1984松尾)1985松尾『神奈川県埋蔵文化財調査報告』27神奈川県教育委員会62. 御成町12-18(1984服部)1986服部『千葉地東遺跡』神奈川県埋蔵文化財センター63. 御成町12(1980宇田川)1981宇田川『鎌倉考古』5鎌倉考古学研究所64. 御成町126-1(2003汐見)2007汐見『市緊急調査報告書』23鎌倉市教育委員会65. 御成町123-3(2004福田)2009福田『市緊急調査報告書』25鎌倉市教育委員会66. 御成町123-5(1997汐見)1999汐見『市緊急調査報告書』15鎌倉市教育委員会67. 扇ガ谷一丁目74-8・10(1988菊川)1990菊川『市緊急調査報告書』6鎌倉市教育委員会68. 扇ガ谷一丁目74-9(1993菊川)1994菊川『市緊急調査報告書』10鎌倉市教育委員会69. 小町一丁目103-9(1982調査会)1984服部『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎にかかる遺跡調査会70. 小町一丁目83-1(1990(株)四門)1993四門『鎌倉市早見芸術学園改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(株)四門71. 小町一丁目83-3(2007宮田)2008宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(株)博通72. 小町一丁目287-13(1992斉木)1992斉木『鎌倉考古』22鎌倉考古学研究所73. 小町一丁目276-18(2005宮田)2006宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(株)博通74. 小町一丁目1028-1(1990大河内)1997大河内『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』小町一丁目1028番1地点』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団75. 大町一丁目1032-176. 小町一丁目305・308(1975斉木)1983斉木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1鎌倉市教育委員会77. 小町一丁目891

(1979・1980 齊木) 1985 齊木『(推定) 藤内定員邸遺跡』鎌倉市教育委員会 78. 小町一丁目 891(1978 齊木)1983 齊木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1 鎌倉市教育委員会 79. 小町一丁目 309-5(1982 齊木)1983 齊木『小町一丁目 309 番 5 地点発掘調査報告書』(推定) 藤内定員邸遺跡発掘調査団 80. 小町一丁目 319-2(1978 齊木)1983 齊木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1 鎌倉市教育委員会 81. 小町一丁目 321-1(1993 宮田)1996 宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 82. 小町二丁目 345-2(1983 馬淵)1985 馬淵『小町二丁目 345 番 2 地点遺跡発掘調査報告書』小町二丁目 345 番 2 地点遺跡発掘調査団 83. 小町二丁目 349-1(2008 三ツ橋) 84. 小町一丁目 81-8(1991 宮田)1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 鎌倉市小町一丁目 81 番 8 地点』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 85. 小町一丁目 81-23(1988 田代)1990『神奈川県埋蔵文化財調査報告』32 神奈川県教育委員会 86. 小町一丁目 81-18(1998 宮田)2000 宮田『市緊急調査報告書』16 鎌倉市教育委員会 87. 小町一丁目 75-1(1979 齊木)1982『鎌倉考古学研究所調査研究報告第 1 集』鎌倉考古学研究所 88. 小町一丁目 75-1(1979 齊木)1982 齊木『鎌倉考古学研究所調査研究報告第 1 集』鎌倉考古学研究所 89. 小町一丁目 65-21(1979 河野)1982 齊木ほか『鎌倉考古学研究所調査研究報告第 1 集』鎌倉考古学研究所 90. 小町一丁目 67-2 (1987 福田) 1994 福田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 91. 小町一丁目 66-5(1996 原)1997 原『市緊急調査報告書』39 鎌倉市教育委員会 92. 小町一丁目 66-3(1977 齊木)1983 齊木『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査報告書』1 鎌倉市教育委員会 93. 小町一丁目 65-30(2005 鈴木啓介)2007 鈴木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51 神奈川県教育委員会 94. 小町一丁目 65-10(1977 松尾)1983 松尾『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査報告書』1 鎌倉市教育委員会 95. 小町一丁目 65-26(2009 宮田) 96. 小町一丁目 107-7(2010 宮田) 97. 小町一丁目 106-1(1987 手塚)1999 手塚『若宮大路周辺遺跡群』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 98. 小町一丁目 116-4(1989 手塚)1999 手塚『若宮大路周辺遺跡群』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 99. 小町一丁目 116 (1985 馬淵) 1986 馬淵『市緊急調査報告書』2 鎌倉市教育委員会 100. 小町一丁目 120-1(1986 手塚)1989 手塚『小町一丁目 120 番 1 地点』風門ビル発掘調査団 101. 小町二丁目 11-2(2005 森)2007 森『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51 神奈川県教育委員会 102. 小町二丁目 12-10(1991 大河内)1991 大河内『鎌倉考古』20 鎌倉考古学研究所 103. 小町二丁目 12-15(1990 菊川)1992 菊川『市緊急調査報告書』8 鎌倉市教育委員会 104. 小町二丁目 5-23(1989 福田)1990 福田『市緊急調査報告書』6 鎌倉市教育委員会 105. 小町二丁目 4-9(1996 手塚)1997 野本『第 7 回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 106. 小町二丁目 4-1(2005 菊川)2006 菊川『若宮大路周辺遺跡群(NO.242) 発掘調査報告書』(株)斉藤建設 107. 小町二丁目 283-6(1997 宮田)1998 宮田『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 108. 小町二丁目 283 (2003 宮田) 2007 宮田『市緊急調査報告書』23 鎌倉市教育委員会 109. 小町二丁目 1-6(2002 汐見)2003 汐見『神奈川県埋蔵文化財調査報告』45 神奈川県教育委員会 110. 小町二丁目 1-14(1986 福田)1989 福田『神奈川県埋蔵文化財調査報告』30 神奈川県教育委員会

111. 小町二丁目 394(2005 浜野)2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51 112. 小町二丁目 1-14 (1986 福田) 113. 小町二丁目 12-18(1987 馬淵)1989 馬淵『市緊急調査報告書』5 鎌倉市教育委員会 114. 小町二丁目 63-9(1992 齊木)1993 齊木ほか『市緊急調査報告書』9 鎌倉市教育委員会 115. 小町二丁目 4-6(1986 田代)1989 田代『神奈川県埋蔵文化財調査報告』30 神奈川県教育委員会 116. 由比ガ浜一丁目 127-1 (2003 鈴木啓介) 2006 宗台『市緊急調査報告書』22 鎌倉市教育委員会 117. 小町一丁目 117-3(2005 滝澤)2006 滝澤『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(株)博通  
下馬周辺遺跡 (NO.200) 118. 由比ガ浜二丁目 2-2 (1988 福田) 119. 由比ガ浜二丁目 2-10(1990 福田) 120. 由比ガ浜二丁目 2-12 (1998 齊木) 1998 熊谷『下馬周辺遺跡一由比ガ浜二丁目 2 番 12 地点一』下馬周辺遺跡発掘調査団 121. 由比ガ浜二丁目 3-7(2005 田代)2007 田代『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51 神奈川県教育委員会 122. 由比ガ浜二丁目 3-6(2008 宮田) 123. 由比ガ浜二丁目 18-1(2001 汐見) 124. 由比ガ浜二丁目 18-1289(1990 宗台)1992 宗台ほか『下馬周辺遺跡 東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書』下馬周辺遺跡発掘調査団 125. 由比ガ浜二丁目 18-1(2001 汐見) 126. 由比ガ浜二丁目 27-9(1988 田代) 127. 由比ガ浜二丁目 1011-1(1989 大河内)1998 大河内『下馬周辺遺跡発掘調査報告書一鎌倉女学院地点一』下馬周辺遺跡発掘調査団 128. 由比ガ浜二丁目 39-14(2004 原)2010 原『市緊急調査報告書』26 鎌倉市教育委員会 129. 由比ガ浜二丁目 54-15(2008 伊丹) 130. 由比ガ浜二丁目 110-5(1998 菊川)2001 菊川『市緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会 131. 由比ガ浜二丁目 113-5(2009 伊丹) 132. 由比ガ浜二丁目 107-5(2007 鈴木絵美) 133. 由比ガ浜二丁目 107-1(1995 汐見)1997 汐見『市緊急調査報告書』13 鎌倉市教育委員会 134. 由比ガ浜二丁目 106-6・7 (2000 汐見)2000 汐見『市緊急調査報告書』18 鎌倉市教育委員会 135. 由比ガ浜二丁目 1075(2010 植山) 136. 由比ガ浜二丁目 19-1(2006 馬淵)  
笹目遺跡 (NO.207) 137. 笹目町 324・311-3(1988 田代・原)1990 田代ほか『昭和 63 年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策に伴う発掘調査報告書』笹目やぐら発掘調査団 138. 笹目町 423-2(2005 齊木)2010 降矢『市緊急調査報告書』26 鎌倉市教育委員会 139. 笹目町 425-1(1993 田代・継)1994 継ほか『市緊急調査報告書』10 鎌倉市教育委員会 140. 笹目町 302-11(2000 継)2002 継『市緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会 141. 笹目町 415-21(2003 原)2008 山口ほか『市緊急調査報告書』24 鎌倉市教育委員会 142. 笹目町 330-11(2002 原)2004 原『市緊急調査報告書』20 鎌倉市教育委員会 143. 笹目町 330-1(1988 大河内)1990 大河内『市緊急調査報告書』6 鎌倉市教育委員会 144. 笹目町 316-10(2006 森) 145. 笹目町 285-1(1999 伊丹)2001 伊丹『市緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会 146. 笹目町 286-1(1999 伊丹)2001 伊丹『市緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会 147. 笹目町 287-1(2003 田代)2005『鎌倉の埋蔵文化財』8 鎌倉市教育委員会  
長谷小路周辺遺跡 (NO.236) 149. 由比ガ浜三丁目 223-11(1989 齊木)1991 齊木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』33 神奈川県教育委員会 150. 由比ガ浜三丁目 228-2(1996 宗台)1998 宗台『市緊急調査報告書』14 鎌倉市教育委員会 151.

由比ガ浜三丁目228-229(1991宗台)1993宗台『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会 152.由比ガ浜三丁目254-1(2006鈴木絵美) 153.由比ガ浜三丁目254-15(1999原)2001原ほか『市緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 154.由比ガ浜三丁目9-41(1988斉木)1990斉木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』32神奈川県教育委員会 155.由比ガ浜三丁目258-8(1988斉木)1990斉木『市緊急調査報告書』6鎌倉市教育委員会 156.由比ガ浜三丁目258-1(1987斉木)1995斉木『長谷小路周辺遺跡 由比ガ浜三丁目258番1地点(NO.236)』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 157.由比ガ浜三丁目194-40(1990大河内)1997大河内『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 158.由比ガ浜三丁目194-25(1987斉木)1989斉木『市緊急調査報告書』5鎌倉市教育委員会 159.由比ガ浜三丁目194-24(1989宗台)1991宗台『市緊急調査報告書』7鎌倉市教育委員会 160.由比ガ浜三丁目11-39(1987斉木)1990斉木『由比ガ浜三丁目1999番1地点遺跡発掘調査報告書』由比ガ浜三丁目1999番1地点遺跡発掘調査団 161.由比ガ浜三丁目194-50(2002汐見)2004汐見『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会 162.由比ガ浜三丁目200(1979玉林) 163.由比ガ浜三丁目2-200(1995宮田)1997宮田ほか『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 164.由比ガ浜三丁目202-2(1984斉木)1992斉木『長谷小路南遺跡発掘調査報告書』長谷小路南遺跡発掘調査団 165.由比ガ浜三丁目204-5(2011) 166.由比ガ浜三丁目1175-2(1992馬淵)1994馬淵『市緊急調査報告書』10鎌倉市教育委員会 167.由比ガ浜三丁目1173-3(1999大河内)2001押木『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 168.由比ガ浜三丁目1262-6(1999宮田)2000宮田ほか『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』長谷小路周辺遺跡発掘調査団 169.由比ガ浜三丁目1262-2(1998宗台)2002宗台ほか『長谷小路周辺遺跡一(NO.236)一発掘調査報告書』東国歴史考古学研究所 170.由比ガ浜三丁目1256番外(2004宮田)2005宮田ほか『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』(株)博通 171.長谷一丁目270-1(2005浜野)2007浜野『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 172.長谷一丁目265-19(2005伊丹)2010伊丹『市緊急調査報告書』26鎌倉市教育委員会 173.長谷一丁目199-20(2001斉木)2003斉木『神奈川県埋蔵文化財調査報告』45神奈川県教育委員会 174.長谷一丁目205-12(2000汐見)2002汐見『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会

由比ガ浜中世集団墓地遺跡(NO.327) 175.由比ガ浜四丁目1107-32(2005森)2007『神奈川県埋蔵文化財調査報告』51神奈川県教育委員会 176.由比ガ浜四丁目1133-1(2002宗台)2004宗台ほか『第14回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 177.由比ガ浜四丁目1130(1993汐見)1999『貿易陶磁研究史料集 鎌倉大会資料集』日本貿易陶磁研究会 178.由比ガ浜四丁目1134-1(1986大河内)1996大河内『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書(古代編)』由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 179.由比ガ浜四丁目1136-11(1994斉木)1997伊丹ほか『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団 180.由比ガ浜四丁目1170-1(1992斉木)1994斉木『由比ガ浜4-6-9地点発掘調査報告書』由比ガ浜中世集団

墓地遺跡発掘調査団 181.由比ガ浜四丁目1142-1(1982玉林)1984『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1』鎌倉市教育委員会 182.由比ガ浜二丁目1235-4(2007伊丹) 183.由比ガ浜二丁目1015-1(2005瀬田)2009瀬田『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 184.由比ガ浜二丁目1023(1953・1956鈴木尚)1956鈴木ほか『材木座遺跡鎌倉市材木座発見の中世遺跡とその人骨』東京大学人類学教室・岩波書店 185.由比ガ浜二丁目1015-29(1991大河内)1991大河内『市緊急調査報告書』7鎌倉市教育委員会 186.由比ガ浜二丁目1034-1(1990・1991原)1993原ほか『市緊急調査報告書』9鎌倉市教育委員会 187.由比ガ浜二丁目1203-20(1998原)2000原『市緊急調査報告書』16鎌倉市教育委員会

佐助ヶ谷遺跡(NO.203) 188.佐助一丁目620(1986手塚)1989手塚ほか『佐助ヶ谷遺跡』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団 189.佐助一丁目450-24(1996宮田)1998宮田『市緊急調査報告書』14鎌倉市教育委員会 190.佐助一丁目450-25・27(1996宮田)1993『市緊急調査報告書』14鎌倉市教育委員会 191.佐助一丁目476-1(2000斉木)2002斉木『市緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会 192.佐助一丁目476-1(2001田代)2003若松『神奈川県埋蔵文化財調査報告』45神奈川県教育委員会 193.佐助一丁目583(2002瀬田)2005瀬田『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 194.佐助一丁目476-1(2001原)2004原『市緊急調査報告書』20鎌倉市教育委員会 195.佐助一丁目615-1(2003斉木)2007斉木『佐助ヶ谷遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会 196.佐助一丁目450-5(2004宮田)2009宮田『市緊急調査報告書』25鎌倉市教育委員会 197.佐助一丁目496-4(2005熊谷)2011熊谷『市緊急調査報告書』27鎌倉市教育委員会

## 2. 歴史的環境

ここでは調査地点から出土した遺物が古墳前期からなので同時代以降を述べる。

### 古墳時代

古墳時代前期の遺物は調査地点周辺で弥生式土器とともにまばらな散布がみられるが、集落としては確認されていない。鎌倉市の南西、逗子市と葉山町の境の相模湾を見下ろす桜山丘陵上に、長柄桜山1号、2号墳が築かれる。この古墳はいずれも全長90m前後の前方後円墳で、県内のこれまでに発見された古墳としては最大級に属する。長柄桜山古墳群の地はのちの律令時代には鎌倉郡と御(三)浦郡の境にあり、相模湾を舞台にした地域統合が広範に進められていたことを物語る。古墳時代後期になると集落の確認はないが砂丘地域で祭祀遺構が点々と検出される。

またこの時期、横穴墓も多い。調査地点周辺では、扇ヶ谷、笹目で確認されている。調査地点から南東に430mの砂丘地帯に和田塚がある。和田塚周辺は古い字を向原(むかいはら)といい、現在は見る影もないが高塚式古墳の向原古墳群があったとされる。現在の和田塚はもと「無常堂塚」という円墳で、明治28年創刊の『鎌倉旧跡地誌』では明治の頃はまだ円墳が残っている。「采女塚古墳」も古墳群のひとつで、明治20年(1887)に六地藏から由比ガ浜に向かう道の道路工事に際し塚を切崩したとき、人物埴輪三体の他に馬埴輪、円筒埴輪が出土した。和田塚周辺から御成町一帯にかけては時々埴輪片の出土がある。

### 古代

律令時代になると遺構・遺物は急増し、評家(郡家)や集落の発見がある。古代行政区画上の相模国は八郡で形成され、その内に鎌倉郡も含まれる。鎌倉郡は五つもしくは七つの郷で構成される。綾瀬市宮久保遺跡出土の「天平五年」銘木簡には「鎌倉郷」の名がある(天平五年は733年)。正倉院文書にも名は見られる。平安時代成立の「和名類聚鈔」(承平年間931～937成立)にも「鎌倉郷」の名が見られる。それらの史料により奈良時代前半の鎌倉郷に限ってみれば、高田王の食封三十戸と他の官戸二十戸が存在し、相模国の一郷平均人口である1521人前後(竹中1981)が暮らしていたとする推測が成り立つ。

調査地点より北東に270mの今小路西遺跡(御成小学校地点)地点18・19で鎌倉評家もしくは郡家の政庁が発見されたのは、1985年のことである。検出遺構は掘立柱建物12棟、礎石建物5棟、柵9条、池状凹地1基、溝3条であり、8世紀前半から10世紀初頭の遺跡群を5期に区分している。I期では天平五年(733年)の銘木簡の出土がある。政庁に関連すると考えられる周辺の遺跡をいくつかあげたい。地点18にほど近く真南に位置し、調査地点より150m東の地点17では地点18と同時代の掘立柱建物3棟、土坑、溝の検出がある。地点18の真北、調査地点より北東に550mの地点22では掘立柱建物10棟、竪穴建物1棟、溝、柱穴が発見され、7世紀中葉から9世紀以降の時期を充て5期に区分している。地点18に先行する時代の建物を省けば同時代の6棟の掘立柱建物が検出されている。調査地点から北東に510mの地点55では8世紀後半の掘立柱建物3棟、竪穴建物3棟が検出されている。その隣接地、調査地点より北東に520mの地点56では8世紀後半の掘立柱建物1棟の検出がある。調査地点から北東660mの地点97では掘立柱建物2棟、竪穴建物(1～4号住居)4軒、掘立柱建物2棟が確認されている。遺構は8世紀前半から10世紀中葉に位置づけられており、地点18で検出された基壇状遺構とどう関わるかが課題となろう。

地点18と時代を同じくする集落遺跡は由比ガ浜に多く検出されている。集落としては、砂丘上に形成された、調査地点から南に580mの地点179、南に650mの地点178があげられる。

こうした古代鎌倉の様相について菊川英政は、遺跡を砂丘域・郡衙域・周辺域に分けた上で遺跡・遺物の点数の変化から次のように説明する。(菊川1997)



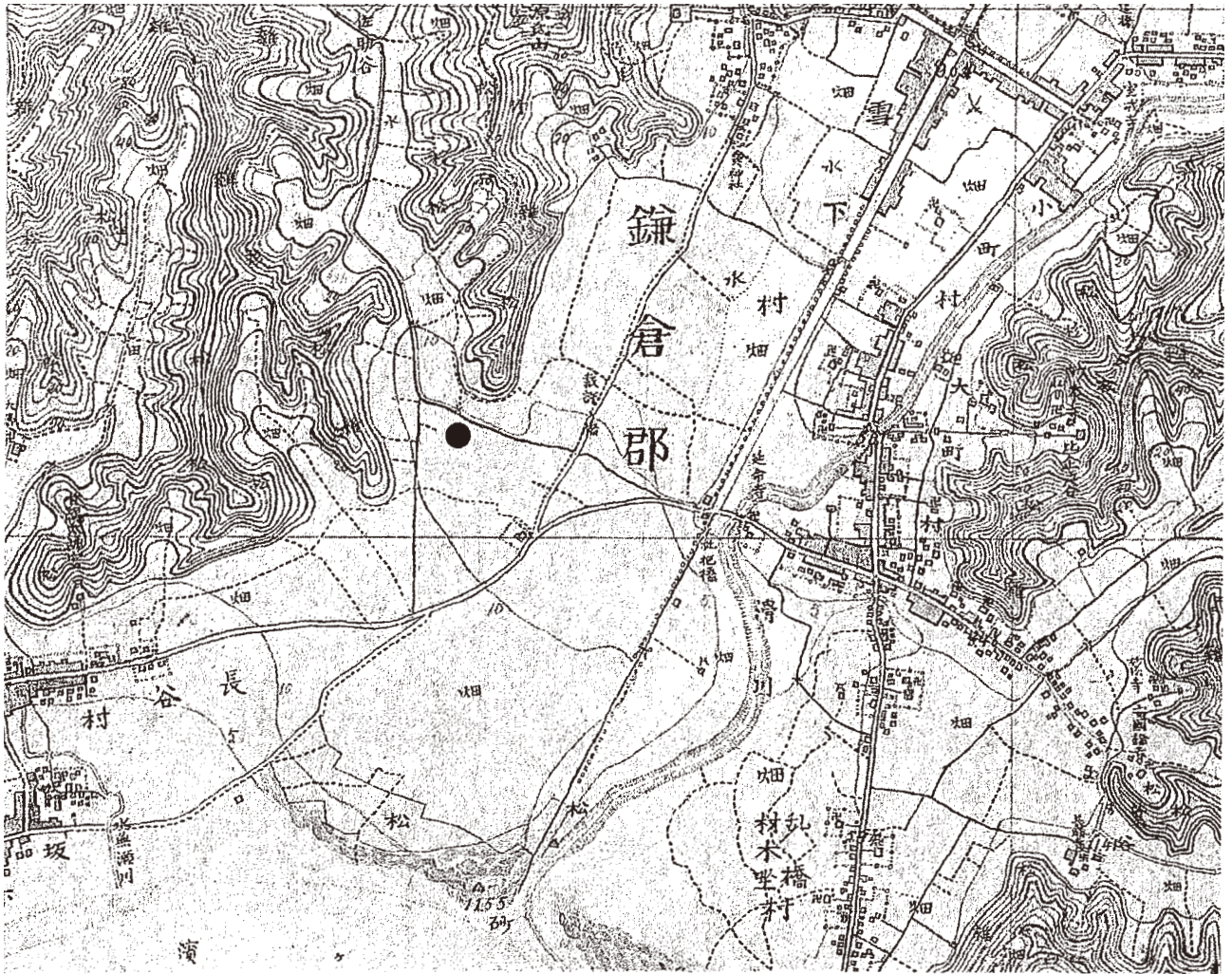


図2 明治15年ごろの鎌倉（『迅速測図』）と近代の地形（上本2000）

8世紀前半には郡家は砂丘後背地に付属舎群と共に存在する。それ以前7世紀後半に砂丘域で遺構・遺物とも多く見られるのは菊川によれば、郡家造営に伴う集団移住が行われたからであり、8世紀前半に郡衙域に遺構・遺物の増加がみられるのはその存在からとする。その一方このころから砂丘域では逆に急激に落ち込むことから、集落は郡家が完成するまでの一時的な移住であったという。9世紀前半は砂丘域、郡衙域とも変化は見られないが、菊川によれば後半に郡衙域だけ比率が低くなるのは鎌倉郡家の消長に対応しているという。他地域に移転した確証がないことに加え、既存集落の撤去あるいは無住の耕地を潰すにしても政庁域には広大な土地が必要であり、新たな集落の増加が抑えられるはずなので、政庁が同じ郡家内へ移転したことよるとしている。周辺域では7世紀中葉から遺跡は見られるが、主に9世紀を主体とした丘陵斜面あるいは尾根上で集落は形成される。このことに関して菊川は9世紀前半の急増は丘陵部への耕地拡大を図ったものであり、9世紀前半で減少傾向にあるのは元慶二年(878)の大震災による可能性もあるとする。が、周辺域とした傾向が実は異なる地域の特徴が混在したものであり、地域的根底の特徴には立地が大きく関わっているとしている。10世紀前半から後半にかけて砂丘域、郡衙域ともに減少傾向にあり、10世紀後半は三域とも一定の遺跡を残し衰退する様子が観察されるが、10世紀中葉から11世紀後半は律令制が崩壊する時期であり、一般集落遺跡においても住居件数が減少し、集落は解体する。鎌倉中心域の変化はそうした社会変化を反映した現象としている。

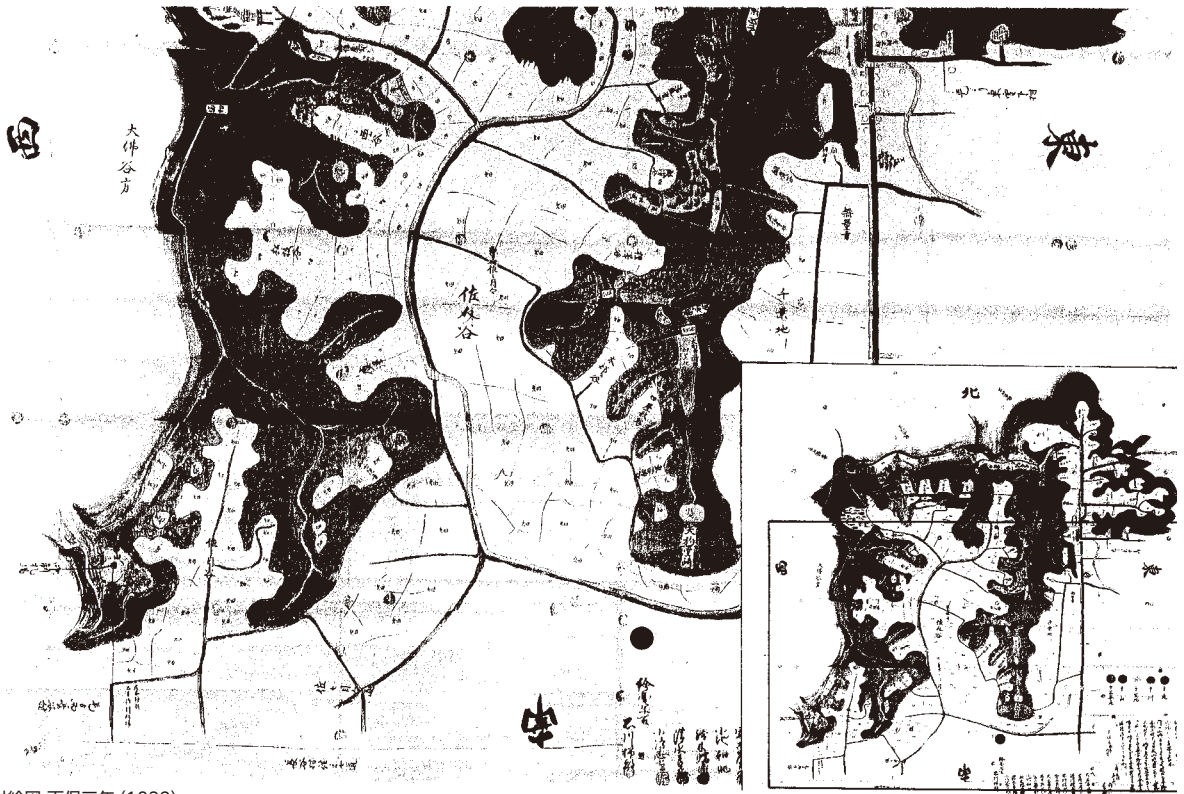
## 古東海道と鎌倉

大化改新(645)直後から宝亀二年(711)の五畿七道制の改編まで、鎌倉を東海道が通過していた。この街道がどこを通過していたかという問題は、それ以後の鎌倉の町構造を規定する重要な点なので、ここで触れておきたい。

東海道が鎌倉に入る経路は、ほぼ二系統が想定される。一本は、相模国府から海岸沿いに鎌倉郡に至り稲村ガ崎と霊山ヶ崎の間の鞍部を超えて鎌倉湾岸側に抜け、稲瀬川河口から鎌倉郷に入る経路である。もう一本は、海老名から藤沢下土棚を経て藤沢市川名から鎌倉に入る。この場合は明治時代に敷設された横須賀水道道にほぼ重なる。(木下1997)。以上二経路のいずれも考古資料による検証はまだされていない。またどちらであっても、その先、鎌倉郷を横断する経路にも二系統が想定されている。すなわち、ほぼ六地藏交差点から現在の下馬四つ角交差点を東に渡り、現在の大町四つ角から小坪方面に抜ける経路と、その一本南の、六地藏交差点から私立中高校の北側を通り元鶴岡八幡宮の前を通り小坪に抜ける経路である。二経路周辺の基盤層近くから古代の土器が出土するのは、東海道の存在が背景にあるからだろう。古官道の道筋は中世鎌倉の都市構造を解明していく上で大変重要な問題であり、今後も注視していく必要がある。

調査地点は現在今小路と呼ばれる道の近くである。今小路については前述しているが、中世都市鎌倉の大路造成に関わることを記載すると、治承四年(1180)、源頼朝が鎌倉に入り大倉に幕府を開いた。このとき旧来の集落構造の上に鶴岡八幡宮と若宮大路が置かれ、現代まで続く町並みの骨格が出来上がる。若宮大路を中心に小町大路とほぼ対称位置にある現在の今小路、南方の二本の東西道、「大町大路」、「車大路」が造成されたとみる。

「小町大路」は『吾妻鏡』等の史料に多々見受けられ、現在の宝戒寺の前から南の夷堂橋までが相当するのは確実である。「大町大路」に関しては、田代郁夫は『吾妻鏡』に見られる「小町大路」のさまざまな記事を検討した上で、夷堂橋以南の南北道を「大町大路」というのではないかとしている。(田代1998)これに対し馬淵和雄は、西は御成中学校の下から東は安国論寺までの道を鎌倉の平坦部を横断する唯一の道であり、これが「大町大路」ではないかと言っている。馬淵はその根拠として、次のようにいう。「大町大路」と「車大路」という、『吾妻鏡』に現われる鎌倉南域の東西道路2本のうち、後者に関しては、安貞二年(1238)十月十五日条に見られる小山生西の家がこの大路と「若宮大路」の交差点北東角にならなくてはならない。



扇ヶ谷村絵図 天保三年(1832)

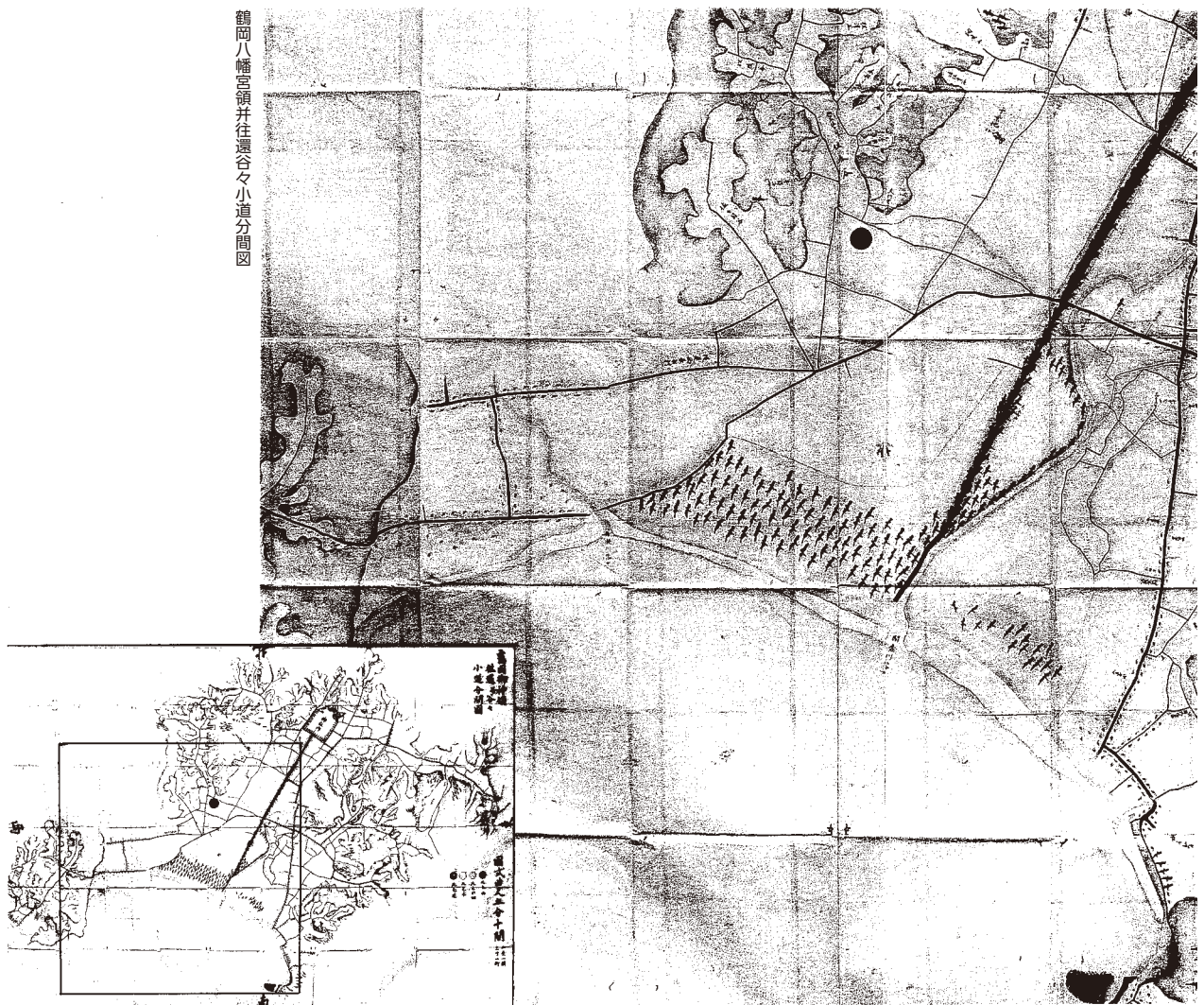


図3 近世の絵図に見る調査地点(『鎌倉国宝館図録』第16・17集を改変)

しかし、下馬四つ角の一角は滑川に近く、馬淵がかつてその交差点の北東角を試掘した時河川敷であったので、小山氏のような大身の武士の屋敷地とするのは無理だという。とすればここを通過する東西道が「車大路」である可能性は低く、これよりも一本南の道を想定すべきとする。そしてそうだとすれば、安国論寺前から御成中学校下にいたるこの東西道に「大町大路」の名称を充てるべきという（馬淵他2007）。仮にそうであれば、調査地点はその大町大路のやや南側に位置していることになる。

現在の大町大路辺で、考古資料としていくつかの地点で東西に延びる道路状遺構の検出はあり、中世からの「大路」の存在は想定される。これらの道路状遺構を検討し、押木弘己も「大町大路」との関わりも視野に入ってくると指摘しているが（押木2011）、依然として「大町大路」は東西の道なのか南北の道なのか確定していないというべきであろう。

### 3. 周辺の遺跡

調査地点周辺の遺跡を見てみると竪穴建物が立ち並ぶ遺跡と掘立柱建物が並ぶ遺跡とに分かれる。堆積土層は佐助ヶ谷の東側丘陵部の両裾は粘質土が見られるが、それより東側にある現在の鎌倉駅付近に向かうまでは砂質土と粘質土が混合する。例えば、地点62では調査区の南西隅に砂丘地形が現れ、それ以外は低湿地である。地点46・47は砂質土であり、調査地点を含める一帯から南側は砂質土が展開するようであるが、地点6のように部分的に粘質土のところもある。

こうした基盤層の違いが土地利用に反映する例として地点19をあげると、砂丘の西斜面である「北街区」には大型の竪穴建物が立ち並び倉町・蔵屋敷と呼ぶべき様相だと報告されている。東西の道路状遺構を挟んだ「南街区」は土壌化が進行しており（馬淵氏教示による）、小型の竪穴建物と掘立柱建物の柱穴が多数検出される。商人・職人の居住地域としている。南北道路状遺構を挟んだ「西街区」は、掘立柱建物が並び、被官屋敷ではないかと報告されている。

大きく言って、地点3・7・17は中世期の掘立柱建物の検出がある（原博志氏教示による）。一方、地点6・8・13・46周辺・38周辺は竪穴建物が群集する。前者が土壌化した粘質土で、後者の竪穴建物の群集域は砂層である。しかし、細かく見ていけば例外は少なくなく、基盤層の差異と土地利用の違いに関連があるのかどうか、今後は注視する必要がある。

また、調査地点の隣接地、地点2は掘削深度規制があり、上層3面までの調査であったが、14世紀を中心とした新しい時期の遺構の検出が顕著であった。遺跡の様相も異にする。地点2は13世紀後半から14世紀前半までに3時期の道路状遺構が検出され、幅約6mの東西道路が側溝を伴い検出されている。

南北道路は東西道路に接続し、1・2面の2時期に存在を確認している。第四章に書くように、この東西溝の南側側溝が本地点でも確認された。

地点18・19・22は古代の政庁の跡と中世期の武家屋敷跡である。3地点とも調査面積が広いので遺跡の全容がある程度見てとれた。

甘縄は安達氏を始め千葉氏などの有力武家の屋敷の立ち並ぶ空間であり、調査地点がそのどこかに位置している可能性は否定できない。

#### 参考・引用文献

- 上本進二2000「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子棧敷戸遺跡（逗子市NO.100）』東国歴史考古学研究所
- 高橋慎一郎1996「鎌倉甘縄に見る武家地と寺院」『中世の都市と武士』吉川弘文館
- 秋山哲雄2004「都市鎌倉の形成と北条氏」『中世都市鎌倉の実像と境界』高志書院
- 馬淵和雄2004「中世都市鎌倉成立前史」『中世都市鎌倉の実像と境界』高志書院
- 秋山哲雄2011「成り立期鎌倉の形—鎌倉の道・館・寺—」『都市のかたち—権力と領域—』中世都市研究16

野本賢二 2000 「鎌倉における最近の弥生時代遺跡調査の動向」『考古学論究』第7号 立正大学考古学会  
馬淵和雄 2002 「中世鎌倉の都市構造と道路」中世みちの研究会第5回発表資料  
三浦勝男 1993 「善宝寺」『鎌倉の古絵図Ⅱ』鎌倉市国宝館第十六集 鎌倉市教育委員会  
田代郁夫 1998 「大町大路」と「小町大路」—中世都市の中の「町」と「路」—『湘南考古学同好会会報』73『吾妻鏡』  
菊川英政 1997 「古代鎌倉の様相—奈良・平安期における鎌倉郷中心域の変化—」『考古論叢神奈河』第6集  
大上周三 2009 「鎌倉郡家と官衛関連遺跡について」『神奈川考古』第45号 神奈川考古同人会  
木下良 1997 『神奈川の古代道』藤沢市教育委員会  
石井進 1989 「大路・小路・辻子・辻」『よみがえる中世』3 平凡社  
大三輪龍彦 1989 「鎌倉の都市計画」『よみがえる中世』3 平凡社  
柘植信行他 2008 「鎌倉時代に品川宿があった」『東京湾と品川—よみがえる中世の港町—』品川歴史館  
馬淵和雄 1998 『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社  
押木弘己 2011 「米町遺跡の調査」『かまくら考古』第10号  
大河内学 1997 『若宮大路遺跡群発掘調査報告書—小町一丁目1028番地点』鎌倉市教育委員会  
馬淵和雄他 2007 「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20 鎌倉市教育委員会  
山名留三郎 1895 『鎌倉旧跡地誌』富山房書店

(根本)

## 第二章 調査の概要

### 1. 調査にいたる経緯

由比ヶ浜一丁目157番7において個人専用住宅建設の照会があった。その地点は古代の鎌倉郡家や中世武家屋敷群の存在で知られる「今小路西遺跡」(No.201)の一角であり、鎌倉市域南部を東西によぎる「大町大路」と目される街路のすぐ南側にあたる場所でもあった。建設にあたっては耐震構造が採用されたため、地下の遺構の損傷を免れず、また設計変更も困難であったので、鎌倉市教育委員会により発掘調査が実施されることになった。

調査は2005年10月28日に表土掘削をおこない、同31日より本格的に始められた。

### 2. 調査方法

#### 掘削方法

掘削にあたっては残土を場内処理とし、置き場所の確保のため面積64㎡の調査区を東西に二分割した。そして前半(東半部)を「1区」、後半を「2区」と仮称し、1区の調査時は2区を、2区の調査時は1区をそれぞれ残土置場とした。なお作業効率にかんがみ、先行する1区の方が2区よりもいくらか広い。表土は1.5m以上の厚みがあるため、掘削の際には重機を用いた。

#### 測量基準

調査区は区外東北角のX-75 735・Y-26 240交点から、同じく調査区外南西角X-75 755・Y-26 255(世界測地系[エリア9])に至る間に位置する。測量の際には任意の交点に測距儀を置いてあつた。

### 3. 調査の経過

現地調査期間内のおもな経過を以下に記す。

2005年		12月2日	深掘り坑全景写真撮影と西壁土層断面実測
10月28日	重機により1区を地表下1.4m前後まで掘削	12月5日	重機により1区埋め戻しと2区表土掘削
10月31日	機材搬入と環境整備	12月14日	2区(以下1月13日まで「2区」省略)I a面全景写真撮影と平面実測
11月1日	1区(以下12月2日まで「1区」省略)I面上層面の面出し開始	12月19日	I b面全景写真撮影と平面実測
11月2日	測量基準杭設置	12月21日	II a面全景写真撮影と平面実測
11月9日	I面上層面(溝1上層段階未掘削)全景写真撮影と平面実測	12月26日	III a面全景写真撮影と平面実測
11月11日	I a面全景写真撮影と平面実測	12月27日	南壁土層断面実測
11月21日	I b面全景写真撮影と平面実測	2006年	
11月24日	II面全景写真撮影と平面実測	1月10日	III b面全景写真撮影と平面実測
11月28日	III面上炭面(のち「III a面」)掘削と平面実測	1月12日	III c面全景写真撮影と平面実測
11月30日	III b面全景写真撮影と平面実測	1月13日	IV面全景写真撮影と平面実測、西壁と南壁土層断面写真撮影
12月1日	西壁・南壁に深掘り坑	1月17日	機材撤収

(馬淵)

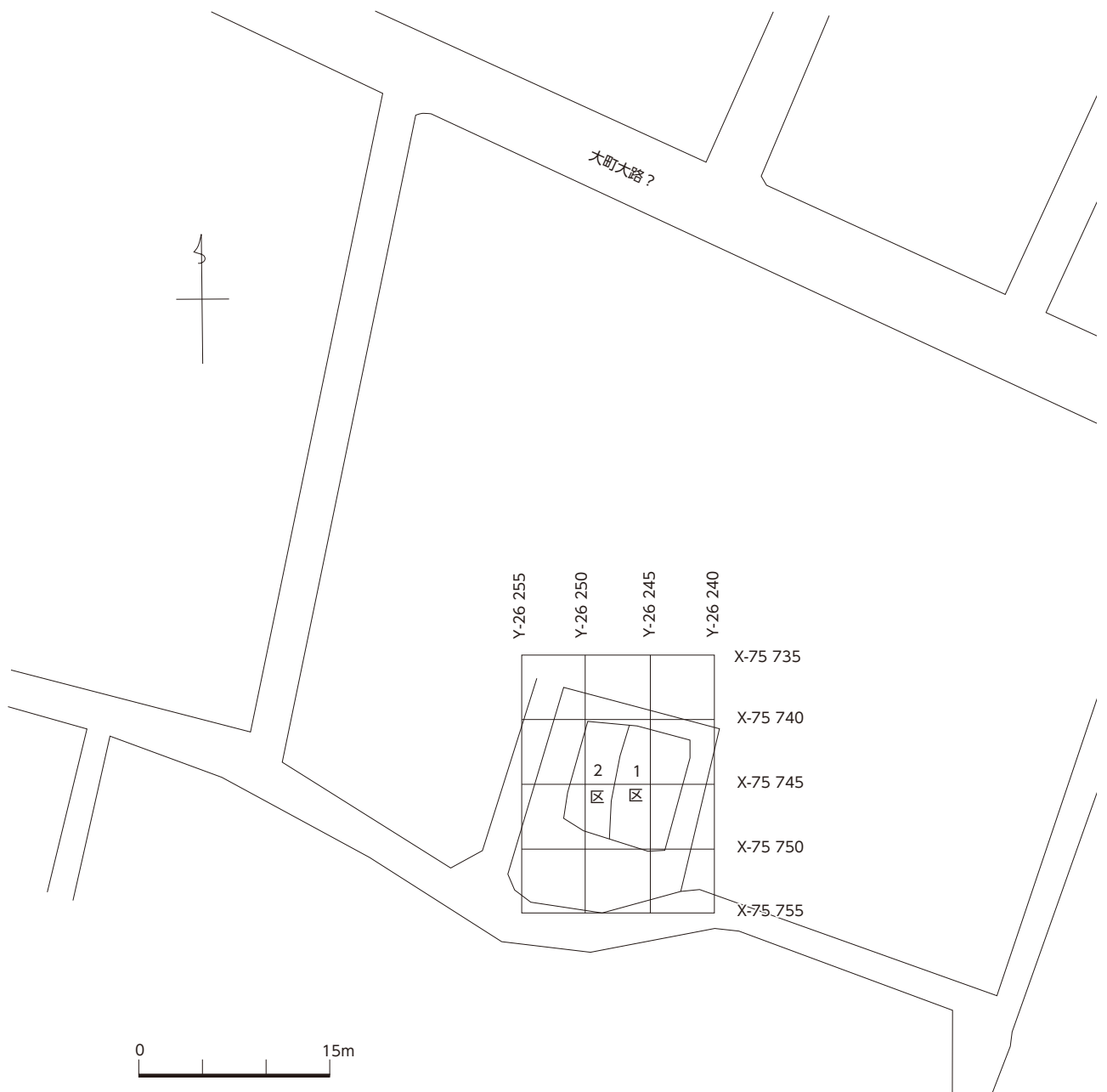


図4 調査区設定図

## 第三章 調査結果

### 第1節 概略

#### 1. 層序と面の概要

##### 地表面と表土

地表面の標高は9.55 m (東域) ~ 9.67 m (西域) で、おおむね西側から東に向かってわずかに傾斜している。この点は地中の文化層も同様の傾向を示す。表土は耕作土で、後述するように、表土層を除くとすぐに中世層が現れる。したがって、近代のある時期に近世以前の層が広範に削平されたか、耕作が深くに及んでいたということになる。

##### I a面上層

表土は厚さ1.4 ~ 1.6 mの耕作土で、これを除去した段階で早くも中世期包含層が現れる。直下に遺構面があり、これを「I面」と称した。しかし、整理時の検討によって、現地作業時I a面の遺構とした溝のうちに、さらに上層から切り込まれた可能性のあるもの存在することが判明した。そこで、I a面遺構群からこれを図上に抽出して「上層溝1」と称することにした。切込み面自体は、表土層に削り取られているか、または深い耕作に攪拌されたかのいずれかの理由により、失われている。

以上のような事情のため、「I a面上層」の遺構と認識されるのは溝1条(「溝1」)にとどまる。

##### I a面

土下にある数cmから10cmほどの厚みの黄褐色~灰褐色の粘質土を除くと、堅い泥岩版築面が広範囲に出現する。明白な生活面として認定できたので、当初これを「I面」とした。しかし以下のような理由で、結果的に「I a面」と称するようになった。

面を構成するのは粒子状から小石大の破碎泥岩による<sup>じぎょう</sup>地形層で、厚さは薄いところで7~8cm、場所によっては25cmにもおよぶ。当初これを単一層と認識していたが、掘削を始めると泥岩層の半ばに明らかな生活面の存在することが認められたので、先の面を「I a面」と改称して区別することとした。

面上からは柱穴様の小穴がたくさん検出され、なかには建物や柵らしき規則的な配列を有するものもある。この面を挟んだ上下の面からは北壁際に東西方向の溝が検出されているが、当該のI a面から切り込まれたと判断できるものはない。溝が一時期北側に移動した可能性がある。

標高は7.95 m (東南域) ~ 8.15 m (西壁)にある。

##### I b面

I a面を除き始めると、泥岩地形層の中位に、土師器片を敷き詰めたり、炭化物と破碎泥岩が踏み固められたりした生活痕跡の強い面が現れる。この面からはあらたに掘立柱建物をはじめ多くの遺構が検出された。I a面との間に時間的懸隔は見出せず、面の様相も共通しているので、両者を全体としてI面と捉えた上で、当該の下層面を「I b面」と称することにした。

面の標高は7.87 m (東域) ~ 8.13 m (西壁)にある。

**検出遺構:**土師器片地形面1・溝1・掘立柱建物3・柱穴列1・柱穴様の小穴109(掘立柱建物を除く)・土坑4



## Ⅱ面

I b面を構成する土師器地形は厚さ3～12cmほどで、堅く踏みしめられている。これを剥がすと鉄分の多い、茶色味を帯びて堅く締まった砂質土が現れる。層の上面にはかなりの遺構が切り込まれており、これを「Ⅱ面」とした。この面の調査区中央部にはそれ以前（下層）にも以後にもなかった南北の溝が存在するところから、前後と明らかな断絶がある。面の標高は7.65 m（東南域）～7.90 m（西壁）。

**検出遺構：**溝2・掘立柱建物1・柱穴様の小穴47（掘立柱建物を除く）

## Ⅲa面

Ⅱ面を構成する褐鉄面と暗褐色～黄褐色の締まりの強い粘質土は厚さ10～22cmほどあり、それを除くと、暗灰褐色～灰褐色の砂質土が現れる。上面には炭化物の堆積がみられ、遺構も多く確認されたので、生活面として認識し、「Ⅲ面」とした。しかし、面の調査終了後、次に下げる段階で直下ほんの5cm前後に、次述のように、多数の遺構の切り込まれた別の生活面があることが確認できた。遺物からみた年代も近いので（13世紀前半）、ひとまずそれを「Ⅲb面」と称することとした。そしてそれを踏まえ、先の「Ⅲ面」を「Ⅲa面」と改めた。ただし、Ⅲa面にはⅡ面で検出された調査区中央部の南北溝はなく、西の壁際に南北溝がある。面の標高は7.65 m（東域）～7.80 m（西壁）。

**検出遺構：**溝1・掘立柱建物1・小穴38（掘立柱建物を除く）

## Ⅲb面

上記の理由で「Ⅲb面」を設定した。しかし、ここには上層Ⅲa面に検出された南北溝（溝7）はなく、一方で建物の検出は圧倒的に多い。この状況は当該面が上層とも下層とも様相を異にしており、Ⅲ面群の1枚とするよりは前後と断絶した居住面と認識するのが妥当である。標高は7.60 m（東南域）～7.73 m（西壁）。

**検出遺構：**溝2・溝状遺構1・掘立柱建物2・小穴111（掘立柱建物を除く）・土坑2

## Ⅲc面

Ⅲb面を構成するのは地山黒褐色土を基本とする黒褐色～灰褐色の粘質土である。この土は挟雑物をほとんど含まず、粘性が非常に強い。1区の調査時には検出されなかったが、2区調査の際、Ⅲb面は広く落ち込み、遺構の切合いが大きく二時期に分けられることが判明したので、古段階のものを一括して面と捉え、「Ⅲc面」と呼ぶことにした。おもに柱穴と考えられる小穴群で構成される。面の標高は7.53 m（東南域）～7.64 m（西壁）。

**検出遺構：**柱穴列1・小穴36（柱穴列を除く）

## Ⅳ面

1区ではⅢc面の段階でほぼ規制深度に達したため、全面的な掘削はできなかった。しかし、それまでの調査でⅣ面下にさらに遺構らしき落ち込みの存在することが判明していた。そのため、2区との境界側の西壁、南壁際に深掘りの確認坑を入れ、また中央部にも1.2×1.6mの長方形の深掘り区を設置して、下層の状況を探査した。2区は全面を調査した。その結果、Ⅲb・Ⅲc面を構成する黒褐色～灰褐色土の下15～20cmに灰褐色～明茶褐色の地山砂層が確認でき、面上に遺構が検出できたので、これを「Ⅳ面」とした。面の標高は7.38～7.42 mと、ほぼ7.40 m前後の水平堆積を示す。

**検出遺構：**小穴20・土坑1



1. 黒褐色粘質土 表土
3. 暗茶灰色粘質土 炭化物やや多く含む。粘性、しまり弱い。
5. 黄灰褐色粘質土 泥岩粒から小石粒大の泥岩多い、炭化物多い、砂質土多く含む。粘性弱く、しまりややあり。
6. 茶褐色粘質土 泥岩粒やや多く、炭化物非常に多く、焼土多く、砂質土多く、含む。粘性弱く、しまりややあり。
7. 灰褐色粘質土 泥岩粒から小石大の泥岩多く、炭化物、土師器粒多く、茶灰色土多く含む。粘性弱く、しまりややあり。
9. 破碎泥岩地行層 泥岩粒から小石大の泥岩で占める、炭化物多く含む。粘性弱く、しまりややあり。 I a面
10. 暗灰色粘質土 土師器粒を含む炭層。(小穴)
11. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒少量、炭化物やや多く、土師器粒、粘土塊含む。しまり弱い。(小穴)
12. 暗茶灰色砂質土 泥岩粒から拳大の少量、炭化物やや多く、土師器粒、粘土塊含む。しまり弱い。(小穴)
13. 炭化層 泥岩粒少量、炭化物非常に多く、土師器粒含む。 I b面
14. 明茶灰色砂質土 炭化物若干、粘質土含む。粘性強く、しまりやや弱い。
15. 明茶灰色砂質土 14層よりやや暗い。炭化物若干、粘質土14層より多く含む。粘性強く、しまりやや弱い。 II面
16. 明茶灰色砂質土 14層よりやや明るい。炭化物若干、粘質土微量含む。粘性強く、しまりやや弱い。 III a面
17. 炭化層 泥岩若干含む。炭化物非常に多い。粘性強く、しまり弱い。
18. 暗灰褐色粘質土 炭化物多く、砂質土含む。粘性強く、しまり弱い。(溝5)
19. 暗灰褐色粘質土 炭化物若干含む。粘性強く、しまり弱い。(溝5)
20. 暗茶褐色粘質土 泥岩粒から半人頭大の泥岩多く、炭化物多く、土師器片、茶色砂含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
21. 土師器片地行層。泥岩粒やや多く、炭化物非常に多く、土師器片非常に多く、茶色砂多く含む。粘性・しまり弱い。 I b面
22. 暗茶灰色砂質土 小石粒大の泥岩微量、炭化物やや多く含む。しまりやや弱い。(小穴)
23. 暗灰褐色粘質土 炭化物多く、砂質土含む。粘性強く、しまり弱い。
24. 暗灰褐色粘質土 泥岩粒極微量、炭化物極微量含む。粘性強く、締まり強い。 III b面
25. 明茶色砂質土 地山 III c・IV面
- 25' 暗灰褐色砂 泥岩微量、自然遺体多く含む。粘性なし、しまりあり。
26. 暗灰褐色粘質土 炭化物非常に多く、木片含む。粘性強く、しまり弱い。
27. 暗灰褐色粘質土 炭化物多く、木片含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
28. 暗灰褐色粘質土 炭化物やや、木片含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
29. 暗茶灰色粘質土 炭化物非常に多い。しまりやや弱い。(小穴)
30. 暗灰褐色粘質土 炭化物非常に多く、木片含む。粘性強くしまり弱い。
31. 灰褐色粘質土 泥岩粒から拳大の泥岩多く、炭化物多く、土師器片、山砂含む。粘性弱く、しまり強い。(小穴)
32. 灰褐色粘質土 泥岩粒から拳大の泥岩31層より多く、炭化物非常に多く、土師器片、山砂含む。粘性弱く、しまり強い。(小穴)
33. 暗灰褐色粘質土 泥岩粒やや多く、炭化物多く、土師器片やや多く、山砂含む。
34. 泥岩地行層 拳大の泥岩非常に多く、炭化物、土師器片多く、山砂含む。粘性弱く、しまり強い。
35. 泥岩層 破碎泥岩と人頭大の泥岩の混合層、炭化物多く、土師器粒含む。粘性弱く、しまり強い。(溝6)
36. 暗灰褐色粘質土 炭化物やや多く、土師器粒微量、茶灰色砂含む。粘性・しまり強い。 II面
37. 灰褐色粘質土 炭化物少ない、茶灰色砂含む。粘性・しまり強い。 III a面
38. 褐鉄(灰茶色)砂 炭化物少量含む。しまりやや弱い。
39. 暗灰褐色粘質土 炭化物やや多い、土師器粒微量、木片微量山砂含む。粘性強く、しまりやや強い。(小穴)
40. 茶灰褐色砂質土 炭化物少量含む。褐鉄砂、粘土の混合層。しまりややあり。 II面
41. 明灰褐色粘質土 少量の炭化物、砂、含む。粘性強く、しまりややあり。(小穴)
42. 灰褐色粘質土 炭化物やや多く、砂含む。粘性強く、しまりややあり。(小穴)
43. 灰茶褐色粘質土 泥岩粒から小石大の泥岩、炭化物、土師器片、山砂多く含む。粘性弱く、しまりやや強い。(小穴51)
44. 暗灰褐色粘質土 泥岩粒から拳大の泥岩、山砂多く、炭化物非常に多く、土師器片やや多く含む。粘性弱く、締まり強い。 II面
45. 明灰褐色粘質土 泥岩極少量、炭化物若干、土師器粒微量、鉄分、砂多く含む。粘性弱く、しまりやや強い。 I b面
47. 黒褐色粘質土 泥岩粒、鉄分やや多く、炭化物多く、土師器粒含む。粘性弱く、しまり非常に強い。
48. 40層と50層の混合土。炭化物非常に多い。
49. 暗灰褐色粘質土 泥岩粒微量、炭化物多く、土師器粒若干、鉄分含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴)
50. 暗灰色砂質土 炭化物やや多く、鉄分含む。しまりやや強い II面
51. 暗灰褐色粘質土 炭化物少量、土師器粒微量、木片微量、山砂含む。粘性強く、しまりやや強い。(小穴)
52. 暗灰褐色粘質土 小石大の泥岩少量、炭化物やや多く、鉄分含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴)
53. 暗灰褐色粘質土 小石大の泥岩少量、鉄分含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴18)
54. 灰褐色粘質土と褐鉄砂の混合層 小石大の泥岩、炭化物少量含む。粘性弱く、しまり強い。 II面
55. 破碎泥岩層 泥岩粒から小石大の泥岩で占める、炭化物多く含む。粘性弱く、しまりややあり。(小穴)
56. 暗灰褐色粘質土 小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物多く含む。粘性弱く、しまり強い。
57. 灰褐色粘質土と褐鉄砂の混合層 54層より褐灰色砂多く、小石大の泥岩、炭化物微量含む。粘性弱く、しまり強い。 II面
58. 褐灰色砂質土 炭化物微量含む。
59. 暗灰褐色粘質土 小石大から拳大の泥岩多く、炭化物多く含む。粘性弱く、しまり強い。(小穴)
60. 暗灰褐色粘質土 小石大の泥岩微量、炭化物多く含む。粘性弱く、しまり強い。
61. 暗灰褐色粘質土 色調やや明るい。小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物非常に多く含む。粘性やや強く、しまり強い。(小穴)
62. 暗灰褐色粘質土 色調やや明るい。小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物非常に多く含む。粘性やや強く、しまり強い。(小穴)
64. 暗灰褐色粘質土 色調やや明るい。小石大から拳大の泥岩非常に多く、炭化物非常に多く含む。粘性やや強く、しまり強い。(小穴)
65. 暗灰褐色粘質土 色調やや明るい。炭化物非常に多く含む。粘性泥岩粒子微量、しまり強い。(小穴79)

69. 黒褐色粘質土 (小穴)
70. 暗灰色砂質土 やや暗め。粘性あり、しまり弱い。(小穴)
71. 灰褐色粘質土 泥岩粒から拳大の泥岩多く含む。 I b面
72. 暗灰褐色砂質土
73. 青灰色砂質土 褐鉄砂を含む。 III面
92. 泥岩地行層
93. 黒褐色粘質土 泥岩粒から小石大の泥岩やや多い、炭化物多い、土師器粒含む
94. 泥岩地行
95. 黒褐色粘質土 貝殻微量含む。 III b面
98. 灰茶褐色粘質土 1 cm ~ 2 cmの泥岩粒、土師器片含む。しまり強い。 I a面
99. 暗灰褐色粘質土 5 mm ~ 2 cmの泥岩、砂少量含む。粘性・しまり強い。
100. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩少量、炭化物含む。粘性・しまり強い。
101. 灰茶褐色粘質土 2 ~ 3 cmの泥岩、炭化物やや、土師器片含む。粘性あり、しまり弱い。
102. 暗灰褐色粘質土 2mm ~ 2cmの泥岩含む。粘性強く、しまりやや強い。
103. 暗灰褐色粘質土 1 ~ 5 c mの泥岩含む。粘性強く、しまりあり。
- 104・105溝7覆土
106. 暗灰褐色粘質土 泥岩微量、炭化物、土師器片含む。粘性・しまり強い。
107. 暗灰褐色粘質土 2mm ~ 1 0 cmの泥岩少量、炭化物微量含む。粘性強く、しまりあり。 III a面
108. 黒灰褐色粘質土 泥岩微量、炭化物含む。粘性・しまり強い。
109. 黒灰褐色粘質土 泥岩微量、炭化物含む。粘性・しまり強い。(小穴)
110. 暗灰褐色砂質土 1 cm ~ 5 cmの泥岩粒含む。炭化物微量含む。粘性あり、しまりやや弱い。(小穴136)
112. 暗灰褐色粘質土 泥岩少量、炭化物多く含む。粘性・しまり強い。
113. 暗灰化褐色粘質土 2mm ~ 2 0 cmの泥岩多い、炭化物少量、土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。(小穴)
114. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩含む。(底部に礎板あり)粘性強く、しまりあり。(小穴)
115. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 5 cmの泥岩、炭化物多く、土師器片含む。粘性・しまり強い。(小穴)
116. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩少量、炭化物含む。粘性・しまり強い。(小穴)
117. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 5 cmの泥岩、炭化物多く土師器片含む。粘性・しまり強い。(小穴)
118. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩多く、炭化物多く含む。粘性・しまり強い。(小穴108)
119. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩多く、炭化物多く含む。粘性・しまり強い。(小穴)
120. 灰褐色粘質土 2 mm ~ 10cmの泥岩多く含む。粘性・しまり強い。(小穴)
121. 暗灰褐色粘質土 2mm ~ 1 0 cmの泥岩、炭化物多く、土師器片含む。粘性強く、しまりやや弱い。(小穴)
122. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 5 cmの泥岩、炭化物多く含む。粘性やや強く、しまりあり。(小穴)
123. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 10cmの泥岩、炭化物多く含む。土師器片含む。粘性、しまり強い。(小穴)
124. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 3 cmの泥岩含む。粘性やや強く、しまりあり。(小穴)
125. 暗灰褐色粘質土 2mm ~ 1cmの泥岩多く、炭化物含む。粘性強く、しまりあり。(小穴)
126. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩、炭化物、土師器片、砂を含む。粘性あり、しまりやや強い。(小穴)
127. 暗茶褐色粘質土 小粒の泥岩、やや大きい炭化物、土師器片含む。粘性強く、しまり弱い。(小穴)
128. 茶褐色弱粘質土 1 ~ 2 cmの泥岩多量、炭化物含む。(小穴)
129. 黒灰褐色粘質土 泥岩微量、炭化物含む。粘性・しまり強い。(小穴)
130. 黄灰褐色砂 炭化物少量含む。粘性なし、しまり強い。(小穴)
131. 黄灰褐色砂 粘土粒含む。粘性なし、しまりあり。(小穴)
132. 黄灰褐色砂 色調やや暗い。炭化物少量含む。粘性なし、しまり強い。(小穴)
133. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩多く、炭化物多く、遺物片含む。粘性強く、しまりやや強い。(小穴)
- I b面
134. 黒灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩多い、炭化物多い、極小さい土師器片少量含む。粘性・しまり強い。(小穴)
136. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 1 cmの泥岩、炭化物、土師器片含む。粘性あり、しまり強い。(小穴)
137. 暗灰褐色砂質土
138. 灰茶褐色粘質土 極小粒な泥岩多く、炭化物、極小粒な土師器片含む。粘性やや強く、しまりあり。(小穴)
139. 暗灰褐色弱粘質土 1 ~ 2 cmの泥岩、炭化物含む。粘性、しまりやや弱い。(小穴)
140. 暗灰褐色粘質土 泥岩微量含む。炭化物含む。粘性強く、しまりあり。
141. 灰褐色粘質土 2 mm ~ 20cmの泥岩多く含む。粘性、しまり強い。
142. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 5 cmの泥岩、炭化物含む。粘性・しまり強い。(小穴)
143. 明灰褐色粘質土 2 mm ~ 5 cmの泥岩、炭化物微量、遺物片、木片含む。粘性強く、締まり弱い。(小穴)
145. 灰褐色粘質土 2 mm ~ 2 cmの泥岩多く、炭化物多く、土師器片含む。粘性・しまり強い。(小穴135)
146. 暗灰褐色粘質土 2 mm ~ 5 cmの泥岩、炭化物、木製品、貝殻含む。粘性強く、しまりあり。
147. 暗灰褐色粘質土 1 ~ 10cmの泥岩、炭化物微量、木製品、貝殻粒子含む。粘性・しまり強い。
148. 黒灰褐色砂質土 1 ~ 5 cmやや多く、貝殻粒子含む。粘性なし、しまりあり。
149. 黒灰褐色粘質土 泥岩微量含む。炭化物含む。粘性強く、しまり強い。(小穴)
150. 黒灰褐色粘質土 140に似る。人頭大泥岩含む。(小穴)

## 基盤層

IV面以下が基盤層となる。調査地点一帯には古代遺構が存在していることが知られており、本地点においても中世層の調査中に古代の土器がしばしば出土した。そこで確認のため、2区西壁際に幅50cm、深さ25cmの深掘り坑を入れたが、遺構は検出しなかった。上記のように地山層は灰褐色～明茶褐色砂層で、土質的には由比ヶ浜海岸地帯の最北端に位置することを示している。上面はおおむね水平で、標高は6.90m前後にある。

## 2. 調査区壁面からの出土遺物

### 調査区西壁出土遺物 (図5)

常滑甕(1) **特記事項**：溝4堆積土最上面から出土。口縁部を欠くが、層位からいっても鎌倉時代前期～中期のものともみている

### 調査区南壁出土遺物 (図5)

竜泉窯米色青磁鎬蓮弁文折縁鉢(2) **特記事項**：I a面またはI面上層の土坑から出土。遺物自体はおおむね13世紀後半～14世紀初頭。

## 第2節 各説

### 1. I a面上層

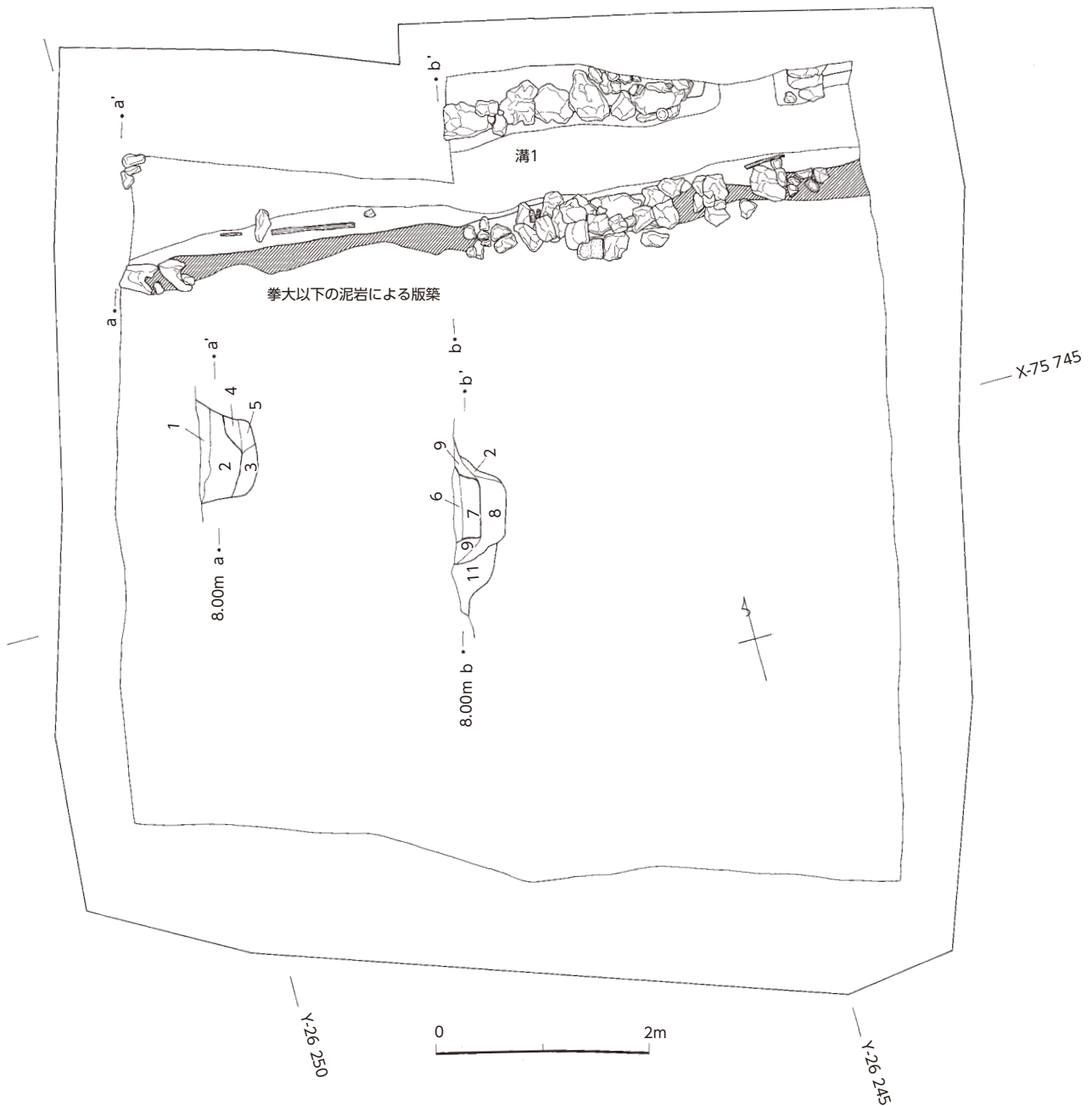
#### 溝1 (図6・7)

**位置**：X-(75 740.92)～-(75 742.65) Y-(26 242.75)～-(26 249.90) **断面形**：逆台形 **規模**：幅(2.05)cm×長さ(7.19)cm×深さ(52)cm **主軸方位**：N-82°-W **流下方向**：西→東 **出土遺物 (図7)**：土師器皿R種小型(1～3)・土師器皿R種大型(4・5)・白色系土師器皿R種大型(6)・瓦器火鉢(7)・尾張型山茶碗(8)・常滑片口鉢I類(9)・常滑片口鉢II類(10～12)・常滑甕(13～15)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(16) **溝1裏込め出土遺物 (図7)**：土師器皿R種小型(17・18)・土師器皿R種極小型(19)・常滑片口鉢I類(20)・常滑甕(21)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(22)・高島硯(23) **特記事項**：検出そのものはI a面でできたが、本址南側のI a面北域は後世の削平で失われており、帰属する面を確認できない。I a面よりもさらに上層から切り込まれている可能性が否定できないため、分離してここに提示した。細長い板材が南壁際に残っており、また土層断面によっても掘り方と溝本体の区別が明瞭なため、木杵があった可能性は高い。兩岸に非整形の人頭大泥岩による雑然とした石積みと拳大以下の泥岩による版築が見られ、土塁もしくは築地の存在していた可能性を示唆する。西の山側から東に向かって流下する。また調査区東壁近くで北に向かう分流がある。出土遺物の年代は全体的に13世紀中葉～第3四半期を示すが、本遺跡での最上層の遺構なので鎌倉時代中期まで遡及させるのは無理があろう。ただし構造からみても、南北朝には下らないと考えたい。

### 2. I a面

#### I a面出土遺物 (図8～10)

土師器皿R種小型(1～16)・土師器皿R種大型(17～23)・土師器皿R種極小型(24)・白色系土師器皿T種(25)・瓦器火鉢(26～30)・瀬戸入子(31)・ふいご羽口(32・33)・亀山甕(34・35)・丸瓦(36)・尾張型山茶碗(37～40)・常滑片口鉢I類(41～49)・常滑片口鉢II類(50～55)・常滑鳶口壺(56)・常滑甕(57～65)・常滑片加工品(66)・褐釉双耳広口小壺(67)・白磁口はげ皿(68～71)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(72～77)・青白磁合子(78・79)・滑石鍋(80)・硯(81)・砥石仕上げ砥(82)・滑石鍋加工品(83)・敲打痕ある石(84)・軽石製円盤(85)・鉄製小皿(86)・刀子(87)・鉄製火箸(88)・鉄製掛け金具(89)・鉄釘(90～113)・淳化元宝(114)・景德元宝(115・116)・祥符元宝(117)・天聖元宝(118～120)・皇宋通宝(121～123)・嘉祐通宝(124)・治平元宝(125)・熙寧元宝(126～130)・元豊通宝(131・132)・元祐通宝(133)・紹聖元宝(134・135)・元符通宝(136)・政和通宝(137)・宣和通宝(138)・淳祐元宝(139)・銭(140～142) **特記事項**：遺物年代は全体に13世紀後半を示す



- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 暗灰褐色粘質土 2mm~1cmの泥岩、炭化物少量含む。粘性強くしまりあり。</p> <p>2. 明灰褐色土 2mm~10cmの泥岩多く、炭化物少量、土師器片含む。粘性やや弱く、しまり強い。(改修後の溝)</p> <p>3. 明灰褐色土 2mm~10cmの泥岩多く、炭化物少量含む。粘性弱く、しまり強い。</p> <p>4. 明灰褐色土 2mm~10cmの泥岩、炭化物少量含む。粘性やや弱く、しまり強い。(改修時裏込め)</p> <p>5. 明灰褐色土 2mm~10cmの泥岩多く、炭化物少量含む。粘性やや弱く、しまり強い。(裏込め)</p> | <p>6. 黄灰色砂質土 泥岩粒多く、炭化物少量含む。粘性ややあり、しまり強い。</p> <p>7. 黄灰色砂質土 炭化物多い。(改修後の溝)</p> <p>8. 黄灰褐色砂質土 泥岩少量、炭化物多い。</p> <p>9. 黄灰色砂質土 炭化物少量含む。(改修時裏込め)</p> <p>10. 黄灰褐色砂質土 3層より泥岩少ない。(裏込め)</p> <p>11. 暗茶褐色粘質土 人頭大の泥岩含む。(裏込め)</p> |
|--|--|

図6 I a面上層 溝1

建物1 (図11)

位置：X-75 744.94 ~ -75 747.75 Y-26 245.30 ~ -26 247.94 平面形：方形 規模：東西234cm×南北266cm (1×1間) 主軸方位：N-11°-E 重複関係：方形土坑1・同2を切る 出土遺物：(P.1) 竜泉窯青磁鎗蓮弁文鉢(1)・(同) 砥石中砥(2)・(P.2) 皇宋通宝(3)・(P.4) 開元通宝(4) 特記事項：東南方向に延びる可能性がある。北面と西面は後述の柱穴列1に遮られるので、屋敷地の北西角に位置す

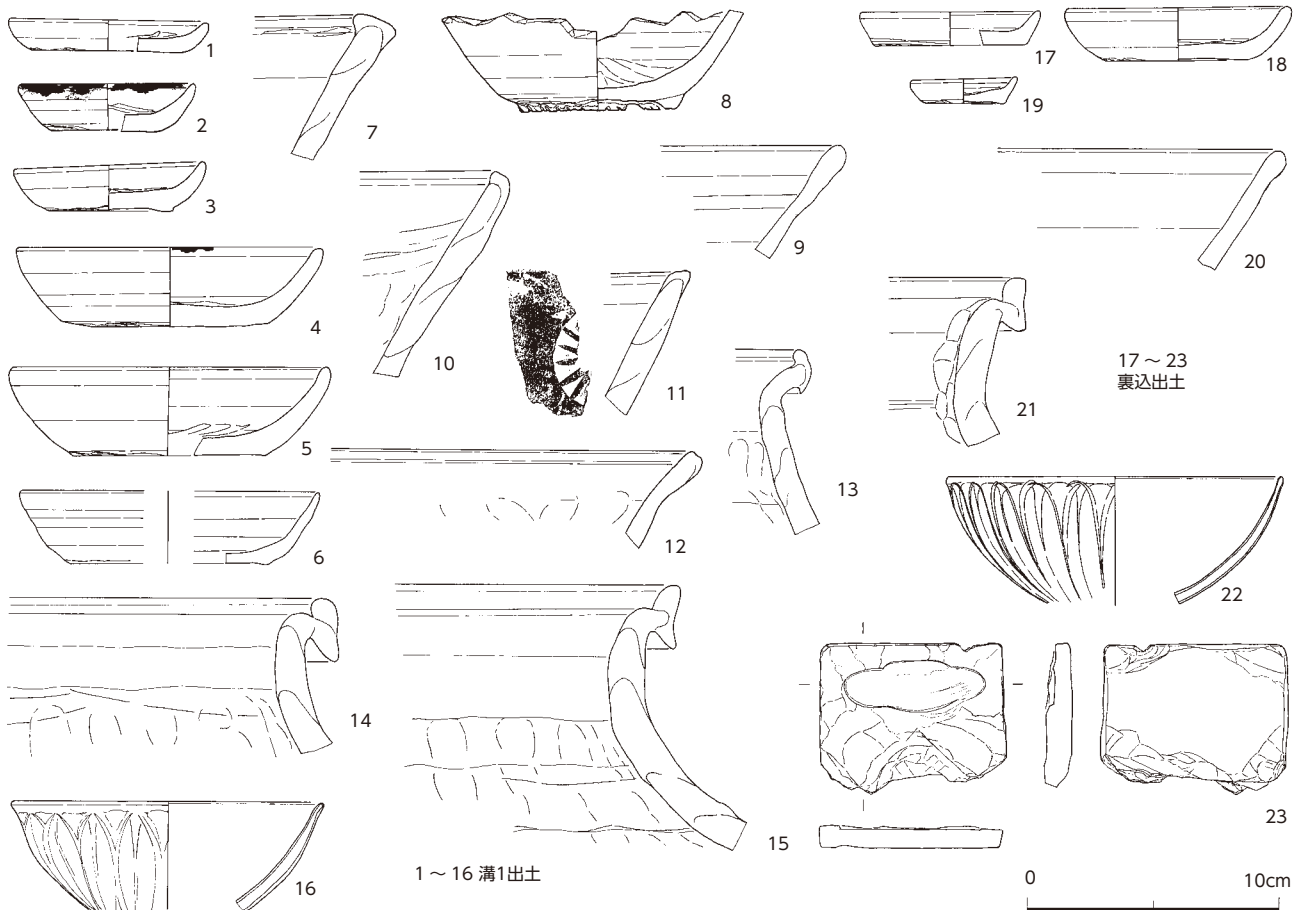


図7 溝1・同裏込め出土遺物

ることになる。後述の方形土坑1・2を切るが、同時存在の可能性もある。となれば屋敷地の北西隅にあって、建物から半分ほど外に出た落ち込みを持つ建物ということになる。落ち込みはやや浅いが、便槽の可能性も視野に入れておきたい。柱穴からの出土遺物の年代は13世紀後半。

### 建物2 (図11)

位置：X-(75 744.12)～(75 746.76) Y-(26 248.26)～(26 250.95) 平面形：方形 規模：東西(226)cm×南北(247)cm(2×1間) 主軸方位：N-12°-E 重複関係：土坑7と重なるが新旧は確認できず 出土遺物：(P.4)土師器皿R種小型(5) 特記事項：東西は半分の柱間で2間となる。次述土坑7が付属するとすると、これも小規模な張り出し的建物に、半分ほど外に出た落ち込みを持つ建物ということになる。水槽または便槽の可能性あるか。5の土師器小皿は13世紀後半～14世紀初頭に属する。

### 土坑7 (図11)

位置：X-75 743.45～75 746.41 Y-26 249.30～26 250.40 平面形：長楕円形 断面形：逆台形 規模：長さ(南北)300cm×幅(東西)78cm×深さ40cm 主軸方位：N-11°-E 重複関係：建物2と重なるが新旧は確認できず 出土遺物：土師器皿R種小型(6・7)・ふいご羽口(8)・尾張型山茶碗(9)・常滑片口鉢片加工品(10)・白磁口はげ皿(11)・骨製弁(12) 特記事項：独立した遺構として名称を付したものの、位置からいって建物2との関連が強く窺える。その場合北半分が建物外にあることになるが、位置的にみて便槽の可能性を視野に入れておきたい。遺物年代は全体的には13世紀後半だが、9の山茶碗は同中葉までさかのぼる。

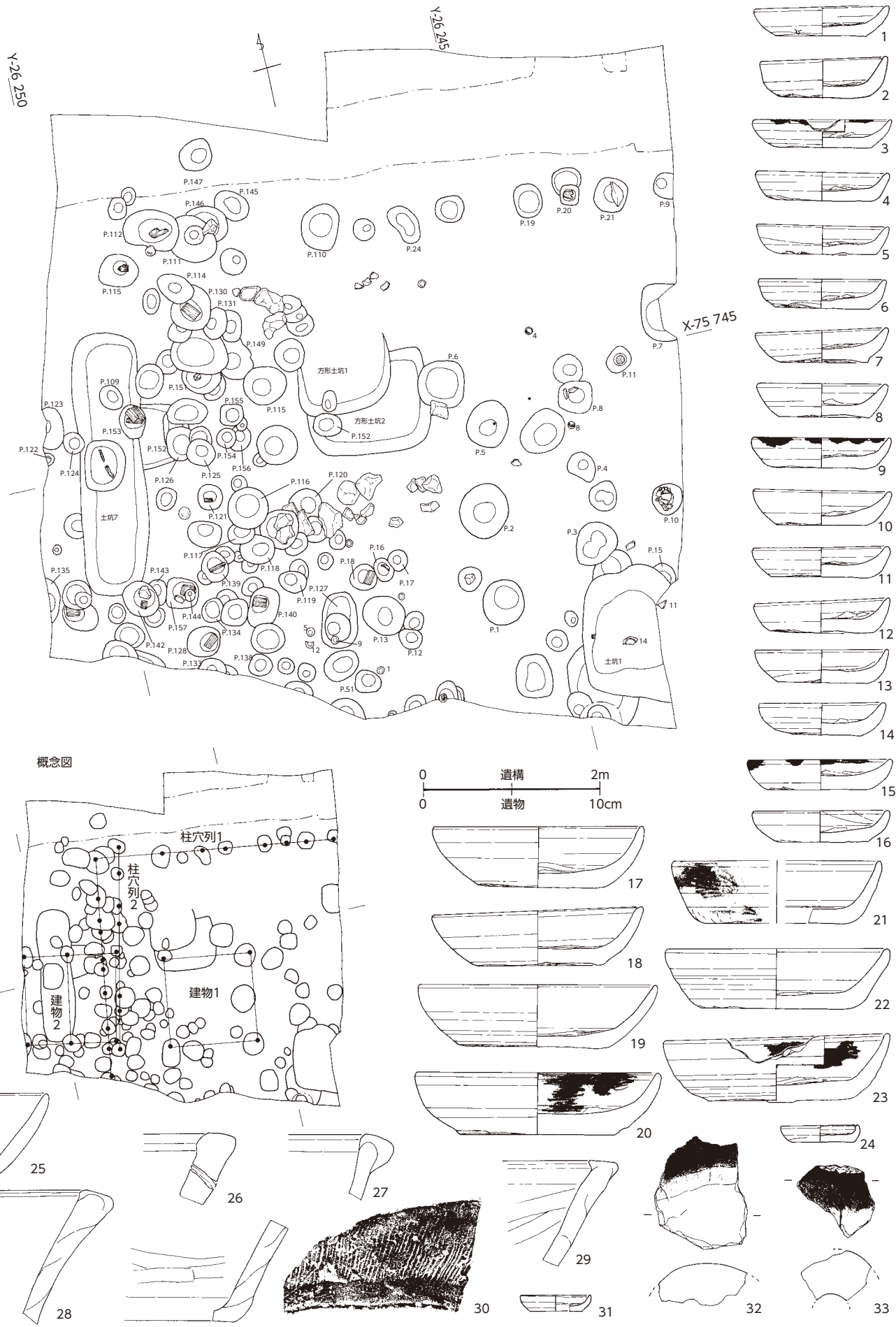


图8 I a面遺構全図、I a面出土遺物(1)



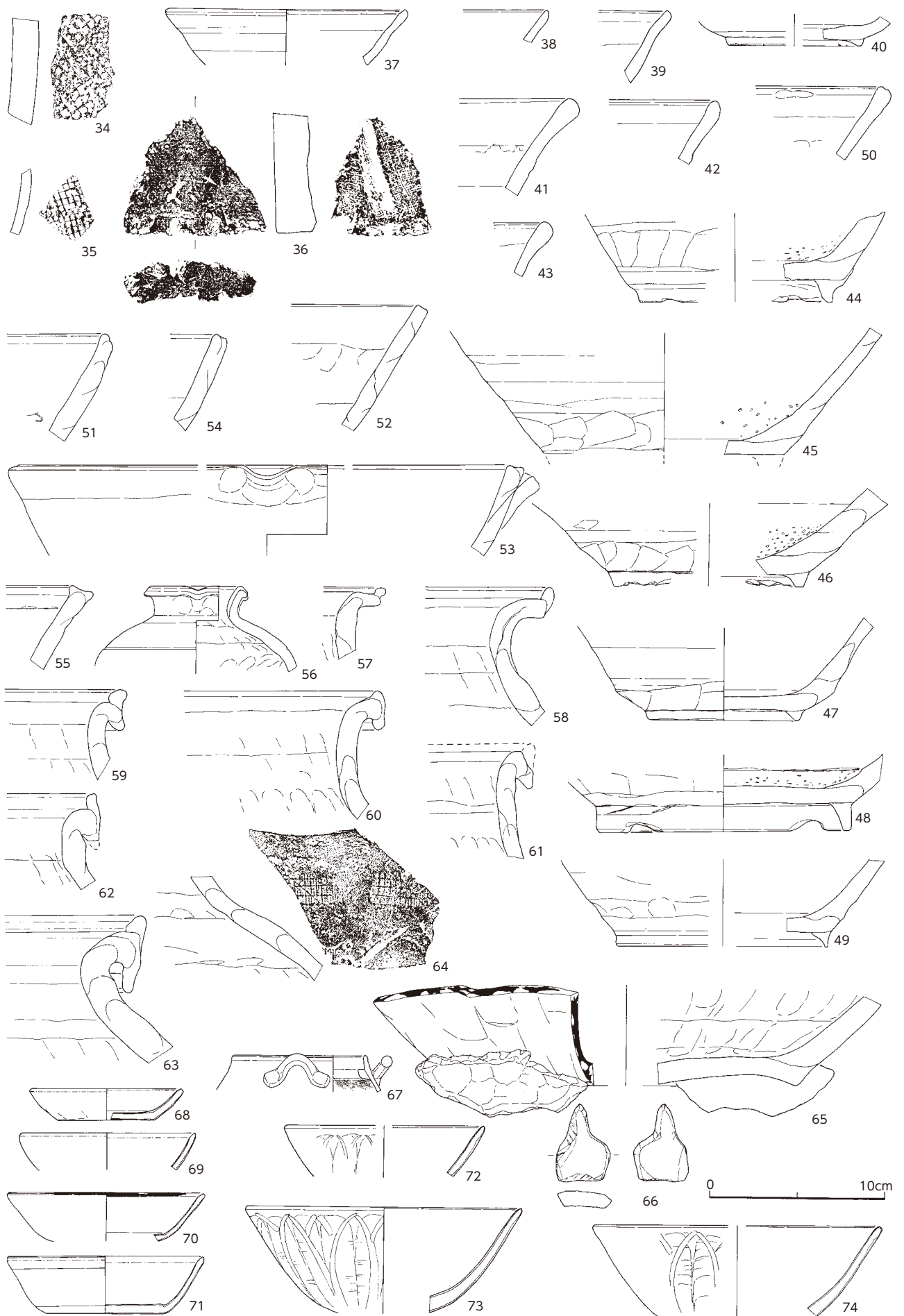


图9 I a面出土遺物(2)

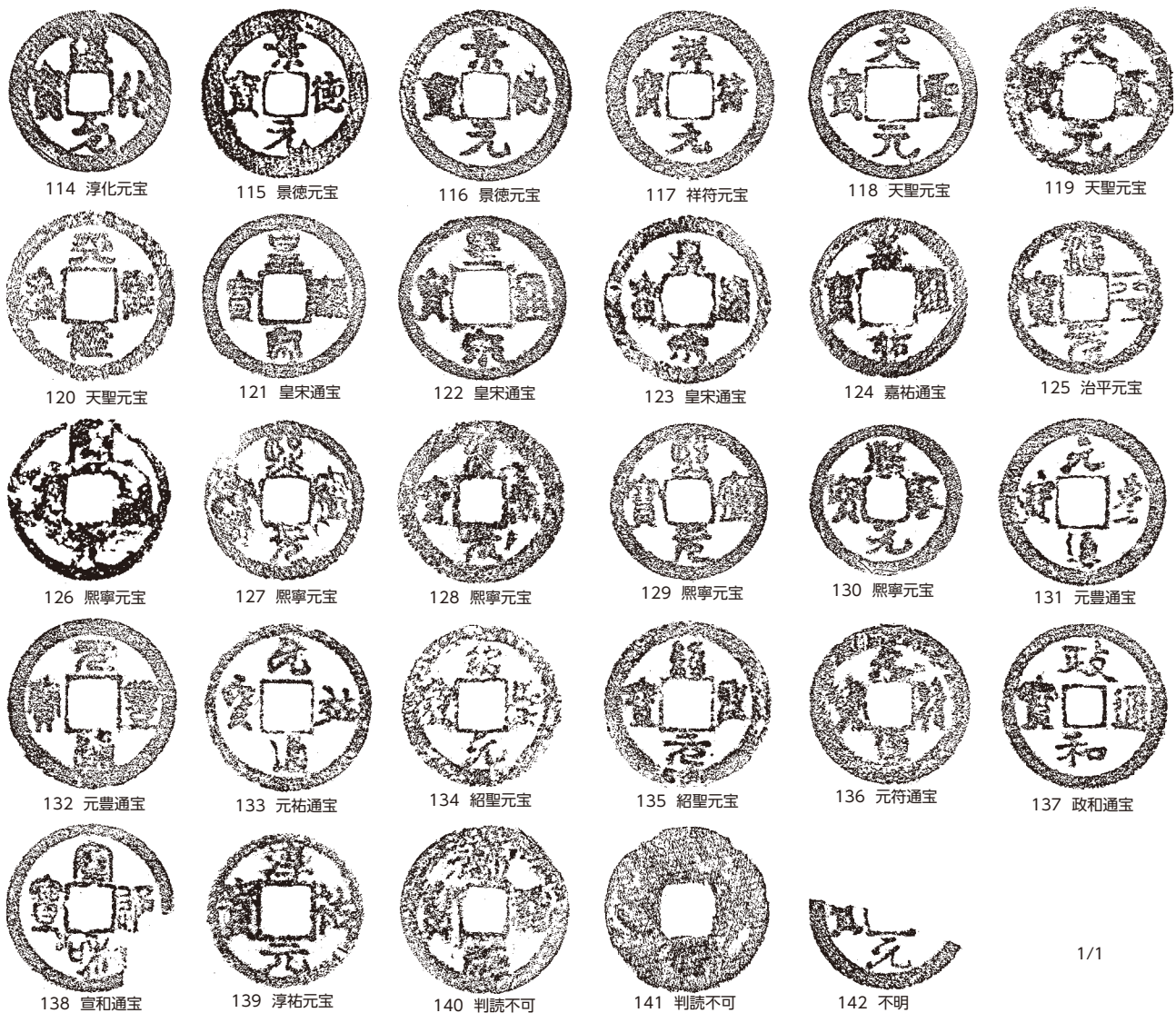
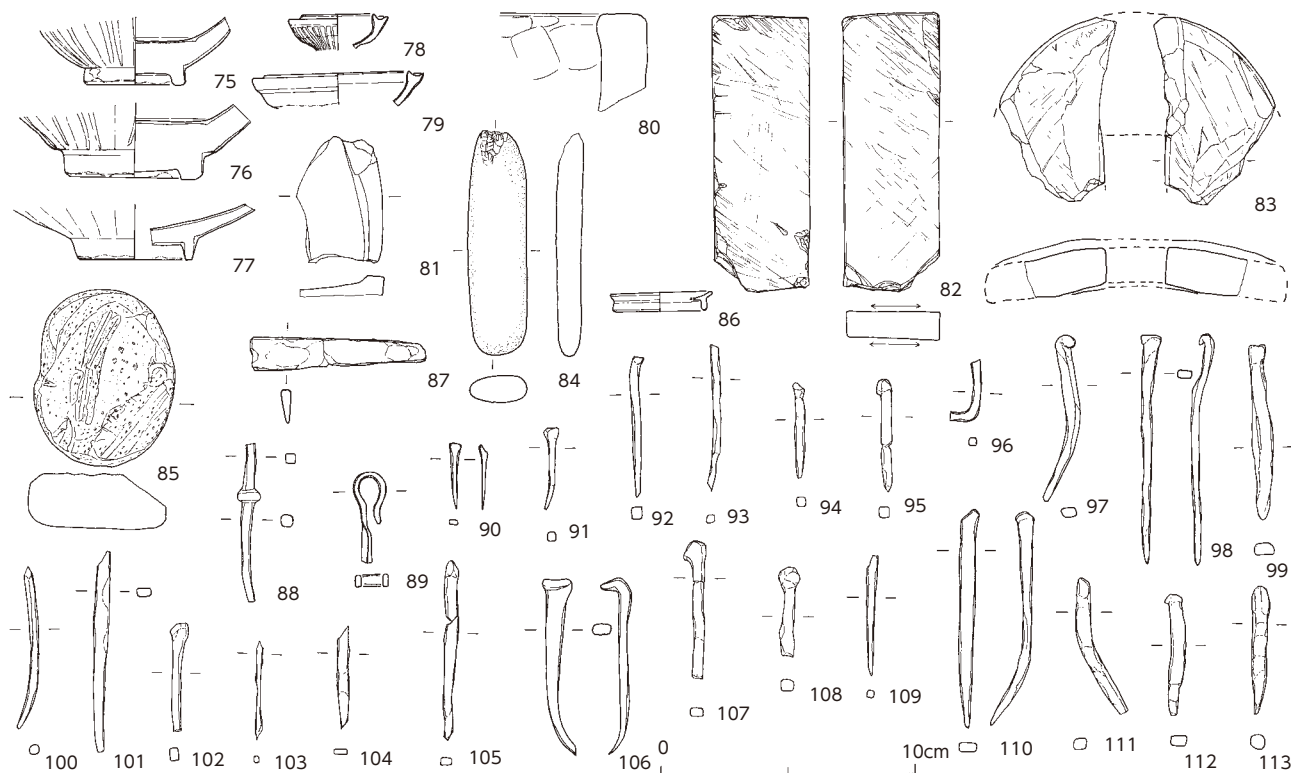
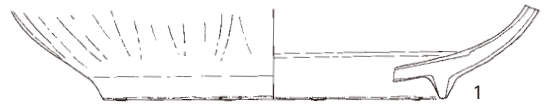
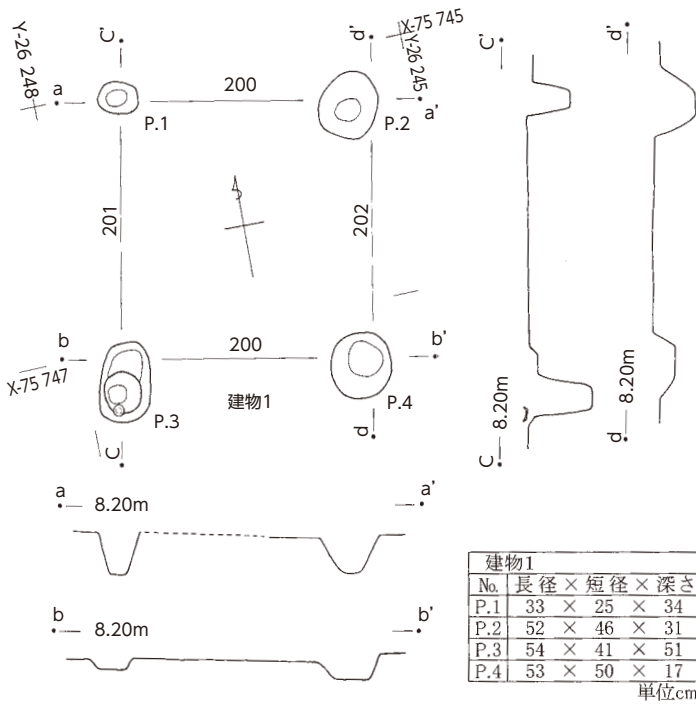
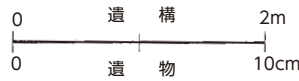
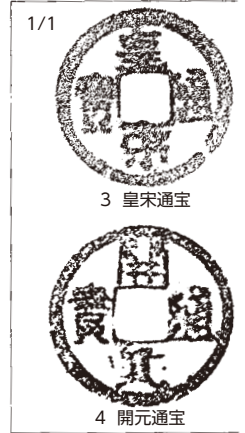


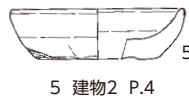
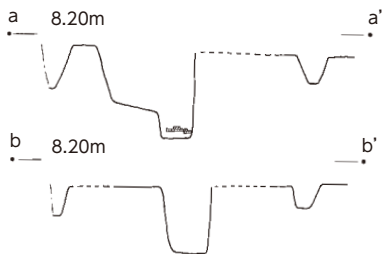
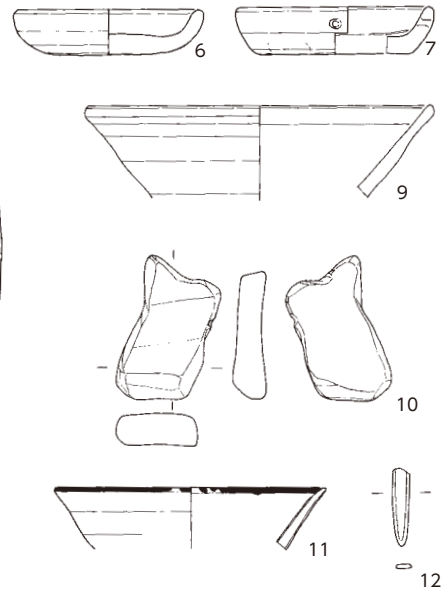
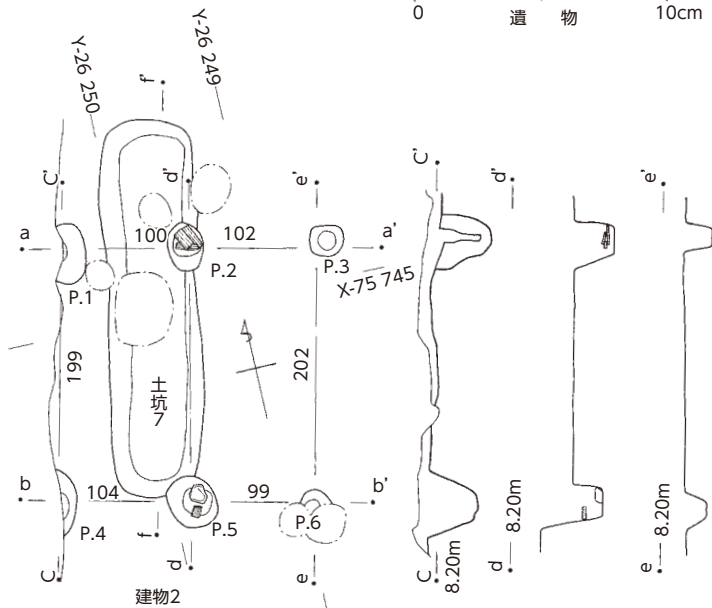
图 10 I a面出土遺物 (3)



1・2 建物1 P.1  
3 建物1 P.2  
4 建物1 P.4



6~12 土坑



5 建物2 P.4



8

建物2			
No.	長径	短径	深さ
P.1	48	(-)	42
P.2	39	28	68
P.3	27	24	22
P.4	(53)	(-)	39
P.5	43	36	50
P.6	(25)	(-)	18

単位cm

土坑 7

1. 明灰褐色質土 泥岩多く含む。粘性強い。
2. 明灰褐色質土 泥岩多く含む。粘性強い。
3. 暗褐色粘質土 2mm~2cm の泥岩、炭化物多く含む。粘性弱くしまりやや弱い。
4. 暗褐色粘質土 2mm~2cm の泥岩少量、炭化物やや多く含む。粘性弱く、しまりやや弱い。
5. 暗灰褐色粘質土 2mm~4cm の泥岩が多く、炭化物やや多く含む。粘性強く縮まりやや弱い。
6. 暗灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩が多く、炭化物含む。粘性強く縮まりやや弱い。
7. 暗灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩が多く、炭化物含む。粘性強く縮まりやや弱い。
8. 暗灰褐色粘質土 2mm~2cm の泥岩、炭化物多く含む。粘性やや強く、しまり弱い。
9. 暗灰褐色粘質土 2mm~5cm の泥岩、炭化物やや多く含む。粘性やや強く、しまり弱い。
10. 黒灰褐色粘質土 2mm~2cm の泥岩、炭化物含む。粘性・しまり強い。
11. 黒灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩、炭化物含む。粘性・しまり強い。

図11 I a面建物1・2、土坑7、同出土遺物

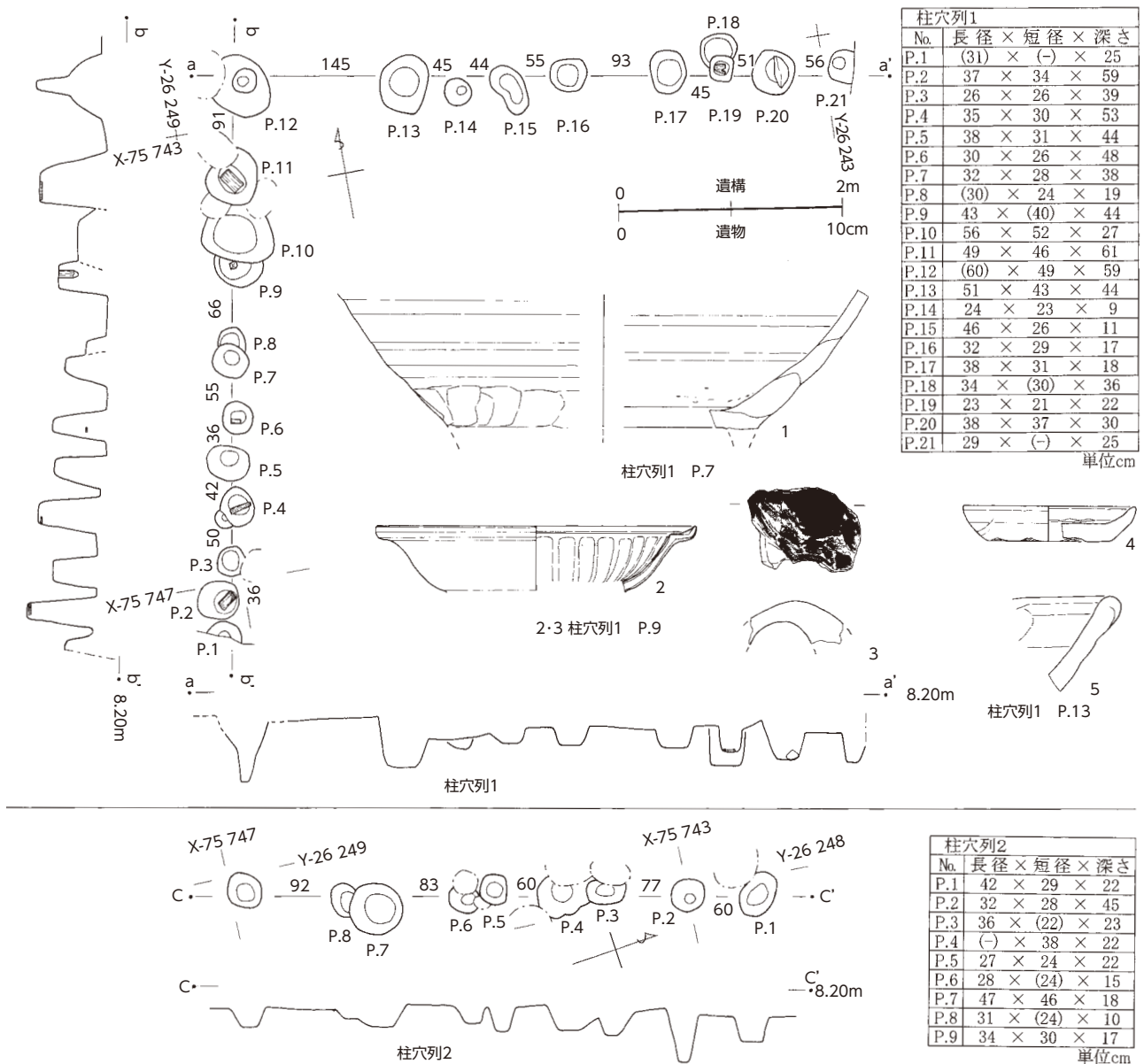


図12 I a面柱穴列1・2、柱穴列1出土遺物

### 柱穴列1 (図12)

位置：X-75.742 33 ~ -75.747 55 Y-(26.24 240) ~ -(26.249 42) 平面形：カギ形 規模：東西5.63m×南北5.24m (5×6間) 主軸方位：N-9°-E 出土遺物：(P.7) 常滑片口鉢I類(1)・(P.9) 竜泉窯青磁陰刻蓮弁文折縁鉢(2)・(同) ふいご羽口(3)・(P.11) 土師器皿R種小型(4)・(P.13) 常滑片口鉢I類(5) 特記事項：通常の半間よりもさらに短い間隔で柱が並ぶ。時期の重複が考えられるが、分別が困難なためひとまず同一遺構として提示する。屋敷地の北と西を画する塀のようなものか。遺物年代は13世紀後半。

### 柱穴列2 (図12)

位置：X-75 742.19 ~ -75 747.02 Y-26 247.65 ~ -26 249.02 平面形：直線 規模：南北495cm (5間) 主軸方位：N-13°-E 重複関係：建物2に切られる 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：柱穴列1とは異なり、北側の溝沿いに列が見られない。あるいは、調査区北辺を流れる溝が

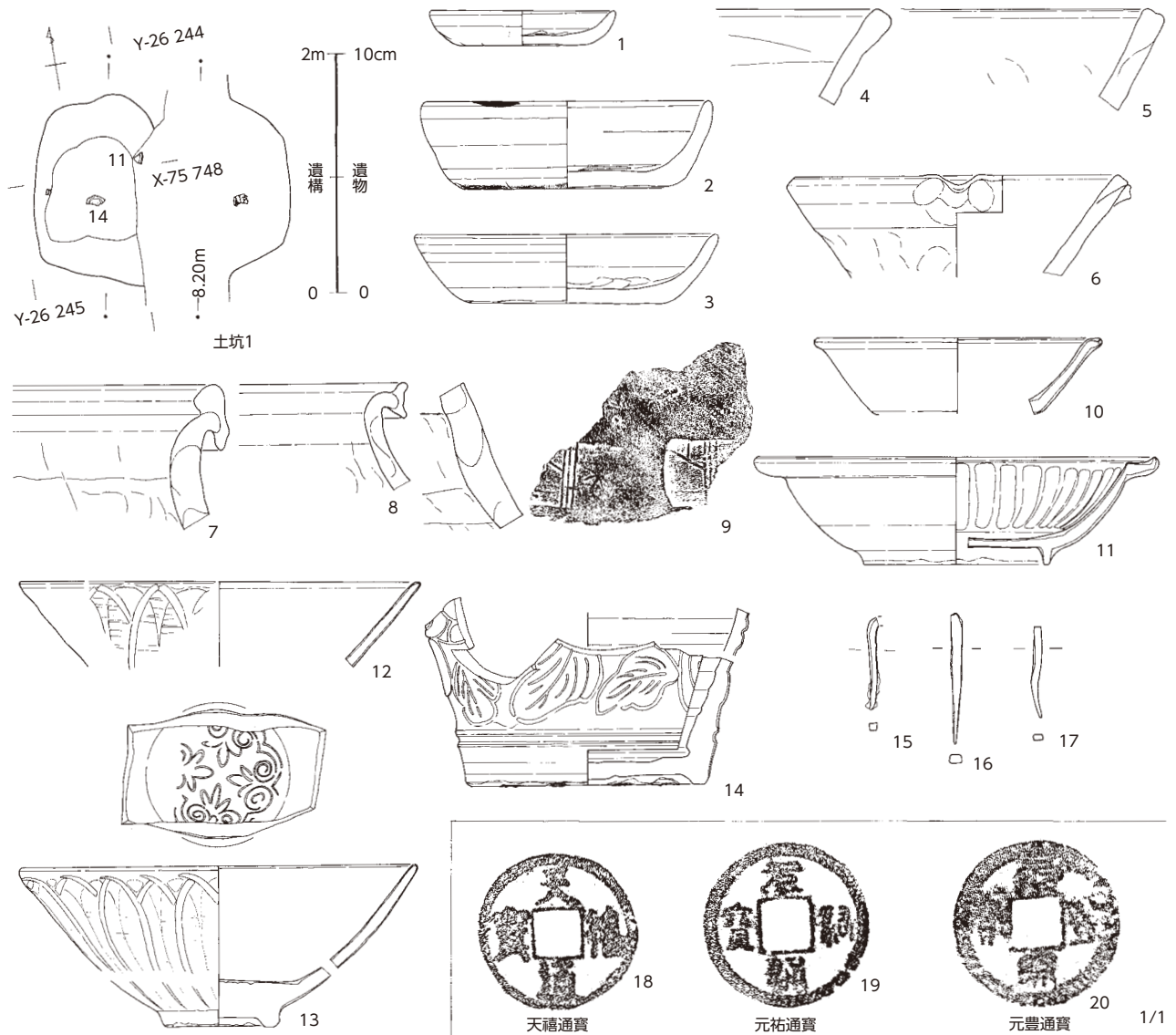


図13 I a面土坑1、同出土遺物

この時期には北側に移動しており、本来それに沿って存在していた柱列が、後世の溝1によって消滅せられた可能性がある。出土遺物に乏しく年代判定の根拠を欠くが、おおむね13世紀後半とみて大過ない。

### 土坑1 (図13)

位置：X-75 747.44 ~ (75 749.04) Y-(26 243.73) ~ 26 244.90 平面形：隅丸長方形 断面形：逆台形、または深皿形 規模：南北(長辺) 162cm×東西(115) cm×深さ65cm 主軸方位：N-6°-W 重複関係：P.15ほかを切る 出土遺物：土師器皿R種小型(1)・土師器皿R種大型(2・3)・常滑片口鉢I類(4)・常滑片口鉢II類(5・6)・常滑甕(7~9)・竜泉窯青磁無文折縁鉢(10)・竜泉窯青磁陰刻蓮弁文折縁鉢(11)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(12)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(13)・青白磁梅瓶(14)・鉄釘(15~17)・天禧通宝(18)・元祐通宝(19)・元豊通宝(20) 特記事項：遺物は多く、なかでも貿易陶磁が目立つ。14の梅瓶は彫りの深い牡丹唐草文で、13世紀前半代に遡る可能性があるが、遺物の全体的な年代は13世紀第3四半期だろう。

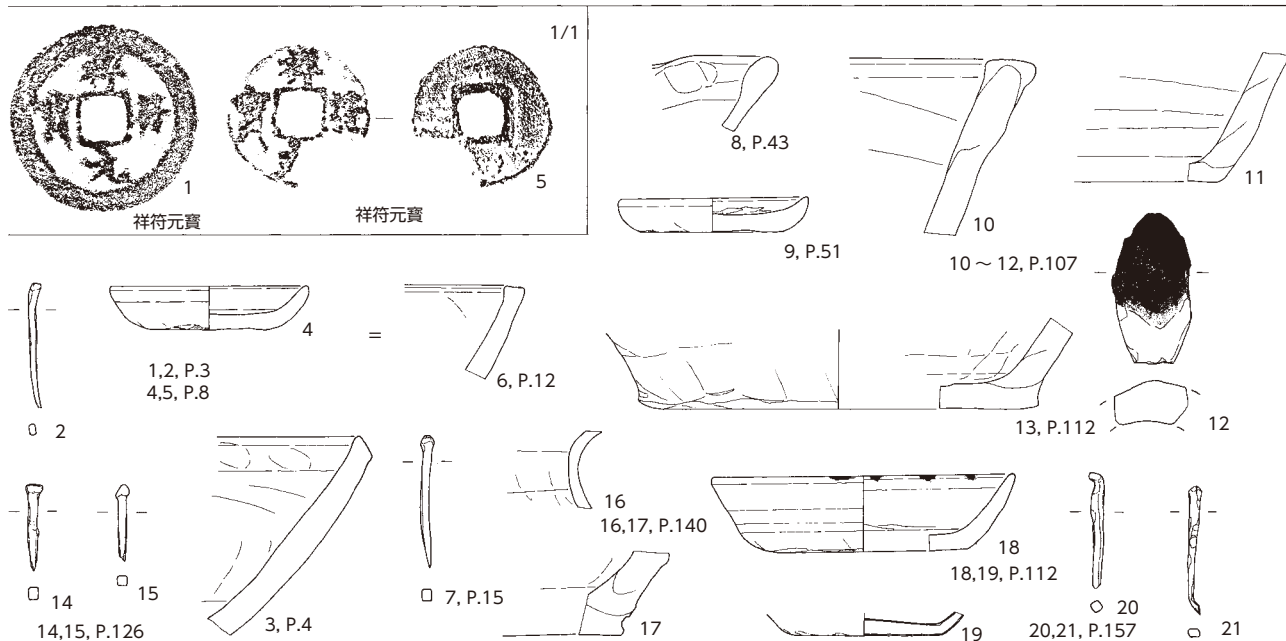
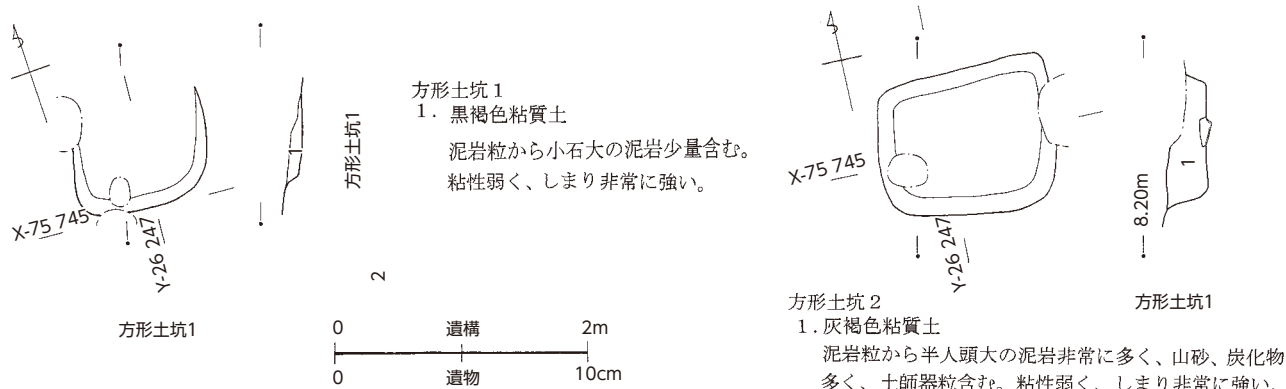


図14 I a面方形土坑1・2、I a面小穴出土遺物

方形土坑1 (図14)

位置：X-(75 744.22) ~ -75 745.00 Y-26 246.10 ~ -26 247.58 平面形：隅丸長方形 断面形：浅い逆台形 規模：東西(長辺) 107cm×南北(81)cm×深さ 12cm 主軸方位：N-85°-E 重複関係：方形土坑2を切る 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：方形土坑2に重なるが性格不明。出土遺物はなく、年代の判断も難しい。

方形土坑2 (図14)

位置：X-75 744.42 ~ -75 745.55 Y-26 246.10 ~ -26 247.55 平面形：隅丸方形 断面形：逆台形 規模：東西(長辺) 144cm×南北 115cm×深さ 34cm 主軸方位：N-80°-E 重複関係：方形土坑2に切られる 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：やはり性格・年代とも不明だが、屋敷地西北の隅近くに位置するとすれば、例えば便槽のようなものも視野に入れておくべきだろう。

I a面小穴出土遺物 (図14)

(P.3) 祥符元宝(1)・(同) 鉄釘(2)・(P.4) 常滑片口鉢Ⅱ類(3)・(P.8) 土師器皿R種小型(4)・(同) 祥符元宝(5)・(P.12) 常滑片口鉢Ⅱ類(6)・(P.15) 鉄釘(7)・(P.43) 常滑片口鉢Ⅰ類(8)・(P.51) 土師器

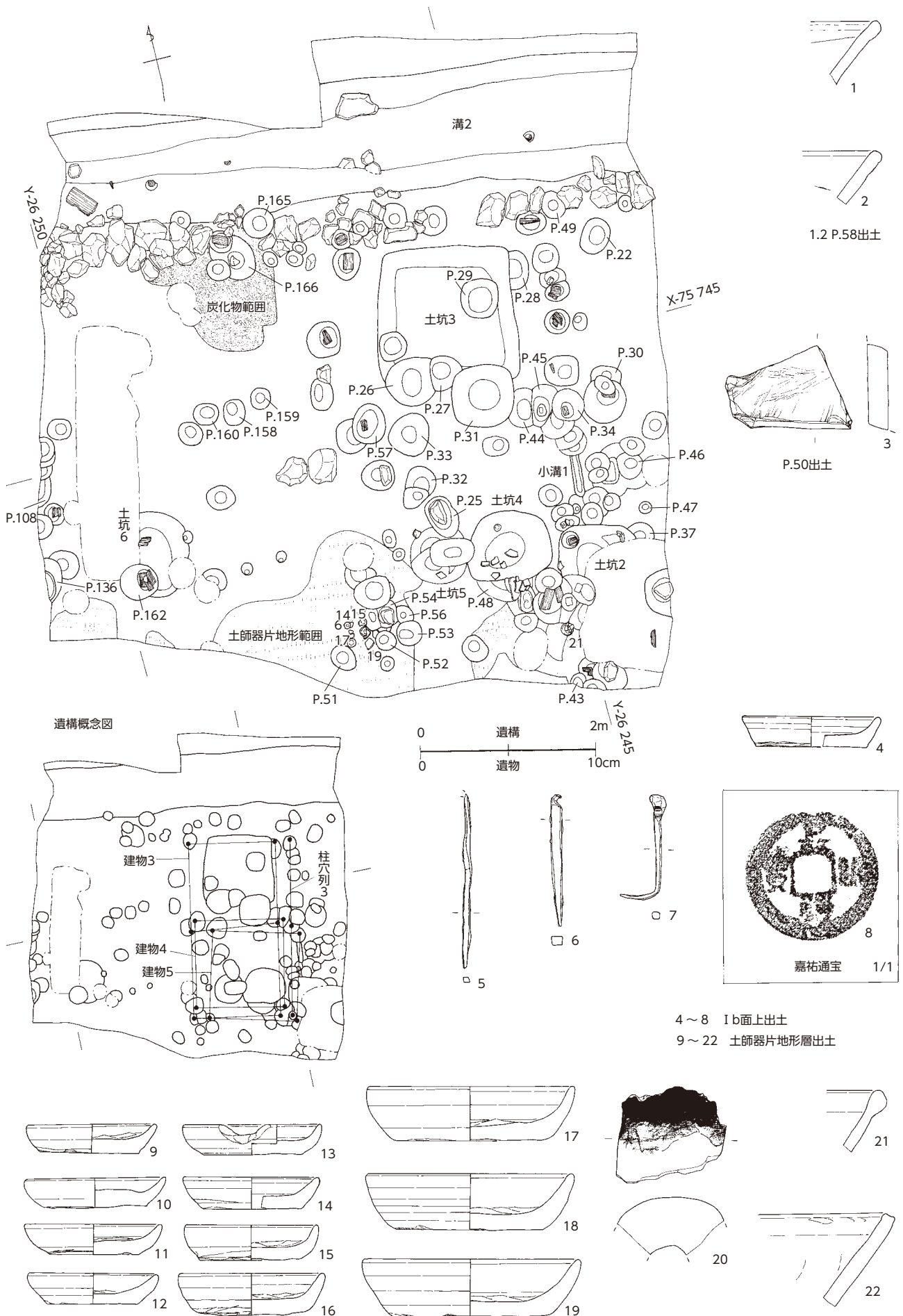


图 15 I b面遺構全圖、同出土遺物、土師器片地形出土遺物

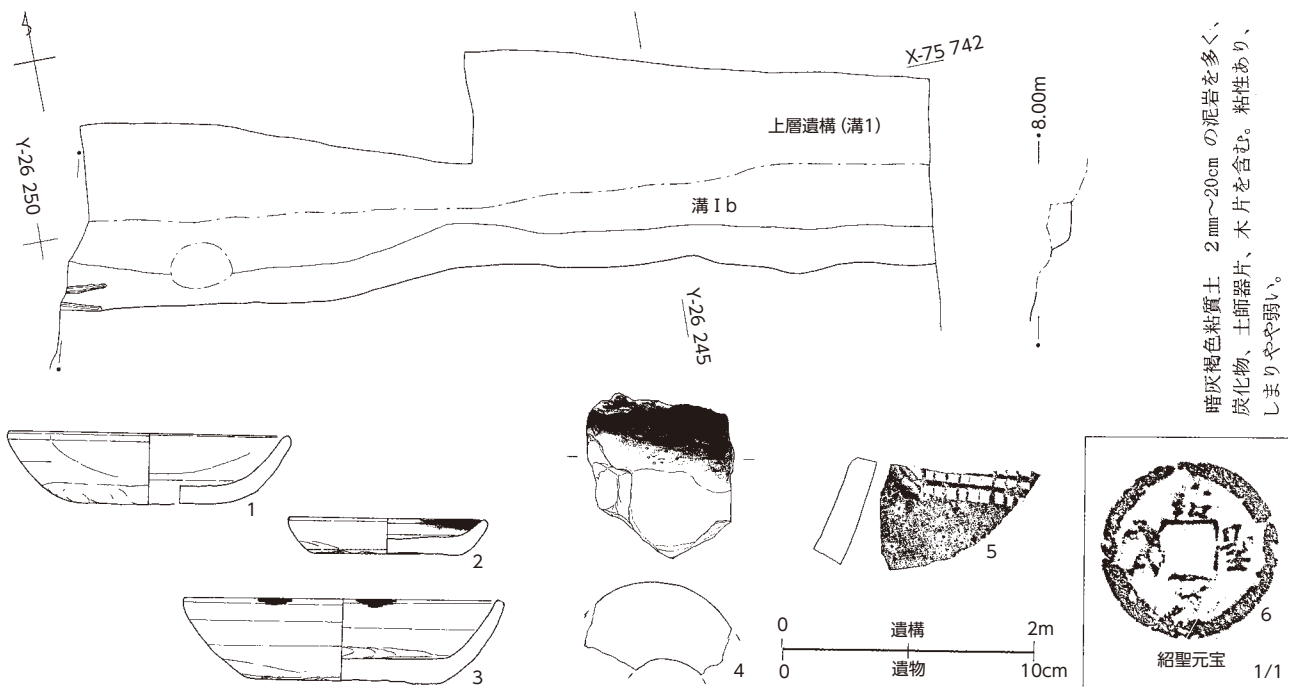


図16 I b面溝1b、同出土遺物

皿R種小型(9)・(P.107) 瓦器火鉢(10)・(同) 瓦器火鉢(11)・(同) ふいご羽口(12)・(P.112) 常滑甕(13)・(P.126) 鉄釘(14)・(同) 鉄釘(15)・(P.140) 南伊勢系土鍋(16)・(同) 常滑片口鉢Ⅱ類(17)・(P.147) 土師器皿R種大型(18)・(同) 白磁口はげ皿(19)・(P.157) 鉄釘(20)・(同) 鉄釘(21) **特記事項**：全体的な年代は13世紀中葉～第3四半期といえる

### 3. I b面

#### I b面小穴出土遺物(図15)

(P.58) 常滑片口鉢Ⅰ類(1・2)・(同) 砥石仕上砥(3) **特記事項**：1・2は13世紀中葉～第3四半期

#### I b面面上出土遺物(図15)

土師器皿R種小型(4)・鉄釘(5～7)・銭(8) **特記事項**：4は13世紀第2四半期または中葉とすべきであろう

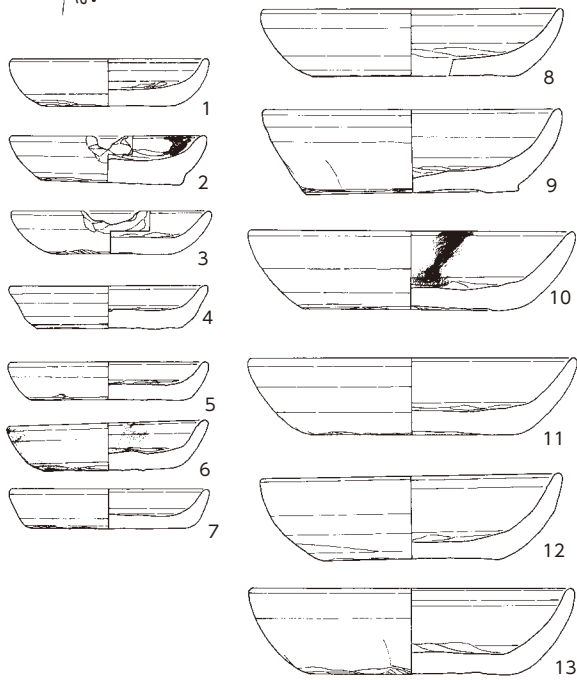
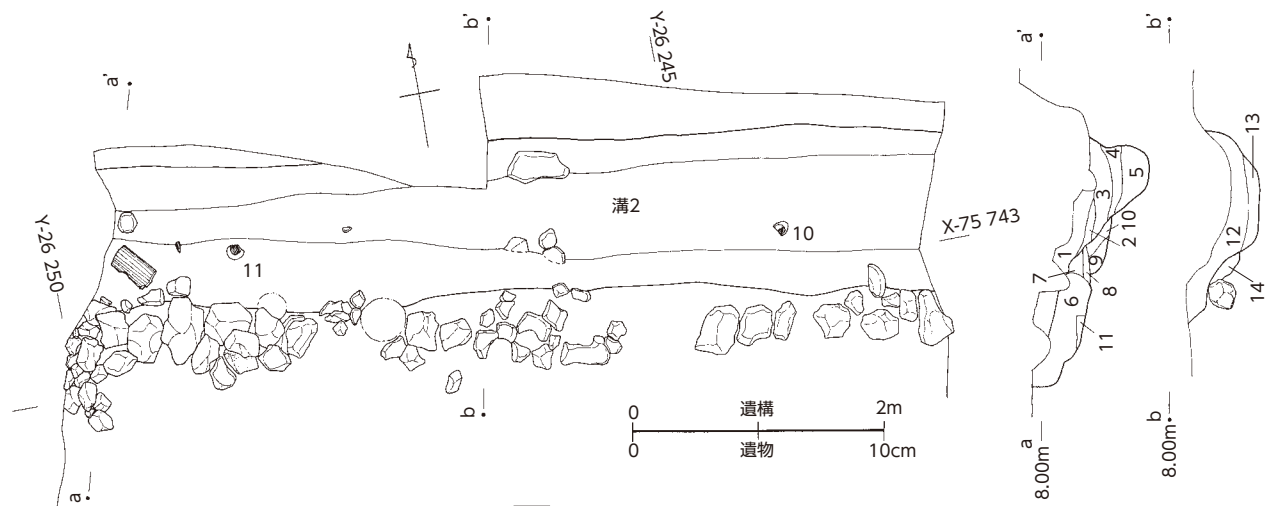
#### I b面土師器片地形出土遺物(図15)

土師器皿R種小型(9～16)・土師器皿R種大型(17～19)・ふいご羽口(20)・常滑片口鉢Ⅰ類(21)・常滑片口鉢Ⅱ類(22) **特記事項**：土師器皿は全体に器高低く、やや厚手の器肉を持つ。13世紀第2四半期または中葉とみていい。

#### 溝1b(図16)

**位置**：X-(75 741.16)～(75 743.55) Y-(26 242.76)～(26 249.95) **平面形**：ほぼ直線 **断面形**：逆台形 **規模**：幅(1.70)m×深さ34cm **主軸方位**：N-84°-W **流下方向**：西→東 **出土遺物**：土師器皿T種大型(1)・土師器皿R種小型(2)・土師器皿R種大型(3)・ふいご羽口(4)・常滑甕(5)・紹聖元宝(6) **特記事項**：何度も掘り直されている溝と面の対応関係を確実に把握するのは難しいが、層位の相対的な関係から本址が当該面にもなうものと判断した。調査区西壁際の南岸に溝枠部材が残存してい





1. 明灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩多く、炭化物土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。
2. 明灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩非常に多く、炭化物、土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。
3. 明灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩が2層より更に多く、炭化物、土師器片含む。粘性強く、しまりやや強い。
4. 黒灰褐色粘質土 2mm~5cm の泥岩多く、貝殻、木片含む。粘性、しまり強い。
5. 黒灰褐色粘質土 2~10cm の泥岩、貝殻粒含む。粘性、しまり強い。
6. 暗灰褐色粘質土 2mm~30cm の泥岩多く、土師器片含む。粘性、しまり強い。(裏込め)
7. 暗灰褐色粘質土 2mm~5mm の泥岩非常に多い。粘性、しまり強い。(裏込め)
8. 暗灰褐色粘質土 2mm~5cm の泥岩含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
9. 暗灰褐色粘質土 2mm~10cm の泥岩多く含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
10. 暗灰褐色粘質土 2mm~5cm の泥岩含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
11. 暗灰褐色粘質土 2mm~1cm の泥岩含む。粘性強く、しまりあり。(裏込め)
12. 暗灰褐色粘質土 泥岩粒から小石大の泥岩非常に多く、炭化物多く含む。
13. 暗青灰色粘質土 拳大の泥岩やや多く、貝殻若干含む。
14. 黒褐色粘質土 炭化物を多く含む。(裏込め)

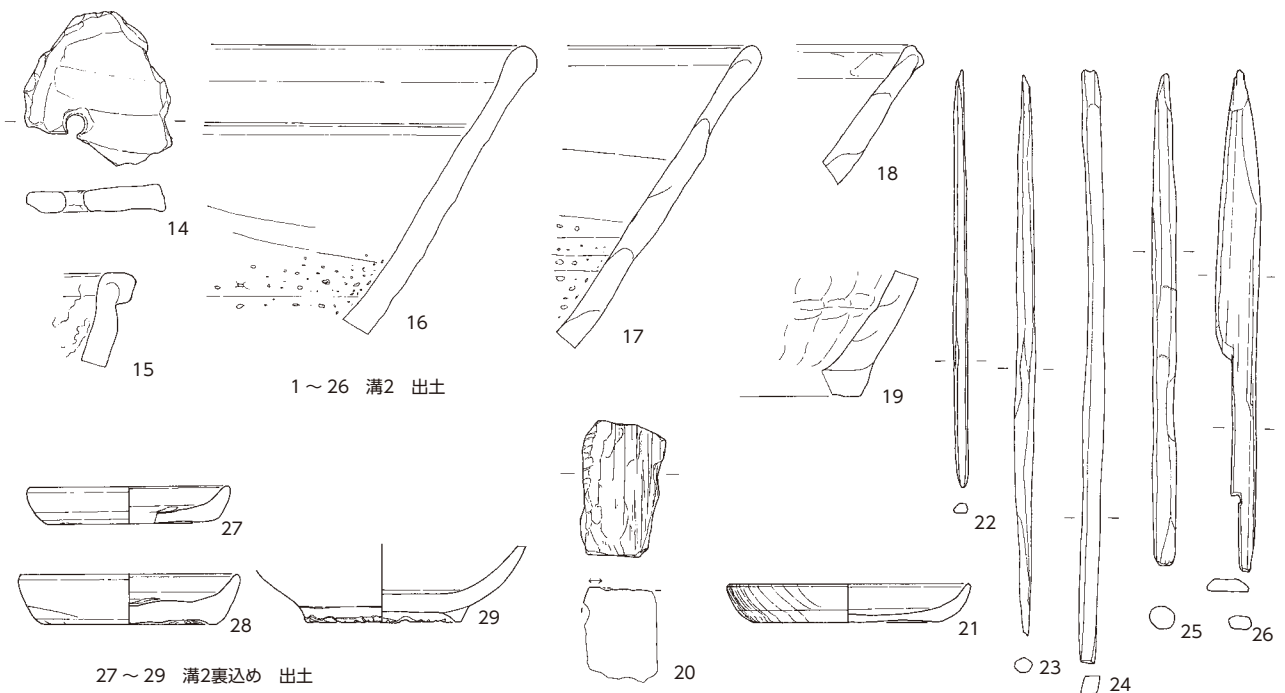


図17 I b面溝2、同出土遺物

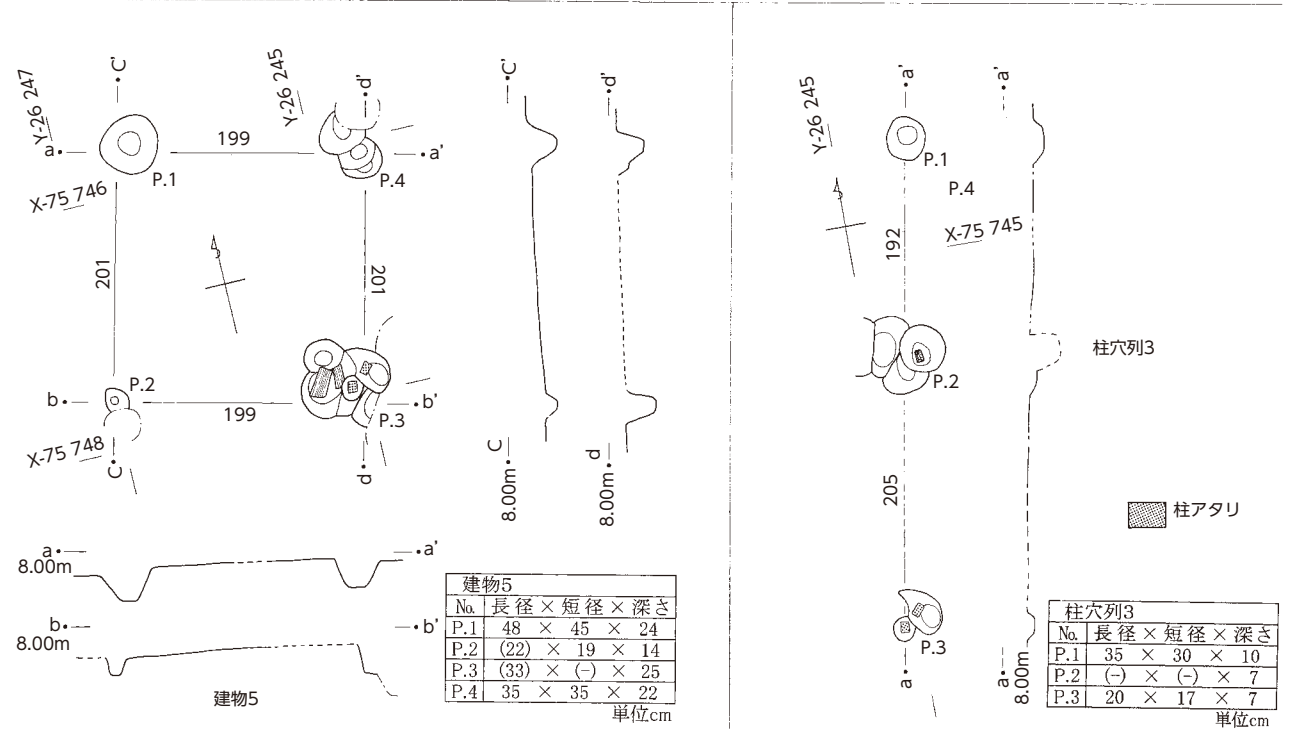
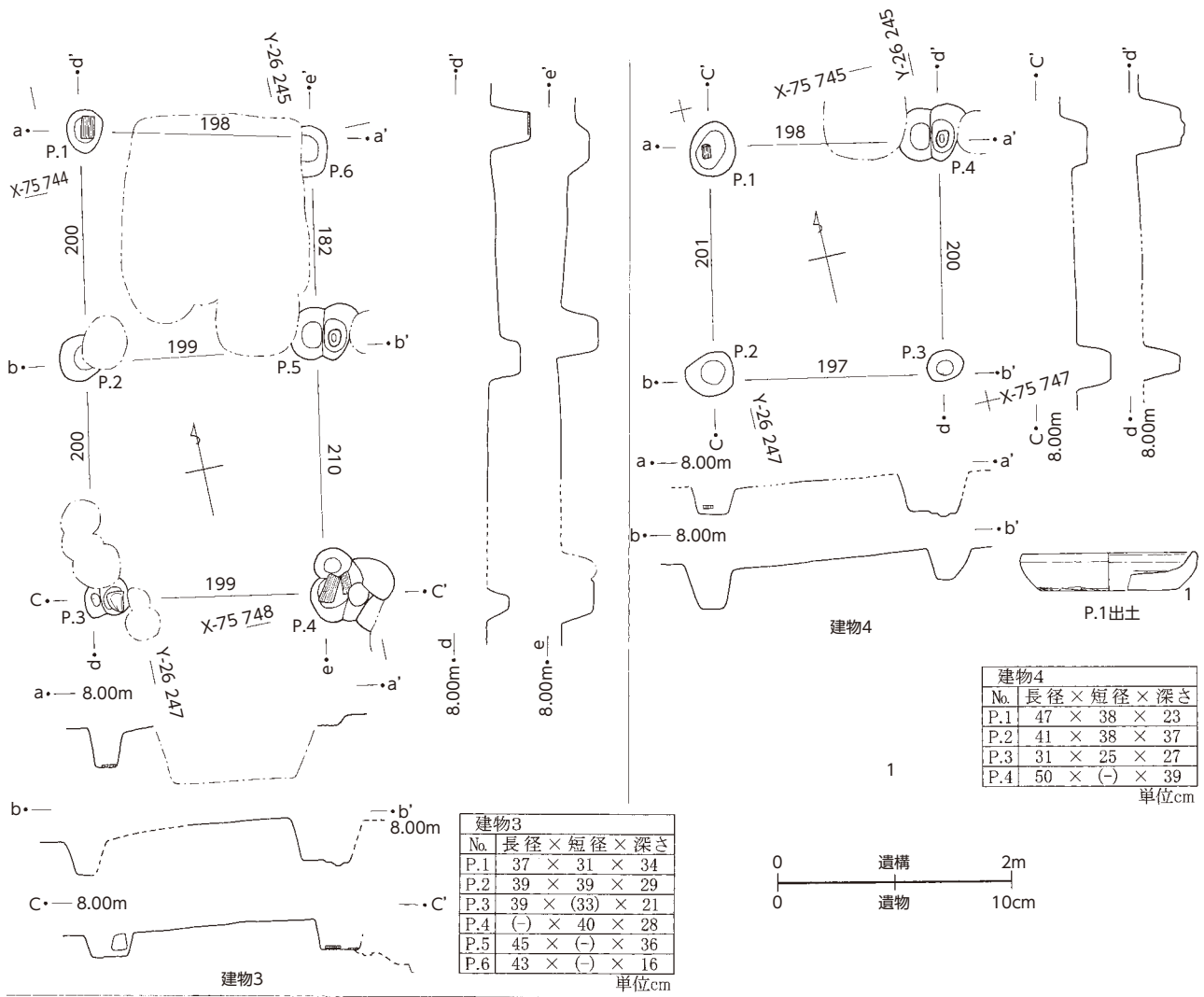


図18 I b面建物3~5、柱穴列3、同出土遺物

る。遺物年代は13世紀中葉～第3四半期。

## 溝2 (図17)

位置：X-(75 741.22)～-(75 743.38) Y-(26 242.75)～-(26 250.10) 平面形：ほぼ直線 断面形：逆台形またはU字形，中位に段を持つ 規模：幅135cm×深さ90cm 主軸方位：N-81°-E 流下方向：東→西(?) 出土遺物：土師器皿R種小型(1～7)・土師器皿R種大型(8～13)・土師器皿加工品(14)・瓦器火鉢(15)・常滑片口鉢Ⅰ類(16・17)・常滑片口鉢Ⅱ類(18)・常滑壺(19)・砥石中砥(20)・漆器皿(21)・箸状木製品(22・23)・棒状木製品(24・25)・ヘラ状木製品(26) 特記事項：南側に人頭大泥岩の雑多な並びがともなう。土塁または築地塀の基礎の可能性もある。東から西に向かって深くなっているが、これはやはり計測間隔の短いことに由来すると考えたい。遺物年代は13世紀中葉～第3四半期か。

## 溝2裏込め出土遺物 (図17)

土師器皿R種小型(27・28)・東濃型山茶碗(29) 特記事項：13世紀中葉前後であろう

## 建物3 (図18)

位置：X-75 743.34～-75 748.12 Y-26 244.60～-26 247.45 平面形：長方形 規模：南北448cm×東西240cm(2×1間) 主軸方位：N-10°-E 重複関係：建物4と重なるが、本址が古い 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：溝2に直交する形で南北に長いが、東と南の調査区外に延びる可能性が高い。後述の土坑3はちょうどこの東西1間の中に収まる。

## 建物4 (図18)

位置：X-75 745.15～-75 746.78 Y-26 244.64～-26 247.50 平面形：方形 規模：南北238cm×東西240cm(1×1間) 主軸方位：N-11°-E 重複関係：建物3に重なるが本址が新しい 出土遺物：[P.1]土師器皿R種小型(1) 特記事項：一帯に群集する建物の一つ。建物3・柱穴列3とほぼ同じ主軸方位を持つ。これも調査区外の東と南に延びる可能性がある。1は13世紀中葉～第3四半期

## 建物5 (図18)

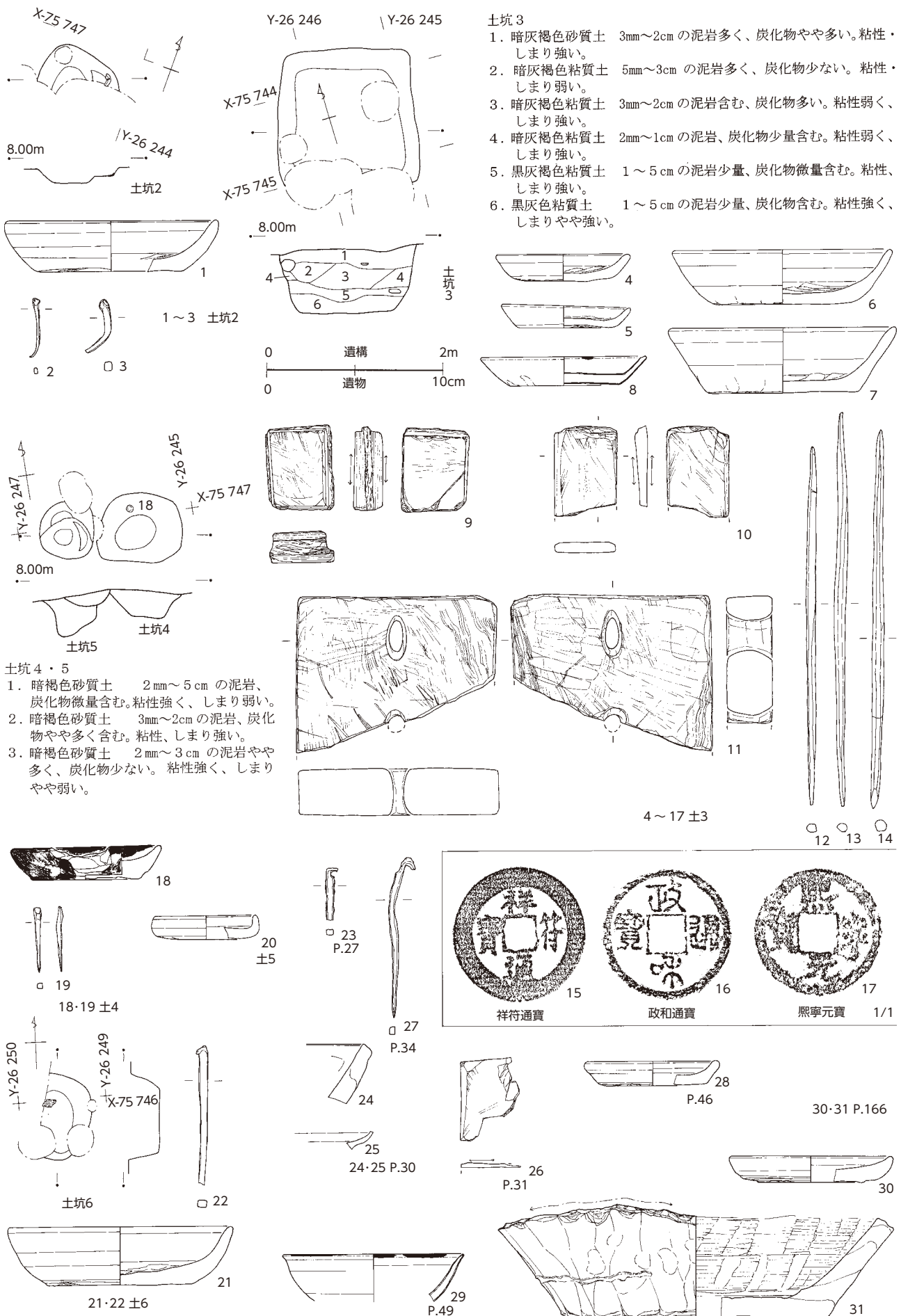
位置：X-75 745.39～-75 748.26 Y-26 244.45～-26 247.06 平面形：方形 規模：南北247cm×東西228cm(1×1間) 主軸方位：N-14°-E 重複関係：柱穴列3と重なるが本址が古い 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：他の建物・柱穴列とわずかに方位を異にし、層位的には最も古い。

## 柱穴列3 (図18)

位置：X-75 743.90～-75 748.07 Y-26 244.25～-26 245.21 平面形：直線状 規模：南北420cm 主軸方位：N-10.5°-E 重複関係：建物5と重なるが本址が新しい 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：一群の建物と柱穴列のうちでは相対的に新しく、柱穴も全体に浅い。

## 土坑2 (図19)

位置：X-75 747.12～-(75 747.66) Y-26 244.16～-(26 245.10) 平面形：不整形円形? 断面形：浅い逆台形、中位に段あり 規模：東西(92)cm×南北(55)cm×深さ18cm 主軸方位：N-82°-W 重複関係：小穴と重なるが新旧確認できず 出土遺物：土師器皿R種大型(1)・鉄釘(2・3) 特記事項：



- 土坑3
1. 暗灰褐色砂質土 3mm~2cmの泥岩多く、炭化物やや多い。粘性・しまり強い。
  2. 暗灰褐色粘質土 5mm~3cmの泥岩多く、炭化物少ない。粘性・しまり弱い。
  3. 暗灰褐色粘質土 3mm~2cmの泥岩含む、炭化物多い。粘性弱く、しまり強い。
  4. 暗灰褐色粘質土 2mm~1cmの泥岩、炭化物少量含む。粘性弱く、しまり強い。
  5. 黒灰褐色粘質土 1~5cmの泥岩少量、炭化物微量含む。粘性、しまり強い。
  6. 黒灰褐色粘質土 1~5cmの泥岩少量、炭化物含む。粘性強く、しまりやや強い。

- 土坑4・5
1. 暗褐色砂質土 2mm~5cmの泥岩、炭化物微量含む。粘性強く、しまり弱い。
  2. 暗褐色砂質土 3mm~2cmの泥岩、炭化物やや多く含む。粘性、しまり強い。
  3. 暗褐色砂質土 2mm~3cmの泥岩やや多く、炭化物少ない。粘性強く、しまりやや弱い。

図19 土坑2~6、同出土遺物、I b面小穴出土遺物

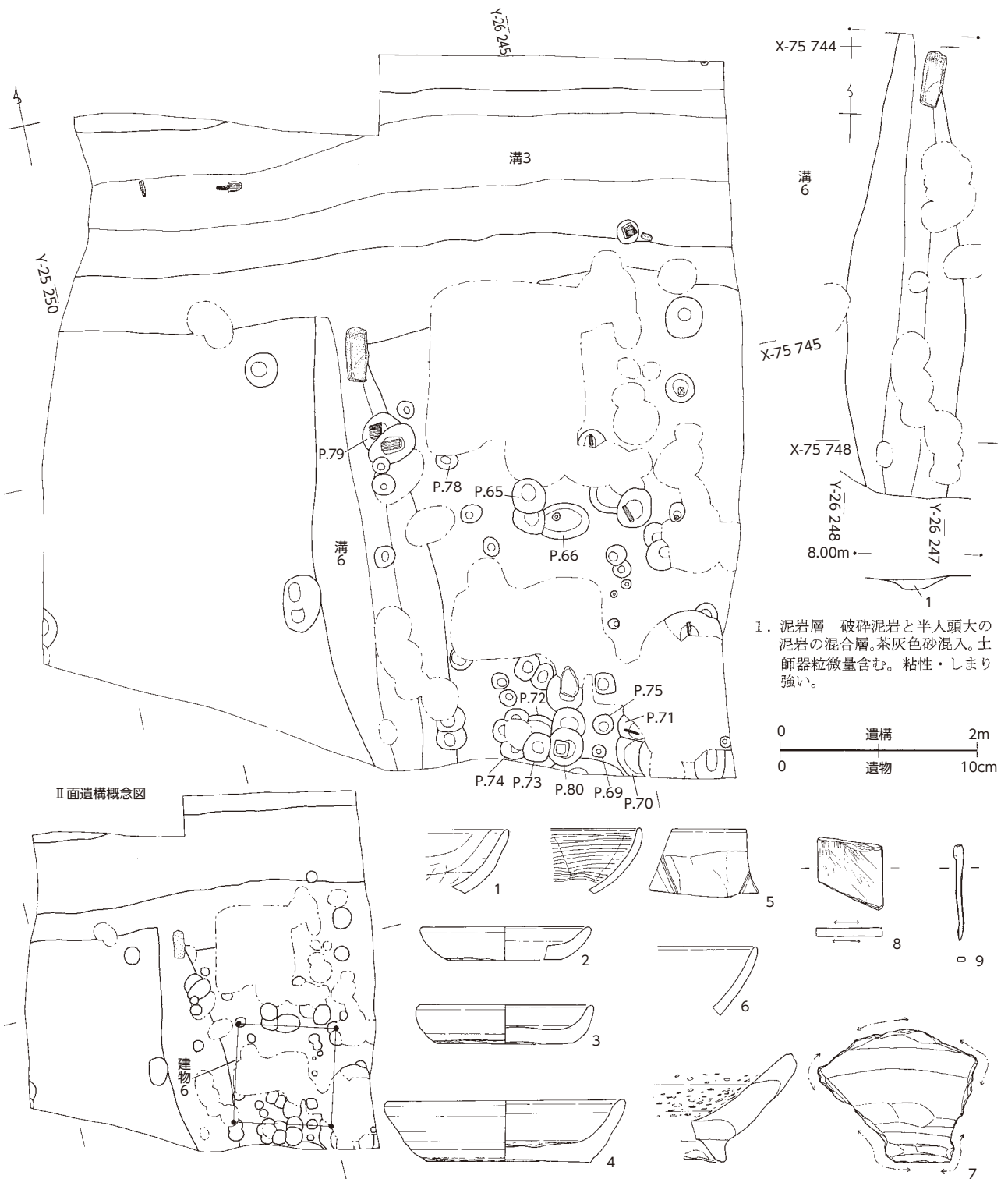


図20 II面遺構全図、溝6、II面出土遺物

建物3～4・柱穴列1の東南部にかかる。土坑4・5や、少し西に離れるが土坑6とも横並びの位置にある。建物の付随施設か。1は13世紀第3四半期

### 土坑3 (図19)

位置：X-75 743.54～-75 745.30 Y-(26 244.78)～-(26 246.55) 平面形：方形 断面形：箱形 規模：南北(160)cm×東西160cm×深さ80cm 主軸方位：N-1°-E 重複関係：P.26・27・29・

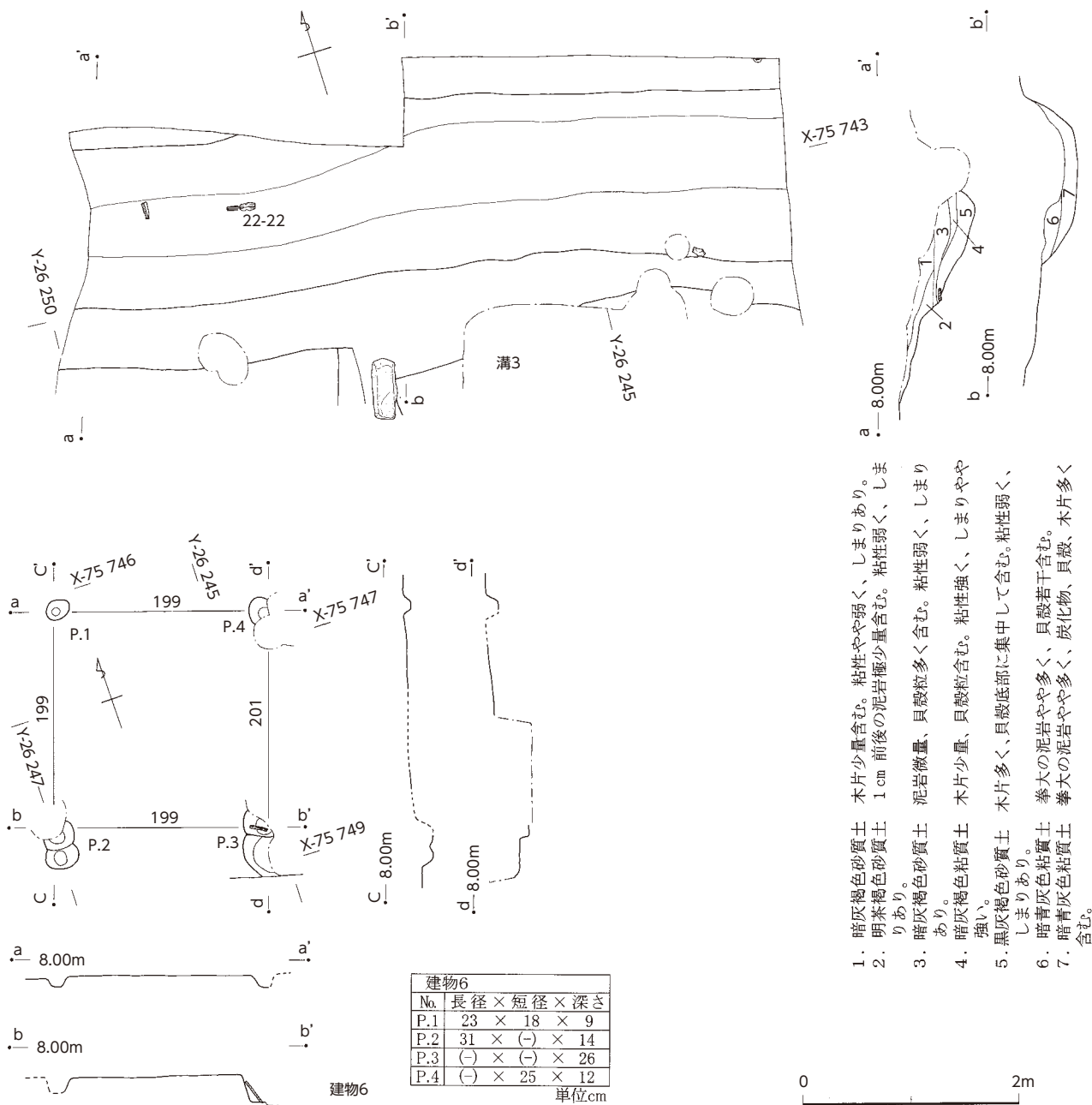


図21 II面溝3、建物6

31に切られる 出土遺物：土師器皿R種小型(4・5)・土師器皿R種大型(6・7)・白磁口はげ皿(8)・砥石仕上砥(9・10)・温石(11)・箸状木製品(12～14)・祥符通宝(15)・政和通宝(16)・熙寧元宝(17)  
 特記事項：大型の方形土坑。建物群に近接する。上層I a面の近い場所にも方形土坑があり(「方形土坑1・2」)、居住者の継続性がうかがえる。これも便槽の可能性があろう。出土遺物の年代は大きくみて13世紀後半

#### 土坑4 (図19)

位置：X-75 746.74 ~ -75 747.56 Y-26 245.13 ~ -26 246.15 平面形：円または隅丸方形  
 断面形：逆台形 規模：東西(長径)99cm×南北(短径)81cm×深さ32cm 主軸方位：N-85°-W 出土遺物：土師器皿R種小型(18)・鉄釘(19) 特記事項：一帯に横並びで存在する土坑の一つ。18の年代は13世紀第2四半期

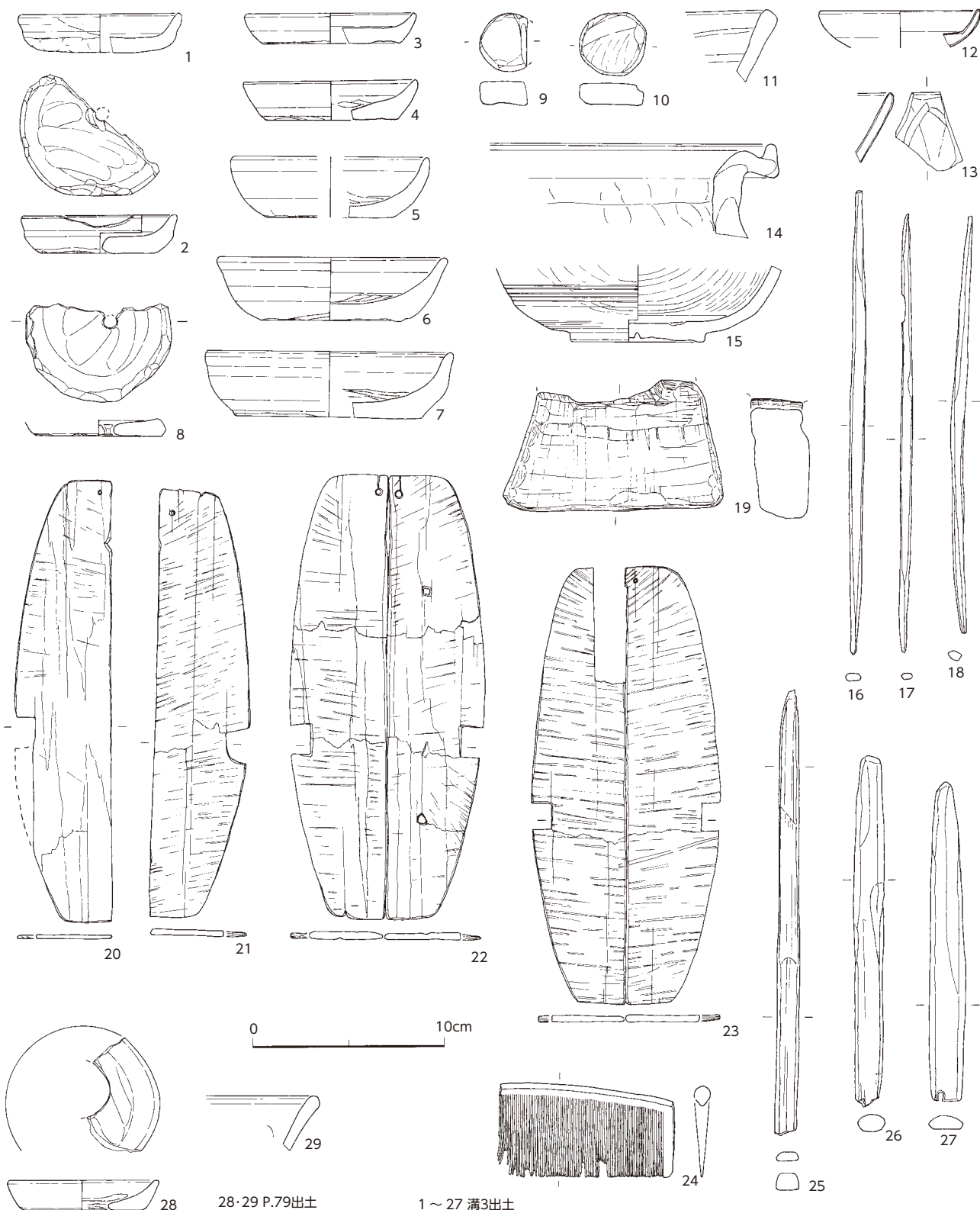


図22 溝3・P79出土遺物

土坑5 (図19)

位置：X-75 746.72 ~ -75 747.37 Y-26 246.14 ~ -26 246.77 平面形：円形 断面形：不整逆台形 規模：南北(長径) 66cm×東西(短径) 63cm×深さ 50cm 主軸方位：N-5°-E 出土遺物：白色系土師器皿T種極小型(20) 特記事項：一帯に横並びで存在する土坑の一つ。段部を持つ。年代は13世紀第2四半期頃か

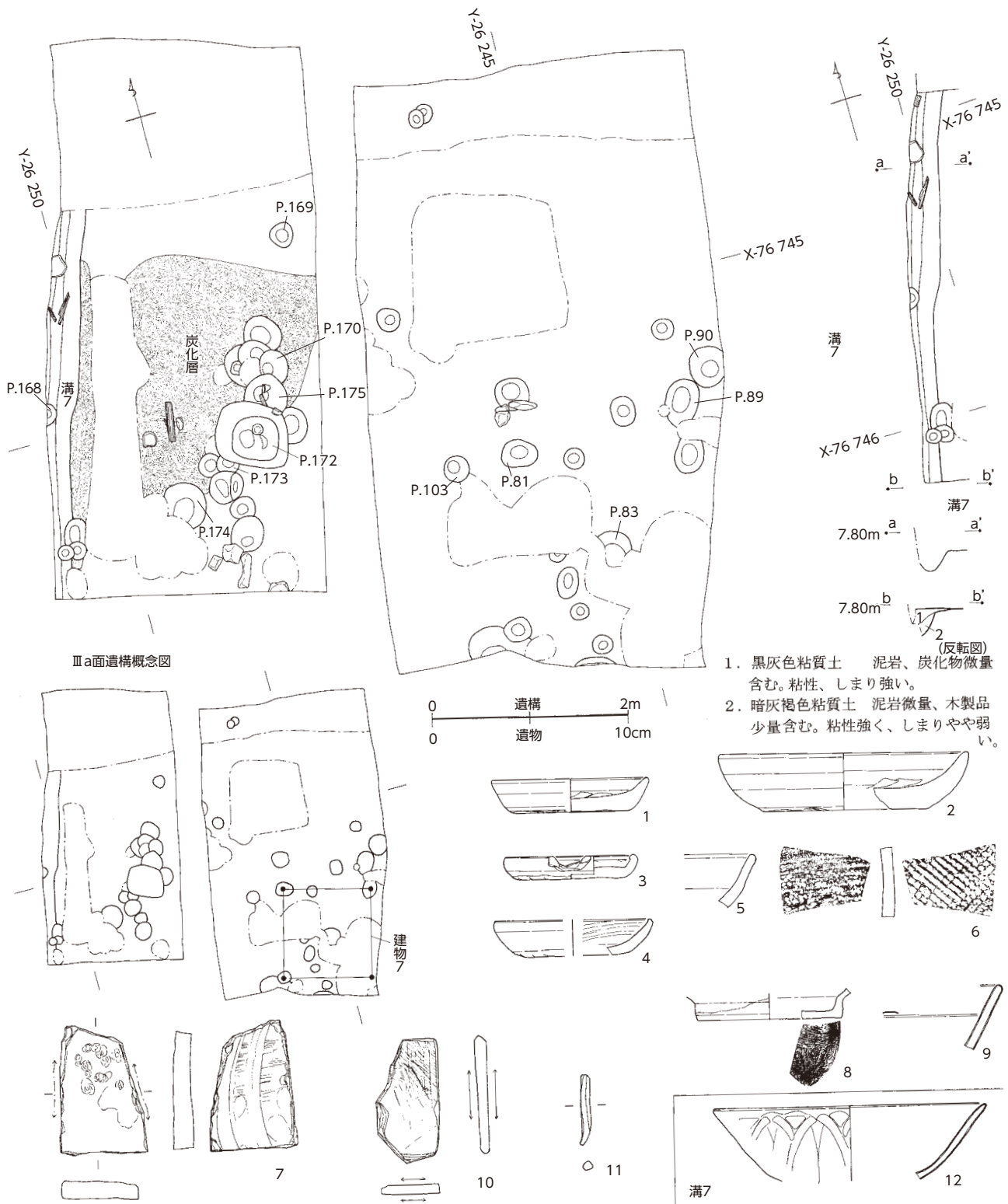


図23 III a面遺構全図、III a面出土遺物、溝7、同出土遺物

### 土坑6 (図19)

位置：X-76 745.69 ~ 76 746.68 Y-26 249.18 ~ (26 249.78) 平面形：隅丸方形または楕円形 断面形：逆台形 規模：南北(長径)100cm×東西(67)cm×深さ33cm 主軸方位：N-15°-E  
 出土遺物：土師器皿R種大型(21)・鉄釘(22) 特記事項：西半部を上層遺構により失うが、平面形は隅丸もしくは楕円形、断面は逆台形で全体として整った形状を呈する。建物群よりもいくらか西に離れているが、これも上記土坑群と同様の性格のものともみたい。21は質量があり、13世紀中葉前後とみるべき。



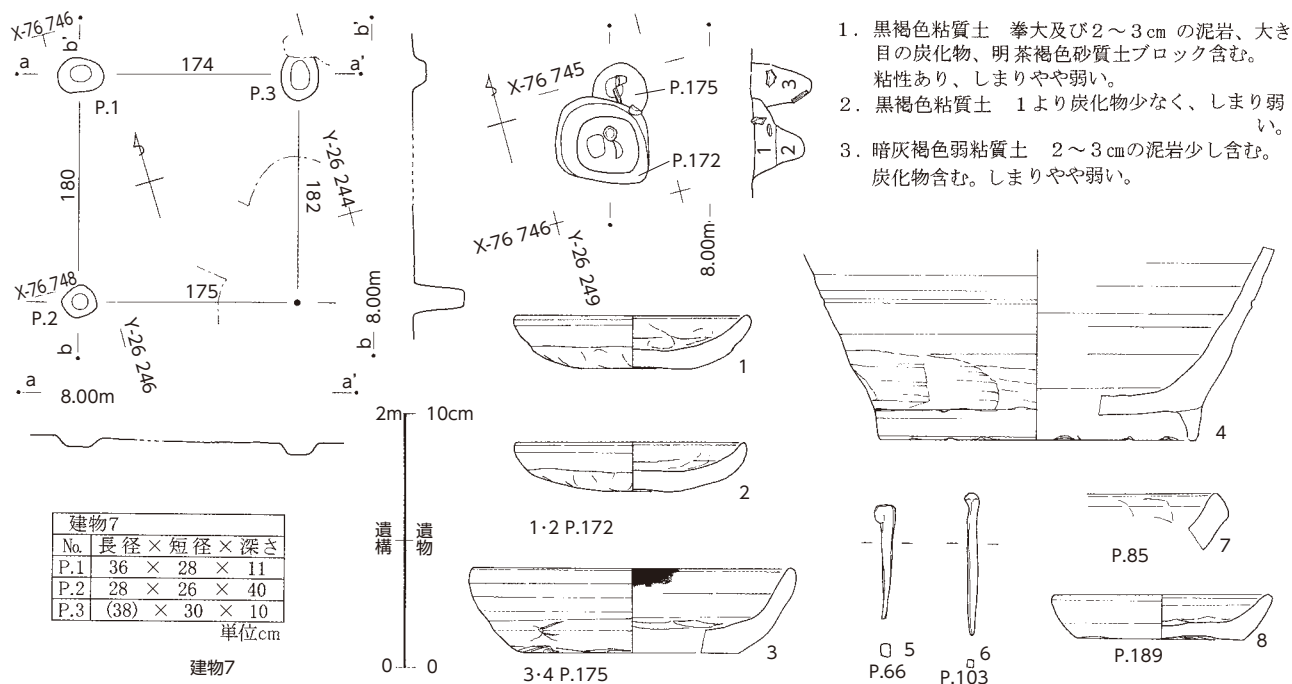


図24 建物7、Ⅲ a面小穴出土遺物

#### I b面小穴出土遺物 (図19)

[P.27] 鉄釘 (23)・[P.30] 常滑片口鉢Ⅱ類 (24)・(同) 東遠型山皿 (25)・[P.31] 砥石仕上砥 (26)・[P.34] 鉄釘 (27)・[P.46] 土師器皿R種小型 (28)・[P.49] 白磁口はげ皿 (29)・[P.166] 土師器皿R種小型 (30)・(同) 常滑片口鉢Ⅱ類 (31) **特記事項**：全体に13世紀第2四半期ないし中葉か

### 4. Ⅱ面

#### Ⅱ面出土遺物 (図20)

土師器皿T種大型 (1)・土師器皿R種小型 (2・3)・土師器皿R種大型 (4)・瓦器碗 (5)・東遠型山茶碗 (6)・常滑片口鉢Ⅰ類 (7)・砥石仕上砥 (8)・鉄釘 (9) **特記事項**：年代は13世紀中葉～第3四半期だろう

#### 溝3 (図21・22)

位置：X-75 741.50～(75 744.45) Y-(26 242.95)～(26 250.06) 平面形：2区でわずかに南に折れまた西に向く 断面形：逆台形 規模：東西(675)cm×南北(255)cm×深さ52cm 主軸方位：N-90°-W 重複関係：溝6と切り合うが重複関係は確認できない。同時期であろう 流下方向：西→東 出土遺物：土師器皿T種(図22-1)・土師器皿R種小型(2～4)・土師器皿R種中型(5)・土師器皿R種大型(6・7)・土師器皿加工品(8)・土師器転用円盤(9・10)・常滑片口鉢Ⅰ類(11)・白磁無文皿(12)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(13)・常滑甕(14)・漆器碗(15)・箸状木製品(16～18)・連歯下駄(19)・草履芯(20～23)・木製櫛(24)・串状木製品(25)・棒状木製品(26)・へら状木製品(27) **特記事項**：調査区北辺を通過する溝。幅2.5mを超える大型溝。断面からは木枠の存在は観察できない。遺物年代は13世紀中葉。

#### 溝6 (図20)

位置：X-75 743.87～(75 748.57) Y-(26 246.80)～(26 248.57) 平面形：直線形だが溝3との接点で細く、南に数mの辺りで膨らむ 断面形：皿形 規模：幅122cm×深さ38cm 主軸方位：N

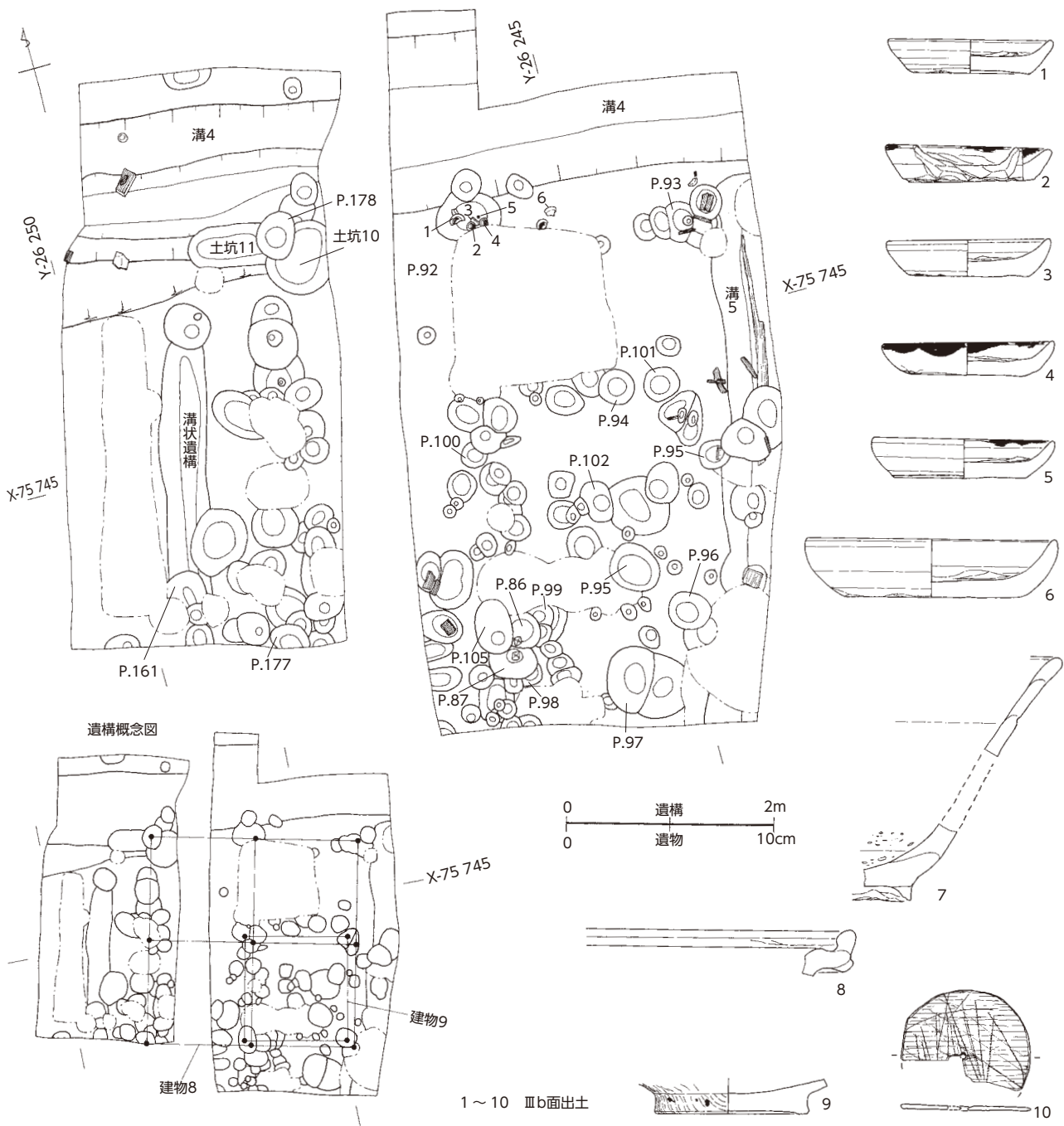


図25 Ⅲb面遺構全図、同出土遺物

—4°—E 重複関係：溝6と切り合うが重複関係は確認できない。同時期であろう 流下方向：南→北  
 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：溝3に流れ込む南北溝。全体に浅く、地割溝かまたは建物の雨落ちのような役割があるのかもしれない。

### 建物6 (図21)

位置：X-75 746.05 ~ -75 748.24 Y-(26 244.44) ~ -(26 247.16) 平面形：方形 規模：南北251cm×東西215cm 主軸方位：N-18°-E 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：東と南の調査区外に延びると予想される。上層にもこの付近に建物があり、地割あるいは屋敷空間の連続性がうかがえる。

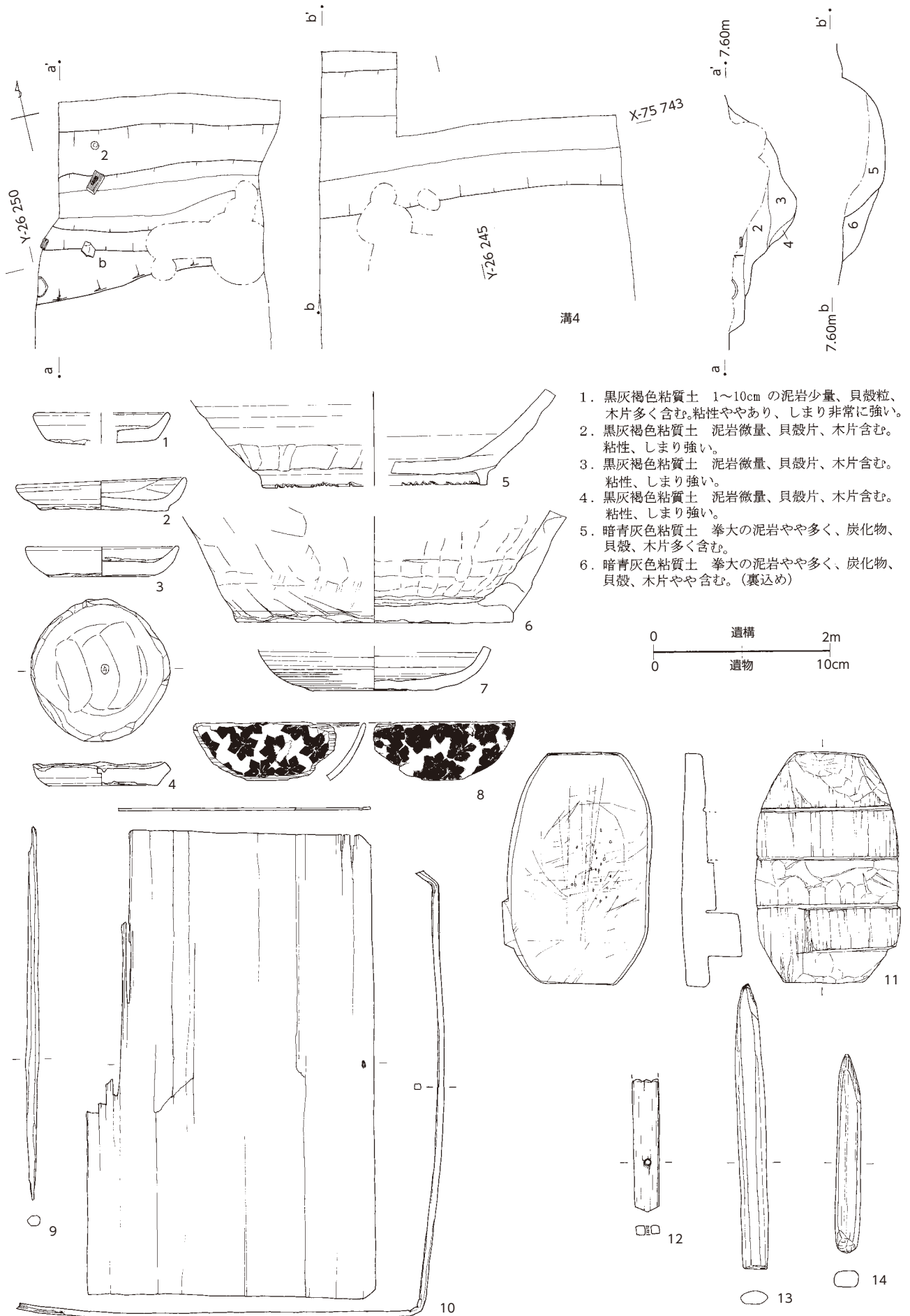


図26 III b面溝4、同出土遺物

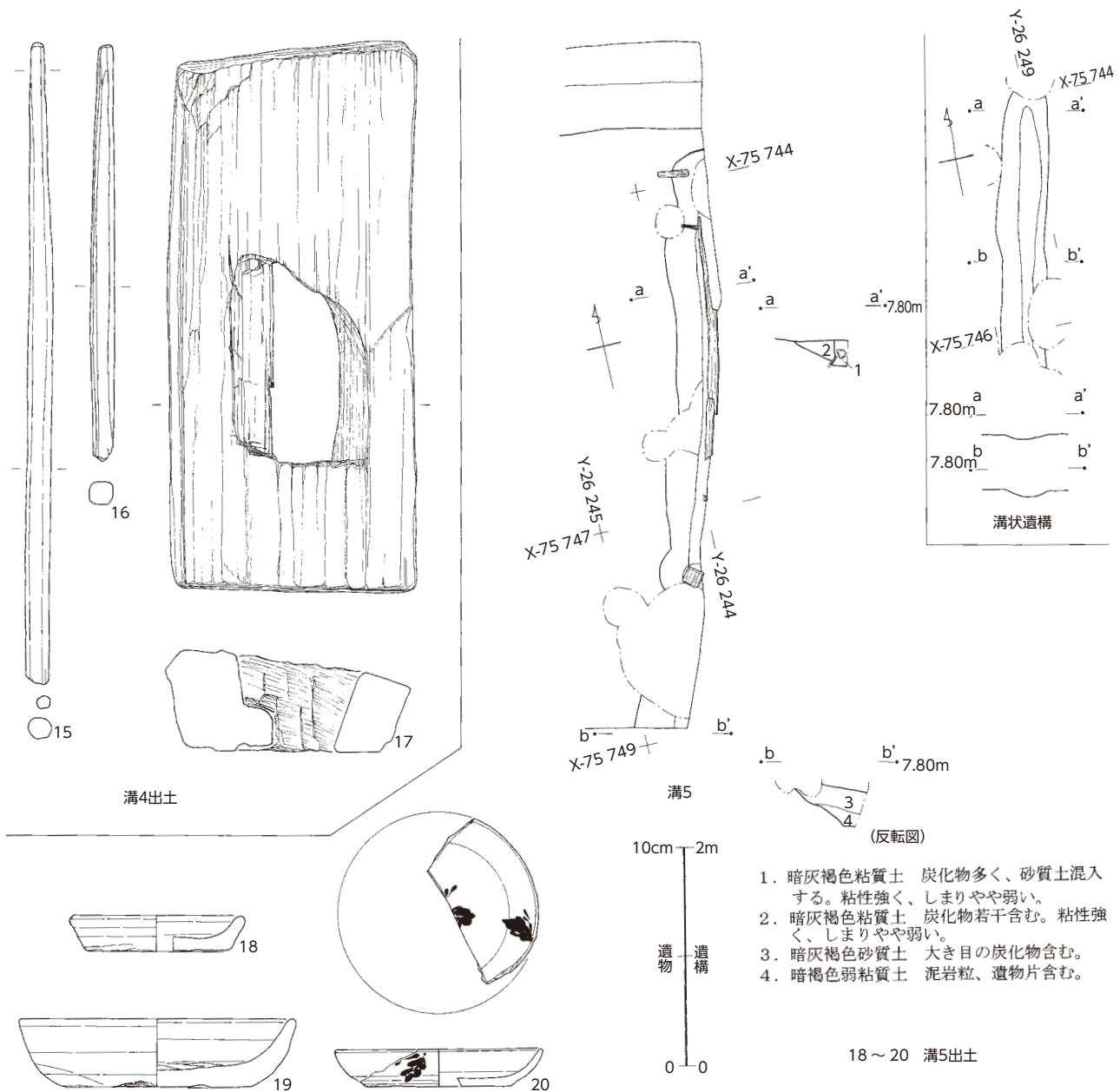


図27 溝4出土遺物(2)、溝5、溝状遺構

P.79出土遺物(図22)

土師器皿R種小型(28)・常滑片口鉢I類(29) 特記事項:年代は13世紀中葉~第3四半期か

5. III a面

III a面出土遺物(図23)

土師器皿R種小型(1)・土師器皿R種大型(2)・白色系土師器皿T種小型(3・4)・尾張型山茶碗(5)・亀山甕(6)・亀山甕転用陶片(7)・緑釉茶入れ(8)・竜泉窯青磁画花文碗(9)・砥石仕上砥(10)・鉄釘(11)  
 特記事項:全体に13世紀前半~中葉の様相を持つ

溝7(図23)

位置:X-(75 744.77)~(75 746.63) Y-(26 249.53)~(26 250.88) 平面形:ほぼ直線 断面形:

U字形 規模：幅(35)cm×長さ(397)cm×深さ(30)cm 主軸方位：N-18°-E 流下方向：南→北  
 出土遺物：竜泉窯青磁鎧蓮弁文碗(12) 特記事項：溝底に木杭が残る。前後の時代にこの位置に溝はなく、当該面時のみの地割であることがわかる。北辺の東西溝との関係は、上層溝に削り取られているため不明だが、南から北へという流下方向からみてまず流れ込んでいると考えてよい。12は蓮弁の幅が非常に広く、13世紀中葉～第3四半期に位置付けられる。

### 建物7 (図24)

位置：X-76 746.23～-(7674825) Y-26 243.95～-(26 246.42) 平面形：方形 規模：南北208cm×東西207cm(1×1間) 主軸方位：N-15°-E 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：現況で1間×1間だが、南と東側の調査区外に延びると予想される。あるいは1・2区境界の未掘部分にも一連の柱穴がある可能性も否定できない。上層建物とほぼ重なる位置にあるが、上述溝7の存在から、居住者の継続性は薄いとみるべきだろう。

### Ⅲ a面小穴出土遺物 (図24)

(P.172) 土師器皿T種小型(1)・(同) 土師器皿T種小型(2)・(P.175) 土師器皿R種大型(3)・(同) 常滑片口鉢I類(4)・(P.66) 鉄釘(5)・(P.103) 鉄釘(6)・(P.85) 常滑片口鉢II類(7)・(P.189) 土師器皿R種小型(8) 特記事項：13世紀第2四半期頃としたい

## 6. Ⅲ b面

### Ⅲ b面出土遺物 (図25)

土師器皿R種小型(1～5)・土師器皿R種大型(6)・常滑片口鉢I類(7)・常滑甕(8)・漆器椀(9)・円板状木製品(10) 特記事項：9はいまだ鎌倉時代後期の大量生産品の段階には至っておらず、13世紀前半に属する。遺物全体でも13世紀第2四半期の様相を持つ。

### 溝4 (図26・27)

位置：X-(75 741.57)～-(75 743.46) Y-(26 243.10)～-(26 248.20) 平面形：西半部でやや南にずれる 断面形：浅皿形 規模：幅(東西)93cm×深さ80cm 主軸方位：N-86°-W 流下方向：東←西 出土遺物：土師器皿T種小型(図26-1・2)・土師器皿R種小型(3)・土師器皿加工品(4)・常滑片口鉢I類(5)・常滑甕(6)・漆器椀(7・8)・箸状木製品(9)・折敷(10)・子供用下駄(11)・用途不明木製品(12)・へら状木製品(13・14)・棒状木製品(図27-15・16)・部材(17) 特記事項：柱穴の多い当該面の北側を区切る東西溝。東から西に流れているが、これもやはり検討を要しよう。調査区西域では途中で段を持つ。漆器の7は大量生産以前の製品だが、8は13世紀中葉以降とみていい。全体的には13世紀中葉の様相を呈している。

表1 溝4貝類出土表

ハマグリ	チョウセンハマグリ	サザエ	アカニシ	マダカアワビ	イボキサゴ	ダンベイキサゴ	ツメタガイ	サルボウガイ	イガイ	クボガイ	ハイガイ	ウニ
355	62	6	7	5	1	326	14	2	1	3	3	1

### 溝5 (図27)

位置：X-75 743.77～-(75 748.93) Y-(26 243.30)～-(26 245.11) 平面形：南に向かいやや西に曲がる 断面形：皿形または逆台形 規模：幅(50)cm×長さ(532)cm×深さ40cm 主軸方位：N

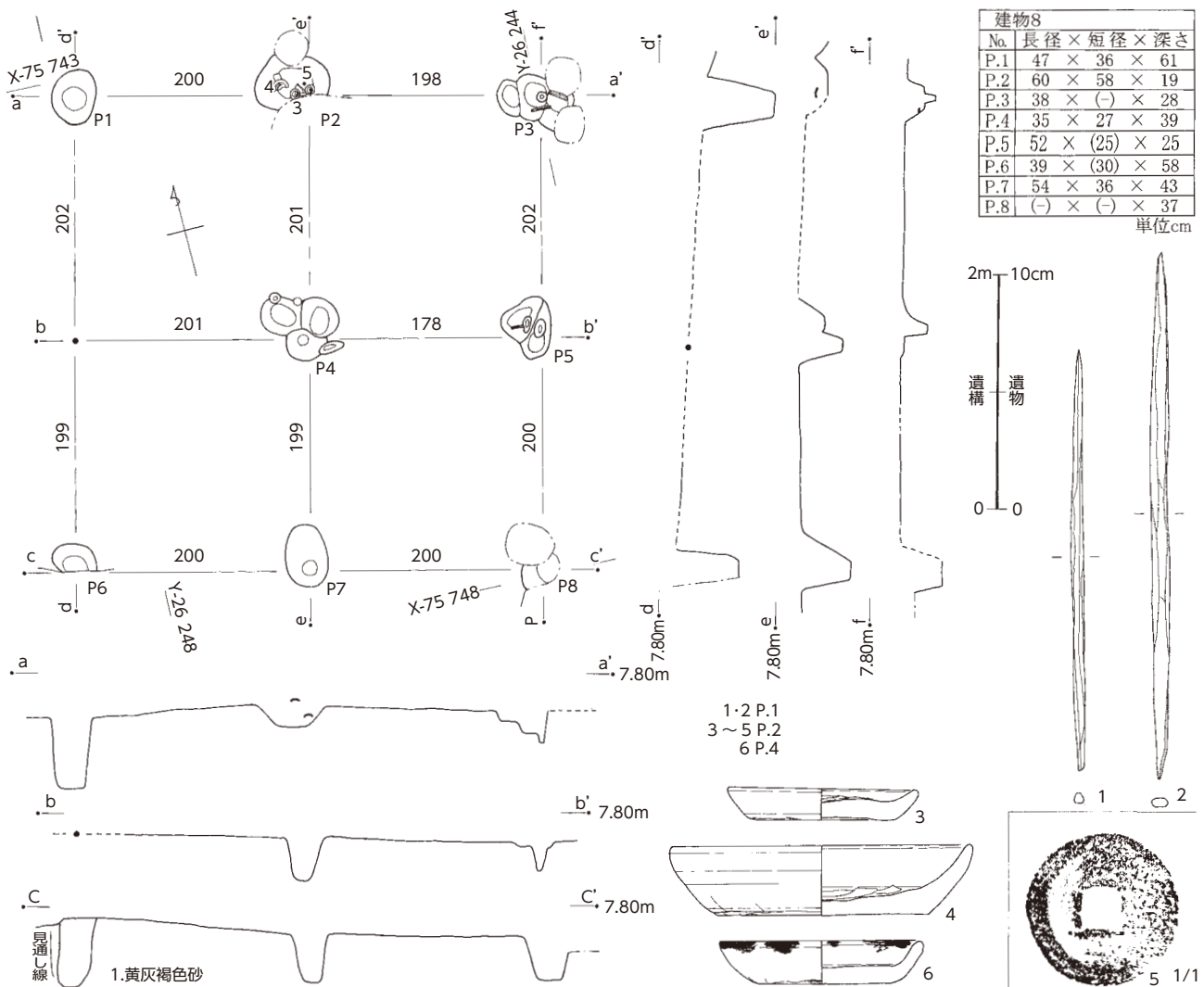


図28 Ⅲ b面建物8、同出土遺物

— 14°—E 流下方向：→南 出土遺物：土師器皿R種小型（18）・土師器皿R種大型（19）・漆器皿（20）  
 特記事項：東壁際に溝枠らしい板材が残る。次述の「溝状遺構」は本址から約5.5m西の平行した位置にある。  
 年代は13世紀中葉～第3四半期。

### 溝状遺構（図27）

位置：X—(75 743.92)～—(75 746.37) Y—26 248.81～—(26 249.72) 平面形：ほぼ直線 断面形：浅皿形 規模：幅48cm×長さ(247)cm×深さ7cm 主軸方位：N—13°—E 流下方向：北→南 重複関係：P.161に切られる 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：前述溝5の西5.5mに平行して存在する。本址以西には柱穴等がほとんど見られないので、溝のような何らかの境界標識機能が想定できる。遺物が乏しいが、年代的には溝5や次述の建物8・9と同様とみなくてはならない。

### 建物8（図28）

位置：X—75 742.95～—(75 748.10) Y—26 243.88～—26 248.90 平面形：方形 規模：東西4.27m（1間）×南北（1間）458cm 主軸方位：N—11°—E 重複関係：建物9に切られる 出土遺物：(P.1) 箸状木製品（1・2）・(P.2) 土師器皿R種小型（3）・(同) 土師器皿R種大型（4）・(同) 銭（5）・(P.4) 土師器皿R種小型（6） 特記事項：溝5と溝状遺構に挟まれた位置に収まっているので、東西には拡がら

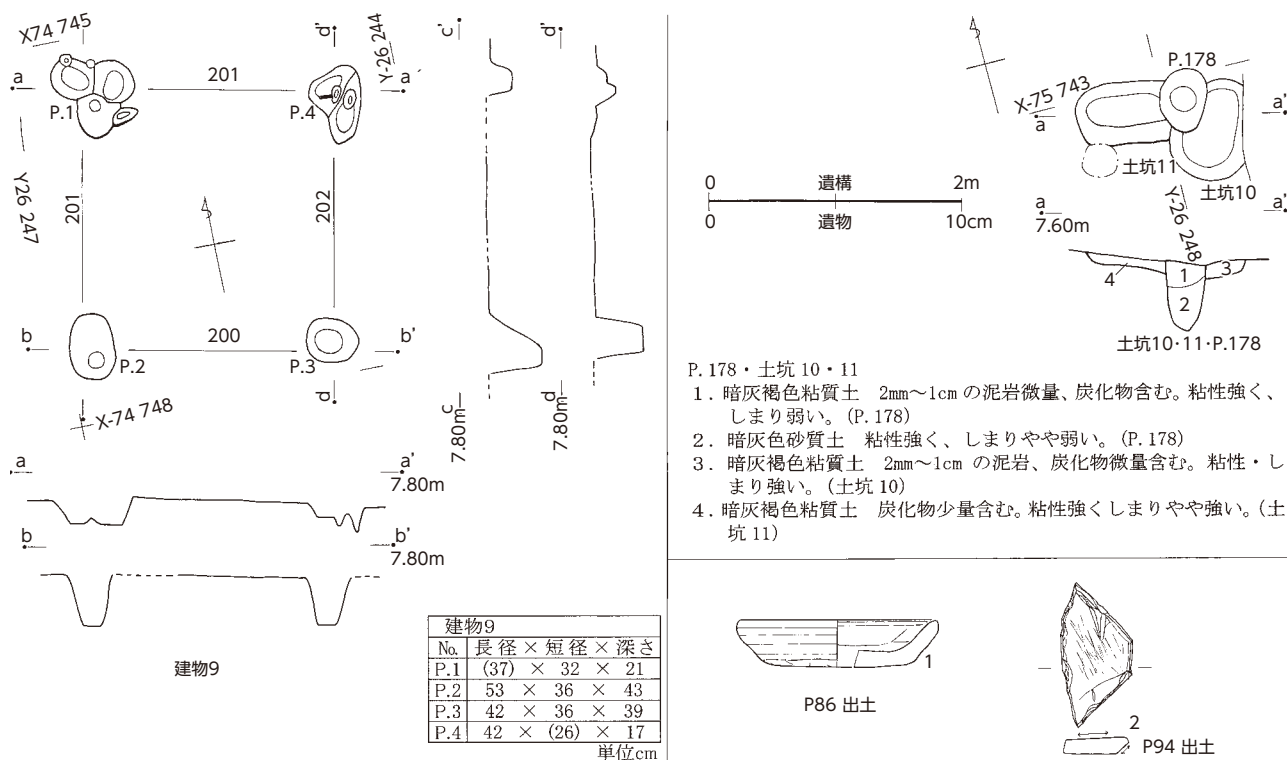


図29 建物9、土坑10・11・P.178、Ⅲ b面小穴出土遺物

ない可能性がある。柱穴のいくつかを建物9と共有するが、本址が古い。遺物年代は13世紀中葉前後であろう。

### 建物9 (図29)

位置：X-75 745.10 ~ -74 747.90 Y-26 244.12 ~ -26 247.02 平面形：方形 規模：東西253cm (1間) × 南北248cm (1間) 主軸方位：N-11°-E 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：一群の建物の一つで、これ以後I面時までこの付近にはずっと建物が存在し続けることになる。

### 土坑10 (図29)

位置：X-75 743.11 ~ -75 743.80 Y-26 247.35 ~ -26 247.98 平面形：楕円 断面形：皿形 規模：東西(76)cm × 62cm × 深さ13cm 主軸方位：N-49°-E 重複関係：P.178に切られる，土坑11との新旧は不明 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：東西溝脇の溝状遺構との交点近くに位置する

### 土坑11 (図29)

位置：X-(75 742.92) ~ -75 743.42 Y-(26 247.95) ~ -26 248.71 平面形：長円形 断面形：皿形 規模：長軸(78)cm × 短軸42cm × 深さ13cm 主軸方位：N-78°-W 重複関係：P.178に切られる，土坑10との新旧は不明 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：これも上述土坑10同様、東西溝脇の溝状遺構との交点近くに位置する

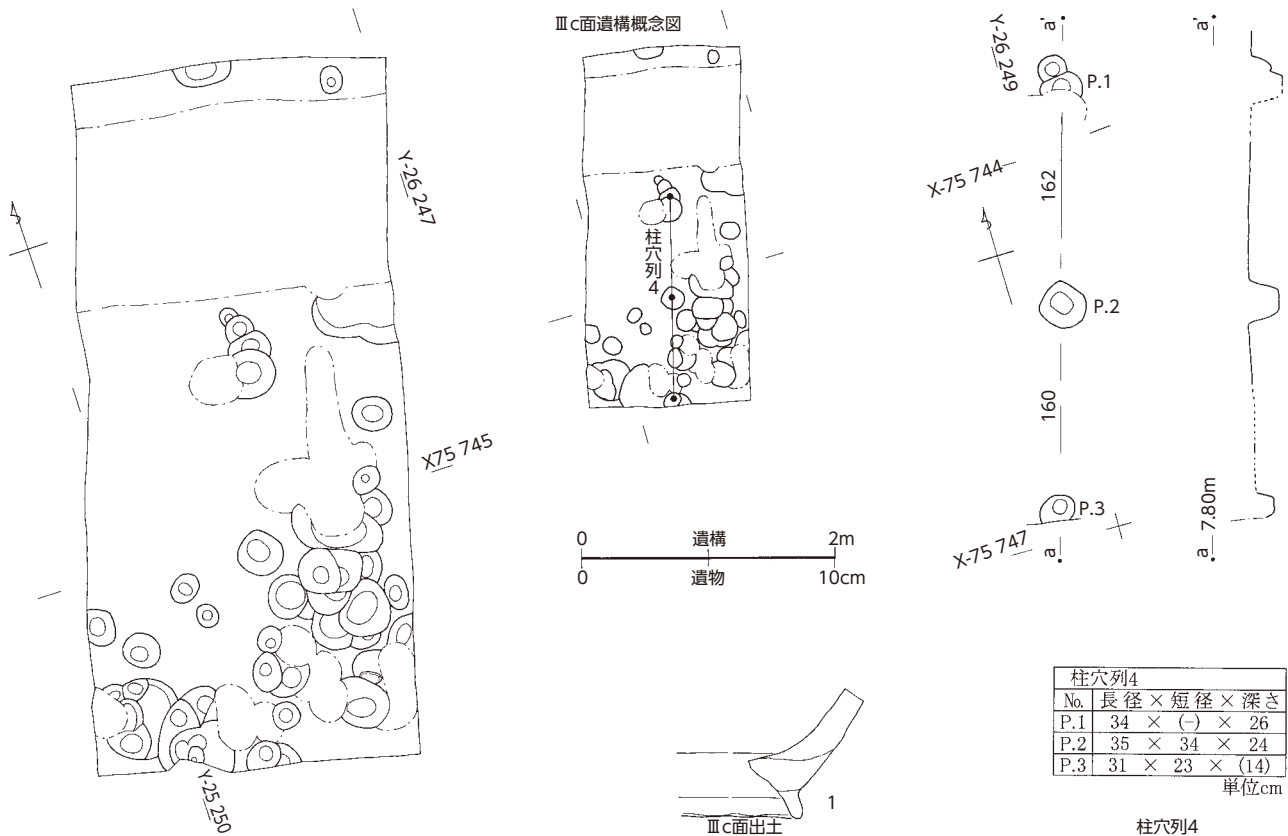


図30 III c面遺構全図、III c面出土遺物、柱穴列4

### III b面小穴出土遺物 (図29)

(P.86) 土師器皿T種小型 (1)・(P.94) 砥石仕上砥 (2) 特記事項：1は13世紀中葉以前に属する

## 7. III c面

### III c面出土遺物 (図30)

常滑片口鉢I類 (1) 特記事項：年代は13世紀中葉前後か

### 柱穴列4 (図30)

位置：X-75 743.35 ~ -75 746.85 Y-26 248.38 ~ -26 249.59 規模：南北長3.63m (2間)  
 主軸方位：N-15°-E 出土遺物：凶化可能遺物なし 特記事項：1区には調査が及んでいないが、東と南に延びると考えるべきだろう

## 8. IV面

### 溝8 (図31)

位置：X-(75 741.66) ~ -(75 743.41) Y-(24 246.92) ~ -(26 249.83) 平面形：直線状 断面形：  
 規模：長さ(258)cm×深さ78cm 主軸方位：N-75°-W 特記事項：上層溝に削られて南岸の一部しか残っていないが、北辺を東西によぎる溝が鎌倉時代初期から存在していることがわかる。



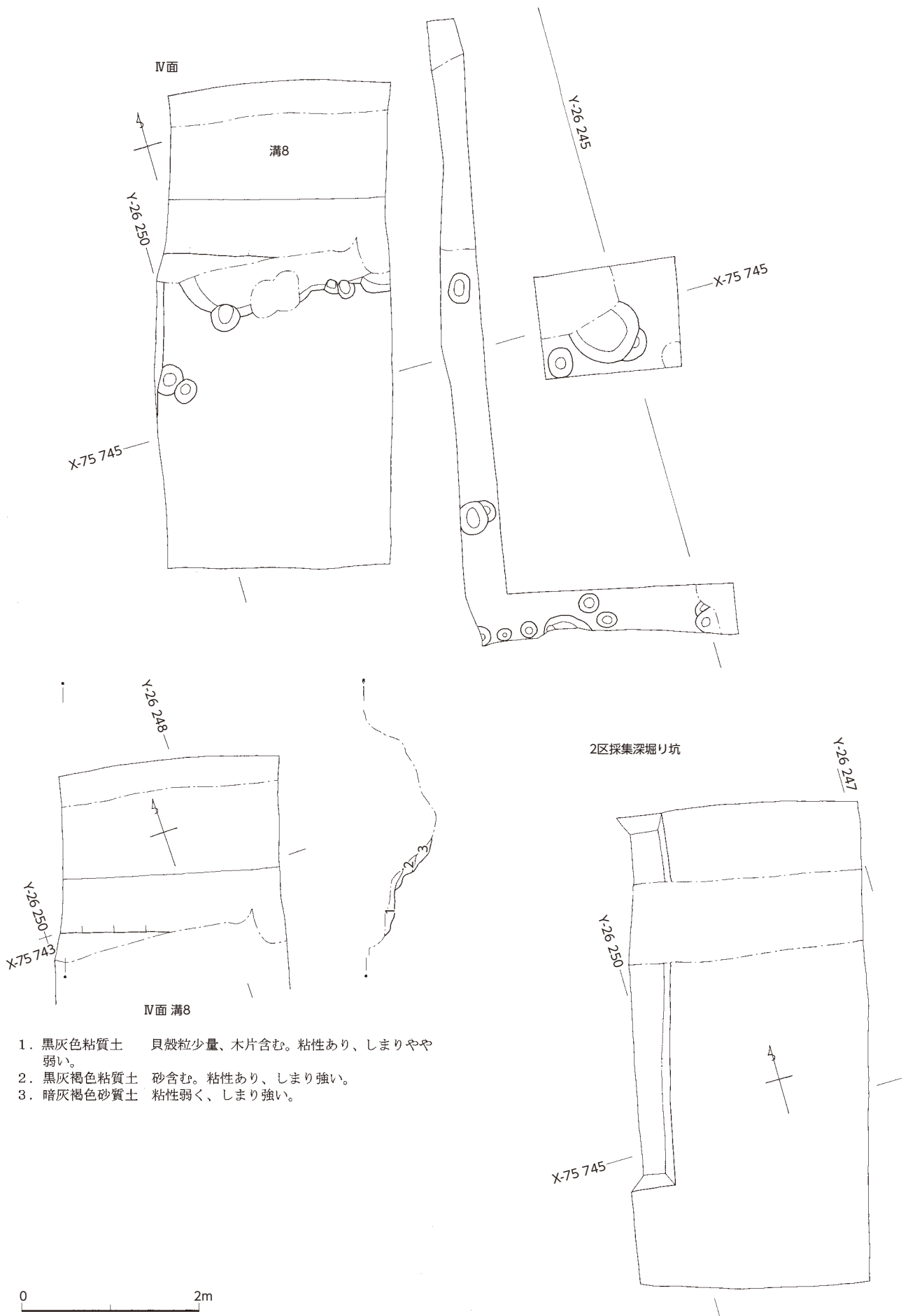


図31 IV面遺構全図、溝8、2区最終深掘り

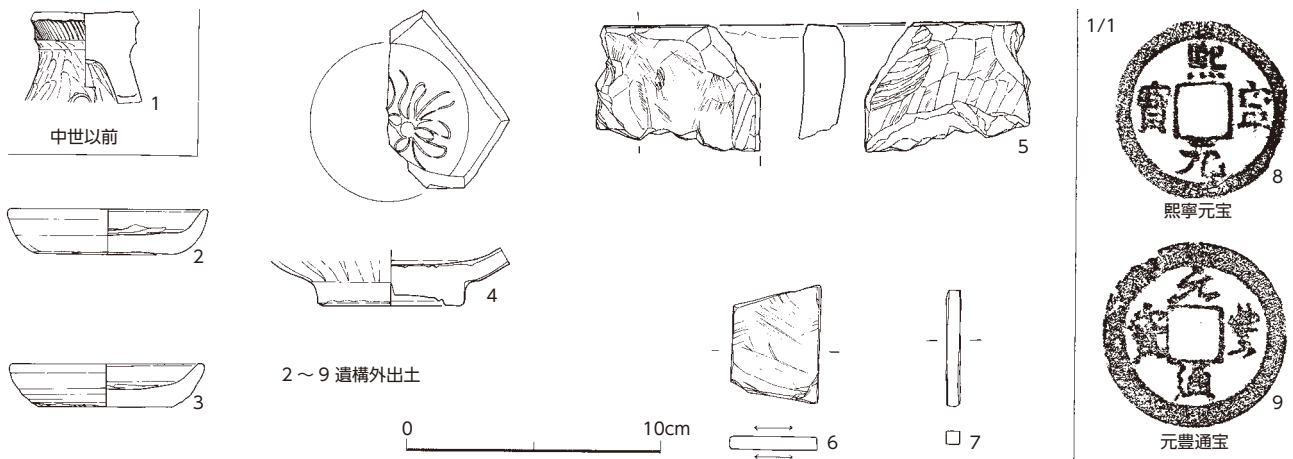


图32 中世以前・遺構外採集遺物

## 9. 中世以前・採集遺物

### 中世以前 (图32)

土師器器台 (1)

### 遺構外採集遺物 (图32)

土師器皿R種小型 (2・3)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗 (4)・滑石鍋轉用品 (5)・砥石仕上砥 (6)・鉄釘 (7)・熙寧元寶 (8)・元豐通寶 (9)

(馬淵)

表1 出土遺物観察表(1)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図5-1	調査区西壁	常滑 甕	底部片 底径17.0cm 輪積み成形、胎土は暗灰色、長石・石英粒・黒色粒含む 器表は茶褐色 内底面に降灰、外底面に離れ砂
2	調査区南壁	竜泉窯茶色青磁 鍋連弁文折縁鉢	口縁～胴部片 素地は淡黄灰色、黒色粒少量含みやや粗め 釉は胎色半透明で厚く掛かり細かい貫入が入る なると思われる
図7-1	溝1	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.0)cm 器高1.2cm 回転口クロ 板状圧痕あり 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は黄灰色、微砂粒・海綿骨芯・雲母を含む
2	溝1	土師器皿 R種小型	口径(6.9)cm 底径(4.4)cm 器高1.7cm 右回転口クロ 板状圧痕あり 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒・白色粒を含む粗土 口縁部に油煤付着
3	溝1	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径5.0cm 器高1.8cm 右回転口クロ 板状圧痕あり 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む砂質粗土 口縁部に少量油煤付着
4	溝1	土師器皿 R種大型	口径11.9cm 底径8.3cm 器高3.1cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕あり 内底部ナデ 胎土は肌色、微砂粒・赤色粒子・海綿骨芯・雲母を含む 口縁部に少量油煤付着
5	溝1	土師器皿 R種大型	口径(12.5)cm 底径(7.8)cm 器高3.5cm 右回転口クロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、微砂粒・海綿骨芯・雲母・赤色粒子を含む粗土
6	溝1	白色系土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径(8.0)cm 器高2.9cm 回転口クロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は赤味を帯びた灰白色、微砂粒・赤色粒子を少量含む粉質土 熱を受け質量が軽く変質している
7	溝1	瓦器 火鉢	口縁部片 胎土は灰色、胎土は橙色を帯びる 微砂粒・赤色粒子・白色粒子を含む
8	溝1	尾張型山茶碗	底部～体部片 底径5.2cm 胎土は灰色、砂・白色粒子・黒色粒子・礫含む ロクロ成形 貼り付け高台、粉殻痕あり 内底部ナデ
9	溝1	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～体部片 胎土・器表とも明灰色、微砂粒・白色粒子・黒色粒子含む 口唇部から内側にかけて降灰、常滑
10	溝1	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部～体部片 胎土・器表とも橙褐色、微砂粒・白色粒子・礫含む
11	溝1	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～体部片 胎土・器表とも橙褐色、微砂粒・白色粒子・礫・雲母含む 内側口縁部に菊花文と思われる押印あり
12	溝1	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部～体部片 胎土・器表とも明橙褐色、砂粒・白色粒子・黒色粒子含む 口唇部から内側にかけて降灰
13	溝1	常滑 甕	口縁部～頸部片 胎土は灰色、石英・長石粒・黒色粒子含む 器表は灰色
14	溝1	常滑 甕	口縁部～頸部片 胎土は淡灰褐色、白色粒子・黒色粒子少量含む 器表は褐色 口縁部に降灰
15	溝1	常滑 甕	口縁部～頸部片 胎土は淡灰色、白色粒子・黒色粒子・気孔・礫含む 器表は褐色 口縁部及び外側に降灰
16	溝1	竜泉窯青磁 鍋連弁文碗	口縁部片 口径(12.3)cm ロクロ成形 素地は明灰色、黒色微粒子多く含む 釉は青緑色、半透明、細かい気泡含む 単弁 太宰府Ⅲ類
17	溝1裏込め	土師器皿 R種小型	口径(7.0)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転口クロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
18	溝1裏込め	土師器皿 R種小型	口径(8.8)cm 底径(5.8)cm 器高2.0cm 回転口クロ 薄板状圧痕あり 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、微砂粒・海綿骨芯・雲母・白色粒子・赤色粒子を含む
19	溝1裏込め	土師器皿 R種極小型	口径4.1cm 底径3.2cm 器高0.9cm 回転口クロ 薄板状圧痕あり 底面糸切り 内底部ナデ 内折れ 胎土は橙色、微砂粒・海綿骨芯・雲母・赤色粒子を含む
20	溝1裏込め	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～体部片 胎土・器表とも灰色、砂粒・長石・石英粒・気孔含む 口唇部から内側にかけて降灰
21	溝1裏込め	常滑 甕	口縁部～頸部片 胎土・器表とも灰色、砂粒・長石・石英粒多く含む 口縁部から外側にかけて降灰
22	溝1裏込め	竜泉窯青磁 鍋連弁文碗	口縁部～体部片 口径(13.1)cm ロクロ成形 素地は明灰色、黒色微粒子含む 釉は緑灰色、半透明、細かい気泡含む 内面下に擦過痕すこしあり 単弁 太宰府Ⅲ類
23	溝1裏込め	高島 碗	残存長(6.0)cm 最大幅7.5cm 残存厚(1.1)cm 碗頭に雲型水滴座が付く 色調は明灰色
図8-1	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径5.2cm 器高1.6cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・多量の砂粒・雲母を含む砂質粗土
2	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.1cm 底径5.4cm 器高1.8cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母を含む砂質粗土
3	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径5.4cm 器高1.6cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色、赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む粗土 口縁部に少量煤付着
4	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径6.0cm 器高1.6cm 右回転口クロ 底面糸切り 薄板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む粗土
5	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径6.2cm 器高1.6cm 右回転口クロ 底面糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土
6	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.0cm 底径5.4cm 器高21.6cm 右回転口クロ 底面糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土
7	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.3cm 底径5.2cm 器高1.9cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む粗土
8	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.3cm 底径5.2cm 器高1.9cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む粗土
9	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径6.1cm 器高1.7cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色、白色粒子・赤色粒子・砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土 口縁部油煤付着
10	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径5.1cm 器高1.9cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
11	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径5.8cm 器高1.6cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
12	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径6.1cm 器高1.8cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
13	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径5.3cm 器高1.8cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母を含む砂質粗土
14	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.2cm 底径4.5cm 器高1.8cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む粗土
15	I a 面	土師器皿 R種小型	口径8.1cm 底径5.8cm 器高1.7cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土 口縁部に油煤付着
16	I a 面	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径5.3cm 器高1.8cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
17	I a 面	土師器皿 R種大型	口径11.8cm 底径7.3cm 器高3.5cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む粗土
18	I a 面	土師器皿 R種大型	口径12.0cm 底径7.2cm 器高3.1cm 右回転口クロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・多量の砂粒・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
19	I a 面	土師器皿 R種大型	口径13.4cm 底径8.6cm 器高3.6cm 右回転口クロ 底面糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯精良土
20	I a 面	土師器皿 R種大型	口径(13.7)cm 底径(8.8)cm 器高3.5cm 右回転口クロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒含む砂質粗土
21	I a 面	土師器皿 R種大型	口径(11.6)cm 底径(9.6)cm 器高3.5cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒含む粗土 外側は炭化
22	I a 面	土師器皿 R種大型	口径12.4cm 底径8.9cm 器高3.4cm 右回転口クロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
23	I a 面	土師器皿 R種大型	口径12.7cm 底径8.2cm 器高3.6cm 右回転口クロ 底面糸切り 薄板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、赤色粒子・海綿骨芯・微砂粒を含む やや粉質 口縁部油煤付着

表2 出土遺物観察表(2)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
24	I a 面	土師器皿 R種極小型	口径4.3cm 底径3.5cm 器高0.9cm 回転口クロ 底面糸切り、内底部ナデ 胎土は橙色、赤色粒子・砂粒・泥岩粒を含む
25	I a 面	白色系土師器皿 T種	口縁部片 手づくね後口縁部ナデ 器表は灰桃色、胎土は灰色
26	I a 面	瓦器 火鉢	口縁部片 胎土は灰桃色、礫・多量の砂粒・雲母含む 外側口縁部下から斜め上方向に孔貫通
27	I a 面	瓦器 火鉢	口縁部片 胎土は灰桃色、赤色粒子・多量の砂粒・雲母含む
28	I a 面	瓦器 火鉢	口縁部から胴部片 胎土は橙褐色、白色粒子・赤色粒子・雲母・微砂粒含む
29	I a 面	瓦器 火鉢	口縁部から胴部片 胎土は灰白色、雲母・微砂粒含む
30	I a 面	瓦器 火鉢	底部から胴部片 胎土は淡灰褐色、器表は灰色 白色粒子・砂粒・雲母含む
31	I a 面	瀬戸 入子	口径(3.9)cm 底径(3.0)cm 器高0.9cm ロクロ成形 胎土は淡灰色、緻密土 内側縁部分に降灰
32	I a 面	ふいご 羽口	胎土は淡褐色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
33	I a 面	ふいご 羽口	胎土は淡赤褐色、赤色粒子・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
図9-34	I a 面	亀山 甕	胴部片 胎土は灰色、白色粒子
35	I a 面	亀山 甕	胴部片 胎土は明灰色、白色粒子・砂粒含む
36	I a 面	丸瓦	遺存長(7.0)cm 遺存幅(7.7)cm 厚2.1cm 胎土は白色粒を少し含む肌理の細かく質量のある赤褐色土 凸面は縄目、凹面は平行条明き文a類をナデ調整で消す 稀巻き作り 古代瓦(8世紀)
37	I a 面	尾張型山茶碗	口径(13.7)cm ロクロ成形 胎土は灰色、砂粒・白色粒子含む
38	I a 面	尾張型山茶碗	口縁部片 回転口クロ 胎土は灰褐色、白色粒子を含み、肌理細かく堅い
39	I a 面	尾張型山茶碗	口縁部片 回転口クロ 胎土は灰色、白色粒子・砂粒を含む
40	I a 面	尾張型山茶碗	底部片 底径(7.7)cm 回転口クロ 貼り付け高台 胎土は明灰色、白色粒子・砂粒を含む
41	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、やや大粒の石英・砂粒含む 内面の上位に降灰
42	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、石英・砂粒含む 口縁部及び内面の上位に降灰
43	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、石英・長石・砂粒含む
44	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片 底径(11.2)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
45	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径(14.0)cm 輪積み成形 高台部は剥離 胎土は明灰色、石英・長石・砂粒・礫を含む 内底面は使用によりやや磨耗
46	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径(14.8)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は灰色、石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用によりやや磨耗
47	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径(8.2)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は灰色、石英・長石・砂粒・黒色粒子を含む 内底面は使用によりやや磨耗
48	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径(14.5)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗 熔着痕あり
49	I a 面	常滑片口鉢Ⅰ類	底径(12.0)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、石英・長石・砂粒・気孔を含む 内底面は使用により磨耗
50	I a 面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、器表は茶色
51	I a 面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・石英・砂粒を含む 器表は明茶色 内側に少し降灰
52	I a 面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰褐色、長石・石英・砂粒を含む 器表は橙褐色 口縁及び内側に少し降灰
53	I a 面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 口径(28.5)cm 輪積み成形 胎土は灰褐色、長石・石英・砂粒を含む 器表は灰褐色
54	I a 面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰褐色、白色粒子・砂粒・灰黒色ブロックを含む 器表は茶色
55	I a 面	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は橙褐色、胎土は灰色、長石・石英・砂粒を含む 器表は茶色 内側に降灰
56	I a 面	常滑 鷹口壺	口縁部から肩部片 輪積み成形 胎土は灰色、砂粒・灰黒色粒子を含む 器表は灰褐色 外側に降灰
57	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰褐色、砂粒・長石を含む 器表は灰褐色 口縁部上側に降灰
58	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、砂粒・礫・白色粒子を含む 器表は褐色 口縁部上側・頸部外側に降灰
59	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・灰黒色粒少し含む 器表は茶色 口縁部上側・頸部外側に降灰
60	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・礫含む 器表は茶色 口縁部上側・肩部外側に降灰
61	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・灰黒色粒含む 器表は灰褐色
62	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 器表は灰褐色
63	I a 面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・石英多く含む 器表は茶色
64	I a 面	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は淡灰色、白色粒・灰黒色粒・砂粒含む 器表は灰褐色 格子に斜線の叩き目あり
65	I a 面	常滑 甕	底部片 輪積み成形 胎土は淡灰色、白色粒・灰黒色粒・砂粒含む 器表は茶褐色 割れ口は故意に打ち欠き、その上に黒色の漆状の物質が付着 内底面に厚く降灰 外底面縁に焼き台(砂・大粒の石英・長石などを多量に含んだ粘土)付着
66	I a 面	常滑片加工品	長さ4.5cm 幅3.3cm 厚さ1.0cm 胎土は灰色、砂粒・白色粒子を含む 常滑片口鉢Ⅰ類の破片使用 一端が尖り、周縁は滑らかに磨く
67	I a 面	褐釉 双耳広口小壺	口縁部片 口径(7.6)cm ロクロ成形 胎土暗紫灰色で期目が非常に細かく、きわめて堅緻 釉薬は褐色で口縁部までかかる 耳貼り付け 不明舶載品
68	I a 面	白磁 口はげ皿	口径(8.6)cm 底径(5.6)cm 器高(1.8)cm ロクロ成形 素地は淡灰色でムラあり 釉は乳白色不透明、厚めだがムラがある 焼が甘い
69	I a 面	白磁 口はげ皿	口径(10.7)cm ロクロ成形 素地は灰白色 釉は乳白色半透明
70	I a 面	白磁 口はげ皿	口径(11.2)cm ロクロ成形 素地は灰白色 釉は緑色を帯びた乳白色、反透明 口縁に煤付着
71	I a 面	白磁 口はげ皿	口径(11.2)cm 底径6.8cm 器高3.3cm ロクロ成形 素地は灰白色 釉は青みを帯びた乳白色半透明
72	I a 面	竜泉窯青磁 鍋進弁文碗	口縁部～体部片 口径(11.4)cm ロクロ成形 素地は明灰色、黒色微粒子含む 釉は青緑色、半透明、細かい気泡含む 単弁 太宰府Ⅲ類
73	I a 面	竜泉窯青磁 鍋進弁文碗	口縁部～体部片 口径(16.0)cm ロクロ成形 素地は灰色、黒色微粒子多く含む 釉は緑灰色、半透明、ややムラあり 複弁 太宰府Ⅱ類
74	I a 面	竜泉窯青磁 鍋進弁文碗	口縁部～体部片 口径(16.6)cm ロクロ成形 素地は明灰色、黒色微粒子少し含む 釉は緑灰色、透明、大き目の貫入あり 内面下位に擦過痕すこしあり 複弁 太宰府Ⅱ類
図10-75	I a 面	竜泉窯青磁 鍋進弁文碗	底部片 底径3.8cm ロクロ成形 削り出し高台 量付きより内側露胎 素地は淡灰色で黒色微粒子少量含む精良土 釉は青灰色半透明、気泡・貫入あり 内底面に擦過痕あり 太宰府Ⅱ類
76	I a 面	竜泉窯青磁 鍋進弁文碗	底部片 底径5.0cm ロクロ成形 削り出し高台 量付きより内側露胎 素地は灰色で黒色微粒子含む 釉は緑灰色半透明、気泡・貫入あり 内底面に擦過痕あり 太宰府Ⅱ類
77	I a 面	竜泉窯青磁 鍋進弁文碗	底部片 底径(4.2)cm ロクロ成形 削り出し高台 量付きのみ露胎 素地は灰白色で黒色微粒子含む 釉は水色半透明、細かい貫入あり 内底面に擦過痕あり 太宰府Ⅲ類
78	I a 面	青白磁 合子	身部分 口径(2.9)cm 素地は灰白色 釉は青味を帯びた乳白色不透明 側面は型押しで幅の狭い進弁を配する

表3 出土遺物観察表(3)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
79	I a 面	青白磁 合子	身部分 口径(5.8)cm 素地は淡灰色 釉は灰色不透明、貫入あり 側面は型押しで幅の狭い蓮弁を配する
80	I a 面	滑石 鍋	口縁部片 厚さ2.0cm
81	I a 面	硯	遺存長(4.5)cm 遺存幅(3.4)cm 遺存厚(0.8)cm 鳴滝産仕上げ砥材(黄灰色 頁岩)を使用したもので、実用には向かない
82	I a 面	砥石 仕上げ砥	遺存長(10.7)cm 幅3.8cm 厚さ1.1cm 砥面2面 灰色 鳴滝産
83	I a 面	滑石鍋 加工品	遺存長(7.2)cm 遺存幅(3.2)cm 厚さ2.0cm 用途不明
84	I a 面	敲打痕ある石	長さ8.8cm 幅2.3cm 厚さ1.0cm 凝灰岩 片方の先端に敲打による剥離あり
85	I a 面	軽石製円盤	長さ7.0cm 幅5.5cm 厚さ2.2cm 楕円形に整形
86	I a 面	鉄製 小皿	口径(4.0)cm 底径(3.7)cm 器高0.75cm 高台あり 仏具の器台か
87	I a 面	刀子	遺存長(7.0)cm 幅1.3cm 最大厚0.4cm
88	I a 面	鉄製 火箸	遺存長(6.5)cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm
89	I a 面	鉄製 掛け金具	長さ3.5cm 幅0.2cm 厚さ0.5cm
90	I a 面	鉄釘	長さ2.6cm 幅0.3cm 厚さ0.2cm 重さ0.4g
91	I a 面	鉄釘	遺存長(3.2)cm 幅0.3cm 厚さ0.4cm 重さ1.4g
92	I a 面	鉄釘	遺存長(5.5)cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 重さ3.0g
93	I a 面	鉄釘	遺存長(5.8)cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ2.5g
94	I a 面	鉄釘	遺存長(6.5)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ3.2g
95	I a 面	鉄釘	長さ4.5cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ2.7g
96	I a 面	鉄釘	遺存長(3.0)cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ0.8g
97	I a 面	鉄釘	遺存長(6.6)cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重さ5.6g
98	I a 面	鉄釘	長さ9.1cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 重さ6.5g
99	I a 面	鉄釘	遺存長(7.0)cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 重さ10.8g
100	I a 面	鉄釘	遺存長(6.5)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ3.2g
101	I a 面	鉄釘	遺存長(8.0)cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重さ6.2g
102	I a 面	鉄釘	遺存長(4.3)cm 幅0.3cm 厚さ0.5cm 重さ2.5g
103	I a 面	鉄釘	遺存長(4.0)cm 幅0.2cm 厚さ0.2cm 重さ0.6g
104	I a 面	鉄釘	遺存長(4.0)cm 幅0.5cm 厚さ0.2cm 重さ1.2g
105	I a 面	鉄釘	遺存長(7.0)cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 重さ3.0g
106	I a 面	鉄釘	長さ7.0cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 重さ8.5g
107	I a 面	鉄釘	遺存長(5.5)cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 重さ3.5g
108	I a 面	鉄釘	遺存長(3.6)cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 重さ2.5g
109	I a 面	鉄釘	遺存長(4.7)cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ1.3g
110	I a 面	鉄釘	長さ8.5cm 幅0.6cm 厚さ0.3cm 重さ8.7g
111	I a 面	鉄釘	遺存長(5.3)cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重さ3.9g
112	I a 面	鉄釘	遺存長(4.8)cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重さ2.8g
113	I a 面	鉄釘	遺存長(5.7)cm 幅0.6cm 厚さ0.6cm 重さ4.0g
114	I a 面	淳化元宝	初鑄990年 北宋 行書
115	I a 面	景德元宝	初鑄1004年 北宋 楷書
116	I a 面	景德元宝	初鑄1004年 北宋 楷書
117	I a 面	祥符元宝	初鑄1008年 北宋 楷書
118	I a 面	天聖元宝	初鑄1023年 北宋 楷書
119	I a 面	天聖元宝	初鑄1023年 北宋 楷書
120	I a 面	天聖元宝	初鑄1023年 北宋 篆書
121	I a 面	皇宋通寶	初鑄1039年 北宋 楷書
122	I a 面	皇宋通寶	初鑄1039年 北宋 楷書
123	I a 面	皇宋通寶	初鑄1039年 北宋 楷書
124	I a 面	嘉祐通寶	初鑄1056年 北宋 楷書
125	I a 面	治平元宝	初鑄1064年 北宋 篆書
126	I a 面	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 楷書
127	I a 面	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 篆書
128	I a 面	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 篆書
129	I a 面	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 篆書
130	I a 面	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 楷書
131	I a 面	元豐通寶	初鑄1078年 北宋 行書
132	I a 面	元豐通寶	初鑄1078年 北宋 篆書
133	I a 面	元祐通寶	初鑄1086年 北宋 行書
134	I a 面	紹聖元寶	初鑄1094年 北宋 行書
135	I a 面	紹聖元寶	初鑄1094年 北宋 篆書
136	I a 面	元符通寶	初鑄1098年 北宋 行書
137	I a 面	政和通寶	初鑄1111年 北宋 楷書
138	I a 面	宣和通寶	初鑄1119年 北宋 篆書

表4 出土遺物観察表(4)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
139	I a 面	淳祐元宝	初鑄1241年 南宋 楷書
140	I a 面	錢	判読不可
141	I a 面	錢	判読不可
142	I a 面	錢	判読不可
図11-1	建物1 P.1	竜泉窯青磁 鎚進弁文鉢	底部片 底径(13.6)cm ロクロ成形 削り出し高台 畳付のみ露胎 素地は淡灰色で黒色微粒子含む 釉は青灰色半透明、細かい気泡含む 内底面に擦過痕あり 畳付きに目跡残る
2	建物1 P.1	砥石 中砥	遺存長(4.8)cm 幅4.2cm 厚さ3.8m 砥面4面 淡黄灰色 天草産
3	建物1 P.2	皇宋通寶	初鑄1039年 北宋 楷書
4	建物1 P.4	開元通寶	初鑄621年 唐 楷書
5	建物2 P.4	土師器皿 R種小型	口径(6.8)cm 底径(4.9)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子を含む
6	土坑7	土師器皿 R種小型	口径(7.2)cm 底径5.0cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色、海綿骨芯・砂粒・雲母・赤色粒子を含む
7	土坑7	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(6.0)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 胎土は赤褐色、海綿骨芯・砂粒・雲母・礫を含む粗土 口縁部下に小孔貫通
8	土坑7	ふいご 羽口	胎土は淡褐色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
9	土坑7	尾張型山茶碗	口径(13.6)cm ロクロ成形 胎土は灰色、砂粒・白色粒子少し含む 口縁部内側に降灰
10	土坑7	常滑片口鉢I類 加工品	長さ(7.9)cm 幅3.5cm 厚さ1.2cm 胎土は灰色、砂粒・白色粒子を含む 常滑片口鉢I類の破片使用 周縁の4辺磨耗く
11	土坑7	白磁口はげ皿	口径(10.3)cm ロクロ成形 素地は灰白色、黒色微粒子含む 釉は青味を帯びた乳白色、半透明 口唇部に煤付着
12	土坑7	骨製 弁	遺存長(3.0)cm 遺存幅(0.7)cm 厚さ0.2cm 先端部
図12-1	柱穴列1P.7	常滑片口鉢I類	底部片 底径(14.0)cm 輪積み成形 高台部は剥離 胎土は灰色、石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用によりやや磨耗
2	柱穴列1P.9	竜泉窯青磁陰刻 連弁文折縁鉢	口縁~胴部片 口径(14.3)cm ロクロ成形 素地は淡灰色で黒色微粒子含む 釉は青緑色半透明、細かい気泡含む、大きい貫入る 内面に単弁の陰刻連弁文
3	柱穴列1P.9	ふいご 羽口	胎土は赤褐色、白色粒子・泥岩粒・砂粒含む粗土
4	柱穴列1P.11	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.7)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色、海綿骨芯・砂粒・礫・雲母を含む粗土
5	柱穴列1P.13	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形 胎土は明灰色、石英・長石・砂粒・礫を含む
図13-1	土坑1	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(5.9)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
2	土坑1	土師器皿 R種大型	口径(12.4)cm 底径(9.0)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土 外底面は黒く炭化
3	土坑1	土師器皿 R種大型	口径(13.1)cm 底径(9.0)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む粗土
4	土坑1	常滑片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰褐色、大粒の石英・長石・多量の砂粒・礫を含む
5	土坑1	常滑片口鉢II類	口縁部片 輪積み成形 胎土は淡褐色、石英・長石・多量の砂粒・灰黒色粒を含む 器表は茶色 口縁部に降灰
6	土坑1	常滑片口鉢II類	口径(14.4)cm 輪積み成形 胎土は灰色、石英・長石・砂粒・礫を含む 器表は灰褐色で内側に降灰 火を受けたため表面に剥離がみられる
7	土坑1	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・灰黒色粒少し含む 器表は茶色 緑帯部分に厚く降灰
8	土坑1	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・砂粒含む 器表は茶色 口縁部・頸部に厚く降灰 火を受け一部剥離
9	土坑1	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・石英・砂粒含む 叩き目あり
10	土坑1	竜泉窯青磁 無文折縁鉢	口縁~胴部片 口径(12.2)cm ロクロ成形 素地は淡灰色で黒色微粒子含む 釉は青緑色半透明、細かい気泡含む 貫入少し入る 内底面に擦過痕あり 畳付きに目跡残る 太宰府Ⅲ類
11	土坑1	竜泉窯青磁陰刻 連弁文折縁鉢	口径(17.4)cm 底径(8.1)cm 高さ4.65cm ロクロ成形 削り出し高台 畳付のみ露胎 素地は淡灰色で黒色微粒子含む 釉は青灰色半透明、貫入入る 胴部内側に単弁の連弁文 内底面に擦過痕あり 太宰府Ⅲ類
12	土坑1	竜泉窯青磁 鎚進弁文碗	口縁部~体部片 口径(17.4)cm ロクロ成形 素地は明灰色、黒色微粒子含む 釉は緑灰色、半透明 太宰府Ⅱ類
13	土坑1	竜泉窯青磁 鎚進弁文碗	口径(17.4)cm 底径4.7cm ロクロ成形 素地は灰白色、精良土 釉は青緑色、透明 複弁 削り出し高台、畳付きより内側は露胎 内底面に蓮華文型押し、表面は擦過痕あり 太宰府Ⅱ類
14	土坑1	青白磁梅瓶	底径10.2cm ロクロ成形 素地は灰白色、黒色粒子・気孔少し含む 釉は水色、不透明 削り出し高台、畳付きより内側は露胎 高台上に一条の沈線 胴部は牡丹唐草を陽刻
15	土坑1	鉄釘	遺存長(4.3)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ2.7g
16	土坑1	鉄釘	遺存長(5.6)cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 重さ2.8g
17	土坑1	鉄釘	遺存長(4.0)cm 幅0.4cm 厚さ0.3cm 重さ1.9g
18	土坑1	天禧通寶	初鑄1017 北宋 楷書
19	土坑1	元祐通寶	初鑄1086年 北宋 篆書
20	土坑1	元豐通寶	初鑄1078年 北宋 篆書
図14-1	P.3	祥符元宝	初鑄1008年 北宋 楷書
2	P.3	鉄釘	遺存長(4.9)cm 幅0.3cm 厚さ0.4cm 重さ2.3g
3	P.4	常滑片口鉢II類	口縁部~体部片 胎土明灰褐色、砂粒・白色粒子・灰黒色ブロック含む 器表茶褐色 口唇部から内側にかけて降灰
4	P.8	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(4.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・礫・雲母を含む砂質粗土 口縁部に煤薄く少量付着
5	P.8	祥符元宝	初鑄1008年 北宋 楷書 周辺部を削った加工銭
6	P.12	常滑片口鉢II類	口縁部片 胎土・器表とも暗灰色、砂粒・白色粒子・黒色粒子含む 口唇部から内側にかけて降灰
7	P.15	鉄釘	長5.2cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ2.7g
8	P.43	常滑片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒・気孔含む
9	P.51	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(5.7)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
10	P.107	瓦器 火鉢	口縁部片 胎土は灰桃色、白色粒子・多量の砂粒・雲母含む
11	P.107	瓦器 火鉢	胴部から底部片 胎土は灰色、白色粒子・黒色微粒子・雲母・礫含む 胴部下位縦方向櫛状工具痕、最下位は筥割り
12	P.107	ふいご 羽口	胎土は淡褐色、雲母・白色粒子・砂粒・赤色粒含む粗土

表5 出土遺物観察表(5)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
13	P.112	常滑 甕	底部片 胎土は灰褐色、白色粒・砂粒・灰黒色粒・雲母も含む 器表は灰褐色 叩き目(格子)あり
14	P.126	鉄釘	遺存長(3.4)cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 重さ1.2g
15	P.126	鉄釘	遺存長(2.9)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ1.2g
16	P.140	南伊勢系土鍋	頸部片 胎土は灰黄色から灰色、白色粒子・雲母・砂粒・赤色粒含む 内側灰色に炭化
17	P.140	常滑片口鉢Ⅱ類	底部片 胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む 内側に降灰 内底面使用により磨耗
18	P.147	土師器皿 R種大型	口径11.9cm 底径8.2cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土 口縁部に油煤付着
19	P.147	白磁口はげ皿	底径6.1cm ロクロ成形 胎土は灰白色、微砂粒を含み緻密 釉は緑色を帯びた灰色、半透明 断面の一部に朱漆が付着する
20	P.157	鉄釘	遺存長(4.5)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ1.0g
21	P.157	鉄釘	遺存長(5.0)cm 幅0.4cm 厚さ0.3cm 重さ2.4g
図15-1	P.58	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・黒色粒子・砂粒含む 口縁部から内側にかけて降灰
2	P.58	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・黒色粒子・砂粒含む 器表は灰茶褐色 口縁部から内側にかけて降灰
3	P.50	砥石 仕上砥	遺存長(7.0)cm 遺存幅(5.0)cm 厚さ1.2cm 砥面1面 灰褐色 鳴滝産
4	I b面	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.4)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、砂粒・赤色粒子・泥岩粒を含む砂質粗土
5	I b面	鉄釘	遺存長(10.2)cm 幅0.4cm 厚さ0.3cm 重さ5.5g
6	I b面	鉄釘	長さ7.6cm 幅0.5cm 厚さ0.7cm 重さ7.3g
7	I b面	鉄釘	長さ7.7cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ4.5g
8	I b面	銭	判読不可
9	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径7.3cm 底径5.7cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・白色粒子を含む
10	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径7.9cm 底径6.0cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・微砂粒・雲母を含む
11	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子を含む砂質粗土
12	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(6.1)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
13	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.7)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土 口縁部を一部浅いU字形に割り取る
14	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.9)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・泥岩粒・雲母を含む砂質粗土
15	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(5.9)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
16	土師器皿片地行	土師器皿 R種小型	口径(8.1)cm 底径(7.6)cm 器高2.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質粗土
17	土師器皿片地行	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm 底径(8.7)cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、多量の砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質粗土
18	土師器皿片地行	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm 底径(8.4)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯・雲母を含む粗土
19	土師器皿片地行	土師器皿 R種大型	口径12.3cm 底径9.3cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯・雲母・泥岩粒を含む差質粗土 焼成きわめて良好
20	土師器皿片地行	ふいご 羽口	胎土は褐色、雲母・白色粒子・砂粒・赤色粒子・泥岩粒含む粗土
21	土師器皿片地行	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む
22	土師器皿片地行	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 胎土は暗灰色、長石・石英含む 器表は灰茶褐色 内側に降灰
図16-1	溝1 b	土師器皿 T種大型	口径(10.9)cm 器高(2.6)cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は黄灰色、赤色粒子・微砂粒・海綿骨芯・雲母を含む
2	溝1 b	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.8)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は黄灰色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子含む 口縁部に煤薄く付着
3	溝1 b	土師器皿 R種大型	口径12.5cm 底径7.6cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子を含む 口縁部に油煤少量付着
4	溝1 b	ふいご 羽口	胎土は淡褐色、雲母・白色粒子・砂粒・赤色粒含む粗土
5	溝1 b	常滑 甕	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
6	溝1 b	紹聖元寶	初鑄1094年 北宋 行書
図17-1	溝2	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.4)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
2	溝2	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径5.5cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・白色粒子・雲母を含む粗土 口縁部の一部をU字形に割り取る
3	溝2	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(5.2)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・礫を含む粗土 口縁部の一部を浅いU字形に割り取る
4	溝2	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径5.9cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ、中央に不貫通の小孔あり 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
5	溝2	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色、海綿骨芯・砂粒・雲母を含む
6	溝2	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径5.1cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部に板状圧痕 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・白色粒子・雲母を含む 薄く煤付着
7	溝2	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(6.6)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒含む粗土
8	溝2	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径(8.5)cm 器高2.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子含む粗土
9	溝2	土師器皿 R種大型	口径11.6cm 底径8.4cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒含む砂質粗土
10	溝2	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径8.5cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部に薄く板状圧痕 胎土は淡褐色～褐色、海綿骨芯・砂粒・雲母・赤色粒子含む砂質粗土 薄く煤付着
11	溝2	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径8.4cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部に板状圧痕 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒・赤色粒子含む砂質粗土
12	溝2	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm 底径7.0cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部に板状圧痕 胎土は淡褐色、砂粒・雲母・泥岩粒・赤色粒子・白色粒子含む粗土
13	溝2	土師器皿 R種大型	口径(11.6)cm 底径8.4cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒・赤色粒子含む粗土

表6 出土遺物観察表(6)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
14	溝2	土師器皿 加工品	土師器皿R種大型の底部使用 厚さ1.0cm 径0.8cmの小孔貫通、ほかに大小画1穴の不貫通の孔あり 底部の周囲は打ち欠かかれている 胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・雲母・赤色粒子含む粗土
15	溝2	瓦器 火鉢	口縁部片 胎土は灰桃色、白色粒子・多量の砂粒・雲母含む
16	溝2	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～胴部片 輪積み成形 胴部下位へラ切り 胎土は灰色、長石・石英・砂粒含む 内側下位は使用のためやや磨耗
17	溝2	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部～胴部片 輪積み成形 胴部下位へラ切り 胎土は灰色、長石・石英・砂粒・礫・気孔含む 内側下位は使用のためやや磨耗
18	溝2	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 胎土は灰色、白色粒子・砂粒・気孔含む 器表は茶色 内側・口縁部に少量降灰
19	溝2	常滑 壺	底部片 胎度は灰色、白色粒・砂粒含む
20	溝2	砥石 中砥	遺存長(5.2)cm 遺存幅(3.0)cm 遺存厚(3.3)cm 砥面1面 灰桃色 天草産
21	溝2	漆器 皿	口径(9.5)cm 底径(7.4)cm 器高1.5cm 内・外とも黒漆塗り、無紋 外底部木地 無高台
22	溝2	箸状木製品	長16.6cm 幅0.55cm 厚0.4cm 両口
23	溝2	箸状木製品	長22.7cm 幅0.6cm 厚0.3cm 両口
24	溝2	棒状木製品	長23.3cm 幅0.7cm 厚0.8cm 断面は四角で一端が斜めに尖る
25	溝2	棒状木製品	長19.5cm 幅0.9cm 厚0.9cm 断面は丸く、一端が尖る
26	溝2	へラ状木製品	遺存長(19.8)cm 幅1.7cm 厚0.5cm
27	溝2裏込め	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.6)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母含む粗土 中央に小孔貫通
28	溝2裏込め	土師器皿 R種小型	口径(8.6)cm 底径(7.0)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、海綿骨芯・微砂粒・雲母含む
29	溝2裏込め	東濃型山茶碗	底部片 底径6.2cm 回転ロクロ 貼り付け高台、粉殻痕あり 胎土は明灰色、良質 内底部に紅色の物質が薄く付着 内側と外底部に茶色の物質が付着
図18-1	建物4 P. 1	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(6.0)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子を含む砂質土
図19-1	土坑2	土師器皿 R種大型	口径(11.9)cm 底径8.4cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・泥岩粒を含む砂質粗土
2	土坑2	鉄釘	長さ3.3cm 幅0.2cm 厚さ0.4cm 重さ1.0g
3	土坑2	鉄釘	遺存長(3.6)cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 重さ1.6g
4	土坑3	土師器皿 R種小型	口径7.6cm 底径5.2cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質粗土
5	土坑3	土師器皿 R種小型	口径7.3cm 底径5.1cm 器高1.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
6	土坑3	土師器皿 R種大型	口径12.4cm 底径8.0cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
7	土坑3	土師器皿 R種大型	口径12.8cm 底径8.7cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む粗土
8	土坑3	白磁口はげ皿	口径9.4cm 底径6.7cm 器高1.65cm ロクロ成形 素地は白色 釉は青味を帯びた乳白色半透明 貫入あり
9	土坑3	砥石 上上砥	長さ4.8cm 幅3.8cm 厚さ1.6cm 砥面2面 側面4面に鋸痕残る(生産地での切り出しと思われる) 灰緑色 鳴滝産
10	土坑3	砥石 上上砥	遺存長(5.0)cm 幅3.5cm 厚さ0.4～0.7cm 砥面2面 灰緑色 鳴滝産
11	土坑3	温石	遺存長(8.9)cm 幅11.5cm 厚さ2.7cm 長径2.7cm、短径1.0cmの孔貫通、寸法は分からないが同様の孔がもう一箇所貫通している 表面は全体に無数の傷あり、黒く炭化している 西彼杵産
12	土坑3	箸状木製品	長20.2cm 幅0.5cm 厚0.45cm 両口
13	土坑3	箸状木製品	長22.4cm 幅0.65cm 厚0.45cm 両口
14	土坑3	箸状木製品	長21.3cm 幅0.6cm 厚0.6cm 両口
15	土坑3	祥符通宝	初鑄1008年 北宋 楷書
16	土坑3	政和通宝	初鑄1111年 北宋 篆書
17	土坑3	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 楷書
18	土坑4	土師器皿 R種小型	口径8.4cm 底径6.0cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質土 口縁部を一部削り取る。半分に厚めに油煤付着
19	土坑4	鉄釘	長さ3.7cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ0.8g
20	土坑5	白色系土師器皿 T種極小型	口径(5.7)cm 器高(1.3)cm 外底部指頭痕 側面はやや内折れ 胎土は淡灰色から乳白色、粉質精良土 器表は肌色
21	土坑6	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm 底径(8.4)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・多目の砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
22	土坑6	鉄釘	遺存長(8.0)cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 重さ4.6g
23	P.27	鉄釘	遺存長(3.0)cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 重さ1.4g
24	P.30	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 胎土は灰色、長石・石英・砂粒・礫含む 器表は茶褐色 内側に降灰
25	P.30	東濃型山皿	胴部片 胎土は肌理細かく堅緻
26	P.31	砥石 上上砥	遺存長(4.5)cm 遺存幅(3.3)cm 遺存厚0.3cm 砥面1面 灰橙色 鳴滝産
27	P.34	鉄釘	長さ8.8cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ4.5g
28	P.46	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径6.2cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
29	P.49	白磁口はげ皿	口縁部から胴部片 口径(10.3)cm ロクロ成形 素地は灰白色 釉は青味を帯びた乳白色半透明 口縁部に煤少し付着
30	P.166	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm 底径6.0cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、多量の砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒子を含む砂質土
31	P.166	常滑片口鉢Ⅱ類	底部片 底径(16.0)cm 胎土は橙色、砂粒・長石・石英・気孔含む 器表は茶色～橙褐色 内面使用により滑らかに磨耗
図20-1	Ⅱ面	土師器皿 T種大型	口縁部～胴部片 手ヅクね後口縁部内底部ナデ 胎土は橙色、赤色粒子・微砂粒・海面骨芯・雲母を含む
2	Ⅱ面	土師器皿 R種小型	口径(8.5)cm 底径(5.7)cm 器高1.7cm 回転ロクロ 底面糸切り 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・雲母を含む
3	Ⅱ面	土師器皿 R種小型	口径8.8cm 底径7.0cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、多量の砂粒・赤色粒子・雲母・海面骨芯を含む砂質土 口縁部に少量油煤付着
4	Ⅱ面	土師器皿 R種大型	口径11.9cm 底径8.4cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、多量の砂粒・赤色粒子・雲母・海面骨芯・泥岩粒を含む砂質土



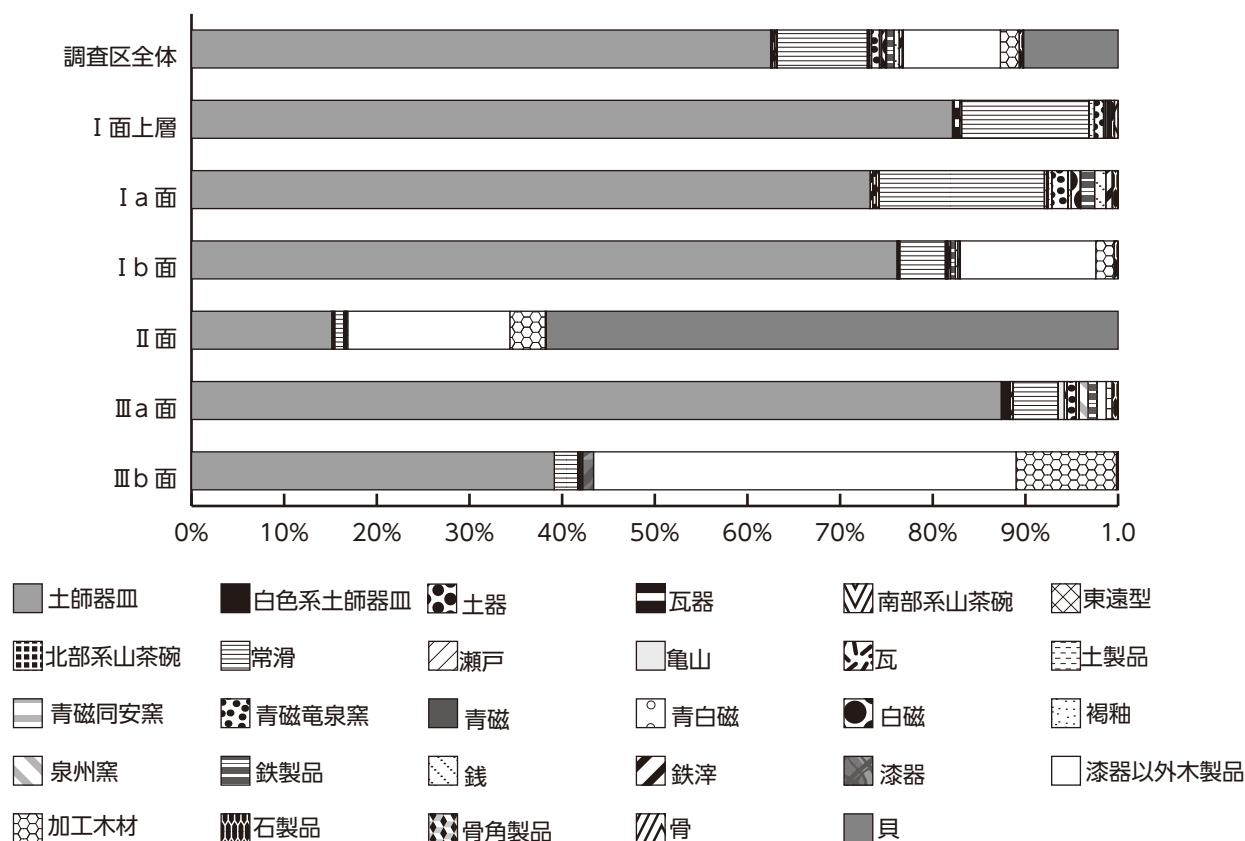
表7 出土遺物観察表(7)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
5	Ⅱ面	瓦器輪花碗	口縁～胴部片 胎土は淡灰色 器表は茶色 内側及び外側上位は磨き 内側は横位の暗文、炭素吸着により暗灰色～灰色を呈す 胴部下位はヘラにより輪花を形成 椀型
6	Ⅱ面	東遠型山茶碗	口縁部片 胎土は灰色、白色粒子含む 口縁部に降灰
7	Ⅱ面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片 胎土は灰色、砂粒・長石・石英・礫含む 内底面使用により磨耗 破片の周辺は打ち欠かれている
8	Ⅱ面	砥石 仕上砥	遺存長(3.5)cm 幅3.4cm 厚さ0.4cm 砥面2面 淡黄橙色 鳴滝産
9	Ⅱ面	鉄釘	長さ4.8cm 幅0.3cm 厚さ0.2cm 重さ1.5g
図22-1	溝3	土師器皿 T種小型	口径(8.3)cm 器高(2.0)cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は黄灰色、微砂粒・海面骨芯・雲母を含む
2	溝3	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.0)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む 中央に小孔貫通 口縁部の一部を打ち欠く
3	溝3	土師器皿 R種小型	口径(8.7)cm 底径(7.2)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 胎土は黄灰色、海綿骨芯・砂粒・泥岩粒・雲母を含む
4	溝3	土師器皿 R種小型	口径(8.9)cm 底径(7.4)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は黄灰色、砂粒・赤色粒子・雲母を含む
5	溝3	土師器皿 R種中型	口径(9.9)cm 底径(6.7)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・雲母を含む 煤少量付着
6	溝3	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径(7.8)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・雲母を含む
7	溝3	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 底径(9.8)cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒子を含む砂質土 煤少量付着
8	溝3	土師器皿 加工品	土師器皿R種底部を使用 底径6.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部板状圧痕 底部周辺を打ち欠き円盤状となし、径0.6cmの孔一箇所貫通 胎土は灰黄色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒子・泥岩粒を含む砂質土
9	溝3	土師器転用円盤	土師器皿R種の底部を転用 直径3.0cm 厚1.0cm 胎土は褐色、赤色粒子・白色粒子・砂粒・泥岩粒を含む
10	溝3	土師器転用円盤	土師器皿R種の底部を転用 直径3.2～3.4cm 厚1.0cm 胎土は褐色、赤色粒子・海綿骨芯・砂粒を含む
11	溝3	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 胎土は淡灰褐色、砂粒・長石・石英含む
12	溝3	白磁無文皿	口縁から体部片 口径(8.3)cm ロクロ成形 素地は灰白色、黒色微粒子含む 釉は青味を帯びた乳白色半透明
13	溝3	竜泉窯青磁 鍋連弁文碗	口縁部～体部片 ロクロ成形 素地は灰白色、黒色微粒子含む 釉は緑灰色、半透明 太宰府Ⅱ類
14	溝3	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・橙色ブロック含む 器表は茶色 緑帯部分・頸部に厚く降灰
15	溝3	漆器 椀	底部～体部片 底径6.9cm 内・外とも黒漆塗り、無紋 輪高台
16	溝3	箸状木製品	長24.0cm 幅0.7cm 厚0.45cm 両口
17	溝3	箸状木製品	長22.7cm 幅0.6cm 厚0.3cm 両口
18	溝3	箸状木製品	長21.8cm 幅0.7cm 厚0.5cm 両口
19	溝3	連歯下駄	遺存高(6.6)cm 最大幅11.5cm 厚さ2.8cm
20	溝3	草履芯	長23.0cm 幅展開推測値10.0cm 厚0.2cm 植物圧痕残る
21	溝3	草履芯	長22.2cm 幅展開推測値10.0cm 厚0.3cm 植物圧痕残る
22	溝3	草履芯	長22.2cm 幅10.0cm 厚0.4cm 植物圧痕残る
23	溝3	草履芯	長22.7cm 幅9.9cm 厚0.4cm 植物圧痕残る
24	溝3	木製櫛	遺存幅(9.2)cm 高さ4.8cm 最大厚0.8cm 櫛は緩い弧を描く 歯は密(cmあたり11～12本)
25	溝3	串状木製品	遺存長(23.1)cm 幅1.2cm 厚0.9cm 先端は尖る
26	溝3	棒状木製品	遺存長(18.2)cm 幅1.5cm 厚0.9cm 断面楕円形に削りを施す 先端はやや窄まる
27	溝3	へら状木製品	遺存長16.5cm 幅1.8cm 最大厚0.7cm 側面丸く削りを施す 一端は丸み帯びてを尖り、他端には小孔貫通
28	P.79	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(6.5)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土 内底面を円く削り抜く
29	P.79	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部片 胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む
図23-1	Ⅲa面	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・多量の砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
2	Ⅲa面	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 底径8.5cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
3	Ⅲa面	白色系土師器皿 T種小型	口径(6.5)cm 器高1.2cm 外底部手ツクね 口縁部は打ち折れで一部故意に打ち欠く 胎土は乳白色、微砂粒を含む
4	Ⅲa面	白色系土師器皿 T種小型	口径(8.5)cm 器高1.8cm 手ツクね後口縁部・内底部ナデ 胎土は乳白色、微砂粒を含む
5	Ⅲa面	尾張型山茶碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色、長石・石英・砂粒・灰黒色粒を含む
6	Ⅲa面	亀山 甕	胴部片 胎土は灰色、微砂粒・白色粒子含む瓦質に近い須恵質 外側は細かい格子叩き目 図23-7と同一個体の可能性あり
7	Ⅲa面	亀山甕転用陶片	長6.5cm 幅4.5cm 厚0.9cm 亀山甕底部片使用 胎土は灰色、微砂粒・白色粒子含む瓦質 図23-6と同一個体の可能性あり 2辺と外器表面を細かい敲打に使用
8	Ⅲa面	緑釉茶入れ	底部片 底径(7.0)cm 左回転ロクロ成形、底部糸きり後周縁をヘラで削る 胎土は淡褐色、堅緻 釉は濃緑色で、胴部下位まで掛かり、銀化が認められる
9	Ⅲa面	竜泉窯青磁 面花文碗	口縁～胴部片 ロクロ成形 素地は黄灰色、黒色微粒子・気孔含む 釉は淡灰緑色、透明、細かい貫入あり 内側に面花文、表面には擦過痕多数 焼成不良のため気泡多くやや失透
10	Ⅲa面	砥石 仕上砥	長6.3cm 幅3.2cm 厚さ0.6cm 砥面2面 淡灰褐色 鳴滝産
11	Ⅲa面	鉄釘	遺存長(3.4)cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 重さ1.6g
12	溝7	竜泉窯青磁 鍋連弁文碗	口縁～胴部片 口径(13.8)cm ロクロ成形 素地は淡灰色、精良土 釉は水色、半透明 複弁 太宰府Ⅱ類
図24-1	P.172	土師器皿 T種小型	口径(9.3)cm 器高2.1cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は淡褐色、砂粒・海面骨芯・雲母・赤色粒子・泥岩粒・礫を含む粗土
2	P.172	土師器皿 T種小型	口径9.1cm 器高2.0cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は褐色、砂粒・海面骨芯・雲母・赤色粒子・白色粒・泥岩粒・礫を含む砂質粗土
3	P.175	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm 底径(8.5)cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒・泥岩粒を含む砂質粗度 口縁部の一部に煤薄く付着
4	P.175	常滑片口鉢Ⅰ類	底部～胴部片 底径(12.6)cm 胎土は灰色、砂粒・長石・石英・灰黒色粒を含む 内底面使用によりやや磨耗
5	P.66	鉄釘	長さ4.5cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 重さ3.0g
6	P.103	鉄釘	長さ5.6cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ2.6g

表8 出土遺物観察表(8)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
	P.85	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片 胎土は灰色、砂粒・長石・礫・気孔含む 器表は灰色～暗灰色 内面使用により滑らかに磨耗
	P.189	土師器皿 R種小型	口径(8.6)cm 底径(6.5)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
図25-1	Ⅲb面	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.7)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・白色粒を含む砂質粗土
	Ⅲb面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径6.5cm 器高1.7cm 回転ロクロ 火を受けて表面が剥離しているため糸切り痕・ナデははっきりしない 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土 口縁部に油煤付着 口縁の一部を打ち欠く
	Ⅲb面	土師器皿 R種小型	口径7.8cm 底径6.5cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質土
	Ⅲb面	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm 底径(5.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土 口縁部に油煤付着
	Ⅲb面	土師器皿 R種小型	口径8.6cm 底径7.4cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・赤色粒子・砂粒・泥岩粒を含む砂質粗土 口縁部に油煤付着
	Ⅲb面	土師器皿 R種大型	口径(11.8)cm 底径(8.5)cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、多量の砂粒・赤色粒子・白色粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
	Ⅲb面	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部・底部片 胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む 内面下位使用によりやや磨耗
	Ⅲb面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰褐色、砂粒・白色粒・礫含む 器表は茶色 緑帯部分に降灰
	Ⅲb面	漆器 椀	底部～胴部片 底径7.3cm 輪高台 内底部に厚めに塗ったハゲ目残る 外底部は木地 外側には黒漆少量残る
	Ⅲb面	円板状木製品	直径6.2cm 厚さ0.25cm 柾目材 中央に小孔貫通 両面とも傷多数あり
図26-1	溝4	土師器皿 T種小型	口径(7.5)cm 器高1.6cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は淡橙色、微砂粒・雲母を含みやや粉質
	溝4	土師器皿 T種小型	口径9.6cm 器高1.6cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・微砂粒・雲母を少量含む粉質土
	溝4	土師器皿 R種小型	口径(8.6)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色、海綿骨芯・微砂粒・赤色粒子・雲母を含む
	溝4	土師器皿 R種小型	土師器皿R種小型を使用 底径6.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、多量の砂粒・白色粒子・雲母を含む砂質土 周縁部を故意に打ち欠く 底部のほぼ中央に両面から小孔を穿つが不貫通
	溝4	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片 底径(12.8)cm 胎土は灰色、砂粒・白色粒子含む 内面使用により滑らかに磨耗 高台下部に粉殻痕あり
	溝4	常滑 甕	底部片 底径(15.8)cm 輪積み成形 胎土は灰褐色、砂粒・白色粒子・赤色粒子・雲母含む 器表は暗灰色 内面に降灰
	溝4	漆器 椀	底部～胴部片 底径7.6cm 内・外とも黒漆塗り、無紋 外底部木地 無高台
	溝4	漆器 椀	口縁部～胴部片 内・外とも黒漆塗りに朱漆で花紋の押印
	溝4	箸状木製品	長21.1cm 幅0.75cm 厚0.6cm 両口
	溝4	折敷	長さ26.4cm 遺存幅(16.4)cm 厚0.15cm 柾目材 隅を直線的に落とす 縁に用いられた材は0.3cm×0.25cm 遺存長(48.5)cm で角にあたる部分に3箇所刻みを入れて形作った痕がある
	溝4	子供用下駄	長さ13.1cm 依存幅(8.2)cm 遺存高(3.3)cm 鼻緒の孔が無く、使用による摩滅も見られないことから未成品の可能性があるが、表面に細かな切り傷があるので、失敗品を転用したとみたい
	溝4	用途不明木製品	遺存長(7.5)cm 幅1.5cm 厚0.5cm 貫通小孔あり 扇骨の基部の可能性あり
	溝4	へら状木製品	長さ16.1cm 幅1.6cm 厚0.8cm 丁寧な削りで先端は丸みを帯びて薄く作られる
	溝4	へら状木製品	長さ11.4cm 幅1.4cm 厚0.9cm
図27-15	溝4	棒状木製品	長さ29.2cm 幅1.2cm 厚1.0cm 断面ほぼ円形、やや先細りに削られる
	溝4	棒状木製品	遺存長(18.7)cm 幅1.1cm 厚1.0cm 断面ほぼ円形、やや先細りに削られる
	溝4	部材	長さ25.0cm 幅11.3cm 厚さ4.6cm 礎板状 中央に最大値9.0cm×5.8cmの不規則な形状の臍が貫通
	溝5	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.7)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は黄灰色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む粗土
	溝5	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 底径(9.0)cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄灰色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質土
	溝5	漆器 皿	口径(9.4)cm 底径(6.7)cm 器高1.7cm 内・外とも黒漆塗りに朱漆で手描き植物紋 平高台
図28-1	建物8 P.1	箸状木製品	長17.8cm 幅0.45cm 厚0.4cm 両口
	建物8 P.1	箸状木製品	長22.4cm 幅0.7cm 厚0.3cm 両口
	建物8 P.2	土師器皿 R種小型	口径8.1cm 底径6.2cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母・礫を含む砂質粗土
	建物8 P.2	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm 底径9.0cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む粗土
	建物8 P.2	銭	銭種不明
	建物8 P.4	土師器皿 R種小型	口径8.5cm 底径5.7cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底面は剥離により糸切り痕不鮮明 内底部ナデ 胎土は黄灰色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母を含む砂質土 口縁部油煤付着
図29-1	P.86	土師器皿 T種小型	口径(7.8)cm 器高(2.0)cm 手ツクね後口縁部内底部ナデ 胎土は橙色、赤色粒子・多量の砂粒・海綿骨芯・雲母を含む砂質土 表面は火を受け剥離
	P.94	砥石 仕上砥	長さ5.8cm 幅2.8cm 厚さ0.6cm 砥面2面 淡灰褐色 鳴滝産
図30-1	ⅢC面	常滑片口鉢Ⅰ類	底部片 胎土は灰色、砂粒・白色粒子含む 内面使用により滑らかに磨耗
図32-1	中世以前	土師器器台	脚部片 胎土は砂粒・海綿骨芯・白色粒子・雲母を含む硬質 上面は滑らかに磨耗 脚部側面に透かし孔あり 古墳前期
	遺構外	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.7)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、海綿骨芯・砂粒・赤色粒子・雲母を含む砂質土
	遺構外	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径5.4cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡褐色、海綿骨芯・微砂粒・雲母を含みやや粉質
	遺構外	竜泉寮青磁 鎚進弁文碗	底部～胴部片 底径(5.5)cm ロクロ成形 素地は淡灰色、黒色微粒子含む 釉は灰緑色、半透明 複弁 内底部蓮華文型押し、表面は使用による擦過痕あり 削り出し高台、畳み付き脇まで施釉
	遺構外	滑石鑄転用品	長さ5.0cm 幅6.5cm 厚さ1.6cm 口縁部片使用 色調青灰褐色
	遺構外	砥石 仕上砥	遺存(4.6)cm 幅3.5cm 厚さ0.5cm 砥面2面 淡灰緑色 鳴滝産
	遺構外	鉄釘	遺存長(4.5)cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 重さ2.6g
	遺構外	熙寧元宝	初鑄1068年 北宋 楷書
	遺構外	元豊通宝	初鑄1078年 北宋 行書

表9 出土遺物計量表



	I面上層		I a面		I b面		II面		III a面		III b面		調査区全体	
土師器皿	418	82.12%	2172	73.23%	1422	76.12%	193	15.14%	270	87.38%	231	39.15%	4822	62.50%
白色系土師器皿	1	0.20%	1	0.03%	1	0.05%	0	0.00%	3	0.97%	0	0.00%	6	0.08%
土器	0	0.00%	8	0.27%	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	10	0.13%
瓦器	3	0.59%	11	0.37%	1	0.05%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	18	0.23%
南部系山茶碗	1	0.20%	9	0.30%	1	0.05%	2	0.16%	1	0.32%	0	0.00%	15	0.19%
東遠型	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.03%
北部系山茶碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
常滑	70	13.75%	529	17.84%	92	4.93%	13	1.02%	15	4.85%	15	2.54%	753	9.76%
瀬戸	0	0.00%	7	0.24%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	8	0.10%
龜山	0	0.00%	2	0.07%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.65%	0	0.00%	4	0.05%
瓦	0	0.00%	3	0.10%	1	0.05%	0	0.00%	1	0.32%	0	0.00%	5	0.06%
土製品	3	0.59%	12	0.40%	2	0.11%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	17	0.22%
青磁同安窯	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
青磁竜泉窯	5	0.98%	51	1.72%	1	0.05%	1	0.08%	3	0.97%	1	0.17%	66	0.86%
青磁	1	0.20%	1	0.03%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.04%
青白磁	1	0.20%	10	0.34%	1	0.05%	0	0.00%	1	0.32%	0	0.00%	15	0.19%
白磁	1	0.20%	29	0.98%	5	0.27%	1	0.08%	0	0.00%	0	0.00%	37	0.48%
褐釉	0	0.00%	1	0.03%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
泉州窯	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.97%	0	0.00%	3	0.04%
鉄製品	1	0.20%	45	1.52%	10	0.54%	1	0.08%	3	0.97%	1	0.17%	62	0.80%
銭	0	0.00%	36	1.21%	5	0.27%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.17%	44	0.57%
鉄滓	0	0.00%	21	0.71%	4	0.21%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	25	0.32%
漆器	0	0.00%	0	0.00%	1	0.05%	1	0.08%	0	0.00%	7	1.19%	9	0.12%
漆器以外木製品	0	0.00%	0	0.00%	273	14.61%	223	17.49%	3	0.97%	269	45.59%	808	10.47%
加工木材	0	0.00%	0	0.00%	37	1.98%	49	3.84%	2	0.65%	64	10.85%	157	2.03%
石製品	2	0.39%	17	0.57%	8	0.43%	1	0.08%	2	0.65%	1	0.17%	33	0.43%
骨角製品	0	0.00%	1	0.03%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.01%
骨	2	0.39%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.03%
貝	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	787	61.73%	0	0.00%	0	0.00%	787	10.20%
総計	509	100%	2966	100%	1868	100%	1275	100%	309	100%	590	100%	7715	100%

## 第四章 まとめと考察

### 1. 東側隣地との関係

近年、東側隣地の由比ガ浜一丁目151番1でも調査が行われている（熊谷ほか2011、図1の2地点）。この調査結果と本調査区との関係についてまず考察したい。

東側隣地の調査は掘削深度が表土下90cmまでとなっていて、基盤層まで掘り下げていない。また、本調査地点では表土が厚さ1.4～1.6mであるのに対し、東側隣地は表土が厚さ40cm～60cmとなっており、本調査地点のほうが、上層を大きく削平された状況となっている。これらのことから、面の標高を基準に対応する面が存在するか探ってみた。

東側隣地の検出最下層面は標高8.20mほどとなっている。一方、本調査地点のI a面では最も標高の高いI a面西側で8.20mほど、東側は7.90mほどとなっている。また、東側隣地の最下層東西溝の切込み面が標高8.20mほどであり、深さも20cmほどであるのに対し、本調査地点の最上層溝である溝1の切込み面は、最も標高の高い調査区西側壁面で8.15mほど、深さも40cmほどとなっている。これらのことや、本調査区での堆積状況から見て、東側隣地の検出最下層面である3面のほうが、本調査地点の最上層面であるI a面やI a面上層よりも、さらに上層である可能性が高い。

図35の東側隣地調査区と本調査区は、溝の位置や両調査区の位置関係を視覚的にとらえやすくするために、本調査地点の最上層と東側隣地の最下層をあわせて示したものであるが、前述したように、おそらく面は違うと考えられる。本調査地点の東壁から東側隣地調査区までは約3m50cm、東側隣地の2面南北道路西側側溝までは4m強離れている。

### 2. 遺構の変遷と年代

#### 中世以前

遺構は検出できなかったが、図示したもの以外に古墳時代前期の台付甕と埴が1片ずつ、古墳時代後期の土師器片2点、須恵器片1点、古代の土師器片14点が採集されている。

#### 中世1期—Ⅳ面

調査面積が狭小なため、遺構の広がりや把握することができなかった。また、出土遺物も1点のみと非常に少ないので、詳しい年代はわからないが、1点のみ出土した遺物が尾張型山茶碗の第6型式ないし第7型式であることや、上層面との相対的な関係から、13世紀第2四半期が上限とみてよからう。

調査区北側の東西溝（溝8）は上層溝に削平されており、南岸をわずかに残すのみである。いずれにしても本調査地点において終始存在しつづける東西溝の造作が、本調査地点で人的営為の始まるこの時期まで遡ることはわかる。

#### 中世2期—Ⅲc面

2区のみで検出された。出土遺物が少ないため年代について確たることはいえない。13世紀第2四半期～13世紀中葉か。出土遺物の常滑片口鉢I類は底部破片のため詳細は不明だが、13世紀第3四半期より新しくなることはない。調査区北辺に東西溝は検出されていないが、下層で検出された溝8が引き続き使用されていた可能性もある。検出された柱穴列であるが、Ⅲc面の検出された範囲が狭いため東西の広がりや判明しなかった。上層と状況が同じであるとすれば、東方に広がる可能性がある。

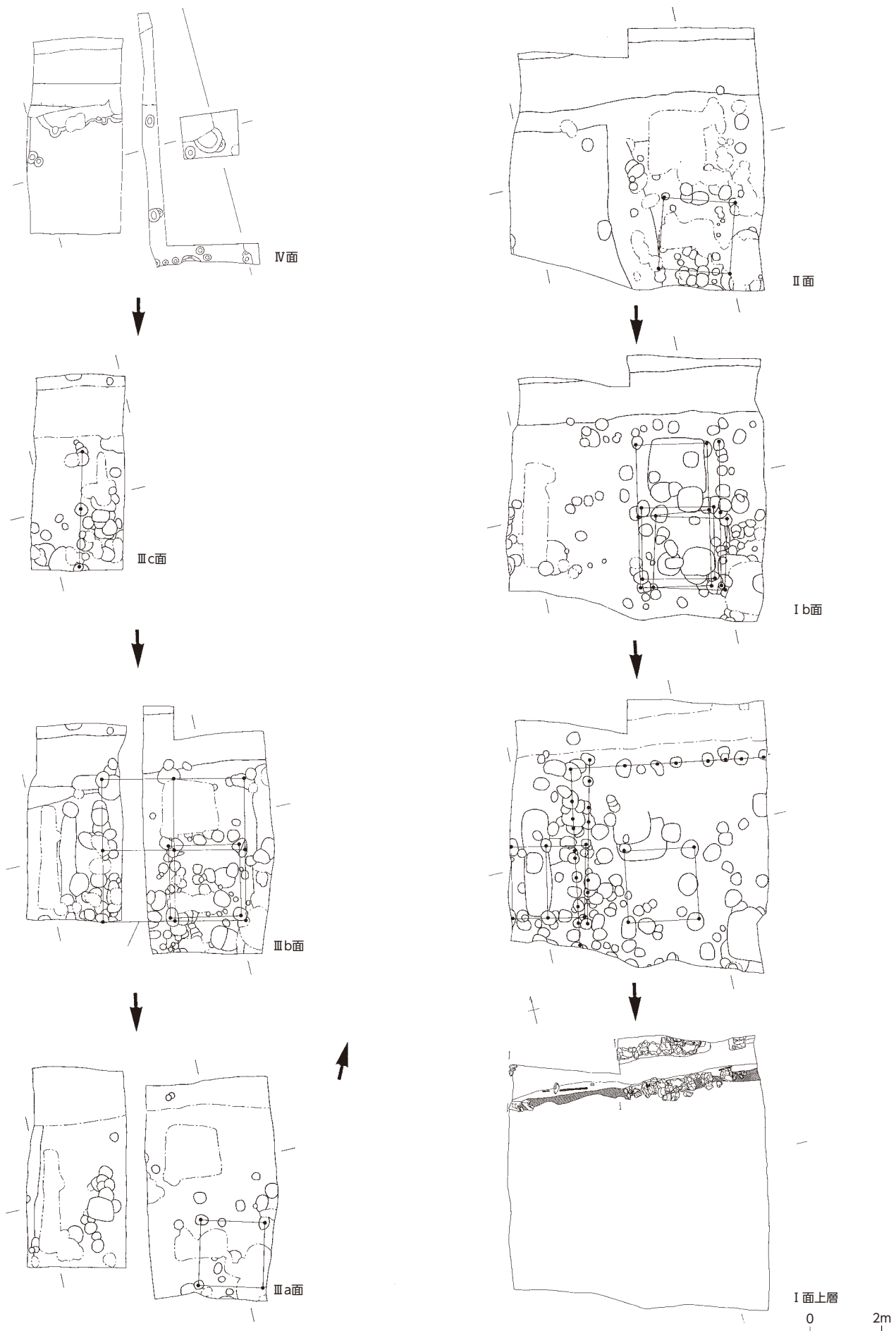


図33 遺構変遷図

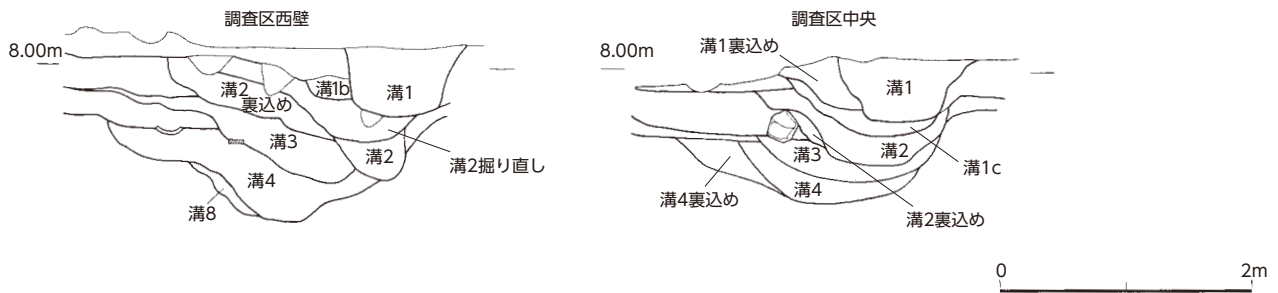


図34 断面から見た溝の変遷

### 中世3期—Ⅲ b面

面の年代は13世紀第2四半期～第3四半期。調査区北辺に東西溝（溝4）がある。建物は2棟とも軸方位を東西溝とほぼ同じにする。また、調査区東壁際と調査区西側に東西溝に直交する溝5と溝状遺構が検出されている。これを区画溝とするならば建物8は調査区内から広がらない可能性がある。一方建物9はこれらの遺構群の中では新しい時期になるため、調査区外南東方向に広がる可能性もある。溝4の出土遺物の中には下駄の未成品(図26—11)がある。東側隣地西壁から調査区東壁際南北溝(溝5)までの距離は、約3m 70cmである。

出土土師器皿の比率はT種4.76%、R種95.24%となっている。

### 中世4期—Ⅲ a面

面の年代は13世紀中葉～第3四半期。中世3期と違い南北溝の位置が西壁際に移動している。また、小穴の数も中世3期と比較すれば大きく減っており、地割や土地利用に変化が生じた可能性がある。しかし、建物の位置は継続して調査区内南東寄りにあり、軸方位もほぼ同じである。

調査区北辺の東西溝は確認されないが、下層の東西溝（溝4）が、引き続き使用されていたと考えられる。調査区西壁際に南北溝（溝7）があるが、これは東西溝（溝4）に流れ込んでいたものであろう。

東側隣地西壁から南北溝（溝7）までの距離は約10m 30cmである。

出土土師器皿の比率はT種6.30%、R種93.70%となっている。

### 中世5期—Ⅱ面

面の年代は13世紀中葉～第3四半期。この時期にも調査区北辺に東西溝（溝3）がある。調査区中央部に南北溝（溝6）が現れ、遺構はこの南北溝（溝6）の東側に集中する状況となり、中世4期とは様相が異なる。この時期にも地割等に変化が生じた可能性がある。建物の位置は継続して調査区南東寄りにある。ここでも建物の軸方位に変化は見られない。東側隣地西壁から南北溝（溝6）までの距離は約6m 50cmである。

出土土師器皿の比率はT種6.74%、R種93.26%となっている。

### 中世6期—Ⅰ b面

年代は13世紀後半。中世5期に調査区中央部にあった南北溝は存在しないが、調査区東側のほうが土坑群を中心に遺構密度が濃い。建物も調査区東側にあり、軸方位にも変化はみられず、中世5期からの連続性が認められる。しかし、土坑の数が増えており場の性格が変わった可能性もある。調査区北辺の東西溝は溝2と溝1bの2条確認されているが、溝1bのほうが新しい。鋳造関連遺物として、ふいごの羽口2点、鋳滓3点が出土している。

出土土師器皿の比率はT種0.35%、R種99.65%となっている。

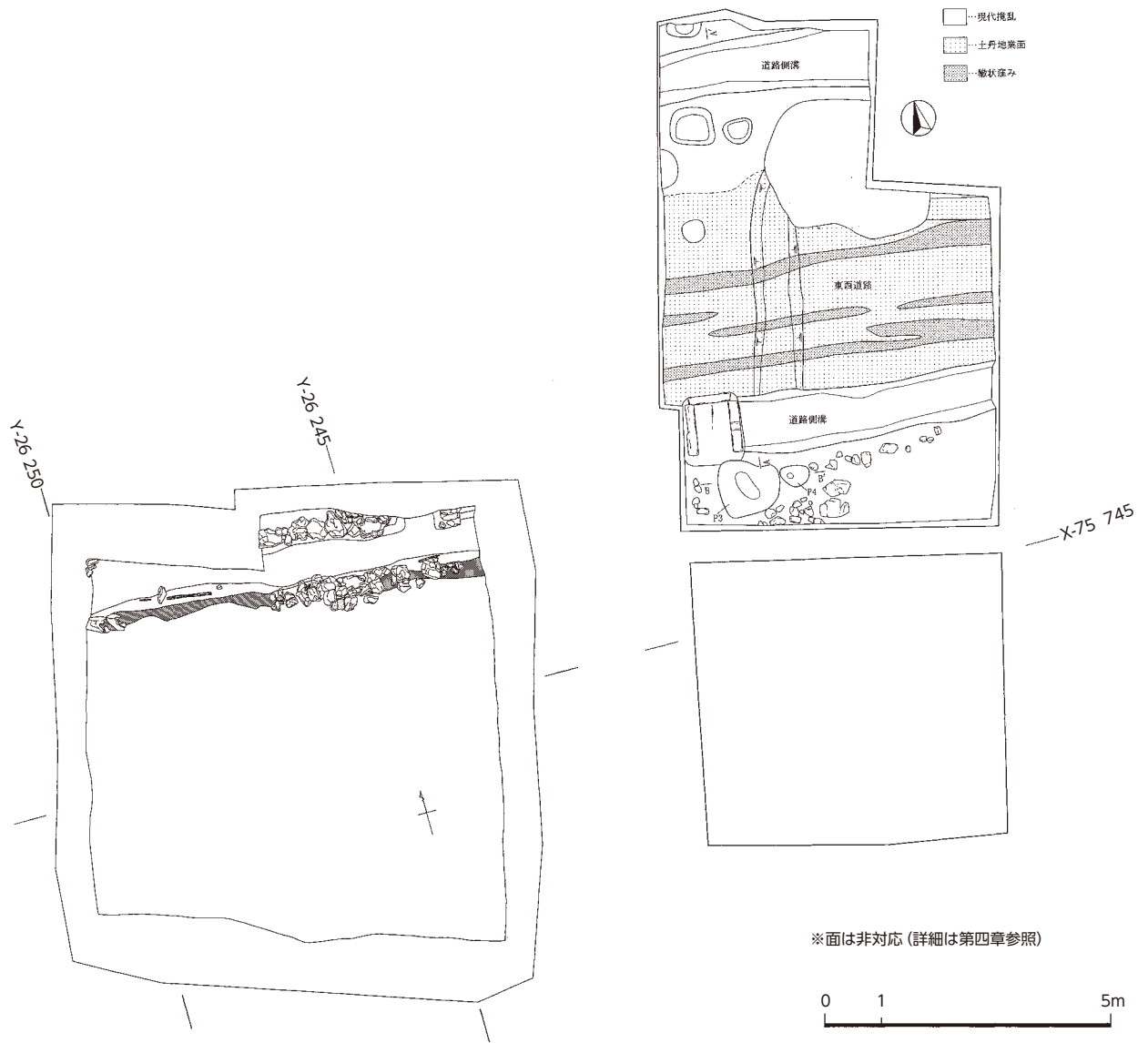


図35 東側隣地調査区と本調査区

### 中世7期—I a面

年代は13世紀後半。中世6期までと違い、柱穴列によって区画されている。調査区の東西に建物があり、下層と様相が違う。建物1は東と南に、建物2は西と南にそれぞれ広がる可能性がある。本調査のもっとも上面のため削平が激しく、当時期に比定しうる東西溝は確認されなかった。連綿と続く溝が中世7期だけない、というのも考えにくいので、当時期のみ溝が調査区外北側に移動しているか、溝1ないし土層断面で確認できた溝1cが該当する可能性もある。出土遺物の特徴として、ふいごの羽口が面上から7点、I a面遺構から6点と総計18点中13点がI a面から出土している。さらに、鋳滓も面上17点、I a面遺構から3点と総計23点中20点がI a面からの出土となっている。上層が攪乱により大きく削平されているため、上層からの紛れ込みの可能性もあるが、当期以降に本調査地点周辺で鋳造が行われていた可能性を示唆するものであろう。

出土土師器皿の比率はT種0.23%、R種99.77%となっている。

## 中世8期— I a面上層

年代は13世紀後半～14世紀初頭か。溝1のみが該当する。攪乱による削平のため面のつながりが把握できず、また、切込み面の標高がI a面に比して高いため、上層遺構としたものである。前述したように、層のつながりが把握できないだけで、I a面の東西溝である可能性もある。年代については、出土遺物の年代が13世紀中葉～第3四半期のものが中心であるが、層位的にみてこれは採用できず、上限は13世紀後半となろう。下限については、それを示す出土遺物がないため詳しくはわからない。

出土土師器皿の比率はT種1.67%、R種98.33%となっている。

## 3. 東西溝の変遷

まず中世1期に最初の東西溝である溝8が構築される。この溝8は上層の溝4によってほとんど削平されており詳細はわからない。次に東西溝がつくられるのは、中世3期になってからである。中世3期になると溝4が構築される。この溝4は中世3期と4期に使用されたものと考えられる。中世5期には溝3、中世6期には溝2のちに溝1bが掘りこまれる。こののち調査区中央土層でのみ確認された溝1cが掘りこまれ、最後に溝1が掘りこまれる。この溝1cと溝1は攪乱により大きく削平されているため、本調査地点において検出された面との関係は不明である。

## 4. まとめ

図35にあるように、本調査地点の東西溝のほぼ延長線上に東側隣地の東西道路南側側溝がくることがわかる。また、東側隣地の調査では遺構の壁面に、より下層の道路と思われる泥岩地形層が確認されている。これらのことから、本調査地点の東西溝は東側隣地で検出された東西道路南側側溝の下層の溝であると考えられ、本調査地点の北側調査区外には東側隣地から続く道路の存在が推測される。つまり、本調査地点の東西溝は東西道路南側側溝の可能性が高いものと思われる。そして、この東西溝の初現が13世紀第2四半期頃まで遡ることから、この東西道路の初現も13世紀第2四半期頃である可能性を指摘できよう。

東側隣地では調査区南側で南北道路も検出されている。報告書によれば南北道路側溝底面で、下層の道路と思われる泥岩地形層が確認されている。本調査地点においても、建物の軸方位や位置に大きな変化が認められず、その多くが調査区外南側と東側に広がると推測される配置となっている。このことから、東側隣地で検出された南北道路も中世3期以降踏襲されており、この南北道路を基準に建物が建てられていた可能性も考えられよう。

最後に本調査地点の場の性格であるが、東側隣地の南北道路が踏襲されているならば、本調査地点の南北溝や建物のありかたから見て、非常に狭い地割であることが考えられる。また、Ⅲb面の東西溝からは下駄の未成品が出土しており、I a面からは鑄造関連遺物が多く出土している。Ⅲb面の下駄未成品は溝からの出土であり、本調査地点で下駄製作が行われていた、とは言いきないが、本調査地点周辺に下駄を製作するような場が存在していたとは言えよう。これらのことから、武家屋敷<sup>まちびと</sup>などではなく、町人の住む狭い居住空間、あるいは工房空間である可能性が考えられよう。特にI a面に関しては鑄造関連の職能民が使用していた空間の可能性を指摘できる。

## 参考・引用文献

熊谷満・降矢順子 2011『今小路西遺跡発掘調査報告書—鎌倉市由比ガ浜一丁目151番1地点—』鎌倉遺跡調査会

(沖元)





1-1  
塔ノ辻から今小路を望む

1-2  
塔ノ辻から大町大路西半を望む



1-3  
大町大路西端部を東から望む

1-4  
大町大路を西端近くから望む





2-1  
I a  
面1区全景(南から)



2-2  
I a  
面1区全景(西から)

2-3  
I a  
面上層1区溝1





3-1  
I a  
面2区全景(南から)



3-3 I a面2区柱穴列1(南から)



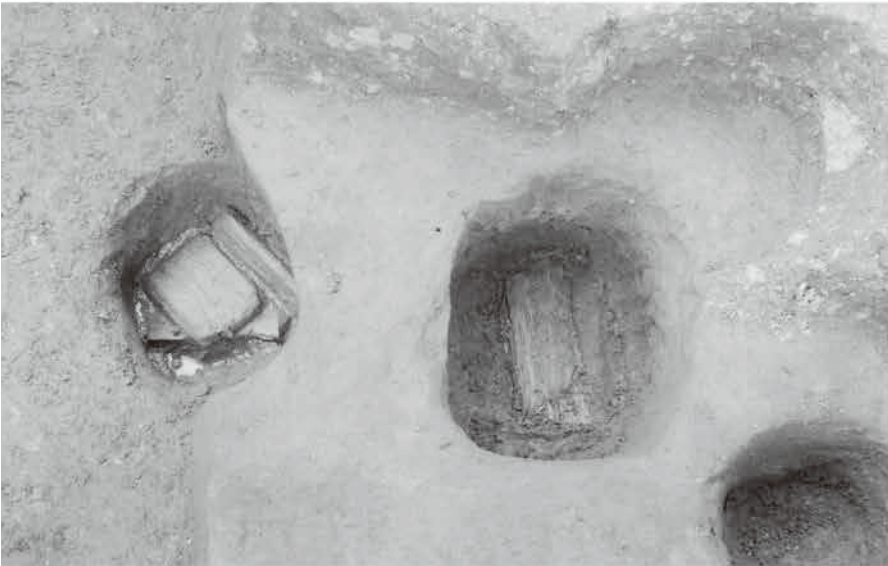
3-2 I a面2区全景(西から)

3-4  
I a  
面2区柱穴列1(西から)

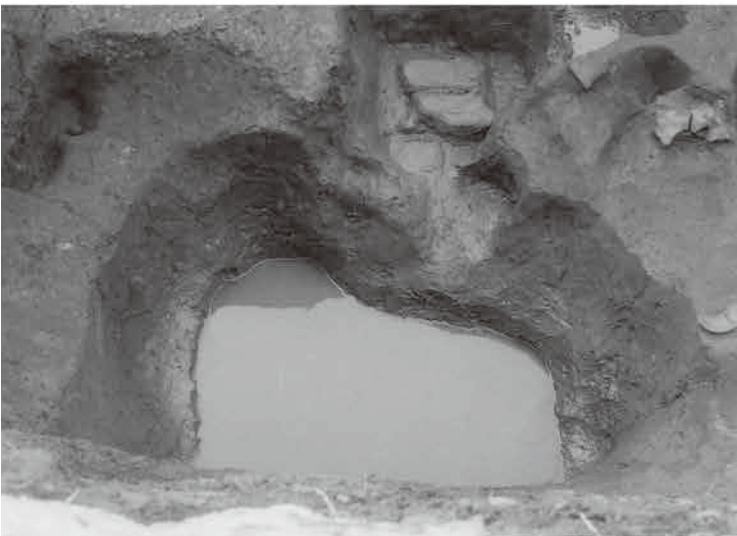




4-1  
I a  
面2区土坑7 (西から)



4-2  
I a  
面2区小穴  
152・  
153



4-3 I a面1区土坑1 (東から)



4-4 土坑1 青白磁梅瓶 (図13-14)  
出土状況 (北から)



5-1  
I b  
面1区全景(南から)

5-2 I b面1区全景(西から)



5-3 I b面2区全景(南から)



5-4 I b面2区全景(西から)

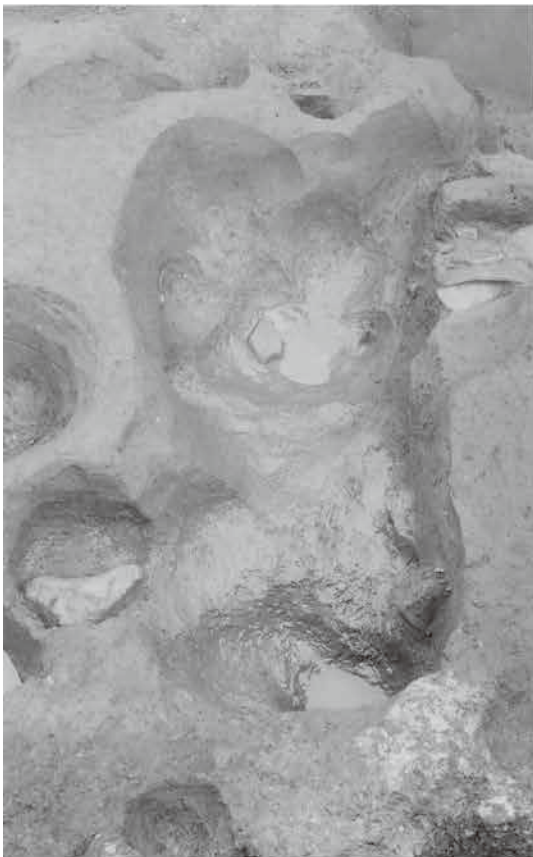




6-1 Ib面1区溝2 (東から)



6-2 Ib面1区土師器片地形 (南から)



6-3 Ib面1区土坑5・6 (西から)

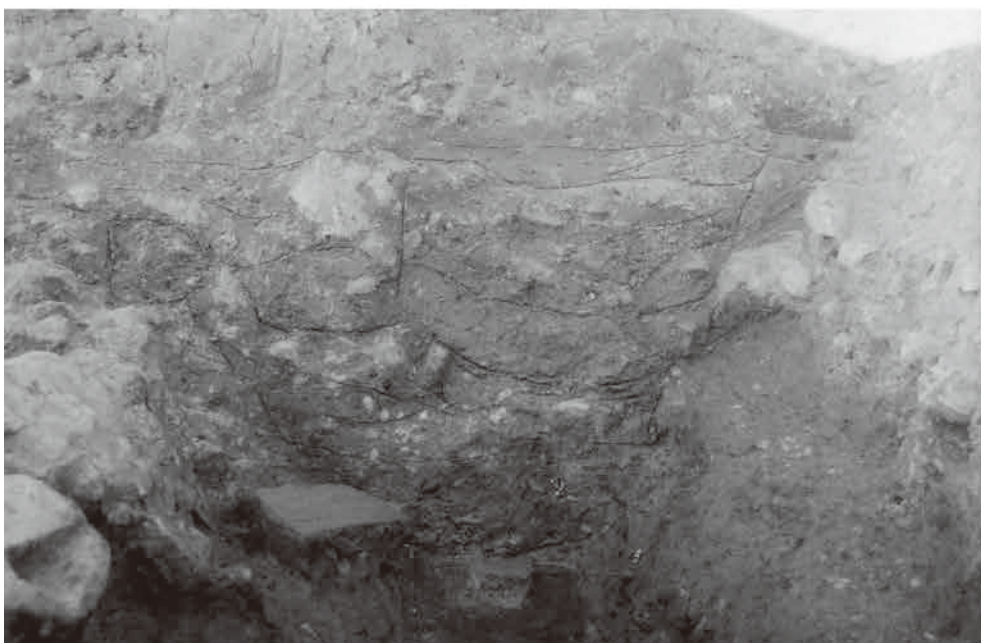


6-4 Ib面1区土坑3 (西から)



7-1 Ib面2区溝2 (西から)

7-2 Ib面2区溝1b (西から)



7-3

Ib面2区溝2土層断面 (東から)



8-1 II面1区全景(南から)



8-2 II面1区全景(西から)

8-3 II面2区全景(南から)



8-4 II面2区全景(西から)



8-5 II面2区(溝掘削後・西から)





9-1 II面1区溝3 (東から)



9-2 II面2区溝3 (西から)



9-3 II面2区溝3貝殻集中出土の状況(北から)



10-1  
Ⅲa  
面2区全景  
(南から)

10-2 Ⅲa面2区全景 (西から)



10-3  
Ⅲa  
面2区小穴  
172・175  
(東から)

10-4  
調査風景





11-1  
Ⅲb  
面1区全景(南から)

11-2 Ⅲb面1区全景(西から)



11-3 Ⅲb面2区全景(南から)

11-4 Ⅲb面2区全景(西から)





12-1  
Ⅲb面1区溝5側板出土状況(南から)



12-2  
Ⅲb面2区溝4(西から)



12-3 Ⅲb面2区小穴177



12-4 Ⅲb面2区下駄出土状況



12-5 Ⅲb面2区小穴12周辺出土状況



13-1

Ⅲc  
面2区全景(南から)



13-2

Ⅲc  
面2区全景(西から)



14-1 IV面2区全景(南から)



14-2 IV面2区全景(西から)

14-3

最終深掘り・南壁際(東から)



14-5

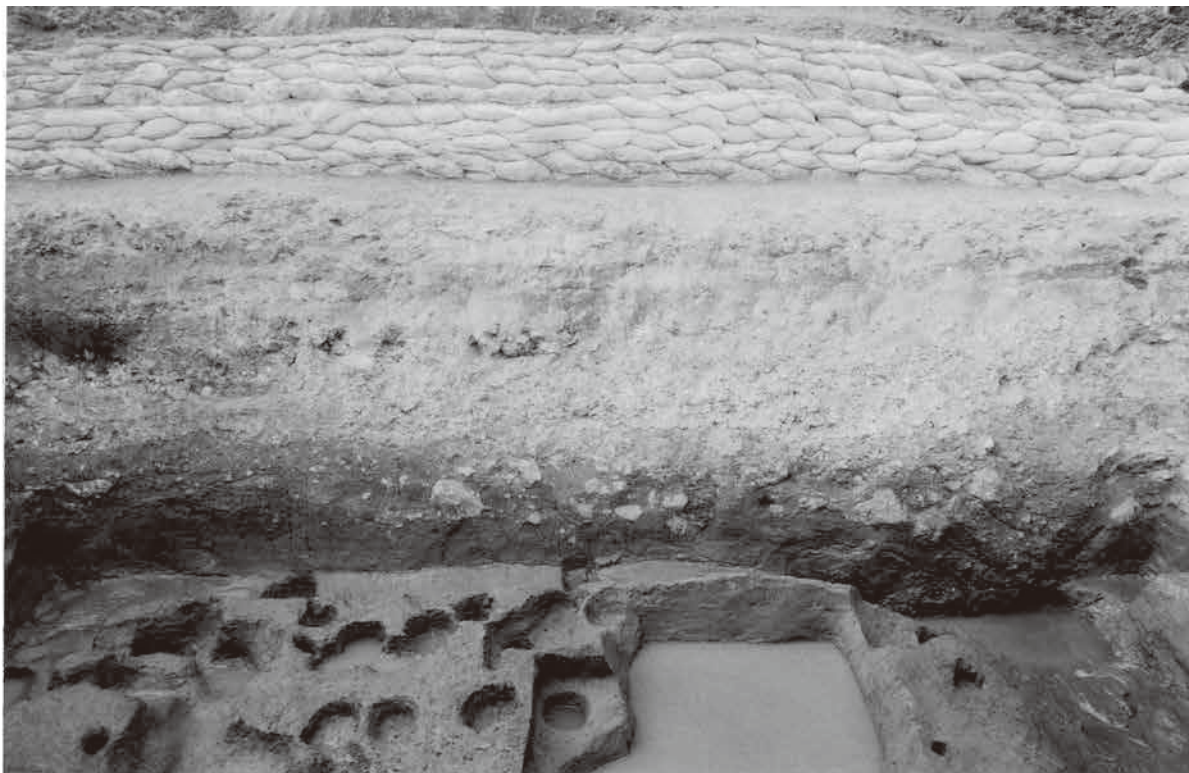
最終深掘り・西壁際(南から)



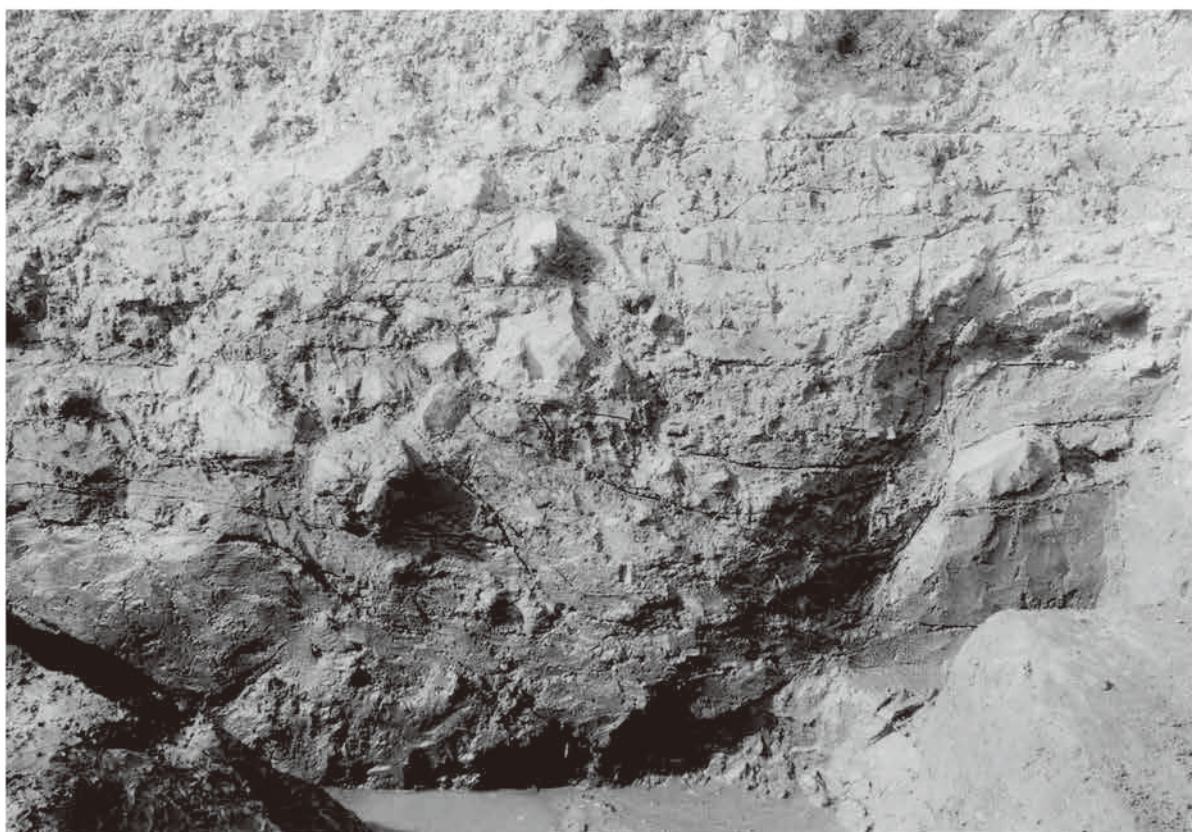
14-4

最終深掘り・中央(東から)





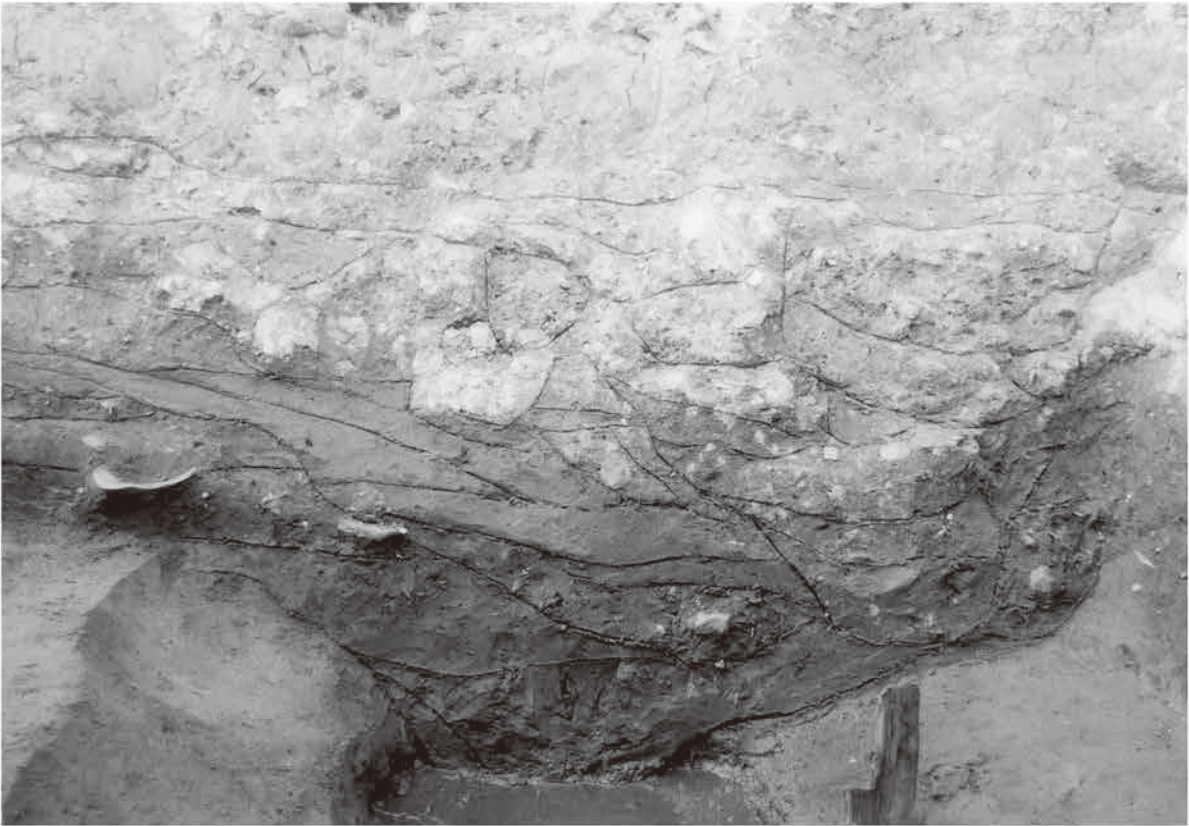
15-1 1区西壁土层断面



15-2 1区西壁沟土层断面

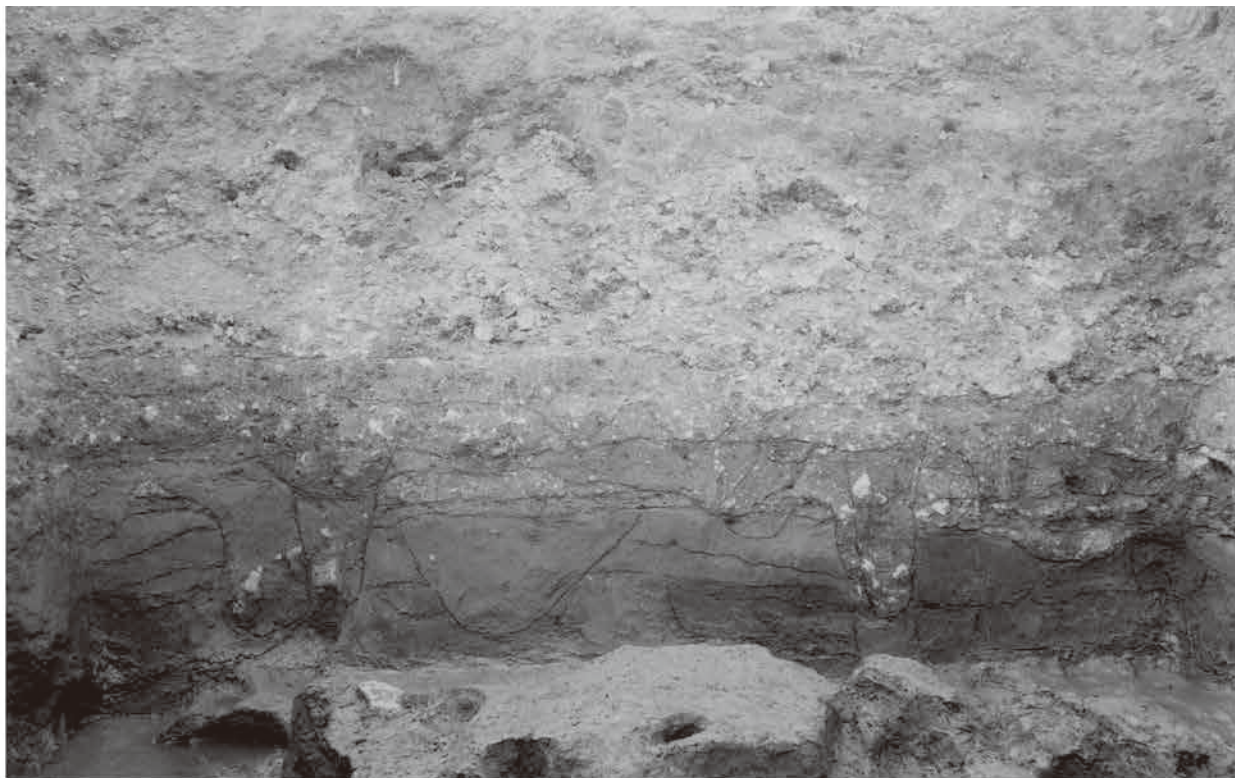


16-1 2区西壁土层断面



16-2 2区西壁沟土层断面

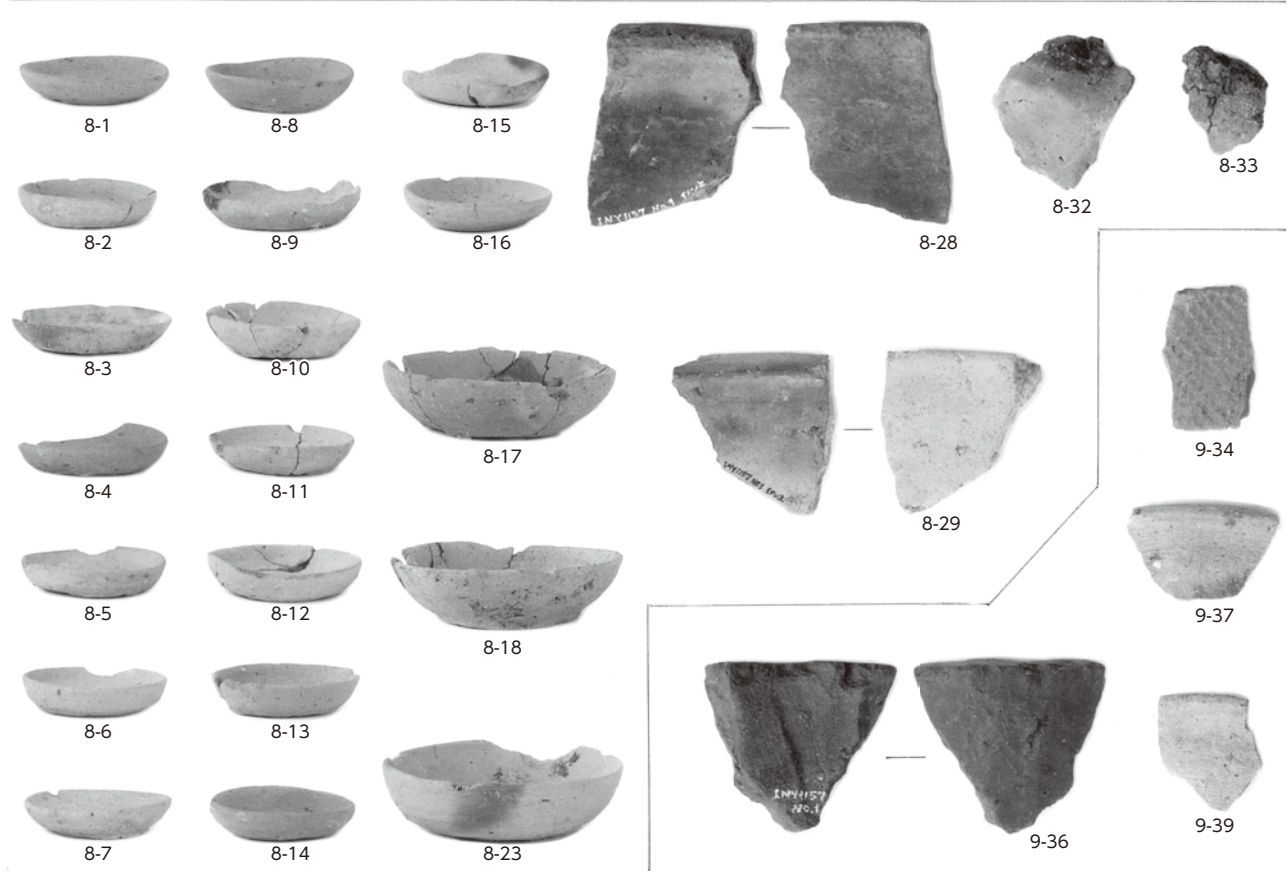
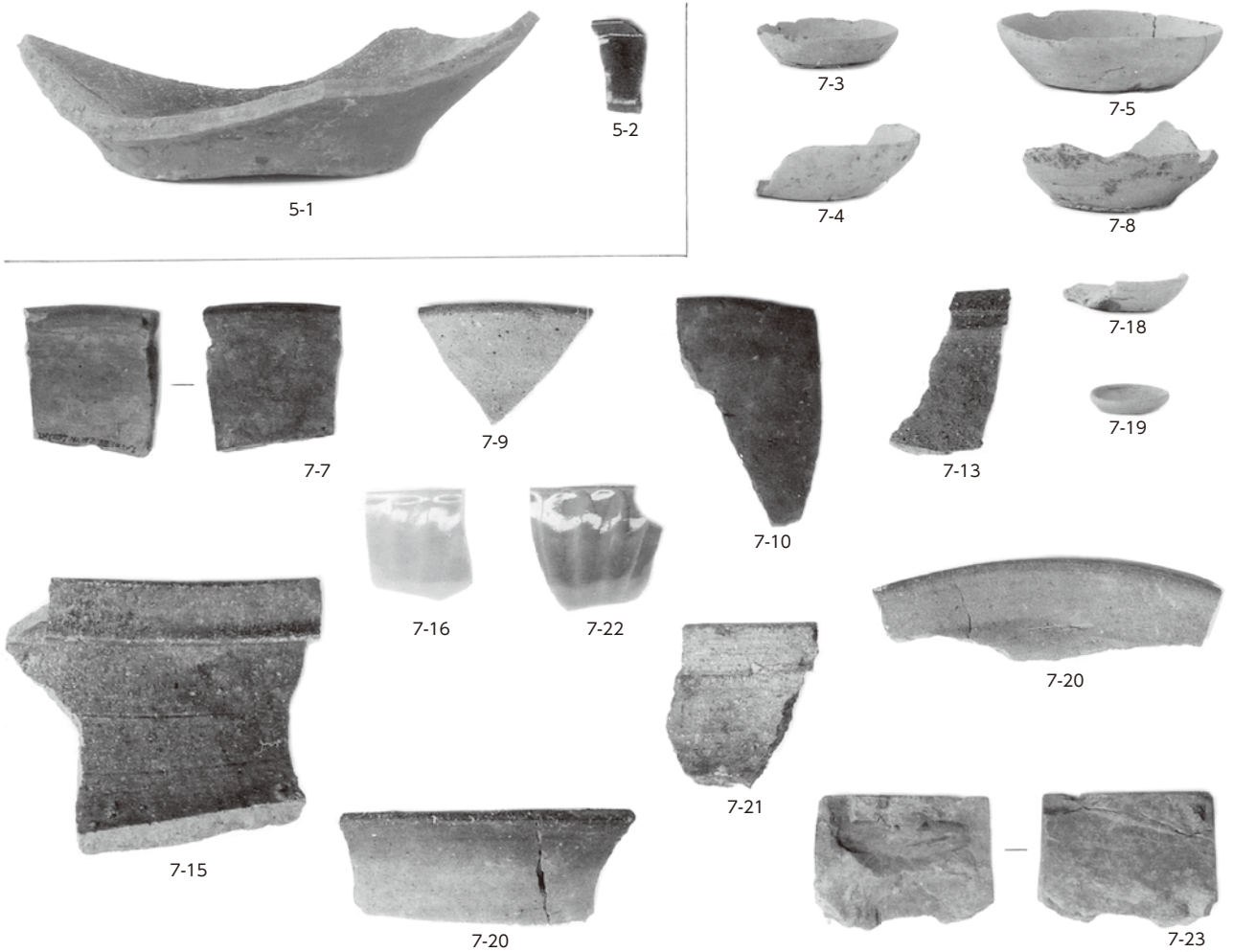




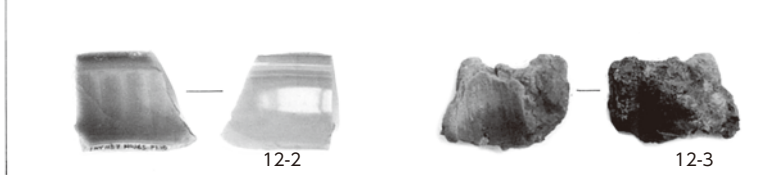
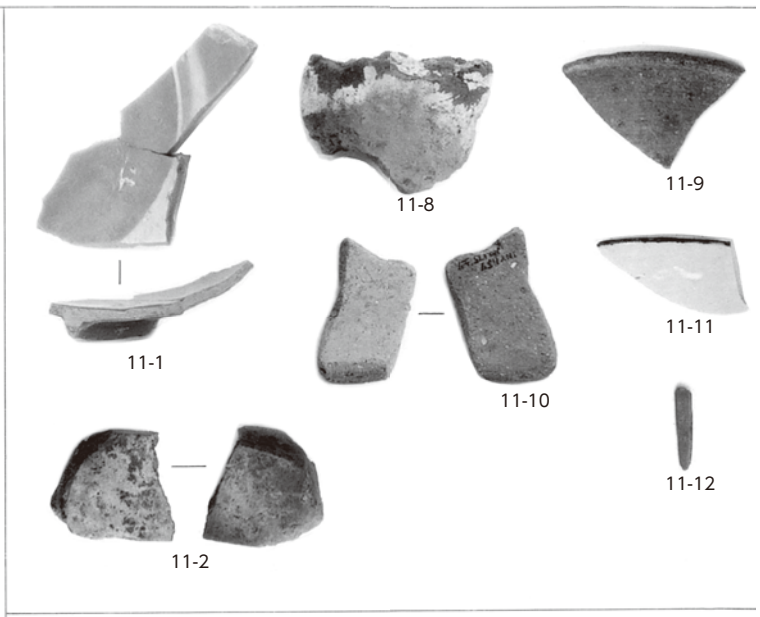
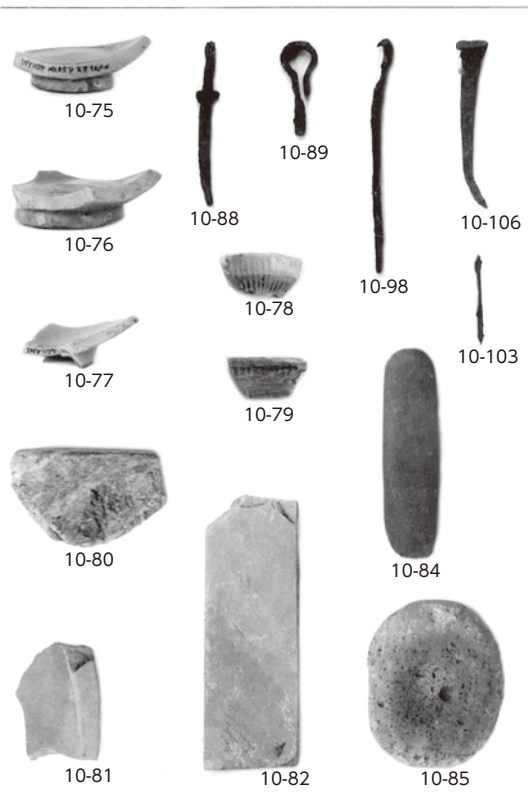
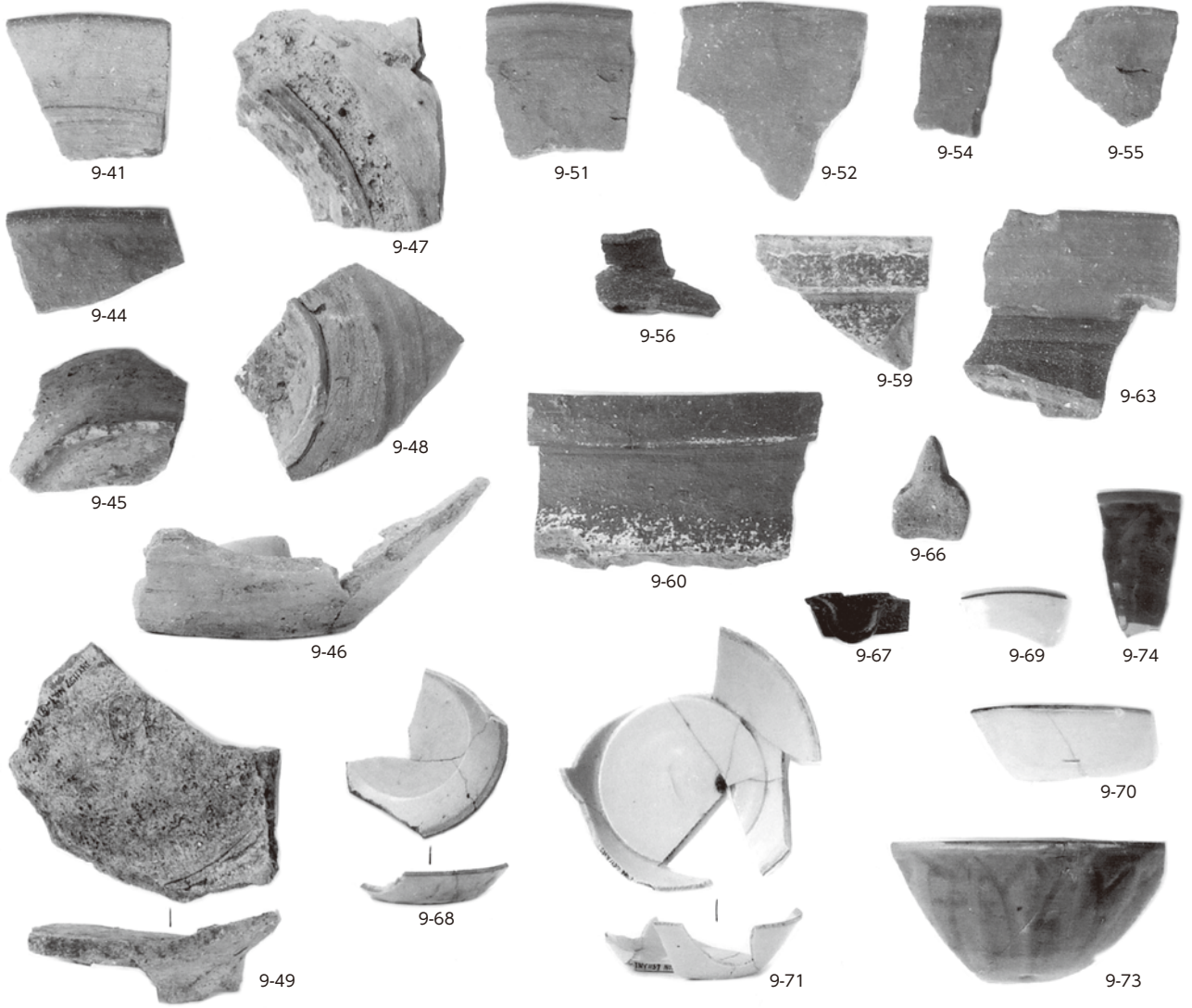
17-1 1区南壁土层断面



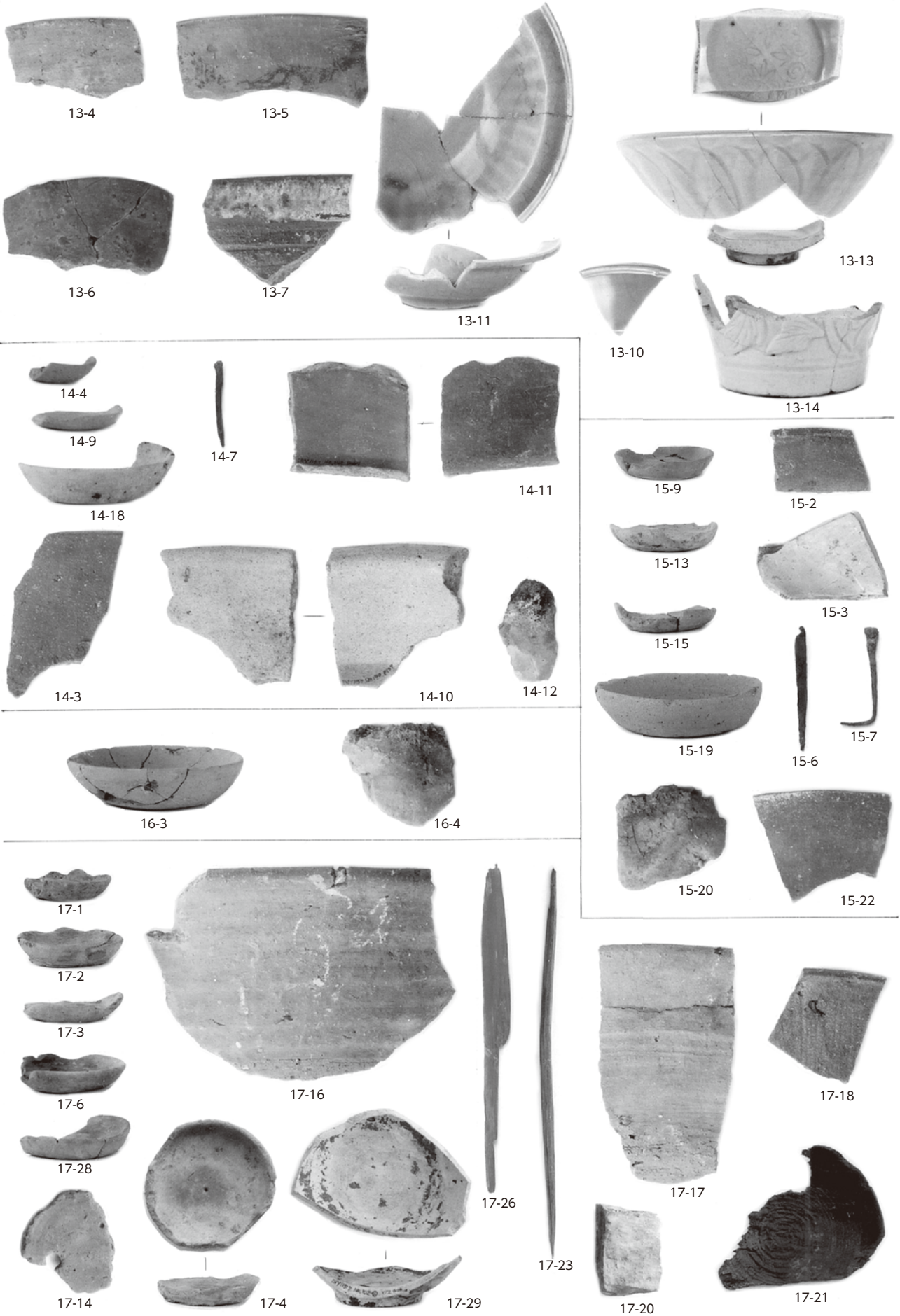
17-2 2区南壁土层断面



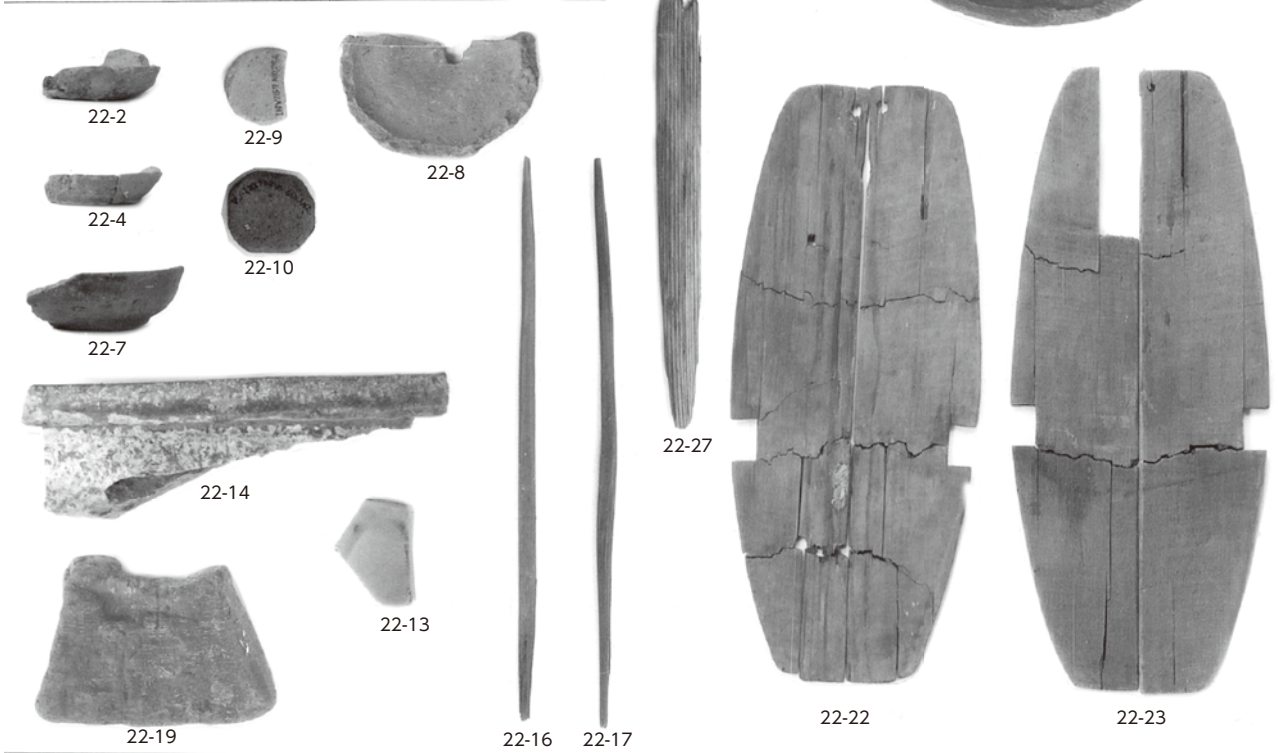
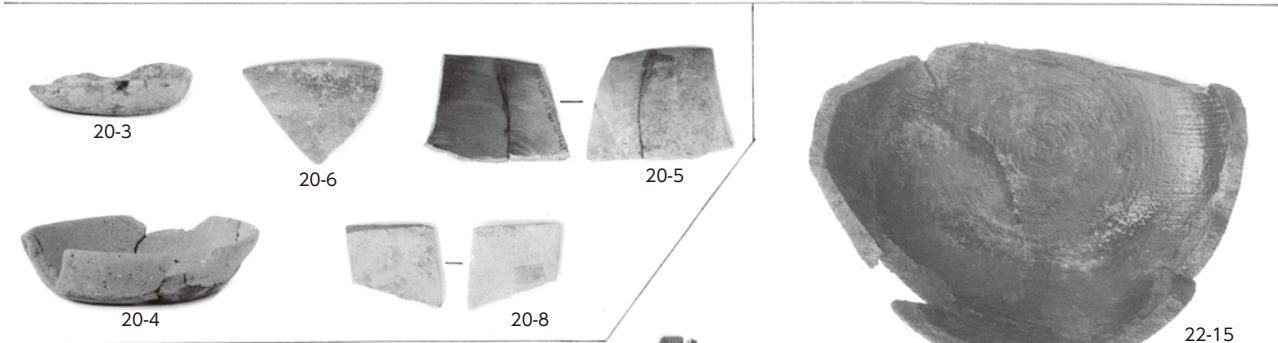
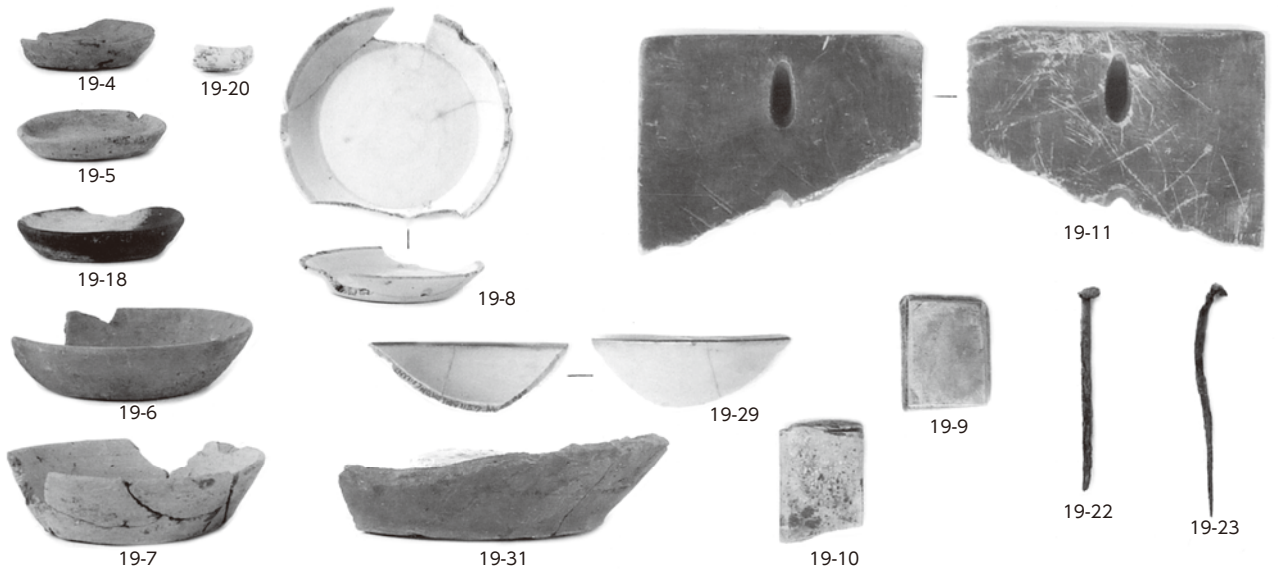
出土遺物 1



出土遺物 2

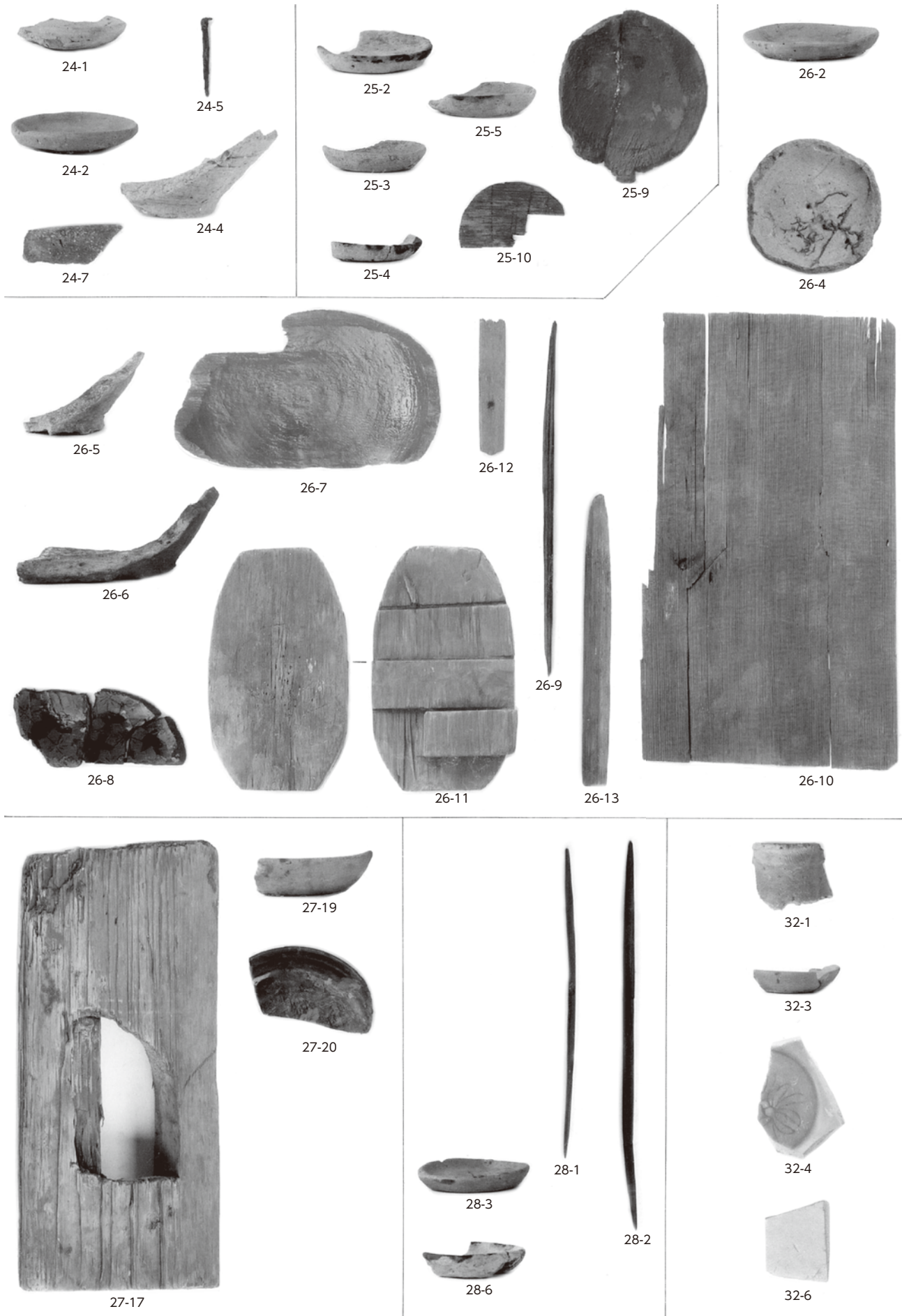


出土遺物 3



出土遺物 4

图版 22



出土遺物 5



溝4出土 チョウセンハマグリ



溝4出土 ハマグリ

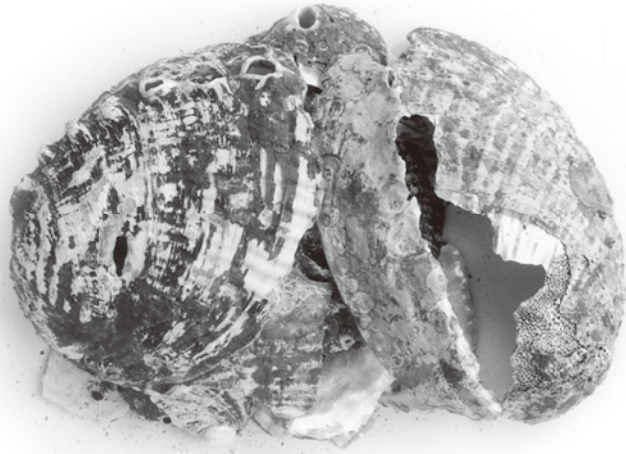


溝4出土 タンペイキサゴ

出土遺物6



溝4出土 アカニシ



溝4出土 マダカアワビ



Ⅲa面出土 鋳滓

出土遺物7



# 西御門遺跡 (No.325)

西御門一丁目 55 番 5

## 例 言

1. 本報は、鎌倉市西御門一丁目55番5における個人住宅建設に伴う埋蔵文化財の緊急調査発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。  
調査期間は平成18年4月4日～同年5月29日にかけて実施され、調査対象面積は30㎡である。出土遺物に関しては鎌倉市教育委員会がこれを保管している。
3. 調査団編成は以下のとおりである。  
調査の主体 鎌倉市教育委員会  
調査担当 森孝子  
調査員 渡辺美佐子 下江秀信  
調査協力者 倉沢六郎 片山直文 牛島道夫（以上、社団法人鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本書の遺構・遺物の縮尺は次の通りである。  
遺構図 1 / 80・1 / 60・1 / 40（遺構図の水糸高は海拔高を示す。）  
遺物実測図 1 / 3・1 / 6・1 / 1（銭）
5. 遺物実測図には次の記号が使用されている。  
釉の限界線—・—・—・— 使用痕の範囲<————>  
調整の変化点— — — 加工痕の範囲<— — —>
6. 本書の執筆は森が行なった。
7. 本書の図版作成及び写真撮影は次の者が分担した。  
遺構図版 赤堀祐子 森孝子  
遺物図版 松原康子 岩崎卓治 岡田慶子 森孝子  
遺構写真 森孝子  
遺物写真 赤堀祐子  
写真図版 赤堀祐子
8. 現地調査及び資料整理においては、以下の方々からご助言、ご協力を賜った。お名前を記して感謝の意を表したい。（敬称略・順不同）  
福田誠 馬淵和雄 原廣志 汐見一夫 松尾宣方 沖元道

# 目次

## 本文目次

第一章 本調査地点の位置と歴史的環境	181
第二章 調査の概要	184
第1節 調査の経過	
第2節 グリッドの設定・国土座標との合成	
第3節 基本層序	
第三章 検出遺構と出土遺物	188
第1節 中世第1面	
第2節 中世第2面	
第3節 中世第3面	
第四章 まとめ	209

## 表目次

遺物観察表	211	出土遺物点数表	218
-------	-----	---------	-----

## 挿図目次

図1 本調査地点と周辺遺跡	183	図16 井戸2出土遺物	194
図2 遺跡位置図	185	図17 土坑2・3	195
図3 グリッド配置図	186	図18 土坑3出土遺物	195
図4 基本層序	187	図19 2面出土遺物	196
図5 1面遺構配置図	188	図20 3面遺構配置図	197
図6 溝4	189	図21 溝2・3	199
図7 土坑1	189	図22 溝2出土遺物(1)	202
図8 土坑1出土遺物	189	図23 溝2・溝2裏込め出土遺物(2)	203
図9 1面・表採出土遺物	191	図24 溝3出土遺物(1)	204
図10 2面遺構配置図	192	図25 溝3出土遺物(2)	205
図11 溝1	192	図26 溝5	206
図12 溝1出土遺物	193	図27 溝5出土遺物	206
図13 井戸1	194	図28 方形土坑1	207
図14 井戸1出土遺物	194	図29 3面出土遺物	208
図15 井戸2	194	図30 最終面まで出土遺物	208

## 図 版 目 次

図版1	219	図版5	223
A. 北方より調査地点を望む		A. 3面溝2・3南岸東側木組み護岸施設 (北から)	
B. 表土掘削前(北西から)		B. 同上近景(北から)	
C. 表土掘削後の調査区(南から)			
図版2	220	図版6	224
A. 1面東半(北から)		A. 3面溝2・3南岸西側木組み護岸施設 (北から)	
B. 1面西半(南から)		B. 同上近景(北から)	
C. 1面P9出土埋納かわらけ(南から)			
D. 1面覆土出土瓦質風炉(南東から)		図版7	225
図版3	221	A. 3面溝5(東から)	
A. 2面東半(南から)		B. 調査区西壁土層	
B. 2面西半(北から)		図版8	226
C. 2面井戸1・2(南から)		出土遺物(1)	
図版4	222	図版9	227
A. 3面東半(北から)		出土遺物(2)	
B. 3面西半(南から)		図版10	228
C. 3面溝2・3(西から)		出土遺物(3)	
D. 3面溝2・3近景(西から)			

## 第一章 本調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は鎌倉市西御門一丁目55番5に所在する。鎌倉市の東方、南側に開口する谷戸の東山麓に位置している。

現在、鎌倉市街地の中心には鎌倉幕府を開幕した源頼朝が由比郷元八幡より勧請した源氏の鎮守である鶴岡八幡宮が鎮座している。その八幡宮から西方200mあたりが源家三代の御所と伝承される「大倉幕府跡」といわれる遺跡地である。この遺跡地の範囲は現在の清泉小学校を中心とした260×210m四方の地域で、現在までに14地点の発掘調査が実施されており僅かではあるが様相が解明しつつある。この遺跡地の本丸とみられる清泉小学校の発掘調査は過去に1例実施された<sup>1</sup>。エレベーター設置に伴う事前調査で、その結果14世紀前半を中心とする遺構群が検出されたが、該期の遺構群は検出されておらず御所内の様相は依然として不明のままである。しかし、平成19年の調査において東限と推定される薬研堀の一部が検出<sup>2</sup>され、御所の範囲が僅かなりとも理解されつつある。また、「大倉幕府跡」の遺跡地の北側には「法華堂跡(源頼朝墓)」、「北条義時法華堂推定地」等の存在が確認<sup>3</sup>されており、この辺り一帯は鎌倉幕府と直結する遺跡地となっている。本調査地点は法華堂跡より430m北側(図1-①)に存在する。また、当調査地点を囲むように大倉山やぐら群、回春院奥やぐら群、千歳やぐら群、西御門やぐら群、西御門東やぐら群、大倉山北やぐら群、大倉山北やぐら群という鎌倉時代から南北朝時代の墓域が存在する。また、太平寺、報恩寺、保寿院があったと伝承されている寺域でもある。

太平寺は本遺跡地の東側が伝承地である。禅宗の尼寺で、梵宇建立は妙法尼であると大休正念の語録「念大休正念禪師語録」にある。妙法尼の寂年は徳治元年(1306)と考証されており14世紀以前、少なくとも鎌倉時代後期にはすでに太平寺は存在していたことが確認されている。

報恩寺は応安四年(1371)に創建された禅宗寺院で、開山義堂周信、開基上杉能憲である。「報恩寺跡」として西御門一丁目91番3他地点(市立第2中学校体育館建設用地、図1-④)で昭和51年1月28日～2月10日に発掘調査が実施された<sup>4</sup>。検出遺構は2時期の石列遺構、井戸址、近年の道路遺構である。出土遺物は南北朝後半期以降のもので創建当時に比定されるものである。検出された石列は方丈の基壇の一部、またもう1列の鍵型に屈曲する部分を石垣と推定している。道路遺構は近年のものではあるが、創建当時の旧地形の参道を利用したものであると考察している。

保寿院は足利尊氏室、基氏の生母、清江禅尼の菩提寺として建立されたものであるが、その後、瑞泉寺の塔頭になり廃年は未詳である。「保寿院跡」の遺跡地内である西御門一丁目992番4地点(図1-⑦)は平成16年1月9日～同年2月25日にかけて発掘調査が実施された<sup>5</sup>。調査の結果13世紀初頭～15世紀前半に渡る10面の生活面が確認された。礎石建物とそれに付随する付属物の遺構を検出している。保寿院であることが実証されたわけではないが各時期における明瞭な地形、および礎石建物とそれに付随する

---

1 宮田真 平成2年

2 熊谷満 平成19年「大倉幕府跡の調査」『第17回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』鎌倉考古学研究所 鎌倉市教育委員会

3 福田誠 松尾宣方他 平成17年『法華堂跡』確認調査報告書 鎌倉市教育委員会

4 大三輪龍彦他 昭和58年「報恩寺跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』 鎌倉市教育委員会

5 宮田真 滝澤晶子 平成19年「保寿院跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2』 鎌倉市教育委員会

付属物の遺構は十分に寺院址になりうる可能性がある」と捉え、今後の研究の礎になると述べている。

また、墓域である西御門東やぐら群の図1-⑤地点では平成13年、14年度に発掘調査が実施され、9基の大型やぐらが検出され、13世紀末～15世紀にかけての豊富な遺物が出土している。<sup>6</sup>図1-⑥地点西御門東やぐら群の延長部分で新たに1基が検出されたため合計10基となった。図1-⑥地点のやぐら群は14世紀～15世紀代に機能し、開削年代は14世紀前半、もしくはそれより遡るという調査結果を得ている<sup>7</sup>。

図1-⑧、⑨、⑩は「大倉幕府北遺跡」といわれる遺跡地である。⑧地点(西御門二丁目816番ほか1筆)からはやぐらが2基検出された。<sup>8</sup>1号やぐらは奥壁幅4.25m、奥行き4.5m、2号やぐらの奥壁4.2m奥行き4.5mで羨道を持つ。羨道床面に半月の蓮華中房状の陰刻を有する。玄門部には扉等の閉塞施設があった可能性を示す柱穴4口があった。開削年代は不明であるが14世紀後葉～15世紀前半頃にはやぐらとしての機能を失ったことが分かっている。⑨地点(西御門二丁目796番1外2筆)からは14世紀後半～15世紀初頭にかけての寺院址、13世紀後半～14世紀前半の溝とそれに伴う道路遺構が検出されている。溝は所謂都市型の箱型のものであり財力の基に造成したことを感じさせる。また、出土遺物に「三つ鱗」文様の鉾があったことも注目すべきである<sup>9</sup>。調査対象外の東側に相当する谷戸奥は40cm足らずで岩盤を削平した平場が検出されており、大規模遺構群が展開している可能性も想像される。

⑩地点からは1基の横穴墓と5基のやぐらが検出された。13世紀後半～14世紀前半に機能したやぐら群で、1号やぐらには階段構造の羨道が付き、3号やぐらは床面に玉石敷き、切石敷き、5号やぐらからは2基の五輪塔が検出されている。<sup>10</sup>

本遺跡地周辺部の谷戸の様相は以上のような発掘成果から僅かながらも理解出来るようになってきている。13世紀後半～14世紀前半ごろにやぐらが開削され、それが15世紀頃まで機能したであろうこと、また15世紀初頭には寺院が存在したことも想定されている。同時期に都市型といわれる箱型溝を造成するような都市的要素が波及していたのである。このようにこのような谷戸奥にもかなり進んだ文化的要素が浸透していたのである。

#### 参考文献

貫達人 川副武胤 昭和55年『鎌倉廃寺事典』 有隣堂

---

<sup>6</sup> 鈴木庸一郎 岩田直樹 根本志保 平成17年『西御門東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告181 財団法人かながわ考古学財団

<sup>7</sup> 鈴木庸一郎 栗原伸好 平成17年『西御門東やぐら群』かながわ考古学財団調査報告187 財団法人かながわ考古学財団

<sup>8</sup> 高野昌巳 森孝子 宮田眞 平成12年『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』大倉幕府北遺跡発掘調査団・宮田事務所

<sup>9</sup> 森孝子 宮田眞 平成14年『大倉幕府北遺跡発掘調査報告書』大倉幕府北遺跡発掘調査団・有限会社博通

<sup>10</sup> 鈴木庸一郎 岩田直樹 根本志保 平成16年『大倉幕府北やぐら群』かながわ考古学財団調査報告162 財団法人かながわ考古学財団



図1 本調査地点と周辺遺跡

## 第二章 調査の概要

### 第1節 調査の経過

本調査地点における個人の専用住宅建設計画が申請され、その内容が地盤の柱状改良の工事を伴うものであったため埋蔵文化財に影響を及ぼすと判断され、鎌倉市教育委員会が遺構の有無を確認するための試掘調査を実施した。その結果、現代の客土を取り除いた現地表下86cmにおいて地形面が検出された。以下200cmまで掘り下げた結果、現地表下120cmにおいて更に中世遺構面が確認された。また、かわらけ、瀬戸等の中世期の遺物が出土したため本調査を実施することが決定された。調査対象面積は30㎡である。

本調査は平成18年4月4日～同年5月29日まで実施された。前日の4月3日に試掘調査の資料に基づき重機により表土を85cm前後除いた。また、残土処理の都合上、調査区を東西2区に分け東側をⅠ区、西側をⅡ区として東側Ⅰ区より発掘調査を実施した。

以下、作業内容の概略を記す。

- 4月 3日 調査区を設定し重機によるⅠ区の表土掘削。  
器材搬入。仮設電気工事。
- 4月 4日 **Ⅰ区の調査開始**。調査員3名、作業員2名の計5人体制で実施。  
1面検出作業。1面覆土より瓦質風炉出土。
- 4月 5日 測量のためのグリッド設定
- 4月 7日 1面全景撮影及び測量
- 4月10日 2面への調査開始
- 4月14日 2面全景撮影及び測量
- 4月17日 3面調査開始
- 4月21日 3面全景撮影及び測量  
調査区東壁、西壁の土層を記録
- 4月24日 Ⅰ区調査終了
- 4月25日 鎌倉市三級基準点53208(標高10.305)より調査区内に海拔高を移動  
本調査地点の標高は25.505mである
- 4月26日 Ⅱ区の重機による表土掘削
- 4月28日 **Ⅱ区の調査開始**。1面検出作業
- 5月 8日 1面全景撮影及び測量
- 5月 9日 2面への調査開始
- 5月12日 2面全景撮影及び測量
- 5月19日 3面調査開始
- 5月22日 3面全景撮影及び測量
- 5月24日 溝2・3東壁・西壁および調査区北壁の土層を記録  
標識番号DO1E029、DO1E030から国土座標の移動  
地山確認(黒色土)のためのトレンチ調査
- 5月29日 器材撤収 調査終了



## 第2節 グリッドの設定・国土座標との合成

地図上に調査地点を合成できるように国土座標を用いた。使用したのは標識番号DO1E029 (x - 75078.852 y - 24539.722)、DO1E030 (x - 75103.945 y - 24548.708)である。

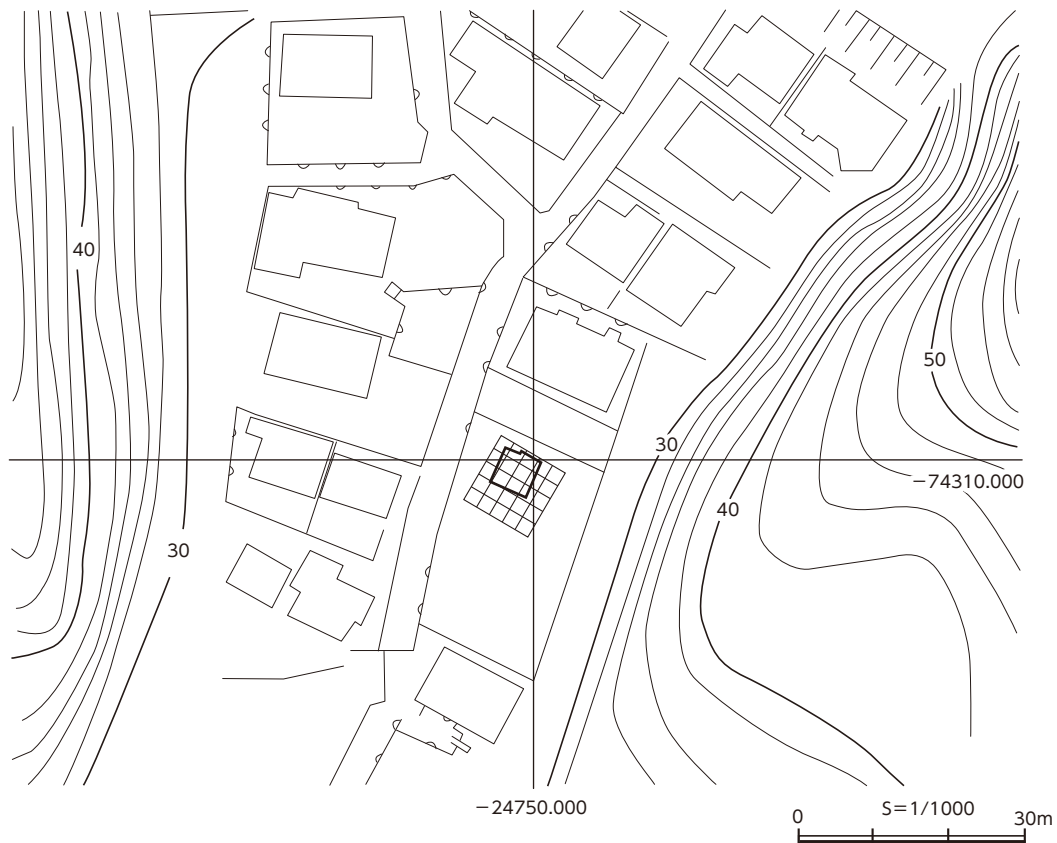


図2 遺跡位置図

### グリッドの設定(図2)

調査区北側に任意の点A、Cを設定して測定の基準とした。A点を $x_0 \cdot y_0$ 、C点を $x_{6.496} \cdot y_0$ とし、B点 $x_{0.671} \cdot y_{8.335}$ となる。西から東に1mごとに $x_1, x_2, x_3 \dots$ 、北から南に1mごとに $y_1, y_2, y_3 \dots$ とする。X軸は北から西方向に $28^\circ 25' 46''$ 傾く。A点、B点、C点を国土座標に変換するとA点(x - 74663.204 y - 24460.430)、B点(x - 74670.859 y - 24463.811)、C点(x - 75078.852 y - 24539.722)である。

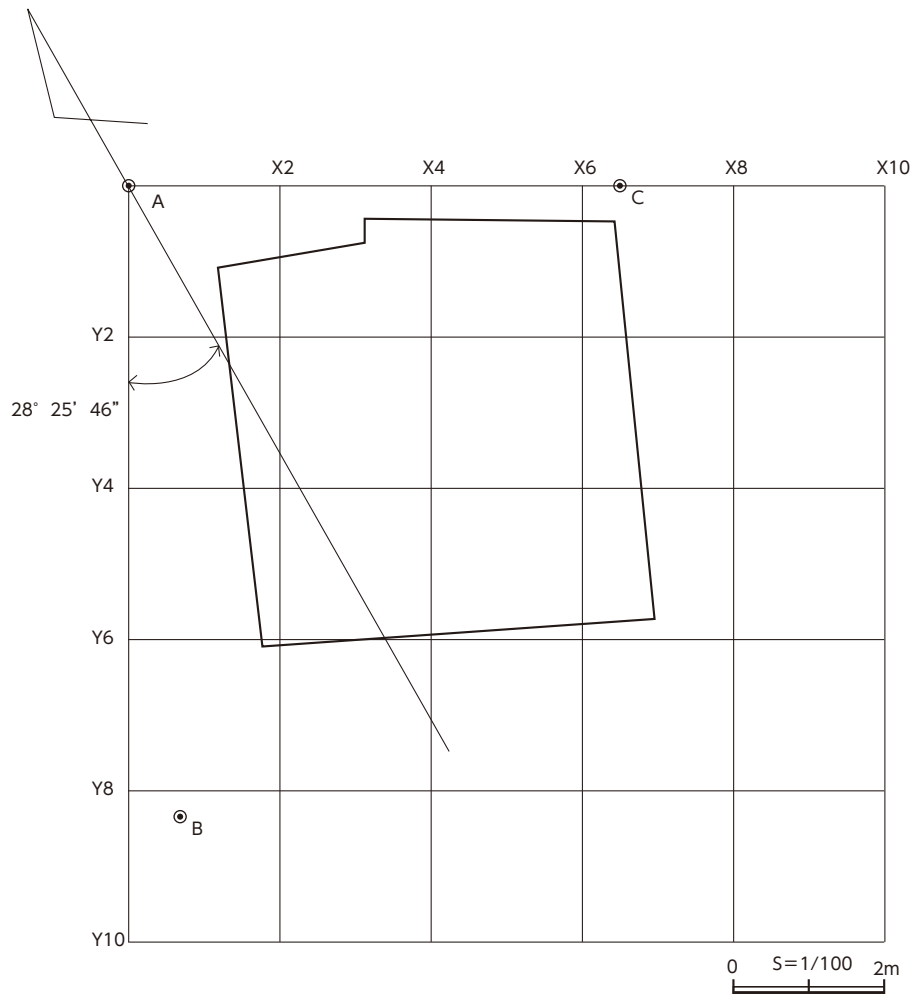


図3 グリッド配置図

### 第3節 基本層序 (図4)

本調査地点の海拔は25.505mである。表土層は90cm前後の客土である。

中世第1面は遺物包含層の層位が削平されており、表土直下に、海拔24.5m前後で検出された。土丹地形層である。

中世第2面は1面の地形層とその下の茶褐色粘質土を除いた30cmの堆積を除いた海拔24.2m前後に検出された。土丹地形層である。2面の地形層は70cmを超える堆積である。

中世第3面はその2面の厚い土丹層を除いて、海拔23.5m前後に検出された。この地形層は谷戸開発時の造成である。

地山層(黒色土)は第3面から110cm下海拔22.4m前後で検出された。

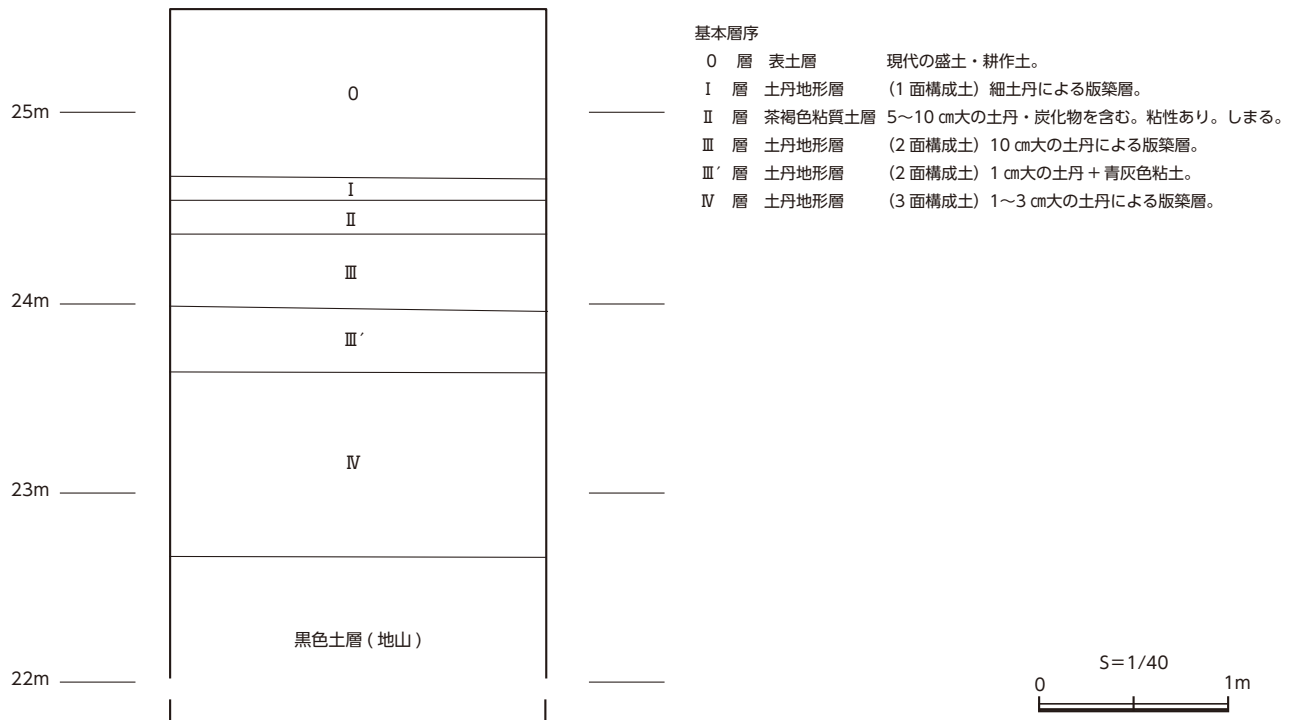


図4 基本層序

### 第三章 検出遺構と出土遺物

重機により表土層及び田圃の床土(青灰色粘土層)を凡そ85cm取り除き中世第1面が検出された。中世の遺構面は3面検出され、各面ともに強固な土丹地形がなされていた。検出遺構は溝5条、土坑3基、方形土坑1基、柱穴群である。今回の遺構の名称は検出順であり、遺構の新旧関係は無い。

#### 第1節 中世第1面(図5)

中世1面は海拔24.47～24.69mで検出された。遺構面は細土丹で版築されており北から南に緩やかに傾斜している。その比高差は22cmを測る。検出されたのは溝1条、土坑1基、柱穴31口である。

溝は調査区西壁際に検出された。この溝は現在、調査地点の西側を南北に走る南北道路と平行関係にある。今回検出された溝の西側に現在の道路の道筋を踏襲して道路が存在する可能性も考慮され、溝が道路側溝としての機能を有するものであることも考えられる。

土坑は1基検出された。溝4に切られた状態で検出されており、土坑は溝より旧く、1面は少なくとも2時期あることが理解された。

図5で示した通り柱穴群は溝の東側、調査区中央部から調査区外東側に広がる様相を呈して検出された。本遺跡地の主体となる地域は調査区外東にあると予想される。また、P10には鎌倉石切石の礎石が据えられていたが、これに対応する柱穴群は発見できず建物を構築することは出来なかった。さらに、P9からは地鎮のために埋納されたと想定されるかわらけが発見されている。今回、算用数字を付した柱穴は遺物が出土したもの、アルファベットの名称の柱穴は出土のないものとして分けて掲載した。

出土遺物はかわらけを主体に、常滑窯、瀬戸窯の製品等である。また1面覆土から茶道具である瓦質の風炉が出土している。喫茶は当時、寺院等の特殊な空間で行われるものであり、本遺跡地がその一角であったことも考えられる。出土遺物の様相から15世紀前半代を中心とした遺構群である。以下、遺構別に詳細を述べる。

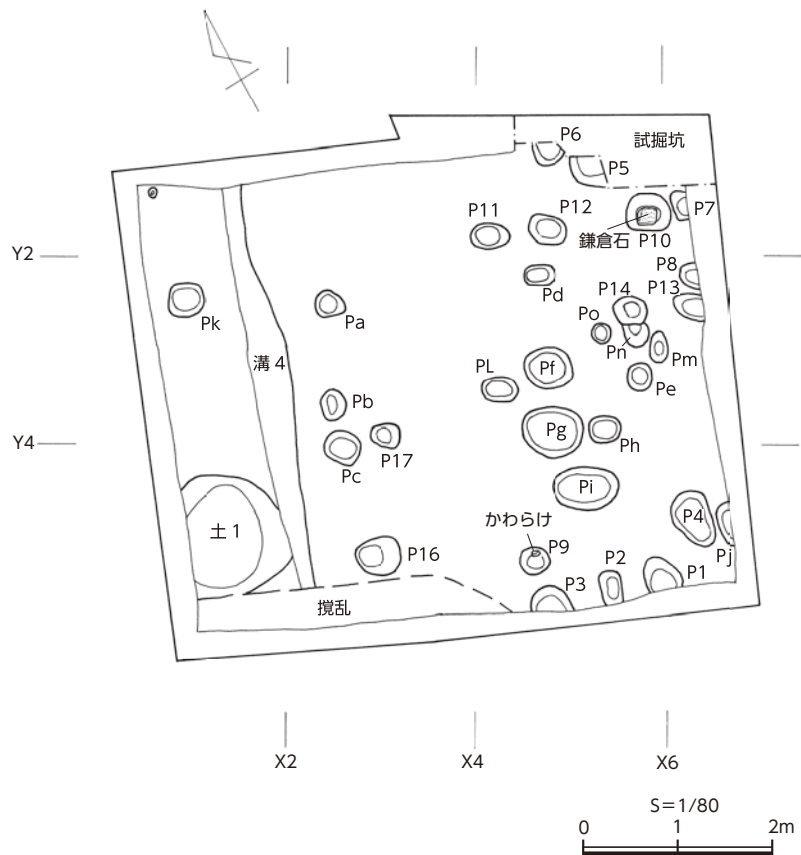


図5 1面遺構配置図

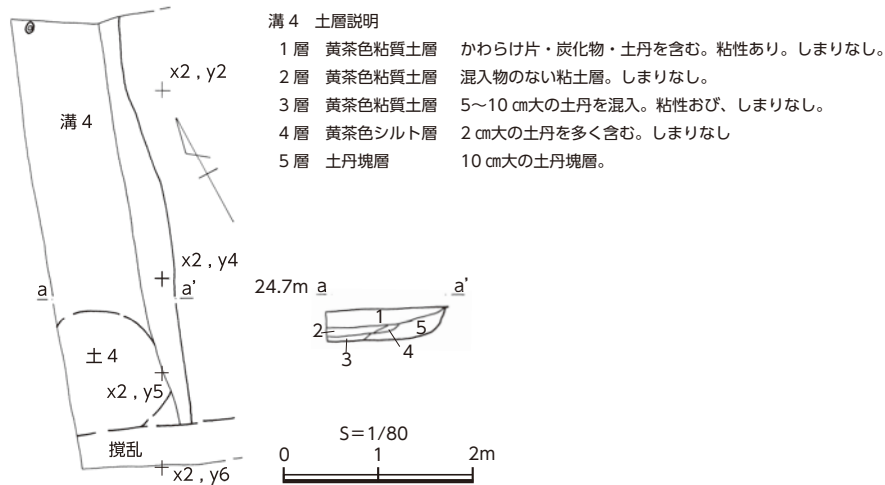


図6 溝4

### 溝4(図6)

調査区西壁際、X2・Y2～4グリッドにおいて海拔24.47～24.63mで検出された南北方向に走る真直ぐな溝である。検出された掘り方規模は南北444cm、幅は126～135cm、深さは確認面より27.6～33.7cmを測る。溝の断面形はU字型を呈し、底部は中央部が最も低く海拔は24.18mを測る。当址は北から南に緩やかな傾斜を持ち、その比高差は20cmを測る。軸方向はN-19°-Eである。

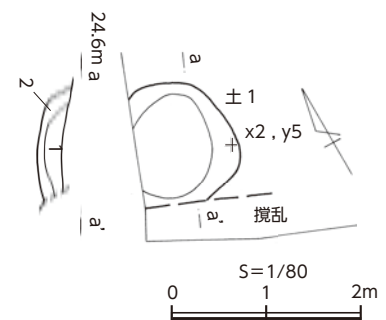
この溝はまず下方を大型土丹塊で一気に埋めて、以後、黄茶色粘土が堆積し徐々に埋まりその機能を失った様相である。

出土遺物はかわらけ、常滑、伊勢系土鍋、硯、瀬戸、磁器等の小片であり図示して掲載できるものはなかった。

### 土坑1(図7)

調査区南西角、X1・Y4～5グリッド内に海拔24.56mで検出された。上方は溝4に削平され、また南側を現代の攪乱に壊されている。

検出された掘り方規模は104×128cm、深さは確認面より48.1cmを測る。覆土は暗褐色シルトで大型土丹塊を多く含む。



土坑1 土層説明

1層	暗茶色シルト層	大型土丹塊を混入。しまる。
2層	暗茶色シルト層	混入物なし。しまる。

図7 土坑1

### 土坑1出土遺物(図8 - 1)

1は瀬戸窯の灰釉卸皿の底部の小片である。胎土は灰白色を呈し、黒色粒子を若干含む軟質土である。

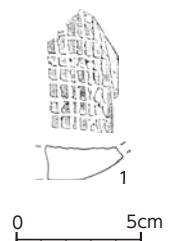


図8 土坑1出土遺物

## 柱穴群

柱穴は31口検出された。溝4東側にランダムに広がりを見せていた。算用数字を付した柱穴群P1～14・16・17は遺物が出土しており、アルファベットを付したPa～Poからは遺物の出土がなかった。遺物の出土の有無を区別するためにこの名称を採用した。以下、柱穴掘り方を表にまとめる。

柱穴名	規模	深さ	底部の 海拔	平面形	備考	柱穴名	規模	深さ	底部の 海拔	平面形	備考
P 1	37×39以上	20.9	24.4		南壁は調査区外	Pa	30×27	21.5	24.4	楕円形	
P 2	38×20以上	13.2	24.5		南壁は調査区外	Pb	33×24	17.6	24.4	楕円形	
P 3	45×34以上	10.2	24.5		南壁は調査区外	Pc	35×38	16.9	24.4	隅丸方形	
P 4	63×37	26.2	24.4	楕円形		Pd	22×33	32.8	24.4	楕円形	
P 5	33以上×34以上	30.6	24.4		試掘坑に切られる	Pe	30×28	12	24.6	楕円形	
P 6	33以上×25以上	31.3	24.4		試掘坑に切られる	Pf	47×52	13.7	24.6	円形	
P 7	30×20以上	35.4	24.3		東壁調査区外	Pg	65×51	3.7	24.6	円形	
P 8	32×19以上	26.6	24.4		東壁調査区外	Ph	35×28	3.6	24.6	楕円形	
P 9	30×33	20.7	24.5	円形	埋納かわらけあり	Pi	70×47	10.5	24.6	楕円形	
P 1 0	47×40	39.5	24.3	隅丸方形	鎌倉石礎石あり	Pj	70×18以上	8.5	24.6		東壁は調査区外
P 1 1	53×30	13.7	24.6	楕円形		Pk	38×35	30.1	24.3	隅丸方形	
P 1 2	41×31	20.4	24.5	楕円形		Pl	70×50	10.5	24.6	楕円形	
P 1 3	30×32以上	34.8	24.3		東壁は調査区外	Pm	40×23	6.8	24.6	楕円形	
P 1 4	33×35	31.8	24.4	楕円形		Pn	27×25以上	16.3	24.5		P14に切られる
P 1 6	47×40	51.3	24.1	楕円形		Po	21×21	7.7	24.6	円形	
P 1 7	25×31	7.7	24.6	楕円形							

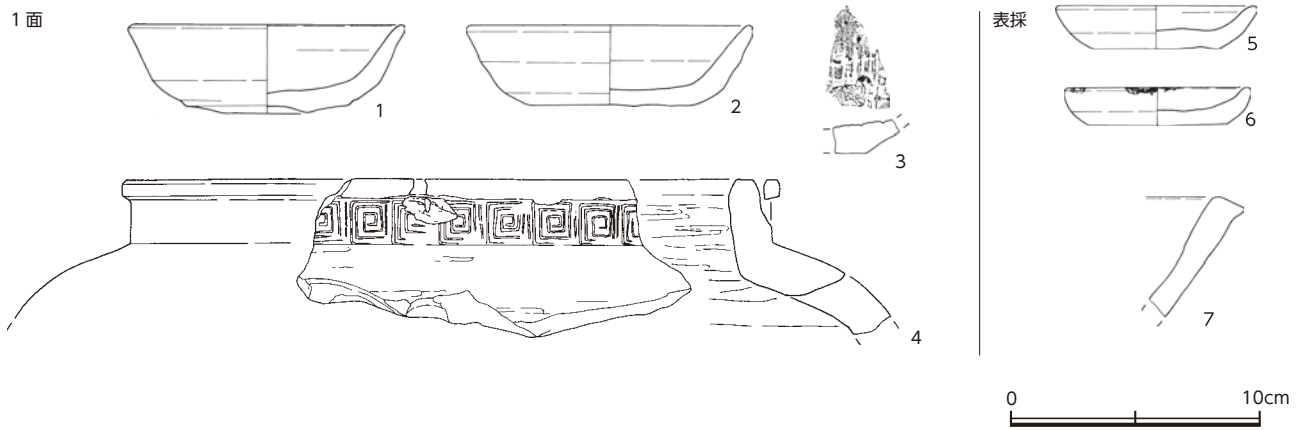


図9 1面・表採出土遺物

1面の基本軸線になるのは溝4の南北の軸線が想定出来る。その軸線を目安に柱穴の並びを考えると、Pa—P b—P c、P f—P g—P i、P 1—P 2—P 3が同一軸であるが、共に3口の並びで有り、建築物を構築させるのにはやや不安が残る。また、調査区南壁際に検出されたP 1—P 2—P 3の並びは調査区外に広がる様相を示し、また西側は大きく攪乱されているため今後の展開を判断する手掛かりはないが、更に西、及び南に広がる可能性はある。しかし、P1の底部の海拔が他の2口より15cm高く、また3口ということで今回は建物とはしない。また、溝4とは軸線が異なっているが①P11—P d—P o—P e、②P 6—P 7はそれぞれが同規模であり対応する柱穴群と想定され、2つの構築物になる可能性は考えられるが、その拡がりを見極めきれないのでこれも保留とする。しかしこの状態を見るに、溝から離れるに従い、溝の軸線に捉われない土地の利用をしたのではないかと考えられる。

#### 1面出土遺物(図9 - 1～4)

1、2はロクロ成形のかわらけの中皿である。胎土は明橙色を呈し、赤褐色粒子、泥岩粒を多く含み粉質が強い。体部を開いて引き上げ、口唇端部を外反させる。15世紀前葉に比定される。3は瀬戸窯の灰釉卸皿の底部の小片である。胎土は灰白色を呈し、黒色微粒子を含む精良土である。4は瓦質の風炉である。胎土は淡桃色を呈し、砂粒が多い。全体に横方向の磨き調整が行われ、器壁は滑らかである。肩部に窓が開き、頸部に雷文様が巡る。施文後に、口唇部から頸部に穴を穿つ。器表の外面全体に薄く煤が付着している。これらの遺物の出土傾向から15世紀前葉の年代が想定される。

#### 表採遺物(図9 - 5～7)

ここに掲載した3点は出土層位の不明な遺物である。5、6はかわらけの小皿の小片である。胎土は白褐色を呈し泥岩粒を多く含み共に粉質が強い。体部は丸味を持って立ち上げる。6は灯明皿である。7は常滑窯の片口鉢Ⅱ類の注口部位の小片である。胎土は灰褐色を呈し白色粒子を多く含む粗胎である。

## 第2節 中世第2面(図10)

1面の土丹地形層及び、その下の包含層を合わせて40cm掘り下げ海拔24.06～24.32mで中世2面の遺構面が検出された。10cm大の大型土丹で地形を行なった非常に強固な版築層である。この面は東～西に傾斜しておりその比高差は最大で26.7cmを測る。検出されたのは溝1条、井戸2基、土坑2基、柱穴10口である。溝1はクランク状に途中で屈折している。当址はI区とII区の調査区にまたがり、また屈曲部分は未掘部分に当たり溝の全体像は不明である。

井戸は南北に並んで2基検出された。共に調査区の壁際に掘り方の半分が検出された。その検出状況から井戸1の平面形は方形、井戸2は東西に長軸を持つ楕円形を呈すると推察される。

土坑群は井戸群の西側に接近して調査区南西地域に2基検出された。当地域は生活の場としていた様相が濃厚であるが、中心域ではなく縁辺的要素が強い。

柱穴群は溝の両側に散在した様相で検出された。建物が存在していた痕跡ではあるがそれ以外は不明といわねばならない。P sは柱穴の底部に礎板を有し、またP tは鎌倉石切石の礎石を持つ。

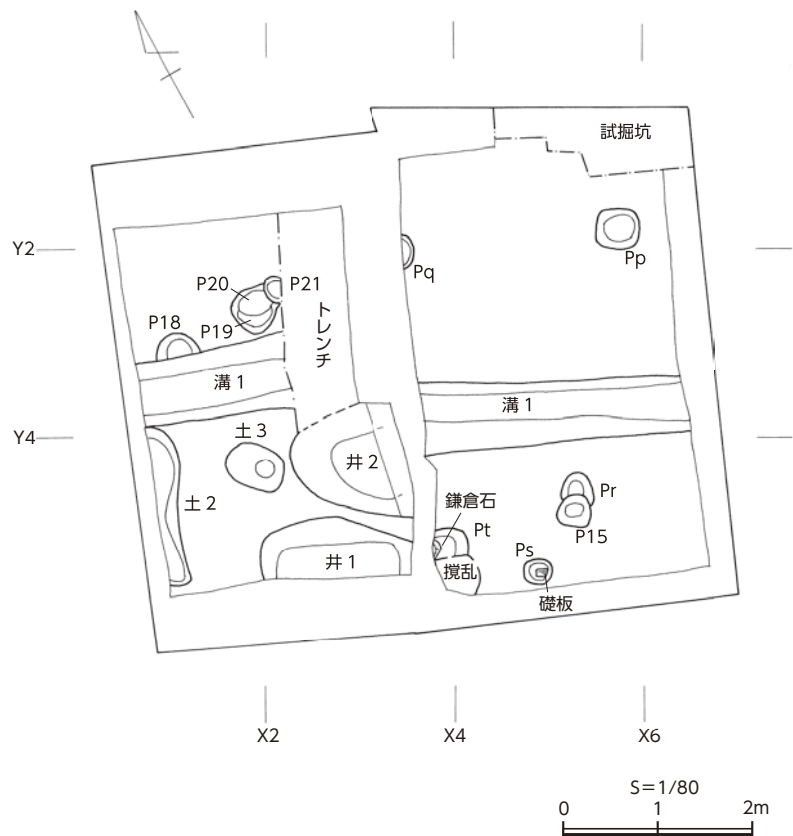


図10 2面遺構配置図

### 溝1(図11)

調査区中央部、海拔24.08～24.29mにおいて、X1～6・Y2グリッド内に調査区を東西に貫通して検出された溝である。当址は途中でクランク状に屈折している。検出された掘り方規模は東西568cm、幅

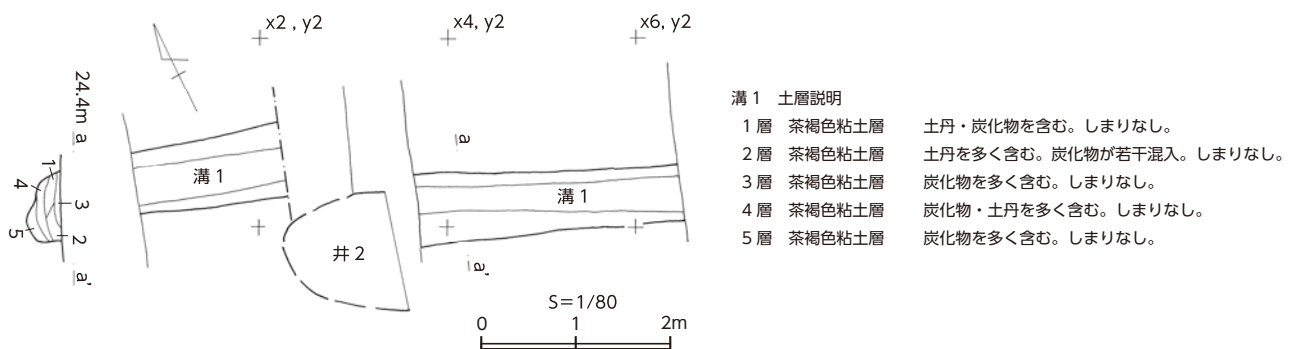


図11 溝1



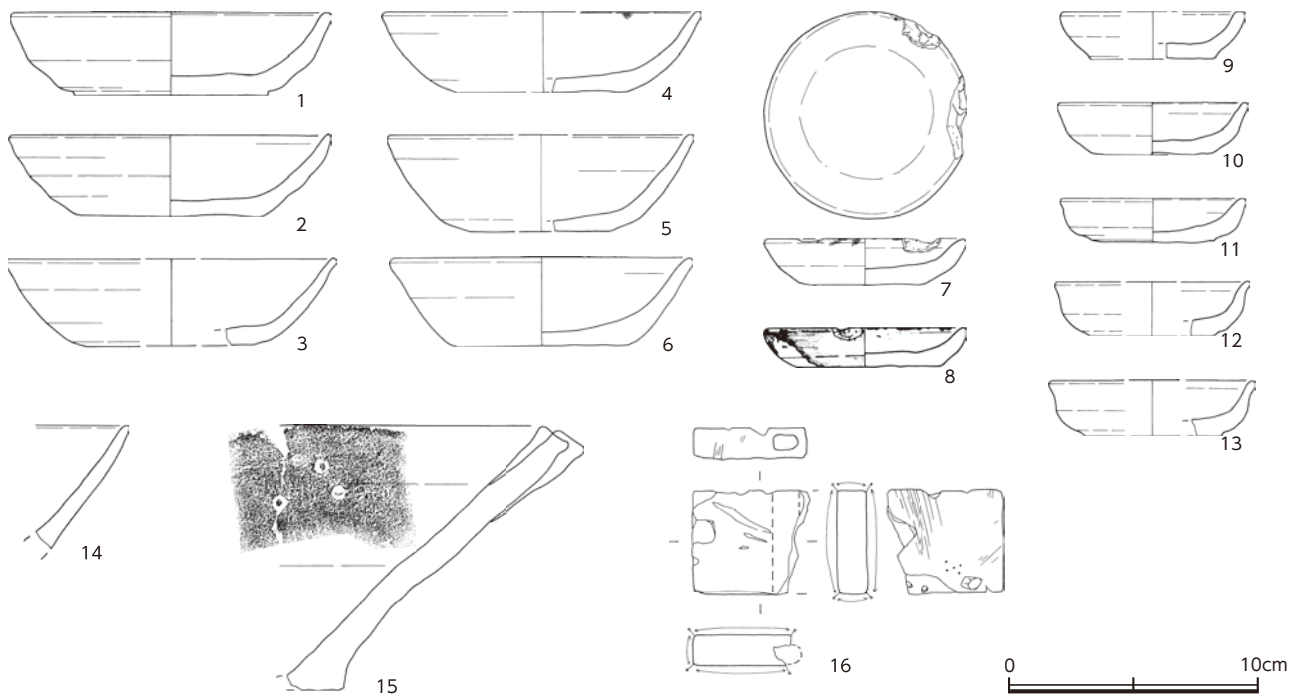


図12 溝1出土遺物

は66～110cm、深さは確認面より37.8～53.4cmを測る。溝は東から西に傾斜しておりその比高差は36.4cmである。溝の断面はU字型で側壁は真直ぐに立ち上がる。土留のための木材等の護岸施設は検出できなかった。

この溝の覆土は茶褐色粘質土で炭化物、土丹を多く含みしまりはない。この溝の東西の軸方向はN-73°-Wである

### 溝1出土遺物(図12)

1～13はロクロ成形のかわらけで、1～6は大皿、7～13は小皿で凡そ3分類される。口径、底径比の小さく、器肉が厚く安定感のある1、7、8、9、器肉が薄く、胎土が精良な薄手丸深の2～5、器肉が若干厚く口唇端部が外反する6、10～13である。4、7、8は灯明皿である。7、8は共に口縁部を打ち欠いている。14は瀬戸窯の灰釉平碗の口縁から底部あたりまでの破片で、高さ4.9cmが遺存する。胎土は灰黄色を呈し、微砂を交えざっくりしている。釉調は黄緑色、器表には気泡が多い。15は常滑窯の片口鉢Ⅱ類である。7型式である。胎土は橙褐色を呈し、長石粒子を多く含み硬質の粗い胎土である。内面に竹管状押印を有し、また、内面が爆ぜており火鉢に転用した痕跡がある。16は滑石製品のスタンプである。棒の差し込み口と思われる部分が欠損しており、加工途中で破損し破棄した可能性がある。出土遺物の様相から14世紀中葉～後葉に比定される。

### 井戸1(図13)

X2～3・Y5グリッド内にて海拔24.11mで検出された。当址の大半は調査区東壁内にある。検出された掘り方規模は東西160cm、南北68cm、平面形は方形になると想定される。深さは確認面より120cmを測る。板材、杭等の井枠の検出はない。覆土は黄茶色粘質土で土丹、炭化物を多く含む。出土遺物はかわらけを主体とし、他は銭の出土がある。

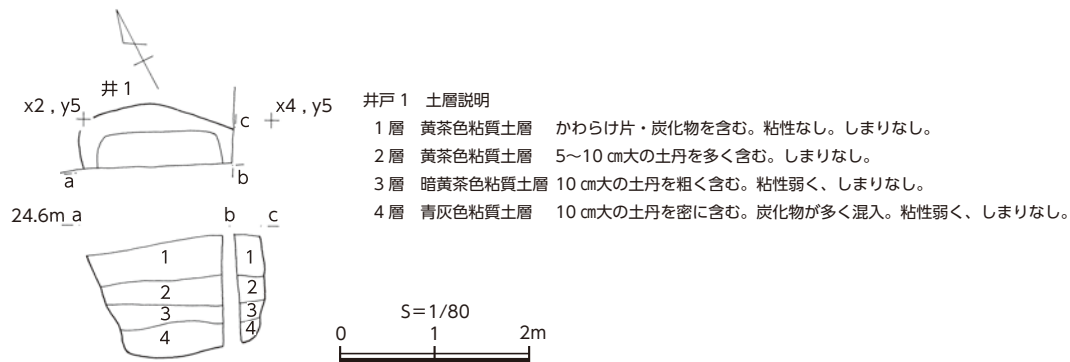


図13 井戸1

### 井戸1 出土遺物(図14)

1はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は淡橙色を呈し、直径3mm大の泥岩粒を含み粗い。体部を外反して立ち上げ口唇端部を直口させる。2は北宋銭、天聖元寶である。

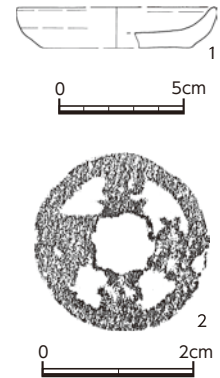


図14井戸1 出土遺物

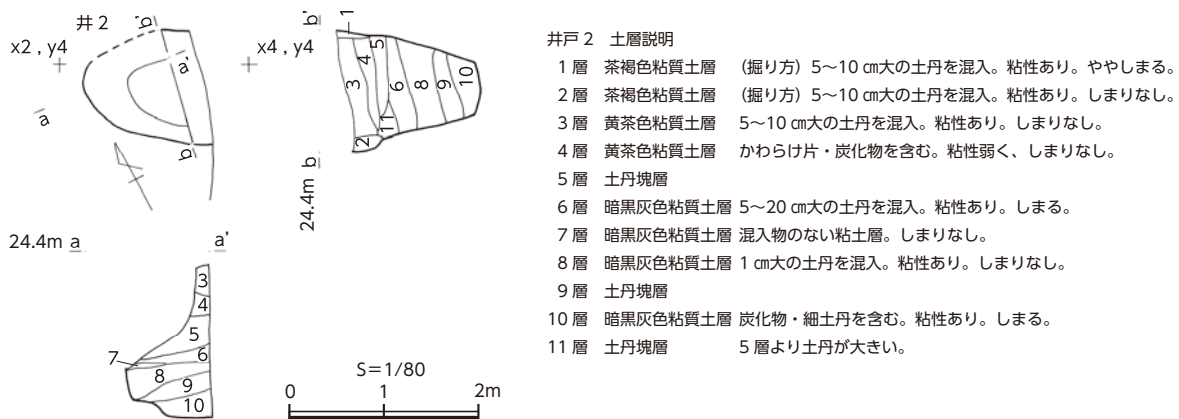


図15 井戸2

### 井戸2(図15)

X2~3・Y4グリッド内にて海拔24.02mで検出された。当址の大半は調査区東壁内にある。検出された掘り方規模は東西124cm、南北136cm、平面形は楕円形になると想定される。深さは確認面より140cmを測る。木杵等の検出はない。覆土は上層が黄茶色粘質土で土丹、炭化物を多く含む。下層は暗黒灰色粘質土で土丹、炭化物、木片を含む。出土遺物はかわらけ、瀬戸、手焙り、常滑で各々その小片が出土した。

### 井戸2 出土遺物(図16)

1は瀬戸窯の灰釉鉋皿の口縁部の小片である。胎土は灰色を呈し、若干の白色粒子を含む。釉調は淡黄緑色を呈する。内面に細かい貫入がはいる。

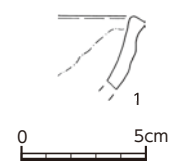
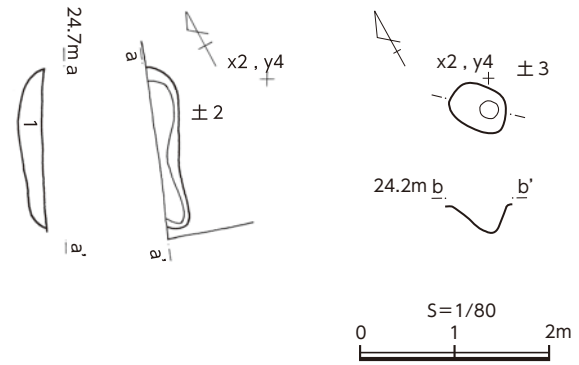


図16 井戸2 出土遺物

### 土坑2・3(図17)

土坑2は X1・Y4～5グリッド内にて海拔24.06mで検出された。当址の大半は調査区西壁外にある。検出された掘り方規模は東西28cm、南北177cm、平面形は方形になると想定される。深さは確認面より18.7cmを測る。覆土は黄茶色粘質土で土丹を含みしまりはない。

土坑3は X1～2・Y4グリッド内にて海拔24.11mで検出された。検出された掘り方規模は東西64cm、南北48cm、平面形は隅丸方形である。深さは確認面より32.3cmを測る。覆土は黄茶色粘質土で土丹粒を含みしまりはない。



土坑2 土層説明  
1層 暗黄茶色粘質土層 1cm大の土丹を含む。しまりなし。

図17 土坑2・3

### 土坑3出土遺物(図18)

1はロクロ成形のかわらけの小皿である。胎土は橙色を呈し、黒砂を多く含み器表はざらつく。焼成は良好である。体部は丸味をもって立ち上がる。

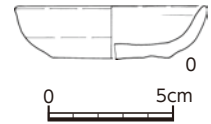


図18 土坑3出土遺物

### 柱穴群(図10)

柱穴群は溝1を挟んだ両側より検出された。構築物の一部分、及び建て替えの痕跡を検出したに留まり建物を復元することは出来なかった。建物の主体部分は調査区外に広がっていると想定される。以下、柱穴の寸法を下記にまとめた。

検出された柱穴の寸法はまちまちであるが底部の深さは海拔24m前後にまとまり、同一レベルの深さを持つ。柱穴の重複関係もあり、同規模の構築物の建て替えの様相を僅かながらも検出したと思われる。

柱穴名	規模 c m	深 さ c m	底 部 の 海 抜 m	平面形	備考	柱穴名	規模 c m	深 さ c m	底 部 の 海 抜 m	平面形	備考
P 18	50 × 27 以上	12.2	23.99		溝1に切られる	Pp	49 × 42	16.2	24.15	隅丸方形	
P 19	43 × 23 以上	8.8	24.08		P 20に切られる	Pq	33 × 10	15.9	24.14		西壁は調査区外
P 20	30 × 40 以上	16.9	24.02		P 21に切られる	Pr	35 × 24	23.2	23.99		P15に切られる。
P 21	27 × 15 以上	29.1	23.93		トレンチに切られる	Ps	30 × 28	27.7	24.00	隅丸方形	12 × 10 × 3.4cmの礎板有り
						Pt	20 × 40	20.1	24.01		鎌倉石の礎石あり 攪乱に切られる

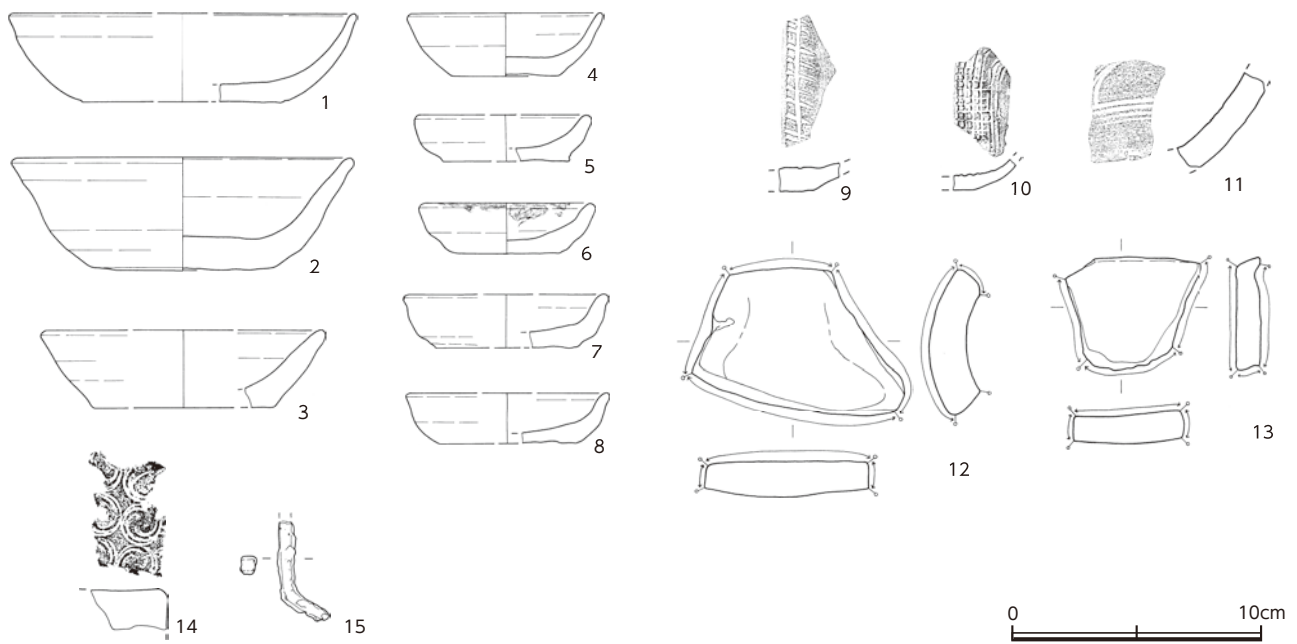


図19 2面出土遺物

### 2面出土遺物(図19)

1～8はロクロ成形のかわらけである。1、2は大皿、3は中皿、4～8は小皿である。1、4の胎土は橙色を呈する精良土で薄手丸深の器種である。他は概ね胎土が淡橙色を呈し、粉質が強く器肉が厚く、体部が外反して直線的に開く。また、2、7、8は口唇部が外反する。9～11は瀬戸窯の灰釉製品である。9、10は卸皿底部の小片である。9の胎土は淡黄色を呈し、赤褐色粒子を若干含み軟質である。10の胎土は灰色を呈する硬質な胎土である。釉調は淡黄緑色を呈し光沢がある。卸目が非常に細かい。11は折縁深皿の体部片で、胎土は淡黄色を呈し軟質である。釉調は淡い灰緑色を呈する。櫛描により施文する。古瀬戸中期様式である。12、13は研磨痕のある陶片である。共に常滑窯の製品で12は甕片、13は片口鉢片である。14は瓦質鏝付手焙りの鏝部である。胎土は淡桃色を呈し黒砂を多く含む。鏝上面に三つ巴スタンプ文、下面にかえりが付く。15は鉄製品、釘である。2面の出土遺物の様相から14世紀中葉～15世紀初頭の年代に想定される。

### 第3節 中世第3面(図20)

中世2面からおおよそ80cm下、海拔23.4～23.7mで中世第3面は検出された。遺構面は1～3cm大の土丹により良好な版築がなされていた。遺構面は西から東に傾斜しておりその比高差は30cmを測る。

検出されたのは東西方向の溝2条と南北方向の溝1条の計3条と方形土坑1基、柱穴2口である。

東西溝2条は同位置に改築したもので、新溝は若干、幅を広げて構築されている。新旧共に木組み護岸施設を持った溝である。溝群の木組み護岸施設は南岸は良好な遺存状態であったが、北岸は板材が抜き取られ、僅かに横板と杭が数本遺存しているのみであった。溝群は大規模な護岸施設に比して流路は非常に幅が狭い。土地の区画のための溝というよりは谷戸のしぼり水を流す水路の役割を果たしていたのではないかと推察される。

南北方向の溝5にも木組み護岸が伴っていたがトレンチによる確認調査になったため検出範囲が少なく様相は明確ではない。

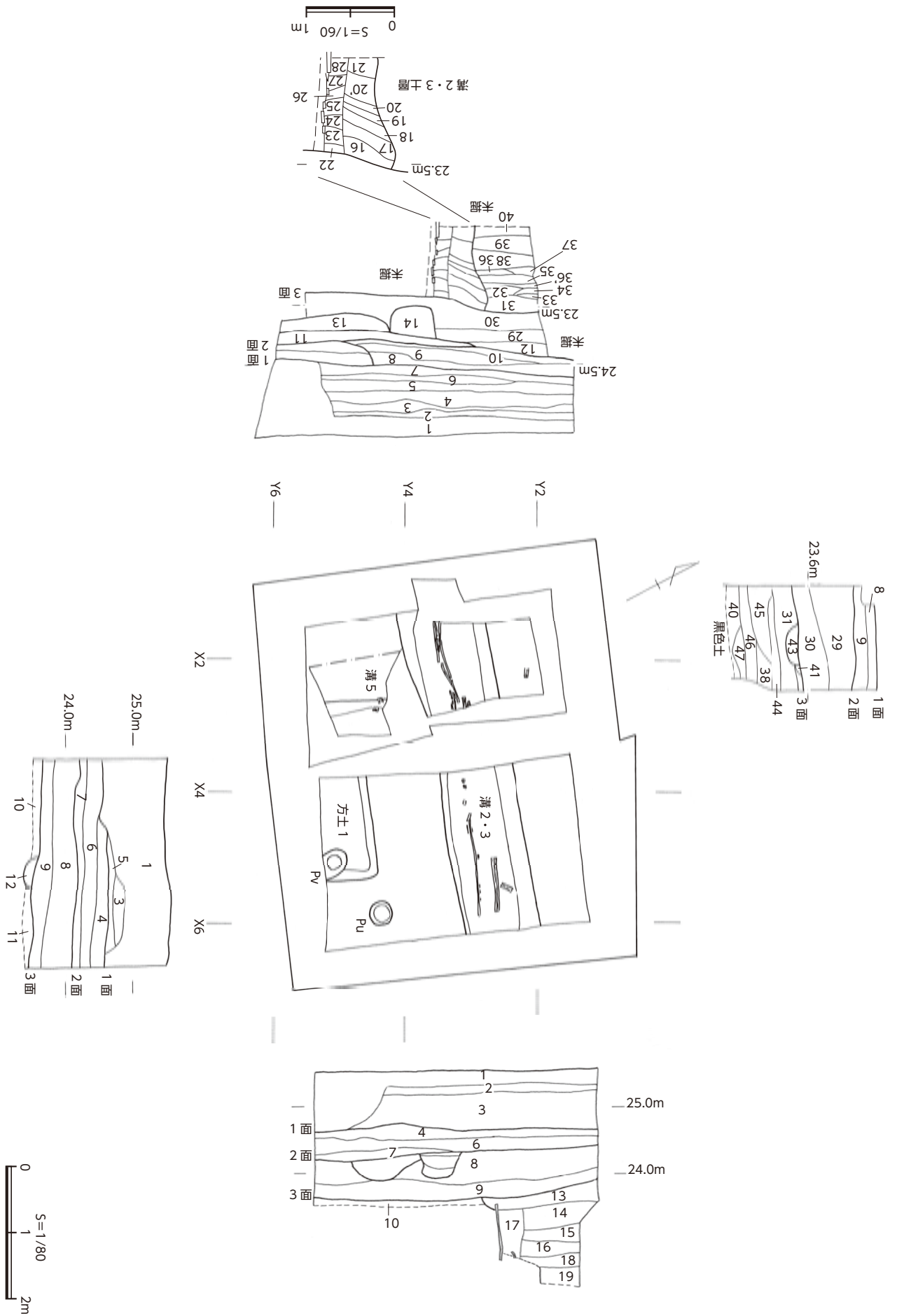


図20 3面遺構配置図

東壁・南壁土層説明

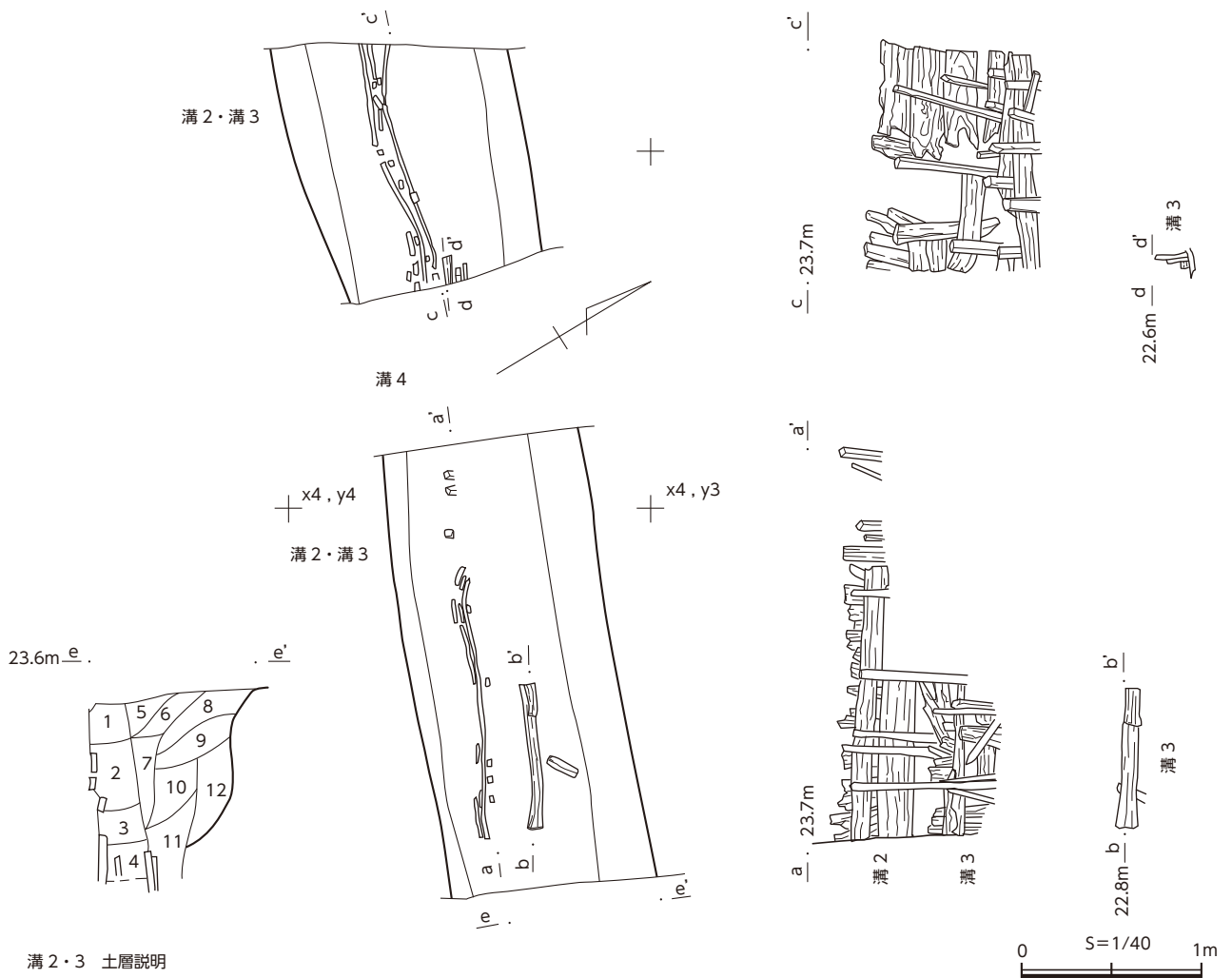
1層	表土・攪乱層	現代の盛り土。
2層	青灰色粘質土層	耕作土。
3層	茶褐色粘質土層	土丹粒子・かわらけ片・現代遺物を含む。
4層	土丹地形層	(1面溝成土) 5cm大の細かい土丹の版築層。
5層	茶褐色粘質土層	遺物包含層。
6層	茶褐色粘質土層	5~10cm大の土丹粒子・炭化物を含む。ややしまる。
7層	茶褐色粘質土層	6層より土丹粒子が細かく、炭化物の混入が若干少ない。
8層	土丹地形層	(2面溝成土) 10cm大の土丹版築層。
9層	土丹地形層	(2面溝成土) 10cm大の土丹版築層に青灰色粘土が混入する。
10層	土丹地形層	(3面溝成土) 1~3cm大の土丹による版築層。
11層	黄褐色粘質土層	(3面方形土坑1覆土) 土丹粒子・炭化物を多く含む。粘性あり、しまりなし。

12層	黄褐色粘質土層	(3面柱穴覆土) 土丹粒子・かわらけ片を多く含む。粘性なく、しまりなし。
13層	黒灰色粘質土層	(3面溝2覆土) 10cm大の土丹、及び黒灰色粘土を混ぜた層。ややしまりをもつ。
14層	黒灰色粘質土層	(3面溝2覆土) 13層より土丹の混入が多い。しまりをもつ。
15層	黒灰色粘質土層	(3面溝2覆土) 3~10cm大の土丹を混入。しまりをもつ。
16層	黒灰色粘質土層	(3面溝2覆土) 土丹塊・木片を多く含む。しまりなし。
17層	黒灰色粘質土層	(3面溝2覆土) 土丹を若干混入するしまりのない粘質土層。
18層	黒灰色粘質土層	(3面溝3覆土) 腐食土を多く含む、若干土丹粒子を混入する。しまりなし。
19層	黒灰色粘質土層	(3面溝3覆土) 細かい土丹粒子を混入する。しまりなし。
20層	茶褐色粘質土層	(2面溝1覆土) 炭化物・土丹粒子を含む。しまりなし。
21層	茶褐色粘質土層	(2面溝1覆土) 炭化物・土丹粒子を多く含む。しまりなし。
22層	茶褐色粘質土層	(2面溝1覆土) 混入物はないが、しまりのない層。
23層	茶褐色粘質土層	(2面土坑覆土) 粉碎土丹で埋めた層。

西壁・北壁土層説明

1層	表土・攪乱層	現代の盛り土。
2層	灰色粘土層	耕作土。
3層	茶色粘質土層	土丹粒子・かわらけ片・炭化物を含む。褐鉄分が強くしまる。
4層	茶色粘質土層	3層と同様であるが、褐鉄分を含まない。
5層	暗茶色粘質土層	炭化物・かわらけ破片を多く含む。ややしまる。
6層	暗茶色粘質土層	5層よりさらに混入物が多い。
7層	暗茶色粘質土層	2~5cm大の土丹・炭化物・かわらけ片を混入。しまりなし。
8層	黄茶色粘質土層	(1面溝4覆土) 炭化物・土丹を含む。しまる。
9層	黄茶色粘質土層	(1面溝4覆土) 10cm大の土丹版築層に青灰色粘土が混入する。
10層	黄茶色粘質土層	(1面溝4覆土) 2~3cm大の土丹・炭化物・かわらけ片を混入。粘性に欠け、しまりなし。
11層	黄茶色シルト層	(2面溝成土) 炭化物・かわらけ片を含む。しまる。
12層	黄茶色粘土層	(2面溝成土) 1~2cm大の土丹粒子・炭化物を含む。粘性あり。しまる。
13層	暗黄茶色粘土層	(2面土坑覆土) 1cm大の土丹粒子を含む。粘性あり。しまりに欠ける。
14層	暗黄茶色粘土層	(1面溝1覆土) 2~15cm大の土丹・炭化物・かわらけ片を含む。しまりなし。
15層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 粉碎土丹~20cm大を混入。
16層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 20cm大の土丹塊を混入。
17層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 10cm大の土丹・炭化物・かわらけ片を混入する。しまりなし。
18層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 30cm大の土丹・木片を混入する。しまりなし。
19層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 5cm大の土丹を混入する。しまりなし。
20層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 玉砂利・土丹・木片を混入する。しまりなし。 20'層は20層から玉砂利を除いた層。

21層	土丹塊層	(3面溝2・3掘り方覆土) 大型土丹層。
22層	暗灰茶色粘質土層	(3面溝2覆土) 0.5~5cm大の土丹・炭化物を含む。しまりなし。
23層	暗灰茶色粘質土層	(3面溝2覆土) 細土丹を多く含む、玉砂利が若干混入する。しまりなし。
24層	暗灰茶色粘質土層	(3面溝2覆土) 細土丹・木片・玉砂利を含む。青灰色粘土を混ぜる。しまりなし。
25層	暗灰茶色粘質土層	(3面溝2覆土) 細土丹・木片を多く含む。しまりなし。
26層	暗灰黒色粘質土層	(3面溝2覆土) 木片を若干混入するしまりのない粘質土層。
27層	暗灰黒色粘質土層	(3面溝3覆土) 2~3cm大の土丹を多く含む。しまりなし。
28層	暗灰黒色粘質土層	(3面溝3覆土) 2~5cm大の土丹・玉砂利を含む。しまりなし。
29層	黄茶色粘質土層	0.5~10cm大の土丹・炭化物・かわらけ片を含む。しまりなし。粘性なし。
30層	黄茶色粘質土層	29層より土丹が大きい。
31層	土丹塊層	
32層	暗黒灰色粘質土層	1cm大の土丹・炭化物を若干含む。粘性をもち、しまりなし。
33層	黒灰色粘質土層	混入物なく、粘性なく、しまりなし。
34層	暗黒灰色粘質土層	土丹粒子を若干含む。粘性強く、しまりなし。
35層	暗黒灰色粘質土層	土丹粒子を若干含む。粘性弱く、しまりなし。
36層	土丹塊層	
37層	黒色粘質土層	5~10cm大の土丹を含む。しまりなし。
38層	土丹塊層	20cm大の土丹塊を混入。
39層	暗茶色粘質土層	3~10cm大の土丹を含む。粘性あり。しまりなし。
40層	粉碎土丹塊層	
41層	黒灰色粘土層	(3面柱穴覆土)
42層	腐食土層	(3面柱穴覆土)
43層	暗黒灰色粘質土層	(3面柱穴覆土) 5~20cm大の土丹・炭化物を含む。しまりなし。
44層	腐食土層	
45層	土丹塊層	若干の腐食土を含む。
46層	腐食土層	
47層	土丹塊層	
48層	暗黄茶色シルト層	(1面土坑1覆土) 大型土丹塊を含む。ややしまる。
49層	暗黄茶色シルト層	(1面土坑1覆土) 混入物なく、しまりなし。



溝2・3 土層説明

- |                    |                               |                           |                            |
|--------------------|-------------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 1層 暗灰色粘質土層 (溝2覆土)  | 10 cm大の土丹・炭化物を含む。粘性あり。しまりをもつ。 | 5層 暗灰黒色粘質土層 (溝2・3 掘り方覆土)  | 5~10 cm大の土丹を含む。粘性あり。しまりあり。 |
| 2層 暗灰黒色粘質土層 (溝2覆土) | 木片・土丹粒子を含む。しまりなし。             | 6層 暗灰黒色粘質土層 (溝2・3 掘り方覆土)  | 混入物のない粘土層。しまりなし。           |
| 3層 暗灰黒色粘質土層 (溝2覆土) | 木片を多く含む。しまりなし。                | 7層 暗灰黒色粘質土層 (溝2・3 掘り方覆土)  | 木片・土丹粒子を含む。しまりなし。          |
| 4層 暗灰黒色粘質土層 (溝3覆土) | 10 cm大の土丹を含む。しまりをもつ。          | 8層 土丹塊層 (溝2・3 掘り方覆土)      | 2 cm大の土丹層。                 |
|                    |                               | 9層 暗灰黒色粘質土層 (溝2・3 掘り方覆土)  | 木片を含む。粘性あり。                |
|                    |                               | 10層 暗灰黒色粘質土層 (溝2・3 掘り方覆土) | 木片・土丹を含む。しまりなし。            |
|                    |                               | 11層 土丹塊層 (溝2・3 掘り方覆土)     | 20 cm大の土丹塊層。               |
|                    |                               | 12層 土丹塊層 (溝2・3 掘り方覆土)     | 20 cm大の土丹塊層。               |

図21 溝2・3

方形土坑1は調査区南壁際に検出された。遺存部分は全体のおおよそ1/4で、その主体部分は調査区外南にある。

柱穴2口は調査区南東隅に検出された。P vは方形土坑1を切っており、建物空間へと土地の活用方法が変化し後世へと続く。

新旧の溝、土地利用の変化の画期等、3面は確実に2時期はあったことが理解された。

溝2、溝3(図21)

これらの溝群はX1~6・Y2~3グリッドにおいて海拔23.4~23.7mで検出された。ほぼ同位置の作り替えで、溝3が旧く溝2は新しい。溝群は東から西に緩く傾斜しており比高差は34.9cmを測る。検出された掘り方規模は長さ11.5m、溝幅60cm、溝の掘り方は116~136cmを測る。東西の軸方向はN-111°-Eである。以下、古い段階の溝3から説明をする。

溝3は海拔23.7mで検出された。検出された掘り方規模は東西の長さ435cm、溝幅は最大で25cmを測る。使用された材木を下記の表にまとめてみた。(表参照) 横板は規格のわかるもので長さ90cm、幅5cm、長さ40cm幅7cm、他は長さ2～120cm、長さ2～120cm以上を示す。杭は6×3を3本、5×3を3本、5×4を2本等、縦板は幅4～13cm、長さ15～31cmの値を示しランダムに使用していることが理解される。護岸材は規格品ではなく、廃材を利用して適材適所に使用したのであろうと想像される。また、今回検出した溝の最上端部分である溝底から30cm当たりの板材、及び杭の先端が一様に焦げており火災に遭ったと思われる。溝2は溝3の改修後の溝と想定されるため、当時の溝3の上端は溝2の上端と同レベルにあると想定される。現在残っている焦げた部分より上の護岸材は火災を受け焼け落ちたか、使用不能で抜き取ってしまったかで遺存しない。

溝2は溝3を破棄した後、溝3の下部部分を再利用して構築したようである。長さ77cmの杭を打ち込み溝2の新横板と旧溝(溝3)の横板を合わせて止めて護岸木組みとしている場所もある。横板は幅20cmを最大とし、17cm、16cm、12cm、13cm、9cm、長さは20～151cmを使用し整然とした様相を示し、ある程度の規格品を使用したように見受けられる。縦板は幅5～10cm、長さ11～40以上のものを使用して、土留めとしている。杭は表に示した寸法の物を打ち込み随時使用して縦板を止めている。これらに使用された杭は再利用品、転用品等を使用しているようである。また、大型土丹塊を投げ入れて裏込めしている。

溝3木組み護岸板材寸方表 (単位 cm)

南側	名称	長さ	幅	備考	南側	名称	長さ	太さ	備考
	横板	120以上	13			杭	25以上	7×3.5	
	横板	90以上	15			杭	23以上	5×4	
	横板	45以上	9	上端焦げる		杭	30以上	5×3	
	横板	90	5			杭	18以上	5×3	
	横板	40	7			杭	20以上	6×3	
	横板	22以上	9			杭	9以上	6×3	上端焦げる
	横板	11以上	5			杭	10以上	5×4	上端焦げる
	横板	7以上	7			杭	15以上	5×3	
	横板	2以上	6			杭	15以上	6×3	上端焦げる
	縦板	15以上				杭	20以上	3×2	
	縦板	30以上	6	上端焦げる 2枚重ね		杭	30以上	4×3	
	縦板	30以上	5	上端焦げる 2枚重ね					
	縦板	30以上	6	上端焦げる 2枚重ね					
	縦板	30以上	4	上端焦げる 2枚重ね					
	縦板	30以上	9						
	縦板	30以上	13						
	縦板	30以上	7	上端焦げる					
	縦板	31以上	4						
	縦板	20以上	10						



北側		長さ	幅	備考
	横板	58	7	
	横板	20以上	6	
	横板	4以上	9	
	杭	20以上	5×3	
	杭	17以上	3×3	
	杭	25以上	3×2	

溝2木組み護岸板材寸方表 (単位 cm)

南側	名称	長さ	幅	備考	名称	長さ	幅	備考
	横板	52以上	17		杭	60以上	6×3	
	横板	69以上	20		杭	58以上	5×6	
	横板	53以上	16		杭	57以上	10×4	
	横板	20以上	20		杭	25以上	8×2	
	横板	52	12		杭	60以上	5×3	
	横板	151以上	13		杭	19以上	4×2	
	横板	86以上	20		杭	10以上	2×4	
	横板	85以上	9		杭	20以上	3×3	
	縦板	20以上	11		杭	18以上	5×2	
	縦板	25以上	6		杭	25以上	3×6	
	縦板	22以上	5		杭	30以上	4×3	
	縦板	24以上	6		杭	77以上	5×2	
	縦板	20以上	10		杭	30以上	2×2	計2本有り
	縦板	11以上	10					
	縦板	12以上	6					
	縦板	30以上	13					
	縦板	5以上	8	計3枚有り				
	縦板	40以上	5	計6枚有り				
	縦板	40以上	10	計5枚有り				

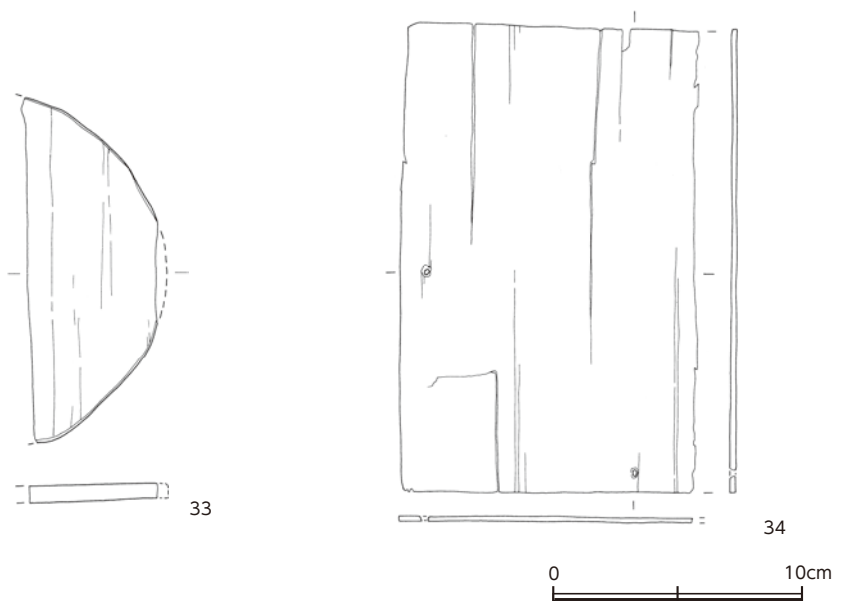
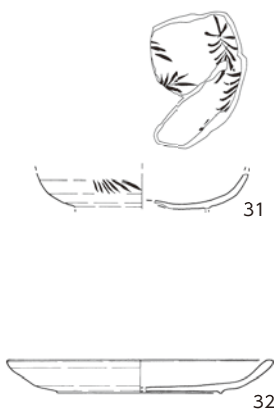
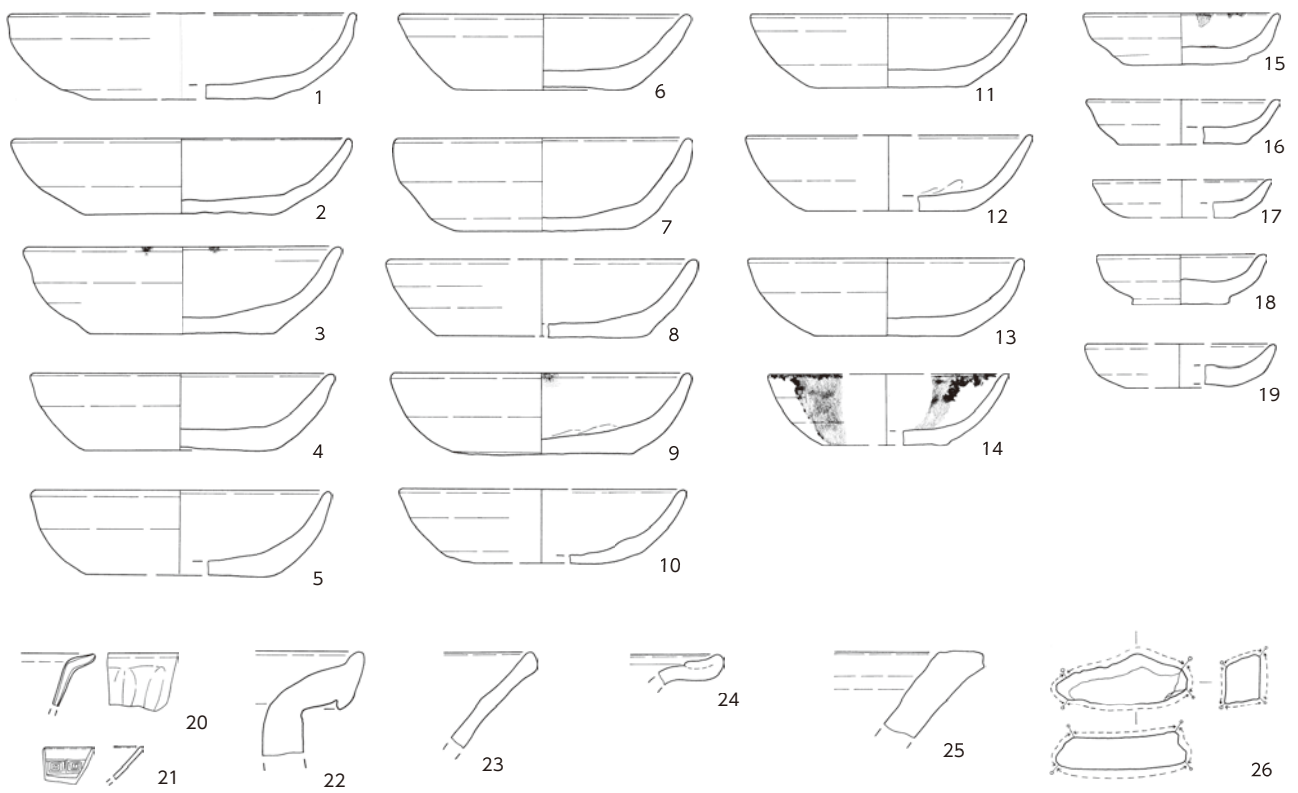


图 22 溝 2 出土遺物 (1)

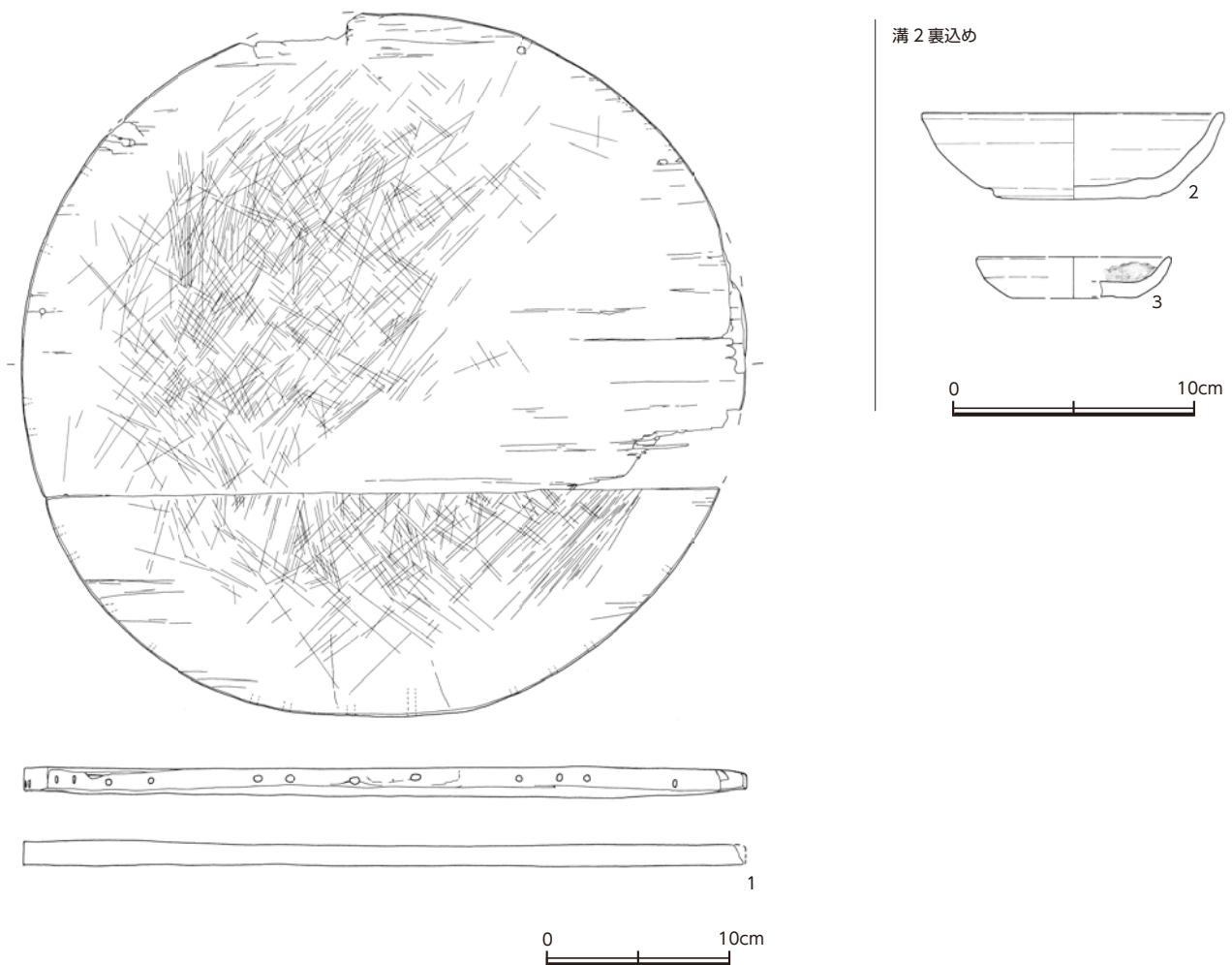


図23 溝2・溝2裏込め出土遺物(2)

### 溝2出土遺物(図22、23)

図22、図23-1は溝中から、図23-2、3は溝裏込めから出土した遺物群である。図22、1～19はロクロ成形のかわらけである。1～9は大皿、10～14は中皿、15～19は小皿である。1、2の大皿及び10～14の中皿は薄手丸深といわれる器肉が薄く椀状を呈するもので、胎土が非常に精良で、焼成の良好なものである。その他のかわらけは器肉にある程度の厚みを持ち、粉質が強く丁寧に作られている。3、9、14、15は灯明皿である。20、21は磁器である。20は龍泉窯の青磁蓮弁文折縁鉢の口縁部の小片である。胎土は灰色を呈し、黒色粒子を多く含む。釉調は不透明な灰緑色を呈する。器表には無数の貫入が入る。また被災し肌荒れが顕著である。21は白磁印花文小皿である。胎土は白色を呈し、黒色粒子を含み精良である。釉調は透明な白色を呈し、光沢は良好である。内面口縁部に雷文を押す。22、23は常滑窯の製品で22は甕、23は片口鉢の口縁部の小片で共に6a型式である。胎土は黒褐色を呈し、長石粒子を多く含む粗い。24は伊勢系土鍋の口縁部に小片である。黒砂、金雲母を含んだ胎土で、黒褐色の胎芯をのこす。25は土器質浅鉢型の手焙りである。胎土は淡橙色を呈し、白色粒子を多く含む。内面には煤が厚く付着している。26は研磨痕のある滑石鍋の体部の破片である。27は唐銭、開元通寶である。背は上月である。28～34、図23、1は木製品である。28～32は黒漆製品である。28は椀の底部の破片である。28は輪高台である。内面に赤漆で三つ巴文をスタンプで施文している。29、30は平高台の皿である。朱漆で手描きにより施文しており、29は内面に松、笹、波文、外側に波文、30は梅文である。31、32は輪高台

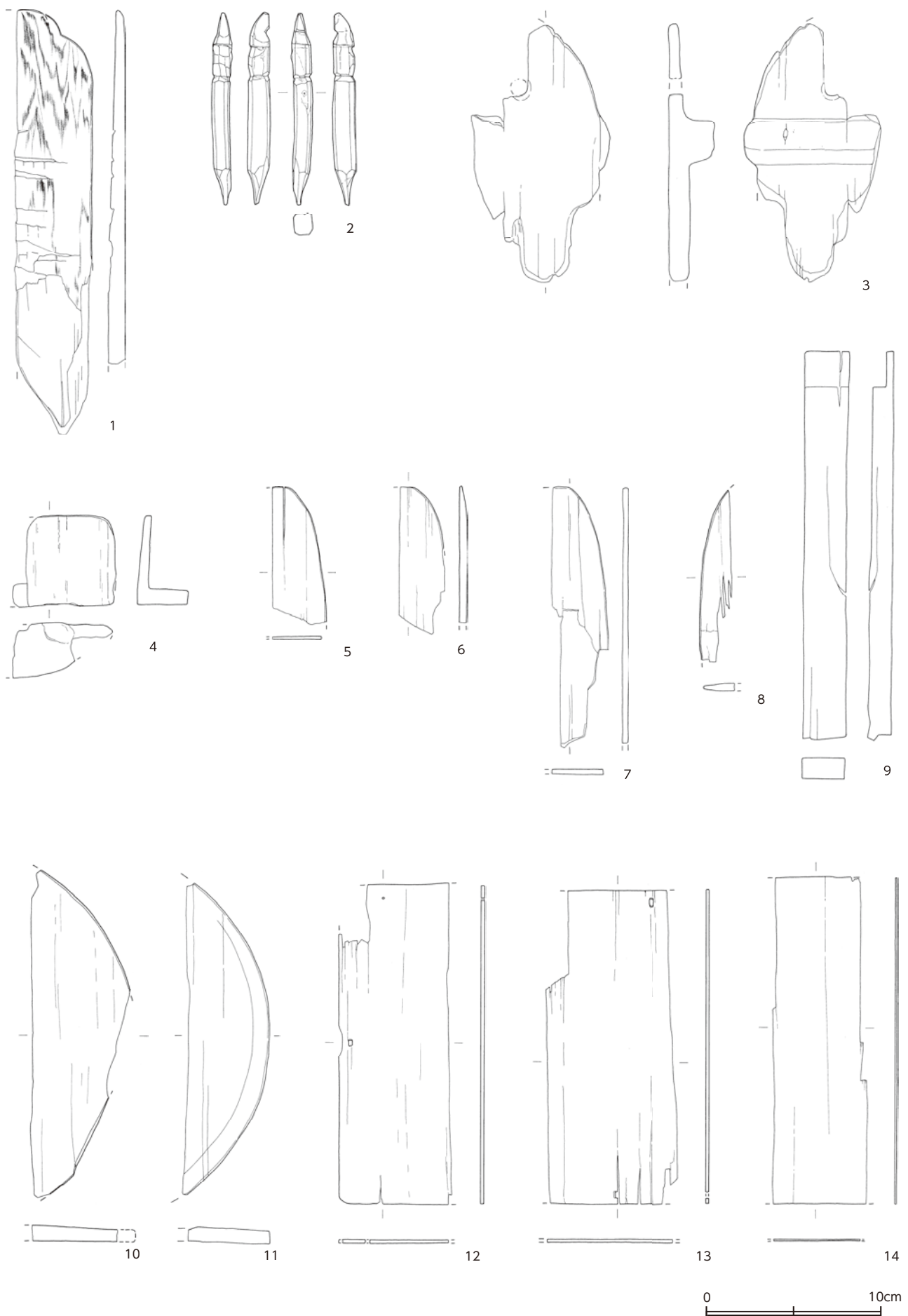


图24 溝3出土遺物(1)

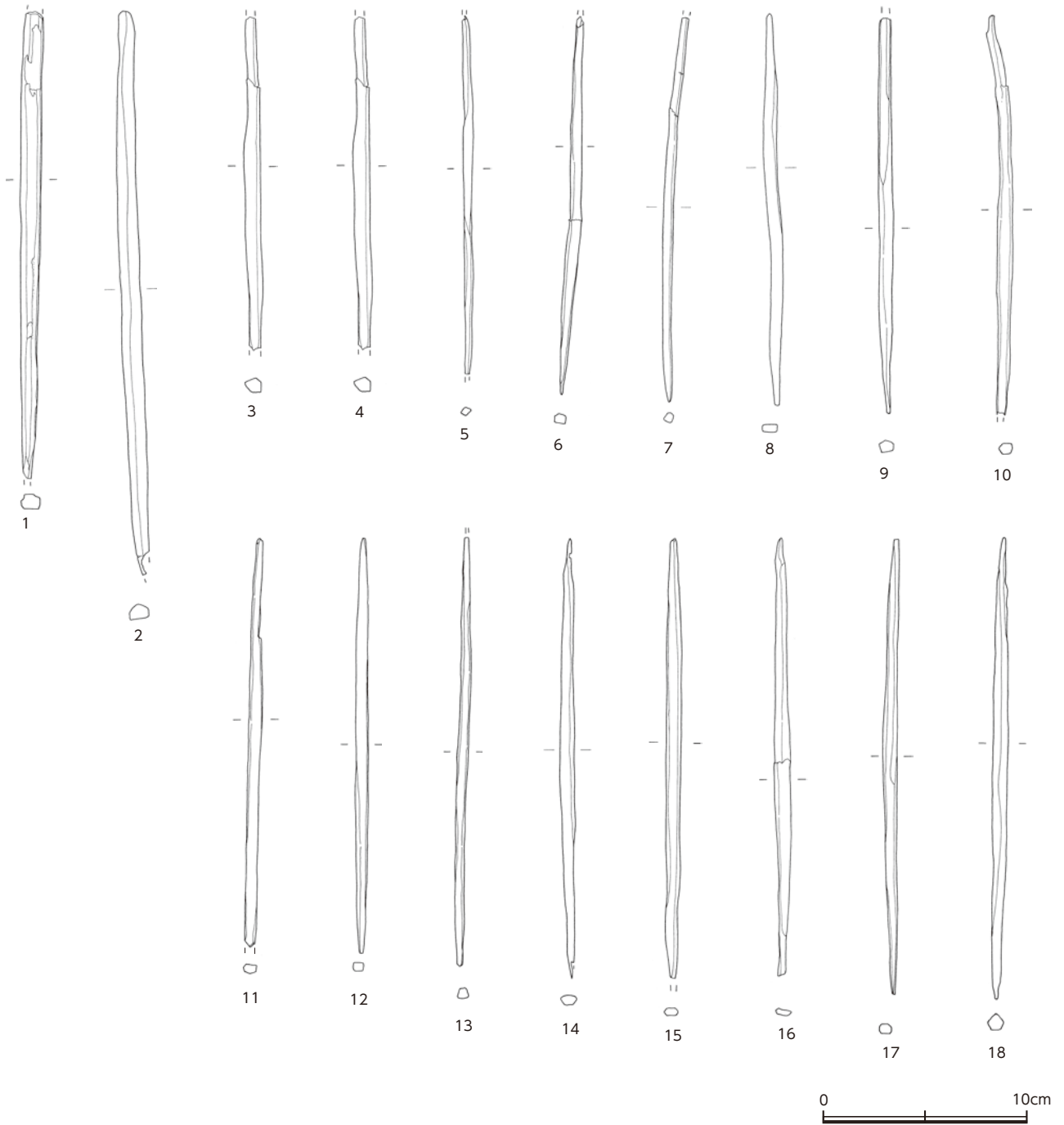


図25 溝3出土遺物(2)

の皿である。31は朱漆で手描きにより笹を施文、32は無文である。33は円板である。蓋、もしくは曲げ物の底板になると思われる。34は経木折敷である。全長19cm、厚さ2mmを測る。2ヶ所に直径3mmの小孔を有する。図23、1は大型の円板である。直径40cmに近く大型品の底板もしくは蓋であったと想定される。上面に3か所貫通孔があり、側面に14個の穴を有す。内10個には木釘が遺存する。片面に隙間なく刃物痕が多く見られ俎板に転用し使用したものと想定される。図23、2、3はロクロ成形のかわらけの大皿と小皿である。胎土は白褐色を呈し粉質の強い精良土である。焼成良好でまた、作りが丁寧である。また、裏込めからは犬の頭骨、及び不明動物の関節が出土している。溝2は出土遺物の様相から14世紀前半の年代に想定される。

### 溝3出土遺物(図24、25)

図24、25は木製品である。1は調度具と思われる。周縁端部に1か所切り込みがある。恐らく4隅に同様の切り込みが入る隅丸方形の盆になるかと想定される。片面は炭化した部分がある。中心部に向かい厚さが増しており、直径の大きい大型品になると予想される。また端部が切断面になっており転用部材として再使用したと想定される。2は形代で烏帽子を被った人形である。烏帽子、頭部、胴部を削り出し先端は串状に尖る。突き刺して使用されたのであろう。3、4は連歯下駄である。4～8は草履芯の一部分である。9は建具の一部分と想定される。戸板、蔀、格子等の一部分であると想定される。10、11は円板である。厚さは均一で1cmに満たない。蓋、或いは底板になると想定される。11には直径21cmの分まわし状の切り印が残る。12～14は経木折敷である。18.2～18.8cm方形、厚さは0.2cmを測る。図25は箸である。1、2は先端が欠損しており全長は不明であるが、太さ9mmを測り、他とは2倍ほど太くなり菜箸と思われる。

### 溝5(図26)

X2～3・Y4グリッドにおいて海拔22.8mにおいて検出された南北方向の溝である。上層は井戸2により削平された、東肩は調査区外東にある。検出された掘り方規模は南北の長さ95cm、幅50cmを測る。深さは確認面より25cmを測り、底部の海拔は22.1mである。西肩には護岸施設の板材が遺存していた。縦板を土留めとし、その前面に細い横板材を通して抑え、杭を打ち込んで止めるという、溝2、3と同様な工法で構築されている。縦板は長さ25cm、幅13cm、横板は幅5cm、長さ17cm、杭は6×3の太さ

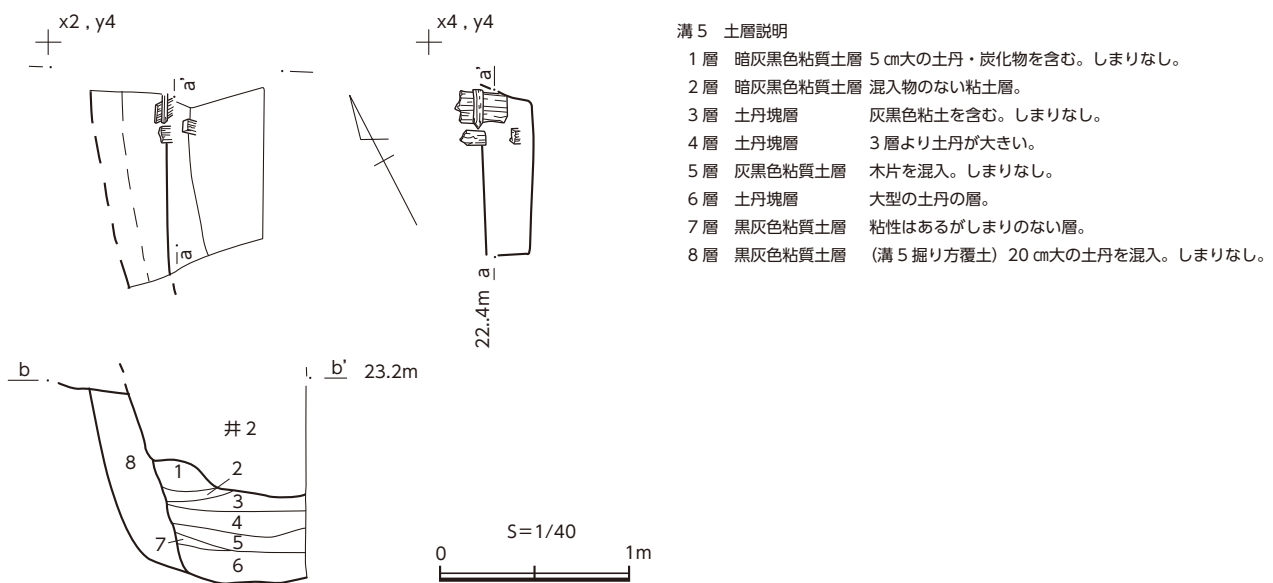


図26 溝5

3cmの長さのものが遺存する。

覆土は上層が灰黒色粘質土で炭化物、5cm大の土丹を含む。下層は大型土丹塊で埋められていた。この溝の南北方向の軸はN-24°-Eである。

### 溝5出土遺物(図27)

1は常滑窯片口鉢I類である。胎土は淡灰色を呈し僅かに白色粒子を含み精良である。I類の最末期の型式6a型式である。2は鉄製品、釘である。

また、当址からは貝が3点出土している。

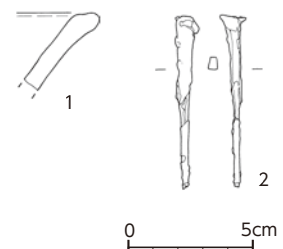


図27 溝5出土遺物

### 方形土坑1(図28)

調査区南壁際、X3～5・Y4グリッドにおいて海拔23.65mで検出された。当址の大半は調査区外にある。検出された掘り方規模は南北70cm、東西156cm、深さは確認面より10cmを測る。平面形は方形を呈する浅い掘り込である。覆土は黄褐色粘質土で、土丹粒子、炭化物を多く含み、粘性はあるがしまりはない。

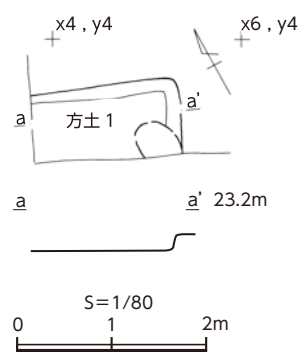


図28 方形土坑1

### 柱穴(図20)

柱穴は2口検出された。表に示したものが寸法で、規模はほぼ同様となり、関連性をもつ柱穴の可能性も否定できないが2口だけでは不明である。火災を受けて改修した新旧の溝の交代時期、方形土坑を破棄して柱穴を構築して居住空間にした時期と3面には大きな画期があったようである。火災との関連性は不明であるが、少なくとも2時期の変遷をたどっていることは考えられる。

3面柱穴寸法表

柱穴名	規模	深さ	底部の海拔	平面形	備考
Pu	34 × 36	14	23.50	円形	
Pv	40 × 35	26.3	23.39	楕円形	南壁は調査区外

### 3面出土遺物(図29)

1～18はロクロ成形のかわらけである。1～4は大皿、5～7は中皿、8～17は小皿、18はミニチュアのかわらけである。1、2、5～7、18は胎土が精良土で焼成良好な薄手丸深の器種である。3、4は砂粒が多く混入するが粉質が強く丁寧な作りである。小皿は概ね粉質で比較的精良で丁寧に作られるが、11は砂粒が多い粗胎で作りが雑である。器高が高く体部中央に稜線の入る8、11、12、器高が2cm以下の低い皿タイプと2種類に分類される。4、7、11は灯明皿である。19は瀬戸窯の灰釉洗である(前Ⅲ期)。胎土は灰黄色を呈し若干微砂を含む精良土である。釉調は淡黄緑色、光沢は良好である。器表には微細な貫入が顕著で気孔が多い。20、21は常滑窯の甕と片口鉢Ⅱ類である。共に6a型式である。20の胎土は黄褐色を呈し、長石粒子、泥岩粒子を含み軟質である。縁帯幅は2.4cmを測る。21の胎土は黒褐色を呈し、長石粒子を多く含み硬質である。口縁部は横ナデ、体部は斜め方向のナデ成形である。22～24は瓦質の手焙りで、22、23は輪花型となる。22の胎土は橙色を呈し砂粒を多く含む。内外面は縦方向の磨き調整である。外面体部口縁下に16弁の菊花のスタンプを押印する。内面に煤が付着している。23の胎土は淡桃色を呈し赤褐色粒子、白色粒子を多く含み軟質な粗胎である。内外面共に縦方向の磨き調整である。器表には厚く煤が付着している。24の胎土は淡橙色を呈し赤褐色粒子を多く含む。体部外面は横方向の磨きが顕著で黄橙色に輝き滑らかである。内面は黒く煤けている。底部外面は砂底である。25は瓦器の底部である。瀬戸内東部地域の産である。胎土は白色を呈し黒褐色の胎芯を残す。底部外面は糸切り底である。26、27は北宋銭、26は祥符元寶、27は景祐元寶である。28は硯である。鳴滝(若王子)産で筆舟が付く。ムコウブチに波文を有する。3面は遺物の出土状況から概ね13世紀末葉～14世紀前半に比定される。

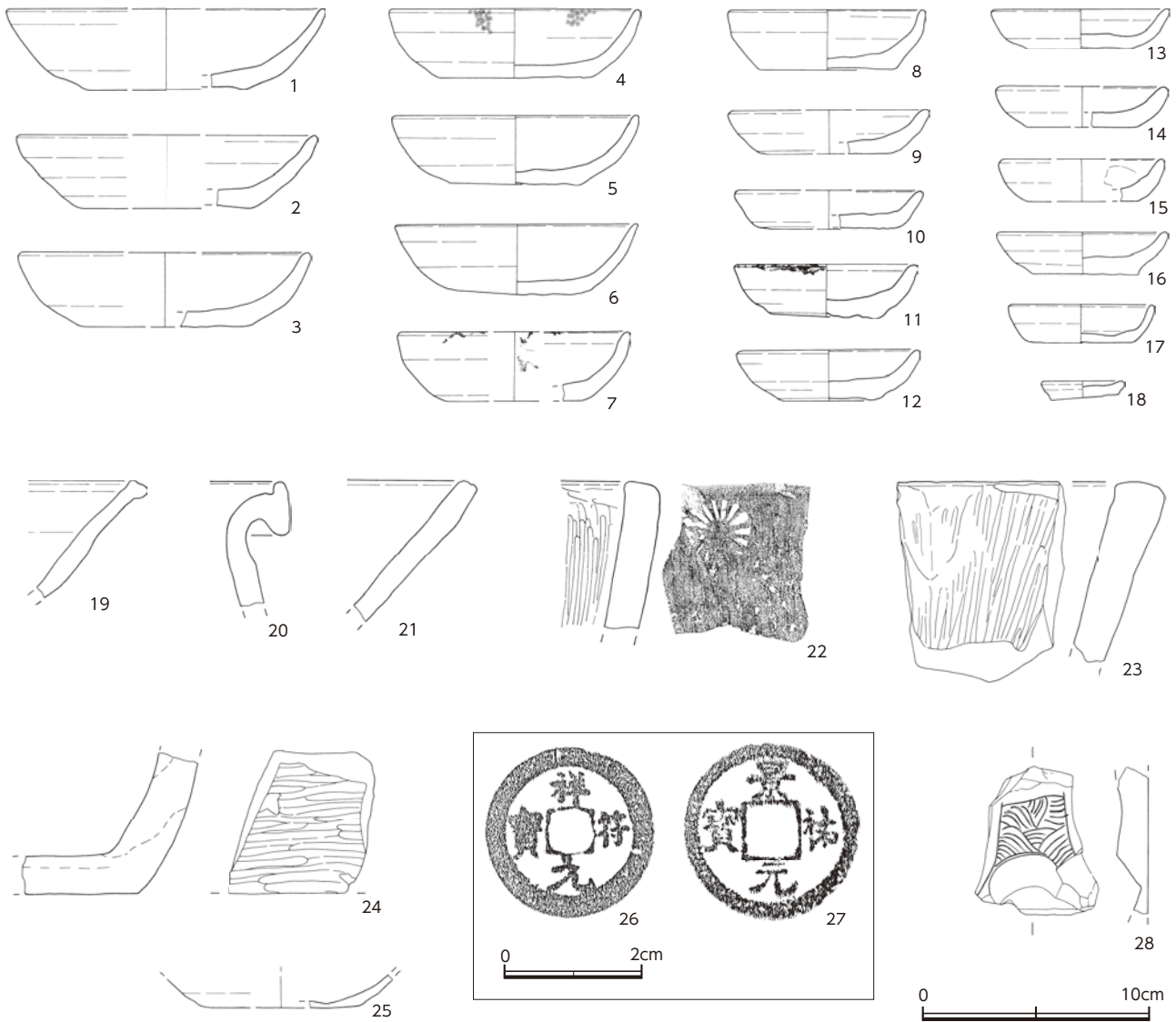


図29 3面出土遺物

### 最終面出土遺物(図30)

中世の地山である黒色粘土まで掘り下げ時に出土した遺物である。1～3は磁器である。1、2は龍泉窯の青磁製品で、1は鎬蓮弁文碗、2は蓮弁文折縁皿である。3は景德鎮窯の青白磁の輪花型合子の蓋である。1の胎土は灰色を呈し精緻である。焼成不良の為釉は白濁して白緑色を呈する。口唇端部は外反し、体部の鎬蓮弁文は細長い。2の胎土は灰白色を呈し精緻である。釉調は透明な灰緑色、光沢は良好である。3の胎土は灰白色を呈し精緻である。釉調は透明な水青色を呈し光沢は良好である。口縁部は釉を掻き取り無釉とする。内面は露胎である。断面に漆接ぎに使用された黒漆が付着している。4は木製品である。先端部分は欠損しており全長は不明であるが、太さが1cm四方以上あり、食器ではなく調理器具としての菜箸と思われる。13世紀末葉～14世紀中葉に比定される。

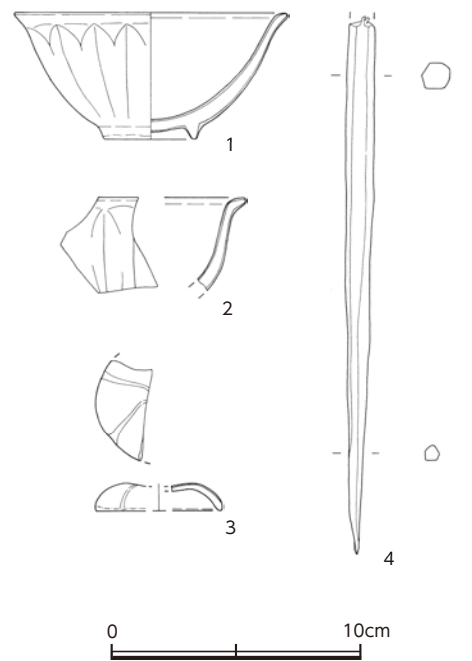


図30 最終面まで出土遺物



## 第四章 まとめ

今回の調査では中世期の3面の遺構面が検出された。出土遺物から中世1面は15世紀前葉、中世2面は14世紀後半～15世紀初頭、中世3面は13世紀末葉～14世紀前半に比定される。また、3面下から地山までの層位より出土した遺物からこの谷戸が13世紀末葉頃から開発が始まったことが確認された。出土遺物は整理箱4箱で、かわらけが全体の83%を占め、以下常滑(8%)、木製品(3%)、瀬戸(2%)と続き、他に国内搬入陶器、瓦質製品、石製品、金属製品、舶載磁器等が僅かばかり出土している。以下、古い順から各面の様相を述べ考察と反省を加えまとめとしたい。

### 中世3面

東西溝2条(溝3・溝2)と南北溝1条(溝5)を主体とする。溝3は火災に遭った痕跡があり、それを改築したのが溝2である。この溝群の溝幅は30cm足らずであるにも関わらず、しっかりした木組み護岸施設を有する所謂、都市型の箱型溝である。両溝共に北岸の護岸施設が抜き取られて遺存していなかったために、溝群の北側全体を若干掘りすぎてしまい、遺構面の細部が明確に出来なかったことは反省すべき点である。この溝群は谷戸奥へと続く様相を示しており、土地の区画溝というより谷戸奥からのしぼり水を山麓の平場へと導く流路の類ではないかと想定される。南北に走る溝5は井戸1・2の掘り方による攪乱を受け遺存状態は非常に悪くまた、かなり深いためトレンチによる確認調査となり全体像は把握できなかったが、出土遺物から溝5は谷戸の開発の草創期時の開削となることが確認された。溝3は出土遺物が木製品のみで開削年代を特定出来なかったが、溝2が14世紀前半に比定され、且つ溝2からの出土遺物中には13世紀末葉の遺物が混入しており、それは溝3の遺物が混入したとも考えられ、溝3は流路、溝5は区画溝、或いは側溝として異なった機能を果たしながら並存していた可能性がある。溝3を破棄し溝2に改築時に、同時に溝5は破棄されその地帯一体を埋めて土丹地形により土地を広げたと考えられる。溝2・3からは今回の調査で出土した木製品の97%が確認され、その主体は飲食具の類であった。これらは谷戸奥主体部に居住する住人が溝の中に破棄したと想定される。また、飲食具に混じって人形の形代が出土しており、主体部で祭祀をする宗教的空間があったことを推測させる。また、硯、手焙り等の寺院ならではの遺物が出土していることは更なる首背点になると思われる。また、溝の護岸施設の様相も寺院という経済的背景があったという証左になるのではないだろうか。本調査地点東の谷戸奥は太平寺跡と伝承されており、当寺は14世紀後葉には本格的な伽藍配置になったといわれている。当調査地点が寺院の一角になる可能性もあり、寺域をさらに谷戸開口部方向にと広げるための造成であったことも考えられる。検出遺構からは寺域内であるなら縁辺部の様相の一角を確認したと思われる。

### 中世2面

3面時と同様な強固な土丹版築により整地されており、このような地形形態から主体者は引き続き有力な寺院関係者である印象を受ける。また、谷戸の排水路と思われる溝は該期には素掘りとなり若干南側に移動し、溝の両側には井戸、土坑、柱穴群が構築され前期より活気が生まれ確実に生活面としての生活臭が増す。しかし、遺構群の軸線は3面時と同方向を示し、土地の活用方法もそのまま前時期を踏襲しており基本線の大枠には変化はないように思われる。貞治二(1363)年四月の『円覚寺文書目録』中に「円覚寺境内絵図」がある。その絵図には山門門前に小家屋が立ち並ぶ様子が描かれている。この境内図の作成時期は元亨3(1323)年から建武2(1335)年といわれており、この間の円覚寺伽藍の寺容を描いたものであるといわれている。この時期は2面の時期よりやや先行するものであるが、寺域の縁辺部とは後世にもおそらくこのような類のものであろうと想定され、当調査地点の様相も似たようなものであると思われる。当

調査地点が太平寺跡であるなら、2面の時期は本格的な伽藍配置になった頃である。

### 中世1面

土丹地形は依然として強固であり、主体者は依然として有力者で有り続ける様相である。谷戸の流路は本調査地点から移動したようで、全体が建物域となる。また溝4は現在、調査地点の西側を南北に走る南北道路と平行関係にある。今回検出された溝の西側に現在の道路の道筋を踏襲して道路が存在する可能性も考慮され、溝が道路側溝としての機能を有するものであることも考えられる。溝4が道路側溝の可能性を示すなら、道筋が谷戸奥に寄りになり土地の区画が移動して寺域が狭まったと考えられる。この地域の大きな変化の原因は本調査地点からは読み取れない。溝を埋めて平場になった土地に建物を数次に渡り建て替え、その状況が縁辺部から谷戸奥にまで広がっていく様相を呈している。柱穴の掘り方規模は小さく、建物は2面時同様、小家屋程度である。2面時より出土遺物は少ないものの、地形の様相、検出遺構等から2面時同様の勢いがあったことを窺わせる。

第1章でみたようにこの遺跡地は本調査地点が存続している間、宗教的空間地帯で有り続けた。調査地点近辺はこの時期も依然として寺院域として機能していたことが理解されており、その延長上にこの遺跡も位置づけられる。また、喫茶具である瓦質の風炉が出土しており本調査地点近辺に寺院があったことは確実である。当調査地点は寺域の縁辺地の様相か、もしくはこの遺跡地の宗教的空間という環境から派生した一端が発見されたと思われる。

西御門遺跡遺物観察表 単位 cm (復元径) [遺存値]

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考	
	8	1面	土坑1	瀬戸窯 卸皿	底部小片			灰白色/黒色微砂を 含む、気泡がある	灰色		灰釉 刷毛塗り	
	9	1面		かわらけ	(108)	6.4	3.5	明橙色/赤褐色粒が 多く、砂粒・泥岩粒 を含む。やや粉質		ロクロ		
		2		かわらけ	11.0	6.2	3.2	明橙色/赤褐色粒多 く、砂粒・泥岩粒を 含む。やや粉質		ロクロ		
		3		瀬戸窯 卸皿	底部小片			灰白色/黒色微砂を 含む	灰色		灰釉 刷毛塗り	
		4		瓦質 風炉	(26.0)			淡桃色/砂粒・黒砂・ 橙色粒・長石粒含む	明褐灰色	内外横方 向の磨き	頸部高約2.1cm、外 頸に雷文が廻る。口縁 上面、窓部に煤痕有り。 口唇部～頸部に孔あり	
		5	表採	かわらけ	(7.8)	5.0	1.7	白褐色/黒砂・泥岩粒・ 白針を含む		ロクロ		
		6		かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	白褐色/黒砂・橙色粒・ 白針を含む		ロクロ	灯明皿	
		7		常滑窯 片口鉢Ⅱ類	注口部小片			灰褐色/白色粒子・ 泥岩粒を含む	赤褐色			
12		1	2面	溝1	かわらけ	(12.4)	7.6	3.3	橙色/赤褐色粒・黒砂・ 泥岩粒を含む		ロクロ	
		2		かわらけ	12.6	7.1	3.2	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 雲母・白針を含む		ロクロ		
		3		かわらけ	(13.0)	(6.5)	3.5	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 泥岩粒を含む		ロクロ		
		4		かわらけ	(12.4)	(6.8)	3.0	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 泥岩粒・雲母を含む		ロクロ	灯明皿	
		5		かわらけ	(12.0)	(5.8)	3.8	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 泥岩粒・白針を含む		ロクロ		
		6		かわらけ	(11.8)	7.2	3.5	淡橙色/黒砂・褐色粒・ 泥岩粒・白針を含む		ロクロ		
		7		かわらけ	7.8	4.8	1.9	白褐色/黒砂多く泥 岩粒・白針を含む		ロクロ	打ち欠き 灯明皿	
		8		かわらけ	8.0	5.7	1.5	橙色/黒砂・橙色粒・ 泥岩粒・白針を含む		ロクロ	打ち欠き 灯明皿	
		9		かわらけ	(7.0)	(4.9)	1.9	淡橙色/黒砂・褐色粒・ 泥岩粒・白針を含む		ロクロ		
		10		かわらけ	(7.4)	(4.8)	2.1	橙色/赤褐色粒・砂 粒多く白針含む		ロクロ		
		11		かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.7	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 白針を含む		ロクロ		
		12		かわらけ	(7.6)	(5.0)	2.1	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 泥岩塊・白針を含む		ロクロ		
		13		かわらけ	(8.0)	(5.4)	2.2	淡橙色/黒砂・褐色粒・ 泥岩塊・白針を含む		ロクロ		
		14		瀬戸窯 平碗			[4.9]	灰黄色/黒色微砂含 み、やや砂質	薄い黄緑色の 灰釉で透明度 がある		灰釉 浸け掛け	

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
	15			常滑窯 片口鉢Ⅱ類			(10.5)	橙褐色／白色粒多く、 やや砂質	橙色		内面に竹管状で押した 痕が3カ所ある。火鉢 の代用をしたのか内面 全体に火を受けている。 第7型式
	16			滑石製品 スタンプ	4.1	[3.9]	1.3	やや赤みのある銀白 色	銀白色		加工途中で破損
14	1	2面	井戸1	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.6	淡橙色/黒砂・泥岩粒・ 雲母・白針を含む		ロクロ	
	2			銭 天聖元寶	2.4	2.3					初鑄年 1023年 篆書
16	1	2面	井戸2	瀬戸窯 卸皿	口縁部小片			灰色	薄い黄緑色の 灰釉で透明度 がある		釉の剥離が顕著
18	1	2面	土坑3	かわらけ	(7.4)	(4.6)	2.1	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 長石粒・白針を含む		ロクロ	
19	1	2面		かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.5	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 雲母・白針を含む		ロクロ	
	2			かわらけ	(13.4)	(7.0)	4.5	淡橙色/赤褐色粒・ 泥岩粒・白針を含み やや粉質		ロクロ	
	3			かわらけ	(11.0)	(7.2)	3.1	淡橙色/黒砂・橙色粒・ 泥岩粒・白針を含み 粉質		ロクロ	
	4			かわらけ	(7.6)	4.2	2.5	橙色/砂粒多く 橙色 粒・泥岩粒・白針を 含む		ロクロ	灯明皿
	5			かわらけ	6.6	5.0	1.9	橙色/砂粒多く 赤褐 色粒・白針を含む		ロクロ	
	6			かわらけ	(6.6)	4.3	2.0	淡橙色/黒砂・橙色粒・ 雲母・白針を含む。 粉質		ロクロ	灯明皿
	7			かわらけ	(7.8)	(5.6)	2.1	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・泥岩粒・白針 を含みやや粉質		ロクロ	
	8			かわらけ	(8.0)	(5.5)	2.0	橙色/赤褐色粒多く 黒砂・雲母・白針を 含む		ロクロ	
	9			瀬戸窯 卸皿	底部小片			淡黄色/赤褐色粒を 含み、やや砂質	淡黄色		遺存部釉無し
	10			瀬戸窯 卸皿	底部小片			灰色/精良でやや砂 質	薄い黄緑色の 灰釉で透明度 がある		卸目細かく外面に浸け 掛け釉
	11			瀬戸窯 折縁深皿	胴部小片			淡黄色/精良でやや 砂質	薄い灰緑色の 灰釉でやや白 濁		櫛描による施文
	12			研磨痕の ある陶片	5.8	6.5	1.5	灰色/黒色粒・白色 粒を含む	赤褐色		常滑窯饗頸部片転用
	13			研磨痕の ある陶片	4.7	4.5	0.9	胎芯黒褐色/黒色粒・ 白色粒・石粒を含む	赤褐色		常滑窯片口鉢Ⅱ類口縁 部片転用
	14			瓦質 手焙り	鏝部の小片			肌色/黒砂・赤褐色 粒・白色粒を含む	肌色		口縁部に鏝のつく大型 の手焙り。鏝上面に三 つ巴のスタンプ文。顎 下にかえりがつく。

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
	15			鉄製品 釘	[4.7]	0.5	0.4				
2 2	1	3面	溝2	かわらけ	(13.6)	(7.3)	3.3	白褐色/赤褐色粒・ 雲母・白針を含む		ロクロ	
	2			かわらけ	(13.2)	7.5	3.0	淡橙色/黒砂・橙色粒・ 泥岩粒を含む		ロクロ	
	3			かわらけ	12.4	7.2	3.4	橙色/泥岩粒・雲母・ 白針を含む		ロクロ	灯明皿
	4			かわらけ	12.0	8.0	3.0	橙色/雲母・白針を 含む		ロクロ	
	5			かわらけ	11.6	7.6	3.4	橙色/泥岩粒・雲母・ 白針を含む		ロクロ	
	6			かわらけ	(11.4)	(7.3)	3.0	橙色/赤褐色粒・泥 岩粒・雲母・白針を 含む		ロクロ	
	7			かわらけ	11.6	7.2	3.7	橙色/雲母・白針を 含む		ロクロ	
	8			かわらけ	12.2	8.4	3.0	白褐色/泥岩粒・雲母・ 白針を含む		ロクロ	
	9			かわらけ	11.8	7.0	3.1	淡橙色/泥岩粒・雲母・ 白針を含む		ロクロ	灯明皿
	10			かわらけ	(11.2)	(6.0)	2.9	肌色/赤褐色粒・雲母・ 白針を含む		ロクロ	
	11			かわらけ	10.8	6.3	2.9	淡橙色/雲母・白針 を含む		ロクロ	
	12			かわらけ	(11.2)	(6.5)	3.0	白褐色/赤褐色粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	13			かわらけ	(10.6)	(5.7)	3.0	淡橙色/雲母を含む		ロクロ	
	14			かわらけ	(9.8)	(5.0)	2.8	白褐色/泥岩粒・雲母・ 白針を含む		ロクロ	灯明皿
	15			かわらけ	7.6	4.7	2.0	褐色/白針を含む		ロクロ	灯明皿
	16			かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.8	淡褐色/雲母・白針 を含む		ロクロ	
	17			かわらけ	(7.0)	(4.1)	1.5	淡褐色/赤褐色粒・ 雲母・白針を含む		ロクロ	
	18			かわらけ	6.4	3.9	2.0	淡褐色/雲母・白針 を含む		ロクロ	
	19			かわらけ	(7.4)	(4.2)	1.7	淡褐色/泥岩粒・白 針含む		ロクロ	
	20			龍泉窯 青磁蓮弁文 折縁鉢	口縁部小片			灰色/黒色粒・白色 粒を含む	不透明な灰緑 色		遺存部全体に貫入
	21			白磁 小皿	口縁部小片			白色/黒色粒子を含 む。精良	薄い透明釉		口兀で内面に雷文
	22			常滑窯甕	口縁部小片			胎芯黒褐色/黒色粒・ 白色粒・石粒を含む	赤褐色		6a型式
	23			常滑窯 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片			黒褐色/砂粒・黒砂・ 白色粒・長石粒含む	赤褐色		6a型式

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
	24			伊勢系土鍋	口縁部小片			胎土黒褐色/白色粒・黒粒を多く金雲母を含む	灰白色		
	25			土器質 手焙り	口縁部小片			淡橙色/黒砂・白色粒・赤褐色粒を含む	淡橙色		浅鉢型
	26			研磨痕のある滑石片	5.2	2.0	1.4				滑石鍋胴部片転用
	27			銭 開元通寶	2.3	2.3					初鑄年621年 背上月
	28			漆製品 椀		(7.0)					内外面に赤色漆の三つ バスタンプ文
	29			漆製品 皿	9.6	8.1	1.3				内面は赤色漆の松・笹・ 波の組み合わせ文。外面 は2ヶ所に波文?
	30			漆製品 皿	(9.6)	6.6	1.4				内面に赤色漆の梅の木 か?
	31			漆製品 皿		(5.4)					内外面に赤色漆の笹文
	32			漆製品 皿	(10.6)	(6.6)	1.3				無文
	33			木製品 円板	[13.5]	[4.7]	0.5				遺存部に孔無し
	34			木製品 折敷	18.6	[11.6]	0.2				経木折敷 小孔有り
2 3	1	3面	溝2	木製品 円板	長径 39.5	短径 38.3	1.0 ~ 1.3				蓋板もしくは底板。平 面に貫通孔、側面に木 釘の残る穴有り。外周 面に側板の跡が残る。 俎板に転用
	2		溝2 裏込め	かわらけ	12.4	6.9	3.5	白褐色/黒色粒・石粒・ 泥岩粒・白針を含む		ロクロ	
	3			かわらけ	(7.8)	5.1	1.7	白褐色/黒色粒・橙 色粒・泥岩粒・白針 を含む		ロクロ	灯明皿
2 4	1	3面	溝3	調度具 盆?	[24.0]	[4.8]	1.0				表面炭化、雲形の削り 加工有り
	2			木製品 形代 人形	10.9	1.0	1.2				烏帽子を被り、先は申 状に削られている
	3			木製品 下駄	[14.5]	[7.5]	[2.5]				連歯下駄
	4			木製品 下駄	[5.0]	[5.7]	[0.6]				連歯下駄
	5			木製品 草履芯	[7.8]	[3.0]	0.2				
	6			木製品 草履芯	[8.5]	[2.4]	0.4				
	7			木製品 草履芯	[14.9]	[3.0]	0.3				
	8			木製品 草履芯	[9.8]	[1.6]	0.4				

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
	9			木製品 建具	[22.0]	2.3	1.2				戸板、部、格子の 部材か
	10			木製品 円板	[22.0]	[4.5]	0.9				遺存部に孔無し
	11			木製品 円板	[21.0]	[4.5]	0.7				遺存部に孔無し。φ 21.0 c mの分まわし 状の切り印が残る
	12			木製品 折敷	18.1	[6.1]	0.2				経木折敷 小孔有り
	13			木製品 折敷	17.9	[7.2]	0.2				経木折敷 小孔有り
	14			木製品 折敷	18.5	[5.0]	0.1				経木折敷
2 5	15	3面	溝3	木製品 箸	[22.7]	0.9	0.7				箸としては太くて長 い。菜箸か
	16			木製品 箸	[27.4]	0.9	0.8				箸としては太くて長 い。菜箸か
	17			木製品 箸	[13.2]	0.7	0.5				
	18			木製品 箸	[16.1]	0.8	0.7				
	19			木製品 箸	[17.5]	0.5	0.4				
	20			木製品 箸	[18.4]	0.5	0.6				
	21			木製品 箸	[18.7]	0.4	0.5				
	22			木製品 箸	19.0	0.7	0.4				
	23			木製品 箸	[19.2]	0.7	0.6				
	24			木製品 箸	[19.5]	0.7	0.5				
	25			木製品 箸	[19.8]	0.7	0.4				
	26			木製品 箸	20.2	0.5	0.4				
	27			木製品 箸	[20.9]	0.5	0.6				
	28			木製品 箸	[21.0]	0.7	0.4				
	29			木製品 箸	[21.2]	0.8	0.4				
	30			木製品 箸	21.3	0.7	0.4				
	31			木製品 箸	22.1	0.6	0.5				
	32			木製品 箸	[22.4]	0.7	0.8				

図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
27	1	3面	溝5	常滑窯 片口鉢1類	口縁部小片			灰色/白色粒含む。 精良	灰色	口縁部は やや外に 延びる	6a型式
	2			鉄製品 釘	6.8	0.3	0.5				
29	1	3面		かわらけ	(138)	(6.8)	3.5	白褐色/黒砂・・雲 母を含む		ロクロ	
	2			かわらけ	(128)	(7.3)	3.2	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	3			かわらけ	(124)	(7.6)	3.3	白褐色/黒砂・泥岩粒・ 白針を含む		ロクロ	
	4			かわらけ	(108)	(6.6)	3.0	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・白針を含む		ロクロ	灯明皿
	5			かわらけ	10.6	5.4	2.9	白褐色/黒砂・泥岩粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	6			かわらけ	10.4	6.1	3.1	白褐色/黒砂・雲母・ 白針を含む		ロクロ	
	7			かわらけ	(9.6)	(5.8)	3.0	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・雲母・白針を 含む		ロクロ	灯明皿
	8			かわらけ	(8.4)	5.9	2.6	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・白針を含む		ロクロ	遺存部は二次被熱か断 面も黒色
	9			かわらけ	(8.4)	(6.3)	1.9	白褐色/黒砂・泥岩粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	10			かわらけ	(8.0)	(6.2)	(1.8)	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・泥岩粒・白針 を含む		ロクロ	
	11			かわらけ	7.8	5.0	2.3	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・泥岩粒・白針 を含む		ロクロ	灯明皿
	12			かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.2	淡橙色/黒砂・泥岩粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	13			かわらけ	(7.6)	(4.6)	1.7	淡褐色/黒砂・赤褐 色粒が多く雲母を含 む		ロクロ	器表は灰白色
	14			かわらけ	(7.2)	(4.8)	1.8	淡橙色/黒砂・泥岩粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	15			かわらけ	(7.0)	(4.7)	1.9	淡橙色/黒砂・赤褐 色粒・白針を含む		ロクロ	
	16			かわらけ	(7.4)	4.5	1.8	淡橙色/黒砂・泥岩粒・ 白針を含む		ロクロ	
	17			かわらけ	(6.2)	(4.6)	1.7	橙色/黒砂・赤褐色粒・ 雲母を含む		ロクロ	
	18			かわらけ	(3.6)	(3.0)	0.8	淡橙色/砂砂・橙色粒・ 泥岩粒・白針を含む		ロクロ	ミニかわらけ
	19			瀬戸窯洗	口縁部小片			灰黄色/微砂含む。 やや砂質で精良	薄い黄緑色の 灰釉で透明度 がある	口唇部中 央浅い窪 み、体部 下半横へ ラ削り	遺存部内面は全釉。外 面は浸け掛けで無釉の 部分あり



図	番号	層位	遺構	遺物名	口径 /長さ	底径 /幅	器高 /厚さ	胎土	色調	成形	備考
	20			常滑窯甗	口縁部小片			黄褐色／砂粒・赤褐色粒・白色粒・長石粒含む	赤褐色		6a型式
	21			常滑窯片口鉢Ⅱ類	口縁部小片			黒褐色／白色粒多く、黒砂・長石粒含む	赤褐色	口縁部上面に軽い沈線有り	6a型式
	22			瓦質手焙り	口縁部小片			橙色／赤褐色粒多く黒色粒・白色粒を含む	淡橙色	内外面縦磨きあり	輪花型。外側面上に菊花文スタンプ
	23			瓦質手焙り	口縁部小片			淡桃色／赤褐色粒多く黒色粒・白色粒を含む	暗灰色	内外面縦磨きあり	輪花型
	24			瓦質手焙り	底部部小片			淡橙色／赤褐色粒多く黒色粒・白色粒を含む	内面は暗灰色、外面は黄橙色	内面横へラ撫で	底部は厚く砂底
	25			瓦器		(7.0)		胎芯黒褐色／精良	灰白色		外底部は糸切り
	26			銭祥符元寶	2.5	2.5					初鑄年 1008年
	27			銭景祐元寶	2.6	2.5					初鑄年 1034年 真書
	28			石製品硯	海部小片						黒色粘板岩 鳴滝産(若王子石)。四周欠損。筆舟がつくタイプか
30	1	最終面まで		龍泉窯青磁鎬蓮弁文碗	(10.7)	(3.8)	5.0	灰色一部赤橙色／精良	白濁した白緑色	口縁端部が外反	細長い鎬蓮弁文。生焼けの為か軸変している
	2			龍泉窯青磁蓮弁文折縁皿	口縁部小片			白色に近い灰白色／精良	透明な灰緑色	口縁端部が外反	外側面に鎬蓮弁文
	3			青白磁合子蓋	(5.0)		(1.0)	灰白色／精良	透明な水青色	輪花型	口縁部釉削り取り。内面無釉。補修の為の黒漆が残る
	4			木製品箸	[21.5]	1.1	1.0				箸としては太い。菜箸か

出土遺物点数表

種目	かわらけ 大	かわらけ 中	かわらけ 小	ミニかわらけ	手づくね	常滑 甕	常滑 片口鉢 Ⅰ類	常滑 片口鉢 Ⅱ類	常滑 壺
実測遺物	23	13	31	1	0	4	0	4	0
実測不可遺物	766	123	146	1	4	84	5	4	2
合計	789	136	177	2	4	88	5	8	2
	83%					8%			

種目	瀬戸	瀬戸 壺類	瀬戸 皿類	瀬戸 天目茶碗	瀬戸 平碗	瀬戸 折縁皿	瀬戸 おろし皿	瀬戸 行平	瀬戸 瓶類	瀬戸 入子	瀬戸 仏華瓶	瀬戸 緑釉	瀬戸 不明品	木製品
実測遺物	1	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	41
実測不可遺物	1	3	1	1	2	1	2	0	1	1	1	1	1	0
合計	2	4	1	1	2	2	5	0	1	1	1	1	1	41
	2%													3%

種目	白かわらけ	瓦器	瓦質風炉	瓦質 香炉	研磨製品	手焙り	伊勢系 土鍋	青磁	青白磁合子	白磁皿	滑石 鍋	滑石製品	石製品 硯	鉄製品 釘	金属製品 銭	スラゲ	古代	獣骨	貝
実測遺物	0	2	1	0	3	6	1	3	1	0	0	2	2	1	4	0	0	0	0
実測不可遺物	3	1	0	1	0	9	1	1	1	1	2	0	2	2	0	205g	1	2	3
合計	3	3	1	1	3	15	2	4	2	1	2	2	4	3	4	205g	1	2	3
	4%																		

貝種目	アカニシ	ハマグリ	キサゴ
	1	1	1



▲ A. 北方より調査区を望む



▲ B. 表土掘削前 (北西から)

▼ C. 表土掘削後の調査区 (南から)





◀ A. 1面東半 (北から)



◀ B. 1面西半 (南から)

▼ C. 1面P9出土埋納かわらけ (南から)



▼ D. 1面覆土出土瓦質風炉 (南東から)





◀ A. 2面東半 (南から)



◀ B. 2面西半 (北から)

2面井戸1・2 (南から) .C ▶





◀ A. 3面東半 (北から)



◀ B. 3面西半 (南から)

▼ C. 3面溝2・3 (西から)



▼ D. 3面溝2・3近景 (西から)





▲ A. 3面溝2・3南岸東側木組み護岸施設（北から）



▲ B. 同上近景（北から）



▲ A. 3面溝2・3南岸西側木組み護岸施設（北から）



▲ B. 同上近景（北から）





▲ A. 3面溝5 (東から)



▲ B. 調査区西壁土層

图版 8

土坑 1

1 面



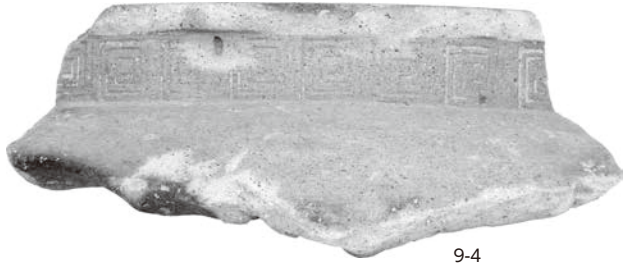
8-1



9-1



9-2



9-4

溝 1



12-2



12-7



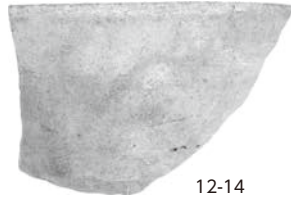
12-15



12-8



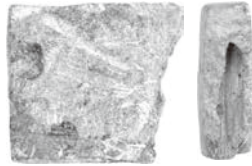
12-5



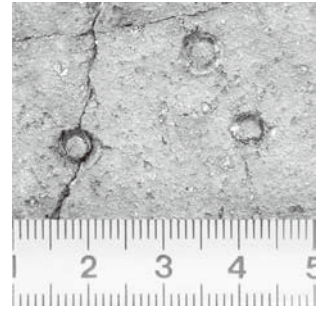
12-14



12-6



12-16



12-15 内面

井戸 2



16-1

土坑 3



18-1

2 面



19-3



19-4



19-5



19-6



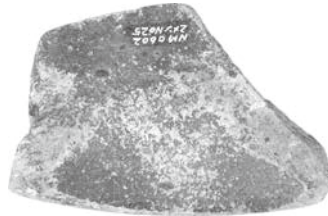
19-9



19-10



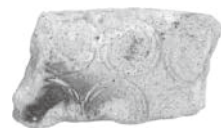
19-11



19-12



19-13

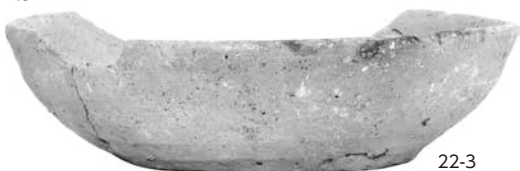


19-14



19-15

溝2



22-3



22-9



22-16



22-4



22-11



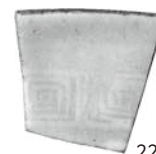
22-17



22-5



22-14



22-21



22-7



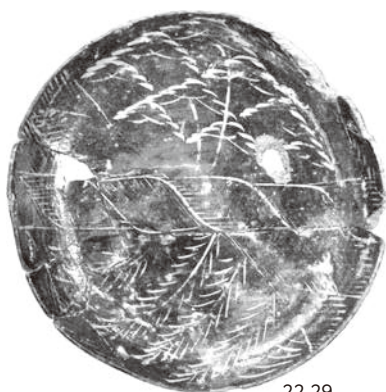
22-15



22-22



22-28

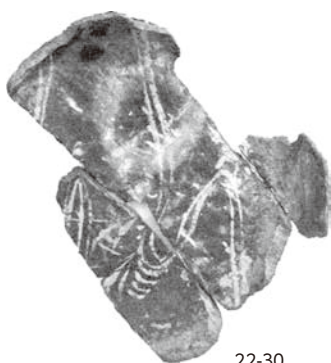


22-29

溝2 裏込め



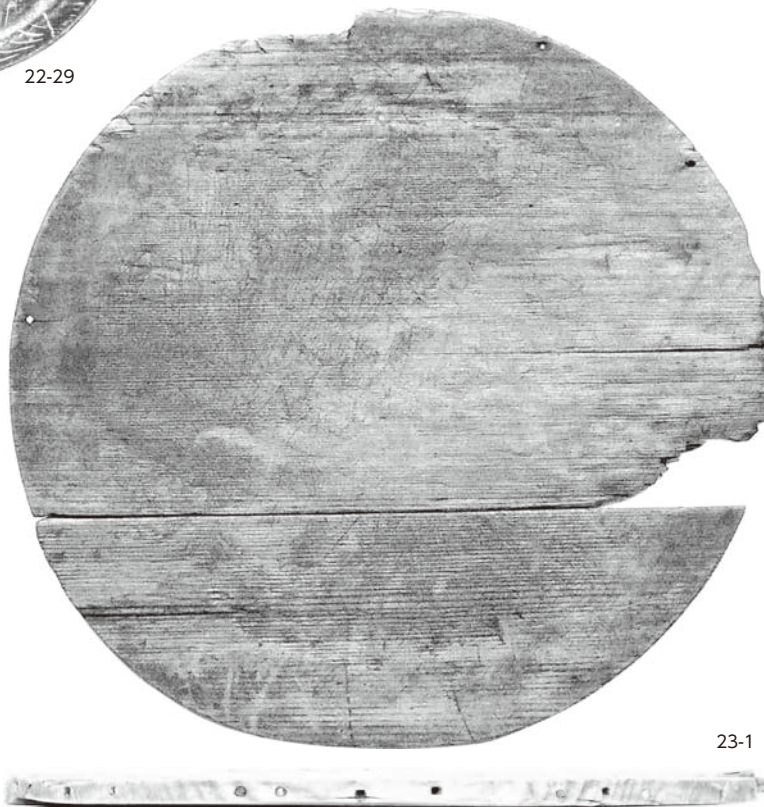
23-2



22-30



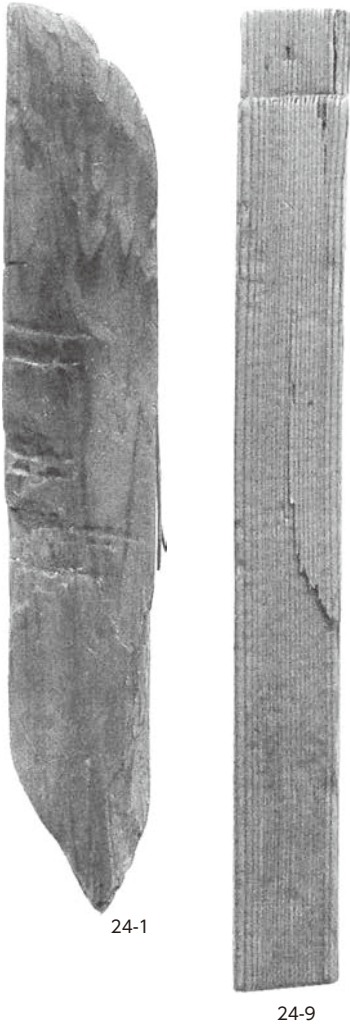
22-31



23-1

図版 10

溝 3



24-1

24-9



24-2



24-4



24-11

溝 5



27-2

3 面



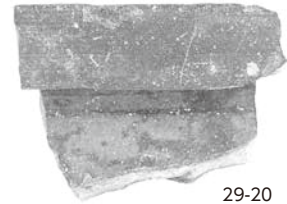
29-5



29-19



29-6



29-20



29-11



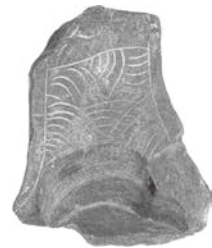
29-13



29-16



29-22



29-28



29-18

最終面まで



30-1

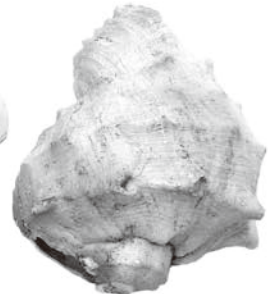
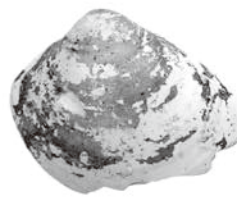


30-3

溝 2 裏込め



溝 5



# 今小路西遺跡

由比ガ浜一丁目2 1 3番1 2

## 例 言

1. 本報は今小路西遺跡（鎌倉市No.201）の内、由比ガ浜一丁目213番12地点における埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査期間は以下の通りである。  
平成19年3月12日～平成19年3月30日
3. 現地調査体制は次の通りである。  
調 査 員 熊谷満  
調査補助員 三ツ橋正夫、伊藤博邦  
調査参加者 (鎌倉市シルバー人材センター)
4. 本報告に関する資料整理は以下の体制で行った。  
担 当 者 降矢順子  
調 査 員 伊藤博邦、加藤千尋、三浦恵
5. 本報告の執筆は、調査に関った熊谷満の資料提供を受けて降矢順子と齋木秀雄が分担した。なお、検出面の区分、遺構の帰属は調査を担当した熊谷に順じた。
6. 本書に使用した遺構、遺物図版の縮尺は以下の通りである。  
遺構全体図 1/400  
個別遺構 1/30  
遺構図の水糸高は、海拔を示す。  
遺物実測は1/3
7. 出土品、図面などの資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。

# 目次

## 本文目次

第一章 調査の概観 .....	232
第1節 調査地点の位置と歴史環境	
第2節 周辺の調査	
第3節 調査軸の設定	
第4節 堆積基本土層	
第二章 検出された遺構と遺物 .....	237
第1節 1面検出の遺構と遺物	
第2節 2面検出の遺構と遺物	
第3節 3面検出の遺構と遺物	
第4節 4面検出の遺構と遺物	
第5節 5面検出の遺構と遺物	
第6節 出土遺物の分析について	
第三章 まとめ .....	250

## 挿図目次

図1 遺跡範囲図 .....	232	図9 2面遺構出土遺物 .....	243
図2 調査地点と周辺の遺跡図 .....	233	図10 3面遺構全体図 .....	244
図3 調査区配置図 .....	234	図11 3面検出遺構 .....	245
図4 堆積土層図 .....	235	図12 3面遺構出土遺物 .....	245
図5 1面遺構全体図 .....	238	図13 4面遺構全体図 .....	246
図6 1面検出遺構 .....	239	図14 5面遺構全体図 .....	247
図7 1面遺構出土遺物 .....	240	図15 5面検出遺構 .....	248
図8 2面遺構全体図 .....	242		

## 図版目次

図版1 .....	255	図版4 .....	258
1. 1面全景(西から)		1. 東壁土層断面(西から)	
2. 1面全景(北から)		2. 北壁土層断面(南から)	
3. 1面遺構9(西から)		3. 南壁土層断面(北から)	
図版2 .....	256	図版5 .....	259
1. 2面全景(北から)		出土遺物(1)	
2. 2面b(上方)と5面(南から)		図版6 .....	260
3. 2面遺構13(南から)		出土遺物(2)	
図版3 .....	257		
1. 4面全景(北から)			
2. 5面全景(北から)			
3. 5面遺構34(北から)			

# 第一章 遺跡の概観

## 第1節 遺跡の位置と歴史的環境

本調査地点は、鎌倉の中心を南北に走る若宮大路の下馬交差点から長谷観音、大仏を経て藤沢方面に通じる道路（県道鎌倉・葉山線）の北側、下馬交差点から長谷観音のほぼ中間に位置する。本調査地点は、今小路西遺跡（遺跡No.201）の範囲内に含まれ、調査地の標高は9.8m前後を測る。

調査地点周辺は中世において「浜地又は前浜」と呼称されていた地域の一部であったと考えられる。「浜地」は街中の「屋地」と異なり、御家人等の屋敷地がなく、明確な区割りのない場所であったと思われる。「前浜」の名前の由来は不明であるが、若宮大路の浜ノ大鳥居の前の浜である名称であったからであるとも考えられる。前浜と呼ばれる地域は、東は滑川西岸、西は稲瀬川、北は六地藏辺りまでであったらしい。『吾妻鏡』等の文献によれば、この他にも「甘縄」「甘縄魚町」などの地名が本遺跡周辺の地名として記されている。甘縄と呼ばれた地域は遺跡の北西約390mの山裾に現存する甘縄神社付近一帯から鎌倉市立御成小学校辺りまでを含んでいたらしい。

甘縄神社はこの地域では古い社の一つである。『相州鎌倉郡神興山甘縄寺神明宮縁起略』によれば、和銅三年（710）八月に行基が草創し、染屋時忠が山上に神明宮、麓に神興山円徳寺を建立した。この後、源頼義が相模守となり、当社に祈祷して八幡太郎義家を甘縄の地に生んだとされている。甘縄周辺には甘縄神社の他に長谷寺（736年創建）、高德院（創建不明）、光則寺（1271年創建）の寺院が現存しており、この他に万寿寺、長楽寺などの寺院もあったことが『鎌倉廃寺事典』に記されている。また、甘縄の地には多くの御家人が居住していたことが『鎌倉市史一総説編一』に記されている。これによれば、甘縄神社近くに安達一族の屋敷があり、他にも多くの御家人の屋敷、別宅などがあったとされている。

遺跡周辺は古くから鎌倉に入る交通の要所であった。古くは古東海道が稲村ヶ崎の先端から現在の坂ノ下に抜け、調査地点周辺から現在の材木座にある元八幡宮付近から小坪・逗子へ抜けていたと考えられている。鎌倉に入る7本の道路（鎌倉七口）のうち、大仏、極楽寺の切通しの2本の道路は調査地点西方で合流して六地藏方面に抜けていた。

中世以前では、調査地点周辺に古東海道の道筋が近くを通り、鎌倉時代より前からある甘縄神社、御霊神社などが近くにあった。また、調査地点の南東の砂丘地帯は、下向原古墳群があったと言い伝えられているが、現在は残っていない。この付近の采女塚古墳から出土したという人物埴輪は知られている。ゆえにこの地は、中世以前にも生活が営まれていたことがわかる。

## 第2節 周辺の調査

今小路西遺跡範囲内では、鎌倉群衙跡や中世の大型武家屋敷などが検出された御成小学校校庭の調査が良く知られている（地点1）この関連遺跡は鎌倉中央図書館近くでも確認されている（地点2）。由比ガ浜地域にあたる調査地点周辺では、近年多くの調査が実施されるようになり、調査の

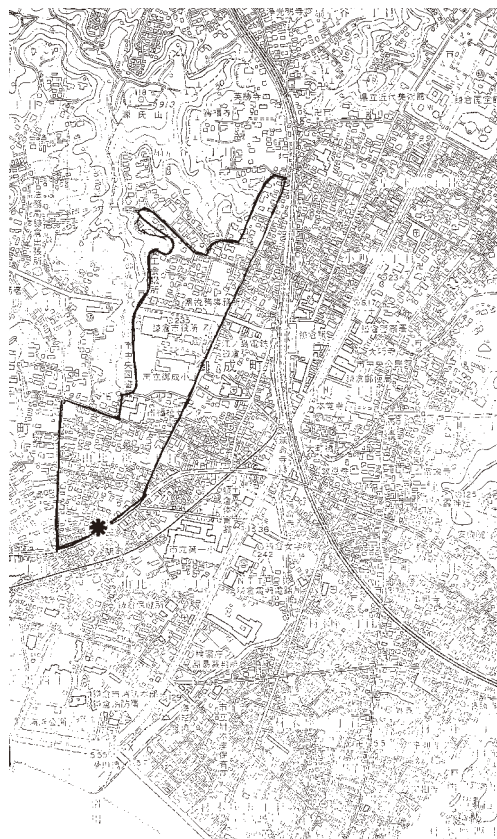


図1 遺跡範囲図 S=1/10000





図2 調査地点と周辺の遺跡図

S=1/2500

成果が明らかにされつつある。中世以前では、由比ヶ浜中世集団墓地遺跡で多くの竪穴住居址が検出され、墨書土器、緑釉陶器などの遺物も出土している（地点3）。また、長谷小路周辺遺跡では土壌墓内から仰臥伸展葬が検出され、そのうち1体には鉄鏃、刀子などが副葬されていた。土壌墓は出土遺物から見て弥生時代から10世紀までの年代が考えられている（地点4）。また、中世遺物に混じって出土する古代遺物も多く、由比ヶ浜地域に多くの生活痕跡が残されていることが明らかになっている。

中世では方形竪穴建物を中心として、礎石建物、掘立柱建物、井戸址、土坑、土壌墓などが検出されている。

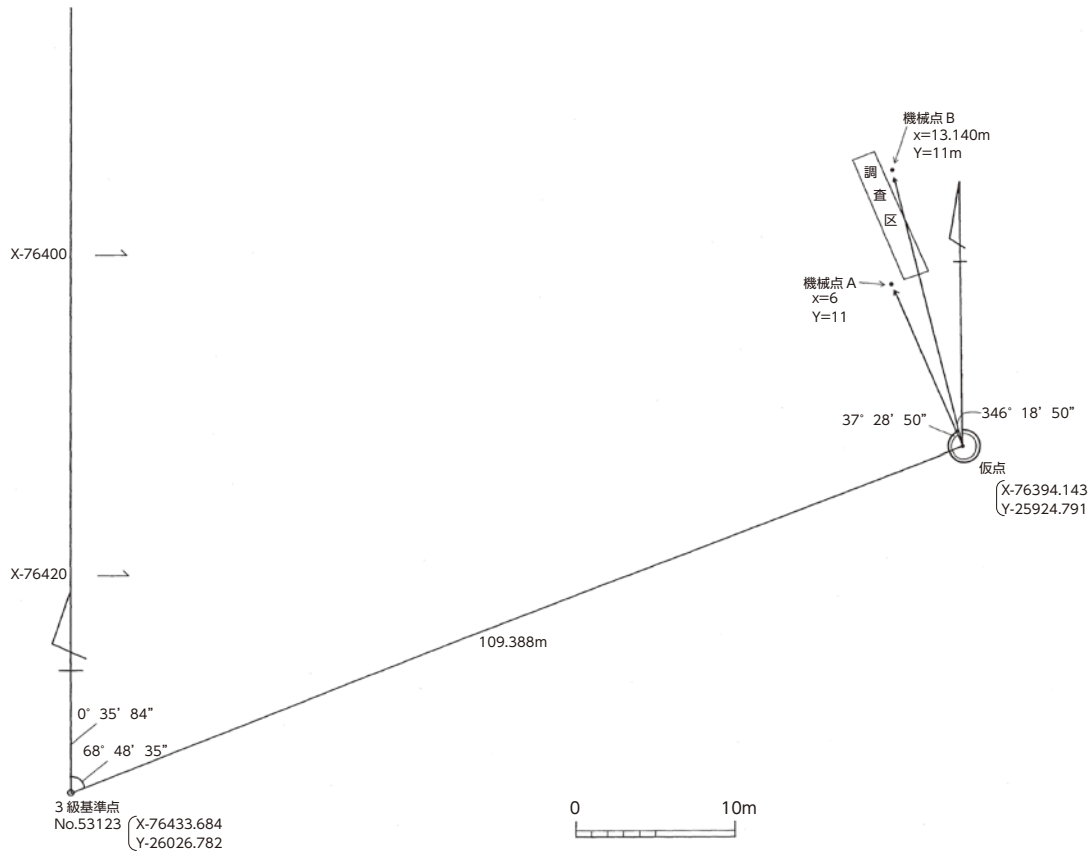


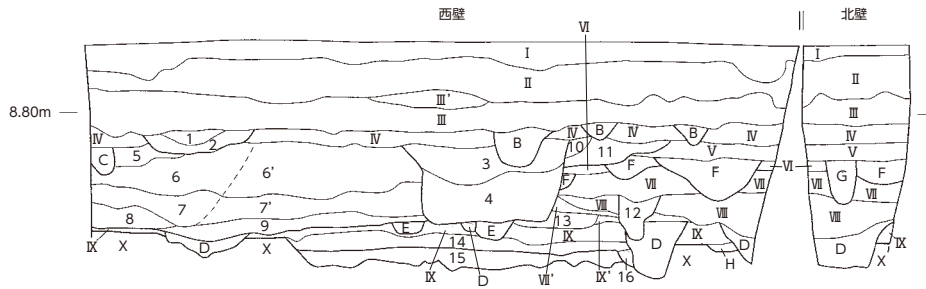
図3 調査区配置図

調査地点の西側では濃密な中世遺構が確認され、井戸覆土から銅銭の鋳型が出土して注目を集めた(地点5)。このほか地点6では道路が確認され、地点7～15では方形竪穴建物、井戸、土坑などが数多く確認されている。埋葬遺構は県道の北側で少なく、南側で多くなる傾向が認められる。地点2の南側は旧砂丘上に位置しているが、地域により性格の差があるようだ。

遺跡周辺の調査は近年になり増加する傾向にあり、これからも多くの新しい事実、知見が収集できることと思われる。

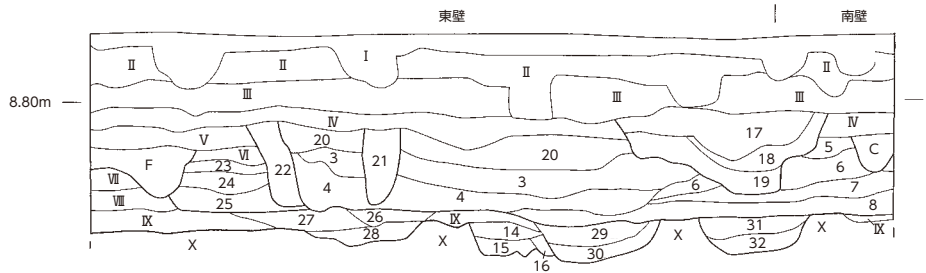
(主な調査報告書)

- 地点1 河野真知郎他『今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書』1990年
  - 地点2 河野真知郎・宮田眞他『今小路西遺跡』
  - 地点3 大河内勉他『由比ガ浜中世集団墓地遺跡 - 由比ガ浜四丁目136番地点 - 』1997年
  - 地点4 宗台秀明他『長谷小路周辺遺跡 - 由比ガ浜三丁目258番1地点 - 』1995年。土壙墓にマウンド等は確認できなかった。副葬品は死者の左下肢骨上から出土。
  - 地点5 宗台秀明他『今小路西遺跡 - 由比ガ浜一丁目213番3地点 - 』1993年
  - 地点6 熊谷満『今小路西遺跡 - 由比ガ浜一丁目151番1地点 - 』2011年3月 (有)鎌倉遺跡調査会
  - 地点8 降矢順子他『今小路西遺跡 - 由比ガ浜一丁目197番2外地点 - 』
  - 地点12 齋木秀雄『由比ガ浜三丁目194番25外遺跡調査報告』1990年
  - 地点15 齋木秀雄他『長谷小路南遺跡』
- 地点7、地点9、地点10は未報告。



西壁セクション土層

I 暗褐色土	表土。填圧を受けて強固に締まる。	1 暗褐色土	Bタイプ覆土。遺構10覆土
II 暗茶褐色砂質土	近世～近代の耕作土。かわらけ粒を微量に含む。	2 暗褐色土	①層に近似。土丹小ブロックを多く含む。遺構10覆土。
III 暗褐色土	土丹粒・小ブロックをやや多く含む。炭化物を少量含む。遺物包含層。	3 暗褐色土	土丹粒・小ブロックをやや多く含む。貝粒を少量含む。遺構13(方竪)覆土。
III' 暗褐色土	土丹粒を微量に含む。締まりあり。	4 暗褐色土	土丹粒・小ブロックを微量含む。貝粒を少量含む。砂性を帯びる。遺構13(方竪)覆土。
IV 暗褐色土	暗灰色弱粘質土混入し、やや灰色味がかかる。土丹粒・小ブロックを少量含む。1面構成土。	5 暗褐色土	土丹粒・小ブロックをやや多く含む。貝粒を少量含む。
V 暗灰褐色弱粘質土	土丹粒・炭化物を微量に含む。若干砂性を帯びる。締まりあり。2面構成土。	6 暗褐色土	土丹粒・貝粒を少量含む。砂性を帯びる。締まりあり。
VI 暗灰褐色弱粘質土	混入物をほとんど含まず、土丹粒をわずかに含む。若干砂性を帯びる。締まりあり。3面構成土。	6' 暗褐色土	⑥に近似
VII 暗褐色砂質土	貝粒やや多く含む。炭化物少量含む。締まりあり。	7 暗褐色土	土丹粒・貝粒を微量含む。締まりあり。
VIII 黄褐色砂	やや粗い砂を主体とし、暗褐色砂混入。炭化物をやや多く含む。締まりあり。4面構成土。	7' 暗褐色土	⑦に近似
VIII' 黄褐色砂	VIII層に近似。色調やや明るい。	8 暗褐色土	土丹粒を微量含む。締まりあり。
IX 暗茶褐色砂質土	暗褐色中砂混入。炭化物を部分的にやや多く含む。締まりあり。中世基盤層か。	9 暗灰色弱粘質土	貝粒混入。炭化物少量含む。
IX' 暗茶褐色砂質土	IX層に近似。色調やや明るい。	10 暗褐色土	土丹粒を多く含む。
X 暗茶褐色砂質土	古代基盤層。腐食土質。締まりあり。	11 暗褐色土	土丹粒を少量含む。若干粘性を帯びる。
		12 暗褐色砂質土	黄褐色砂混入。貝類少量含む。ピット覆土。
		13 黄褐色砂	上位に土丹粒をやや多く含む。締まりあり。遺構の覆土か。
		14 暗茶褐色砂質土	地山に似た腐食土質の土。炭化物を微量に含む。締まりやや弱い。遺構34(竪穴住居?)覆土。
		15 暗茶褐色砂質土	地山に似た腐食土質の土。明褐色砂質土混入。締まりやや弱い。遺構34(竪穴住居?)覆土。
		16 暗茶褐色砂質土	⑬に近似。遺構34(竪穴住居?)覆土。



東壁セクション土層

17 暗褐色土	拳大～人頭大の土丹塊を多く含む。遺構11覆土。
18 暗褐色土	土丹粒を少量含む。遺構11覆土。
19 暗褐色土	土丹粒・小ブロックを多く含む。遺構11覆土。
20 暗褐色土	土丹粒・貝粒を少量含む。若干砂性を帯びる。遺構13(方竪)覆土。
21 暗褐色土	土丹粒を少量含む。締まりやや弱い。ピット覆土。
22 暗褐色土	土丹粒を少量含む。若干砂性を帯びる。ピット覆土。
23 暗褐色粘質土	貝粒をわずかに含む。粘性強い。締まりあり。遺構29(方竪?)覆土。
24 暗灰色粘質土	暗褐色砂質土混入。遺構29(方竪?)覆土。
25 暗褐色砂質土	貝砂混入。炭化物を少量含む。遺構29(方竪?)覆土。
26 暗褐色砂質土	IX層に近似。
27 暗褐色砂質土	IX層に近似。
28 暗褐色砂質土	地山に似た腐食土質の土。締まりやや弱い。遺構35覆土。
29 灰褐色砂質土	貝砂混入。砂性強い。締まり弱い。遺構20覆土。
30 暗褐色砂質土	貝砂混入。腐食土少量混入。遺構20覆土。
31 暗褐色砂質土	地山に似た腐食土質の土。炭化物を少量含む。遺構22覆土。
32 灰褐色砂質土	貝砂混入。砂性強い。締まり弱い。遺構22覆土。

図4 堆積土層図

### 第3節 調査軸の設定

調査で使用した測量軸は、鎌倉市第3級基準点から移動して設定した。調査の区画は1m方眼で、南北方向にx、東西方向にyで、西～東に数値が増える。南北方向は真北を示し、調査区のx6・y11は日本測量地系値でx-76384000、y-2529000である。

### 第4節 堆積基本土層

本調査地点における堆積土層は、砂丘帯後背地に堆積した暗褐色腐植砂泥層上に積み増した埋没土が主である。暗褐色腐植砂泥層からは古代(奈良・平安時代)の土師器、須恵器などの破片が出土している。この堆積土は、長谷小路周辺遺跡では古代遺構、遺物などが検出される黒褐色粘質土と同様に、海浜砂丘後背地の乾陸化過程でつくられた腐植土層と考えられる。乾陸化過程の腐植土の堆積は、土色から数時期にわたっており、その時間幅には多少の地域差があると思われるものの、時代はおよそ古墳時代初頭～10世紀代に及ぶものと考えられる。11世紀以降の古代末の遺構・遺物はこの腐植土層中には見られず、10世紀に相当する堆積土層の上には中世の文化層が堆積する。近接する遺跡においては、砂丘後背湿地腐植土の上に中世以前の風成砂層である黄白色砂質土の堆積層の中より、中世前半代の手づくねかわらけなどが出土している。

## 第二章 検出された遺構と遺物

今回の調査面積は、トレンチ状と狭小範囲であったにも関わらず、部分的ではあるが古代の遺構面の調査を行なうことができた。また、中世の遺物包含層からも古代の土器小片が数多く出土しているが、実測できるものはほとんどなく、その大半が土師器甕で、若干ではあるが須恵器なども出土している。年代観はおよそ8世紀後半～10世紀前半にかけてのものと思われる。古代遺構は竪穴住居址1基、土坑2基、ピット2口、中世遺構は方形竪穴址1基、方形土坑1基、土坑9基、ピット19口である。実測遺物は遺構出土のものも含め、主に常滑小甕やかかわらけが占める。以下、各検出遺構と出土遺物について記す。

### 1～2面掘り下げ時の出土遺物

図7の1～2は瀬戸窯製品。1、2は卸皿口縁部～底部にかけて、3は白磁玉縁碗口縁部、4は瓦質香炉口縁部～脚部であり、口縁部に小孔が一周巡りその上部と下部に菊文スタンプ文様が全体に施されている。5は常滑窯片口鉢口縁部(Ⅱ類)。6、7は糸切りかわらけ皿。6は小皿、7は薄手タイプの小皿である。

## 第1節 1面検出の遺構と遺物

### 遺構2(土坑)

調査区の北側の西壁際で検出された。長径85cm、短径48cm、確認面からの深さ15cmを測る。平面は楕円形、断面はゆるやかな丸みを持ち立ち上がる。西側は円形状のピットを切っている。主軸方向はN-37°-W方向を示す。底面の海拔は8.63mを測る。

出土遺物は、糸切りかわらけ大皿2点、手づくねかわらけ皿1点、軽石1点、古代甕片2点などが出土しているが、図化できるものはなかった。

### 遺構7(土坑)

調査区中央よりやや北側で検出された。長径45cm、短径40cm、確認面からの深さ16cmを測る。平面形は隅丸方形、断面は丸みを帯びゆるやかに立ち上がる。主軸方位はN-3°-W方向を示す。底面の海拔は8.57mを測る。

出土遺物は糸切りかわらけ大皿が1点のみである。

### 遺構8(土坑)

調査区中央よりやや北側で検出された。長径60cm、短径(55)cm、確認面からの深さ40cmを測る。平面形は円形を呈すると思われるが、西側部分は調査区外に延びる。断面はU字形を呈する。底面の海拔は8.50mを測る。

図化できる出土遺物はない。

### 遺構9(土坑)

調査区ほぼ中央付近で検出された。長径19cm、短径98cm、確認面からの深さ38cmを測る。平面形は楕円形で、断面はゆるやかな丸みを持ち立ち上がる。主軸方位はN-25°-W方向を示す。底面の海拔は8.51mを測る。

出土遺物は、青磁鎚蓮弁文碗(龍泉窯系)1点、糸切りかわらけ大皿680g、小皿20g、常滑窯製品10点、常滑捏鉢1点、瀬戸窯製品1点、伊勢系土鍋1点、瓦質火鉢1点、滑石スタンプ1点などが出土している。

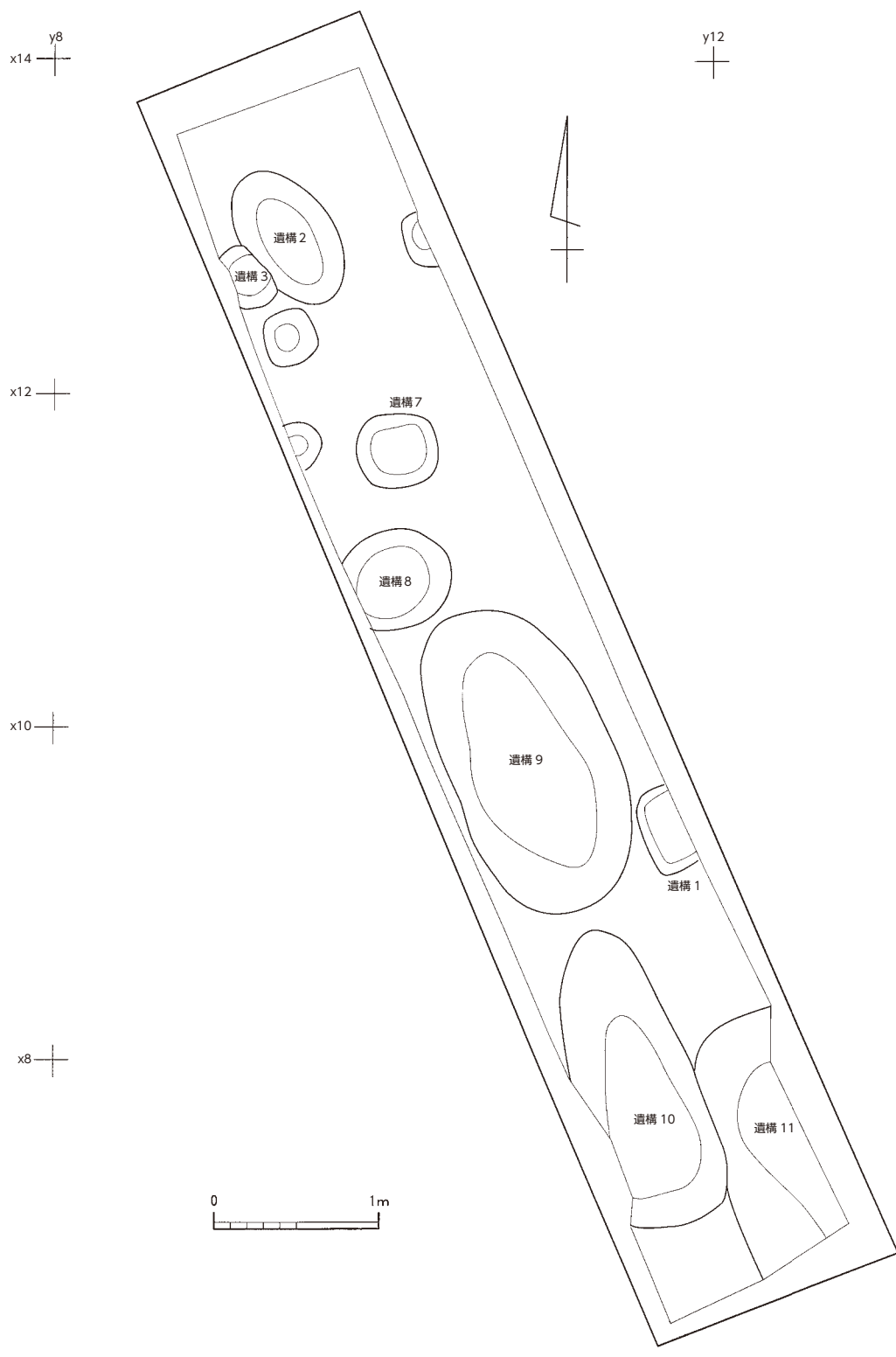


図5 1面遺構全体図

図7-9は瓦質火鉢口縁部であり、口縁部に菊文が施されている。10は青磁櫛劃文皿(同安窯系)1点、11と12は瀬戸窯製品であり、11は褐釉壺胴部、12は折縁鉢体部下位～底部、13は常滑窯片口鉢口縁部(Ⅱ類)、14は糸切りかわらけ薄手タイプ中皿、15は滑石スタンプで撫子文様が施され櫛差し部分の穿孔径は約1cmを測る。

### 遺構10(土坑)

調査区南の西側で検出された。遺構11を切っている。長径180cm、短径65cm、確認面からの深さは32cmを測る。平面形は楕円形、断面は方形状を呈する。底面の海拔は8.56cmを測る。主軸方位はN-18°

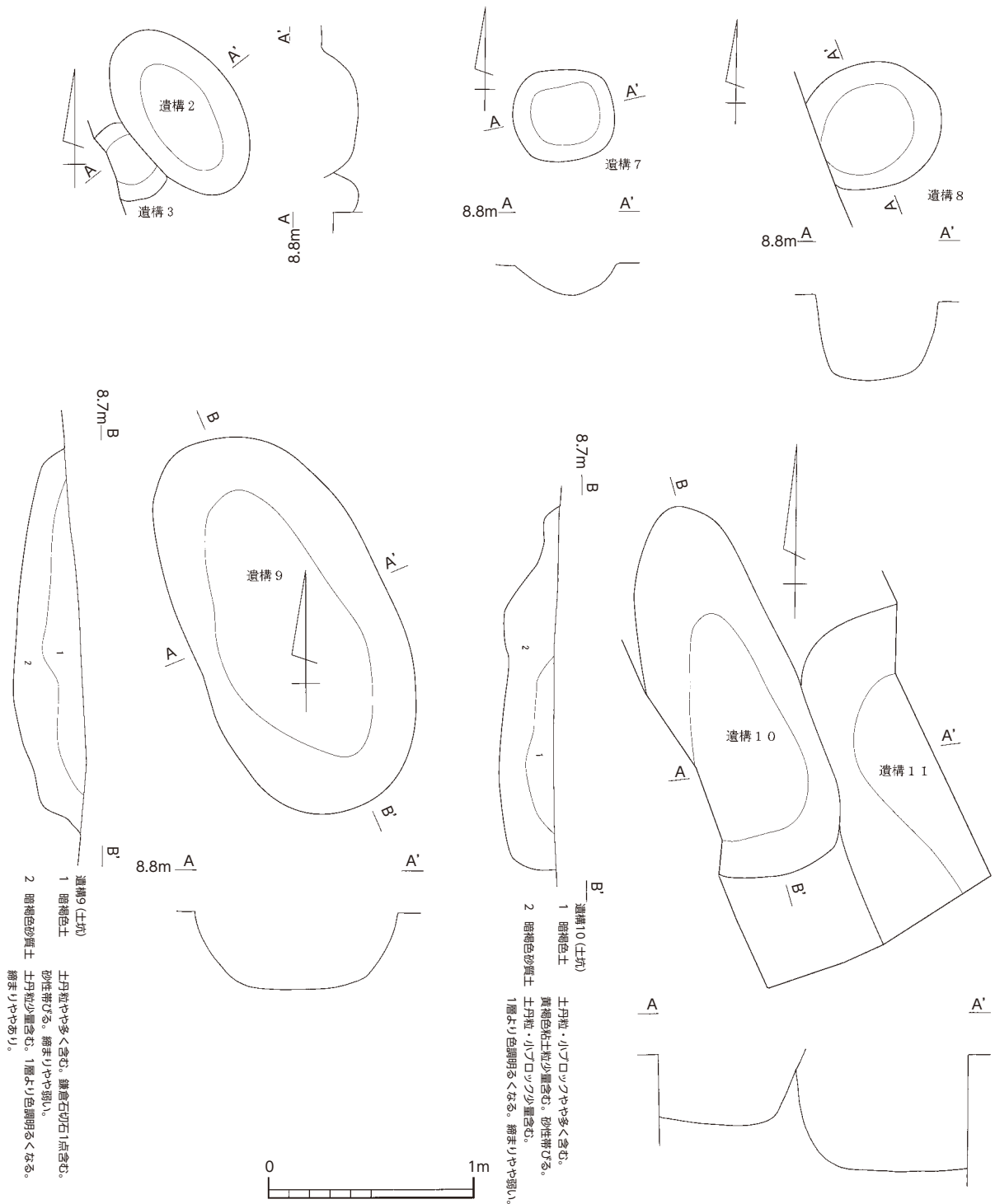


図6 1面検出遺構

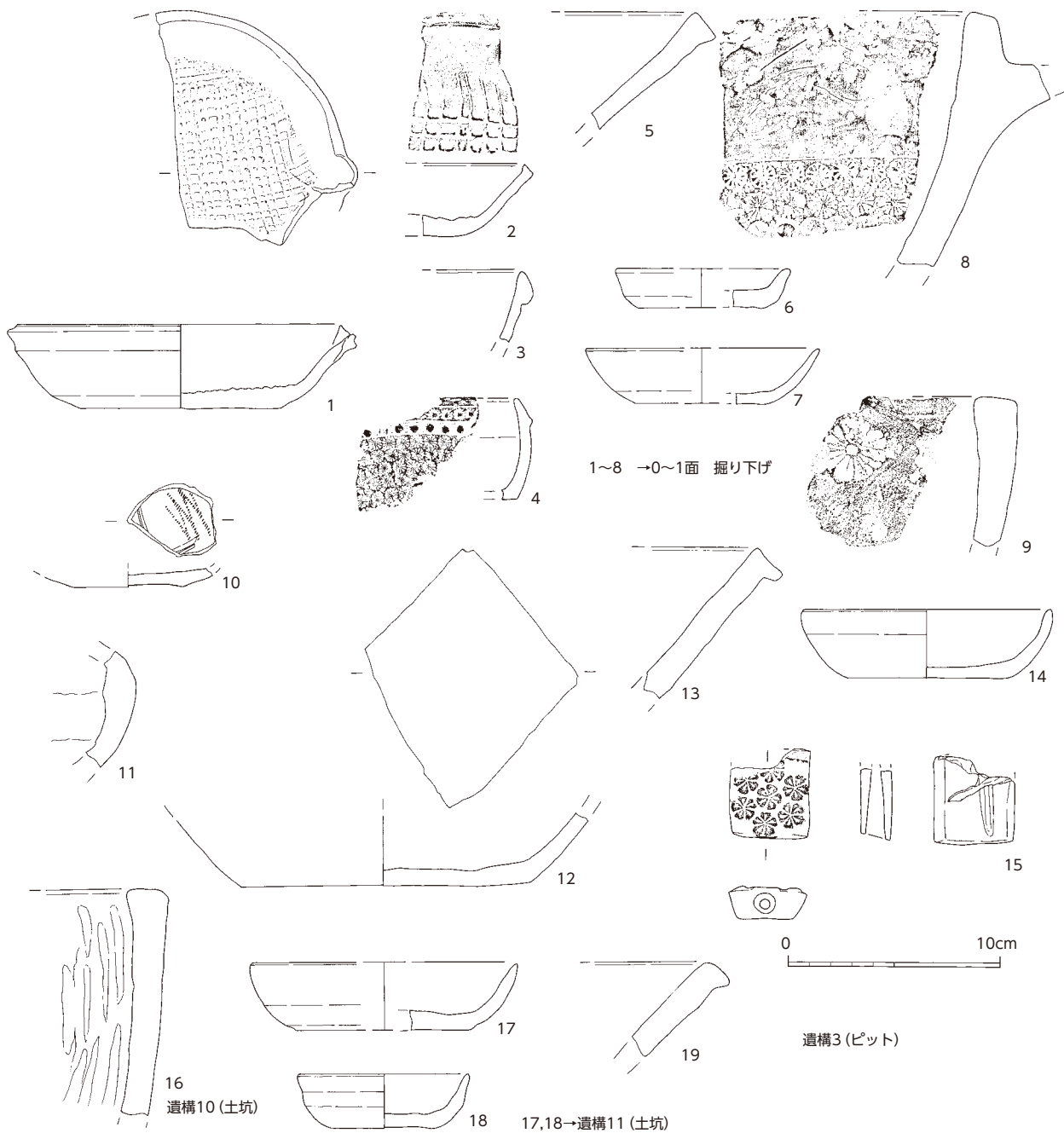


図7 1面遺構出土遺物

-W方向を示す。

出土遺物は、白磁口元皿1点、常滑窯製品1点、瀬戸窯製品2点、かわらけ糸切り大皿390g、小皿1点、手づくねかわらけ大皿40g、小皿1点、古手タイプ1点が出土している。図7-16は瓦質火鉢口縁部～胴部であり、外面の剥離が著しい。

### 遺構11 (土坑)

調査区南の東側で検出された。遺構10に切られ、南側が調査区外に延びる。長径145cm、短径50cm、確認面からの深さ56cmを測る。平面形は楕円形、断面はU字形を呈する。底面の海拔は8.56mを測る。主軸方位N-18° -W方向を示す。

出土遺物は、常滑窯製品5点、盤1点、土器質火鉢2点、瀬戸窯卸皿1点、直縁大皿1点、糸切りわら



け大皿110g、小皿1点、薄手タイプ小皿1点、古代88点、坏13点、須恵器5点、礫1点などが出土している。図7-17、18は糸切りかわらけ皿であり、17は大皿、18は小皿である。

### 遺構3

調査区北の西側で検出された。遺構2に切られている。長径95cm、短径(20)cm、確認面からの深さは15cmを測る。平面形は円形を呈する。底面の海拔は8.48mを測る。図7-19は常滑窯片口鉢(Ⅱ類)口縁部である。

## 第2節 2面検出の遺構と遺物

2面検出の遺構と遺物では、全体図に提示していない遺構20・21・27とその出土遺物について説明を加えている。これらは3面から5面に調査者が配置した遺構であるが、2面に属するのが妥当と考えて本節で説明を加えた。しかし、遺構の配置はあえてそのままにした。曖昧になってしまった点は反省している。なお、図9-42に示した常滑窯無頸壺は2面から3面にかけて掘り進んだ時の出土である。

### 遺構13

本址は調査区の中央より南側で確認され、ほとんどが調査区外に延びる。全体の規模は把握できなかったが確認時で南北(5.4)m、東西(1.5)mで、壁高は62cmを測る。西側部分に根太痕と思われる痕跡あり、南西部に礎石と思われる伊豆石が一石検出された。床面はほぼ平らである。主軸方位はN-36°-W方向を示す。底面の海拔は7.6mを測る。

出土遺物は、糸切りかわらけ大皿6,400g、小皿570g、薄手タイプ大皿25g、同小皿100g、手づくねかわらけ大皿10g、青磁4点、白磁4点、青白磁2点、瀬戸窯製品9点、常滑窯製品8点、渥美窯製品1点、魚住窯片口鉢1点、伊勢系土鍋1点、火鉢4点、瓦質香炉1点、罌釜6点、骨製品1点、鉄製品5点、銅銭4点、瓦2点などが出土している。

図9-20は瀬戸窯卸皿口縁部～体部(中期Ⅰ)、21～25は常滑窯製品で21は壺胴部、22・23は播鉢口縁部～体部、24・25は甕口縁部～頸部(6b形式)、26～28は片口鉢口縁部(Ⅱ類)、29は山茶碗窯系片口鉢口縁部、30は罌釜口縁部、31は瀬戸窯卸皿底部。32・33は糸切りかわらけ小皿で、33は薄手タイプ、34は瓦質火鉢口縁部～胴部、35は磨石で石材は安山岩である。36～39は銅銭である。36は淳化元寶(北宋・初鑄年990)、37は天口通寶、38は紹聖元寶(北宋・初鑄年1094)、39は元豐通寶(北宋・初鑄年1078)である。

### 遺構20

調査区の中央下位東で検出された。東・南側部分が調査区外に延びる。平面形は長径(70)cm、短径(25)cm、確認面からの深さ30cmを測る。平面形は楕円形を呈すると思われる。断面はU字形を呈すると思われる。底面の海拔は7.40mを測る。

出土遺物は図9-40の古代小甕胴下部～底部である。

### 遺構21

調査区の南側で検出された。遺構20を切っている。平面形は楕円形を呈し、長径148cm、短径78cm、確認面からの深さ31cmを測る。断面形はU字形を呈する。底面の海拔は7.45m、主軸方位はN-30°-W方向を示す。

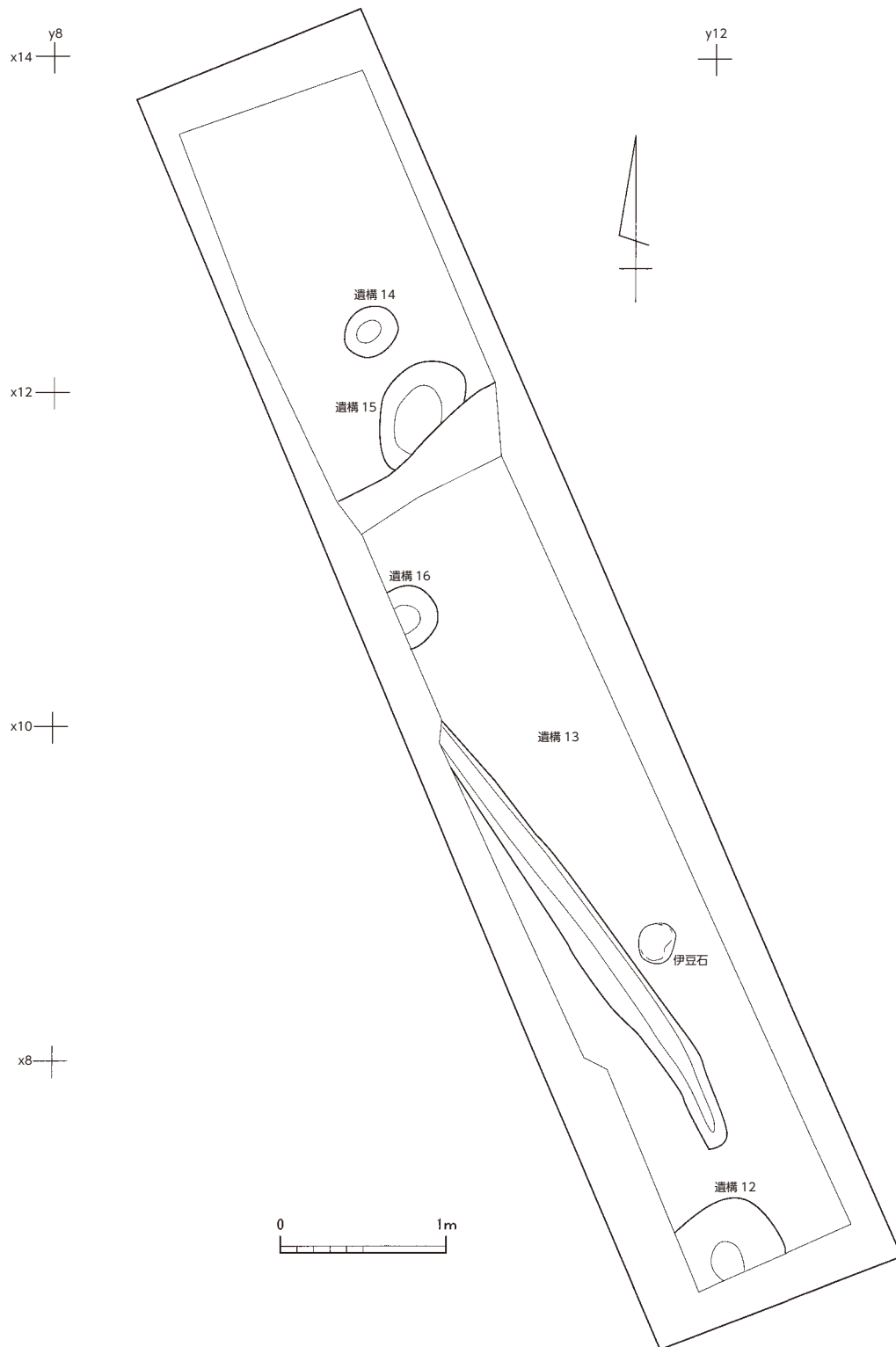


図8 2面遺構全体図

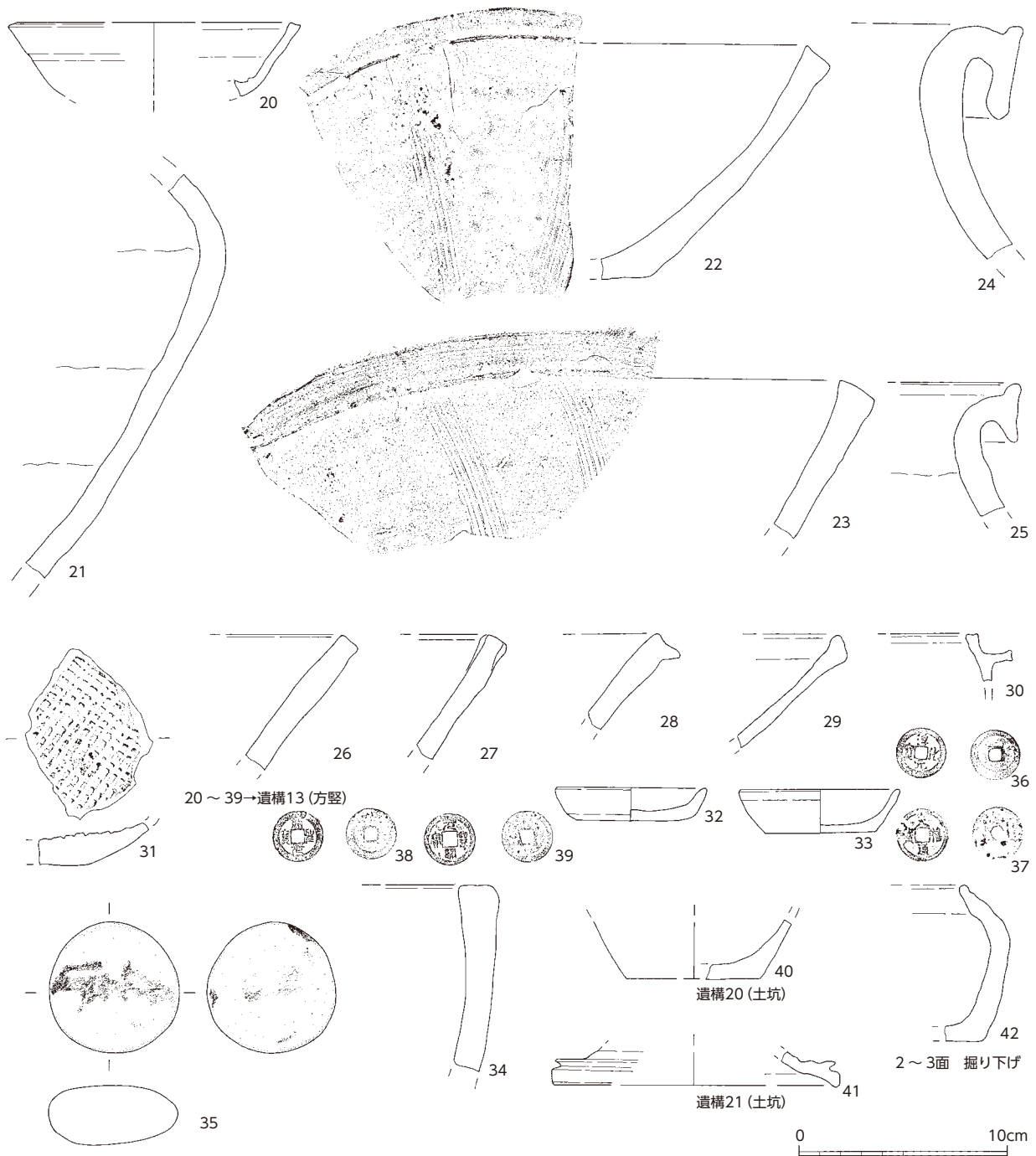


図9 2面遺構出土遺物

出土遺物は瀬戸窯製品2点、須恵器1点、火打石1点などが出土している。図9-41は須恵器の蓋である。

### 遺構27

調査区北側の東で検出された。平面形は隅丸方形を呈し、長径45cm、短径38cm、確認面からの深さ30cmを測る。断面は皿形を呈する。底面の海拔は7.85mを測る。主軸方位はN-82°-E方向を示す。

遺物は図12-43の白磁口兀皿、44の瀬戸窯山茶碗、45・46のかわらけ皿が出土している。白磁口兀皿は底面外周を意図的に打ち欠いたと思われる。かわらけ皿の46は手づくね成形の皿である。

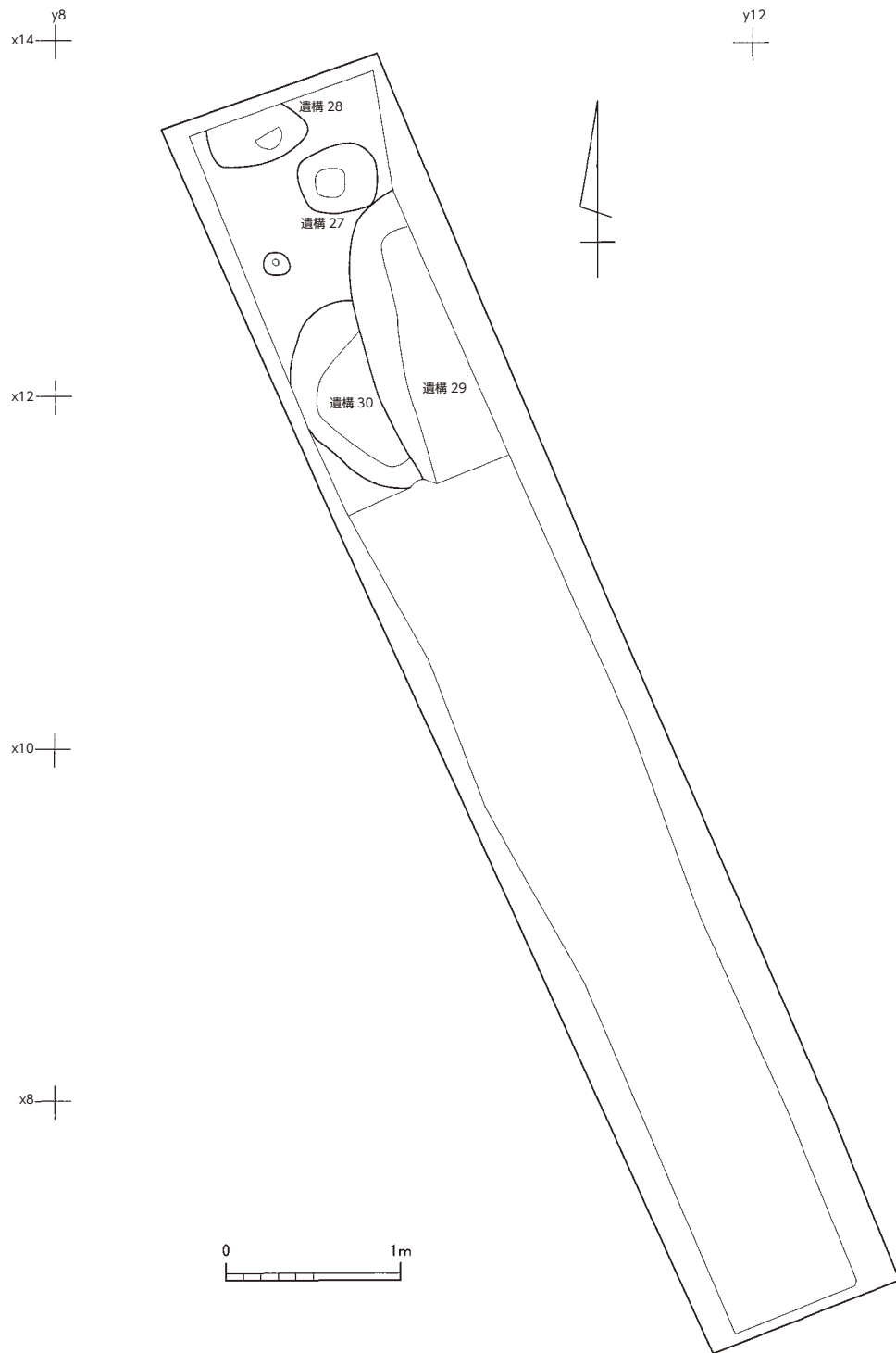


図10 3面遺構全体図

### 第三節 3面検出の遺構と遺物

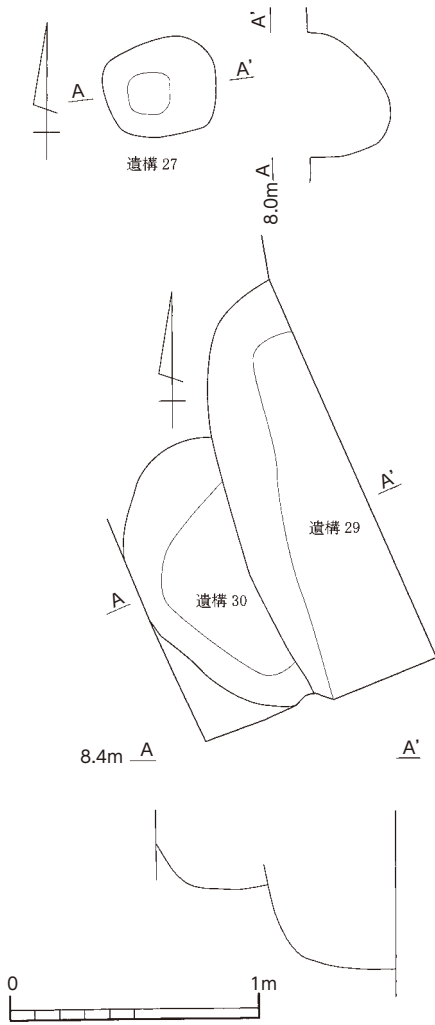


図 11 3面検出遺構

#### 遺構 29

調査区の北側、東で検出された。遺構30を切っている。平面形は楕円形を呈するものと思われる。確認規模は長径(170)cm、短径(55)cm、確認面からの深さ28cmを測る。断面はU字形を呈する。底面の海拔は7,75mを測る。主軸方位はN-21°-W方向を示す。

出土遺物は糸切りかわらけ大皿1,180g、同小皿70g、薄手タイプ大皿10g、同小皿10g、白磁2点、常滑窯製品4点、青磁2点、硯1点などが出土している。図12-47・48は白磁口兀皿、49はコースター、50～56は糸切りかわらけ皿である。53は薄手タイプ小皿、54は中皿、55・56は大皿である。

#### 遺構 30

調査区の東のやや西寄りで検出された。遺構29に切られている。平面形は隅丸方形を呈するものと思われる。確認規模は長径110cm、短径(40)cm、確認面からの深さ26cmを測る。壁は緩やかに丸味をもって立ち上がる。底面レベルは8.15mを測る。主軸方位はN-46°-W方向を示す。

出土遺物は糸切りかわらけ大皿130g、同小皿5g、常滑窯製品3点、瀬戸窯製品1点、火鉢1点などである。図12-57は瓦質火鉢口縁部～胴部である。

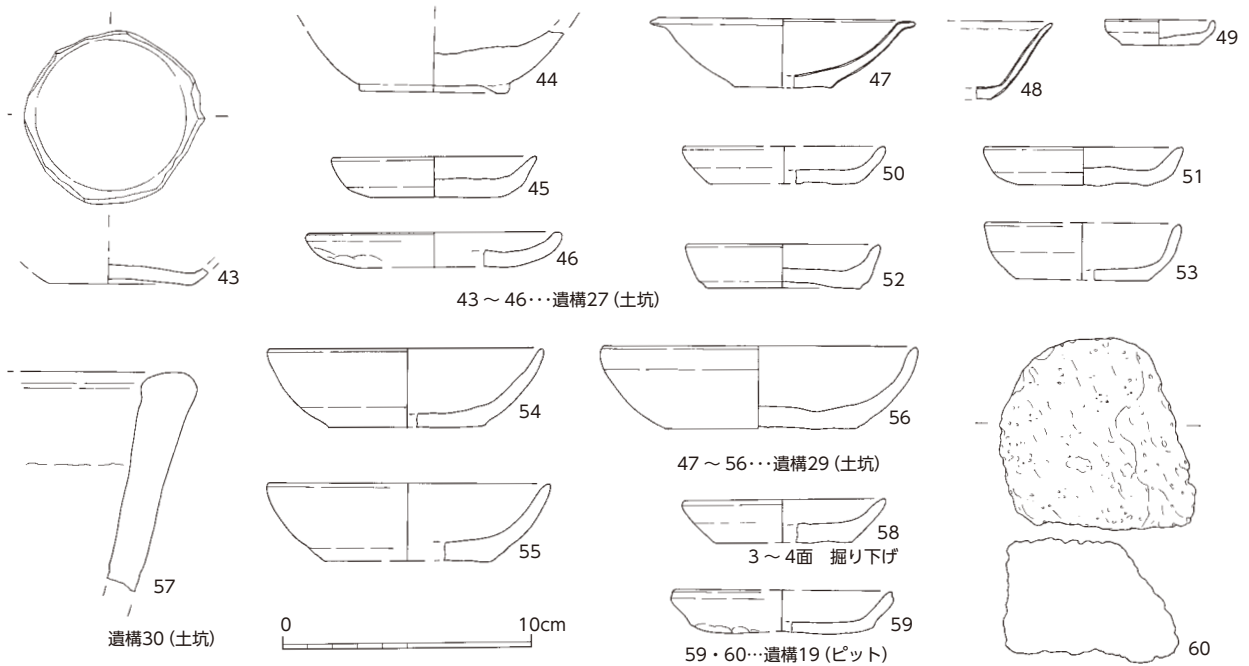


図 12 3面遺構出土遺物

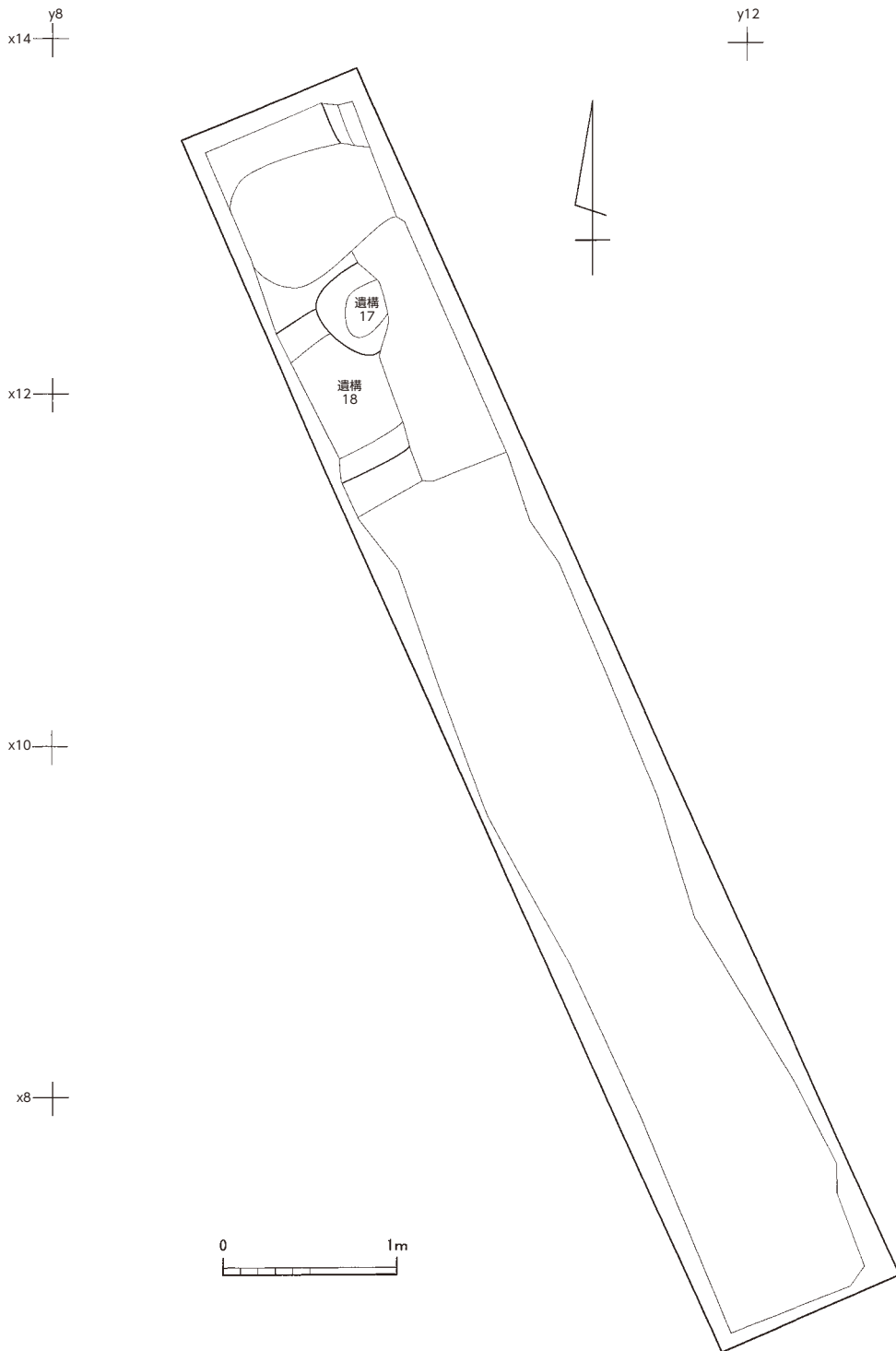
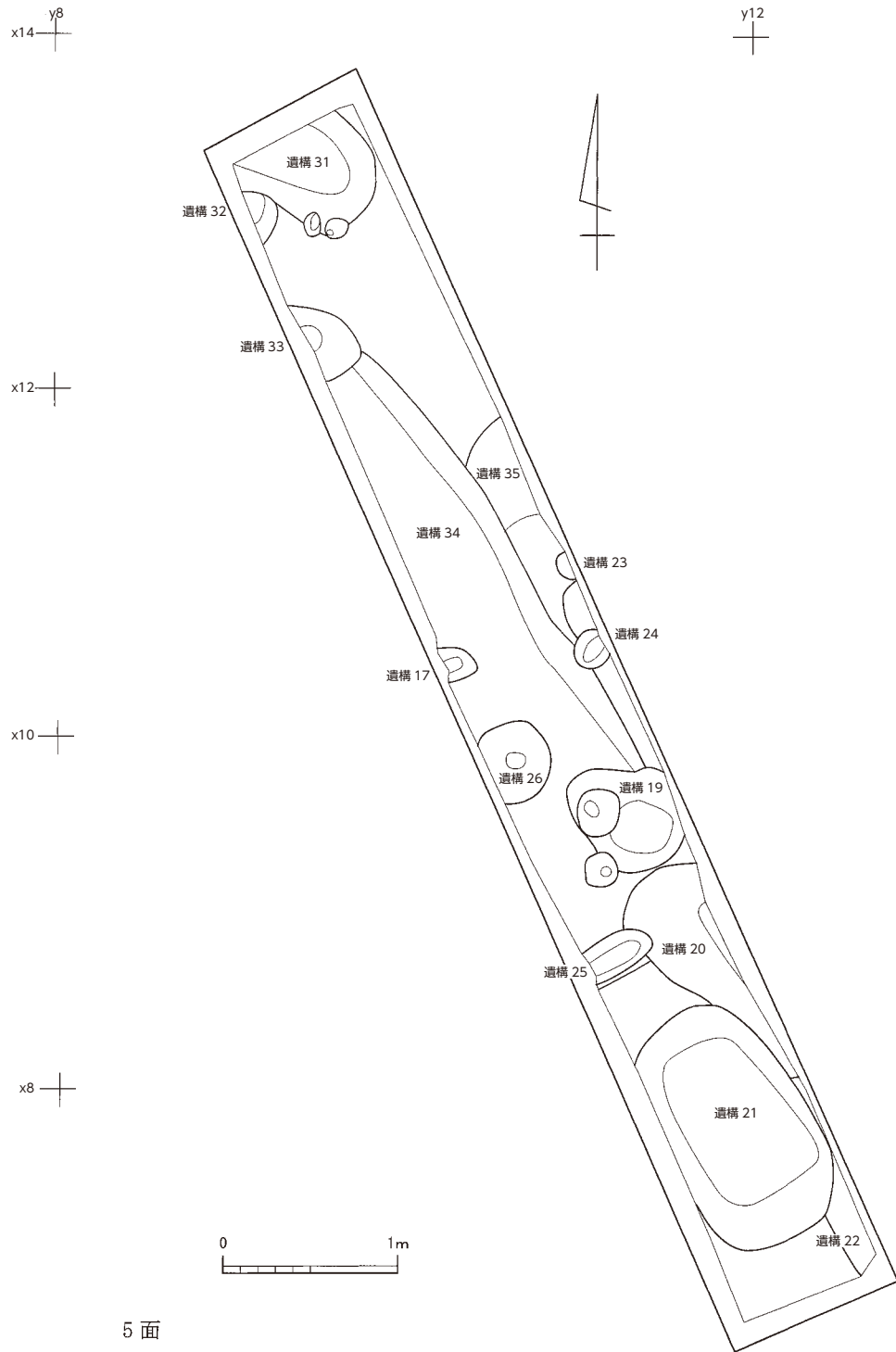


図13 4面遺構全体図



5 面

図14 5面遺構全体図

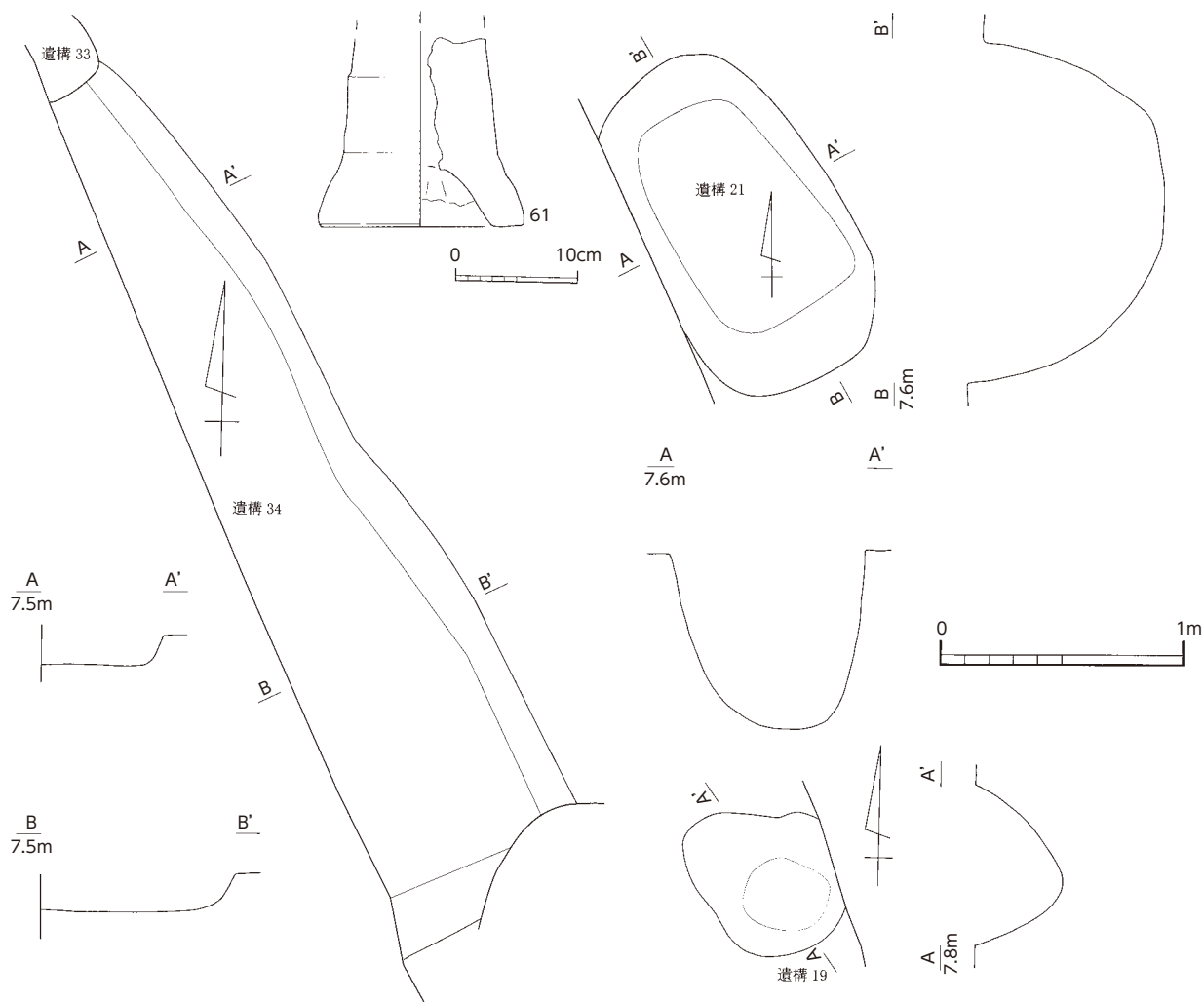


図15 5面検出遺構

## 第4節 4面検出の遺構と遺物

部分的な検出にとどまった。3面の遺構にほとんどが壊され、図示できる出土遺物も検出できなかった。部分的に確認できたのは、土坑とピットと思われる。

4面を調査中に出土した遺物は、糸切りかわらけ大皿100g、同小皿10g、手づくねかわらけ小皿10g、古手糸切りかわらけ小皿10g、常滑窯製品3点、壁土などが出土している。図12～58のかわらけ皿は3面から4面にかけて出土している。

## 第5節 5面検出の遺構と遺物

### 遺構34

本址は調査区の北側寄りで見出された。全体の様相がつかめないため、平面形などは明確ではない。確認規模は長径(4.25)m、短径(0.8)m、確認面からの深さ31cmを測る。床面は平坦であるが付帯施設などは検出されなかった。調査者の所見は、方形竪穴建物であり、本報告でもそれに倣う。底面の海拔レベルは7.10mを測る。主軸方位は、部分的な検出のためはっきりした方向はつかめないが、およそN-38°-W方向を示すものと思われる。

出土遺物は、図示できない小片の中世遺物に混じって、土師器甕47点、高坏1点、坏4点(内赤彩を施



したもの1点)、須恵器坏6点(内身の部分4点、蓋の部分2点)などが出土している。圧倒的に中世の遺物が少ない。個々の遺物出土状況は、実際の現地調査に参加していないので明らかではないが、本址の掘り込み壁に若干くびれている箇所があるので、偶然竪穴住居址と方形竪穴建物の壁ラインが一致し中世遺構として掘ってしまったか、本址を埋める際に竪穴住居址を壊している可能性が高い。

図15-61は高坏あるいは燭台の脚部であり底面より出土している。

### 遺構33

調査区の北側で検出され、遺構34を切っている。平面形は楕円形と思われる。確認規模は長径(60)cm、短径(23)cm、確認面からの深さ35cmを測る。壁は緩やかな丸味をもって立ち上がる。底面レベルは6.95mを測る。

### 遺構19

調査区の南寄りで検出された。おにぎり型の平面形を呈する土坑で、部分的に東の調査区外に延びている。確認規模は長径(96)cm、短径70cm、確認面からの深さ50cm、底面レベル7.0mを測る。

図12-59のかわらけ皿と60の軽石が出土している。59のかわらけ皿は手づくね成形の小皿である。

## 第6節 出土遺物の分析について

出土した遺物の構成表についてはすべての遺物破片数を示した。個体数の大まかな目安を考え、接合できる破片に関しては、接合後の破片を1点としてカウントした。

破片数の多いかわらけについては重量で計測した。また、個体数の多い常滑窯の甕、火鉢の類は実際の個体数より破片数が多くなるため、構成の比率が全体の個体数バランスを示すものとは言い切れない。だが、常滑の構成点数(137点)という数値は突出しており、その性格を顕著に示している。さらにかわらけに関しては、重量の比率で比較したほうが数値的な紛れが少ないものと考え、層位・器形別に分類した。

## 第三章 まとめ

狭くトレンチ状の調査ではあるが、調査で得られた成果をもとに若干のまとめを行ないたい。ここでのまとめは調査者が意図したことと異なる可能性もあるが、出土遺物と図示された遺構から導いたまとめと考えていただきたい。

### 周辺の特徴

本地点で検出した遺構や遺物のみで、調査地点の性格を論じることは無謀であるため、これまでの周辺の調査結果などをもとに、本地点近くの特徴を考えたい。なお、調査地点の番号は本報告の図2ものを使用している。

本地点周辺では地点7から地点8を通過して、県道鎌倉・葉山線の北側に平行する道路（吉屋信子記念館前の道路）を結ぶラインが、およその浜地の限界と考えている。堆積土層ではこのラインの北側は中世の基盤層が暗褐色粘土層で南側は黄褐色の砂質土になる。この違いが所謂屋地と浜地であろう。浜地の北限ライン辺りが大仏・極楽寺の切通しを越えて鎌倉中心部に向かう道路のラインと考えているが、これについては、ここでは細かく触れない。中心的な街路は推測されるが、周辺の状況はまだ確認されていない。

由比ガ浜地域の浜地では、地点14～地点15、鎌倉文学館入口周辺で弥生時代～古墳時代前期、奈良・平安時代の竪穴住居址や土器が多く確認されている。このうち、9世紀末～10世紀前半の遺物が多い傾向も確認されている。こうした、土器の出土は本地点を越えて六地藏周辺まで広がりが確認できる。地点1で確認されている鎌倉群衛との関係も強いと推測できる。

中世では、由比ガ浜地域に限ると、13世紀前半の年代をもつ京都系の手づくねかわらけ皿や貿易陶磁器は極めて限定的な地点でしか確認されていない。これが、浜地の開発が（全面的に行なわれるのは）13世紀中頃以降という説の根拠になっている。しかし、本地点から六地藏にかけての調査では手づくねかわらけ皿が、数は多くないが、出土している。今後、調査資料の増加に即して、浜地内での開発時期や性格について考察を加えていく必要がある。

### 調査地点の年代

中世の出土遺物には手づくねかわらけ皿と白磁玉縁碗片、同安窯青磁皿片が含まれている。これらの遺物は12世紀末から13世紀初めにかけての年代が与えられている。甘縄に近い浜地という立地から早い段階で開発が始まった可能性がある。最も新しい遺物は、近世を除けば、14世紀段階である。

これらのことから、本地点で検出された遺構は13世紀前半の早い段階から14世紀にかけて年代を考えておきたい。

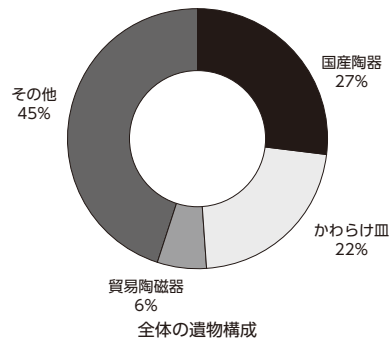
今小路西遺跡 遺物観察表

図版	No.	遺構	種別	口径	底径	器高	備考
7	1	0～1面 掘り下げ	瀬戸卸皿	15.0	9.5	3.9	中期Ⅱ
7	2	0～1面 掘り下げ	瀬戸卸皿	—	—	3.4	
7	3	0～1面 掘り下げ	白磁玉縁碗	—	—	[4.2]	I期
7	4	0～1面 掘り下げ	瓦質香炉	—	—	4.7	
7	5	0～1面 掘り下げ	常滑片口鉢	—	—	[5.3]	Ⅱ類
7	6	0～1面 掘り下げ	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.8	糸切り スノコ痕
7	7	0～1面 掘り下げ	かわらけ皿	(10.9)	(6.3)	2.6	糸切り スノコ痕
7	8	0～1面 掘り下げ	瓦質火鉢	—	—	[12.0]	
7	9	0～1面 掘り下げ	瓦質火鉢	—	—	[6.0]	
7	10	1面 遺構9(土坑)	青磁櫛劃皿	—	(5.0)	[0.8]	同安窯櫛劃文
7	11	1面 遺構9(土坑)	瀬戸壺	—	—	[4.4]	褐釉
7	12	1面 遺構9(土坑)	瀬戸折縁鉢	—	[13.4]	[3.3]	灰釉
7	13	1面 遺構9(土坑)	常滑片口鉢	—	—	[7.0]	Ⅱ類
7	14	1面 遺構9(土坑)	かわらけ皿	(11.6)	(7.5)	3.2	糸切り スノコ痕
7	15	1面 遺構9(土坑)	滑石スタンプ	3.8	3.8	1.4	
7	16	1面 遺構10(土坑)	瓦質火鉢	—	—	[10.5]	
7	17	1面 遺構11(土坑)	かわらけ皿	7.9	4.7	2.5	糸切り スノコ痕
7	18	1面 遺構11(土坑)	かわらけ皿	(12.4)	(8.4)	3.2	糸切り スノコ痕
7	19	1面 遺構3(ピット)	常滑片口鉢	—	—	[4.4]	Ⅱ類
9	20	2面 遺構13(方竪)	瀬戸卸皿	(14.0)	—	[3.5]	中期Ⅰ
9	21	2面 遺構13(方竪)	常滑壺	—	—	[19.3]	
9	22	2面 遺構13(方竪)	常滑搦鉢	—	—	[10.8]	Ⅱ類
9	23	2面 遺構13(方竪)	常滑摺鉢	—	—	11.0	Ⅱ類
9	24	2面 遺構13(方竪)	常滑甕	—	—	[6.4]	6b形式
9	25	2面 遺構13(方竪)	常滑甕	—	—	[7.2]	
9	26	2面 遺構13(方竪)	常滑片口鉢	—	—	[6.5]	Ⅱ類
9	27	2面 遺構13(方竪)	常滑片口鉢	—	—	[6.0]	Ⅱ類
9	28	2面 遺構13(方竪)	常滑片口鉢	—	—	[4.5]	Ⅱ類
9	29	2面 遺構13(方竪)	山茶碗窯片口鉢	—	—	[5.4]	
9	30	2面 遺構13(方竪)	鍔釜	—	—	[2.3]	
9	31	2面 遺構13(方竪)	瀬戸卸皿	—	—	[1.9]	
9	32	2面 遺構13(方竪)	かわらけ皿	7.2	5.1	1.6	糸切り スノコ痕
9	33	2面 遺構13(方竪)	かわらけ皿	7.5	5.2	2.1	糸切り スノコ痕
9	34	2面 遺構13(方竪)	瓦質火鉢	—	—	[9.0]	輪花型
9	35	2面 遺構13(方竪)	磨石	6.2	6.2	—	中央部分に煤付着
9	36	2面 遺構13(方竪)	銅銭	2.4	2.4		淳化元寶
9	37	2面 遺構13(方竪)	銅銭	2.4	2.5		天口通寶
9	38	2面 遺構13(方竪)	銅銭	2.4	2.4		紹聖元寶
9	39	2面 遺構13(方竪)	銅銭	2.5	2.4		元豐通寶
9	40	2面 遺構20(土坑)	古代小型壺	—	(6.4)	[2.8]	
9	41	2面 遺構21(土坑)	須恵器蓋	—	(13.8)	[1.9]	Ⅱ類
9	42	2～3面 掘り下げ	常滑無頸壺	—	—	7.4	
12	43	2面 遺構27(土坑)	白磁口兀皿	—	5.8	[0.8]	打ち欠き
12	44	2面 遺構27(土坑)	瀬戸山茶碗	—	6.0	[2.4]	
12	45	2面 遺構27(土坑)	かわらけ皿	8.0	5.0	1.6	糸切り スノコ痕
12	46	2面 遺構27(土坑)	かわらけ皿	(10.0)	—	[1.4]	手づくね
12	47	3面 遺構29	白磁口兀皿	(9.5)	(4.0)	2.7	
12	48	3面 遺構29	白磁口兀皿	—	—	[3.1]	
12	49	3面 遺構29	コースター	4.3	3.0	1.0	糸切り スノコ痕
12	50	3面 遺構29	かわらけ皿	(8.0)	(6.0)	1.5	糸切り スノコ痕
12	51	3面 遺構29	かわらけ皿	(7.8)	5.0	1.5	糸切り スノコ痕
12	52	3面 遺構29	かわらけ皿	7.2	6.2	1.7	糸切り スノコ痕
12	53	3面 遺構29	かわらけ皿	(7.8)	(5.1)	2.2	糸切り スノコ痕
12	54	3面 遺構29	かわらけ皿	(11.4)	(6.6)	3.1	糸切り スノコ痕
12	55	3面 遺構29	かわらけ皿	(10.9)	(6.3)	3.1	糸切り スノコ痕
12	56	3面 遺構29	かわらけ皿	12.5	7.5	3.2	糸切り スノコ痕
12	57	3面 遺構30(土坑)	瓦質火鉢	—	—	[8.8]	
12	58	3～4面 掘り下げ	かわらけ皿	(8.0)	(5.4)	1.7	糸切り スノコ痕
12	59	5面 遺構19(ピット)	かわらけ皿	8.7	—	1.6	手づくね
12	60	5面 遺構19(ピット)	軽石	7.5	7.1	—	
15	61	5面 遺構34 最下層	高坏脚	—	(8.4)	[8.0]	

## 出土遺物構成

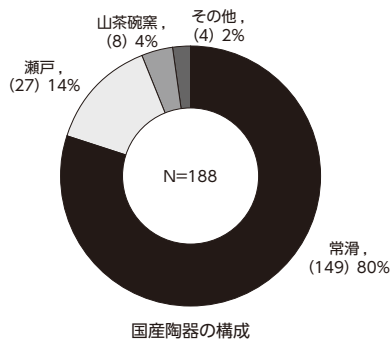
### <全体の構成>

出土遺物の構成は、国産陶器27%、かわらけ皿22%、貿易陶磁器6%、その他の遺物が45%である。



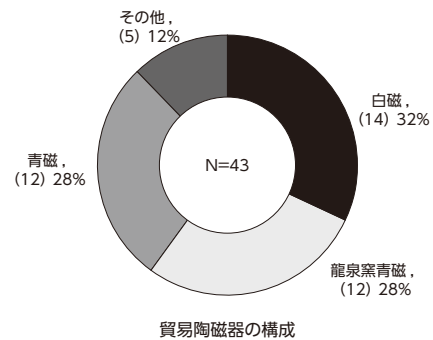
### <国産陶器>

国産陶器は188点出土。常滑(149点)80%、瀬戸(27点)14%、山茶碗窯(8点)4%、その他(4点)2%。その他には、渥美、魚住(各2点)が含まれる。



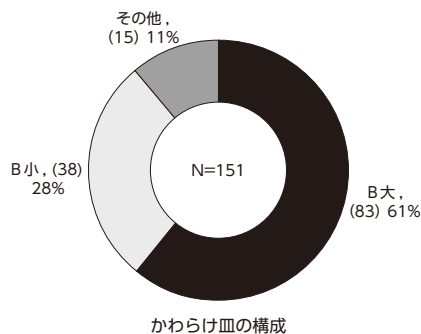
### <貿易陶磁器>

貿易陶磁器は43点出土。白磁(14点)32%、龍泉窯青磁(12点)28%、青磁(12点)28%、その他(5点)12%。その他には、青白磁(3点)、同安窯(2点)が含まれる。



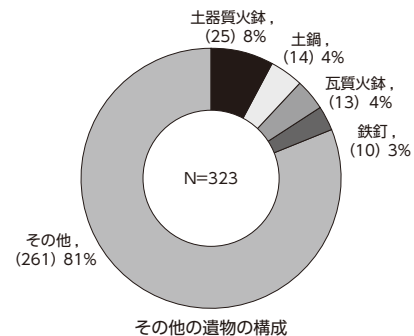
### <かわらけ皿>

かわらけ皿は151点分出土。B大(83点)61%、B小(38点)28%、その他(15点)11%。その他には、C大(3点)、C小、D大、D小(各4点)が含まれる。グラフには含めていないが、C中(20g)、E大、E小(各10g)も出土している。



### <その他の遺物>

その他の遺物は323点出土。土器質火鉢(25点)8%、土鍋(14点)4%、瓦質火鉢(13点)4%、鉄釘(10点)3%、その他(261点)81%。その他には、古代土器、ウマなどの獣骨、銅銭など261点が含まれる。



出土かわらけ構成 (重量) ※単位はg (グラム)

種別	A大	A中	A小	B大	B中	B小	C大	C中	C小	D大	D小	E大	E小	コースター	合計
出土位置															
～1面	—	—	—	1,590	—	1,210	40	—	18	—	—	—	—	—	2,858
1面	—	—	—	1,250	—	40	—	—	5	60	15	10	—	—	1,380
1～2面	—	—	—	1,170	—	328	—	20	—	—	—	—	—	—	1,518
2面	—	—	—	6,715	—	595	25	—	100	37	—	—	—	—	7,472
2～3面	—	—	—	750	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	770
3面	—	—	—	1,570	—	85	10	—	10	—	—	—	—	—	1,675
3～4面	—	—	—	100	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	110
4～4面下	—	—	—	70	—	—	—	—	—	20	10	—	10	—	110
5面	—	—	—	—	—	5	—	—	—	41	10	—	—	—	56
合計	—	—	—	13,215	—	2,293	75	20	133	158	35	10	10	—	15,949

※かわらけ分類について

先頭のアルフアベットは成形・器形を呈し、Aを胎土粉質で口縁部外反するロクロ糸切り成形、Bをそれ以外のロクロ糸切り成形、Cを焼成良好な薄手造りのロクロ糸切り成形、Dを手づくね成形、Eを初期かわらけに見られるロクロ低回転糸切り・静止糸切り成形で器表面をナデ調整しないタイプとした。後部の漢字は器種を示し、大皿を大、中皿を中、小皿を小とした。コースターは器壁の極端に低い極小型かわらけを示す。

面別かわらけタイプ比率

種別	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ	Eタイプ	コースター	合計
出土位置							
～1面	0.000%	97.971%	2.029%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
1面	0.000%	93.478%	0.362%	5.435%	0.725%	0.000%	100.000%
1～2面	0.000%	98.682%	1.318%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
2面	0.000%	97.832%	1.673%	0.495%	0.000%	0.000%	100.000%
2～3面	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
3面	0.000%	98.806%	1.194%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
3～4面	0.000%	100.000%	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	100.000%
4～4面下	0.000%	63.636%	0.000%	27.273%	9.091%	0.000%	100.000%
5面	0.000%	8.929%	0.000%	91.071%	0.000%	0.000%	100.000%
合計	0.000%	97.235%	1.430%	1.210%	0.125%	0.000%	100.000%

出土遺物構成 (点数) ※かわらけを除く

種別 出土位置	常滑			山茶碗窯			瀬戸						備前	青磁	青白磁	白磁
	碗・皿類	甕・壺類	盤・鉢類	碗・皿類	鉢類	鉢・皿類	壺・瓶類	盤・鉢類	小型品	渥美	龜山	魚住				
～1面	—	30	1	—	—	1	1	2	—	—	—	—	5	—	—	3
1面	—	18	1	—	—	4	1	2	—	—	—	—	1	—	—	1
1～2面	2	—	2	—	—	3	—	—	—	1	1	—	8	—	—	3
2面	—	70	6	—	—	4	1	3	1	1	1	—	7	—	—	7
2～3面	—	4	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
3面	—	12	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
3～4面	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4～4面下	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	2	137	10	0	8	16	3	7	1	2	0	2	26	—	—	14

種別 出土位置	土器		瓦	古代土器	転用品	鉄製品	銅製品	石製品	骨製品	鋳滓	土壁	自然遺物	合計
	火鉢	その他											
～1面	8	3	—	—	—	2	—	—	—	—	—	1	58
1面	3	3	—	125	1	2	—	2	—	—	—	2	166
1～2面	5	1	—	1	—	2	—	1	—	—	13	—	46
2面	8	8	2	13	—	5	8	—	1	2	2	16	173
2～3面	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	8
3面	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	—	—	20
3～4面	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
4～4面下	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	1	—	3
5面	1	—	—	62	—	—	—	1	—	1	—	—	66
合計	25	16	3	204	1	11	8	5	1	4	16	19	544



1. 1面全景  
(西から)



2. 1面全景  
(北から)



3. 1面遺構9  
(西から)



1. 2面全景  
(北から)



2. 2面b (上方) と  
5面 (南から)



3. 2面遺構 13  
(南から)





1. 4面全景  
(北から)



2. 5面全景  
(北から)



3. 5面遺構34  
(北から)



1. 東壁土層断面  
(西から)



2. 北壁土層断面  
(南から)



3. 南壁土層断面  
(北から)

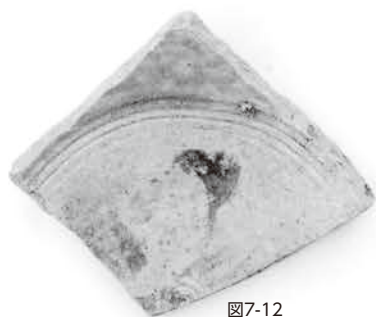


图7-12



图7-11

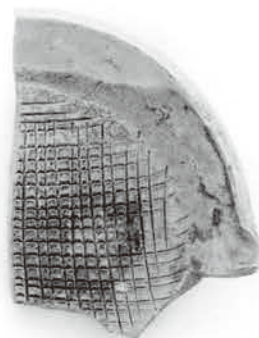


图7-1



图7-10



图7-13



图7-3

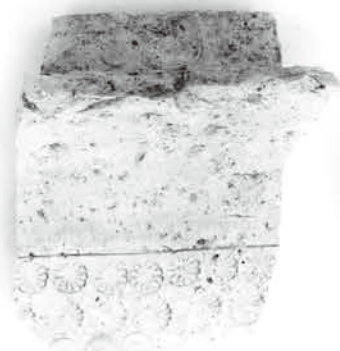


图7-8

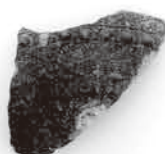


图7-4



图1-16



图7-5



图7-9

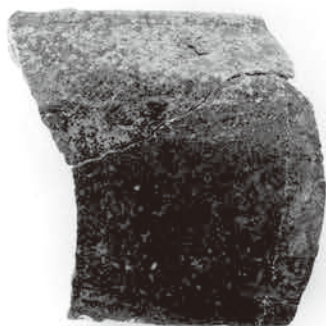


图9-42



图9-41 (内)



(外)



图15-61

出土遺物 (1)



图7-18

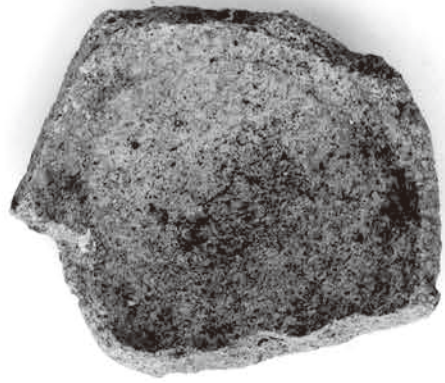


图12-44



图12-51



图12-56



图12-48 (内)

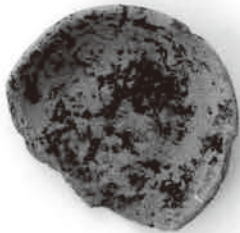
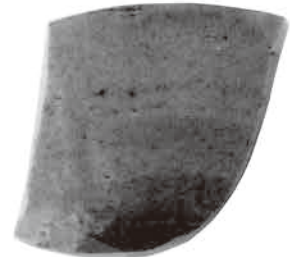


图12-52



图12-49



(外)

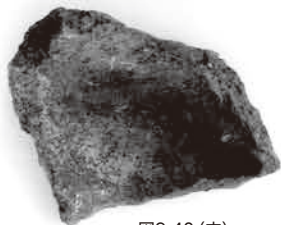


图9-40 (内)



图12-47 (内)



(外)



(外)

出土遺物 (2)

# 名越ヶ谷遺跡 (No.231)

大町四丁目 1888 番の一部

## 例 言

1. 本報は、「名越ヶ谷遺跡 (No.231)」内、大町四丁目 1888 番の一部における、埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 発掘調査は、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査期間は平成 19 年 6 月 25 日～同年 7 月 25 日にかけて行い、調査面積は 24m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査体制は以下のとおりである。  
調査担当者：山口 正紀（鎌倉市文化財課臨時的任用職員）  
調査員：原 廣志・福田 誠（鎌倉市文化財課嘱託職員）  
鈴木絵美・小野夏菜・柁岡ケイト（鎌倉市文化財課臨時的任用職員）  
作業員：佐藤美隆、金丸義一、永井雄一郎、堀住 稔（社団法人鎌倉市シルバー人材センター）
4. 現地での写真撮影は山口が行った。
5. 本報作成にあたっての資料整理参加者及び分担は以下のとおりである。  
整理参加者：山口・赤堀祐子・岡田慶子・須佐仁和・本城 裕・吉田桂子・渡辺美佐子（鎌倉市文化財課臨時的任用職員）、椎木達哉（鶴見大学大学院）  
遺物洗浄：鎌倉市シルバー人材センター  
遺物注記・接合・分類：山口・本城・吉田・椎木 遺物実測：山口・本城・渡辺  
遺物・遺構トレス：山口・岡田・吉田 遺構・遺物図版作成：岡田・山口・赤堀  
観察表・写真図版作成：山口 遺物写真撮影：須佐  
原稿執筆：山口
6. 本報告に係わる出土品及び記録図面・写真等の資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。
7. 本調査にかかる出土遺物の注記は遺跡名を「NG0705」と略して記した。
8. 本報の凡例は以下のとおりである。  
各図における基本縮尺は、以下のとおりである。同時に、各図に縮尺を表記している。  
挿図縮尺 全測図：1/80 遺構図：1/40 遺物図：1/3  
遺構図版 水糸高は海拔標高値を示す。  
遺物図版 釉薬の範囲は・ - ・ - ・、加工・使用痕は←・→で範囲を示す。また、遺物にみられる煤痕は黒く塗りつぶし表現している。  
遺物観察表 ( ) は復元数値、[ ] は遺存数値を示す。手捏ね成形の底径範囲は口縁部下位の外底指頭痕との稜部の直径と平置きした時の接地面の直径を示す。
9. 本報記載の「土丹」は凝灰質泥岩、「鎌倉石」は粗粒凝灰岩を示す。
10. 現地調査から本報作成に至るまで、以下の諸氏、諸機関に御教示・ご協力を賜った。記して感謝の意を表したい。(順不同、敬称略)  
汐見一夫、原 廣志、馬淵和雄、社団法人鎌倉市シルバー人材センター

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡の位置と環境 .....	265
1. 遺跡の位置	
2. 地理的・歴史的環境	
3. 周辺遺跡の調査成果	
第二章 調査の概要 .....	271
1. 調査の経緯と経過	
2. 測量軸の設定	
3. 堆積土層	
第三章 検出遺構と出土遺物 .....	276
1. 1面の遺構と遺物	
2. 2面の遺構と遺物	
3. 3面の遺構と遺物	
4. 4面の遺構と遺物	
第四章 まとめ .....	301

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺遺跡 .....	265	図14 2面土坑出土遺物 .....	284
図2 調査区と建築範囲 .....	271	図15 2面ピット出土遺物 .....	286
図3 国土座標位置図 .....	272	図16 2面遺構外出土遺物 .....	288
図4 国土座標とグリッド配置図 .....	273	図17 3面全測図 .....	289
図5 調査区壁土層堆積図 .....	274	図18 3面土坑・ピット(1) .....	290
図6 1面全測図 .....	276	図19 3面土坑・ピット(2) .....	291
図7 1面土坑・ピット .....	277	図20 3面各遺構出土遺物 .....	293
図8 1面各遺構出土遺物 .....	278	図21 3面遺構外出土遺物(1) .....	294
図9 1面遺構外出土遺物 .....	279	図22 3面遺構外出土遺物(2) .....	295
図10 1面構築土中出土遺物 .....	280	図23 4面全測図 .....	296
図11 2面全測図 .....	281	図24 4面土坑・ピット .....	297
図12 2面柱穴列1・2 .....	282	図25 4面各遺構出土遺物 .....	298
図13 2面土坑・ピット .....	283	図26 4面遺構外出土遺物 .....	300

## 表 目 次

表1 遺物観察表(1)……………	302	表7 遺物観察表(7)……………	308
表2 遺物観察表(2)……………	303	表8 遺物観察表(8)……………	309
表3 遺物観察表(3)……………	304	表9 遺物観察表(9)……………	310
表4 遺物観察表(4)……………	305	表10 遺物観察表(10)……………	311
表5 遺物観察表(5)……………	306	表11 層位別出土遺物一覧表……………	312
表6 遺物観察表(6)……………	307		

## 図 版 目 次

図版1……………	313	図版4……………	316
1. 1面全景(南から)		1. 4面全景(南から)	
2. 1面全景(北から)		2. 4面P1・8(南から)	
3. 1面土坑1(南から)		3. 調査区東壁土層堆積状況(北西から)	
4. 1面上東播系捏鉢出土状況(南から)		4. 調査区北壁土層堆積状況(南から)	
図版2……………	314	図版5……………	317
1. 2面土坑1(南から)		出土遺物(1)	
2. 2面全景(北から)		図版6……………	318
3. 2面柱穴列(南から)		出土遺物(2)	
4. 2面P5・10・4(南から)		図版7……………	319
5. 2面P8・7・9(南から)		出土遺物(3)	
6. 2面P2・12(南から)		図版8……………	320
図版3……………	315	出土遺物(4)	
1. 3面全景(南から)		図版9……………	321
2. 3面全景(北から)		出土遺物(5)	
3. 3面土坑4内出土かわらけ(東から)		図版10……………	322
4. 3面土坑6内出土常滑甕(南から)		出土遺物(6)	
		図版11……………	323
		出土遺物(7)	



# 第一章 遺跡の位置と環境

## 1. 遺跡の位置

本遺跡名称である名越ヶ谷遺跡は鎌倉市域の南東に位置する名越切通しに向かう県道鎌倉・葉山線の北側一帯に位置し、東側には鎌倉で最高峰の衣張山（標高126m）が複雑に入り組んだ大小の支谷と平地の広範囲で構成される。名越ヶ谷は奥行1000m以上、谷幅500m以上を測る範囲を指し、現住所表記は大町三丁目、四丁目、六丁目、七丁目に所在する。

名越ヶ谷内には周囲の複数の小谷戸からの流水や衣張山を水源とする逆川が谷戸のほぼ中央を南下し、大町大路の南辺りで西へと流れを変え、材木座一丁目上河原で滑川に合流する。本調査地点（図1）は西に近接して逆川があり、その名越ヶ谷内の開口部奥、J R横須賀線鎌倉駅から南東に約1000m、鎌倉市大町四丁目1888番の一部に所在する。

神奈川県遺跡台帳における谷戸内の遺跡名は、山稜部を除いて、本調査地点の遺跡名である名越ヶ谷遺跡（No.231）、中央東側のやや広い南東に延びる谷戸を慈恩寺跡（No.230）、北西部に名越山王堂遺跡（No.234）、北端部に北条時政邸跡（No.235）、調査地点南東に位置する安国論寺遺跡（No.323）が登録されている。また、遺跡地南辺を東西に走る県道鎌倉・葉山線を境に、南側には大町二丁目を範囲とする米町遺跡（No.245）が広がる。



図1 調査地点と周辺遺跡

## 2. 地理的・歴史的環境

鎌倉市内を東西に走る県道鎌倉・葉山線は、長谷観音前から鎌倉市の主要幹線道路である若宮大路の間部に位置する下馬四つ角交差点を通り、鎌倉七口に数えられる名越切通しの下を通る名越隧道、逗子を通り三浦まで至る道路が横断する。鎌倉時代には下ノ下馬から名越坂、もしくは長勝寺付近にかかる範囲を大町大路と想定され、名越坂を越えて逗子の沼浜、三浦郡へと通じていた。若宮大路や小町大路と大町大路が交叉する周辺が中世鎌倉の商工業の中心地、「大町」であったことに由来し、「町大路」とも称された。また、源頼朝入府以前には稲村ヶ崎から三浦半島に入る古東海道筋の一つで、鎌倉の東西を結ぶ主要な交通路であったと想定される。

大町大路が三浦に抜ける一帯の地域を名越といい、このあたりの坂及び切通しが難所で「難越（＝越え難し）」と呼ばれたことが由来とされる。「名越」という名称が文献資料に見られるのは、『吾妻鏡』建久三（1192）年七月十八日条で、北条政子が北条時政の「名越御立館浜御所」を産所にしたとあるのが初見であり、建永元（1206）年二月四日条に、二代将軍源実朝が「名越山」（谷戸周辺に連なる山の総称か）で雪見をし、相州（＝北条義時）の山荘において和歌の会に臨む記事など、同資料にもしばしば散見される。このような記述から、鎌倉時代初期の頃より地名として成立していることがわかる。奈良・平安期には鎌倉郡内にある七郷の一つ、現二階堂荏柄天神から大町付近までを含む一帯に荏草（えがや）郷という郷名が在る。名越はその内の小字であったと考えられ、南方の光明寺辺りまでをも含めた広範囲を総称していたようだが、頼朝入府後に鎌倉の内となったとされる。この地は鎌倉東部の出入口になる空間で、幕府を開く前後の時期には地勢的な部分からみれば交通・防御の要所となり、幕府要職など御家人などが居を構えている記録も多く残っている。

「名越殿」と呼ばれた北条時政が遺跡名称にも見られるとおり、釈迦堂切通し周辺に「名越亭」あるいは「浜御所」と云われた館をもち、前述したように政子の御産所に使用された旨や実朝元服の儀を行った背景などがみられる。さらに、義時の名越山庄もあったとされており、その子朝時が譲り受け「名越氏」と名乗るようになってから、名越亭を本拠地としているが、当時、二ノ鳥居付近から海岸部飯島までの広大な範囲が「名越」の内に入っており、「浜御所」という海岸部付近を想像させる呼称などを考慮すると、現在の名越ヶ谷内に位置していたことは考えにくい。また、そのうちには多数の支谷が含まれていることから、特定できる位置は不明とせざるをえない。そのほか、名を残すものに新羅三郎義光が後三年の役後、館を構え、後に佐竹秀義なども居住したと伝えられる佐竹屋敷や名越文庫が在ったと伝える三善善信邸はこの域内であるとされている。

現在、谷戸の開口部には寺院が集中しており、東方支谷に四つの小谷戸から成る松葉ヶ谷がある。谷内には妙法寺、安国論寺、長勝寺があり、調査地点の東の小谷戸に妙法寺、南に安国論寺、長勝寺が現存している。いずれも日蓮宗である。

妙法寺は山号を楞嚴山。開山は日蓮、中興開山を日叡とされる。寺地は日蓮の松葉ヶ谷御小庵の跡といわれ、『新編相模国風土記稿』によれば初めに日蓮を開山とする本圀寺が京都に転じたため、護良親王の遺子日叡が正平12〔延文2〕（1357）年、同地に伽藍を再興したと伝える。

安国論寺は山号を妙本山。開山は日蓮。寺伝では建長五（1253）年に日蓮が安房国から鎌倉に来たのち草庵した地とされる。境内には『立正安国論』を執筆したという巖窟がある。文応元（1260）年七月、北条時頼に『立正安国論』をすすめて、災難の禍根は近時盛行している浄土念仏・阿弥陀信仰にあるとして鎌倉の僧徒たちの怒りを買って、焼打ちにあった。その法難の跡地とも伝えられている。安国論寺の南、県道鎌倉・葉山線と横須賀線線路を隔てた場所に長勝寺が在る。

長勝寺は山号を石井山と号し、開山は日蓮、開基は石井長勝という。京都本圀寺の前身で、日蓮に帰依した石井長勝の創建という説、あるいは貞和元（1345）年、京都に移った本圀寺旧地を日静が再興したと

いう説がある。

調査地点西方の小谷戸には、開山を日出とする多福山一乗院大宝寺がある。『相模国風土記』では、佐竹義盛が応永六（1399）年、鎌倉に多福寺を建立したが、早くに廃寺になってしまい、そこに日出がまた寺を立て、前の寺号を山号にしたのであろうとしている。また、寺域は佐竹屋敷という伝承があり、寛政八（1796）年の鐘銘に「名越佐竹屋舗多福寺大宝寺 日顕代」とあるのが根拠としている

上記の寺院のほかに、名越ヶ谷内には廃寺の記録が残る慈恩寺、木束寺、山王堂、田代観音堂などがある。足利直冬の菩提寺で臨済宗、禅宗寺院の慈恩寺は花ヶ谷にあり、山号を白華という。元亨三（1333）年の『北条貞時十三年忌供養記』にはこの寺の名が記されており、すでに鎌倉時代には成立していたことは明らかである。そのほかの史料から文明末（1485年）には廃絶していた模様である。また、同じ谷戸内に木束寺という寺院があったとされるが詳細な記録は残っていない。

北西部に位置する山王ヶ谷には宗旨未詳であるが山王堂があったとされる。『吾妻鏡』建長四（1252）・建長六（1254）・弘長（1263）年条には、それぞれ火災によって延焼の記事があり、『山王靈験記』には名越山王堂の絵がわずかに見られる。鎌倉時代中期には存在していたが、その後の動向などがわからず、廃絶した時期も不明である。

### 3. 周辺遺跡の調査成果

名越ヶ谷遺跡内での発掘調査はこれまで約20地点行われており、調査地周辺の谷戸開口部に集中して実施されている。以下、過去の調査地点における結果を踏まえ、周辺の様相を概観していく。はじめに、開口部周辺での7～10地点は逆川の西側に位置し、中世前期の様相が明らかになっている。7地点では13世紀前半期、逆川旧流路の西側に付随する護岸施設が検出されている。中世基盤層を削り設置されているのを初めに、木組み単体や木組みと石積みで構成される施設の組み直しが3回以上あることが明らかになっている。また、基盤層から落ち込む場所から古代以前の遺物が出土している。その後実施された10地点の調査では、7地点の流路の延長が確認されていて、9地点では掘立柱建物2棟と井戸、多数の柱穴が検出されていることから、逆川西側に位置する武家屋敷あるいは寺院の一角と推測されている。また、未報告だが20地点でも逆川の西側落ち込みが確認されている。開口部西端に位置する2地点では5時期以上の生活面と大町大路と同軸方向の掘立柱建物とそれに沿って泥岩で版築したL字形の通路などが発見されている。さらに、本調査地点南西に位置する6地点でも5時期以上の生活面とそれに伴う掘立柱建物が2時期、中世以前の落ち込みが一部確認され、両地点とも出土遺物から13世紀初頭～15世紀代と幅広く土地利用されている。

谷戸の奥に入っていくと中間部に2・16地点がある。2地点では4時期の遺構面が確認され、中世基盤層である4面では掘立柱建物に近接して目障りと思われる板壁が残存しており、13世紀中葉～後葉にかけての武家屋敷地内にある建物と考えられている。16地点では14世紀中頃～後半期に、現在の道路と並行する道路状遺構が検出され、現在に至るまで道筋に変化がない様相が窺えた。14世紀前半期には炉址、鑄造遺構などの可能性を想定させる遺構も確認されているが、確証には至っていない。両地点から東に200mほどの位置に5地点がある。5時期以上の生活面が確認され、13世紀後半には庶民的居住域と想定される遺構群や遺物が検出され、14世紀代以降には寺院または武家屋敷地利用の際における谷戸造成の変遷を確認している。

谷戸の北端部に位置する22地点は北条時政邸跡の伝承地とされる範囲内において重要遺跡確認調査とする発掘調査が行われたが、調査結果からそれを示唆する遺構の様相は窺えず、掘立柱建物や礎石列、玉石敷き、火葬跡などが検出された。平場では13世紀後半から15世紀以降の谷戸造成の様相が明らかになり、周囲の山腹に日月やぐらや唐糸やぐらなど多数のやぐらが残っていることから、未知の宗教的な空間

という可能性が大きいと推測されている。後に、遺跡名称を「北条時政邸跡」から「大町釈迦堂口遺跡」に名称変更されている。

上記のように名越ヶ谷内は、武士の邸宅あるいは寺院・やぐらに示されるような宗教的空間であった地域であることが少なからずわかり、開口部においては古代以前の土器片が出土していることから、古東海道であったとされる大町大路周辺には中世以前の土地利用の様相も窺える。

次に、県道南側に広がる米町遺跡での主な調査結果もわずかながらみていく。28地点では北半部に掘立柱建物、南半部では逆川に向かい傾斜がつき、鉄滓や轆の羽口など金属生産に関係する遺物が多数出土していることから、それに関連した場所であると推測される。北側に近接した31地点では、隣接して2ヶ所の調査区が設定され、北側調査区では鎌倉時代後～末期の道路遺構とする泥岩版築面が検出された。これと同一とする続きの遺構が35地点の北部で2時期検出されている。13世紀中～後葉と思われる時期に佐助ヶ谷遺跡(税務署用地)と同類の間取りのある簡素な構造もつ板壁建物群が確認されており、都市内における庶民居住区もしくは工人の作業場という様相を示している。以上の調査地点は、小町大路と言われる若宮大路東側を南北に縦貫する道路の東辺、現在逆川が蛇行した場所に立地しており、その結果から工人関係の遺構や遺物が確認されていることは、大町大路との関係やこの一帯の生活空間を考える上で興味深いことである。

逆川の西側に位置した27地点では井戸や方形竪穴建物群や土坑が数多く検出され、13世紀代の遺物が出土している。東側に位置する30地点でも同様に井戸、方形竪穴建物が検出され、13世紀前半から14世紀中頃までの年代観が考えられている。このように、米町遺跡内では13世紀前半期には遺跡が成立しており、古代以前にも土地利用がみられる。

## 引用・参考文献

- 石井進ほか編 1989『よみがえる中世3 武士の都鎌倉』平凡社  
鎌倉市史編集委員会 1959『鎌倉市史 社寺編』吉川弘文館  
河野真知郎 1995『中世都市鎌倉一遺跡が語る武士の都一』講談社メチエ 49  
白石永二編 1976『鎌倉事典』東京堂出版  
高橋慎一郎 2005『武家の古都、鎌倉』日本史リブレット21 山川出版社  
永原慶二・貴志正造 1977『全譯 吾妻鏡』第二巻 新人物往来社  
永原慶二・貴志正造 1977『全譯 吾妻鏡』第三巻 新人物往来社  
永原慶二・貴志正造 1977『全譯 吾妻鏡』第四巻 新人物往来社  
貫達人・川副武胤 1989『鎌倉廃寺事典』有隣堂  
三浦勝男編 2005『鎌倉の地名由来辞典』東京堂出版社

## 調査地点一覧

図1には神奈川県遺跡台帳に登録されている遺跡名称を番号のみ表記した。対応する名称は末尾に記す。また、報告・未報告のやぐら調査に関しては図には示さなかった。

### 安国論寺(No.323)

- 1: 1973年3月調査。松尾宣方 1983「45. 安国論寺境内 大町四丁目1947番」『鎌倉市埋蔵文化財調査年報Ⅰ』鎌倉市教育委員会

### 名越ヶ谷遺跡(No.231)

- 2: 1985年8月調査。玉林美男 1986「3. 名越ヶ谷調査 大町三丁目1367番4地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2 昭和60年度発掘調査報告』鎌倉市教育委員会  
3: 1993年5月調査。田代郁夫・大坪聖子 1995「1. 名越ヶ谷遺跡 大町四丁目1880番6外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 平成6年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会

- 4：1993年7月調査。菊川英政 1995「4. 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町三丁目1217番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 平成6年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 5：1996年2月調査。遠藤雅一・宗臺秀明・宗臺富貴子 1998「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1736番2外」『鎌倉市埋蔵文化財調査報告書14 平成9年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 6：1998年12月調査。汐見一夫ほか 2000「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町四丁目1888番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 7：2000年8月調査。手塚直樹・野本賢二 2002「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町三丁目1826番9地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 平成13年度発掘調査報告(第2分冊)』
- 8：2000年8月調査。宮田眞 諸星真澄 滝澤晶子 2001『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷遺跡発掘調査団・宮田事務所 — 大町三丁目2356番3地点
- 9：2001年1月調査。宮田 眞 2003「5. 名越ヶ谷遺跡 大町三丁目2356-11地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会
- 10：2001年4月調査。福田 誠 2003「9. 名越ヶ谷遺跡 大町三丁目2356番10地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会
- 11：2001年9月調査。森 孝子 2004「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町七丁目1615番8地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 平成15年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 12：2001年11月調査。宮田 眞 2003「(医療法人財団額田記念会 老健ぬかだ 建設に伴う発掘調査)」『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷遺跡発掘調査団・有限会社博通
- 13：2001年11月調査。宮田 眞 2000「名越ヶ谷遺跡 大町三丁目2356番3地点」『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷遺跡発掘調査団・宮田事務所
- 14：2002年7月調査。汐見一夫・小泉衣理 2004「名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町六丁目1708番4地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 平成15年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 15：2003年2月調査。滝沢昌子 2006「04. 名越ヶ谷遺跡 大町四丁目2395番2の一部外1筆」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 平成年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 16：2003年4月調査。森 孝子 2004「鎌倉市大町三丁目1364-1の1部、他」『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』有限会社博通
- 17：2005年7月調査。未報告 — 大町四丁目2406番1地点
- 18：2006年1月調査。未報告 — 大町三丁目1230番4外地点
- 19：2006年5月調査。未報告 — 大町四丁目1858番4地点
- 20：2007年12月調査。未報告 — 大町三丁目2353番2外地点
- 21：2010年5月調査。未報告 — 大町六丁目1708番23外地点

#### 名越山王堂跡 (No.234)

- 23：1986年12月調査。齊木秀雄 1990「電通鎌倉研修所改築に伴う中世寺院跡の発掘調査報告」『名越・山王堂跡発掘調査報告書』山王堂跡発掘調査団
- 24：2005年8月調査。未報告 — 大町三丁目1362番1地点

#### 大町釈迦堂口遺跡 (No.235)

- 22：2008年調査。永田史子・福田 誠 2009『大町釈迦堂口遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会

#### 大町五丁目北廃寺跡 (No.399)

- 25：2000年2月調査。森 孝子・堀川浩通 2001「一 鎌倉市大町5丁目1991番3外一」『大町五丁目北廃寺跡発掘調査報告書』大町五丁目北廃寺跡発掘調査団・宮田事務所

#### 米町遺跡 (No.245)

- 26：1988年7月調査。福田 誠 1989「1. 米町遺跡 大町二丁目2411番2地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5 昭和63年度発掘調査報告』鎌倉市教育委員会
- 27：1988年7月調査。原 廣志・田代郁夫 1990「4. 米町遺跡 大町二丁目933番他」『鎌倉市埋蔵文化財緊急：調査報告書6 平成元年度発掘調査報告』鎌倉市教育委員会
- 28：1993年7月調査。馬淵和雄 1995「3. 米町遺跡 大町二丁目2315番外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 平成年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 29：1996年3月調査。田代郁夫・宗臺富貴子 1998「米町遺跡 (No.245) 大町二丁目391番1」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 平成9年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 30：1997年11月調査。宮田眞・滝沢晶子・諸星真澄 1999「米町遺跡発掘調査報告書 鎌倉市大町二丁目2338番1」米町遺跡発掘調査団・宮田事務所
- 31：1998年12月調査。齋木秀雄・降矢順子 2000「一 第6地点、第7地点発掘調査報告書一」『鎌倉遺跡調査会調査報告第20集 米町遺跡』鎌倉市米町遺跡発掘調査団・鎌倉遺跡調査会 — 大町二丁目2312番4・10他地点
- 32：1999年4月調査。福田 誠 2000「米町遺跡 (No.245) 大町二丁目2404番の一部地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調

査報告書16 平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市教育委員会

- 33：1999年9月調査。瀬田哲夫 2001「米町遺跡(No.245) 大町二丁目2313番15地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 平成12年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 34：1999年12月調査。瀬田哲夫 2001「米町遺跡(No.245) 大町二丁目2308番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 平成12年度発掘調査報告(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 35：2001年1月調査。齋木秀雄・降矢順子 2005「一 第10地点 一」『米町遺跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 一 大町二丁目2320番1地点
- 36：2001年8月調査。馬淵和雄・鍛冶屋勝二 2004「米町遺跡(No.245) 大町二丁目2324番1外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 平成15年度発掘調査報告(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 37：2003年8月調査。馬淵和雄・鍛冶屋勝二ほか 2008「米町遺跡(No.245) 大町二丁目2235番3地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24 平成19年度発掘調査報告』鎌倉市教育委員会
- 38：1988年3月調査。未報告 一 大町二丁目929番地点
- 39：2011年4月調査。未報告 一 大町二丁目9番10地点

No.	遺跡名称	No.	遺跡名称	No.	遺跡名称	No.	遺跡名称
81	衣張山やぐら群	229	長善寺遺跡	240	宝積寺跡	314	能蔵寺跡
82	釈迦堂口やぐら群	230	慈恩寺跡	257	釈迦堂遺跡	400	報満寺跡
83	釈迦堂口トンネル上 尾根やぐら群	232	妙本寺遺跡	280	善導寺跡	402	名越砦遺跡
87	鎌倉城	233	小町大路東遺跡	312	名越坂古墓遺跡	452	山王堂東谷やぐら群
133	勝長寿院遺跡	241	鑪ヶ谷中やぐら群	313	長勝寺跡		

## 第二章 調査の概要

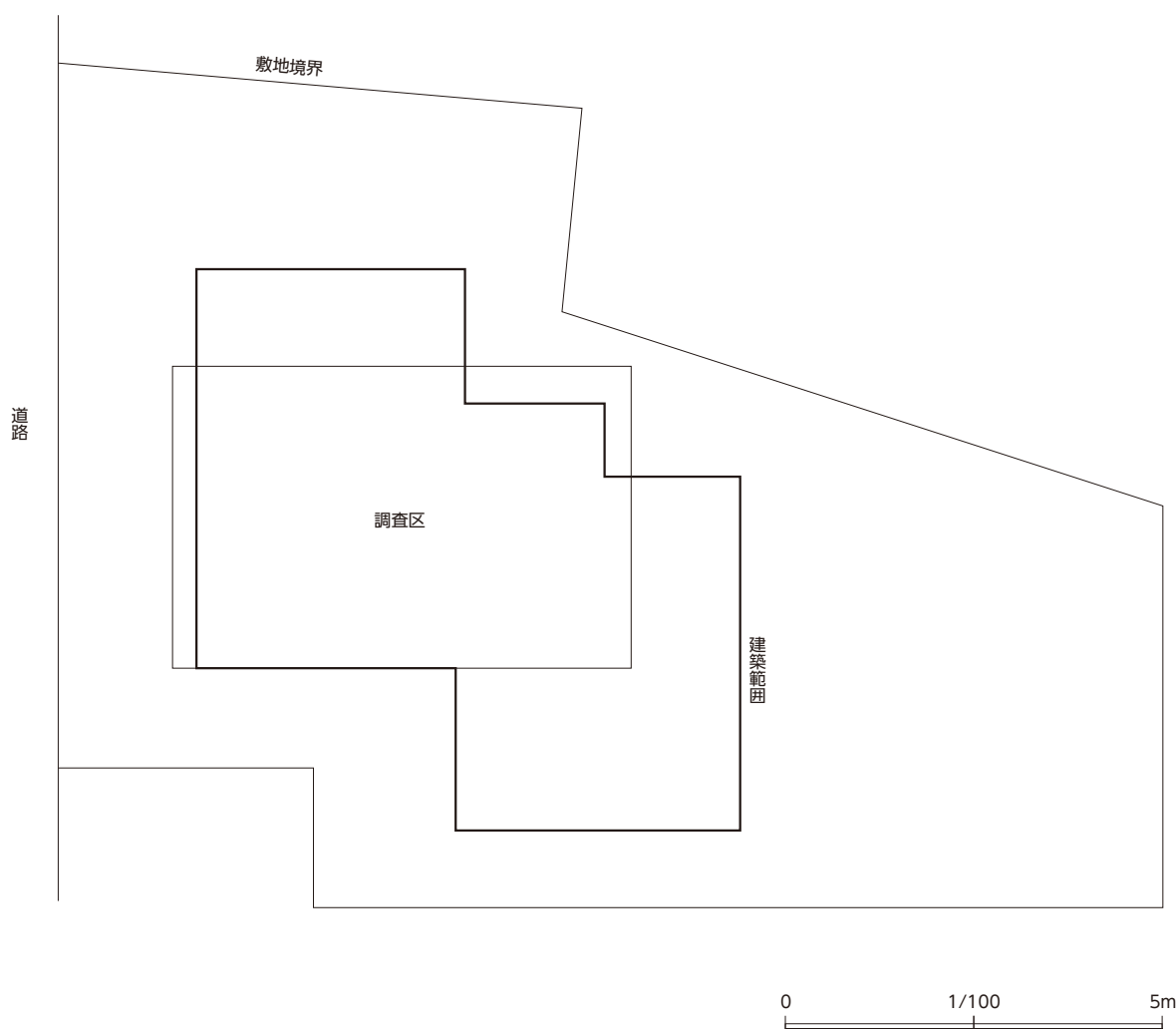


図2 調査区と建築範囲

### 1. 調査の経緯と経過

平成19（2007）年3月、個人専用住宅の建設に係る事前相談があり、基礎工事に際して現地表から最大掘削深度1 mまでの地盤改良工事をおこなうものであった。平成10年12月に本地点より西側40 mほどの近隣の発掘調査が実施され、地表下60 cm以下に中世遺物包含層および遺構面の存在が確認されていることからその調査結果をもとに埋蔵文化財への影響が避けられないと判断し、確認調査を行わなかった。建築主との協議において工事計画の変更は困難との意向が示されたため、文化財保護法第57条の2の届出手続きを行い、施工者との工程調整に続き、発掘調査の準備が整った平成19年6月25日から現地での発掘調査を実施した。敷地面積116.71㎡に対して建築面積＝調査対象面積は36.99㎡になるが、廃土置き場と調査予定期間の都合上、鎌倉市教育委員会文化財課の判断で建築範囲の中央部分約24㎡を対象とした（図2）。

地点5の調査結果をもとに、6月25日に建築主と施工業者の立会いの下、重機により一部表土掘削を行い、中世遺構を確認したのち、現代層30 cmほどを除去し、以下人力による作業で調査を進行した。

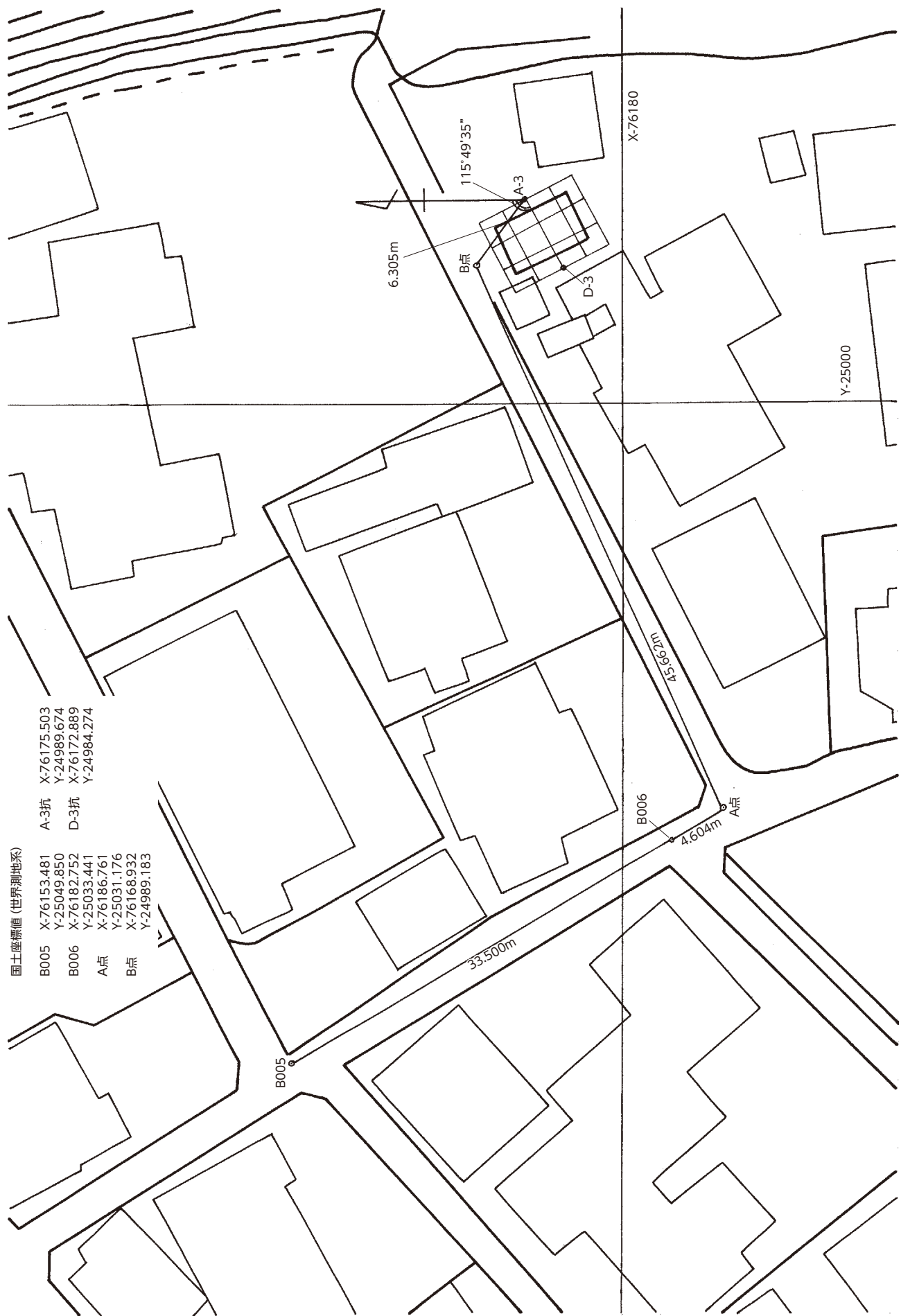


图3 国土座標位置图 (1/400)



その結果、地表から深さ1 mまでの間に4枚の遺構面を確認し、各面において柱穴・土坑を検出後、測量・写真撮影などの記録保存を行った。現地終了時には遺物天箱10箱分の遺物が出土した。

以下、作業経過を抜粋して記載する。

6月25日(月) 現地調査開始。重機による表土掘削。

6月29日(金) 機材搬入。

7月3日(月) 現地に測量用のグリッドを設定。鎌倉市3級基準点及び4級基準点より海拔標高値と国土座標値を測量点に移動。同時に1面遺構検出。

7月5日(木) 1面全景・個別写真撮影。全測図実測。

7月12日(木) 2面全景・個別写真撮影。全測図実測。

7月19日(木) 3面全景・個別写真撮影。全測図実測。

7月23日(月) 4面全景・個別写真撮影。

7月24日(火) 4面全測図実測。調査区北・東壁写真撮影および土層堆積図実測。

7月25日(水) 現地調査終了。機材撤収。

## 2. 測量軸の設定

調査結果を記録保存していく上で、調査時の測量は便宜上、調査区にほぼ平行した任意の方眼軸を設けた。したがって、国土座標上の方眼軸とは一致していない。測量軸の設定には先行して調査地点敷地内にA-3杭とD-3杭を設定し、図3に示したように、調査地西側を南北に走る道路面上に設定された鎌倉市4級基準点B005とB006を用いて、調査測量基準点にあたるA-3杭とD-3杭に国土座標上の数値を移動した。測量軸は2 m方眼による軸線を用い、南北軸線には北から算用数字の1～5、東西軸線には東からアルファベットA～Dを付してグリッド設定を行った。A-3杭

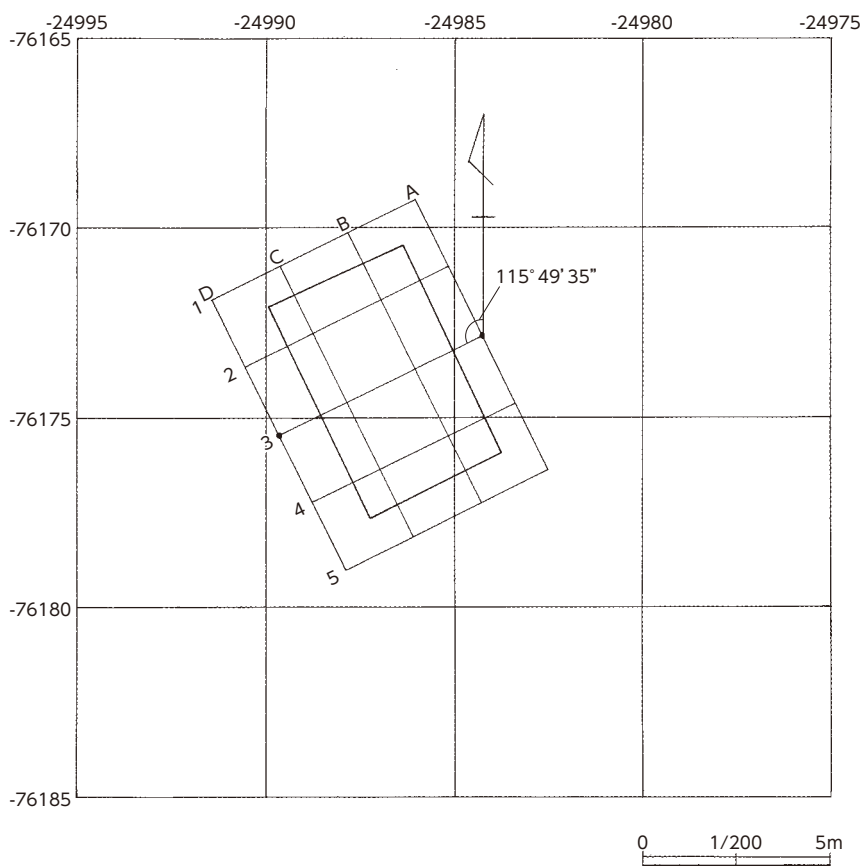


図4 国土座標とグリッド配置図

とD-3杭の東西軸線は真北から $N-115^{\circ}49'35''-W$ を測る。

国土座標値に関しては、現地調査時において日本測地系(座標系AREA9)を用いて測量をした。後に整理作業段階において国土地理院ホームページに設置されている座標変換ソフト『web版TKY2JGD』により世界測地系第IX系の座標数値へ変換したものを図3に記し、調査地点と国土座標系の詳しい位置関係は図

4に示した。また、海拔標高値は、鎌倉市三級基準点No.53229（標高11.168m）を基に移設した。

### 3. 堆積土層

本調査では地表から1mまでを地盤改良工事する施工計画になっており、調査を進める上で遺構や水抜き側溝など計画深度よりも深くなる部分は各関係者より掘り下げの了承を得ており、そこまでの範囲の堆積のみ確認した(図5)。以下、調査区内にて観察した土層堆積の状況を概観していく。

現地表は標高11.40～50mを測る、少量の近代遺物やコンクリート片を含む1層が最大20cmの厚さ

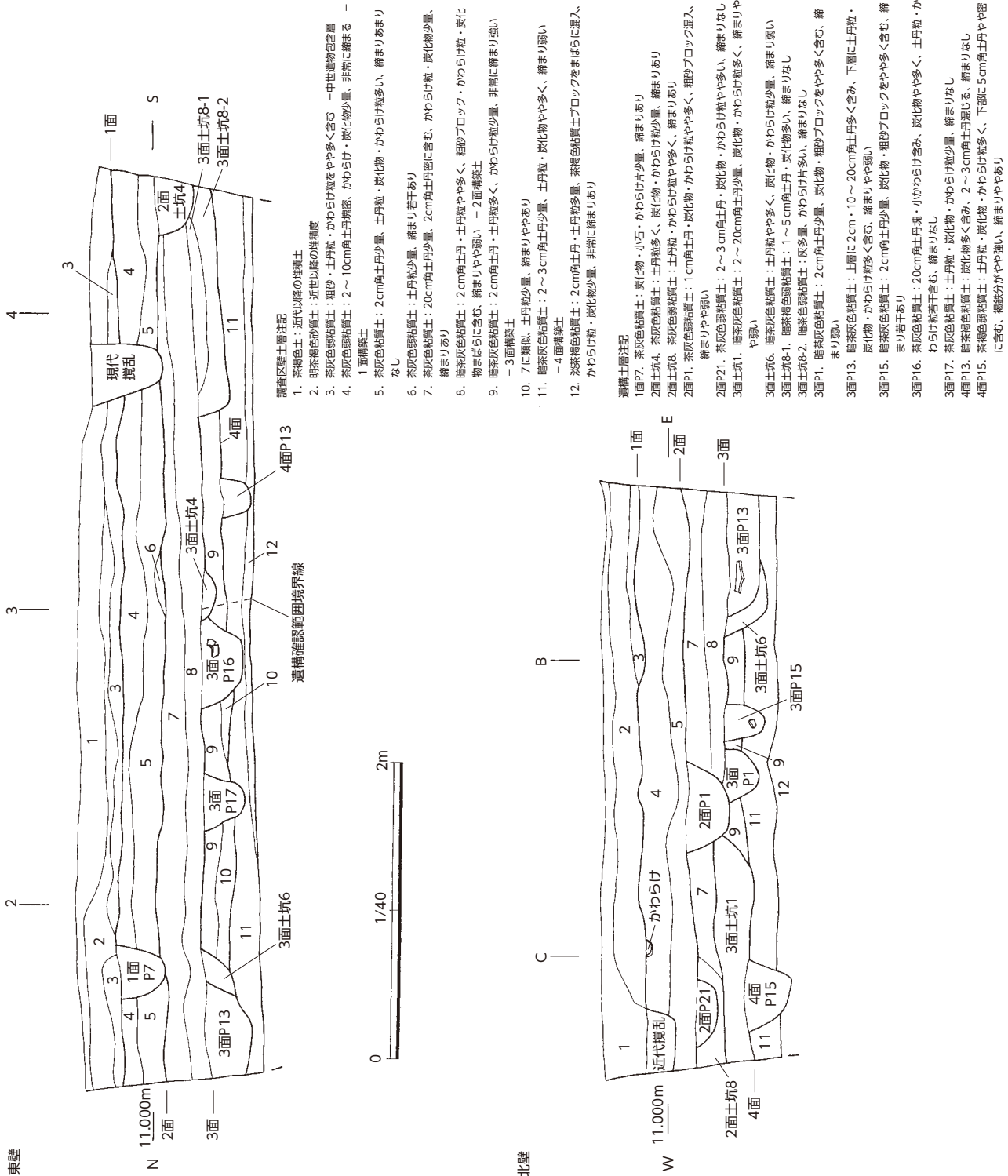


図5 調査区壁土層堆積図

で堆積しており、近世遺物を含む2層が北では厚く、南側では薄く堆積しているのがみられた。10cm大までの大小土丹塊で強く版築された茶灰色弱粘質土の4層上面を1面とし、その直上に小片の中世遺物を含む明茶褐色砂質土が薄く堆積を確認し除去し、1面検出に至った。4層は南側から北側に向かい、10cmほど傾斜しており、地表下30cm、標高11.20～11.10m前後を測る。

調査時には遺構面を上層から順に4層の上面を1面、7層上面のやや弱い土丹地業面を2面、9層の細かい土丹地業面を3面、遺構検出は南側のみだが、11層上面を4面とした。

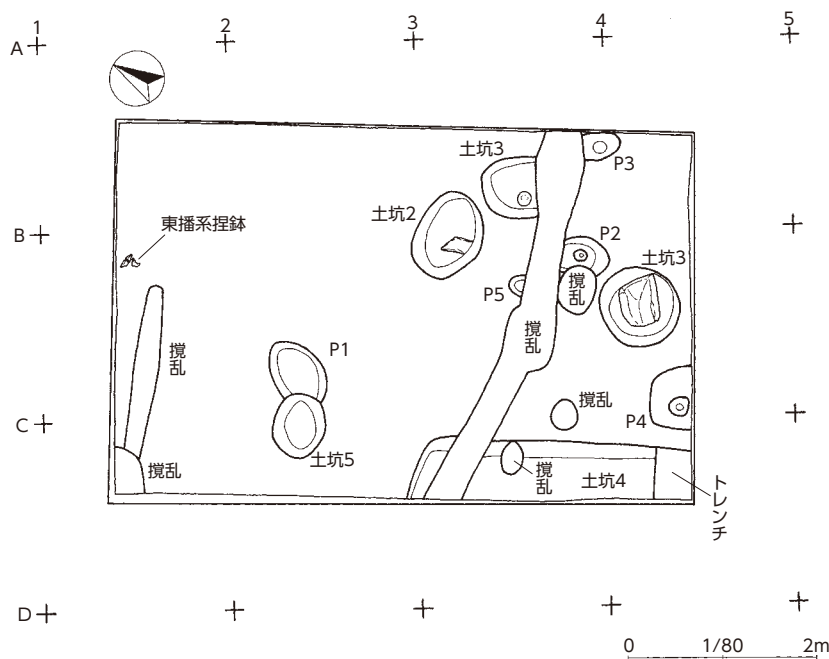
2面を検出するまでの間に茶灰色粘質土内に多量の遺物を含む5層や東壁中央付近に一部みられた土丹粒を含む6層の堆積があり、それらを除去すると、細かい土丹や炭化物が混じった、やや締りの弱い2面とした暗茶灰色粘質土で構築された7層がほぼ平坦に堆積している状況であった。必要な記録を終え、7層を除去すると、多量の遺物片を廃棄された8層が調査区内全体に拡がっている。その直下、標高11.60mほどに細かい土丹で非常に締まりの強い暗茶灰色粘質土の3面を構成する9層を確認し、3面とする遺構面の検出を行った。東(山)側に10cmほどの薄い10層の堆積が一部みられ、3面構築土直下に4面を構築する11層が標高10.50m前後で平坦に拡がっていた。以下は1m以上の掘削深度を超えるが、水抜き側溝の部分のみ堆積を観察し、12層であるかわらけ小片など中世遺物を含む淡茶褐色粘質土の堆積があることを確認した。

### 第三章 検出遺構と出土遺物

今回の調査では中世期における4期の遺構群が検出された。各面合わせて検出した遺構には、土坑30基、柱穴58口である。本報では調査によって検出した遺構とそれに伴い出土した遺物を上層から検出した遺構面ごとに報告していく。遺構に付した名称は調査時において便宜的に付したもので、遺構の新旧関係などに関係するものではない。また、図示できなかった実測不可遺物は別表にして認知できる範囲の個体数で、それ以外は破片数を含める形で表示した。なお、各遺構の説明にあたっては遺物が出土している遺構を優先したが、図示できる遺物がない場合の遺構に関して、重複関係や形状のわかる遺構については幾つか説明を加えた。また、各面において説明がない場合の遺構は概略表として、各面の末尾に表示した。

#### 1. 1面の遺構と遺物

近世耕作土と中世期の遺物を含む堆積土を除去し、地表下30 cmほどの位置に広がるほぼ平坦な土丹地業面の1面を検出した(図6)。上面の標高は11.20 m前後を測る。検出した遺構は土坑5基、柱穴5口である。調査時の各遺構の検出標高は11.15 m前後である。調査区南側には東西に延びる現代の下水管による攪乱、北西部にも近世以降の攪乱によって遺構面を削平されていた。



土坑(図7・8、表1、写真図版1・5)

土坑1(図7・8、表1)

調査区南東部東壁、B-4グリッドの北東に位置する。南部を攪

乱によって削平されており、東西径64 cm×南北径60 cm以上、深さ14~22 cm、底部標高10.94~11.00 mを測る。図示可能な遺物は、かわらけ(1)が出土している。

土坑3(図7・8、表1)

調査区南部中央、B-4グリッドから南西の位置で検出した。確認規模は東西径85 cm×南北径90 cm、深さ20 cm、底部標高10.98 mを測る。掘り方の平面形は円形を呈す。1~3 cm角土丹多く、炭化物を少量含む茶褐色弱粘質土の覆土内に50 cm角、厚さ16 cmの土丹が廃棄されていた。大小かわらけが出土しているが図示できるものではなかった。

土坑4(図7・8、表1)

調査区西壁中央から南、C-3グリッドから南壁の範囲で検出した。確認できる範囲の規模は東西径66 cm×南北径約3 m、深さ24 cm、底部標高10.89 mを測る。調査区西・南壁の外側に広がっており、一部攪乱と土層確認トレンチにより削平される。出土遺物はかわらけ(2)、瀬戸窯皿(3)、火打石(4)、鉄釘(5・6)を図示し、そのほか常滑窯製品の甕の小片が出土している。

図6 1面全測図



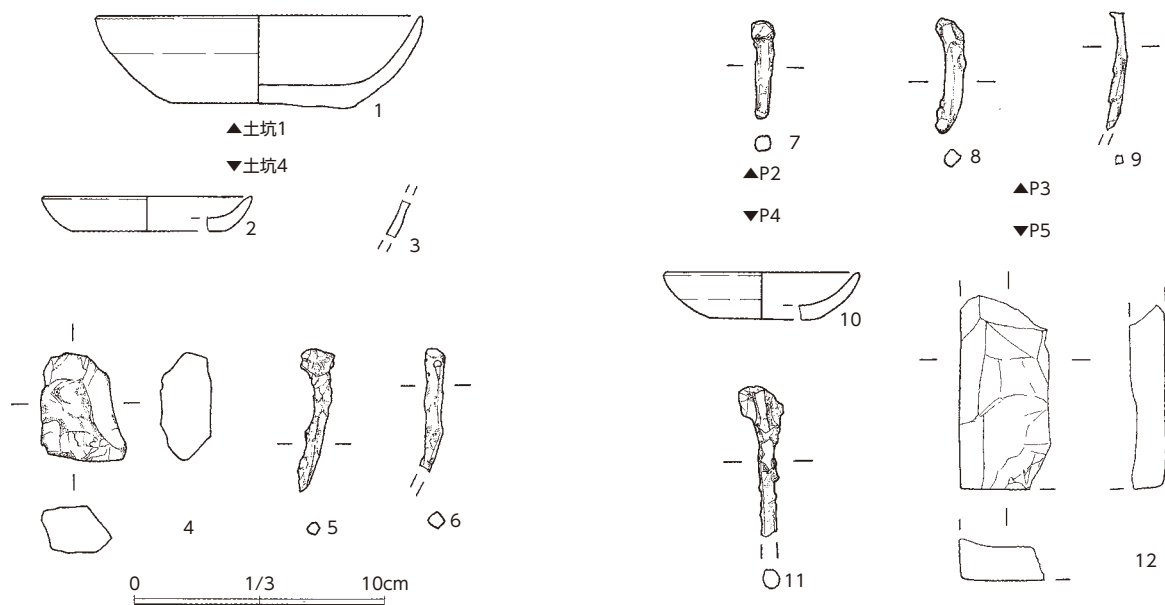


図8 1面各遺構出土遺物

南北径44cm以上、深さ30cm、底部標高10.84mを測る。P2と同様の掘り方で、2層の覆土が確認できた。上層は3cmまでの土丹が多く、炭化物・かわらけ片を少量含み、下層は土丹粒・炭化物を含む茶褐色弱粘質土である。P2と同様の掘り方をしているため建物などの柱穴と思われたが、調査区範囲内では確認ができなかった。P2との距離は190cmを測る。出土遺物はかわらけ大・小皿と鉄釘で、かわらけ小皿(10)と鉄釘(11)だけ図示した。

P5(図7・8、表1)

調査区南半部中央付近、B-4グリッドの北西付近に位置する。ほぼ攪乱に削平されている。確認規模は東西径23cm以上×南北径16cm以上、深さ21cm、底部標高10.99mを測る。掘り方の平面形は不明、浅い掘り方の遺構である。出土遺物はかわらけ大・小皿、図示可能な遺物は硯(12)1点だけである。

遺構名	平面形	検出標高(m)	東西径(cm)	南北径(cm)	底部標高(m)	重複関係
土坑2	楕円形	11.20	70	89	11.09	—
土坑5	楕円形	11.20	56	62	11.02	P1より新しい
P1	不整形	11.20	86	52	10.99	土坑5より古い

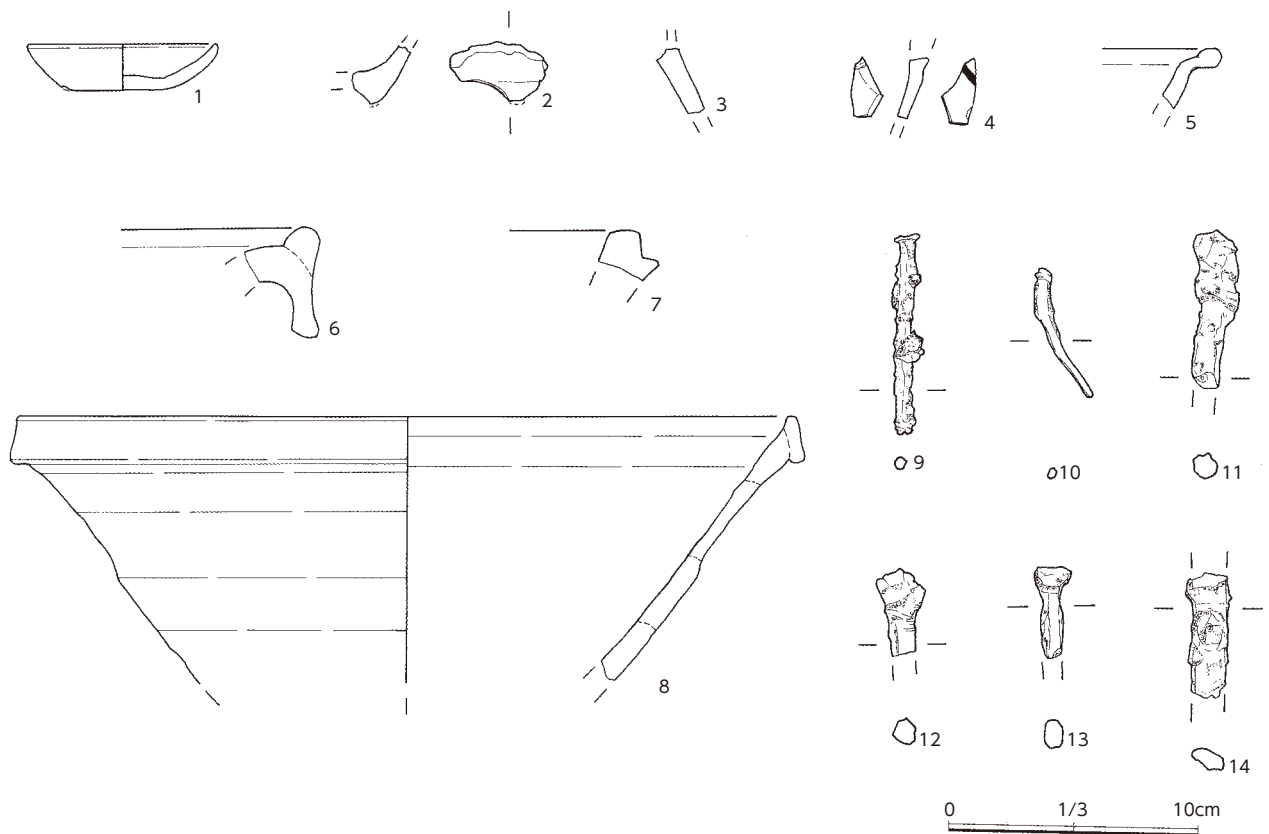


図9 1面遺構外出土遺物

#### 1面遺構外出土遺物(図9、表1、写真図版5)

出土遺物は図5に示した中世遺物包含層である3層からの遺物を図化した。その遺物総数は各面に比べると少量である。かわらけ(1)、高台が付くと思われるかわらけ質の土器(2)、かわらけ質で上下部に延長する燈明台と思われる土器(3)、青白磁の香炉と思われる小破片(4)、瀬戸窯折縁皿(5)、常滑窯甕(6)、滑石製鍋(7)、東播系捏鉢(8)、鉄釘(9・10)が出土している。

#### 1面構築土中出土遺物(図10、表1・2、写真図版5・6)

1面を構築する4層から出土した総数226点のうち28点を図化した。かわらけ小皿(1~7)・中皿(8~10)・大皿(11~14)、龍泉窯系青磁劃花文碗(15)、瀬戸瓶子(16)、常滑窯壺の胴部片(17)・甕の口縁部(18・19)・同じく底部片(20)、片口鉢I類(21)、常滑窯甕を転用した磨耗陶片(22)、伊予産の中砥(23)、上野産の中砥(24)、泥岩(土丹)を丸く加工した円板(25)、鉄釘(26~28)が出土している。

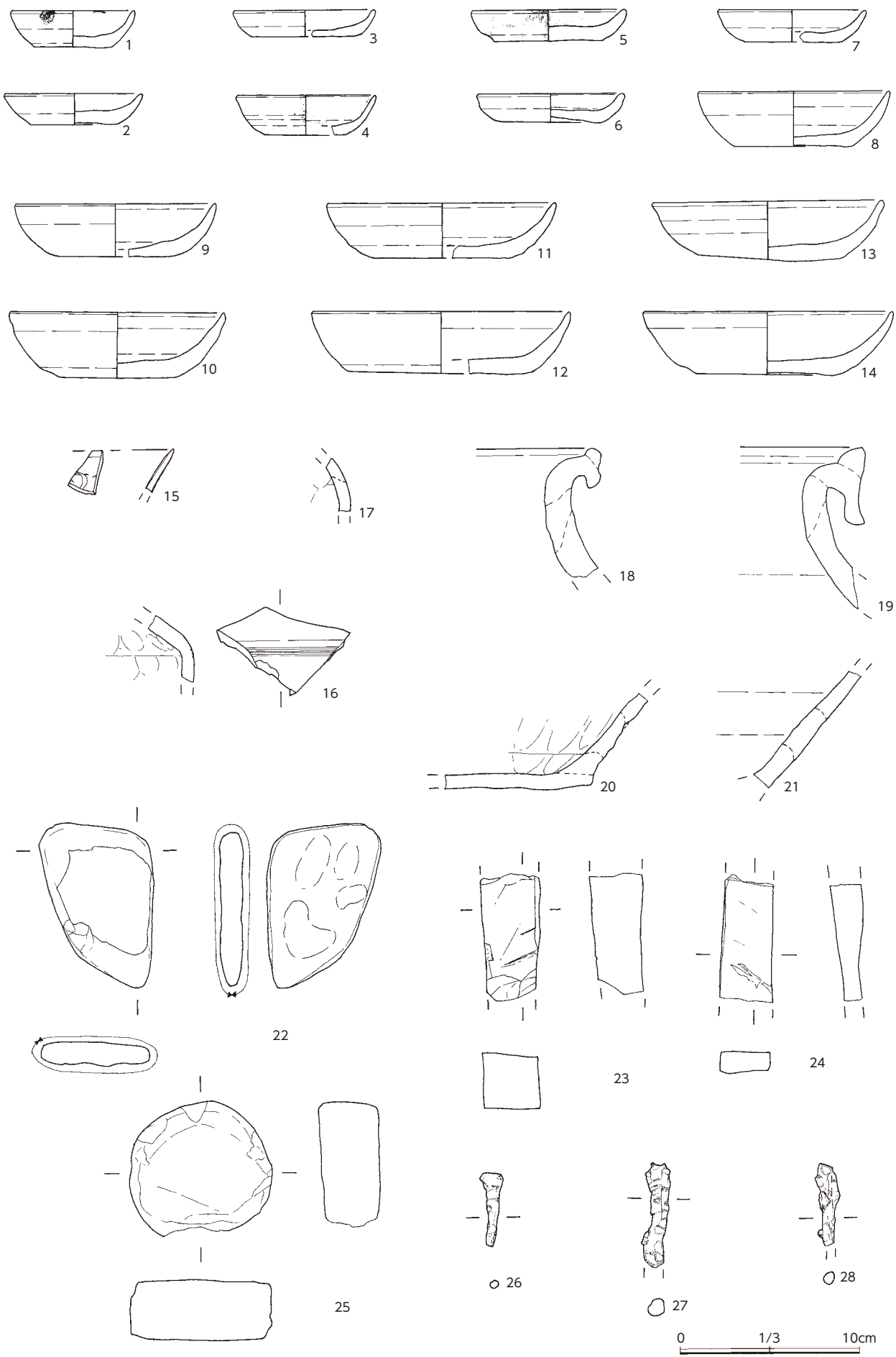
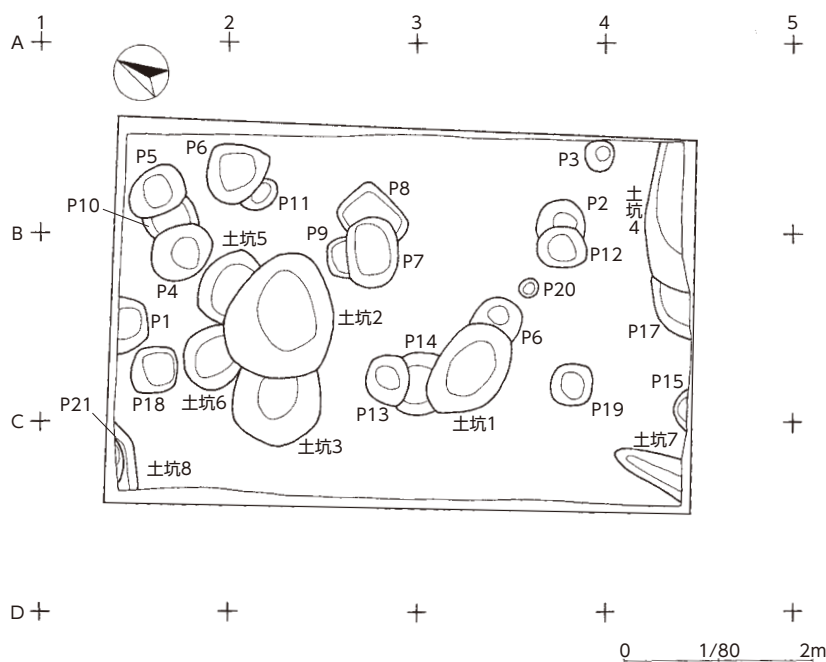


图10 1面構築土中出土遺物



## 2. 2面の遺構と遺物

1面構築土(4層)と2面上に堆積する中世遺物包含層(5・6層)を除去すると、地表下40～60cm、標高11.00～10.80mを測る位置にあり、南側が高く、北に向かいやや下がっている2面を検出した(図11)。当面では、土坑8基、柱穴21口、その中に柱穴列を1列検出した。調査時の各遺構の検出標高値は10.80m前後である。



柱穴列(図12、表3・4、写真  
図版2・6)

柱穴列1(図12、表3・4)

図11 2面全測図

調査区東半部の中央付近に並ん

で検出された。主軸方位はN-28°-Wを指す。同様の位置にして、北からP4・7・12とP10・8・2が切り合いながら並び、新旧関係は前者が新しく、それを柱穴列1とした。南北2間を検出し、柱間寸法は芯々で約200cmを測る。

P4の検出標高は10.80m、掘り方平面は円形を呈し、東西径68cm×南北径60cm、深さ28cm、底部標高10.51mを測る。覆土は土丹粒・炭化物少量含み、やや締まる茶褐色粘質土。出土遺物はかわらけ小皿(5)、瀬戸窯卸皿(6)が出土している。

P7の検出標高は10.86m、掘り方平面は楕円形を呈し、東西径66cm×南北径60cm、深さ36cm、底部標高10.50mを測る。覆土は5～7cm角土丹多く、炭化物がごく少量混じる、やや締まりのある茶褐色弱粘質土内に安山岩の伊豆石片が廃棄されていた。出土遺物は白磁口はげ皿(11)、青磁蓮弁文碗(12)、褐釉壺(13)、鉄釘(14)を図示した。

P12の検出標高は10.80m、掘り方平面は楕円形を呈し、東西径46cm×南北径55cm、深さ20cm、底部標高10.60mを測る。P4・7と比べるとやや浅く小型の遺構である。覆土は1～3cm角土丹多く、炭化物・かわらけ粒少量含み、やや締まる灰褐色弱粘質土。出土遺物はかわらけ中皿(19)、白かわらけ(20)、鉄釘(21)が出土している。

柱穴列2(図12、表3・4)

柱穴列1の東隣、削平されて検出された。主軸方位も同じくN-28°-Wを指す。北からP10・8・2が該当し、南北2間を確認した。両柱間寸法は芯々で約210cmを測る。各ピットの検出標高は柱穴列1と隣接してある切り合い関係にあるピットと同じ標高であり、その形状等は削平されているため不明瞭であるが形状・規模ともに同様の様相が窺える。

P2は南北径52cm、深さ24cm、底部標高10.61mを測る。覆土は土丹粒・炭化物少量含む、暗褐色粘質土。図示できる遺物はない。

P8の南北径76cm、深さ26cmを、底部標高10.59mを測る。覆土は3～5cm角土丹と炭化物、褐鉄を多く含む、締まりのない茶褐色弱粘質土。出土遺物はかわらけ大皿(15)、褐釉壺(16・17)、鉄釘(18)が出土している。

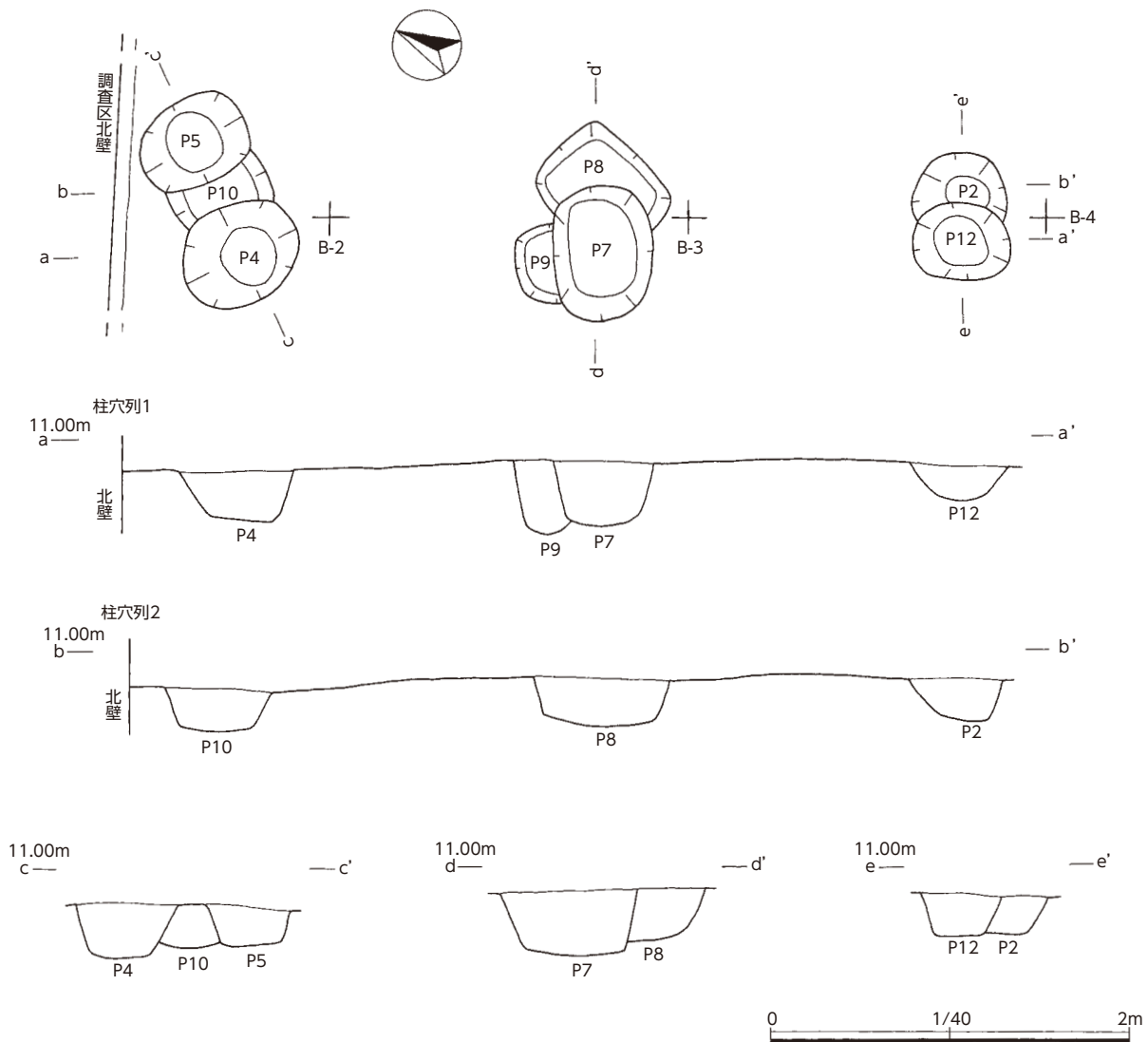


図12 2面柱穴列1・2

P 10は北側をP 5により削平されており、南北径60cm、深さ24cmを、底部標高10.56mを測る。覆土は茶褐色弱粘質土でP 8と同一の堆積を観察できた。図示できる出土遺物はない。

### 土坑 (図13・14、表2・3、写真図版2・6)

#### 土坑1 (図13・14、表2)

調査区中央付近、C-3グリッドの東に位置する。平面形は楕円形、規模は東西径72cm×南北径108cm、深さ24cm、底部標高10.64mを測る。図示可能な遺物は青磁碗(1・2)、褐釉壺小片(3~6)が4点、鉄釘(7)が出土しており、その他かわらけ大小皿、瀬戸窯碗、常滑窯壺の小片が出土しているが図示できなかった。

#### 土坑2 (図13・14、表2・3)

調査区北半部中央付近、B~C-2グリッド間に位置する。土坑3・5・6と重複関係にあり、その遺構群の中でも本址の方が新しい。掘り方平面は不整形円形、断面すり鉢状、東西径138cm×南北径118cm、深さ32cm、底部標高10.53mを測る。茶褐色粘質土の覆土内から、多量のかわらけ片が出土し、かわらけ小皿(8~11)・中皿(12・13)・大皿(14~16)、白磁皿(17)、瀬戸窯皿・瓶子(18)、常滑窯壺・

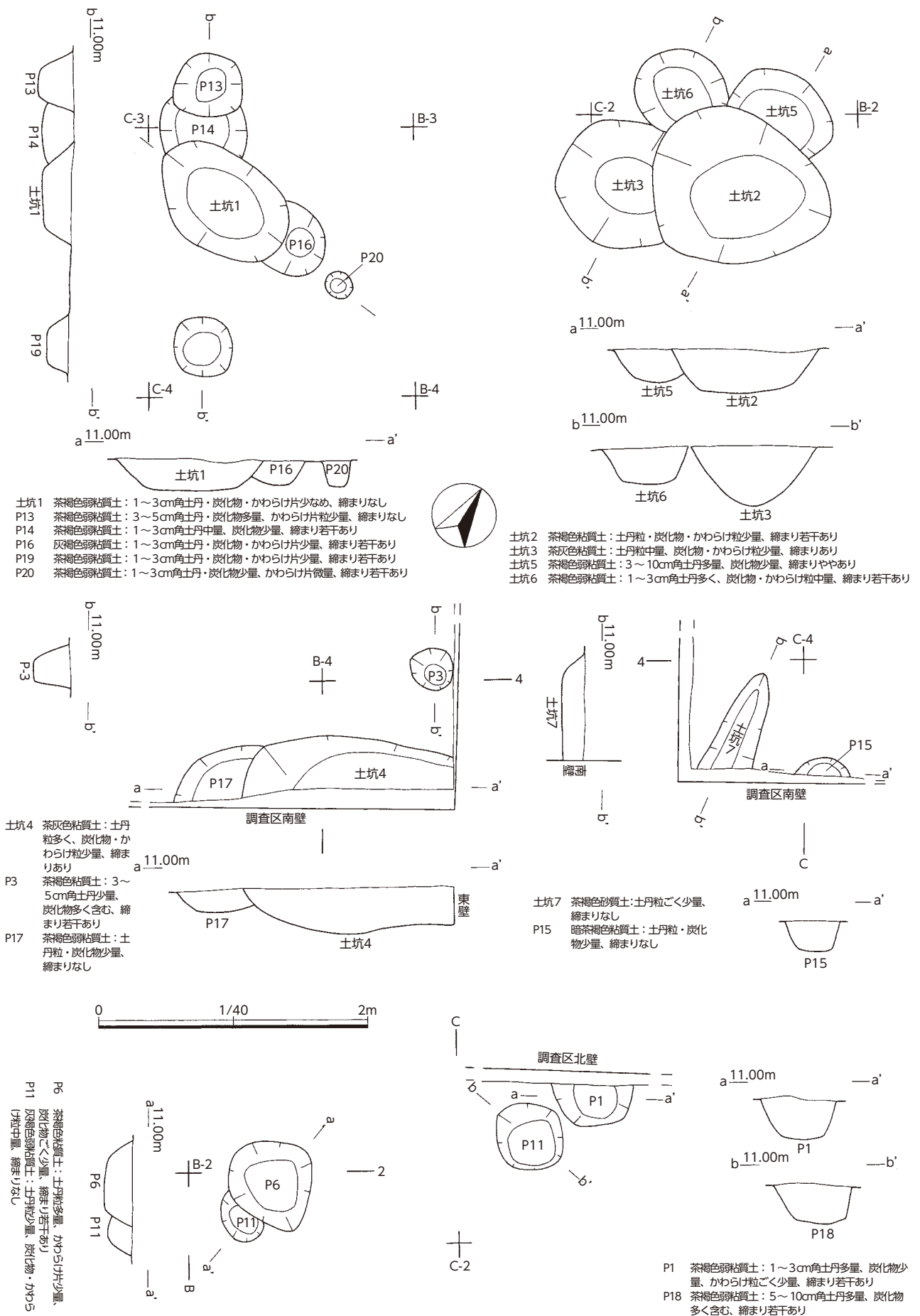


図13 2面土坑・ピット

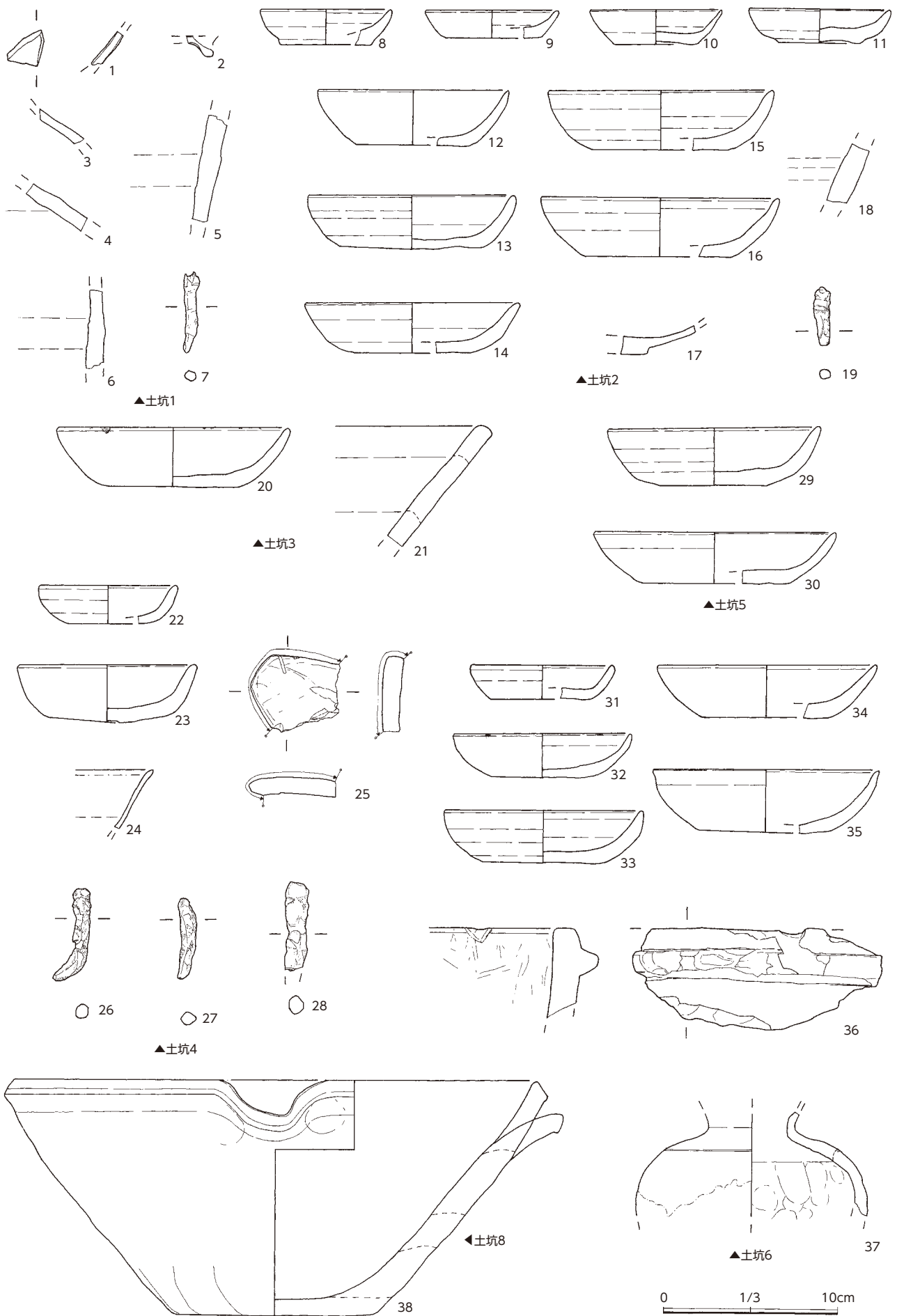


图 14 2面土坑出土遺物

甕・Ⅱ類片口鉢、火鉢、鉄釘(19)が出土している。

#### 土坑3(図13・14、表3)

土坑2の西隣に位置し、東側を土坑2に、北側一部を土坑6により削平される重複関係にある。南北径96cm、深さ45cm、底部標高10.40mを測る。図示可能な遺物は、かわらけ大皿(20)、常滑片口鉢Ⅱ類(21)のみであった。

#### 土坑4(図13・14、表3)

調査区南東部、B-4グリッドの南東に位置する。南壁外側に拡がり、確認できた規模は東西径158cm×南北径40cm、深さ34cm、底部標高10.55mを測る。図示可能な遺物はかわらけ小皿(22)・中皿(23)、白磁口はげ碗(24)、常滑片口鉢Ⅰ類片を転用した磨耗陶片(25)、鉄釘(26~28)3点である。

#### 土坑5(図13・14、表3)

土坑2と重複関係にあり、南側を削平され検出した。確認規模は東西径80cm、深さ24cmを、底部標高10.64mを測る。図示可能な遺物はかわらけ大皿(29・30)2点であった。

#### 土坑6(図13・14、表3)

土坑5の西隣、同様に土坑2に南側を削平され、西側一部を土坑5に削平され検出した。規模は東西径70cm×南北径64cm、深さ26cm、底部標高10.61mを測る。図示可能な遺物はかわらけ小皿(31)・中皿(32・33)・大皿(34・35)、滑石製鍋(36)、常滑窯鶯口壺(37)、復元口径30cmになる片口鉢Ⅱ類(38)である。

#### 土坑7(図13・14)

調査区南西隅、C-4グリッドの南に位置する。確認できた規模は東西径36cm×南北径80cm、深さ16cmと浅く、南側外壁に拡がる。底部標高10.70mを測る。図示できる遺物はない。

### ピット(図13・15、表3・4、写真図版2・7)

#### P1(図13・15、表3)

調査区北壁沿い、C-2グリッドの東側に位置する。北壁外側に拡がり、確認できた規模は東西径60cm×南北径40cm以上、深さ31cm、底部標高10.53mを測る。図示可能な遺物は瀬戸窯壺の高台部(1)、鉄釘(2・3)2点である。

#### P3(図13・15、表3)

調査区南東隅、B-4グリッド東側に位置する。平面形は円形、規模は東西径34cm×南北径32cm、深さ28cm、底部標高10.59mを測る。図示可能な遺物は常滑窯片口鉢Ⅱ類(4)1点である。

#### P5(図12)

調査区北東隅、B-2グリッドの北に位置する。柱穴列2の一部であるP10と重複関係にあり、その北側を削平している。平面形は楕円形、規模は東西径63cm×南北径46cm、深さ23cm、底部標高10.57mを測る。図示可能な遺物はない。

#### P6(図13・15、表4)

調査区北東部、B-2グリッドの東側に位置する。P11と重複関係にあり、本址の方が新しい。平面形は隅丸円形、規模は東西径66cm×南北径60cm、深さ20cm、底部標高10.70mを測る。図示可能な遺物は中野編年6a型式の常滑窯甕(10)1点である。

#### P11(図13・15)

P6の南に位置する。前述したようにP6と重複関係にあり、本址はそれより古い。確認規模は東西径38cm×南北径21cm以上、深さ18cm、底部標高10.69mを測る。図示可能な遺物はない。

#### P13(図13・15、表4)

調査区中央西側付近、C-3グリッドに隣接する位置で検出した。P14と重複関係にあり、本址の方

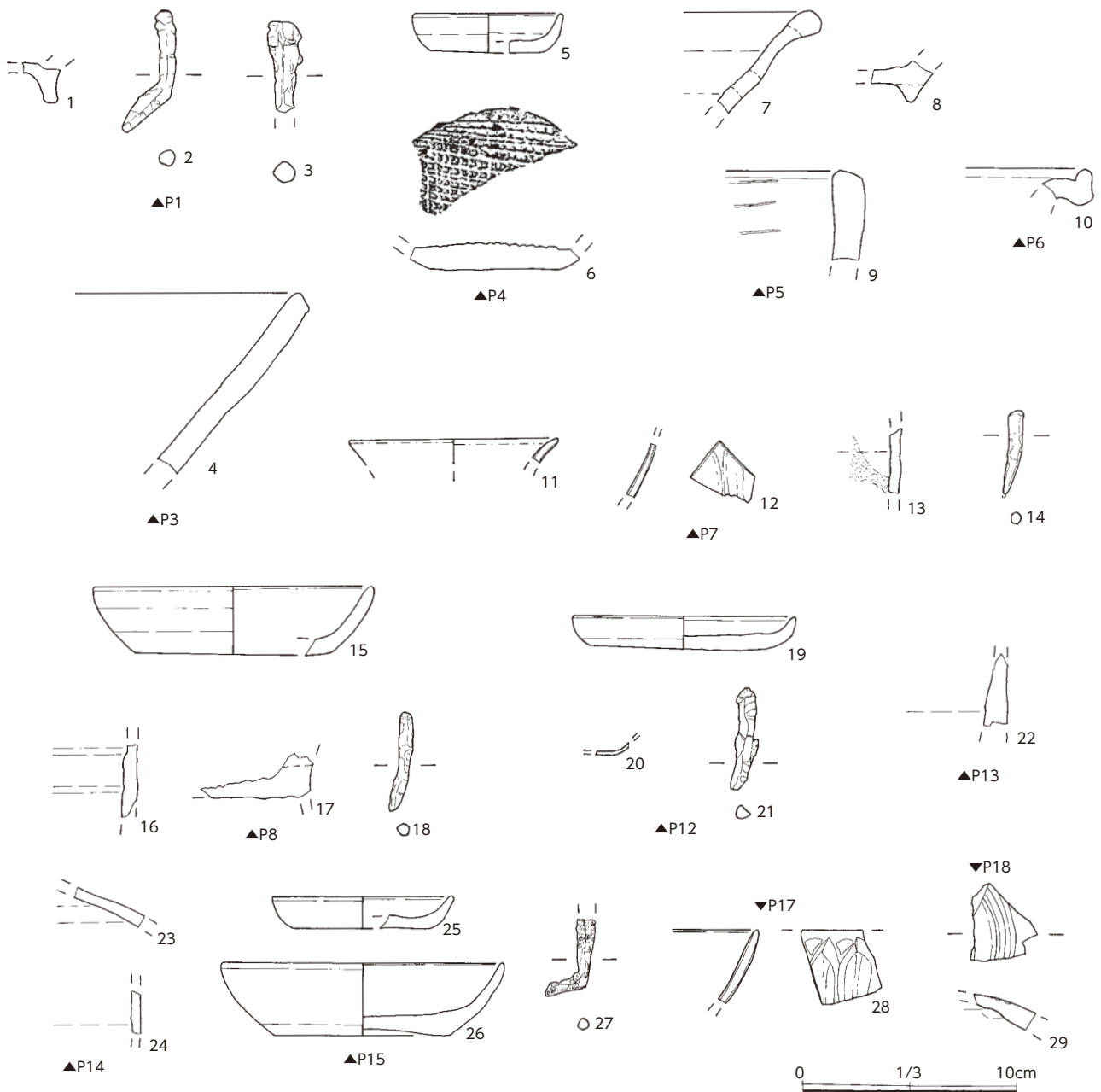


図15 2面ピット出土遺物

が新しい。平面形は隅丸円形、規模は東西径52cm×南北径52cm、深さ26cmを、底部標高10.62mを測る。遺物は褐釉壺の胴部片(22)が出土している。

P14(図13・15、表4)

P13と土坑1との重複関係にあり、両遺構によって削平されて検出された。平面形は不明、規模は東西径69cm、深さ24cm、底部標高10.62mを測る。遺物は同一個体と思われる褐釉壺の肩部(23)・胴部片(24)が出土している。

P15(図13・15、表4)

調査区南西隅、C-4グリッドの南東に位置する。南側外壁に拵がり、確認できた規模は東西径42cm以上×南北径14cm以上、深さ22cm、底部標高10.64mを測る。出土遺物はかわらけ小皿(25)・大皿(26)、鉄釘(27)である。

P16(図13・15)

調査区中央付近、B-3～4、C-3～4グリッド中央に位置する。土坑1と重複関係にあり、西側を削平されており、本址の方が古い。確認できた規模は東西径32cm以上×南北径50cm、深さ18cmの浅いピットである。底部標高10.67mを測る。図示可能な遺物はなかった。

P 17 (図13・15、表4)

調査区南東部、B-4グリッドの南に位置する。南壁外側に拡がり、土坑4により削平されている。確認できた規模は東西径44cm以上×南北径58cm以上、深さ17cm、底部標高10.68mを測る。図示可能な遺物は龍泉窯系青磁蓮弁文碗の口縁部片(28)1点である。

P 18 (図13・15、表4)

調査区北半部北側中央、C-2グリッドの北側に位置する。平面形は隅丸円形、規模は東西径56cm×南北径52cm以上、深さ29cm、底部標高10.54mを測る。図示可能な遺物は瀬戸窯壺の肩部小片(29)1点である。

P 19 (図13・15)

調査区南側、C-4グリッドの北側に位置する。平面形は隅丸円形、規模は東西径49cm×南北径46cm、深さ16cm、底部標高10.67mを測る。図示可能な遺物はなかった。

P 20 (図13・15)

調査区中央付近、B-4グリッド西側に位置する。平面形は円形、規模は東西径21cm×南北径20cm、深さ20cm、底部標高10.65mを測る。2面の遺構としては比較的小型のピットである。図示可能な遺物はなかった。

遺構名	平面形	検出標高(m)	東西径(cm)	南北径(cm)	底部標高(m)	重複関係
土坑8	不明	10.80	70以上	22以上	11.09	P 21より古い
P 9	不明	10.80	42	21以上	10.46	P 7より古い
P 21	不明	10.80	8以上	45以上	10.67	土坑8より新しい

## 2面遺構外出土遺物 (図16、表4・5、写真図版7・8)

2面上包含層である5・6層に含まれる遺物を「2面遺構外」とし、総数295点のうち、37点を図化した。かわらけ小皿(1～10)・中皿(11～13)・大皿(14・15)、龍泉窯系青磁鎬蓮弁文碗(16～18)、青磁の香炉(19)、外面に蓮弁文を施す青白磁蓋(20)、褐釉壺の肩部片(21)、瀬戸窯卸皿(22)・壺(23)、常滑窯甕(24～26)、片口鉢I類(27～29)、片口鉢II類(30)、片口鉢I類の破片を転用した磨耗陶片(31)、瓦質火鉢(32～34)、外面口縁下に菊花文スタンプを捺した土器質火鉢(35)、口縁部を滑らかに削り調整したかわらけ(36)、鉄釘(37)などが出土している。

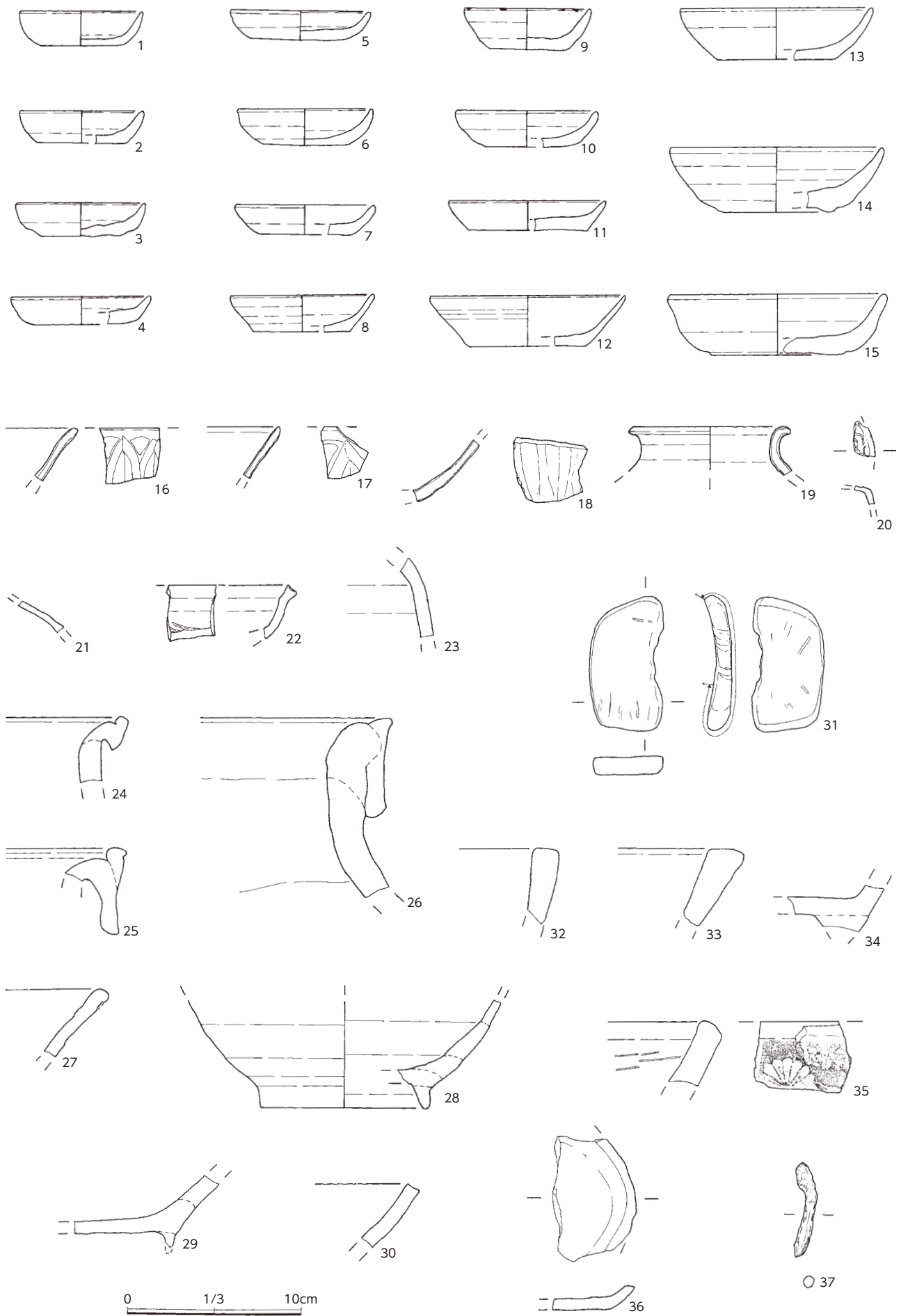
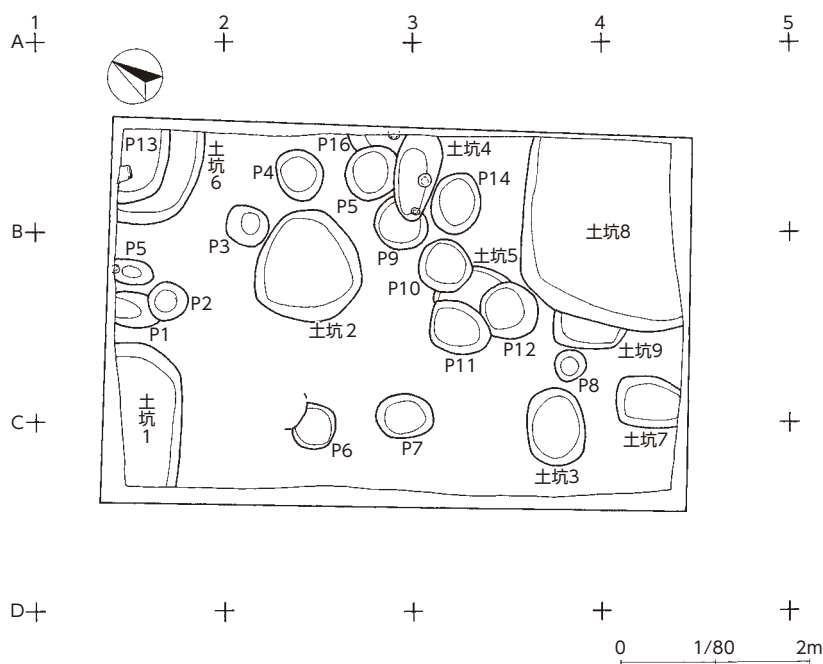


图 16 2面遺構外出土遺物



### 3. 3面の遺構と遺物

2面構築土である7層を除去し、その下に厚さ10～20cmほど堆積していた8層を掘り下げた時点で、非常に締まりのある3面を検出した(図17)。当面では、土坑9基、柱穴16口を検出した。調査区壁で確認した標高は10.70m～10.60mで南から北に向かいやや傾斜している。調査時の各遺構の検出標高値は10.60m前後である。



土坑(図18～20、表5・6、写真図版3・8)

土坑1(図18・20、表5・6)

調査区北西隅、C-2グリッド

北側に位置する。北・西壁外側に拡がり、全体規模は不明である、確認できた規模は長辺150cm×短辺68cm、深さ25cm、底部標高10.37mを測る。出土遺物はかわらけ小皿(1～4)・大皿(5)、白磁印花文碗(6)、瀬戸窯壺(7)、鉄釘(8・9)である。

土坑2(図18・20、表6)

調査区北半部東側、B-2グリッドの南に位置する。平面形は不整形、規模は東西径116cm×南北径約111cm、深さ22cm、底部標高10.42mを測る。出土遺物はかわらけ小皿(10)、瓦質火鉢(11)である。

土坑3(図18・20、表6)

調査区南西隅、C-4グリッドの北に位置する。平面形は楕円形、東西径74cm×南北径78cm、深さ19cm、底部標高10.43mを測る。図示可能な遺物は鉄釘(12)1点のみである。

土坑4(図19・20、表6)

調査区中央東側、B-3グリッドの東に位置する。一部東壁に拡がる状況で平面形は楕円形を呈すと思われる。規模は東西径92cm以上×南北径50cm、深さ27cm、底部標高10.45mを測る。遺構内西側からかわらけ小皿(13)、東側からかわらけ中皿(14)、そのほかかわらけ大皿が出土している。

土坑5(図19・20)

調査区中央南側、B-3グリッドの南に位置する。P10～12によって周囲を削平されており、形状・全体規模は不明であるが、最大径84cm、深さ20cm、底部標高10.49mを測る。図示可能な遺物はない。

土坑6(図18・20、表6)

調査区北東隅、B-2グリッドの北に位置する。調査区隅で確認したため、北・東部は壁の外側に拡がり、さらにP13によって中心部を削平されている。確認できた規模は最大径126cm、深さ22cm、底部標高10.41mを測る。図示可能な遺物は東濃型山茶碗(16)、常滑窯片口鉢Ⅱ類の胴～底部片(17)である。

土坑7(図18・20)

調査区南西隅、C-4グリッドの南に位置する。南側一部が南壁外側に拡がっている。平面形は不整形で南側の幅が狭くなっている。確認できた規模は東西径56cm×南北径70cm以上、深さ18cm、底部標高10.49mを測る。図示可能な遺物はない。

図17 3面全測図



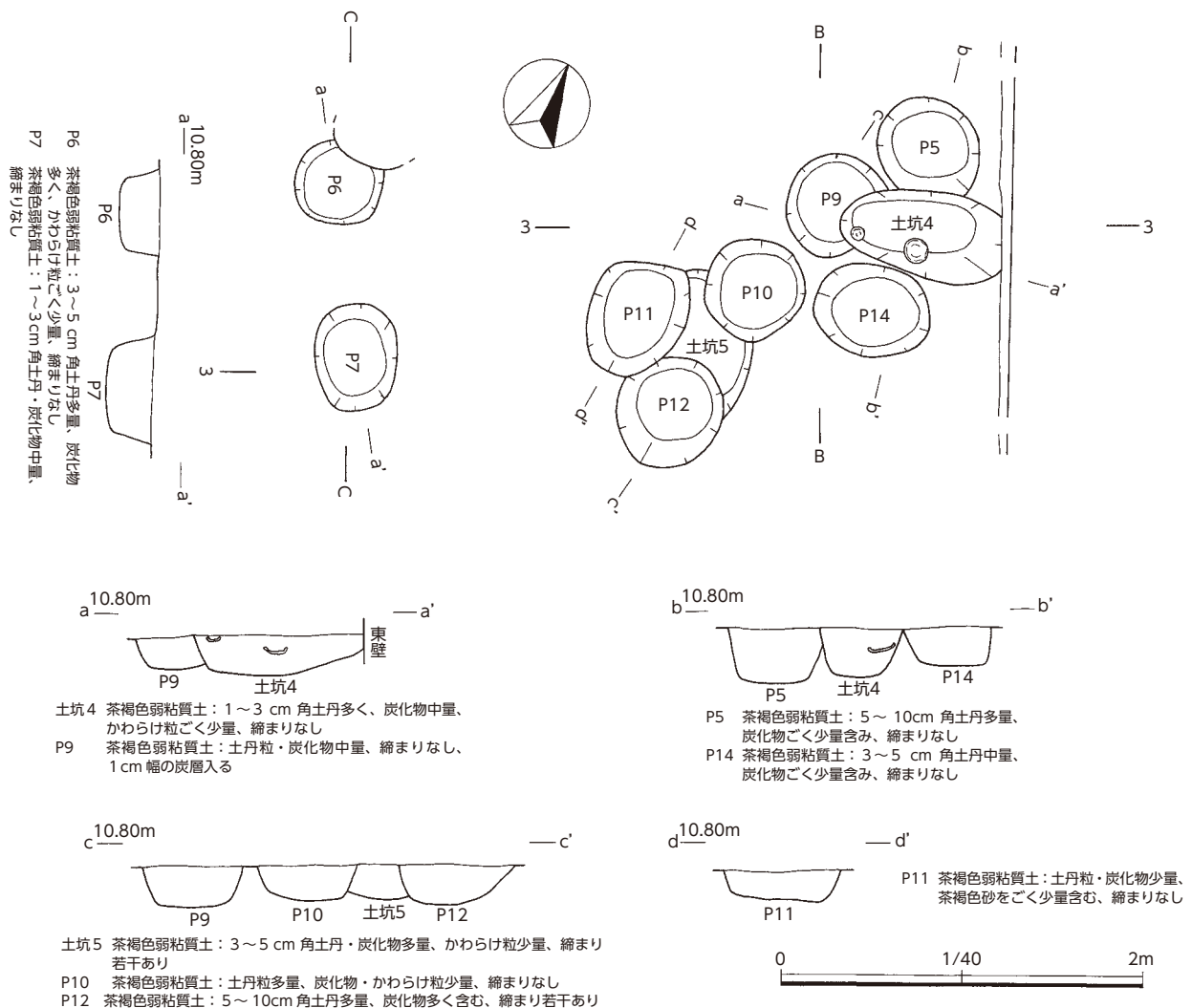


図19 3面土坑・ピット(2)

土坑8 (図18・20、表6)

調査区南東隅、B-4グリッド中央に位置する。土坑9と重複関係にあり、本址の方が新しい。南・東壁の外側に拡がっており、調査区内での全体規模は不明である。確認できた規模は、東西径214cm以上×南北径250cm以上、深さ23cm、底部標高10.49mを測る。覆土は2層の堆積が観察でき、多くの遺物が出土している。その中から図示可能な遺物は、かわらけ小皿(18～21)・中皿(22)・大皿(23・24)、白磁口はげ皿(26)、景德鎮窯白磁印花文皿(27)であった。

土坑9 (図18・20、表6)

調査区南東部、B-4グリッドの西に位置する。土坑8と重複関係にあり、本址の方が古い。東半部以上が土坑9により削平されているため、形状・規模は不明である。確認できた規模は東西径34cm以上×南北径78cm以上、深さ22cm、底部標高10.46mを測る。出土遺物はかわらけ小皿(28)1点のみである。

ピット(図18～20、表6・7、写真図版3・8)

P1・2 (図18)

調査区北壁中央で検出した。両遺構は重複関係にあり、P2の方が新しい。P1は東西径38cm×南北径50cm以上、深さ23cm、底部標高10.38mを測る。P2は平面形が円形、東西・南北径は40cm、深さ30cm、底部標高10.30mを測る。両遺構とも図示できる遺物はない。

P 3・4 (図18・20、表6)

P 3は調査区北半部東側、B-2グリッドの下に位置する。平面形は隅丸円形、規模は東西径40cm×南北径46cm、深さ26cm、底部標高10.38mを測る。図示できる遺物はなかった。P 4はP 3の東側に位置する。平面形は隅丸円形、規模は東西径48cm×南北径54cm、深さ25cm、底部標高10.45mを測る。かわらけ(29・30)2点を図示した。

P 5 (図19・20、表6)

調査区中央東側、B-3グリッドの東に位置する。南側を一部土坑4に削平されているが、平面形は不整形、規模は東西径60cm×南北径54cm、深さ30cm、底部標高10.40mを測る。かわらけ(31・32)と鉄釘(33)を図示した。

P 6・7 (図19・20、表6)

両遺構とも調査区西側中央、C-3グリッド付近で検出した。P 6は2面時の遺構によって北側端部を削平されており、径50cmを測るほぼ円形のピットである。深さは22cm、底部標高10.47mを測る。図示可能な遺物はない。P 7は平面形が楕円形、規模が長径60cm×短径54cm、深さ約25cm、底部標高10.40mを測る。図示可能な遺物は常滑窯甕(34)1点である。

P 9 (図19・20、表6)

調査区中央東側、B-3グリッドに位置する。土坑4により東側を削平されていて、確認できた規模は、東西径33cm以上×南北径57cm、深さ約23cm、底部標高10.47mを測る。図示可能な遺物は鉄釘(35)1点のみである。

P 10～12 (図19・20、表6)

調査区中央東側、B-3グリッドの南に位置し、土坑5と重複関係にある。P 10は土坑5より新しく、平面形は不整形、規模が東西径54cm×南北径56cm、深さ20cm、底部標高10.49mを測る。かわらけ(36)のみ図示できた。P 11は土坑5とP 12を削平していて、平面形は不整形、規模は東西径35cm×南北径70cm、深さ18cm、底部標高10.48mを測る。図示可能な遺物はかわらけ(37～39)、鉄釘(40)である。P 12は土坑5より新しく、P 11により西側端部を削平されている。規模は東西径59cm×南北径64cm、深さ22cm、底部標高10.45mを測る。図示可能な遺物はない。

P 13 (図18)

調査区北東隅、B-2グリッドの北に位置する。北・東部は壁の外側に拡がり、土坑6の中心部を削平した状態で検出した。確認できた規模は長径77cm×短径50cm、深さ35cm、底部標高10.32mを測る。北壁に検出標高から12cmの位置に常滑片が出土しているが、これを含め図示できる遺物はなかった。

P 14 (図19)

調査区中央東側、B-3グリッドの東に位置する。平面形は楕円形、規模は東西径65cm×南北径52cm、深さ22cm、底部標高10.50mを測る。図示できる遺物はなかった。

P 15 (図18・20、表6・7)

調査区北壁中央付近、B-2グリッド北側で検出した。北壁外側に拡がっていて、確認できた規模は東西径約26cm×南北径42cm以上、深さ約27cm、底部標高10.34mを測る。北壁に検出標高から16cmほどの位置にかわらけが出土している。図示した遺物はこのかわらけ(41)と外面に幾何学文様の押印がある常滑窯甕(42)である。

P 16 (図20、表7)

調査区東壁中央付近、B-3グリッド北側で検出した。東壁外側に拡がり、水抜き側溝によって削平してしまった。東壁でのみ確認して、図では復元した。規模は東西径50cm×南北径40cm以上、深さ25cm、底部標高10.34mを測る。図示可能な遺物にかわらけ(43)である。

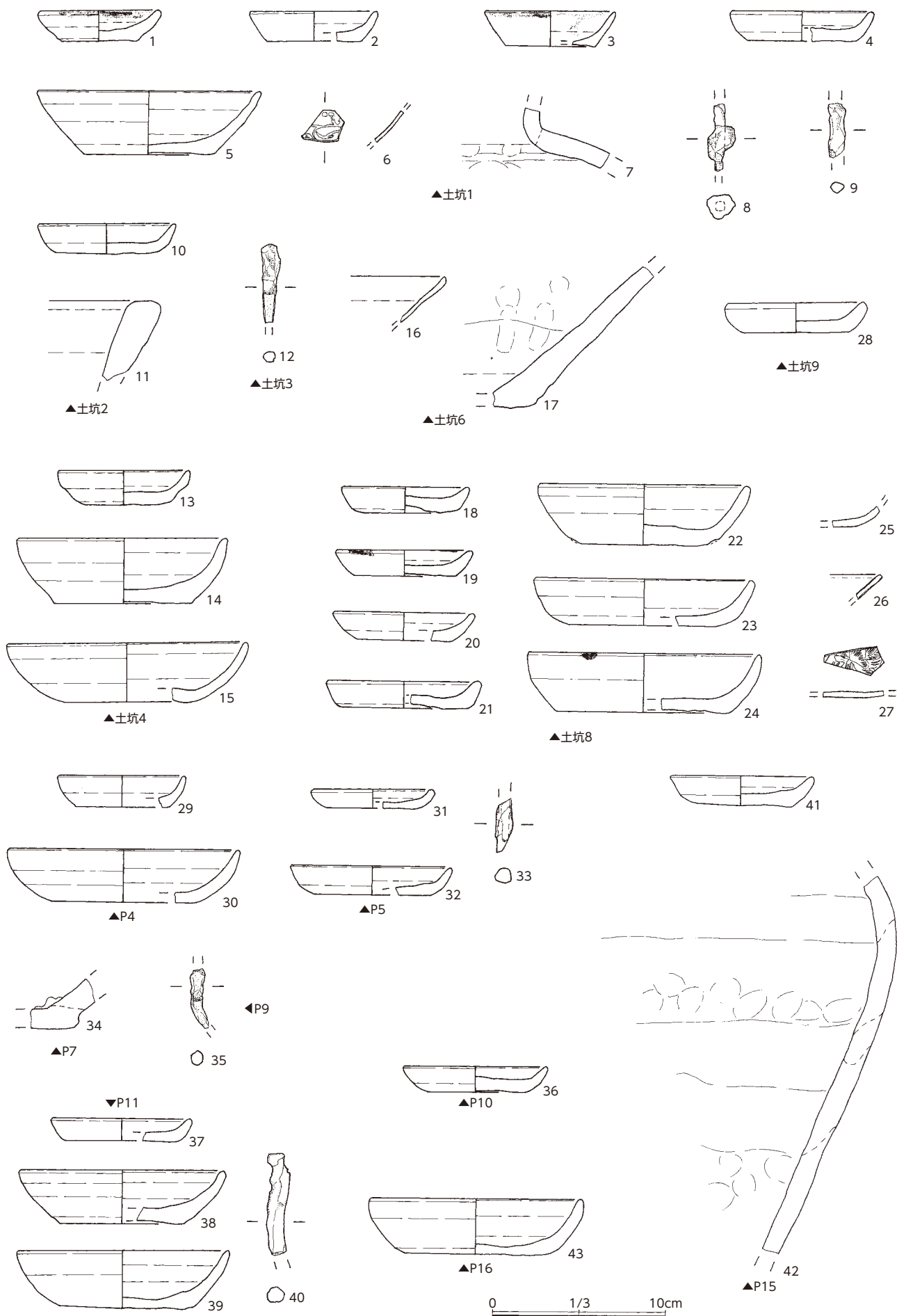


图 20 3面各遺構出土遺物

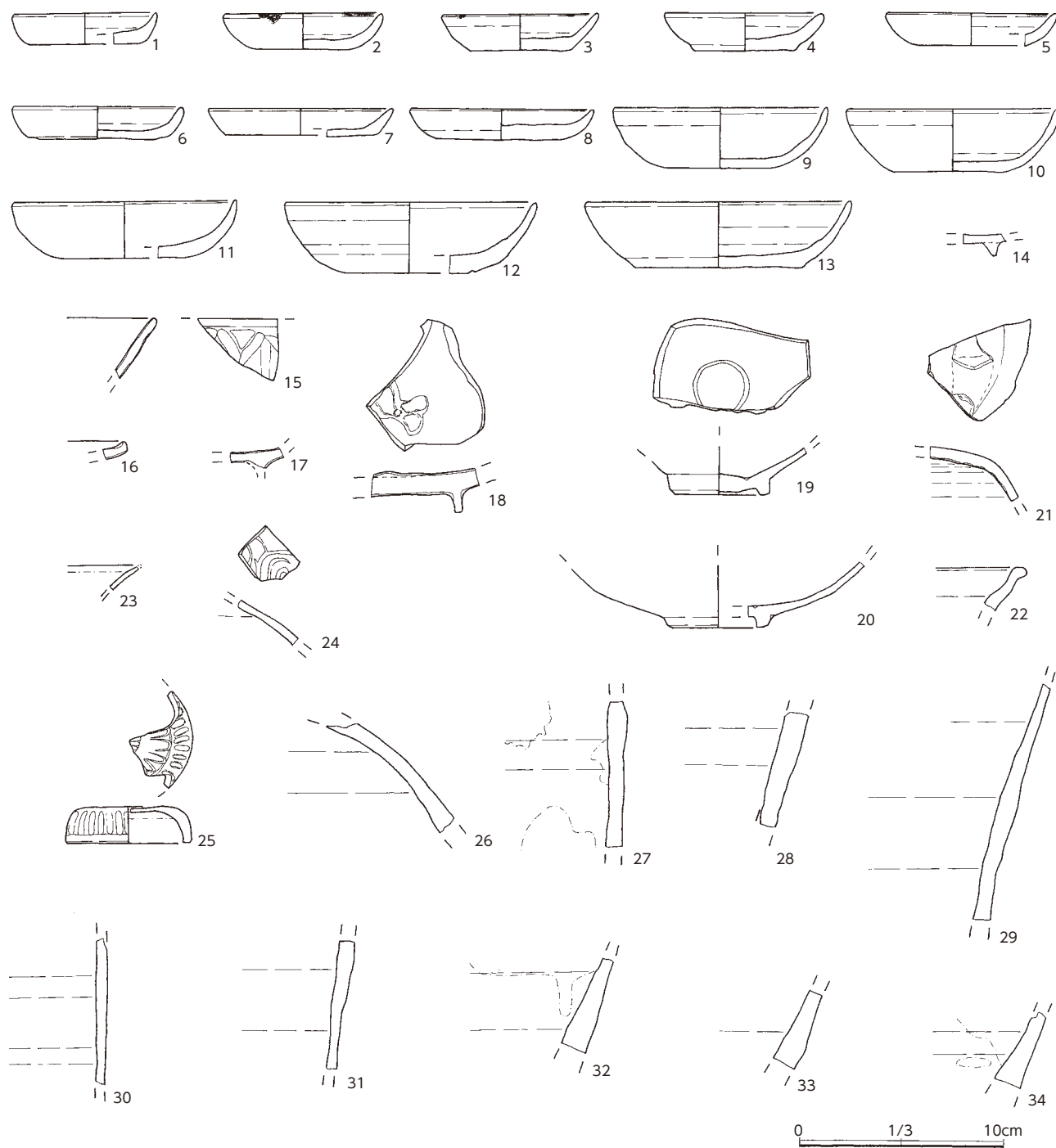


図21 3面遺構外出土遺物(1)

遺構名	平面形	検出標高(m)	東西径(cm)	南北径(cm)	底部標高(m)	重複関係
P 8	円形	10.60	32	34	10.31	P 21より古い

### 3面遺構外出土遺物(図21・22、表7～9、写真図版8～10)

出土遺物は、2面構築土の7層と3面上に堆積する8層から出土した遺物を一括して「3面遺構外」として図示した。総数417点中、68点を図化した。図21にはかわらけ小皿(1～8)・中皿(9～11)・大皿(12・13)、白かわらけ(14)、龍泉窯系青磁鎚蓮弁文碗(15)、青磁折縁鉢(16)・碗(17)・底部に魚文を貼り付けした鉢(18)、白磁碗(19・20)・四耳壺(21)・壺(22)、青白磁口はげ皿(23)・梅瓶(24)・天頂部に菊花状の文様を施す合子蓋(25)、9点とも同一個体である可能性が高い褐釉壺(26～34)を図

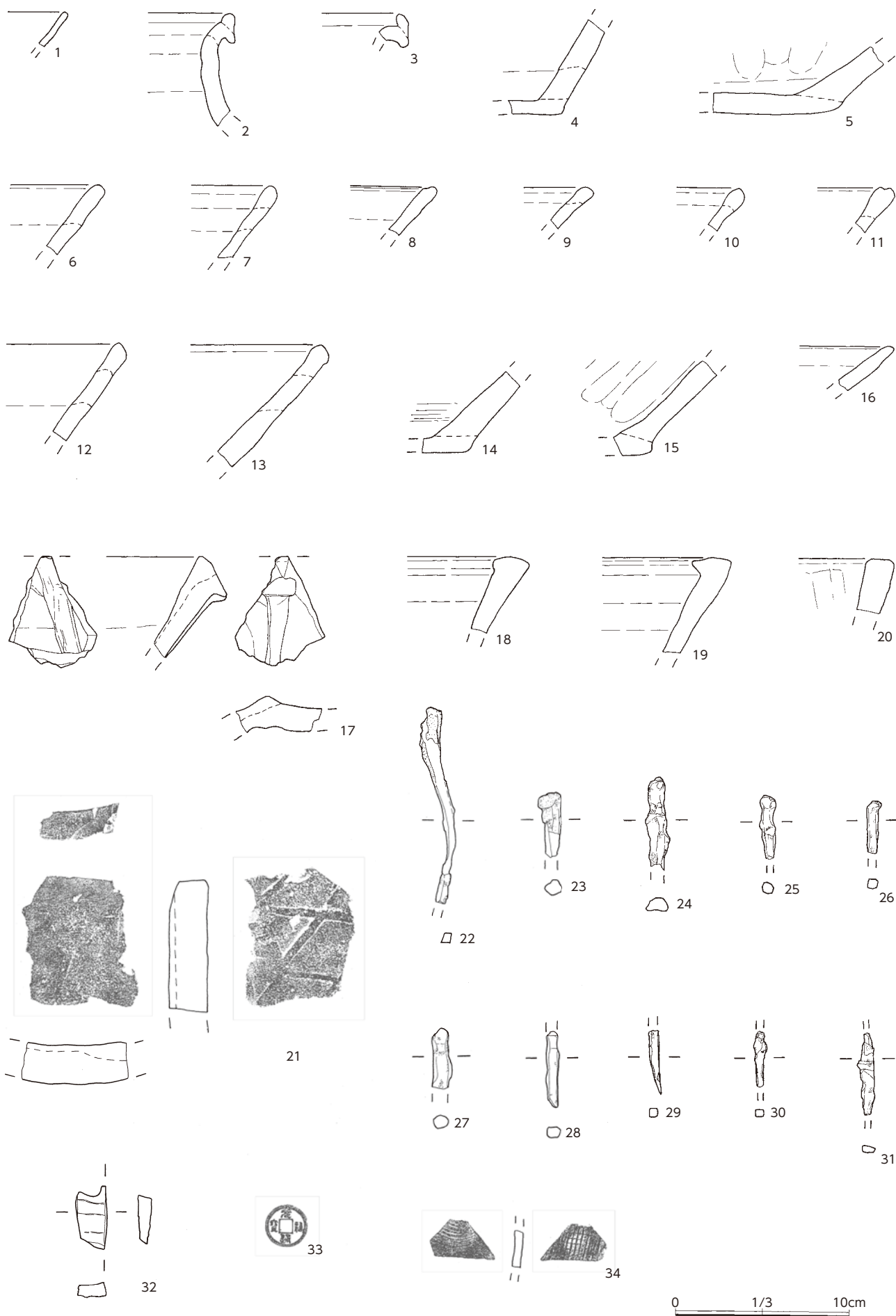


图 2 2 3面遺構外出土遺物(2)

示した。図22には東遠型山皿(1)、中野編年5・6型式の常滑窯の甕口縁部片(2・3)、同じく常滑窯の甕底部片(4・5)、片口鉢Ⅰ類(6～11)、片口鉢Ⅱ類(12～15)、渥美窯甕(16)である。17は外面口縁部につまみ状の装飾と思われる部位が貼り付けてあり、全体の形状は推測し難く、胎土などから伊勢の火鉢と思われる。鎌倉遺跡群において類似する例はなく、出土例は管見の限り初めてと思われる。そのほかに瓦質火鉢(18・19)、土器質火鉢(20)、永福寺期の平瓦(21)、鉄釘(22～31)、緑泥片岩を加工してある用途不明品(32)、篆書で元祐通寶と鑄造された銅銭(33)、内面に青海波文、外面に格子状の叩き文様を捺された須恵器甕の小破片(34)を図示した。

#### 4. 4面の遺構と遺物

3面終了時の調査深度が地表から80cmであったため、水抜き側溝から見える土層堆積などから、地表下1mの位置に遺構面と思われる土層が観察できたので、排土処理などを考慮し、南半部のみ調査を行った。3面構築土である9層とその下に厚さ10cmほど堆積していた10層を掘り下げた時点でやや締りの弱い暗茶灰色粘質土の拡がりや遺構プランを確認したのち、4面として検出した(図23)。当面では調査面積約半分の12㎡になり、その範囲内から土坑8基、柱穴16口を検出した。調査区壁で確認した標高は10.50m～10.40m。調査時の各遺構の検出標高値は10.50m前後である。

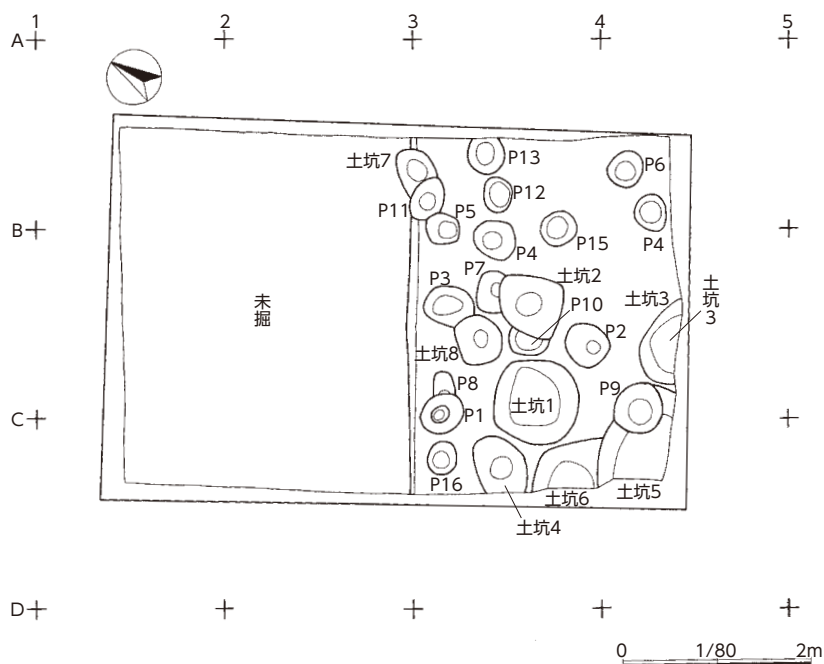


図23 4面全測図

#### 土坑(図24・25、表9、写真図版4・9・10)

##### 土坑1(図24・25、表9)

調査区南西部中央、C-4グリッドの北に位置する。平面形は不整円形、規模は東西径50cm×南北径52cm、深さ34cm、底部標高10.15mを測る。図示可能な遺物は、かわらけ(1・2)、鉄釘(3・4)である。

##### 土坑2(図24)

調査区南半部中央付近、B-4グリッドの西に位置する。P7、P10と重複関係にあり、両遺構を削平している。平面形は不整形、規模は東西径64cm×南北径76cm、深さ28cm、底部標高10.23mを測る。図示可能な遺物はない。

##### 土坑3(図24・25、表9)

調査区南壁中央、C-4グリッドの東に位置する。南側大半は調査区壁外側に拡がっているため、形状・規模は不明である。確認できた規模は長径88cm×短径38cm、深さ38cm、底部標高10.18mを測る。図示可能な遺物は、龍泉窯系青磁折縁碗(5)1点であった。



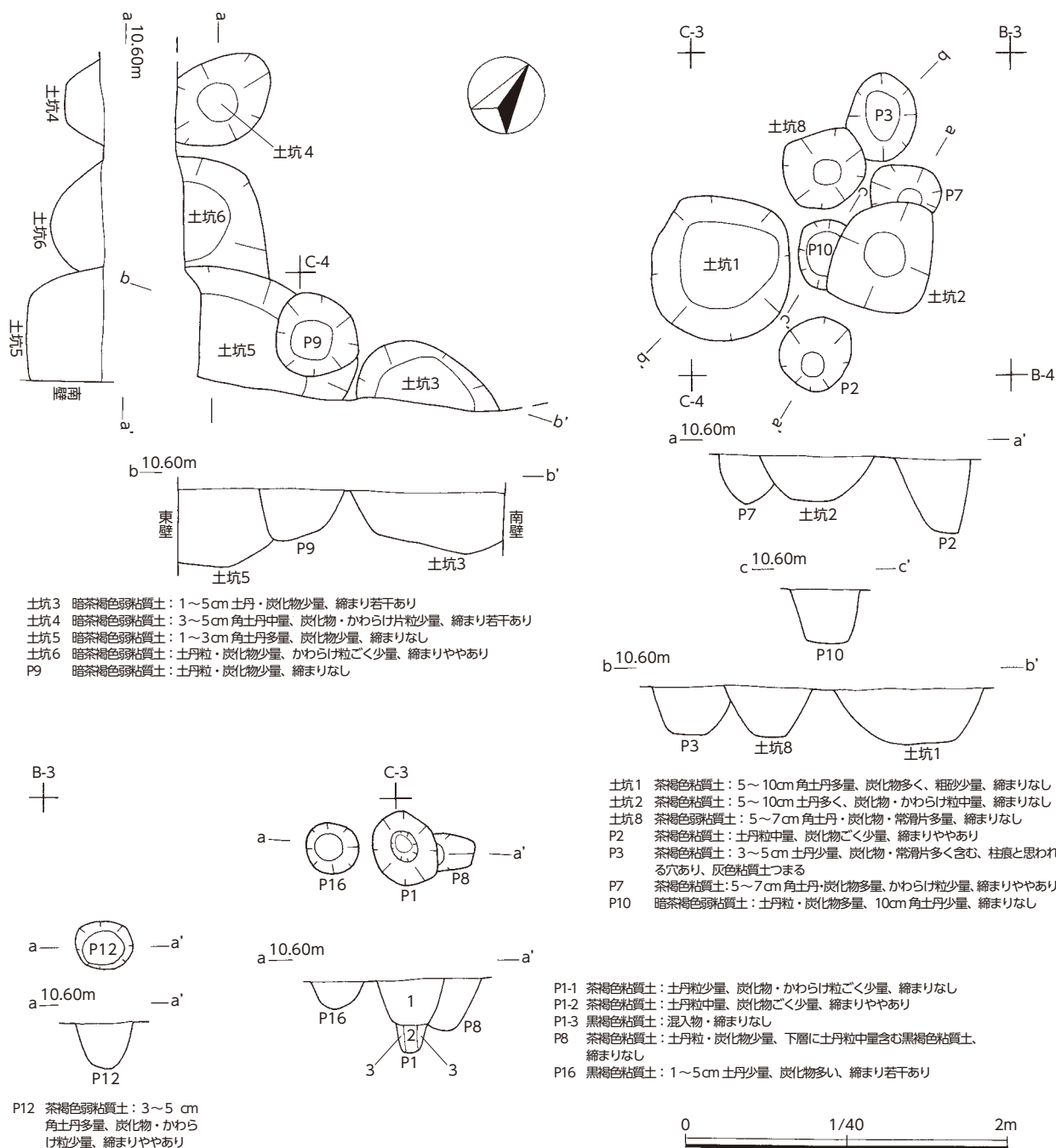


図24 4面土坑・ピット

土坑4～6 (図24・25、表9)

調査区西壁南部、C-4グリッド付近に位置する。土坑5と6が重複関係にあり、土坑5の方が新しい。また、土坑5もP9に削平されている。それぞれ調査区壁外側に拡がっていて、形状・規模は不明である。土坑4の確認規模は、東西径53cm×南北径73cm以上、深さ14cm、底部標高10.33mを測る。図示可能な遺物はない。土坑5の確認規模は、東西径127cm×南北径74cm以上、深さ47cm、底部標高10.02mを測る。図示可能な遺物は、白かわらけ(6)、片口鉢I類(7・8)2点である。土坑6の確認規模は、東西径94cm以上×南北径55cm以上、深さ33cm、底部標高10.15mを測る。図示可能な遺物はない。

土坑8 (図24・25、表9)

調査区南中央南側、C-4グリッドの北に位置する。P3と重複関係にあり、平面形は不整形円形、規

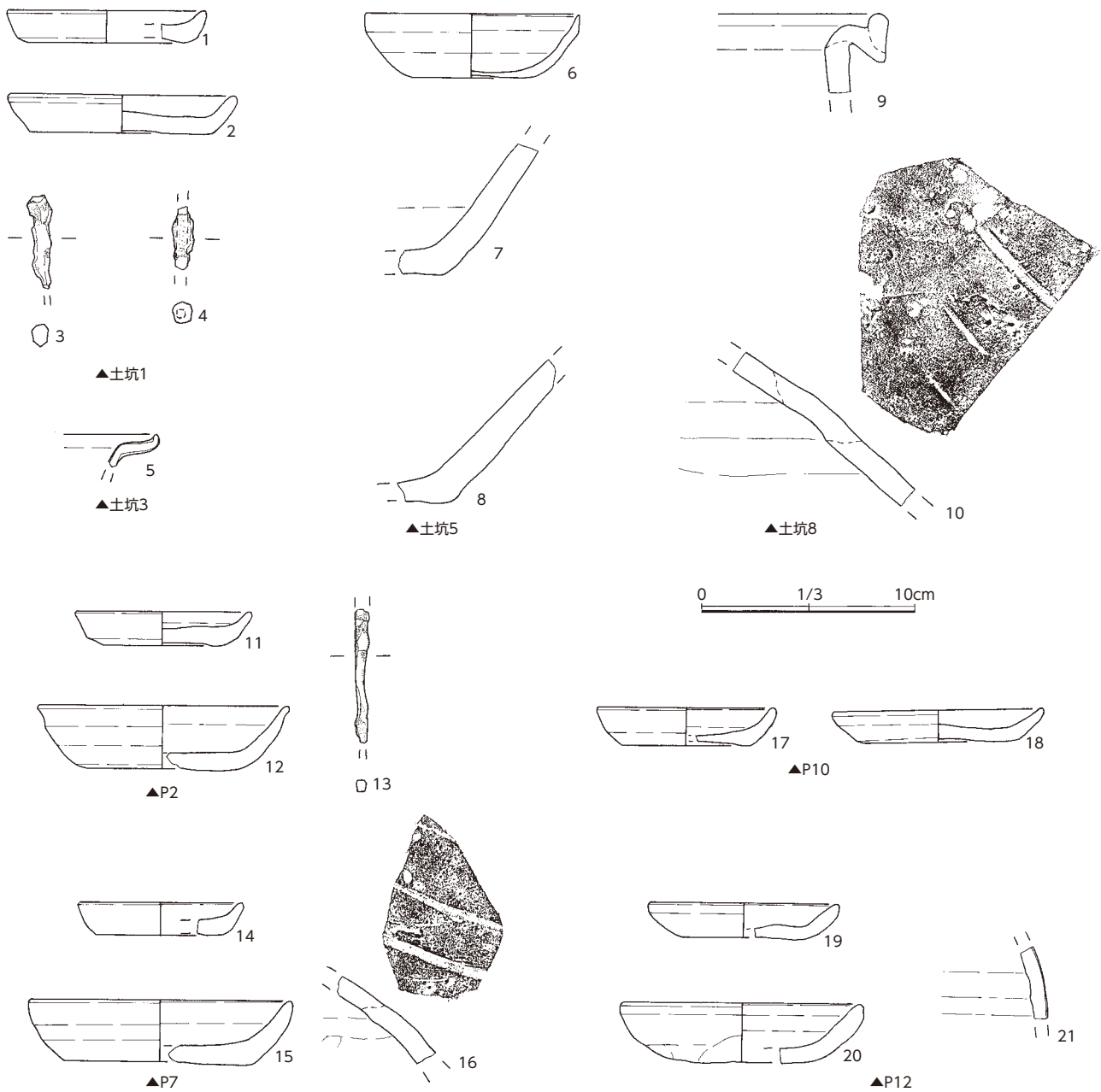


図25 4面各遺構出土遺物

横は東西径50cm×南北径55cm、深さ31cm、底部標高10.18mを測る。図示可能な遺物は、中野編年5型式の常滑窯甕(9)と外面に3本の線刻がみられる常滑窯甕(10)である。

ピット(図24・25、表8、写真図版4・9・10・11)

P1・8・16(図24)

調査区西側中央、C-3グリッド付近に位置する。P1とP8は重複関係にあり、P1の方が新しい。P1は平面形がやや楕円形を呈し、東西径47cm×南北径40cm、深さ45cm、底部標高値は10.02mを測る。検出表面から28cmほどまで土丹粒少量、炭化物やかかわらけ粒をごく少量含む茶褐色粘質土の堆積があり、その下に柱の抜き痕が中心部にみられ、周囲に柱の裏込め土が堆積していた。土層断面から柱痕は径8cm、高さ17cmの状況がみられた。覆土内から手捏ね成形のかかわらけ片が出土しているが、図化するに至らなかった。

P 8はP 1により大半を削平されていたため、径23cm、深さ33cmしか確認できなかった。底部標高10.15mを測る。さらに、P 1に向かい細く斜めに掘られている状況がみられたため、P 1にあった柱を抜くための抜き取り穴の可能性が示唆できる。P 16については平面形が円形を呈し、東西径34cm×南北径32cm、深さ16cmを測る浅型のピットである。底部標高10.30mを測る。両遺構とも図化できる遺物はなかった。

P 2 (図24・25、表9)

調査区南半部中央付近、C-4グリッドの東に位置する。平面形は不整形円形、規模は東西径43cm×南北径46cm、深さ46cm、底部標高10.03mを測る。図示可能な遺物は、かわらけ(11・12)、鉄釘(13)である。

P 3 (図24)

調査区南半部中央付近、B-3グリッドの南に位置する。土坑8との重複関係により、南端部を削平されている。規模は東西径43cm×54cm、深さ30cm、底部標高10.19mを測る。図示可能な遺物はない。

P 7 (図24・25、表9)

調査区南半部中央付近、B-3グリッドの南に位置する。土坑2との重複関係により、南半分を削平されている。確認できた規模は、東西径44cm×南北径23cm以上、深さ30cm、底部標高10.00mを測る。図示可能な遺物は、かわらけ(14・15)と土坑8から出土した外面に3本の線刻がある常滑窯甕と同一個体と思われる肩部片(16)である。

P 9 (図24)

調査区南西部、C-4グリッドの南に位置する。平面形は不整形円形、規模は東西径54cm×南北径51cm、深さ約33cm、底部標高10.22mを測る。図示可能な遺物はない。

P 10 (図24・25、表9)

調査区南半部中央付近、C-4グリッドの北に位置する。土坑2との重複関係により、東部を削平されている。確認できた規模は、東西径22cm以上×南北径44cm、深さ33cm、底部標高10.16mを測る。図示可能な遺物は、かわらけ(17・18)である。

P 12 (図24・25、表9)

調査区中央東側、B-3グリッドからやや南東に位置する。平面形は不整形円形、規模は東西径36cm×南北径32cm、深さ28cm、底部標高10.20mを測る。図示可能な遺物は、轆轤成形のかわらけ(19)と手捏ね成形のかわらけ(20)、青磁の袋物(21)である。

遺構名	平面形	検出標高(m)	東西径(cm)	南北径(cm)	底部標高(m)	重複関係
土坑7	楕円形	10.50	41	40以上	10.34	P 11より古い
P 4	不整形円形	10.50	40	46	10.36	—
P 5	不整形円形	10.50	38	36	10.20	P 11より新しい
P 6	不整形円形	10.50	38	35	10.28	—
P 11	楕円形	10.50	49	35	10.30	P 5より古い
P 13	円形	10.50	40	42	10.38	—
P 14	不整形円形	10.50	38	36	10.25	—
P 15	楕円形	10.50	39	35	10.32	—
P 16	円形	10.50	34	32	10.30	—

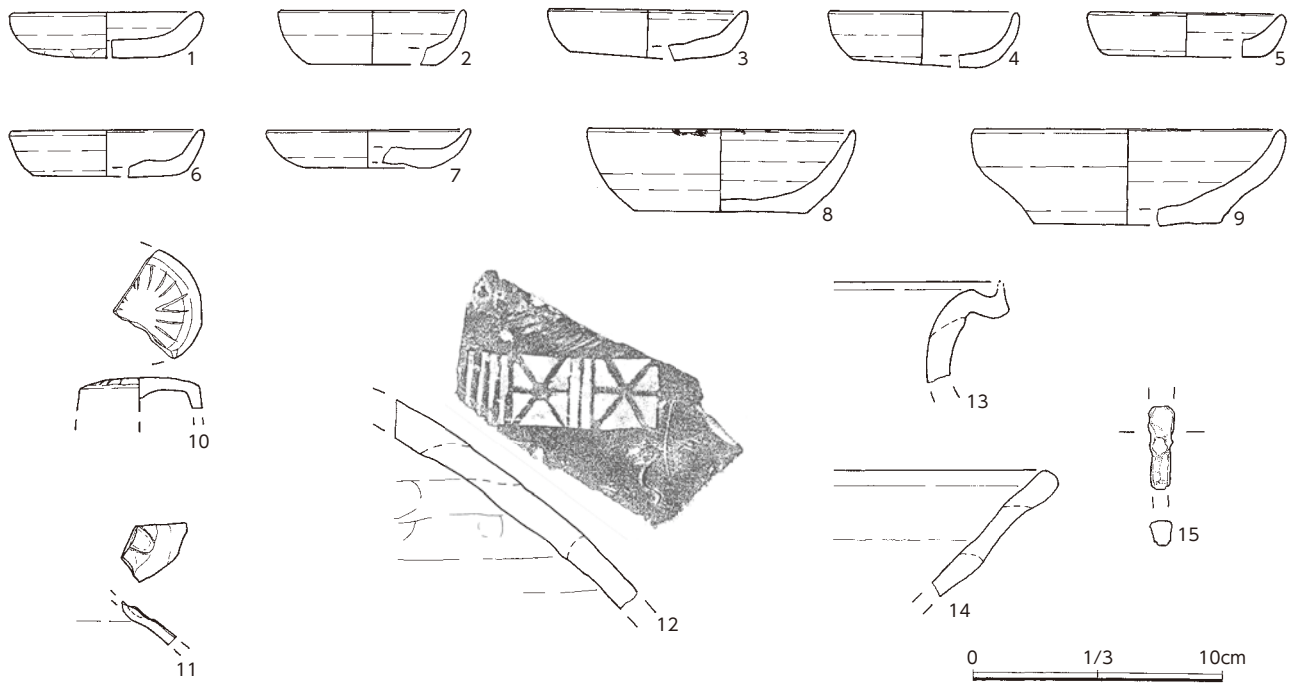


図26 4面遺構外出土遺物

4面遺構外出土遺物 (図26、表9・10、写真図版11)

3面構築土である9層と10層含まれる遺物を「4面遺構外」とした。総数203点中、15点を図化した。手捏ね成形のかわらけ小皿(1)、轆轤成形のかわらけ小皿(2~7)・中皿(8)・大皿(9)、天頂部に放射状の文様を施す青白磁合子蓋(10)、青白磁袋物(11)、外面に幾何学文様の押印がある常滑窯甕(12)、中野編年5型式である常滑窯甕の口縁部片(13)、片口鉢I類(14)、鉄釘(15)を図示した。

## 第四章 まとめ

本調査地点は名越ヶ谷遺跡内の南部、妙法寺の北側近くに所在する。東隣には山裾が近接し、妙法寺と至近距離にあることから、谷戸の造成や寺域に関連する遺構や遺物の発見に期待されたが、狭小な調査範囲や深度規制により不明瞭と言わざるを得ない。したがって、近隣の調査成果と比較して若干の考察を試みたい。

出土した遺物は表11から見てとれるように、大半はかわらけが占めている。次いで、国産陶器（特に常滑窯）の製品が多く出土している。瀬戸窯製品も少量ながら出土しているが、比較的目立つのが舶載陶磁器である。調査地を寺域の一面とする前提の場合、鎌倉遺跡群における寺域の出土遺物から相対すると、その根拠は薄く、遺構の年代による増減の傾向が鎌倉市内域と同様の出土傾向としてみるのが妥当であろう。また、各面の遺物の総数を単純に見比べると、時期が古いほど出土総数が増加している。4面の場合設定した調査区の半分しか調査していないので対照するには値しないが、上記の傾向と同じく、1面と2・3面の間に調査地近隣では盛衰の時期が想像できる。

50m西側に近接している大町四丁目1888番地点（図1-6地点）の報告では、下層からⅠ～Ⅲ期と区分しており、その内に5枚の生活面を確認している。調査地は現地表が11.40～11.50mを測り、6地点では11.00m前後、西に向かい緩やかに傾斜している。この調査地点で検出した遺構面と本地点の遺構面を比較・整合すると、遺構面の標高や出土遺物の年代観などから1面をⅢ期上層、2面をⅢ期中層、3面をⅢ期下層、4面をⅡ期上層として比定できると思われ、その傾斜による堆積に変化はみられず、調査地から6地点間あるいは周辺域にもほぼ平坦な地面が広がっていることが想定できる。

出土した遺物は少なく遺存度も悪い状況で、明確な資料を提示できてはいないが、調査地内の変遷を下層から辿ってみる。4面は遺構全体の様相が掴めていないが、P1の柱抜き取り痕や底部標高が同様のピットがあることから、明確な根拠がないため図示しなかったが、建物あるいは柱穴列がある感覚は現地調査段階でもあった。軟弱な地盤に思う点もあるが、至って不明瞭のままである。遺物は糸切りと手捏ね成形のかわらけが混同して出土するが、その割合は狭小な調査範囲内でも圧倒的に糸切り成形が多く、手捏ね成形から糸切り成形に移行する時期ではないかと推測できる。概ね13世紀後半の時期としたい。3面では非常に締まった地盤に浅形のピットや土坑のみ検出した。手捏ね成形がわずかながら出土しており、薄手かわらけの形状や口径12cm未満の中型品がしばしば目立ち、種類が豊富になり4面とあまり時期差はないと思われる。常滑窯甕の型式編年などから13世紀後葉頃と思われる。

2面は南北に並ぶ柱穴列を検出したが、調査区範囲内では延長が認められなかった。山裾に近いことから境界等を示す柵列と推測したい。遺物は糸切りかわらけの器肉がやや厚くなる。さらに、手捏ねかわらけが消失し、瀬戸窯製品が増える傾向から3・4面でみられた遺物組成とは異なる。概ね14世紀前半、おそらく鎌倉時代後期であろうと考えている。1面では非常に締まった土丹版築面が広がっており、遺構数も極端に少なくなる。あまり活用されることはない空地であった可能性がある。各遺構内の遺物と1面構築土中の遺物から概ね14世紀前半～中頃と考えたい。

表1 遺物観察表(1)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
8-1	1面 土坑1	かわらけ	口縁部 一部破損	12.9	7.6	3.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
8-2	1面 土坑4	かわらけ	口縁~底部 1/4	(8.4)	(6.2)	1.4	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
8-3	1面 土坑4	瀬戸 皿	胴部小片	—	—	—	b:灰白色 良胎 c:淡黄白色 e:良好 f:内面自然釉付着
8-4	1面 土坑4	火打石	完形	長4.3 幅3.4 厚2.1			f:ノミ状工具で加工 全体に打撃痕
8-5	1面 土坑4	鉄釘	完形	長5.7 幅0.5~1.3 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
8-6	1面 土坑4	鉄釘	頭~胴部	長[4.9] 幅0.4~0.8 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
8-7	1面 P2	鉄釘	完形	長[3.9] 幅0.5~0.9 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
8-8	1面 P3	鉄釘	頭~胴部	長4.6 幅0.7~1.0 厚0.7			a:胴部四角形に鍛造
8-9	1面 P3	鉄釘	頭~胴部	長[4.8] 幅0.3~0.6 厚0.4			a:胴部四角形に鍛造
8-10	1面 P4	かわらけ	口縁部1/3 ~底部1/5	(7.6)	(4.3)	1.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 粗胎 c:黄 橙色 e:良好
8-11	1面 P4	鉄釘	頭~胴部	長[6.0] 幅0.5~1.8 厚0.8			a:胴部四角形に鍛造
8-12	1面 P5	石製品 硯	左陸部	長[7.7] 幅[3.7] 厚1.6			a:側面丁寧に削り調整 b:黒色粘板岩 c:灰黒色 f:全体に磨耗している
9-1	1面遺構外	かわらけ	口縁部1/2 ~底部4/5	7.45	4.6	1.9	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 粗胎 c:黄橙色 e:良好
9-2	1面遺構外	特殊かわらけ	底部小片	高台部高さ0.6			b:砂粒多い・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
9-3	1面遺構外	不明土器 (燈明台か)	胴部小片	—	—	[2.4]	b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好
9-4	1面遺構外	青白磁 香炉か	肩部小片	—	—	—	b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:淡水青色半透明 e:良好
9-5	1面遺構外	瀬戸 折縁皿	口縁部小片	推定 11.2	—	[2.5]	a:灰釉ハケ塗り b:灰白色 砂粒・黒色粒 良胎 d:灰緑色透明 e:良好
9-6	1面遺構外	常滑 甕	口縁部小片	緑帯幅 4.5	—	—	a:輪積み b:淡褐色 砂粒・白色粒 粗胎 c:淡赤褐色 e:やや良好 f:中 野編年8型式
9-7	1面遺構外	滑石製 鍋	口縁部小片	—	—	[1.9]	d:銀灰色
9-8	1面遺構外	東播系 捏鉢	口縁部1/3 ~胴部1/6	推定 31.2	—	[10.7]	b:灰色 砂粒・白色粒 やや良胎 粘質 d:灰色 e:良好 f:外面口縁部自然 釉付着 内面胴部若干磨減している
9-9	1面遺構外	鉄釘	完形	長8.1 幅0.6~1.1 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
9-10	1面遺構外	鉄釘	完形	長5.2 幅0.3~0.8 厚0.4			a:胴部四角形に鍛造
9-11	1面遺構外	鉄釘	頭~胴部	長[6.3] 幅1.0~1.7 厚1.0			a:胴部四角形に鍛造
9-12	1面遺構外	鉄釘	頭部	長[3.5] 幅1.0~1.9 厚1.0			a:胴部四角形に鍛造
9-13	1面遺構外	鉄釘	頭~胴部	長[3.6] 幅0.8~1.5 厚1.1			a:胴部四角形に鍛造
9-14	1面遺構外	不明鉄製品	胴部?	長[5.0] 幅1.3~1.8 厚0.8			a:断面薄い長方形に鍛造
10-1	1面構築土中	かわらけ	口縁~底部 1/2	(6.8)	4.4	2.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好 f:口縁部一部に煤付着、燈明皿
10-2	1面構築土中	かわらけ	口縁部2/5 ~底部1/2	(7.6)	4.7	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・泥岩粒 粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好
10-3	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/3	(7.8)	(5.6)	1.45	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや 粗胎 砂質 c:黄橙色 e:やや良好
10-4	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/5	(7.7)	(4.6)	2.2	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好 f:二次焼成の為、全体が焼けている
10-5	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/6 ~底部1/3	(8.4)	(6.0)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好 f:二次焼成の為、全体が焼けている

表2 遺物観察表(2)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
10-6	1面構築土中	かわらけ	口縁～底部 1/4	(8.1)	(5.5)	1.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
10-7	1面構築土中	かわらけ	口縁～底部 1/3	(8.2)	(5.2)	1.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:やや良好
10-8	1面構築土中	かわらけ	口縁部2/5 ～底部1/2	(10.6)	6.6	3.05	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒多い・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:淡橙色 e:良好
10-9	1面構築土中	かわらけ	口縁～底部 1/4	(11.1)	(8.4)	3.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
10-10	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/5 ～底部1/4	(11.8)	(5.8)	3.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:橙色 e:良好
10-11	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/5 ～底部1/4	(12.7)	(7.5)	3.0	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:黄橙色 e:良好
10-12	1面構築土中	かわらけ	口縁～底部 1/4	(14.3)	(10.2)	3.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 粗胎 c:橙色 e:良好
10-13	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/3 ～底部1/2	12.7	8.0	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:黄橙色 e:やや良好
10-14	1面構築土中	かわらけ	口縁部1/3 ～底部4/5	13.8	8.1	3.5	a:轆轤 外底右回転糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:橙色 e:良好
10-15	1面構築土中	龍泉窯系 青磁 劃花文碗	口縁部小片	—	—	—	a:内面劃花文 b:灰色 精良緻密 d:暗灰緑色半透明 e:良好
10-16	1面構築土中	瀬戸 瓶子	肩部片	—	—	—	a:灰釉ハケ塗り 胴部に周回する3つの条線 b:灰白色 黒色粒 良胎 d:淡灰緑色透明 e:良好
10-17	1面構築土中	常滑 壺	胴部小片	—	—	—	a:輪積み b:淡灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:外面赤褐色 内 面淡茶褐色 e:良好
10-18	1面構築土中	常滑 甕	口縁部小片	緑帯幅2.2			a:輪積み b:淡灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・石英粒 粗胎 粘質 c:外面 赤褐色 降灰多量で明灰色 e:良好 f:中野編年7～8型式
10-19	1面構築土中	常滑 甕	口縁部小片	緑帯幅4.3			a:輪積み b:灰黒色 砂粒・白色粒・黒色粒 粗胎 c:褐色～淡赤褐色 e:良好 f:中野編年8型式
10-20	1面構築土中	常滑 甕	底部1/5以下	—	—	—	a:輪積み 外底砂目痕 b:淡褐色 砂粒・白色粒多い 粗胎 c:淡赤褐色 降 灰部灰白色 e:良好 f:内面降灰 内底弱い磨滅
10-21	1面構築土中	常滑 片口鉢1類	胴部小片	—	—	—	a:輪積み 下部横位のヘラ削り b:黄灰色 砂粒・白色粒 やや粗胎 c:黄灰色 e:やや不良 f:内面強い磨滅
10-22	1面構築土中	常滑甕磨耗陶片	完形	長8.6 幅6.1 厚1.1～1.3			c:表面淡黄色 裏面灰色 f:裏面中央部を除き全体を使用、非常に強く磨 耗
10-23	1面構築土中	砥石(中砥)	上下部欠損	長(7.0) 幅2.7～3.3 厚3.1			b:凝灰岩 c:赤味白色 f:伊予産 全体を使用、所々に切り傷がみられる
10-24	1面構築土中	砥石(中砥)	上下部欠損	長4.9 幅2.9 厚1.0～1.7			b:安山岩 c:黄灰色 f:上野産 全体を使用、所々に切り傷がみられる
10-25	1面構築土中	泥岩製 円板	一部欠損	長[7.8] 幅7.8 厚3.3			a:円形に加工 b:凝灰質泥岩 c:淡黄色
10-26	1面構築土中	鉄釘	完形	長4.1 幅0.6～1.3 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
10-27	1面構築土中	鉄釘	頭～胴部	長(5.9) 幅1.06～1.3 厚1.0			a:胴部四角形に鍛造
10-28	1面構築土中	鉄釘	頭～胴部	長(4.6) 幅0.6～1.2 厚0.7			a:胴部四角形に鍛造
14-1	2面 土坑1	青磁 碗	胴部小片	—	—	—	b:明灰色 黒色粒 精良緻密 d:暗灰緑色透明 内外面施釉 釉層やや薄い e:良好 f:内面傷(使用痕)多い
14-2	2面 土坑1	青磁 碗	高台部小片	—	—	—	b:灰白色 精良緻密 d:灰緑色半透明 内外面施釉 高台量付露胎 e:良好
14-3	2面 土坑1	褐釉 壺	肩部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 良胎 緻密 d:黒褐色不透明 外面施釉 内 面露胎 e:良好 f:同一個体(実測不可遺物)9小片あり
14-4	2面 土坑1	褐釉 壺	肩部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 粘質 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好 f:図14-3と同一個体
14-5	2面 土坑1	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 粘質 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好 f:図14-3と同一個体
14-6	2面 土坑1	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 粘質 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好 f:図14-3と同一個体
14-7	2面 土坑1	鉄釘	頭部一部欠損	長4.6 幅0.4～0.9 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
14-8	2面 土坑2	かわらけ	口縁～底部 1/6	(7.4)	(5.2)	2.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好

表3 遺物観察表(3)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
14-9	2面 土坑2	かわらけ	口縁～底部 1/5	(7.6)	(5.2)	1.6	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好
14-10	2面 土坑2	かわらけ	口縁部1/3 ～底部1/2	(7.6)	4.6	1.95	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母多い・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:橙色 e:良好
14-11	2面 土坑2	かわらけ	口縁部1/3 ～底部1/2	(8.1)	4.8	1.95	a:轆轤 外底右回転糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-12	2面 土坑2	かわらけ	口縁～底部 1/6	(10.9)	(6.5)	3.15	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-13	2面 土坑2	かわらけ	口縁部2/5 ～底部1/2	(11.8)	(8.1)	3.15	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-14	2面 土坑2	かわらけ	口縁～底部 1/3	(12.2)	(6.7)	2.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:黄灰色 e:やや不良
14-15	2面 土坑2	かわらけ	口縁～底部 1/5	(12.8)	(7.8)	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-16	2面 土坑2	かわらけ	口縁部1/3 ～底部1/4	(13.7)	(8.3)	3.4	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好
14-17	2面 土坑2	白磁 皿	底部小片	—	—	—	a:内底に周回する沈線 b:明灰白色 黒色粒 精良緻密 d:暗灰白色半透明 内外面施釉 高台部露胎 e:良好
14-18	2面 土坑2	瀬戸 瓶子	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒 良胎 c:灰白色 e:良好
14-19	2面 土坑2	鉄釘	完形	長3.4 幅0.6～1.0 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
14-20	2面 土坑3	かわらけ	口縁部1/4 ～底部2/3	(13.2)	(7.4)	3.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 砂質 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
14-21	2面 土坑3	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	—	—	—	a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・小石粒 やや粗胎 c:淡褐色 降灰部 灰緑色 e:良好 f:内面降灰多量
14-22	2面 土坑4	かわらけ	口縁部1/5 ～底部1/8	(7.8)	(5.2)	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒やや多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好
14-23	2面 土坑4	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/2	(10.0)	6.6	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好
14-24	2面 土坑4	白磁 口はげ碗	口縁部小片	推定 14.8	—	—	b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:灰白色半透明 内外面施釉 口唇部露胎 e:良好
14-25	2面 土坑4	常滑片口鉢Ⅰ類 転用磨耗陶片	完形	長4.3 幅5.0 厚1.0			b:明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 粗胎 c:明灰色 e:良好 f:裏・右側面除き弱い磨耗、特に左側面丸くなり磨耗強い
14-26	2面 土坑4	鉄釘	完形	長5.3 幅0.4～1.1 厚0.9			a:胴部四角形に鍛造
14-27	2面 土坑4	鉄釘	完形	長4.6 幅0.4～1.0 厚1.1			a:胴部四角形に鍛造
14-28	2面 土坑4	鉄釘	頭～胴部	長(5.1) 幅1.2 厚1.1			a:胴部やや四角形に鍛造
14-29	2面 土坑5	かわらけ	口縁～底部 1/3	(12.1)	(6.2)	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-30	2面 土坑5	かわらけ	口縁部1/5 ～底部1/3	(13.8)	(8.4)	3.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-31	2面 土坑6	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/3	(8.2)	(5.8)	1.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:灰黄色 e:やや不良
14-32	2面 土坑6	かわらけ	口縁～底部 1/4	(10.2)	(6.0)	2.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-33	2面 土坑6	かわらけ	口縁部1/3 ～底部1/2	(10.3)	7.0	3.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-34	2面 土坑6	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/8	(12.4)	(6.8)	3.1	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:灰黄色 e:やや不良
14-35	2面 土坑6	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/6	(13.0)	(7.6)	3.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
14-36	2面 土坑6	滑石製 鍋	口縁部片	—	—	—	d:銀灰色 f:内面傷多い
14-37	2面 土坑6	常滑 甕口壺	胴部1/3	胴部径(13.4)		[6.0]	b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:褐色 降灰部灰緑色 e:良好 f:外面胴部にかけて降灰
14-38	2面 土坑8	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁～底部 1/3	(30.0)	(11.2)	(13.6)	a:輪積み 外底砂目痕 b:灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石 粗胎 c:外面赤褐色 降灰部灰緑色 e:良好 f:内面降灰多量 内底弱い磨減
15-1	2面 P1	瀬戸 壺	高台部小片	—	—	—	a:削り出し高台 b:灰白色 黒色粒 良胎 c:明灰色 e:良好 硬質



表4 遺物観察表(4)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
15-2	2面 P1	鉄釘	完形	長5.7～6.5 幅0.7～1.0 厚0.7			a:胴部四角形に鍛造
15-3	2面 P1	鉄釘	頭～胴部	長(4.2) 幅1.0～1.6 厚1.0			a:胴部四角形に鍛造
15-4	2面 P3	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部片	—	—	—	b:灰褐色 砂粒・黒色粒 やや良胎 c:赤褐色 降灰部灰緑色 e:良好 f:内面降灰多量
15-5	2面 P4	かわらけ	口縁部1/5～底部1/4	(6.8)	(5.4)	1.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:橙色 e:良好
15-6	2面 P4	瀬戸 卸皿	底部1/3	—	推定9.0	—	a:内底にヘラ状工具による卸目描き b:灰白色 白色粒・黒色粒 良胎 c:灰白色 e:良好 f:内面卸目外側に釉溜まる 卸目部に若干の自然釉 外面釉ダレ
15-7	2面 P5	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	a:輪積み b:明灰白色 砂粒・白色粒・石英粒・小石粒 やや粗胎 c:灰色 e:良好 f:図15-8と同一個体か
15-8	2面 P5	常滑片口鉢Ⅰ類	底部小片	—	—	—	a:貼付高台 b:明灰白色 砂粒・白色粒・石英粒・小石粒 やや粗胎 c:灰色 e:良好 f:図15-7と同一個体か
15-9	2面 P5	土器質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	a:内面磨き調整(磨耗) b:淡桃色 砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:内面橙褐色 外面黄褐色 e:良好 f:内面火熱により変色
15-10	2面 P6	常滑 甕	口縁部小片	緑帯幅1.7			b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:褐色 降灰部灰緑色 e:良好 f:内面～外面口縁部にかけて降灰 中野編年6a型式
15-11	2面 P7	白磁 口はげ皿	口縁部1/8	(9.8)	—	[1.2]	b:灰色 黒色粒 精良緻密 d:白濁色不透明 内外面施釉 口唇部露胎 気孔少量 ツヤなし e:良好 f:口唇部暗灰色に変色
15-12	2面 P7	龍泉窯系 青磁 鍋蓮弁文碗	胴部小片	—	—	—	a:外面鍋蓮弁文 b:灰色 黒色粒 精良緻密 d:暗灰緑色透明 内外面施釉 釉層薄い e:良好 f:内面傷(使用痕?)多い
15-13	2面 P7	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰褐色 白色粒・黒色粒 やや粗胎 d:明褐色不透明 外面施釉 内面釉ダレ厚い e:良好
15-14	2面 P7	鉄釘	先端部欠損	長(3.8) 幅0.3～0.8 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
15-15	2面 P8	かわらけ	口縁部1/3～底部1/8	(13.0)	(8.3)	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:淡橙色 e:良好
15-16	2面 P8	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 良胎 緻密 d:黒褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好 f:図14-3～6と同一個体か
15-17	2面 P8	褐釉 壺	底部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 良胎 緻密 d:黒褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好 f:図14-3～6と同一個体か
15-18	2面 P8	鉄釘	完形	長4.7 幅0.3～0.9 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
15-19	2面 P12	かわらけ	口縁～底部1/4	(10.4)	(8.8)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿か
15-20	2面 P12	白かわらけ	胴～底部小片	—	—	—	b:白灰色 砂粒 精良土 c:赤味白灰色 e:良好
15-21	2面 P12	鉄釘	完形	長4.8 幅1.1 厚0.6			a:胴部やや四角形に鍛造
15-22	2面 P13	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 やや良胎 緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好
15-23	2面 P14	褐釉 壺	肩部小片	—	—	—	b:灰黄白色 白色粒・褐色粒 良胎 緻密 d:黒褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好
15-24	2面 P14	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・褐色粒 やや良胎 緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好
15-25	2面 P15	かわらけ	口縁部1/6～底部1/2	(8.4)	6.4	1.6	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄褐色 e:良好 f:内外面二次焼成により煤付着
15-26	2面 P15	かわらけ	口縁部1/8～底部完形	(13.2)	8.2	3.4	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好
15-27	2面 P15	鉄釘	胴～先端部	長(3.6) 幅0.4～0.9 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
15-28	2面 P17	龍泉窯系 青磁 鍋蓮弁文碗	口縁部小片	—	—	—	a:外面鍋蓮弁文 b:白色 黒色粒 精良緻密 d:青緑色半透明 内外面施釉 釉層厚い e:良好
15-29	2面 P18	瀬戸 壺	肩部小片	—	—	—	a:肩部に周回する3つの条線 b:白灰色 砂粒 良胎 d:明灰緑色半透明 e:良好 f:二次焼成により外面器壁荒れる
16-1	2面遺構外	かわらけ	口縁～底部1/3	(7.0)	(4.6)	1.9	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好
16-2	2面遺構外	かわらけ	口縁～底部1/4	(7.0)	(5.7)	1.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・泥岩粒 やや粗胎 c:黄褐色 e:やや良好
16-3	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/3～底部1/2	(7.3)	4.6	1.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:橙色 e:良好

表5 遺物観察表(5)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
16-4	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/5	(7.8)	(6.0)	1.6	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-5	2面遺構外	かわらけ	口縁部5/6 ～底部完形	7.9	5.7	1.6	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-6	2面遺構外	かわらけ	口縁部4/5 ～底部完形	7.7	4.9	2.1	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙 色 e:良好
16-7	2面遺構外	かわらけ	口縁～底部 1/4	(7.9)	(5.4)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや良胎 c:黄橙 色 e:やや良好
16-8	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/8 ～底部1/4	(8.2)	(5.6)	2.1	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-9	2面遺構外	かわらけ	口縁部 一部欠損	7.2	4.5	2.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-10	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/5	(8.0)	(4.6)	2.1	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・海綿骨針・泥岩粒多い 粗胎 c:黄 橙色 e:やや良好
16-11	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/3	(9.0)	(6.8)	2.25	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-12	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/8 ～底部1/3	(11.2)	(6.7)	2.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや良胎 c:橙色 e:良好
16-13	2面遺構外	かわらけ	口縁～底部 1/3	(11.0)	(6.6)	2.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-14	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/3 ～底部1/4	(12.2)	(7.6)	4.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-15	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/8 ～底部1/2	(12.3)	7.7	3.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
16-16	2面遺構外	龍泉窯系 青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部小片	—	—	—	a:外面鎬蓮弁文 b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:灰緑色半透明 内外面施 釉 釉層やや厚い e:良好
16-17	2面遺構外	龍泉窯系 青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部小片	—	—	—	a:外面鎬蓮弁文 b:明灰色 精良緻密 d:灰緑色半透明 内外面施釉 釉層 薄い e:良好
16-18	2面遺構外	龍泉窯系 青磁 鎬蓮弁文碗	胴部小片	—	—	—	a:外面鎬蓮弁文 b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:淡灰色透明 内外面施釉 釉層薄い e:良好
16-19	2面遺構外	青磁 香炉	口縁～肩部 1/5	(8.8)	—	[2.8]	a:外面鎬蓮弁文 b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:灰緑色半透明 内外面施 釉 釉層厚い e:良好
16-20	2面遺構外	青白磁 蓋	天頂部1/6	—	—	—	a:外面天頂部草花状の文様 b:白色 精良緻密 d:水青色半透明 外面施釉 ツヤあり 内面露胎 e:良好
16-21	2面遺構外	褐釉 壺	肩部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 粗胎 粘質 d:褐色不透明 外面施釉 内面 露胎 e:良好 f:同一個体4片あり
16-22	2面遺構外	瀬戸 卸皿	口縁～胴部小 片	—	—	—	a:灰釉ハケ塗り 内面下部にヘラ状工具による卸目描き b:灰白色 砂粒 精良土 d:灰緑色透明 外面施釉 e:良好 f:内面所々釉剥がれている
16-23	2面遺構外	瀬戸 壺	胴部小片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・黒色粒 良胎 c:明灰色 e:良好 f:外面降灰少量 同一 個体2片あり
16-24	2面遺構外	常滑 甕	口縁部小片	縁帯幅1.7			a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 粗胎 c:赤褐色 e:良好 f:内外面自然釉多量 中野編年7型式
16-25	2面遺構外	常滑 甕	口縁部小片	縁帯幅5.0			a:輪積み b:暗灰色 白色粒・小石粒 やや粗胎 c:褐色 e:良好 f:中野 編年8型式
16-26	2面遺構外	常滑 甕	口縁～肩部片	推定口径40.4 縁帯幅5.7			a:輪積み b:灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒 粗胎 粘質 c:暗赤褐色 降灰 部黄灰緑色 e:良好 f:外面縁帯部を除き降灰 中野編年10型式
16-27	2面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	b:灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:灰白色 e:良好 f:口縁～ 内面にかけ自然釉付着
16-28	2面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部約1/4	—	(9.7)	[6.4]	a:輪積み 貼付高台 b:黄味灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 やや 粗胎 c:灰白～灰色 e:良好 f:内面降灰多量・磨滅 外面下部若干磨滅
16-29	2面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部1/5以下	—	—	—	a:輪積み 貼付高台 外底糸切痕 b:黄味灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:灰白色 降灰部暗灰色 e:良好 f:内面胴部降灰・弱い磨滅 内底磨滅
16-30	2面遺構外	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	—	—	—	b:暗灰色 砂粒・白色粒 やや粗胎 c:暗褐色 e:良好
16-31	2面遺構外	常滑片口鉢Ⅰ類 転用磨耗陶片	完形	長9.0 幅3.7～4.0 厚0.7～1.1			b:砂粒・白色粒 良胎 c:灰白色 e:良好 f:表面一部を除き磨耗・特に 側面が顕著
16-32	2面遺構外	瓦質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	b:淡褐色 砂粒・雲母・白色粒・黒色粒 粗胎 やや粘質 c:暗灰色 e:良 好 f:二次焼成により器壁全体荒れる
16-33	2面遺構外	瓦質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	b:明灰色 砂粒・雲母・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:灰色 e:良好
16-34	2面遺構外	瓦質 火鉢	底部小片	—	—	—	a:貼付脚 外底砂目痕 b:白灰色 砂粒多い・雲母・黒色粒 粗胎 c:暗灰 色 e:やや良好

表6 遺物観察表(6)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
16-35	2面遺構外	土器質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	b:暗橙色 砂粒・雲母・白色粒多い 粗胎 c:橙色 e:やや良好 f:内面磨き調整により磨滅 外面口縁下に菊花文スタンプ
16-36	2面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/2	—	—	1.4	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 口縁部をやや滑らかに削り調整 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:淡黄橙色 e:やや良好 f:楕円の形状を呈す様相
16-37	2面遺構外	鉄釘	完形	長5.5 幅0.6～0.9 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
20-1	3面 土坑1	かわらけ	口縁～底部 1/2	7.7	4.5	1.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母 やや粗胎 c:淡黄橙色 e:良好 f:外面胴部～内面胴部にかけて油煤付着 燈明皿
20-2	3面 土坑1	かわらけ	口縁～底部 1/4	(7.3)	(5.4)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:黄灰色 e:やや不良
20-3	3面 土坑1	かわらけ	口縁～底部 1/5	(7.4)	(2.6)	2.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・海綿骨針 やや粗胎 c:淡橙色 e:良好 f:外面口縁部～内底にかけ油煤多量に付着 燈明皿
20-4	3面 土坑1	かわらけ	口縁～底部 1/4	(8.1)	(6.2)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
20-5	3面 土坑1	かわらけ	口縁部1/8 ～底部完形	(12.8)	7.2	3.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒多い・泥岩粒 やや粗胎 c:橙色 e:良好
20-6	3面 土坑1	白磁 印花文碗	胴部小片	—	—	—	a:内面印花文 b:白色 精良緻密 d:白濁色半透明 内外面施釉 e:良好
20-7	3面 土坑1	瀬戸 壺	肩部片	—	—	—	a:内面肩部指頭圧痕強い b:明灰色 砂粒・黒色粒 良胎 c:灰白色 降灰部 灰緑色 e:良好 f:外面肩部降灰
20-8	3面 土坑1	鉄釘	胴部	長(3.8) 幅0.4～1.6 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
20-9	3面 土坑1	鉄釘	胴部	長(3.1) 幅0.8～1.0 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
20-10	3面 土坑2	かわらけ	口縁部1/6 ～底部4/5	(7.8)	5.8	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・泥岩粒 粗胎 c:淡黄橙色 e:良好
20-11	3面 土坑2	瓦質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	b:暗灰～黄灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 やや粘質 c:内面黄橙色 口縁部～外面暗灰色 e:やや良好
20-12	3面 土坑3	鉄釘	頭～胴部	長(4.5) 幅0.5～1.1 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
20-13	3面 土坑4	かわらけ	完形	7.8	4.9	2.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部若干油煤付着 燈明皿か
20-14	3面 土坑4	かわらけ	口縁一部欠損	11.95	7.9	3.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:橙色 e:良好
20-15	3面 土坑4	かわらけ	口縁部1/6 ～底部4/5	(13.8)	(7.2)	3.4	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 やや砂質 c:橙色 e:良好
20-16	3面 土坑6	東濃型山茶碗	口縁～胴部 1/12	—	—	—	b:灰白色 黒色粒・石英粒 良胎 やや粘質 c:灰白色 e:良好 f:二次焼成により所々黒色に変色 藤澤編年7型式か
20-17	3面 土坑6	常滑 片口鉢Ⅱ類	胴～底部小片	—	—	—	a:轆轤み 外底砂目痕 外面下部縦位へら削り b:淡褐～灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石 粗胎 c:赤褐色 e:良好
20-18	3面 土坑8	かわらけ	口縁部1/6 ～底部1/4	(7.2)	(4.6)	1.5	a:轆轤 外底右回転糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
20-19	3面 土坑8	かわらけ	口縁～底部約 1/2	(7.8)	(5.8)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
20-20	3面 土坑8	かわらけ	口縁～底部 1/6	(8.0)	(5.2)	1.6	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母 やや粗胎 やや砂質 c:淡黄橙色 e:良好
20-21	3面 土坑8	かわらけ	口縁部1/6 ～底部1/4	(8.8)	(7.4)	1.65	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母 やや粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好
20-22	3面 土坑8	かわらけ	口縁部1/6 ～底部1/3	(11.9)	(7.0)	3.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:淡黄橙色 e:良好
20-23	3面 土坑8	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/3	(12.4)	(8.4)	2.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好
20-24	3面 土坑8	かわらけ	口縁部1/8 ～底部1/4	(13.4)	(10.0)	3.4	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
20-25	3面 土坑8	白かわらけ	胴～底部小片	—	—	—	b:白灰色 砂粒・雲母 良胎 やや砂質 c:赤味白灰色 e:良好
20-26	3面 土坑8	白磁 口はげ皿	口縁部小片	—	—	—	b:白色 精良緻密 d:白灰色半透明 内外面施釉 口唇部露胎 e:良好
20-27	3面 土坑8	景德鎮窯 白磁 印花文皿	底部小片	—	—	—	a:内面印花文 b:灰白色 黒色粒 良胎 緻密 d:黄味白色半透明 内外面施釉 e:良好
20-28	3面 土坑9	かわらけ	口縁～底部 1/4	(7.8)	(6.0)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:灰黒色 e:良好 f:二次焼成により全体が変色、器壁荒れる

表7 遺物観察表(7)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
20-29	3面 P4	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/8	(7.2)	(5.4)	1.8	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒多い・雲母・海綿骨針 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
20-30	3面 P4	かわらけ	口縁~底部 1/8	(13.2)	(8.2)	3.1	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
20-31	3面 P5	かわらけ	口縁部1/8 ~底部1/4	(6.8)	(5.2)	1.1	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙 色 e:良好
20-32	3面 P5	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/5	(9.2)	(6.6)	1.7	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙 色 e:良好 f:二次焼成により底部以外黒~橙褐色にに変色
20-33	3面 P5	鉄釘	胴~先端部	長(3.2) 幅0.5~1.0 厚0.9			a:胴部四角形に鍛造
20-34	3面 P7	常滑 甕	底部小片	—	—	—	a:輪積み 外底砂目痕 外面胴部縦位へラ削り b:灰色 砂粒・白色粒 やや粗 胎 c:淡橙色 降灰部灰緑色 e:良好 f:内面け降灰
20-35	3面 P9	鉄釘	胴部	長(3.4) 幅0.6~0.8 厚0.8			a:胴部四角形に鍛造
20-36	3面 P10	かわらけ	口縁部1/8 ~底部1/3	(8.2)	(5.4)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗 胎 c:淡黄橙色 e:良好
20-37	3面 P11	かわらけ	口縁部1/5 ~底部1/4	(8.0)	(6.4)	1.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・海綿骨針・泥岩粒 粗 胎 c:淡黄橙色 e:良好
20-38	3面 P11	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/3	(11.7)	(7.2)	4.1	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 粗胎 やや砂質 c:橙色 e:良好
20-39	3面 P11	かわらけ	口縁・底部 一部欠損	12.1	7.8	3.4	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・海綿骨針・泥岩粒 や や粗胎 c:黄橙色 e:良好
20-40	3面 P11	鉄釘	頭~胴部	長(5.8) 幅0.9~1.1 厚0.8			a:胴部やや四角形に鍛造
20-41	3面 P15	かわらけ	口縁部3/4 ~底部完形	8.05	5.5	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒やや多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 砂質 c:淡黄橙色 e:良好
20-42	3面 P15	常滑 甕	胴部片	—	—	—	a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 粗胎 c:内面橙褐色 外面褐色 e:良好 f:外面薄く幾何学文様の押印文
20-43	3面 P16	かわらけ	口縁部1/2 ~底部2/3	(12.0)	8.0	3.25	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 やや粗胎 砂質 c:橙色 e:良好
21-1	3面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/5	(7.0)	(5.4)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや 粗胎 c:黄橙色 e:良好
21-2	3面遺構外	かわらけ	口縁部1/2 ~底部3/4	(7.8)	(9.4)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
21-3	3面遺構外	かわらけ	口縁部3/4 ~底部完形	(7.5)	(4.6)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 多い粗胎 c:淡橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
21-4	3面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/4	(7.6)	(4.6)	1.8	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒多い・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:淡黄橙色 e:良好
21-5	3面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/8	(8.2)	(5.2)	1.5	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
21-6	3面遺構外	かわらけ	口縁~底部 3/5	(8.2)	(5.8)	1.6	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥 岩粒 粗胎 c:淡黄橙色 e:良好
21-7	3面遺構外	かわらけ	口縁部1/8 ~底部1/6	(9.0)	(7.4)	1.3	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:淡黄橙 色 e:良好
21-8	3面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/4	(8.8)	(6.4)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:淡橙色 e:良好
21-9	3面遺構外	かわらけ	口縁部1/6 ~底部1/3	(10.4)	(5.4)	3.0	a:轆轤 外底糸切・板状痕 b:砂粒・雲母・赤色粒多い・泥岩粒 粗胎 c:橙色 e:良好 f:全体に二次焼成を受け黒く変色
21-10	3面遺構外	かわらけ	口縁部1/3 ~底部2/3	(10.2)	(5.6)	3.1	a:轆轤 外底糸切・板状痕 b:砂粒・雲母・赤色粒やや多い・泥岩粒 や や良胎 やや砂質 c:淡橙色 e:やや良好
21-11	3面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/6	(10.8)	(6.0)	2.8	a:轆轤 外底糸切痕 b:雲母・赤色粒 良胎 砂質 c:橙色 e:良好
21-12	3面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/5	(12.2)	(6.2)	3.4	a:轆轤 外底糸切・板状痕 b:砂粒・雲母多い・赤色粒・泥岩(2cm大を 含む) 粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:やや良好
21-13	3面遺構外	かわらけ	口縁部2/5 ~底部1/3	(12.8)	(8.2)	3.2	a:轆轤 外底糸切・板状痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針・泥岩粒やや多い 粗胎 c:黄橙色 e:良好
21-14	3面遺構外	白かわらけ	底部小片	—	—	[1.1]	a:外底糸切痕 貼付高台 b:暗灰色 砂粒 良土 c:淡白黄色 e:良好
21-15	3面遺構外	龍泉窯系 青磁 鎗蓮弁文碗	口縁部小片	—	—	—	a:外面鎗蓮弁文 b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:暗灰緑色半透明 内外面 施釉 釉層薄い 内面粗い貫入あり e:良好
21-16	3面遺構外	青磁 折縁鉢	口縁部小片	—	—	—	b:灰白色 精良緻密 d:青緑色半透明 内外面施釉 釉層厚い e:良好

表8 遺物観察表(8)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種 別	遺存度	寸法 (cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
21-17	3面遺構外	青磁 碗	底部小片	—	—	—	b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:淡灰緑色半透明 内外面施釉 釉層やや厚い e:良好
21-18	3面遺構外	青磁 魚文鉢	底部 1/7	—	—	[2.3]	a:外面蓮弁文 内底魚文貼付 b:白灰色 黒色粒 精良緻密 d:青緑色半透明 内外面施釉 高台豊付露胎 釉層厚い ツヤあり e:良好
21-19	3面遺構外	白磁 碗	底部 2/3	—	(4.6)	[2.3]	a:ツケガケ 削出高台 内底周回する沈線 b:白色 黒色粒 やや多い 緻密 d:青味白色半透明 内外面施釉 外面下部～高台内露胎 e:良好
21-20	3面遺構外	白磁 碗	底部 1/4	—	(4.4)	[3.1]	a:ツケガケ 削出高台 内底周回する沈線 b:白色 黒色粒 精良緻密 d:青味灰白色半透明 内外面施釉 高台内所々露胎 e:良好
21-21	3面遺構外	白磁 四耳壺	肩部小片	—	—	—	a:肩部耳貼付 b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:青味灰白色半透明 内外面施釉 釉層薄い e:良好
21-22	3面遺構外	白磁 壺	口縁部小片	—	—	—	b:淡灰黄色 黒色粒多い 良胎 d:淡黄灰色透明 内外面施釉 内面粗い貫入、外面細かい貫入あり e:良好
21-23	3面遺構外	青白磁 口はげ皿	口縁部小片	—	—	—	a:口縁部釉拭き取り b:白色 精良緻密 d:明青緑色透明 内外面施釉 口縁部露胎 e:良好
21-24	3面遺構外	青白磁 梅瓶	肩部小片	—	—	—	a:外面草花状の文様を隔刻 b:白色 精良緻密 d:淡水青色透明 外面施釉 内面露胎 e:良好
21-25	3面遺構外	青白磁 合子蓋	口縁～天頂部 1/4	(6.0)	(4.2)	1.8	a:外面天頂部菊花状の文様 胴部蓮弁文 b:白色 黒色粒 精良緻密 d:淡水青色透明 外面施釉 内面口縁～胴部露胎 内面釉層薄い e:良好
21-26	3面遺構外	褐釉 壺	肩部小片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-27～34と同一個体
21-27	3面遺構外	褐釉 壺	胴部片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26・28～34と同一個体
21-28	3面遺構外	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26・27・29～34と同一個体
21-29	3面遺構外	褐釉 壺	胴部片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26～28・30～34と同一個体
21-30	3面遺構外	褐釉 壺	胴部片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや粘質 緻密 d:茶褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26～29・31～34と同一個体
21-31	3面遺構外	褐釉 壺	胴部片	—	—	—	b:灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや粘質 緻密 d:茶褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26～30・32～34と同一個体
21-32	3面遺構外	褐釉 壺	胴部片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26～31・33・34と同一個体
21-33	3面遺構外	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26～32・34と同一個体
21-34	3面遺構外	褐釉 壺	胴部小片	—	—	—	b:黄味灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 やや緻密 d:褐色不透明 外面施釉 内面露胎、灰色 e:良好 f:図21-26～33と同一個体
22-1	3面遺構外	東遠型山皿	口縁部小片	—	—	—	b:暗灰色 黒色粒 良胎 緻密 c:暗灰色 e:良好 硬質 f:内面自然釉付着
22-2	3面遺構外	常滑 壺	口縁部小片	縁帯幅 1.8			a:輪積み b:灰白色 白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:暗灰色 降灰部緑灰色 e:良好 硬質 f:外面降灰 中野編年 6a型式
22-3	3面遺構外	常滑 甕	口縁部小片	縁帯幅 2.0			a:輪積み b:明灰色 白色粒・白色粒・黒色粒 粗胎 粘質 c:褐色 e:良好 f:縁帯下部釉溜まり 中野編年 5型式
22-4	3面遺構外	常滑 甕	底部小片	—	—	—	a:輪積み 外面縦位へラ削り 外底砂目痕 b:灰褐色 砂粒・白色粒・小石粒 やや粗胎 c:暗褐色 降灰部灰緑色 e:良好 硬質 f:内面降灰多量
22-5	3面遺構外	常滑 甕	底部片	—	—	—	a:輪積み 外面縦位へラ削り 外底砂目痕 b:灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 粗胎 c:内面赤褐色 外面暗赤褐色 e:良好 硬質 f:内面降灰
22-6	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 やや粘質 c:灰色 e:良好 f:内面自然釉かかる
22-7	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	—	—	—	a:輪積み b:白灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 図と同一個体か
22-8	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	b:灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 粘質 c:灰白色 e:良好
22-9	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	a:輪積み b:白灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 粗胎 c:白灰色 e:良好 f:内面自然釉多量
22-10	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	a:輪積み b:淡灰黄色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:淡灰黄色 e:良好 f:内面自然釉多量
22-11	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	—	—	—	a:輪積み b:灰色 白色粒・黒色粒 やや粗胎 緻密 c:灰色 e:良好 やや硬質 f:内面自然釉かかる
22-12	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片	—	—	—	a:輪積み b:暗灰色 砂粒・白色粒多い・黒色粒多い 粗胎 粘質 c:外面赤褐色 内面暗褐色 e:良好 f:内面口縁下～胴部磨滅
22-13	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅱ類	底部小片	—	—	—	a:輪積み 外面縦位へラ削り 外底砂目痕 b:明灰色 砂粒・白色粒 やや粗胎 粘質 c:暗褐色 降灰部緑灰色 e:良好 硬質 f:内面降灰

表9 遺物観察表(9)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
22-14	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅱ類	底部片	—	—	—	a:輪積み 外面縦位へう削り 外底砂目痕 b:明灰色 砂粒・白色粒 やや粗胎 粘質 c:暗褐色 降灰部緑灰色 e:良好 硬質 f:内面降灰
22-15	3面遺構外	常滑 片口鉢Ⅱ類	底部片	—	—	—	a:輪積み 外面縦位へう削り 外底砂目痕 b:明黄橙色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 やや粗胎 緻密 c:褐色 e:良好 硬質 f:内面強い磨滅
22-16	3面遺構外	渥美 甕	口縁部小片	—	—	—	b:明灰色 砂粒・白色粒 やや粗胎 粘質 c:暗灰色 e:良好 f:外面自然釉付着
22-17	3面遺構外	伊勢 火鉢	口縁部小片	—	—	—	a:外面口縁部につまみ状の飾り?を貼付 内面丸棒状の工具による穿孔痕あり b:淡桃色 砂粒・雲母・黒色粒 やや粗胎 c:内面桃褐色 外面黄灰色 e:やや良好
22-18	3面遺構外	瓦質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	b:灰色 砂粒・雲母・黒色粒 やや粗胎 c:暗灰色 e:良好
22-19	3面遺構外	瓦質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	a:内面口縁下、縦位の磨き b:淡黄灰色 砂粒多い・雲母・黒色粒 やや粗胎 c:淡黄灰色 e:良好 硬質 f:内面使用による煤付着
22-20	3面遺構外	土器質 火鉢	口縁部小片	—	—	—	a:内面縦位の磨き b:黄橙色 砂粒・雲母・赤色粒 粗胎 c:淡橙色 e:やや良好
22-21	3面遺構外	平瓦	狭端部小片	長(7.5) 幅(6.0) 厚2.3			a:凹面離れ砂 凸面格子叩き目・離れ砂 端部へう削り b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 良胎 c:灰色 e:良好 硬質 f:永福寺期
22-22	3面遺構外	鉄釘	頭～胴部	長(11.3) 幅0.4～1.1 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
22-23	3面遺構外	鉄釘	頭～胴部	長(3.7) 幅0.8～1.3 厚0.8			a:胴部四角形に鍛造
22-24	3面遺構外	鉄釘	頭～胴部	長(5.4) 幅0.8～1.3 厚0.7			a:胴部扁平な形に鍛造
22-25	3面遺構外	鉄釘	頭～胴部	長(3.7) 幅0.8 厚0.7			a:胴部四角形に鍛造
22-26	3面遺構外	鉄釘	頭～胴部	長(3.1) 幅0.6～0.9 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
22-27	3面遺構外	鉄釘	頭～胴部	長(3.5) 幅0.9～1.1 厚0.7			a:胴部多角形に鍛造
22-28	3面遺構外	鉄釘	胴～先端部	長(4.4) 幅0.4～0.7 厚0.6			a:胴部四角形に鍛造
22-29	3面遺構外	鉄釘	胴～先端部	長(3.7) 幅0.2～0.5 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
22-30	3面遺構外	鉄釘	胴部	長(3.2) 幅0.4～0.7 厚0.4			a:胴部四角形に鍛造
22-31	3面遺構外	鉄釘	胴部	長(4.8) 幅0.5～1.0 厚0.4			a:胴部扁平な四角形に鍛造
22-32	3面遺構外	石不明加工品	小片	長2.8～3.7 幅1.7 厚0.5～0.7			a:表面張螂痕 側面丁寧な削り c:淡緑色 f:緑泥片岩 板碑を加工か
22-33	3面遺構外	銅銭	完形	径2.5 厚1.15 孔径0.7			f:元祐通寶 北宋 1086年 篆書
22-34	3面遺構外	須恵器 甕	胴部小片	—	—	—	a:内面青海波文 外面格子叩き文様 b:明灰色 砂粒 良胎 c:明灰色 e:良好 硬質 f:全体が摩耗
25-1	4面 土坑1	かわらけ	口縁～底部 1/6	(9.2)	(7.2)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 c:黄灰色 e:やや不良
25-2	4面 土坑1	かわらけ	口縁部1/4 ～底部1/3	(10.4)	(8.8)	1.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 粗胎 c:黄灰色 e:やや不良
25-3	4面 土坑1	鉄釘	頭～胴部	長(4.3) 幅0.5～1.1 厚1.0			a:胴部多角形、下部四角形に鍛造
25-4	4面 土坑1	鉄釘	胴部	長(3.0) 幅0.4～1.0 厚0.9			a:胴部四角形に鍛造
25-5	4面 土坑3	龍泉窯系 青磁 折縁碗	口縁部小片	—	—	—	b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:青緑色半透明 内外面施釉 釉層厚い ツヤあり e:良好
25-6	4面 土坑5	白かわらけ	口縁部1/8 ～底部1/4	(10.0)	(5.4)	2.9	a:轆轤 外底糸切痕 b:雲母・黒色粒 良胎 c:赤味白色 e:良好
25-7	4面 土坑5	常滑 片口鉢Ⅰ類	胴～底部片	—	—	—	a:外底砂目痕 b:淡灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:黄灰色 e:良好
25-8	4面 土坑5	常滑 片口鉢Ⅰ類	胴～底部片	—	—	—	a:外底砂目痕 b:明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:灰色 e:良好
25-9	4面 土坑8	常滑 甕	口縁部片	縁帯幅2.2			a:輪積み b:明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:暗褐色 降灰部 白緑色 e:良好 f:内面胴部上～口縁部に降灰 中野編年5型式
25-10	4面 土坑8	常滑 甕	肩部片	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 粗胎 c:褐色 e:良好 f:外面縦位に3本の線刻あり 図25-16と同一個体か

表10 遺物観察表(10)

( ) = 復元値 [ ] = 遺存値

挿図 番号	出土面・遺構	種別	遺存度	寸法(cm)			観察項目 a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考
				口径	底径	器高	
25-11	4面 P2	かわらけ	口縁部4/5 ~底部完形	8.1	5.4	1.6	a:轆轤 外底右回転糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒多い・泥岩粒粗胎 c:淡黄橙色 e:良好
25-12	4面 P2	かわらけ	口縁部1/12 ~底部1/2	(11.6)	7.0	3.0	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒やや多い・雲母・赤色粒・海綿骨針 やや粗胎 c:淡黄橙色 e:良好
25-13	4面 P2	鉄釘	胴部	長(6.2) 幅0.4~0.7 厚0.5			a:胴部四角形に鍛造
25-14	4面 P7	かわらけ	口縁~底部 1/6	(7.5)	(6.0)	1.6	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 砂質 c:淡橙色 e:良好
25-15	4面 P7	かわらけ	口縁部1/4 ~底部2/5	(12.1)	(8.8)	2.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 砂質 c:淡橙色 e:良好
25-16	4面 P7	常滑 甕	肩部小片	—	—	—	a:輪積み b:明灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・褐色粒 粗胎 c:暗褐色 e:良好 f:外面縦位に3本の線刻あり 図25-10と同一個体か
25-17	4面 P10	かわらけ	口縁部1/5 ~底部1/3	(8.2)	(6.0)	1.8	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
25-18	4面 P10	かわらけ	口縁部1/8 ~底部1/5	(9.8)	(6.8)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒 やや粗胎 やや砂質 c:淡黄橙色 e:良好
25-19	4面 P12	かわらけ	口縁~底部 1/3	(8.8)	(5.6)	1.6	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 粗胎 やや砂質 c:淡黄橙色 e:良好
25-20	4面 P12	かわらけ	口縁~底部 1/5	(11.0)	(7.8~ 9.2)	2.8	a:手捏ね 外底指頭痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:淡黄橙色 e:良好
25-21	4面 P12	青磁 袋物	胴部小片	—	—	—	b:灰白色 黒色粒 精良緻密 d:淡灰色透明 内外面施釉 外面釉層やや厚い 内面粗い貫入あり e:良好
26-1	4面遺構外	かわらけ	口縁部1/5 ~底部1/3	(7.4)	(5.0~ 6.2)	1.8	a:手捏ね 外底指頭痕 b:砂粒多い・雲母・赤色粒・泥岩粒 粗胎 c:黄橙色 e:良好
26-2	4面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/6	(7.3)	(5.0)	2.1	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:橙色 e:良好
26-3	4面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/4	(7.8)	(6.2)	1.8	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好
26-4	4面遺構外	かわらけ	口縁部1/2 ~底部1/3	7.4	5.2	2.1	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・泥岩粒 やや粗胎 c:淡橙色 e:良好
26-5	4面遺構外	かわらけ	口縁部1/4 ~底部1/5	(7.7)	(6.2)	1.7	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒 やや粗胎 やや砂質 c:黄橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
26-6	4面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/4	(7.4)	(5.8)	1.9	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒多い・赤色粒・海綿骨針 粗胎 c:黄橙色 e:良好
26-7	4面遺構外	かわらけ	口縁部1/5 ~底部1/4	(8.0)	(5.0)	1.5	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒・海綿骨針・泥岩粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
26-8	4面遺構外	かわらけ	口縁部2/5 ~底部1/2	(11.2)	7.0	3.3	a:轆轤 外底糸切・板状圧痕 b:砂粒・雲母・赤色粒多い・泥岩粒 やや粗胎 やや砂質 c:明橙色 e:良好 f:口縁部油煤付着 燈明皿
26-9	4面遺構外	かわらけ	口縁~底部 1/4	(12.2)	(7.6)	3.8	a:轆轤 外底糸切痕 b:砂粒・雲母・海綿骨針 やや粗胎 砂質 c:黄橙色 e:良好
26-10	4面遺構外	青白磁 合子蓋	頂~胴部1/3	(5.0)	—	[1.3]	a:外面天頂部手描きによる放射状の文様 b:明灰白色 黒色粒 精良緻密 d:淡水青色透明 外面施釉 内面露胎 e:良好
26-11	4面遺構外	青白磁 袋物	肩部小片	—	—	—	a:外面貼付不明文様 b:白灰色 精良緻密 d:青緑色不透明 外面施釉 内面露胎 e:良好 f:二次焼成により器壁荒れる
26-12	4面遺構外	常滑 甕	肩部片	—	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 粘質 c:灰色 e:良好 f:外面縦位に幾何学文様の押印文
26-13	4面遺構外	常滑 甕	口縁部小片	縁帯幅 推定1.5	—	—	a:輪積み b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 粗胎 c:暗褐色~赤褐色 e:良好 硬質 f:内面胴部上~外面口縁下に降灰 中野編年5型式
26-14	4面遺構外	常滑 片口鉢I類	口縁部小片	—	—	—	a:輪積み b:淡橙色 砂粒・白色粒・黒色粒 やや粗胎 c:黄橙色 e:良好
26-15	4面遺構外	鉄釘	胴部	長(3.3) 幅0.7~1.0 厚1.0			a:胴部四角形に鍛造

表 11 層位別出土遺物一覽表

種別	出土層位										合計
	1面遺構	1面遺構外	1面構築土中	2面遺構	2面遺構外	3面遺構	3面遺構外	4面遺構	4面遺構外	合計	
かわらけ	大35 小27	大37 小50	大87 中1 小90	大188 中6 小202	大153 中6 小79	大290 中1 小103	大249 中17 小59	大128 中3 小101	大124 小48	2084	
			小4	大1 中3 小3	小1	大6 小1		大7 中1 小11	大3 小1	30	
						大1 中1 小6	大3 小4	大3 小1	小2	33	
						1		2		3	
舶載陶磁器			碗2	碗3	碗4 香炉1		碗5 折縁鉢1	壺1 折縁碗1		18	
			皿1	皿4	皿1	皿3	碗2 壺2		皿1	14	
		壺1			合子蓋1	皿2 香炉1	皿1 梅瓶1 合子蓋1	皿1	合子蓋2 香炉1	12	
				壺4	壺1(5)		壺2(22)			7	
国産陶磁器	皿1	折縁皿1	壺1	壺5 瓶子1 罍3 皿1	壺1 卸皿1	壺1				16	
	甕2 壺2	甕26 壺1	甕26 磨耗陶片1	甕12 壺8 磨耗陶片1	甕12 壺14 磨耗陶片1	甕18 壺6	甕33 壺6	甕9 壺4	甕7 壺9	199	
			I類2 II類1	I類5 II類4	II類5	I類2	I類3 II類5	I類3	I類1	31	
										1	
土製品										3	
				東濃碗2			東遠皿1			1	
							平1			1	
					皿1					1	
石製品	瓦質1	瓦質1	土器質2	瓦質3 土器質2	瓦質6	瓦質1	瓦質4	瓦質1	瓦質1 土器質1	23	
		不明土器2								2	
	1									1	
			中砥2							2	
金属製品	1	銅1				1	銅1	銅1		3	
	1		泥岩製円板1							2	
	8	6	3	14	3	7	12	3	2	58	
					1		1			2	
自然遺物	1		1	2		3				6	
					2					3	
		1		2	1		1			5	
							須恵器1			1	
合計	80	128	226	479	295	455	417	281	203	2564	





▲1. 1面全景 (南から)



▲2. 1面全景 (北から)



▲3. 1面土坑1 (南から)



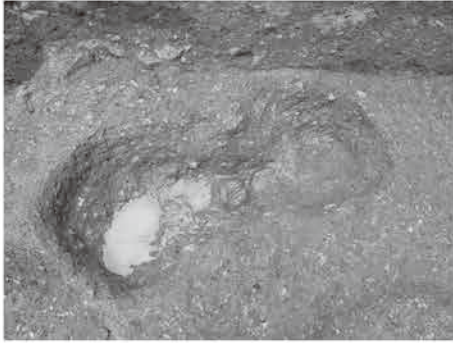
▲4. 1面上東播系捏鉢出土状況 (南から)



▲1. 2面土坑1 (南から)



▲2. 2面全景 (北から)



▲4. 2面P5・10・4 (南から)



▲5. 2面P8・7・9 (南から)



▲6. 2面P2・12 (南から)

▼3. 2面柱穴列 (南から)





▲ 1. 3面全景 (南から)



▲ 2. 3面全景 (北から)



▲ 3. 3面土坑4内出土かわらけ (東から)

▼ 4. 3面土坑6内出土常滑甕 (南から)





▲ 1. 4面全景 (南から)



▲ 2. 4面P1・8 (南から)



◀ 3. 調査区東壁土層堆積状況 (北西から)



▶ 4. 調査区北壁土層堆積状況 (南から)



▲1面土坑1 8-1



8-4



8-5



8-6



8-7



8-11



▲1面P5 8-12

▲1面土坑4

▲1面P2

▲1面P4



9-2



9-3



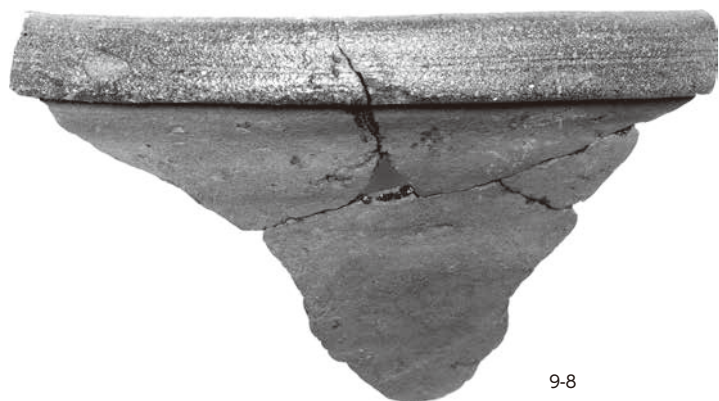
9-4



9-5



9-6



9-8



9-9



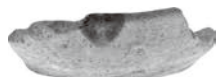
9-10



9-11

▲1面遺構外

▼1面構築土中



10-1



10-4



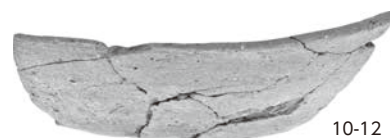
10-6



10-8



10-11



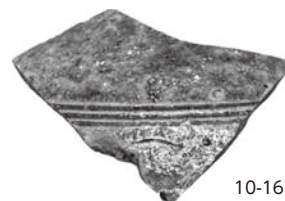
10-12



10-14



10-15



10-16



10-18



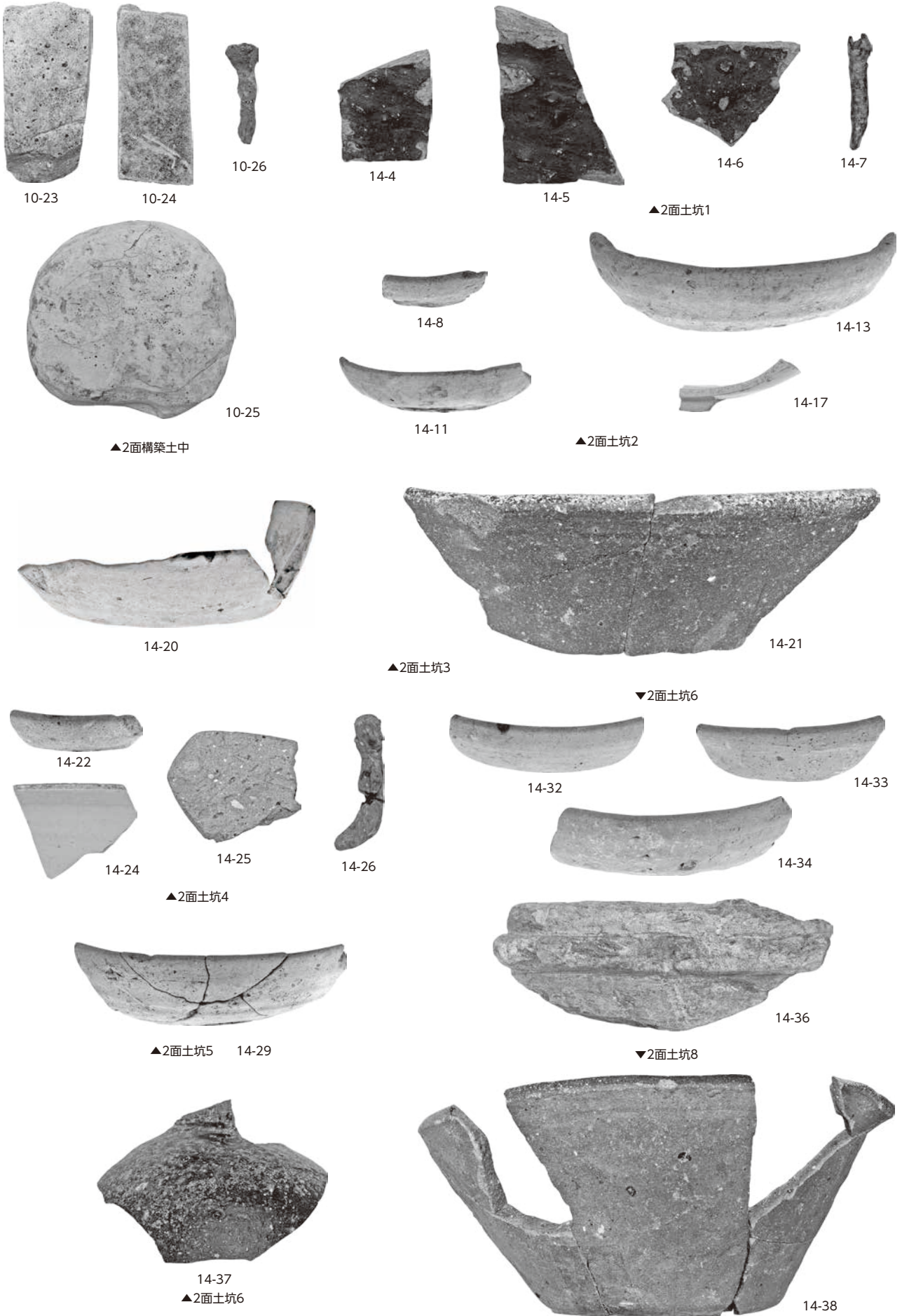
10-19



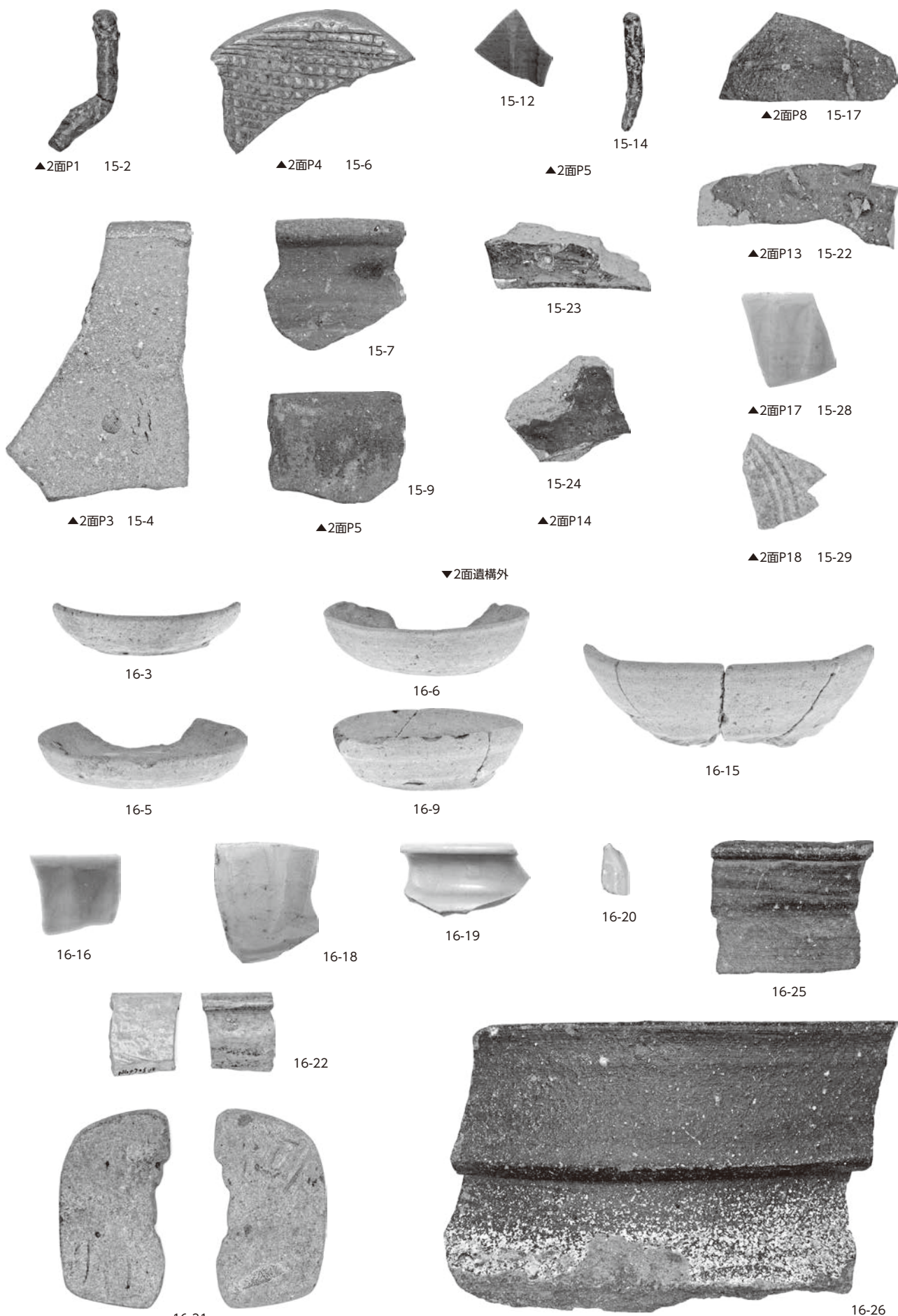
10-22

出土遺物 (1)

図版6

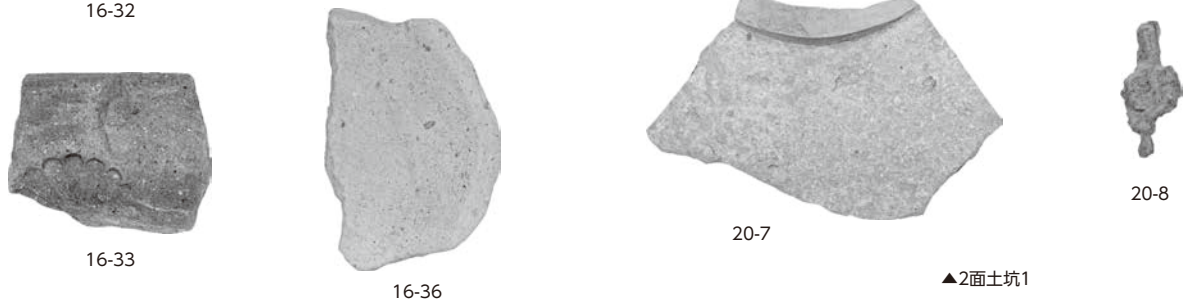


出土遺物 (2)



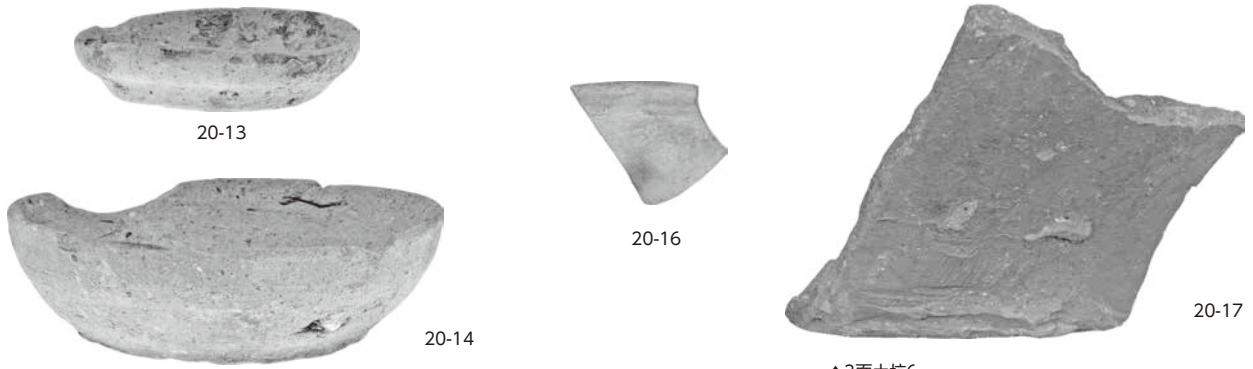
出土遺物 (3)

図版8



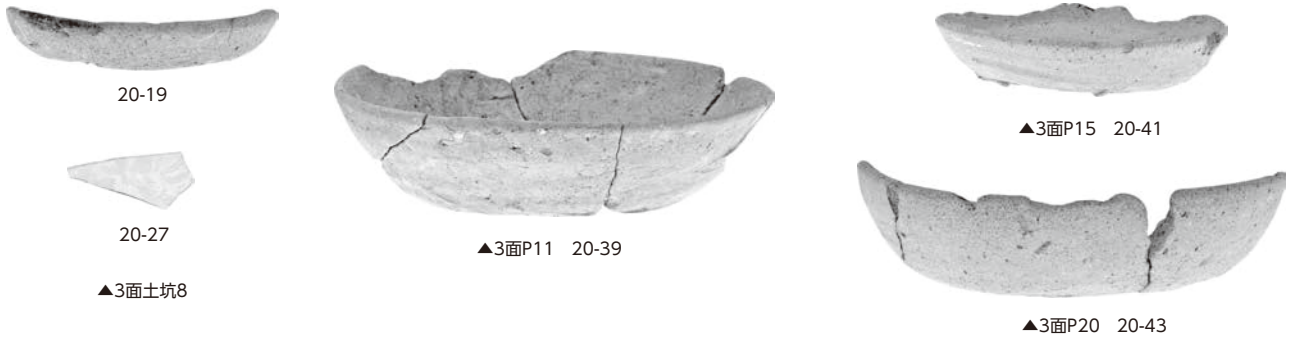
▲2面土坑1

▲2面遺構外



▲3面土坑4

▲3面土坑6



▲3面土坑8

▲3面P15 20-41

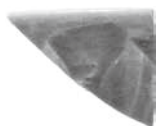
▲3面P20 20-43

▼3面遺構外



出土遺物 (4)





21-15



21-19



21-21



21-22



21-18



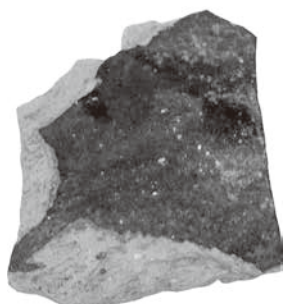
21-20



21-24



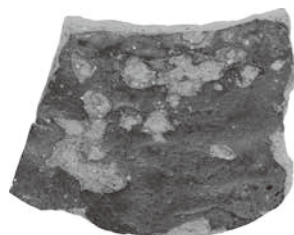
21-25



21-26



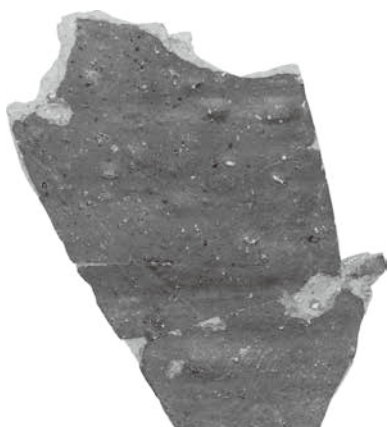
21-27



21-28



21-30



21-29



21-31



21-32



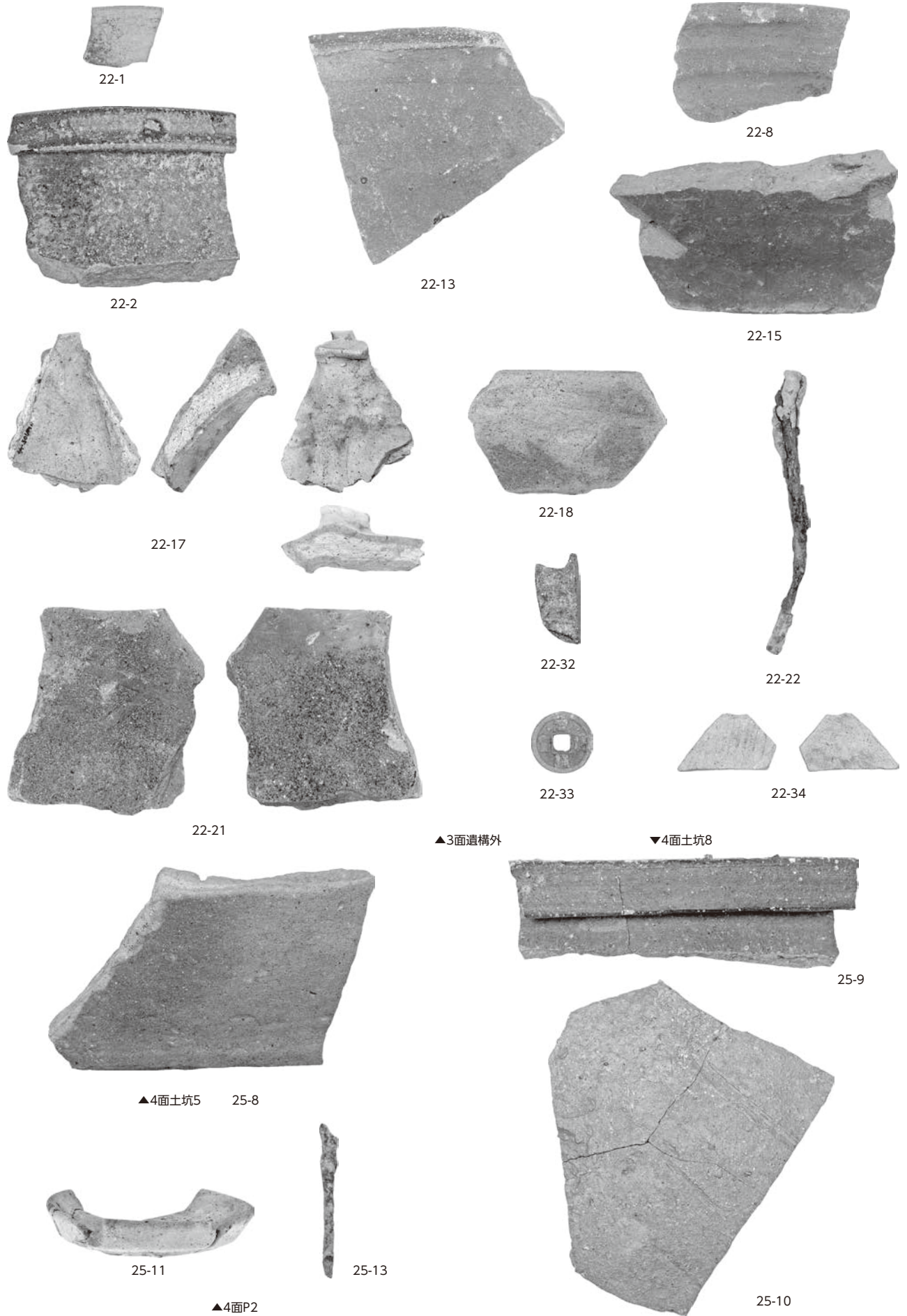
21-33



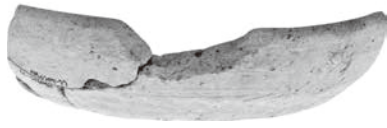
21-34

▲3面遺構外

出土遺物 (5)



出土遺物 (6)



25-15



25-16



25-20



25-21

▲4面P7

▲4面P12



26-2



26-4



26-9



26-8



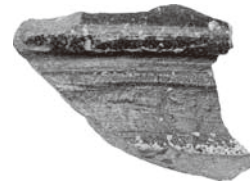
26-10



26-11



26-12



26-13



26-14



26-15

▲4面遺構外

出土遺物 (7)



# 田楽辻子周辺遺跡 (No.33)

浄明寺一丁目 556 番 6 外

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市浄明寺一丁目556番6外地点における個人専用住宅の建設に伴い実施した、田楽辻子周辺遺跡（神奈川県遺跡台帳－鎌倉市No.33）の緊急調査報告である。
2. 発掘調査は、平成21年4月22日から同年5月19日にかけて、国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査面積は、39㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者 押木弘己

調査員 伊藤博邦（現地）、岡田慶子、須佐仁和（資料整理）

作業員 天野隆男、秋田公佑、伴 一明、丹野正弘

（社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4. 本報告の執筆・編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地写真を押木が、出土遺物を須佐が撮影した。
6. 現地調査および資料整理に当たっては多くの方々からご教示を賜った。記して感謝する（順不同、敬称略）。

田尾誠敏（東海大学）、中三川昇（横須賀市教育委員会）、河合英夫（玉川文化財研究所）、馬淵和雄、原廣志、山口正紀（鎌倉市教育委員会）、齋木秀雄、熊谷満（鎌倉遺跡調査会）、相模の古代を考える会

7. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「D Z 0 9 0 4」とし、出土品への注記その他に使用した。

## 目次

### 本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	328
1. 遺跡の位置	
2. 周辺の歴史的環境	
第二章 調査の方法と経過 .....	339
第三章 基本土層 .....	340
第四章 発見された遺構と遺物 .....	341
1. 中世	
2. 古墳時代後期～平安時代	
3. 弥生時代後期～古墳時代前期	
第五章 調査成果のまとめ .....	349
1. 中世	
2. 中世以前	

### 挿図目次

図1 調査地の位置 .....	329	図4 検出遺構全体図 .....	342
図2 調査区配置図 .....	339	図5 堆積土層図 .....	343
図3 堆積土層模式図 .....	340	図6 出土遺物 .....	346

### 表目次

表1 出土遺物カウント表 .....	347	表2 出土遺物観察表 .....	348
--------------------	-----	------------------	-----

### 図版目次

図版1 .....	351	図版2 .....	352
1. 2面(52・54層) 検出状況(南から)		1. 54層中貝殻片?混入状況(北東から)	
2. 2面下遺物出土状況(北から)		2. 2面下遺物出土状況(図6-22)	
3. 2面下土層断面(南東から)		3. 3面流路プラン検出状況(北西から)	
4. 2面下土層断面(北から)		4. 3面トレンチ流木検出状況(南東から)	
5. 54層遺物出土状況(北から)		5. 3面トレンチ流路北側 土層断面(西から)	
6. 54層遺物出土状況(北東から)		6. 3面流木検出状況(北西から)	
7. 54層遺物出土状況(北から)		7. 3面流木検出状況(南東から)	
		8. 3面流木検出状況(北西から)	
		図版3 出土遺物(1) .....	353
		図版4 出土遺物(2) .....	354

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 1. 遺跡の位置

鎌倉の市街地を貫いて相模湾に注ぐ滑川の主流は、朝比奈峠の麓に発して蛇行しつつ西流し、岐れ道交差点の近くで南西へと流れを変える。田楽辻子周辺遺跡（鎌倉市No.33）は、岐れ道の東、滑川左岸の丘陵裾部に東西750m、南北250mの指定範囲をもち、本地点はこの西端近くに所在する。JR鎌倉駅からは、北東約1.2kmに位置している。

鎌倉の平野地形は、相模湾からの砂州・砂丘堆積と、滑川を主流とする小河川群の沖積作用によって形成されたもので、この周囲を取り巻く丘陵部には大小の谷戸が樹枝状に展開している。遺跡地南側の丘陵部にも、西から大御堂ヶ谷・釈迦堂ヶ谷・犬懸ヶ谷・宅間ヶ谷といった谷戸が並び、後節で述べるように鎌倉～室町時代における歴史舞台のひとつとして史料上に幾度か登場する。本地点は大御堂ヶ谷の開口部東側にあたり、谷筋を流下してきた大御堂川は、北西50mの地点で滑川に合流する。現況では、南側の丘陵を除く三方が河川に囲まれた立地環境にある。現地表面の標高は、約10.6mを測る。

## 2. 周辺の歴史的環境

遺跡名の「田楽辻子」は、『吾妻鏡』に二ヶ所の記載がある。嘉禄三年（1227）正月二日条と正嘉元年（1257）十一月廿二日条で、ともに火災記事である。前者には「田楽辻子の東西一町余焼亡」とあり、田楽辻子が東西方向に延びる小道であったとも読み取れる。後者は若宮大路沿いに類焼してきた大火が田楽辻子に至って鎮火したことを記し、田楽辻子が若宮大路に接する小道であったことを示している。

下って『相良家文書』正応三年（1290）五月八日の相良頼俊讓状には、「鎌倉の釈迦堂の前地の事」として、その四至を注して「東限てんかくか地、北限やのとの々地、西限ミそ、南限太郎殿地」と記されており、民間芸能である田楽を生業とする者が釈迦堂前の東側に居住し、そのことが「田楽辻子」の名称の由来となったと考証されている（高柳1959）。現在、滑川の左岸を大御堂橋から宅間ヶ谷まで結ぶ東西道路が「田楽辻子（のみち）」と称されている。前掲の史料をもとに、鎌倉時代には筋替橋辺りまで延びることが指摘されているが、大よその範囲としては現行の「田楽辻子」と一致するものと理解されている。

### 周辺の調査成果（図1）

本遺跡地での発掘調査は、本地点も含めて8地点で実施されている（平成23年4月現在）。図1には各地点の位置を示し、調査の実施順に番号を付した。地点1・3は現在の「田楽辻子」の南側に接し、ともに現行道路と並行・重複する15世紀代の道路遺構が発見されている。地点1の道路遺構は6回の改修が施され、開始期時は13世紀中頃まで遡ることが指摘されている。道筋・規模の変動は経つつも、「田楽辻子」の前身といえる東西道路が鎌倉時代に存在していたことが明らかとなった。文治元年（1185）、源頼朝が父義朝の廟所として建立した勝長寿院（大御堂）や、北条義時の追善供養を目的に建てられた釈迦堂など、鎌倉時代前半の寺院を擁した谷戸が当地区に並ぶことを傍証とすれば、これらを結節する交通路が早くから整備されたことは十分に考えられる。

丘陵裾に接した地点5では鎌倉前期から南北朝期にかかる9枚の遺構面が検出され、13世紀代後半に比定される第4面では、外周に雨落ち溝状の方形区画を伴い、さらにその周囲に白色砂を敷いた礎石建物跡が確認されている。東西2間以上×南北1間以上で、柱間距離は210cmと規格的である。堅固で丁寧な整地状況と併せ、武家屋敷に関連する可能性も考えられている。地点6では鎌倉前期から室町期15世紀前半に及ぶ遺構面6枚が検出され、13世紀代の遺構面では一定量の瓦が出土している。西隣の大御堂ヶ谷に所在した勝長寿院との関連も想定でき、興味深い。同地点では、中世層下の黒褐色粘土層から少量の土器片が出土し、弥生時代末～古墳時代前期の所産と考えられている（註1）。本地点（地点7）の南隣接



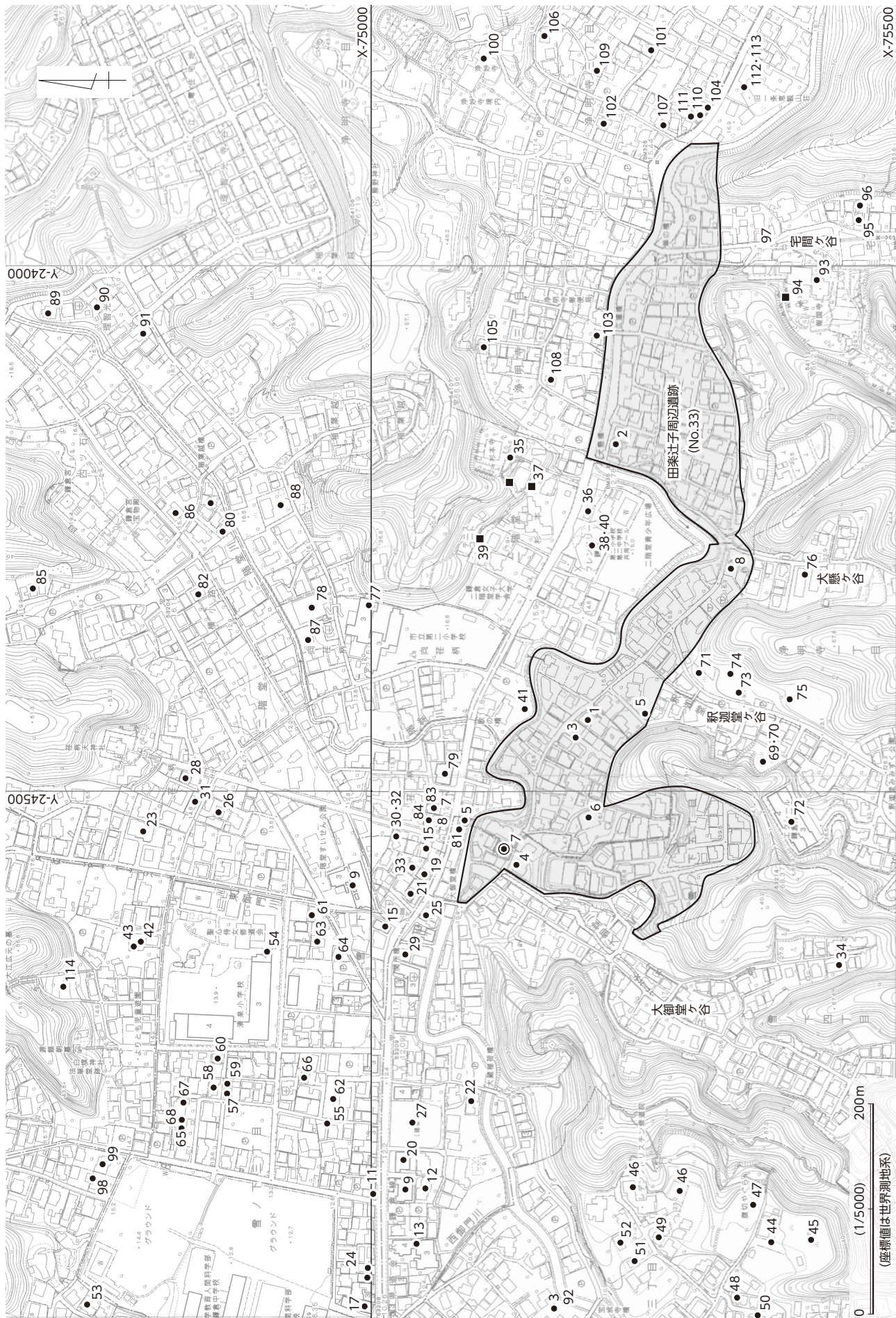


図1 調査地の位置

地(地点4)では、中世の遺構面は削平のため失われていたものの、中世層下で黒褐色粘質土が検出され、同層上で奈良～平安時代の土師器・須恵器片が出土している。後述するように、僅か十数m離れただけの本地点においては中世地山と称される粘質土層は確認されていないことから、「田楽辻子」を挟んだ南北で、旧地形の在り方は大きく異なっていたことになる。

滑川右岸の県道金沢・鎌倉線周辺では調査の事例・対象面積ともに左岸域より多く、12世紀後葉の幕府開創期まで遡る遺構を発見する例も珍しくない。大倉幕府周辺遺跡群の地点16・20における大型掘立柱建物跡や、地点16・20・27での木組み護岸を伴わない断面V字形または逆台形の堀跡などは、この時期における代表的な遺構の検出例といえる。また、杉本寺周辺遺跡の地点40でも12世紀後葉の居館跡と考えられる多くの柱穴群(掘立柱建物跡)や堀跡が発見され、遺跡周辺の歴史的事象から平安末期に県道(中世の六浦道)の前身ともいえる東西道を介して勢力を伸長させた三浦氏一族の杉本氏、またはそれに続く和田氏の拠点施設として評価されている(馬淵1994・2000ほか)。

治承四年(1180)、頼朝の「大倉御所」造営および小林郷北山への鶴岡八幡宮遷座を契機に、当地区の周辺には有力武士が宿館を構えたとされ、嘉禄元年(1225)の宇津ノ宮辻子への將軍御所移転まで、東西道路の周辺地区が武家政権の中核機能を担っていた。その前段として、平安末期に相模の有力在庁となった三浦氏による開発が進んでいた、という理解となろうか。のち、仁治二年(1241)には朝夷奈切り通しと併せて六浦道の整備がなされ、鎌倉と外港・六浦とを結ぶ経済上の要路として東西道は機能し続けた。鎌倉での商業活動を7ヶ所に限定・許可した幕府の法令では、建長三年(1251)に「大倉辻」(現在の関所橋付近)を、文永二年(1265)には「大倉辻」と「須地賀江橋」(筋替橋)を挙げており、六浦道周辺の賑わいを窺わせてくれる。地点20・27で鎌倉～室町期の六浦道側溝と見られる東西溝が、地点13北側の立ち会い調査では路盤と思しき泥岩整地面が確認されている。

宇津ノ宮辻子、そして嘉禎二年(1236)年の若宮大路東側への相次ぐ將軍御所の移転によって、幕府政治の中核機能は若宮大路の北東側一画に移ることとなった。これとともに都市鎌倉も若宮大路を中心に展開することとなった。大路の主軸線に沿う一貫した町割が敷衍したものではないが、この時期以降、都市としての鎌倉の形成は広がり・密度ともに急速に進んでいくことになる。しかし、こうした動きも元弘三年(1333)の幕府滅亡を区切りとして、ひとたび終息を迎えることになる。

幕府滅亡後の鎌倉は、規模や密度を減じながらも、なお都市としての体裁を保ち続けた。正平四年(1349)には室町政権下で関東の政務を担当した鎌倉府が設置され、その首長である鎌倉公方の御所は浄妙寺の東側に置かれた。再び、鎌倉の中核機能が東西道路(六浦道)沿いに復したことになる。滑川の対岸には関東管領・上杉氏四家のうち犬懸と宅間の二家が各々の名をもつ谷戸に居を構えたとされ、鎌倉府の中核を担う有力氏族の居館や、その信仰を支えた寺院が一带に点在したものと考えられる。

犬懸ヶ谷では上杉氏憲邸跡の地点76で発掘調査が実施され、15世紀初頭に時期比定できる炭化層が検出されている。報告書では応永二十三年(1416)に起きた「上杉禪秀(氏憲)の乱」との関連を想定しており、史料上に見える歴史的事象と対比可能な調査事例として注目される。犬懸ヶ谷では開口部に当たる田楽辻子周辺遺跡の地点8でも発掘調査が実施され、やはり15世紀代の遺物が一定量出土している(註2)。前掲の地点1・3などの成果と併せ、15世紀代の当地域では史料を追認するかのような、なお活発な人的営為を読み取ることができる。

その後、永享十一年(1439)の「永享の乱」や享徳三年(1454)の「享徳の乱」といった室町將軍家、または鎌倉府内部での度重なる権力抗争を経て、康正元年(1455)に鎌倉公方・足利成氏が下総国古河に逃れ(古河公方)、代わって室町將軍義政の弟である政知が新たな公方として関東に発遣されるも、鎌倉入りを果たせず伊豆国韮山の堀越に留まった(堀越公方)。ここに鎌倉府は事実上の終焉を迎える。これを境に、鎌倉も都市としての様相を急速に失うことになり、発掘調査によっても15世紀中頃以降、戦国～

安土桃山時代に帰属する遺構・遺物の検出例は極めて限定的となる。この間、関東一円に勢力を伸張する後北条氏は鎌倉を直轄領とし、現地に代官を置いて治めた。天文二～九年（1533～1540）には二代氏綱によって大永六年（1526）の戦乱で焼失した鶴岡八幡宮の再建が行われ、同十七年（1548）には三代氏康が荏柄社の再興のため、この参道口に関所を置いて六浦道を通行する商人などから関銭を徴収した。現在の関所橋付近に当たり、この西に隣接する**地点15**では近世初頭の遺物を伴う礎石建物が発見されている。報告書では、建物の構造や規模から公的性格を持つ建物と考え、伴出遺物には廃絶後の混入品という理解を前提とした上で、記録との符号点を重視して同跡を関取場建物の一部であろうと結論付けている。**地点19**では16世紀代以降の瓦燈などが出土し、関取場との関連が示唆されている。

なお、鶴岡八幡宮は武家の守護神として後北条氏以外の戦国武将からも崇敬を集めた。永禄四年（1561）、のちに上杉謙信を名乗る長尾景虎が同宮にて関東管領職の拝賀式を行ったことは有名である。天正十八年（1590）に後北条氏を降し関東を制圧した豊臣秀吉も、この翌年、徳川家康に鶴岡八幡宮の修理を命じている。境内の発掘調査では、この際の修営計画図と合致する廻廊遺構が検出されている。

### 中世以前の調査成果

前項でも若干触れたが、本地点周辺における中世以前の発掘調査成果について整理しておきたい。

鎌倉旧市街域の北部では、中世地山と呼ばれる黒褐色粘質土層から弥生時代～奈良・平安時代の遺構・遺物が発見されることが間々ある。本地点周辺の大倉地区でもこうした時代の確認例は多く、大倉幕府周辺遺跡群（No.49）の**地点20・27**などでは弥生時代中期後葉～後期の竪穴住居跡が重複して発見され、滑川河岸段丘上の一帯に同時期の集落居住域が一定の広がりをもって形成されていたことが明らかとなっている。**地点27**では古墳時代前期の方形周溝墓も発見され、当地区が場の性格を変えながらも人々の活動空間として継承されていたことを示している。

**地点15**では中世以前の流路跡が発見されている。南北方向に延び、幅6m以上と大規模な遺構であり、覆土中からは古墳時代後期の土師器・須恵器に加え、木製品も僅かながら出土している。これと交差・重複する規模の小さい溝状遺構も検出されており、覆土中より縄文時代～古墳時代後期の土器片が出土している。

奈良・平安時代では横小路周辺遺跡群の**地点78**で7軒の竪穴住居跡が重複して発見され、大倉幕府周辺遺跡群の**地点9**でも詳細は未報告ながら古墳後期～当時代に属する遺構の展開が確認されている（註3）。**地点25**では、中世以前の河川跡が二時期に亘って検出され、報告書では後発の遺構を古代～平安時代末の可能性のあるものとしている。**地点83**では、ロクロ成形の土師器坏や「三浦型甕」とも称される土師器の短頸甕が出土し、平安時代の9世紀後半～10世紀代にかかる資料として注目される。面的に住居跡の展開を捉えられた調査事例が僅かであるため、当地域における古代の集落規模や展開・変遷については不明と述べざるを得ない。ただ、狭小な面積の調査でも遺物の出土が見られることから、二階堂川や東御門川沿いの微高地上に奈良・平安時代（或いはそれ以前から）の集落が一定の広がりをもっていたことは推測できる。

この一帯は、天平七年（735）の『相模國封戸租交易帳』に載る「鎌倉郡荏草郷」に比定され、荏柄天神社にその名残が認められる。同社は長治元年（1104）に開かれたことが社伝に見えるが、それ以前における周辺での集落形成が社会的基盤にあったと考えるのが妥当であろう。今後、荏草郷の具体的な姿を紡ぎ出してくれる発掘成果の蓄積は無論のこと、「古代鎌倉郡」から「中世都市鎌倉」への変遷がいかんにして進んだのか、より深みのある歴史叙述がなされることを期待している。

## 註

- 註1 2008年度調査。現地にて筆者実見、調査者の齋木秀雄氏・熊谷満氏からご教示を頂いた。
- 註2 2010年度、鎌倉市教育委員会が調査。調査担当者の山口正紀氏のご教示による。
- 註3 調査担当者の馬淵和雄氏のご教示による。第五章でも述べているように、住居跡の主たる時期は古墳時代後期に置かれるようである。国庫補助分の調査報告書には、原始・古代遺構全図が付されている。

## 参考文献(第五章分も含む)

- 菊川英政 1995 「天神山採集の古墳時代後期土器」『鎌倉考古 No.33』 鎌倉考古学研究所
- 田尾誠敏 2009 「令制国の成立と土器の流通—相模国と隣接地域の諸相(予察)—」『古代地方行政単位の成立と在地社会』独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
- 鶴間正昭 2009 「南武蔵・相模の土器様相と地域間交流」『古代社会と地域間交流—土師器からみた関東と東北の諸相—』国士舘大学考古学会編 六一書房
- 中三川昇 2009 「奈良・平安時代の搬入品—三浦半島出土土器の生産地と搬入経路」『シンポジウム 搬入品と三浦半島 発表要旨』 横須賀考古学会
- 馬淵和雄 1994 「武士の都 鎌倉—その成立と構想をめぐって—」『中世の風景を読む 2 都市鎌倉と坂東の海に暮らす』新人物往来社
- 馬淵和雄ほか 2002 『杉本寺周辺遺跡 二階堂字杉本912番1ほか地点発掘調査報告書』 杉本寺周辺遺跡発掘調査団 編 鎌倉市教育委員会

## 調査地点・引用文献(図1掲載分)

### 田楽辻子周辺遺跡(No.33)

1. 浄明寺字釈迦堂658番 『釈迦堂田楽辻子遺跡 浄明寺釈迦堂658番地点』 1990年 釈迦堂田楽辻子遺跡発掘調査団
2. 浄明寺字宅間562番33 「5.田楽辻子周辺遺跡(No.33) 浄明寺字宅間562番33」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8 平成3年度発掘調査報告』 1992年 鎌倉市教育委員会
3. 浄明寺一丁目661番1 「田楽辻子周辺遺跡(No.33) 鎌倉市浄明寺一丁目661番外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 平成11年度発掘調査報告(第1分冊)』 2000年 鎌倉市教育委員会
4. 雪ノ下五丁目555番1 「田楽辻子周辺遺跡(No.33) 雪ノ下五丁目555番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 平成17年度発掘調査報告(第1分冊)』 2006年 鎌倉市教育委員会
5. 浄妙寺一丁目652番8 2008年度調査、未報告 発表会
6. 浄明寺一丁目676番1 2008年度調査、未報告
7. 浄明寺一丁目556番6外 本報告
8. 浄明寺一丁目691番4 2010年度調査、未報告

### 大倉幕府周辺遺跡群(No.49)

9. 雪ノ下四丁目620番1 『新発見の鎌倉遺跡と遺物展・図録 掘り出された鎌倉』 1981年 江ノ電沿線新聞社・鎌倉考古学 研究所
10. 雪ノ下四丁目600番 手塚直樹「筋替橋南の試掘調査」『鎌倉考古4』 1980年 鎌倉考古学研究所
11. 雪ノ下四丁目581番2 未報告
12. 雪ノ下四丁目620番2 『武士の都 鎌倉 よみがえる中世【3】』 1989年 平凡社
13. 雪ノ下四丁目610番2 未報告

14. 雪ノ下四丁目569番1 『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』 1990年 大倉幕府周辺 遺跡群発掘調査団
15. 雪ノ下四丁目565番4 「4. 大倉幕府周辺遺跡 (No.49) 雪ノ下大倉耕地565番4地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7 平成2年度発掘調査報告』 1991年 鎌倉市教育委員会
16. 二階堂字荏柄38番1 「2. 大倉幕府周辺遺跡群 二階堂字荏柄38番1 (No.49)」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9 平成4年度発掘調査報告 (第2分冊)』 1993年 鎌倉市教育委員会
17. 雪ノ下三丁目606番1 「7. 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下三丁目606番1地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9 平成4年度発掘調査報告 (第3分冊)』 1993年 鎌倉市教育委員会
18. 雪ノ下三丁目607番 「3. 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下三丁目607番外地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10 平成5年度発掘調査報告 (第1分冊)』 1994年 鎌倉市教育委員会
19. 雪ノ下字天神前562番29 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下字天神前562番29地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12 平成7年度発掘調査報告 (第1分冊)』 1996年 鎌倉市教育委員会
20. 雪ノ下四丁目620番5 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下四丁目620番5地点」 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 平成9年度発掘調査報告 (第2分冊)』 1998年 鎌倉市教育委員会
21. 雪ノ下字大倉耕地562番16 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下字大倉耕地562番16」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 平成12年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2001年 鎌倉市教育委員会
22. 雪ノ下四丁目580番10 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下四丁目580番10外地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 平成12年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2001年 鎌倉市教育委員会
23. 二階堂字荏柄58番4外 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 二階堂字荏柄58番4外地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 平成13年度発掘調査報告 (第1分冊)』 2002年 鎌倉市教育委員会
24. 雪ノ下三丁目607番1 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下三丁目607番1地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 平成15年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2004年 鎌倉市教育委員会
25. 雪ノ下四丁目567番7 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下四丁目567番7地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 平成15年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2004年 鎌倉市教育委員会
26. 二階堂字荏柄27番3の一部 「大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 二階堂字荏柄27番3の一部地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22 平成17年度発掘調査報告 (第1分冊)』 2006年 鎌倉市教育委員会
27. 雪ノ下四丁目581番5 『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書—雪ノ下四丁目581番5地点—』 2007年 有限会社 鎌倉遺跡調査会
28. 二階堂字荏柄76番7外 「鎌倉市No.94」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告51』 2007年 神奈川県教育委員会
29. 雪ノ下四丁目570番 未報告
30. 二階堂字荏柄3番6外 未報告
31. 二階堂字荏柄76番4 「鎌倉市No.91」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告51』 2007年 神奈川県教育委員会
32. 二階堂字荏柄3番6外 未報告
33. 雪ノ下字天神前562番30 未報告

#### 勝長寿院跡 (No.133)

34. 雪ノ下四丁目520番6外 未報告

#### 杉本寺周辺遺跡 (No.158)

35. 二階堂字杉本903番 「18.杉本寺境内」 『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』 1983年 鎌倉市教育委員会
36. 二階堂字杉本912番 (一部報告)
37. 二階堂字杉本903番 『杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査報告書』・『報国寺境内やぐら 杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査報告書 昭和62年度鎌倉市浄明寺地区内急傾斜地崩壊対策地業に伴う調査』 1988年 杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘

調査団

38. 二階堂字杉本912番1 『杉本寺周辺遺跡 二階堂字杉本912番1ほか地点発掘調査報告』 2002年 鎌倉市教育委員会
39. 二階堂字杉本 『平成6年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』・「杉本寺周辺遺跡内やぐら」『東国歴史考古学研究所調査研究報告第7集 中世石窟遺構の調査—鎌倉所在の『やぐら』群—』 1996年 杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査団・東国歴史考古学研究所
40. 二階堂字杉本912番1 『杉本寺周辺遺跡 二階堂字杉本912番1ほか地点発掘調査報告』 2002年 鎌倉市教育委員会
41. 二階堂字杉本932番1外 『杉本寺周辺遺跡発掘調査報告書(鎌倉市二階堂932番1他8筆地点)』 2007年 株式会社博通

大倉幕府北遺跡 (No.193)

42. 西御門二丁目756番10 「大倉幕府北遺跡(No.193) 西御門二丁目756番10地点 西御門二丁目756番6地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25 平成20年度発掘調査報告(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会
43. 西御門二丁目756番6 「大倉幕府北遺跡(No.193) 西御門二丁目756番10地点 西御門二丁目756番6地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25 平成20年度発掘調査報告(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会

東勝寺跡 (No.246)

44. 小町三丁目497番 「19.東勝寺跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』 1983年 鎌倉市教育委員会
45. 小町三丁目497番 『東勝寺跡発掘調査報告書』 1977年 鎌倉市教育委員会
46. 小町三丁目506番 『東勝寺跡—第3・4次遺構確認調査報告書—』 1998年 鎌倉市教育委員会
47. 小町三丁目523番 『東勝寺跡—第3・4次遺構確認調査報告書—』 1998年 鎌倉市教育委員会
48. 小町三丁目468番2外 『東勝寺跡発掘調査報告書 鎌倉市小町三丁目468番2外』 2000年 東勝寺跡発掘調査団・宮田事務所
49. 小町三丁目523番14 「東勝寺跡(No.246) 小町三丁目523番14地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 平成12年度発掘調査報告(第2分冊)』 2001年 鎌倉市教育委員会
50. 小町三丁目468番10 「東勝寺跡(No.246) 小町三丁目468番10」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 平成13年度発掘調査報告(第1分冊)』 2002年 鎌倉市教育委員会
51. 小町三丁目538番8 「東勝寺跡(No.246) 小町三丁目538番8地点(I地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27 平成22年度発掘調査報告(第1分冊)』 2011年 鎌倉市教育委員会
52. 小町三丁目538番3 「東勝寺跡(No.246) 小町三丁目538番3地点(II地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27 平成22年度発掘調査報告(第1分冊)』 2011年 鎌倉市教育委員会

保寿院跡 (No.250)

53. 西御門一丁目922番4 「保寿院跡(No.250) 西御門一丁目922番4地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 平成18年度発掘調査報告(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会

大倉幕府跡 (No.253)

54. 雪ノ下三丁目707番1 「鎌倉市No.96 大倉幕府跡(No.253)」『神奈川県埋蔵文化財調査報告34』 1992年 神奈川県教育委員会
55. 雪ノ下三丁目651番8 「大倉幕府跡(No.253)(雪ノ下三丁目651番8外地点)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15 平成10年度発掘調査報告(第2分冊)』 1999年 鎌倉市教育委員会
56. 雪ノ下三丁目618番4 「大倉幕府跡(No.253) 雪ノ下三丁目618番4地点」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18

- 平成13年度発掘調査報告(第1分冊)』 2000年 鎌倉市教育委員会
57. 雪ノ下三丁目701番14 「大倉幕府跡(No.253) 雪ノ下三丁目701番14地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21 平成16年度発掘調査報告(第1分冊)』 2005年 鎌倉市教育委員会
  58. 雪ノ下三丁目701番3 「大倉幕府跡(No.253) 雪ノ下三丁目701番3地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21 平成16年度発掘調査報告(第1分冊)』 2005年 鎌倉市教育委員会
  59. 雪ノ下三丁目701番1 「大倉幕府跡(No.253) 雪ノ下三丁目701番1地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21 平成16年度発掘調査報告(第1分冊)』 2005年 鎌倉市教育委員会
  60. 雪ノ下三丁目704番3外 「大倉幕府跡(No.253) 雪ノ下三丁目704番3外地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27 平成22年度発掘調査報告(第2分冊)』 2011年 鎌倉市教育委員会
  61. 雪ノ下三丁目637番4 「大倉幕府跡(No.253) 雪ノ下三丁目637番4地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27 平成22年度発掘調査報告(第2分冊)』 2011年 鎌倉市教育委員会
  62. 雪ノ下三丁目629番1 未報告
  63. 雪ノ下三丁目637番6外 未報告
  64. 雪ノ下三丁目635番2外 未報告
  65. 雪ノ下三丁目693番8 未報告
  66. 雪ノ下三丁目648番3 未報告
  67. 雪ノ下三丁目694番18 未報告
  68. 雪ノ下三丁目693番1 未報告

#### 釈迦堂遺跡(No.257)

69. 浄明寺字釈迦堂642番 「6. 釈迦堂跡」 『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』 1983年 鎌倉市教育委員会
70. 浄明寺字釈迦堂642番 「10. 釈迦堂跡」 『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』 1983年 鎌倉市教育委員会
71. 浄明寺字釈迦堂597番1 「鎌倉市No.108 釈迦堂遺跡(No.257)」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告31』 1989 神奈川県教育委員会
72. 浄明寺621 『浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡』 1989年 浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡発掘調査団
73. 浄明寺一丁目598番21 未報告
74. 浄明寺一丁目598番35 未報告
75. 浄明寺一丁目 2010年度調査

#### 上杉氏憲邸跡(No.258)

76. 浄明寺一丁目699番 「9. 上杉氏憲邸跡(No.258) 浄明寺一丁目699番外地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 平成6年度発掘調査報告(第2分冊)』 1995年 鎌倉市教育委員会

#### 横小路周辺遺跡(No.259)

77. 二階堂字向荏柄880番 『向荏柄遺跡発掘調査報告書』 1985年 鎌倉市教育委員会
78. 二階堂字向荏柄874番 『向荏柄遺跡発掘調査報告書』 1985年 鎌倉市教育委員会
79. 二階堂字荏柄9番 「11. 横小路周辺遺跡(No.259) 二階堂字荏柄9番1地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6 平成元年度発掘調査報告』 1990年 鎌倉市教育委員会
80. 二階堂字横小路110番3 『横小路周辺遺跡 二階堂字横小路110番3地点 一永福寺関連遺跡の調査一』 1996年 横小路周辺遺跡発掘調査団
81. 雪ノ下五丁目557番1 「横小路周辺遺跡(No.259) 雪ノ下五丁目557番1地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14 平成9年度発掘調査報告(第2分冊)』 1998年 鎌倉市教育委員会
82. 二階堂字横小路93番11 「横小路周辺遺跡 二階堂字横小路93番11地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15

平成10年度発掘調査報告(第2分冊)』 1999年 鎌倉市教育委員会

83. 二階堂字荏柄10番6 「横小路周辺遺跡(No.259) 鎌倉市二階堂字荏柄10番6外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 平成11年度発掘調査報告(第2分冊)』 2000年 鎌倉市教育委員会
84. 二階堂字荏柄10番1 「横小路周辺遺跡(No.259) 二階堂字荏柄10番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19 平成14年度発掘調査報告』 2003年 鎌倉市教育委員会
85. 二階堂字会下323外 「横小路周辺遺跡(No.259) 二階堂字会下323番外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20 平成15年度発掘調査報告(第2分冊)』 2004年 鎌倉市教育委員会
86. 二階堂字四ツ石115番3の一部 「横小路周辺遺跡(No.259) 二階堂字四ツ石115番3の一部地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 平成18年度発掘調査報告(第2分冊)』 2007年 鎌倉市教育委員会
87. 二階堂字向荏柄875番4 未報告
88. 二階堂字稲葉越856番5 未報告

#### 理智光寺跡(No.265)

89. 二階堂字理智光寺谷749番1 「14. 理智光寺橋遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』 1983年 鎌倉市教育委員会
90. 二階堂字稲葉越802番7.8 「理智光寺跡(No.265) 二階堂字稲葉越802番7地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7 平成2年度発掘調査報告』 1991年 鎌倉市教育委員会
91. 二階堂字理智光寺谷750番1 「理智光寺跡(No.265) 二階堂字理智光寺750番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17 平成12年度発掘調査報告(第1分冊)』 2001年 鎌倉市教育委員会

#### 北条高時邸跡(No.281)

92. 小町三丁目451番1 『北条高時邸跡—小町三丁目451番1地点—』 2004年 株式会社 斉藤建設(文化財事業部)

#### 報国寺遺跡(No.306)

93. 浄明寺字宅間533番 「26. 報国寺境内」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』 1983年 鎌倉市教育委員会
94. 浄明寺字宅間533番 『報国寺境内やぐら 杉本寺周辺遺跡内やぐら 発掘調査報告書 昭和62年度鎌倉市浄明寺地区内急傾斜地崩壊対策地業に伴う調査』 1988年 報国寺境内やぐら発掘調査団
95. 浄明寺二丁目474番11外 「報国寺遺跡(No.306) 浄明寺二丁目474番11外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 平成18年度発掘調査報告(第1分冊)』 2007年 鎌倉市教育委員会
96. 浄明寺二丁目474番12 「報国寺遺跡(No.306) 浄明寺二丁目474番12地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 平成18年度発掘調査報告(第1分冊)』 2007年 鎌倉市教育委員会
97. 浄明寺二丁目宅間533番 「鎌倉市No.47」『神奈川県埋蔵文化財調査報告49』 2006年 神奈川県教育委員会

#### 西御門遺跡(No.325)

98. 西御門一丁目11番4 2006年度調査 未報告
99. 西御門一丁目681番1 2006年度調査 未報告

#### 浄妙寺旧境内遺跡(No.408)

100. 浄明寺字向小路78番 「31. 浄妙寺境内」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』 1983年 鎌倉市教育委員会
101. 浄明寺字稲荷小路129番2 「1. 浄妙寺旧境内遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1 昭和59年度発掘調査報告』 1985年 鎌倉市教育委員会
102. 浄明寺字向小路90番1 「3. 浄妙寺旧境内遺跡(No.408) 鎌倉市浄明寺向小路90番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7 平成2年度発掘調査報告』 1991年 鎌倉市教育委員会



103. 浄明寺三丁目6番3 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目6番3外地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12 平成7年度発掘調査報告 (第2分冊)』 1996年 鎌倉市教育委員会
104. 浄明寺三丁目115番2 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目115番2地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15 平成10年度発掘調査報告 (第2分冊)』 1999年 鎌倉市教育委員会
105. 浄明寺三丁目16番1 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目16番1地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18 平成13年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2002年 鎌倉市教育委員会
106. 浄明寺三丁目126番 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目123番地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 平成16年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2005年 鎌倉市教育委員会
- ⑧ 浄明寺三丁目119番 『神奈川県埋蔵文化財調査報告46』 2004年 神奈川県教育委員会
107. 浄明寺三丁目101番33 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目101番13地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22 平成17年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2006年 鎌倉市教育委員会
108. 浄明寺三丁目3番2 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目3番2地点」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 23 平成18年度発掘調査報告 (第1分冊)』 2007年 鎌倉市教育委員会
109. 浄明寺三丁目122番1・2 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄妙寺三丁目122番1・2」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27 平成22年度発掘調査報告 (第1分冊)』 2011年 鎌倉市教育委員会
110. 浄明寺三丁目948番8 「浄妙寺旧境内遺跡 (No.408) 浄明寺三丁目948番8」 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 26 平成21年度発掘調査報告 (第2分冊)』 2010年 鎌倉市教育委員会
111. 浄明寺三丁目115番3 未報告

#### 天皇館跡 (No.409)

112. 浄明寺稲荷小路105 『新発見の鎌倉遺跡と遺物展・図録 掘り出された鎌倉』 1981年 江の電沿線新聞社・鎌倉考古学研究所
113. 浄明寺稲荷小路104番1 「鎌倉市No.73 天皇館跡 (409)」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告28』 1986年 神奈川県教育委員会

#### 北条義時法華堂跡 (No.461)

114. 西御門二丁目686番外 『北条義時法華堂跡 確認調査報告書』 2005年 鎌倉市教育委員会

#### 杉本寺やぐら群 (No.90)

115. 二階堂字杉本930番外 『平成9年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』・「杉本寺やぐら群」 『東国歴史考古学研究所調査研究報告第22集 中世石窟遺構の調査Ⅲー鎌倉・大和所在の『やぐら』群ー』 1999年 杉本寺やぐら群発掘調査団・東国歴史考古学研究所

#### 宅間ヶ谷西やぐら群 (No.91)

- 39 浄明寺字宅間520 「5.宅間ヶ谷やぐら群 鎌倉市浄明寺520番」 『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』 1991年 宅間ヶ谷やぐら群発掘調査団

#### 宅間谷東やぐら群 (No.159)

- 127 浄明寺二丁目481番1 「鎌倉市No.60」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告47』 2005年 神奈川県教育委員会
- 132 浄明寺二丁目字宅間472,474-1 他 「鎌倉市No.83」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告49』 2006年 神奈川県教育委員会
- 138 浄明寺471、471-2、4、6 『鎌倉市No.100』 『神奈川県埋蔵文化財調査報告51』 2007年 神奈川県教育委員会

杉本寺城跡内やぐら (No.386)

37 二階堂字杉本851番 「4.杉本城跡内やぐら 鎌倉市二階堂851番」 『平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』 1991年 杉本城跡内やぐら発掘調査団

41 二階堂字杉本851番 「鎌倉市No.123 杉本城内やぐら」 『神奈川県埋蔵文化財調査報告33』 1991年 神奈川県教育委員会

宅間谷西第2やぐら群 (No.450)

105 浄明寺二丁目519番4 『かながわ考古学財団調査報告 114 宅間谷西第2やぐら群 平成12年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策工事(浄明寺宅間B地区)に伴う発掘調査』 2001年 財団法人 かながわ考古学財団

112 浄明寺二丁目519番1 『かながわ考古学財団調査報告 137 宅間谷西第2やぐら群 平成13年度鎌倉市内急傾斜地(浄明寺宅間B地区)崩壊対策工事にともなう発掘調査』 2002年 財団法人 かながわ考古学財団

## 第二章 調査の方法と経過

本発掘調査は、個人住宅の建設（建て替え）に伴う事前の記録保存を目的として鎌倉市教育委員会が実施した。建設計画の照会を受け、市教委では平成21年1月28日に確認調査（試掘）を行った。建て替え前の既存建物があったことから、調査坑は建築予定範囲南外の庭地部分に設定した（図2）。調査の結果、地表下60cm前後で中世遺構面の可能性を持つ粘質土層（1面）が検出された。また、地表下160cm前後の中世基盤層下で古墳時代後期の土器を主体とする遺物包含層（2面）が検出された。以上の調査成果と工事計画とを照合した結果、工事の実施に先立っては本格的な発掘調査を行う必要があるとの判断に至った。

その後の調整を経て、発掘調査は平成21年4月22日に開始した。既存建物の解体後、調査予定範囲の大部分が地表下140cm前後まで削平されてしまったため、中世遺構面の遺存範囲は、調査区南辺付近の僅かな部分に限られることとなった。現地では、削平を受けた部分をⅠ区、南辺の中世面遺存部分をⅡ区と呼称した。

調査は、人力によるⅠ区調査壁の整形と調査坑底の精査から着手した。精査後、古墳時代以前と考えられる砂層の堆積を確認し、ここを3面として掘削を行った。調査が進むに従って3面砂層は弥生時代後期～古墳時代前期の自然流路に伴う堆積層であることが判明し、記録を取って調査を終了した。



図2 調査区配置図

引き続きⅡ区の調査に移行し、中世面の遺構調査古墳後期遺物包含層の精査・記録、次いで3面砂層の検出・記録といった手順で調査を進め、平成21年5月19日には現地での全調査工程を終了した。

測量に当たっては、調査地周辺の道路に打設された鎌倉市4級基準点「H136」と「H137」の関係から開放トラバース測量を行い、国土座標系に準じた平面座標軸を調査敷地内に移設し、主に光波測距儀を用いて平面図の作図を行った。標高については鎌倉市3級基準点「53209」を原点とし、ここから調査区内にレベル基準点を移設して使用した。なお、現地調査では日本測地系に準じた任意の座標値を設定して用いたが、本報告を作成するに当たって世界測地系の座標値に表記を改めた。座標値の変換には、国土地理院が公開する座標変換ソフト・「Web版TKY2JGD」を使用した。

### 第三章 基本土層

本調査地における堆積土層は、大まかに以下のように類別される。

- I層 暗灰褐色土 表土層。現代の造成土。標高11.3～11.6m。
- II層 褐色土 粘質土。上面に土丹粒の多い薄層が載る。標高10.4～11.3m。上面を1面とする。
- III層 黒灰色土 粘質土。炭化物粒多い。古墳時代後期～平安時代の遺物包含層。標高10.1～10.4m。上面を2面とする。
- IV層 暗灰色土/灰黄色砂 粘質土と砂の互層を基調とする。下位に自然木の集積箇所が見られる。標高9.0m以下～10.4m(深さ不明)。上面を3面とする。

III層・IV層は概ね北から南へ向けて落ち込むことが確認されている。IV層については自然流路による堆積層と考えられ、調査区の南外へ向けて急激に落ち込むことが断面観察から看取できた。IV層の北側上部は概ね水平堆積といえる状況を呈し、流路埋没後は北側ほど乾陸化の進行が速く、Ⅱ区から試掘坑に続く窪地地形が遅れて埋没した状況を看取できた。古墳後期以降に形成されたIII層は、この窪地上に堆積したものである。後世の削平もあって、Ⅰ区ではIII層の広がりを確認できなかった。

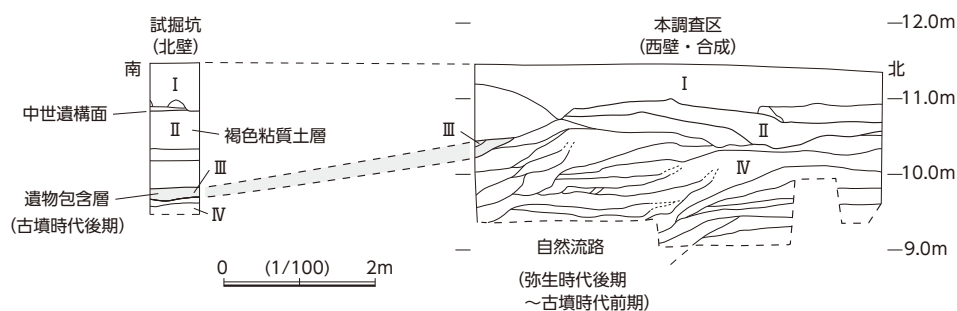


図3 堆積土層模式図

## 第四章 発見された遺構と遺物

本章では、上層で確認された順に発見された遺構と遺物について記述する。遺物の出土数・観察内容については、表1・2を参照されたい。

### 1. 中世

中世の遺構面は現地地表下60cmの標高11.3m付近で検出された(1面)。先述のように検出はⅡ区に限定されるものであった。図4の上段に全体図を示した。

#### 遺構1

Ⅰ区北西角付近で検出された。掘り込み面(確認面)を削平によって失っており、平面プランの確認はⅣ層中で行った。直径1.5m以上の弧状プランを確認したが、遺構の大部分が調査区東外へ続くため、詳細な規模・形態については不明である。筒状の断面形を呈し、一部オーバーハングする。規模・形状から、井戸址の可能性はある。

図6-1は本址から出土した平瓦の小片。胎土は緻密で、永福寺女瓦A類に近似する。

#### 遺構2

南辺部の1面上で検出された、南北に走る溝状遺構である。上幅80cm、下幅30cm、残存長110cmを測る。南側は調査区外へ延び、北側は削平によって失われていた。確認面からの深さは40～50cmで、底面の標高は検出された北端部で10.7m、南端部で10.5mを測る。

図6-2～4に本址からの出土遺物を示した。2は手づくね成形、3・4はロクロ成形のかわらけ。

図6-5～6は遺構外および確認調査時の出土。5は常滑甕の口縁部片、6・7はロクロ成形かわらけ。

### 2. 古墳時代後期～平安時代

基本土層のⅢ層からは、古墳時代後期～平安時代の土器が出土した。細別層で見ると、前者の土器は52・54層から一定量が、後者の土器は52層から1点のみ出土している。また、さらに上位の28層からは8世紀前葉の所産とみられる須恵器坏(湖西産か)出土している。図5に垂直分布状況を示し、表2に出土層位を記載している。平面図は、図4の下段に3面流路と併せて掲載した。

図6-9が平安時代初め(9世紀前葉)の相模型土師器坏。8～21は古墳後期の所産となる須恵器・土師器である。

### 3. 弥生時代後期～古墳時代前期

図6-22～25の土器が当該期の所産である。22・23は54層より下位での出土だが、その他は古墳後期の54層中から出土したものである。22の埴形土器以外は、甕形土器の小片である。この他、26・27の石製品も、出土層位から当該期または古墳後期の所産と考えられる。

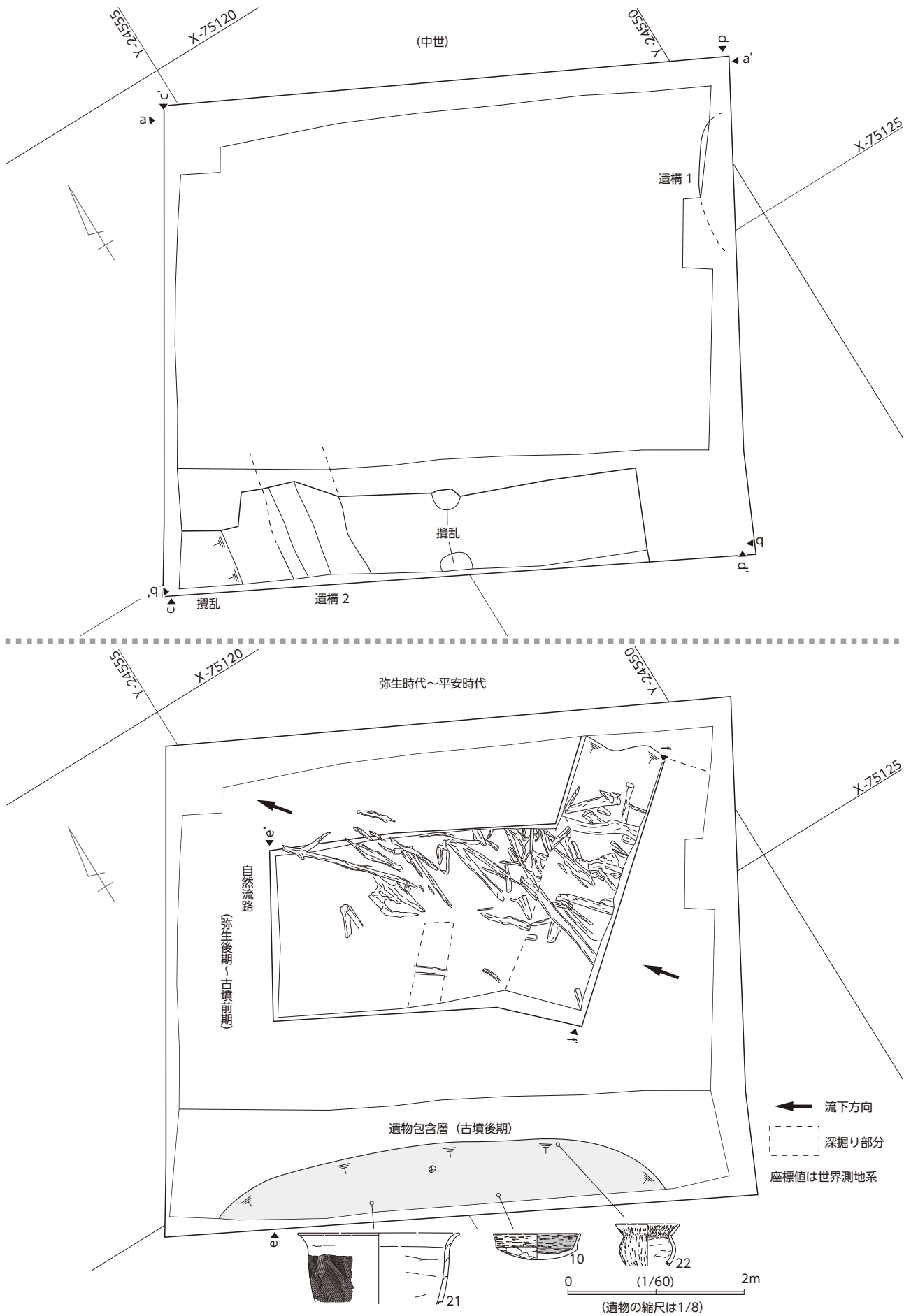


図4 検出遺構全体図

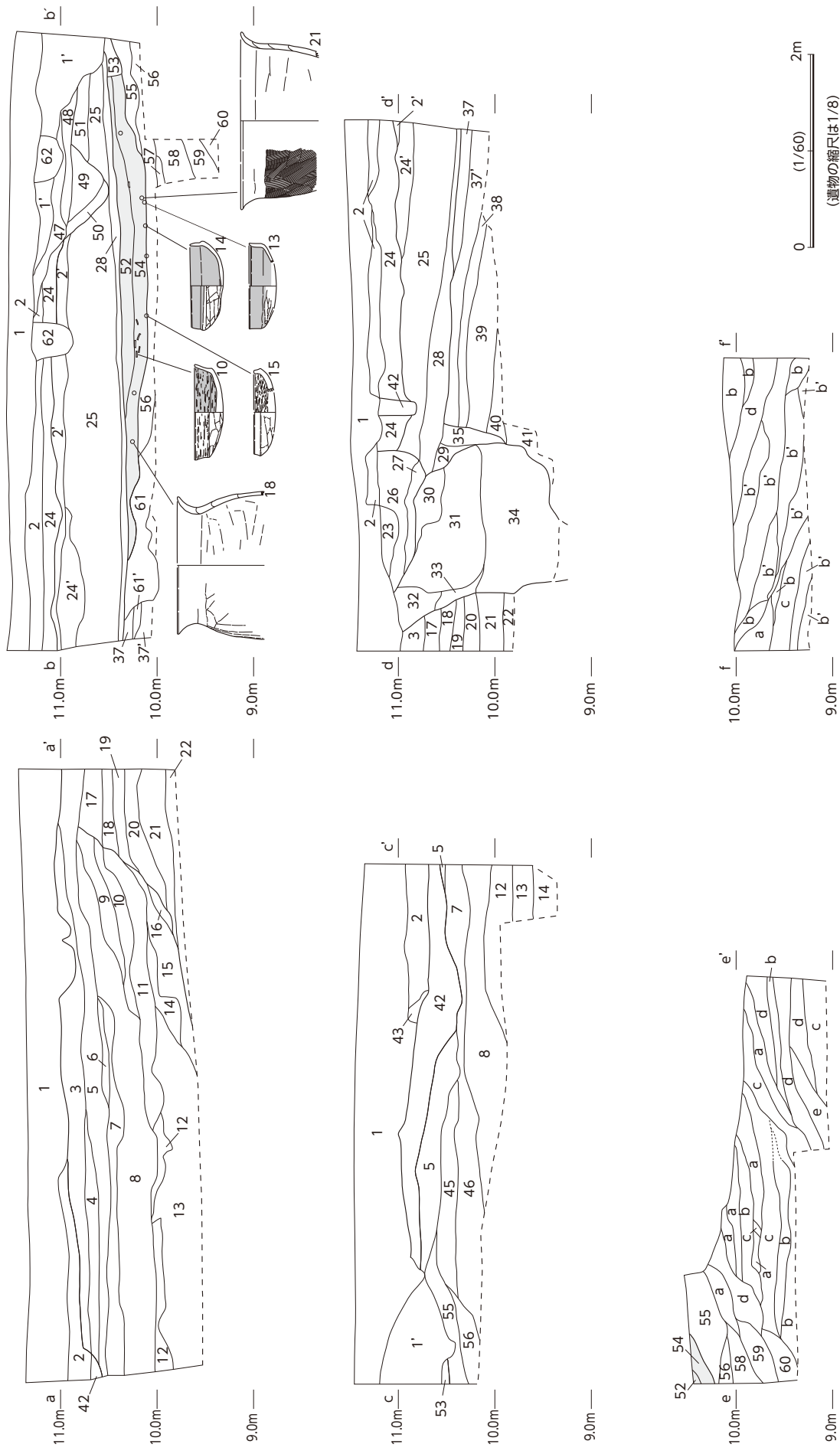


図5 堆積土層図

調査区セクション図土層説明(図5)

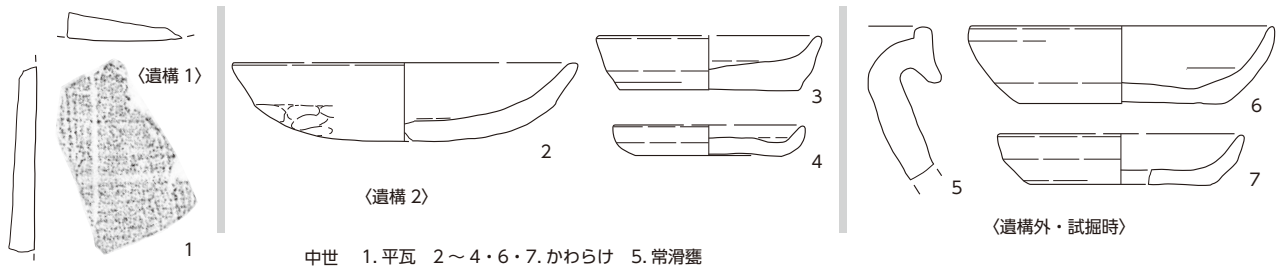
1	暗褐色土	表土。しまり弱い。	29	淡灰黄色砂	微細砂。粘質土を均質に含む。炭粒微量。
1 <sup>′</sup>	暗褐色土	土丹多量。	30	淡灰黄色砂	しまりあり。土丹塊多量。
2	暗褐色土	土丹粒少量。しまりあり。	31	淡灰黄色砂	土丹塊・粒非常に多い。炭粒少量。
2 <sup>′</sup>	暗褐色土	2層より土丹粒やや多量。	32	灰黄色土	砂質土。地山の黒色粘質土を均質に含む。しまりあり。炭粒微量。
3	黄褐色砂	しまりよわい。腐植土少量。	33	淡灰黄色砂	微細砂。炭粒微量。
4	黄褐色砂	3層よりしまりやや強い。	34	暗灰色土	粘質土を均質に含む。土丹粒多量。
5	黄褐色砂	しまりやや強い。粘質土やや多量。	35	暗灰黄色土	粘質土。しまり弱い。
6	暗褐色土	地山ブロック主体。しまり、粘性あり。	36	暗灰黄色土	粘質土。微細砂多量。褐鉄化のため強く硬化。
7	黄褐色砂	しまりよわい。褐鉄粒少量。	37	灰色土	砂質土。砂の間層が部分的に入る。
8	黄褐色砂	褐鉄ブロック多量。粘質土帯状に入る。	37 <sup>′</sup>	灰色土	砂質土。砂の間層が目立つ。
9	黒褐色土	地山粘質土の二次堆積土。しまり、粘性あり。白色微砂目立つ。	38	黒灰色土	粘質土。37層よりしまり強い。砂の縞状互層が入る。
10	黒褐色土	しまり、粘性あり。砂質土ブロックやや多量。	39	黒灰色土	粘質土。しまりあり。微細砂多量、炭粒ごく微量。
11	黄灰色砂	しまり弱い。灰色粘質土均質に含む。	40	黒灰色土	粘質土。上面は褐鉄化した砂層で、部分的に砂の間層が入る。炭粒微量。
12	黄褐色砂	褐鉄層。硬化顕著。	41	黒灰色土	粘質土。灰色微細砂含む。腐食木質やや多量。
13	灰褐色砂	微細砂。しまり弱い。粘質土均質に含む。	42	暗褐色土	しまりあり。土丹塊多量。
14	黄褐色砂	しまりあり。粘質土やや多量。	43	暗褐色土	土丹粒少量、褐鉄ブロック多量。
15	黄褐色砂	微細砂。上面褐鉄化。しまりあり。	44	暗灰褐色土	微細砂多量、土丹粒少量。
16	黄褐色砂	微細砂。15層よりしまり強い。	45	黄褐色砂	酸化のためしまり強い。粘質土均質に含む。
17	黄灰色砂	微細砂。褐鉄粒少量。	46	淡灰黄色砂	酸化のためしまり強い。粘質土が帯状に入る。
18	黄灰色砂	17層より微細な砂。しまり弱い。	47	暗灰色土	砂質土。土丹粒少量。
19	黄灰色砂	18層よりやや粗粒の砂。褐鉄化のためしまり強い。	48	暗灰色土	土丹粒少量。
20	黄灰色砂	18層と同程度の微細砂。褐鉄化のためしまり強い。	49	暗褐色土	土丹粒やや多量。
21	黄灰色砂	やや粗粒砂で黒灰色砂と縞状互層を呈す。褐鉄化のためしまり強い。河床砂?	50	暗褐色土	砂質土。
22	暗灰色砂	微細砂。還元化。	51	暗灰褐色土	砂質土。しまり強く、土丹粒微量。
23	暗褐色土	砂粒多量。	52	暗灰色土	粘性・しまりともに強い。炭粒少量。古墳後期～平安前期の遺物包含層。
24	灰色土	粘質土。しまり、粘性強い。酸化顕著で、縦方向の褐鉄帯が数条入る。	53	暗灰褐色土	しまり強い。灰黄色砂多量。
24 <sup>′</sup>	灰色土	粘質土。部分的に砂質土の間層が入る。	54	黒灰色土	粘性ややあり、縮り弱い。炭粒非常に多い。古墳後期の遺物包含層(多量)。
25	灰色土	粘質土。24層より酸化の程度が弱い。炭粒微量。	55	暗灰色土	砂質土。しまりややあり。
26	暗黄褐色砂	しまりあり。粘質土やや多量。土丹粒少量、炭粒微量。	56	暗灰色土	粘質土。しまりあり。砂粒やや多量。
27	暗黄褐色砂	しまりあり。26層より土丹粒・炭粒減る。	57	暗灰色土	砂質土。北に向けて灰黄色・粘性を帯びた土に漸移する。
28	暗黄褐色砂	しまり強い。褐鉄帯が数条入る。	58	暗灰色土	砂・粘質土の互層。北に向けて粘性を強く帯びる。



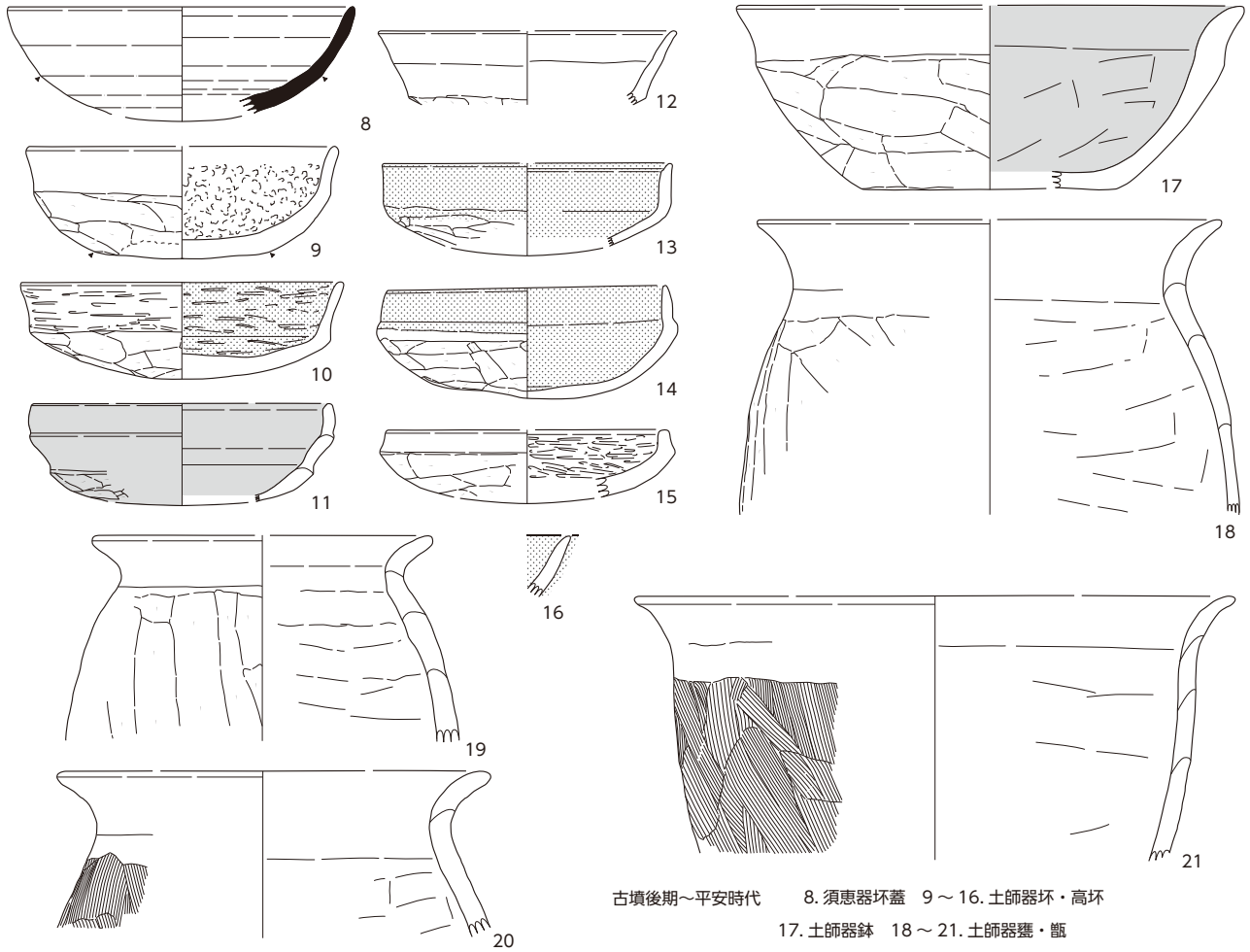
- 59 暗灰色土 砂と粘質土の混交土。土丹粒少量。
- 60 暗灰色砂 ベースは砂で、粘質土多量含む。
- 61 暗灰色土 砂質土。水磨した土丹粒多量。  
弥生後期～古墳前期の遺物包含層(少量)。
- 61´ 暗灰色土 砂質土。水磨した土丹粒少量。
- 62 灰黄色土 土丹塊充填。攪乱。

## 2面下河川堆積層 土層分類

- a 黄色砂・灰黄色砂 やや粗い砂。
- b 暗褐色土 腐食質土。弱粘質土。
- b´ 暗褐色土 腐食質土。弱粘質土。木片多量。
- c 灰色砂 微細砂。しまり弱い。
- d 灰色砂・黒灰色砂 中粗砂と微細砂の縞状堆積。しまり弱い。
- e 灰褐色砂 粗砂。砂礫・水磨した土丹粒少量含む。



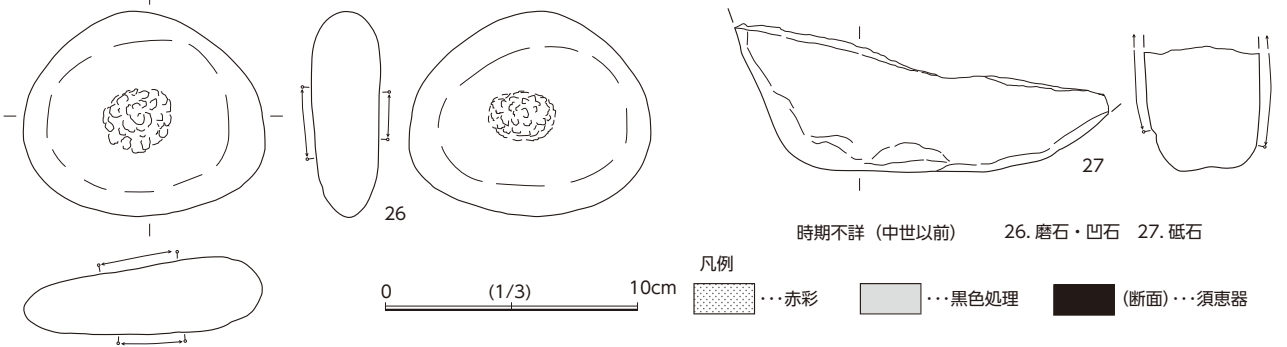
中世 1.平瓦 2~4・6・7.かわらけ 5.常滑甕



古墳後期～平安時代 8.須恵器坏蓋 9～16.土師器坏・高坏  
17.土師器鉢 18～21.土師器甕・甌



弥生後期～古墳前期 21.埴形土器 23～25.甕形土器



時期不詳 (中世以前) 26.磨石・凹石 27.砥石

図6 出土遺物

表1 出土遺物カウント表

地区	面	出土位置	層位	青磁		白磁		瀬戸		常滑		かわらけ			瓦			
				碗	碗	片口鉢	片口鉢	片口鉢	片口鉢	大	小	不明	大	小	不明	A類	不明	A類
試掘		試掘坑																
試掘		試掘坑	古代層															
1区		残土	表土															1
2区		表土	表土															
1区	1面	遺構1																1
2区	1面	遺構2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2区	1面下		25層															
2区	1面下		28層															
2区	2面		52層															
2区	2面下		54層															
2区	2面下	南壁	56層															
2区	2面下		59層															
2区	2面下		包含層															
1区	3面	流路	下層															
不明																		

地区	面	出土位置	層位	古墳後期～平安時代				弥生後期～古墳前期				近世										
				土師器		須恵器		土器		石製品		陶器		磁器								
				甕	環	高坏	鉢	鉢	坏蓋	壺	卍	甕	鉢	不明	磨石	砥石	その他	皿	播鉢	他	碗	
試掘		試掘坑	古代層	2			2			1		2										1
試掘		試掘坑	古代層									1										
1区		残土	表土																			
2区		表土	表土																			
1区	1面	遺構1										1										
2区	1面	遺構2																				
2区	1面下		25層							1												
2区	1面下		28層	91	22		1	1	1	2		3			1	1						
2区	2面		52層	4	2	1	1	1		1												
2区	2面下		54層	20	13																	
2区	2面下	南壁	56層	2	2																	
2区	2面下		59層	4	1					1		4	2									
2区	2面下		包含層								1											
1区	3面	流路	下層									1		3								
不明												1										

表2 出土遺物観察表

番号は図6に対応

番号	種別	器種	法量 (cm)			産地	時期	その他の特徴
			口径	底径	器高			
1	瓦	平瓦	[7.9]	[4.4]	[1.2]	北武蔵か	中世	凸面小片 凸面糸切り+縄目々痕 胎土:石英微粒微量、精緻1面遺構1
2	土器	かわらけ	(13.5)	—	3.1	在地	13世紀中葉	1/6 手づくね・大皿 胎土:白色針状物質微量 1面遺構2出土
3	土器	かわらけ	(8.7)	(7.1)	2.2	在地	13世紀代	1/3 ロクロ・小 胎土:白色針状物質微量 1面遺構2出土
4	土器	かわらけ	(7.5)	(5.8)	1.2	在地	13世紀代	1/4 ロクロ・小 胎土:白色針状物質・角閃石微量 1面遺構2出土
5	陶器	常滑 甗	—	—	—	知多	13世紀 第4四半期	口縁部小片 AN6b型式(赤羽・中野1994) 試掘時出土
6	土器	かわらけ	12.0	8.2	3.1	在地	13世紀後半～ 14世紀代	3/5 ロクロ・小 胎土:白色針状物質・角閃石微量 試掘時出土
7	土器	かわらけ	(9.6)	(7.2)	2.0	在地	13世紀後半～ 14世紀代	1/4 ロクロ・小 胎土:白色針状物質 II区表土出土
8	須恵器	坏蓋	(14.0)	—	4.7	湖西か	8世紀前葉	1/3 口縁部外面～内面全面叩打 天井部外面回転ハズリ II区28層下端出土 湖西IV-1～2期(後藤1989)
9	土師器	坏	(12.5)	(7.2)	4.7	在地 相模型	9世紀前葉	1/3 口縁部外面打 内面全面剥落痕顕著 外面体部コハケズリ、底部ハズリ II区52層出土
10	土師器	坏	13.2	—	4.0	在地	古墳後期	3/4 坏蓋模倣 内面全面赤彩 口縁部外面～内面全面コミガキ 体部～底部外面ハズリ II区54層出土
11	土師器	坏	(12.2)	—	[4.0]	北武蔵 有段口縁	7世紀前半	1/6 坏蓋模倣 全面黒色処理 口縁部外面～内面全面コ打 体部～底部外面ハズリ II区54層下端出土 第IV段階(田中1991)
12	土師器	坏	(12.0)	—	[3.0]	在地	古墳後期	口縁部1/4 坏蓋模倣 口縁部内外面コ打 体部外面ハズリ II区52層出土
13	土師器	坏	(11.8)	—	[3.4]	北武蔵 比企型	7世紀前半～ 中葉	1/4 口縁部外面～体部全面打・赤彩 体部外面ハズリ II区54層出土 III～IV段階(水口1989)
14	土師器	坏	11.4	—	[3.9]	在地	古墳後期	略完形 坏身模倣 口縁部外面～前面打・赤彩 体・底部外面ハズリ(一部黒斑) II区56層出土
15	土師器	坏	(11.5)	—	[2.8]	在地	古墳後期	口縁部1/4 坏身模倣 口縁部外面コ打 内面全面コミガキ II区54層出土
16	土師器	坏	—	—	[2.5]	在地	古墳時代?	口縁部小片 口縁内外面赤彩 胎土:角閃石微量、精緻 II区59層出土
17	土師器	鉢	(20.5)	(10.2)	[7.6]	在地	古墳後期	口縁～底部1/4 口縁部内外面コ打 体部外面コハズリ、内面黒色処理・ハ打 底部外面ハズリ 試掘古代層出土
18	土師器	甗	(18.8)	—	[12.0]	在地	古墳後期	口縁～胴上部1/4 口縁部内外面コ打 胴部外面ハズリ、内面ハ打・打・黒変 胎土:白色針状物質多量 II区54層出土
19	土師器	甗	(13.6)	—	[8.4]	在地	古墳後期	口縁～胴上部1/4 口縁部内外面コ打 胴部外面ハズリ、内面コハ打・打 胎土:白色針状物質微量 II区28層下端出土
20	土師器	甗	(18.0)	—	[6.8]	在地	古墳後期	口縁～胴上部1/8 口縁部内外面コ打 胴部外面ハケ、内面打 胎土:白色針状物質多量 II区54層出土
21	土師器	甗(甗?)	(24.4)	—	[10.9]	在地	古墳後期	口縁～胴上部1/6 口縁部内外面コ打 胴部外面ハケ、内面ハ打・打 胎土:白色針状物質多量 II区54層出土
22	土師器	埴	(9.6)	—	[6.3]	在地	弥生後期～ 古墳前期	口縁～胴部1/4 口縁部内外面～胴部外面ハミガキ 胴部内面ハ打・打 2面下包含層出土
23	土器	甗	—	—	[4.6]	在地	弥生後期～ 古墳前期	口縁部小片 口縁部外面ハケ、内面打 胎土:白色針状物質微量 II区59層出土
24	土器	甗	—	—	[3.1]	在地	弥生後期～ 古墳前期	口縁部小片 口唇部サミ 口縁部外面ハケ、内面コハ 胎土:角閃石微量 II区54層下端出土
25	土器	甗	—	—	[2.0]	在地	弥生後期～ 古墳前期	口縁部小片 口唇部サミ 口縁部外面打、内面コハ 胎土:白色針状物質・角閃石微量 II区54層下端出土
26	石製品	磨石	9.6	8.1	2.7			完存 350g II区54層下端出土
27	石製品	砥石	[14.8]	[5.2]	[4.6]			1/2以下 [507g] II区54層下端出土

## 参考文献

- 赤羽一郎・中野晴久 1995「中世常滑焼の生産地編年」『常滑焼と中世社会』小学館  
 後藤建一 1989「湖西古窯跡群の須恵器と窯構造」『静岡県の窯業遺跡 本文編』  
 田中広明 1991「古墳時代後期の土器生産と集落への供給—有段口縁坏の展開と在地社会の動態」『埼玉考古学論集』  
 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
 水口由紀子 1989「いわゆる“比企型坏”の再検討」『東京考古 7』東京考古談話会

## 第五章 調査成果のまとめ

### 1. 中世

本地点では中世遺構面の大部分が削平されていたため、当該期における遺跡の性格が読み取れるだけの成果を得るには至らなかった。遺構としては小規模な南北溝と井戸跡の可能性を持つ土坑が検出しており、数少ない出土遺物は概ね13世紀前半～中頃の特徴を備えている。遺構外出土遺物には14世紀代にまで下る様相を看取でき、少なくとも13世紀～14世紀の前半にかけて、本地点周辺での人的営為を見て取ることが可能である。中世遺構面は1枚のみで、この前段階においては湿地的様相を示す粘質土の堆積があることから、本地点における中世の開始期は概ね13世紀代の範囲で把握できる。本地点は勝長寿院が占地する大御堂ヶ谷の開口部東に位置し、同寺の建立がなされた12世紀の末頃には周辺の開発も一定程度は進んだものと推測される。こうした歴史的事象をも加味して遺物様相を再瞥すれば、本地点の中世開始期を13世紀前半まで引き上げて考えても大過はないといえるだろう。14世紀以降については、近隣の調査地点(図1-1・3・14など)で15世紀代に下る時期の遺構・遺物が発見され、地点1・3では「田楽辻子」の前身と考えられる15世紀代の東西道路跡が発見されている。関東管領に就いた上杉氏四家のうち、犬懸上杉と宅間上杉の二家が東西道路に面した谷戸内に拠点を構えたという事象からも、南北朝・室町時代に入った後も関東における政権機能の一端が当地域に保持されたことは疑いない。本地点では、これを追認する成果はなかったが、今後も周辺の調査により中世後期における都市鎌倉の実態を明らかにする上で意義ある情報が提供されることだろう。

田楽辻子周辺遺跡における調査は鎌倉旧市街域の中でも発掘調査の頻度が少なく、本地点と同様、個々の調査面積も狭小なものが大半を占める。よって、これらの諸成果を相互に関連付けながら地域的特性を語るには、現時点では材料不足と述べざるを得ない。調査・報告の蓄積が待たれるところである。

### 2. 中世以前

本地点の調査では、Ⅱ区および試掘調査において古墳時代後期～平安時代の遺物包含層が確認され、とりわけ古墳後期の土器類について一定量の資料を得ることができた。

古墳時代後期の遺物は細別層の54層を中心に出土した。同層中には炭化物粒子が多く含まれており、遺物の出土量・遺存具合から見て、ごく近い場所での人的営為を示す資料群といえる。出土遺物の内訳としては土師器の坏・甕が多く主体的な組成要素であることを示し、土師器の甕や須恵器の坏蓋などが客体的な在り方を見せている。土師器の坏には幾つかの型式が見られる。基本形は須恵器の坏蓋を模倣した有稜形(図6-10～13)と、須恵器坏身の模倣形(同14・15)に大別される。その中でも在地産と搬入土器とに分かれ、多様な在り方を見ることができる。図6-11は黒色塗彩を施した有段口縁坏で、埼玉県の中・北部から群馬県南部にかけて中心分布圏を持つ。13の比企型坏は埼玉県の中部を中心に関東一円に展開する。14・15の坏身模倣形坏は房総半島地域に特徴的な器形で、彼地からの搬入品であるのか、在地において模倣したものであるのかは定かでない。数量的に限られた資料群ということもあるが、土師器坏の中で主体的な型式を抽出することは難しい。土師器の甕には、胴部外面に縦方向のヘラケズリ調整を施すもの(図6-18・19)と、ハケ目調整のもの(20)がある。どちらが主体的存在となるのかは、やはり資料数が限定されるため断じ得ないが、地域的な傾向としてケズリ調整の甕が優勢となることが田尾誠敏氏の分析によって示されている(田尾2009)。遺物包含層からの出土ということで多少の年代幅が想定でき、これら土師器の製作・使用年代は概ね7世紀前半～中葉と考えられる。須恵器の坏(図6-8)については、8世紀代まで下る、やや新しい年代観が与えられる。

以上のうち、土師器供膳具(坏類)の組成内容は三浦半島から鎌倉平野に一定程度の共通性が見られ、

のちの律令期にあって同じく相模国に編入される相模川流域とは異なる様相を示している。比企型坏については相模川流域でも古墳や横穴墓を中心に出土例は少なくないが、有段口縁坏や坏身模倣の土師器坏についてはより分布域が限定されることが先行研究によって指摘されている。田尾氏は、比企型坏も含めた搬入系の土器は、それぞれの製作地および中心分布圏となる埼玉県の中・北部域を供給源として、元荒川―東京湾を介して三浦半島ないしは鎌倉平野までもたらされたとする、流通経路の復元を行っている。坏身模倣坏についても、東京湾を介した房総半島との地域間交流を背景に捉えている。こうした水上交通を前提とした他地域との人的交流・流通は、各地域の首長間ネットワークを背景に形成されたもので、それは後代の律令期になっても地域的伝統として継承されることが、中三川昇氏によって指摘されている(田尾2009・中三川2009)。市内山崎の天神山裾部では一括性の高い当該期資料が採集され、三浦半島の東京湾岸地域における土器様相・組成との近似性が指摘されている(菊川1995)。

細別52層からは古墳時代後期の土器に加えて、相模型の土師器坏も1点出土している。器表の摩滅・剥離が目立ち調整が判然としない部分もあるが、器形・法量から8世紀末～9世紀前葉の所産と考えられる。土器の出土量からは、7世紀中葉以降8世紀末頃にかけて人的活動が低調であった状況が窺える。

基本土層のⅢ層以下は南に向けて落ち込んでおり、北側を滑川が流れる現況と比べて、当時の地形が大きく異なっていたことは明らかである。Ⅱ層の褐色粘質土層も周辺で見られる一般的な中世地山と異なり湿地的様相が強く窺えた。一方で、南に隣接する図1―地点4では標高12.0mで中世地山が検出され、本地点の敷地内または南側の現行道路下に堆積の転換点があったことを示している。ちなみに、本地点の中世層下端レベルは標高10.8mなので、中世の前段階において、北と南の双方から落ち込んでくる窪地状の地形であったと考えるのが妥当であろう。堆積状況から見て、当該期の遺物は北接する微高地から流入した蓋然性が高く、そこには集落の存在も十分に推測される。

Ⅳ層以下は細砂と粘質土(有機質腐蝕土)の互層堆積をなし、Ⅲ層以上の傾斜度で南へ落ち込む状況が看取できた。調査区内では側壁(岸)の存在は確認できなかったが、堆積ほかの状況から、自然流路の痕跡と判断した。調査Ⅰ区の南側では泥炭化した自然木の集積が確認され、流量の変化に伴う流木と考えられた。堆積土中からは弥生後期～古墳前期の土器片が僅かに出土しており、それ以前に丘陵裾部を流れた河川跡といえよう。現況の地形からも窺えるように、本地点は大御堂ヶ谷および東側の小支谷の開口部に位置し、北に滑川本流という、大小の流れが合流する条件下に置かれている。当然のように、流路変動も重ねられたことだろう。今回の調査結果からは、古墳前期以降に河川の埋没(南への移動)が進んで乾陸化したことが窺え、古墳時代後期～平安時代初頭には、おそらく帯状の低地として残されていたことが捉えられた。そして、現在は滑川が流れる北側の微高地上に、集落の存在を想定しえた。

第二章でも述べたように、本地点周辺では、点的であるが中世以前の遺構・遺物が発見されている。図1―地点9では、少なくとも5軒の竪穴住居跡が発見され、古墳時代後期を主体に、中期に遡及する遺構・遺物も確認されたという(註1)。後期の資料は、今次成果と時代的に合致する可能性が期待され、集落構造を具体的に知るためにも重要な事例である。さらに、これに先行する中期資料の存在は、弥生後期末～古墳前期以降、途絶したかにも見える地域社会の動態を見直すきっかけともなるだろう。

註1 調査担当者である馬淵和雄氏のご教示による。  
引用・参考文献は、本章分も含めて第一章末尾に掲載した。



1. 2面(52・54層) 検出状況(南から)



4. 2面下土層断面(北から)



5. 54層遺物出土状況(北から)



2. 2面下遺物出土状況(北から)



6. 54層遺物出土状況(北東から・図6-14)

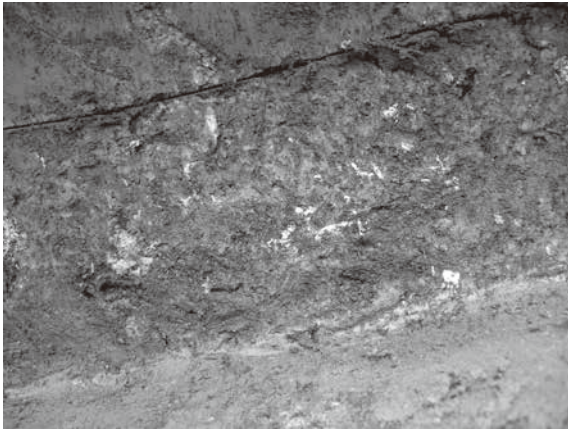


3. 2面下土層断面(南東から)

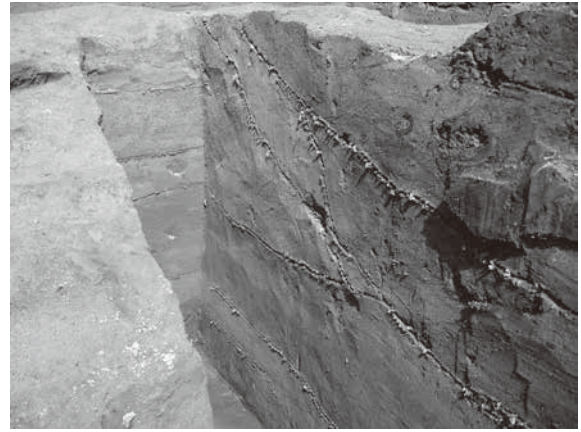


7. 54層遺物出土状況(北から・図6-21)

図版2



1. 54層中貝殻片?混入状況(北東から)



5. 3面トレンチ流路北側 土層断面(西から)



2. 2面下遺物出土状況(図6-22)



6. 3面流木検出状況(北西から)



3. 3面流路プラン検出状況(北西から)



7. 3面流木検出状況(南東から)

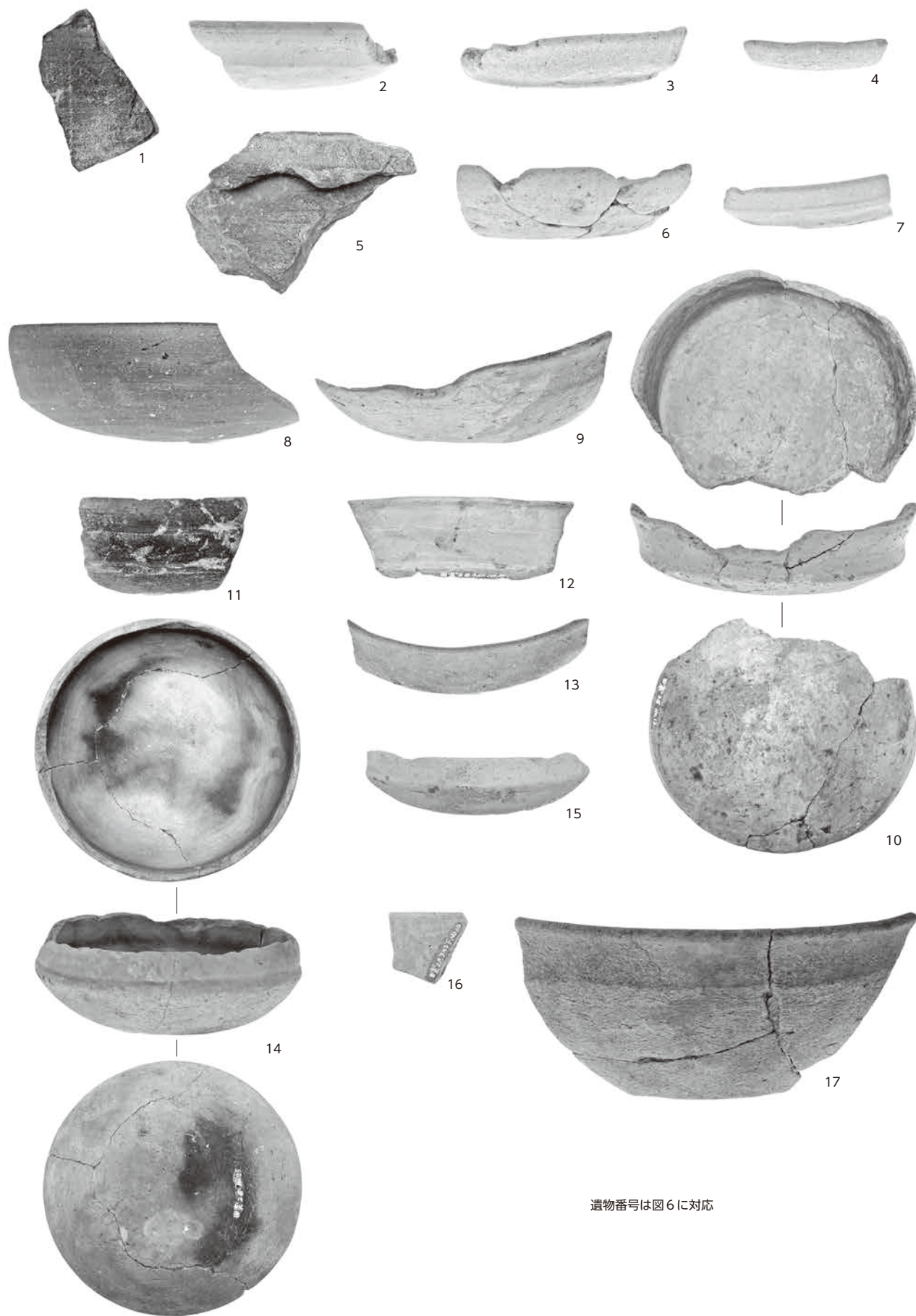


4. 3面トレンチ流木検出状況(南東から)



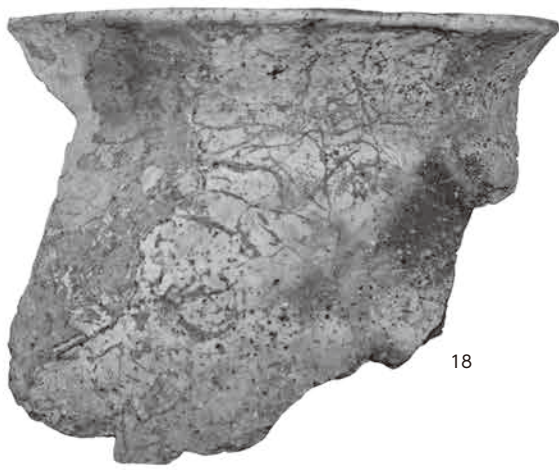
8. 3面流木検出状況(北西から)



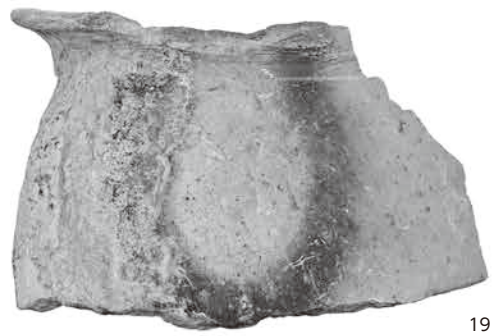


遺物番号は図6に対応

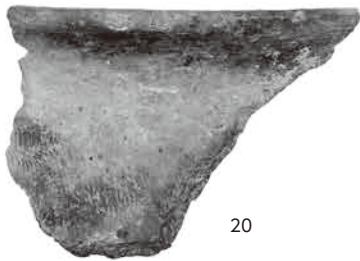
出土遺物(1)



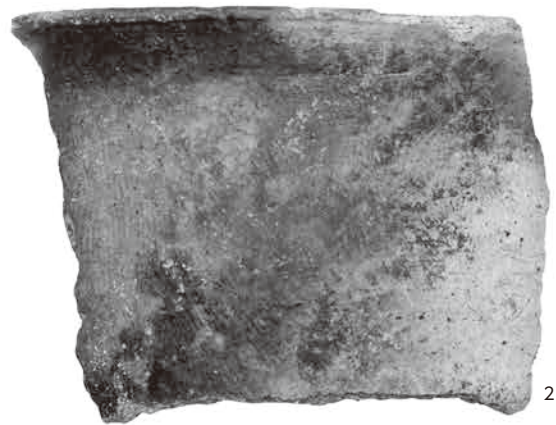
18



19



20



21



22



23



24



25



26



遺物番号は図6に対応



27

出土遺物(2)

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちようさほうこくしよ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成23年度調査報告							
巻次	28 (第2分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	伊丹まどか/馬淵和雄・沖元道・根元志保/森 孝子/降矢順子・齋木秀雄/山口正紀/押木弘己							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2012年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
せいりょうじあと 清涼寺跡	神奈川県鎌倉市 扇ガ谷四丁目 55番4外	14204	183	35° 32′ 9.42″	139° 54′ 6.39″	20050721 ～ 20050930	60.00	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜一丁目 157番7外	14204	201	35° 31′ 6.89″	139° 54′ 4.67″	20051031 ～ 20060118	63.75	個人専用 住宅 (杭基礎構造)
にしみかどいせき 西御門遺跡	神奈川県鎌倉市 西御門一丁目 55番5	14204	325	35° 32′ 9.87″	139° 56′ 1.04″	20060404 ～ 20060529	30.00	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜一丁目 213番12	14204	201	35° 31′ 4.39″	139° 54′ 4.94″	20070312 ～ 20070330	10.50	個人専用 住宅 (地下室・地盤の柱状改良)
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 大町四丁目 1888番の一部	14204	231	35° 31′ 2.96″	139° 55′ 8.43″	20070702 ～ 20070726	24.00	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
でんがくずししゅうへんいせき 田楽辻子周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 浄明寺一丁目 566番6外	14204	33	35° 32′ 2.53″	139° 56′ 3.27″	20090422 ～ 20090519	39.00	個人専用 住宅 (杭基礎構造)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
せいりょうじあと 清涼寺跡	社寺	中世	溝、道路、土坑	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、木製品、 石製品等	
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市	中世	溝、土坑、柱穴	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器等	
にしみかどいせき 西御門遺跡	都市	中世	溝、土坑、柱穴	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、木製品、 石製品等	
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市	中世	溝、土坑、柱穴	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、木製品、 石製品等	
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	都市	中世	土坑、柱穴	かわらけ、貿易陶磁器、 国産陶器、木製品、 石製品等	
でんがくずししゅうへんいせき 田楽辻子周辺遺跡	都市	古墳・中世	古墳時代自然流路、 溝、井戸、柱穴	土器、かわらけ、 国産陶器等	

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28

平成23年度発掘調査報告

(第2分冊)

発行日 平成24年3月30日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 芝浦エンジニアリング株式会社